神　前　遺　跡

―和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書―

2014年3月

公益財団法人　和歌山県文化財センター

神　前　遺　跡

―和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書―

2014 年 3 月

公益財団法人　和歌山県文化財センター

巻頭図版１

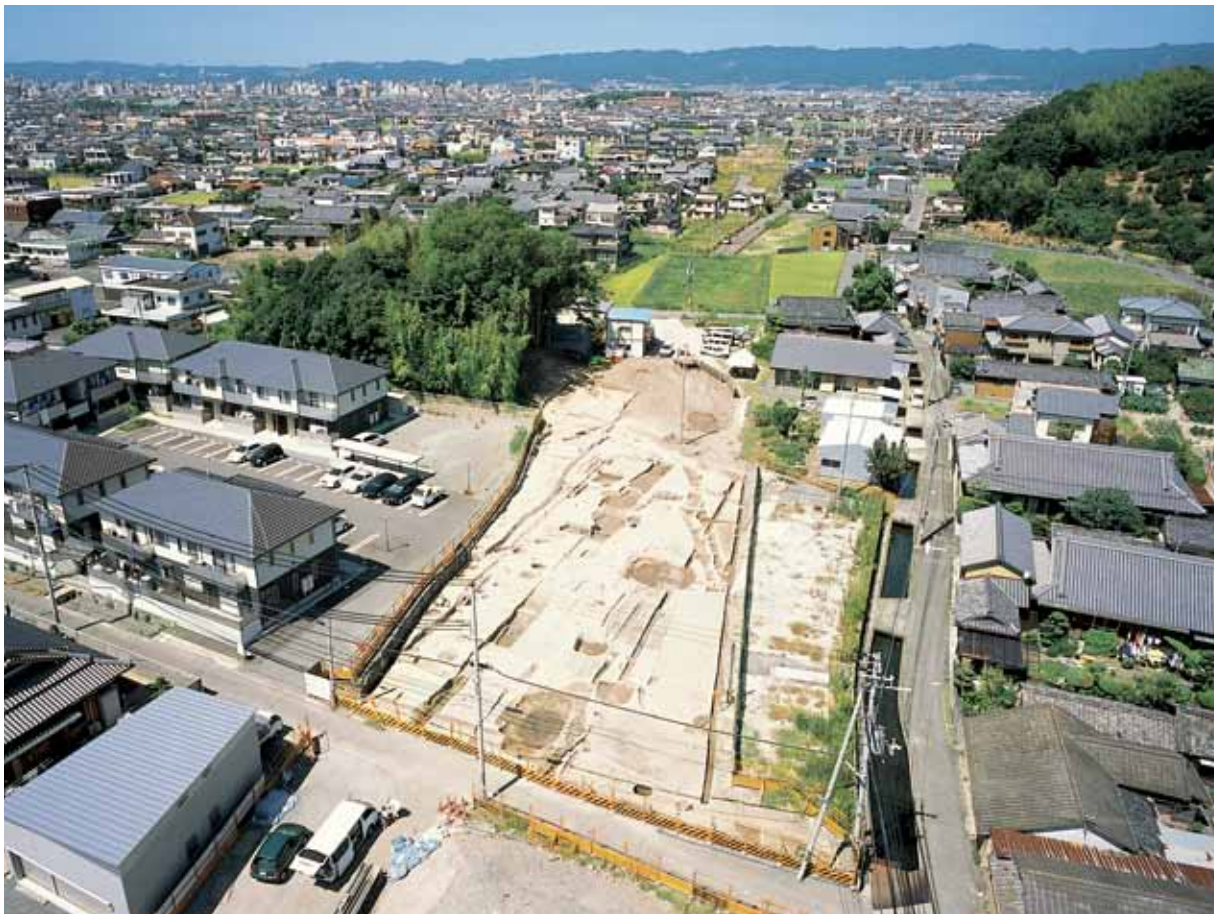


調査地全景（南西から）



２区　201 溝土器出土状況（北から）

巻頭図版２



３区　屋敷地跡の周辺（南から）



３区　3106 石組井戸

巻頭図版３



5-4 区　弥生時代中期の溝群（後方は福飯ヶ峯・南西から）



5-4 区　弥生時代中期の溝群（後方は名草山・北東から）

巻頭図版４



８区　弥生時代前期の 8002 溝（東から）



5040 流路の弥生土器



イノシシの顎骨（5187 溝出土）



緑色片岩製の石包丁



銅鈴（5140 溝出土）

序

和歌山市南東の平野部では、紀ノ川から取水した宮井用水の灌漑水路網を用いて耕作が行われ、豊かな水田が広がる田園風景が広がっています。弥生時代に始まるこの風景は先人のたゆまぬ努力の上に成り立っており、その歴史を探ることは私たちの先祖の歴史をたどることになります。

和歌山市神前遺跡は和歌山平野の南東部、和田川の形成した自然堤防上にありますが、紀ノ川から水をひく用水路が走る南端の地としても知られています。県道和歌山橋本線の道路改良工事に伴い平成21年度から３箇年にわたり実施した発掘調査で、神前の地に初めて水路が整備され、水田稲作が始まったころの遺跡がみつかりました。弥生時代前期から中期にかけて水路が多数つくられていく様子は、この地に住んだ人々の開拓の歴史を語る貴重な資料です。これらの水路から出土した多数の弥生土器は様々な文様で飾られており、時代や地域性を語る具体的な資料として注目されます。

また、神前遺跡では古墳時代の水路群や古代の溝・井戸のほか、中世後期から近世にかけて発展する屋敷地とみられる遺構群も確認されています。この地には雑賀五組のうち社家郷に属する神前氏（後の中務氏か）が勢力をもっていたと考えられており、織田信長と繋がりをもって近世に向け発展していく地元有力者の動向を具体的に考えることができる遺跡としても重要です。

このたび神前遺跡の調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行することができることは、和歌山の歴史を知るうえでとても意義深いことであります。多くの関係者や地元の方々の御協力に感謝し、深く御礼申し上げたいと思います。

平成26年３月

公益財団法人和歌山県文化財センター

理 事 長　　工 楽　善 通

例　　言

１．本書は和歌山市神前に所在する神前遺跡の発掘調査報告書である。

２．調査は、和歌山県海草振興局による県道和歌山橋本線道路改良工事に伴うもので、平成 21 ～ 23 年度に発掘調査業務、平成 24・25 年度に出土遺物等整理業務を実施した。

３．業務は和歌山県教育委員会の指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。調査組織は以下のとおりである。

理 事 長　小関洋治（平成 21 年度）、鈴木嘉吉（平成 22 年度）
森　郁夫（平成 23 ～ 25 年度）、工楽善通（平成 25 年度）
専務理事　白藤正和（平成 22 年度）、小堀基二（平成 23・24 年度）
里森　修（平成 25 年度）
事務局長　田中洋次（平成 21 ～ 23 年度）、渋谷高秀（平成 24 年度）
勝浦久和（平成 25 年度）
管理課長　冨加見泰彦（平成 21 ～ 23 年度）
主査　松尾克人（平成 21 ～ 25 年度）
埋蔵文化財課長　村田　弘（平成 21 ～ 24 年度）
井石好裕（平成 25 年度）
発掘調査担当　冨永里菜（平成 21 年度）
田中元浩（平成 22 ～ 23 年度）
津村かおり（平成 22 年度）
山野晃司（平成 23 年度）
遺物整理担当　佐伯和也（平成 24 年度）
丹野　拓（平成 24 ～ 25 年度）

４．本書は平成 21 ～ 23 年度の実績報告書を参考として、丹野が編集・執筆した。付章の土器胎土分析については、株式会社パレオ・ラボの藤根久・米田恭子・佐々木由香氏が執筆したものを掲載した。

５．銅鈴の保存処理は株式会社吉田生物研究所に委託し、動物骨の同定は丸山真史氏（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター）に依頼した。

６．発掘調査及び遺物整理において、当センター・県教育委員会職員及び関係諸機関の職員のほか、下記の方々のご教示・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表する。（敬称略）

前田敬彦・清水梨代・大木要（和歌山市教育委員会）、藤藪勝則・内田和典（和歌山市文化スポーツ振興財団）、小賀直樹、水田義一（紀伊風土記の丘）、森岡秀人（日本考古学協会）、松尾信裕（大阪城天守閣）

７．当事業で作成した図面・写真・台帳類は当センターが保管している。出土遺物は和歌山県教育委員会が所蔵している。

凡　　例

1．発掘調査及び出土遺物整理は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編)』(2006.4）に準拠して行った。

2．実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）を基準とし、数値はm単位で表示している。また、図示した北は座標北を指す。

3．発掘調査で使用した標高は、東京湾標準潮位（T.P.）を基準とした。

4．土色は小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修)『新版標準土色帖』2003 年度版を基準とした。

5．発掘調査で使用したコードは以下のとおりである。出土遺物・記録資料はこの調査コードを用いて管理している。

09 － 01・307（2009 年度県道和歌山橋本線発掘調査）

10 － 01・307（2010 年度県道和歌山橋本線発掘調査）

11 － 01・307 － 2（2011 年度県道和歌山橋本線発掘調査）

6．遺構番号は調査順に通し番号で付けた。三桁ないし四桁の数字に続けて遺構の性格を表す語句を入れ、001 溝・201 土坑・3033 溝などとした。なお、大型の穴を土坑、小型の穴をピットとし、これらのうち建物を構成するか、断面で柱痕が確認できるものを柱穴と表現した。

いくつかの個別遺構を統合した遺構については、遺構の性格を表す語句の後ろに通し番号を付け、掘立柱建物１などとした。

7．出土遺物には 1167 までの通し番号を付けた。石器・石製品については S1 ～ S71、木製品については W1 ～ W12、金属製品については K1 ～ K6 の番号をつけて報告書に掲載した。その他、獣骨は H1 ～ H28、土器胎土分析資料には№１～ 30 までの委託分析用の管理番号を振った。なお、遺物番号と写真番号は一致する。

8．遺構図の縮尺は基本的に、調査区平面図を 1/200 ～ 1/300、調査区土層断面図を１/60、個別の遺構図を１/40 とし、必要に応じてそれ以外の縮尺を用いた。遺物実測図の縮尺は基本的に 1/4 であるが、石器・石製品は 1/3、銭貨は 1/2、鈴は 1/1 とした。

9．本稿では、縄文時代晩期の突帯文土器の可能性のあるもの及びその特徴を残す弥生時代前期併行の土器を含めて突帯文系土器と呼称した。紀伊型甕（紀伊形甕）と通称される甕のうち、口縁部・肩部に突帯を貼り付けて上面を刻むものについては、突帯文系土器と弥生土器の紀伊型甕の移行期の土器として扱った。また、弥生土器の特徴を残す庄内式併行期の土器を弥生土器あるいは弥生Ⅴ様式系土器と呼称した。庄内式併行期（庄内式期）は弥生時代と古墳時代の移行期として扱い、庄内式期で終わる遺構は弥生時代の遺構、庄内式期から始まる遺構は古墳時代の遺構として扱っている。

目　　次

巻頭図版

序

例言

凡例

第１章　調査の経緯と経過 …… 1

第１節　調査の経緯 …… 1

第２節　既往の調査成果 …… 2

第３節　発掘調査と出土遺物整理の経過 …… 4

第２章　位置と環境 …… 6

第１節　歴史地理的環境 …… 6

第２節　調査の方法 …… 9

第３章　調査成果 …… 12

第１節　１区の調査 …… 14

第２節　２区の調査 …… 26

第３節　３区の調査 …… 42

第４節　４区の調査 …… 65

第５節　５区の調査 …… 74

第６節　６区の調査 …… 140

第７節　７区の調査 …… 149

第８節　８区の調査 …… 173

第４章　総括 …… 184

付章　自然科学分析の成果 …… 189

１節　神前遺跡出土土器の胎土分析 …… 189

２節　レプリカ法による土器の種実圧痕の同定 …… 208

土器観察表 …… 212

石器・石製品観察表 …… 234

金属製品観察表 …… 236

木製品観察表 …… 236

獣骨観察表 …… 236

写真図版

報告書抄録

奥付

挿図目次

図１　調査地の位置 …… 1
図２　神前遺跡における既往の調査 …… 3
図３　調査区の配置 …… 5
図４　神前遺跡周辺の旧地形 …… 6
図５　周辺の遺跡 …… 8
図６　地区割りの設定状況 …… 10
図７　遺跡全体図 …… 13
図８　１区　平面図 …… 15
図９　１区　壁面土層図 …… 16
図10　１区　弥生～古墳時代の遺構分布状況 …… 17
図11　１区　弥生～古墳時代の溝① …… 18
図12　１区　弥生～古墳時代の溝② …… 19
図13　１区　弥生～古墳時代の遺構出土土器 …… 20
図14　１区　古代末～近世の遺構分布状況 …… 20
図15　１区　古代末期～中世初頭の
遺構出土土器 …… 21
図16　１区　031井戸出土木製品(木①) …… 22
図17　１区　古代末期～近世の遺構 …… 23
図18　１区　中世の遺構出土土器・瓦 …… 24
図19　１区　近世の石製品 …… 24
図20　１区　中世末期～近世の
遺構出土土器・瓦 …… 25
図21　２区　弥生～古墳時代の
遺構分布状況 …… 26
図22　２区　平面図 …… 27
図23　２区　壁面土層図 …… 28
図24　２区　201・202溝(溝１)遺物出土状況 … 29
図25　２区　弥生～古墳時代の遺構 …… 30
図26　２区　201溝(溝１)出土土器① …… 31
図27　２区　201溝(溝１)出土土器② …… 32
図28　２区　201溝(溝１)出土土器③ …… 33
図29　２区　201溝(溝１)出土土器④ …… 34
図30　２区　201・202溝(溝１)出土土器① …… 34
図31　２区　201・202溝(溝１)出土土器② …… 35
図32　２区　202溝(溝１)出土土器 …… 36
図33　２区　203溝(溝5)・205溝(溝3)・207溝(溝2)
出土土器 …… 36
図34　２区　弥生時代の遺構出土土器 …… 37
図35　２区　石包丁・スクレイパー・石錘(石②)… 38
図36　２区　古墳時代の遺構 …… 38
図37　２区　弥生～古墳時代の遺構出土土器 … 39
図38　２区　中・近世の遺構分布状況 …… 39
図39　２区　中世の遺構 …… 39
図40　２区　中世遺構出土土器・瓦 …… 40
図41　２区　近世遺構出土土器・瓦 …… 41
図42　３区　平面図 …… 43
図43　３区　壁面土層図 …… 44
図44　３区　遺物包含層出土土器 …… 45
図45　３区　弥生時代の溝 …… 46
図46　３区　弥生時代前～中期の
遺構出土土器 …… 47
図47　３区　石斧(石③) …… 48
図48　３区　弥生～古墳時代の遺構 …… 48
図49　３区　古墳時代頃の出土土器・土錘 …… 49
図50　３区　古代の遺構(3020井戸・3081溝) …… 50
図51　３区　古代の遺構出土土器 …… 51
図52　３区　中世末～近世初頭の遺構① …… 52
図53　３区　中世～近世初頭の
遺構②(3106井戸) …… 53
図54　３区　中世末～近世初頭の
遺構出土土器・瓦 …… 54
図55　３区　近世の遺構①(埋桶) …… 55
図56　３区　近世の遺構② …… 57
図57　３区　近世の遺構③ …… 58
図58　３区　近世の遺構④ …… 59
図59　３区　近世の遺構出土土器・瓦① …… 60
図60　３区　近世の遺構出土土器・瓦他② …… 61
図61　３区　中世末期～近世の
石器・石製品(石④) …… 62
図62　３区　中世末期～近世の
金属製品・銭貨(金属①) …… 63
図63　３区　中世末期～近世の木製品(木②) … 64
図64　４区　平面図 …… 65
図65　４区　弥生～古墳時代の
遺構①(竪穴状遺構１) …… 66
図66　４区　弥生～古墳時代の遺構② …… 67

図67　４区　弥生時代の遺構出土土器 …… 68
図68　４区　古墳時代の遺構出土土器 …… 68
図69　４区　双孔円盤(石⑤) …… 68
図70　４区　近世の遺構①(4003井戸) …… 69
図71　４区　近世の遺構② …… 70
図72　４区　近世の遺構出土土器①
(各時代の遺物混在) …… 71
図73　４区　近世の遺構出土土器・瓦② …… 72
図74　４区　硯(石⑥) …… 73
図75　４区　近世の木製品(木③) …… 73
図76　５区　平面図 …… 75
図77　5-1区　壁面土層図 …… 77
図78　5-2区　壁面土層図 …… 78
図79　５区　遺物包含層出土土器 …… 79
図80　5-4区　5040流路土層断面図 …… 80
図81　５区　5040流路出土土器① …… 81
図82　５区　5040流路出土土器② …… 82
図83　５区　5040流路出土土器③ …… 83
図84　５区　5040流路出土土器④ …… 84
図85　５区　5040流路出土土器⑤ …… 85
図86　５区　5040流路出土土器⑥ …… 86
図87　５区　5040流路出土土器⑦ …… 87
図88　５区　5040流路出土土器⑧ …… 88
図89　５区　5040流路出土土器⑨ …… 89
図90　５区　弥生時代　溝6(5081)・
溝7(5080・5227)・溝8(5096・5206) …… 90
図91　５区　溝6(5081)出土土器 …… 91
図92　５区　溝7(5080・5227・5279)出土土器 …… 92
図93　５区　溝8(5096・5206)出土土器① …… 93
図94　５区　溝8(5206)出土土器② …… 94
図95　５区　溝8(5206)出土土器③ …… 95
図96　５区　溝8(5206)出土土器④ …… 96
図97　５区　溝8(5206)出土土器⑤ …… 97
図98　５区　溝8分流(5093)出土土器 …… 97
図99　５区　弥生時代溝9(5095・5205)・
溝10(5118・5187・5012) …… 98
図100　５区　溝9(5095)出土土器① …… 99
図101　５区　溝9(5205)出土土器② ……100
図102　５区　溝9(5205)出土土器③ ……101
図103　５区　溝9(5205)出土土器④ ……102
図104　５区　溝9(5205)出土土器⑤ ……102
図105　５区　溝10(5118)出土土器① ……103
図106　５区　溝10(5187)出土土器② ……104
図107　５区　溝10(5187)出土土器③ ……105
図108　５区　溝10(5012)出土土器④ ……106
図109　５区　溝10分流(5215)出土土器 ……106
図110　５区　弥生時代溝11(5182・5014)他……108
図111　５区　溝11(5182) 出土土器① ……109
図112　５区　溝11(5182) 出土土器② ……110
図113　５区　溝11(5014) 出土土器③ ……111
図114　５区　溝11(5014) 出土土器④ ……112
図115　５区　古墳時代溝12(5180・5016)・
溝13(5019・5144)・溝14(5142) ……113
図116　５区　溝12(5180・5016・5169)
出土土器 ……114
図117　５区　溝12関連遺構出土土器 ……115
図118　５区　溝13(5019)出土土器 ……116
図119　５区　弥生～古墳時代　溝14(5001)・
溝15(5140・5002) ……116
図120　５区　溝14(5142・5001)出土土器 ……117
図121　５区　溝15(5140・5002)出土土器 ……117
図122　５区　弥生時代の各種遺構① ……118
図123　５区　弥生時代の各種遺構② ……119
図124　５区　弥生時代の各種遺構③ ……120
図125　５区　弥生時代の各種遺構
出土土器① ……121
図126　５区　弥生時代の各種遺構
出土土器② ……122
図127　５区　弥生時代の各種遺構
出土土器③ ……123
図128　５区　弥生時代の各種遺構
出土土器④ ……124
図129　５区　弥生時代の各種遺構出土土器⑤ …125
図130　５区　古墳時代の各種遺構① ……127
図131　５区　古墳時代の各種遺構② ……128
図132　５区　古墳時代の各種遺構出土土器① …129
図133　５区　弥生時代末～古墳時代の
各種遺構出土土器② ……130

図134　５区　打製石器(石⑦) ……131
図135　５区　石包丁・大型石包丁(石⑧) ……132
図136　５区　石斧・石錘・礫石器他(石⑨) ……133
図137　５区　石皿・台石(石⑩) ……134
図138　５区　紡錘車・臼玉・砥石(石⑪) ……135
図139　５区　溝15(5140)出土銅鈴(金②) ……136
図140　５区　古代末期～近世の遺構 ……137
図141　５区　古代・中世・近世の
　　遺構出土土器他 ……138
図142　６区　平面図 ……141
図143　６区　壁面土層図 ……142
図144　６区　弥生～古墳時代の遺構 ……143
図145　６区　弥生時代の遺構出土土器 ……144
図146　６区　石鏃(石⑫) ……145
図147　６区　中世の遺構① ……145
図148　６区　中世の遺構②(掘立柱建物1) ……146
図149　６区　近世の遺構 ……147
図150　６区　中世・近世の遺構出土土器 ……148
図151　７・８区　平面図 ……150
図152　７・８区　下層遺構平面図 ……151
図153　７区　壁面土層図 ……152
図154　７区　7000流路遺物出土状況 ……153
図155　７区　7002溝遺物出土状況 ……154
図156　７区　7004溝遺物出土状況 ……155
図157　７区　7061土坑 ……156
図158　７区　7165土坑 ……157
図159　７区　7000落ち込み出土土器① ……158
図160　７区　7000落ち込み出土土器② ……159
図161　７区　7001溝出土土器 ……159
図162　７区　7002溝出土土器① ……160
図163　７区　7002溝出土土器② ……161
図164　７区　7004溝出土土器 ……162
図165　７区　弥生時代の遺構出土土器 ……165
図166　７区　打製石器・石包丁(石⑬) ……166
図167　７区　竪穴建物1の柱穴 ……167
図168　７区　古墳時代頃の遺構 ……168
図169　７区　7157土坑出土土器 ……168
図170　７区　掘立柱建物２・３他 ……169
図171　７区　7013溝出土土器 ……170
図172　７区　中世・近世の遺構他出土土器 ……170
図173　７区　近世の遺構 ……171
図174　７区　近世の木製品(木③) ……172
図175　８区　壁面土層図 ……174
図176　８区　8000落ち込み・8002溝遺物
　　出土状況 ……175
図177　８区　弥生～古墳時代の溝 ……176
図178　８区　8002溝出土土器 ……177
図179　８区　8002溝出土木製品(木④) ……178
図180　８区　掘立柱建物1 ……179
図181　８区　中世～近世の遺構 ……180
図182　７・８区　7013・8013南北溝断面模式図 …181
図183　８区　各種遺構出土土器 ……182
図184　８区　8013南北溝出土土器 ……182
図185　神前遺跡の主要遺構の変遷 ……186

表目次

表１　調査・整理の概要 …… 5
表２　土器観察表 ……212
表３　石器・石製品観察表 ……234
表４　石器石材の剝片数量 ……235
表５　金属製品観察表 ……236
表６　木製品観察表 ……236
表７　獣骨観察表 ……236

写真目次

写真１　神前遺跡県３次調査区遠景 …… 2
写真２　神前遺跡県３次調査区 …… 2
写真３　遺構掘削状況 …… 4
写真４　土層分層作業 …… 4
写真５　現地説明会 …… 4
写真６　遺物整理作業 …… 4

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

和歌山県では、和歌山市郊外における渋滞緩和のため、また、2015 年に計画されている紀の国わかやま国体開催前の道路開通を目指して、県内における道路改良工事が進められている。当該地においても県道和歌山橋本線・県道秋月海南線・県道松島本渡線道路改良工事が計画され、予定地の一部が井辺遺跡及び神前遺跡にかかることから、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課により平成 21 年２月から５次に渡る確認調査が実施された。

確認調査の結果、井辺遺跡及び神前遺跡は、いくつかの谷を挟みながら弥生時代～古墳時代を中心とする遺跡が展開しており、記録保存目的の本発掘調査が必要と判断され、当センターが受託することとなった。

当報告書の対象はこれらの本発掘調査の南半部にあたる県道和歌山橋本線道路改良事業に伴う範囲であり、神前遺跡における県の第１・２・４次調査（県道和歌山橋本線に伴う調査としては１～３次調査）にあたる。

神前遺跡の県第１次調査は 2009 年 12 月８日～３月５日に、神前遺跡の中央東側を通過する道路予定地の北側から１区と２区を対象範囲として設定し、1,653 ㎡の本発掘調査を実施した。１区と２区はやや離れた調査区であるが、ともに弥生時代から古墳時代にかけての多数の溝を検出した。

県第２次調査は 2010 年６月 17 日～ 10 月 22 日に、第１次調査よりやや南側の平野部に３～６区を調査対象として設定し、4,644 ㎡の本発掘調査を実施した。３・４区は第１次調査の１区と２区の間に、５～６区は南側に設定した。

県第４次調査は 2011 年 11 月１日～ 2012 年２月 29 日に、第１・２次の調査区より南側に７・８区を設定し、1,921 ㎡の本発掘調査を実施した。これにより県道和歌山橋本線に伴う調査が終了した。

なお、県の第３次にあたる本発掘調査は、2011 年３月 29 日～ 10 月５日まで、県道松島本渡線の道路改良工事に伴い井辺遺跡と神前遺跡の一部を対象として実施されている。神前遺跡内の調査区は本報告書の１区北側隣接地にあたるやや独立した調査区が設定されており、報告書は別途作成される計画となっている。

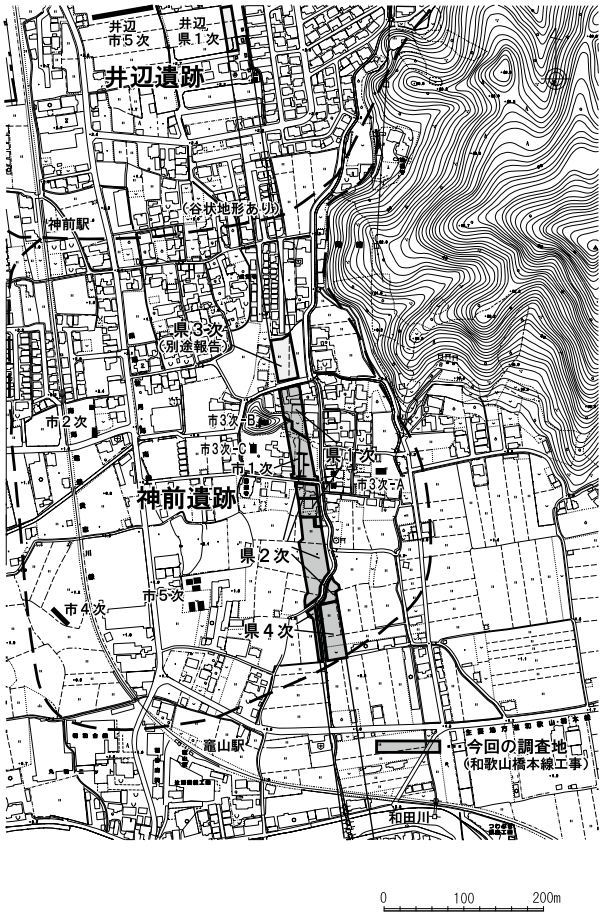


図１　調査地の位置

第２節　既往の調査成果

神前遺跡は、和歌山市神前地内に所在する集落遺跡で、遺跡として認識されている範囲は東西700 m、南北 450 mである。現況として、北･西側は宅地化が進んでおり、南･東側は水田が広がっている。

神前遺跡の範囲内では、2013 年度までに和歌山市による立ち会い調査を含めた９次に渡る調査と、和歌山県が当センターに委託した４次に渡る本発掘調査が行われている。本報告書の対象としている県の神前遺跡１・２・４次調査以外の主要な調査について概要を示す。

市の１次調査は、1996 年１～２月に実施された。今回調査地の３区中央にあたる場所にトレンチを設定して実施された宅地開発に伴う 220 ㎡の発掘調査である。調査区北端では東側に広がる弥生時代前期の落ち込み状地形があり、中央北東側には弥生時代後期の溝１条がある。その他、鎌倉時代の石積井戸１基をはじめ、近世初頭の溝・土坑等が発見され当該期の有力者の屋敷地と考えられている。

市の２次調査は、1997 年７月に実施された。遺跡の西の縁辺にあたる小規模な調査で、調査成果からは少なくとも弥生時代の遺構の広がりはこの場所まで達しないと解釈できる。

市の３次調査は、1999 年１～２月に実施された。３箇所で計 70 ㎡の調査区を設定し、本報告の３区から 100 mほど東の現在の神前集落内と、今回調査地の西に存在する小丘陵の頂上付近、及び丘陵南西裾を調査した。このうち東の調査区では、第３遺構面（標高 1.45 ～ 1.55 m）で弥生時代前期末～中期初頭の水田区画３単位と杭列、第２遺構面（標高 1.70 m）で幅 1.0 ～ 1.2 m、深さ 0.5 mの弥生時代中期前葉の南北溝２条と鎌倉時代の東西溝、第１遺構面（標高 1.72 m）で江戸時代の土坑等が確認されている。

県の３次調査は、県道和歌山橋本線道路工事に伴う調査と併行する時期に、連続する路線上の北側隣接地にあたる県道松島本渡線の道路改良工事の対象範囲で実施されている。弥生時代から古墳時代にかけての溝 10 数条と谷状地形、鎌倉時代の溝と耕作痕を検出した。

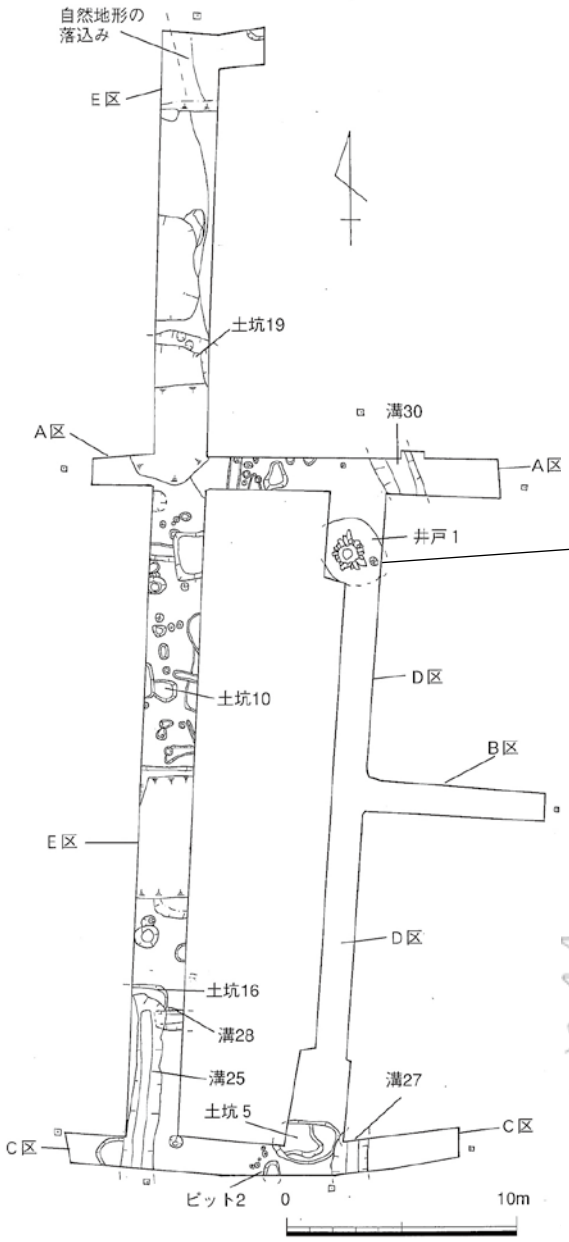
既往の調査成果は、和歌山市・市文化体育振興事業団の『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報』、『和歌山市内遺跡発掘調査概報』のほか、和歌山県教育委員会の『和歌山県埋蔵文化財調査年報』、当センターの『和歌山県文化財センター年報』、『地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会発表資料集―』の各年度の冊子に紹介されている。



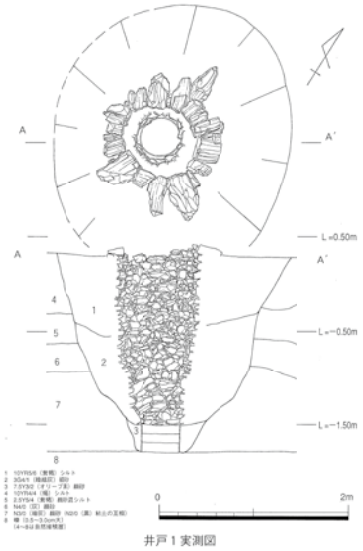
写真１　神前遺跡県３次調査区遠景（北から）



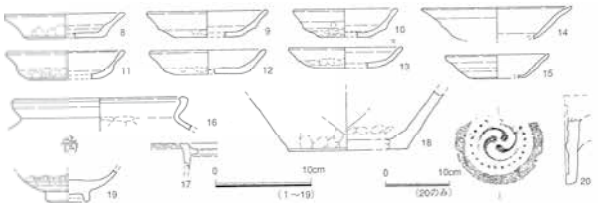
写真２　神前遺跡県３次調査区（北から）



神前遺跡・市１次調査区
（県２次調査３区内）



井戸１出土土器



神前遺跡・市３次調査Ａ区

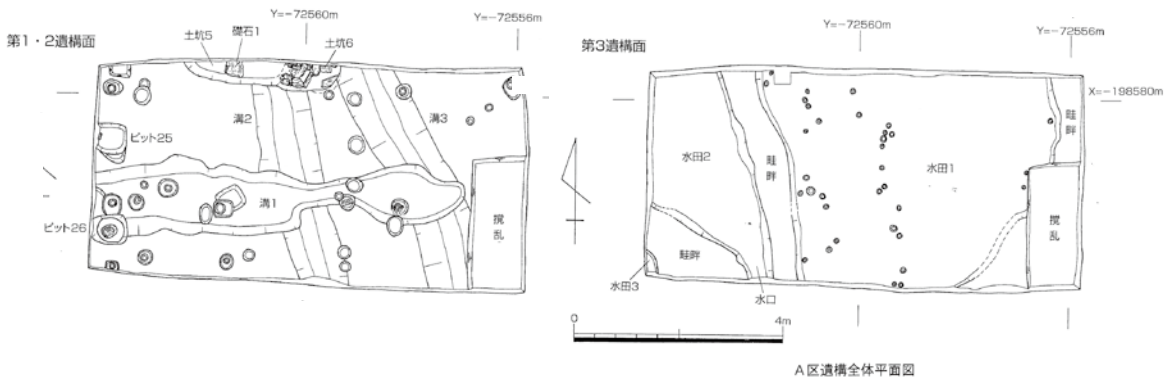


図２　神前遺跡における既往の調査

第３節　発掘調査と出土遺物整理の経過

神前遺跡・和歌山橋本線第１次調査（神前遺跡県１次調査）

１・２区を対象に実施し、調査期間は平成21年12月８日～平成22年３月５日、調査面積は1,653㎡である。調査準備後、平成21年12月16日より掘削を開始し、平成22年１月26日に第１回目の航空撮影（１区西半）、２月19日に第２回目の航空撮影（１区東半、２区）を行った。その後埋め戻しを始めながら実測作業等を行い、２月25日に埋め戻しを終え、現地調査を終了した。

調査は工事請負方式で実施し、掘削作業は株式会社弘安建設に、基準点測量および航空撮影・写真測量図化は株式会社南紀航測センターに委託した。

神前遺跡・和歌山橋本線第２次調査（神前遺跡県２次調査）

３～６区を対象に実施し、調査期間は平成22年６月17日～10月22日、調査面積は4,644㎡である。調査は南北に長い調査区を４つの大地区に分割し、さらに農機進入路と排土置場確保のため、５区を5-1～5-5区に、６区を6-1・6-2区に分割し、２つの工程に分け調査を行った。航空写真撮影･測量はラジコンヘリコプターを用い、平成22年９月９日と10月14日の２回行った。その後埋め戻しを始めながら残りの実測作業等を行い、10月22日に埋め戻しが終了した。

調査は工事請負方式で実施し、掘削作業等は株式会社ヤスダエンジニアリングに発注し、基準点測量・航空写真撮影・測量を和歌山航測に委託した。

調査成果については、周辺住民への調査案内の配布、現地公開、報道機関への成果の資料提供を行い周知に努めた。現地公開は平成22年９月11日に第１回目、平成22年10月15日・16日の両日に第２回目を行い、参加者は、第１回目は約230名、第２回目は約150名であった。平成22年10月15日には、岡崎小学校６年生の児童74名の現地見学を受け入れた。



写真３　遺構掘削作業



写真４　土層分層作業



写真５　現地説明会



写真６　遺物整理作業

神前遺跡・和歌山橋本線第３次調査（神前遺跡県４次調査）

７・８区を対象に実施し、調査期間は平成 23 年 11 月１日～２月 29 日、調査面積は 1,921 ㎡である。調査準備後、11 月 16 日より掘削を開始し、平成 24 年２月１日に航空写真測量を行った。その後２月 29 日に埋め戻しを終え､現地調査を終了した。現地説明会を１月 28 日に開催し、154 人が参加した。

調査は工事請負方式で実施し、掘削作業等は有限会社芳野組に、基準点測量・航空写真撮影・測量は株式会社共和に委託した。

なお、発掘調査時に現地調査事務所等において、遺物洗浄・登録等の応急整理を行った。

第１次出土遺物等整理

平成 24 年度には第１次整理作業を行った。整理作業対象は出土遺物 339 箱のほか、写真・遺構図等である。主な作業として、出土遺物の洗浄・注記・接合・登録作業のほか、出土遺物の実測、遺構のトレース等を行った。整理対象遺物は弥生土器を中心とする土器が多く、石製品・木製品・金属製品が若干ある。

第２次出土遺物等整理

平成 25 年度には第２次整理作業を行った。主な作業として、出土遺物の復元･実測･トレース･組版・写真撮影、遺構のトレース・組版を行い、発掘調査報告書を作成した。

遺構図版はＡ２版のファイル５冊、航空写真を含む写真は計 34 冊に収納して当センターで保管している。遺跡調査後 339 箱にまとめてあった出土遺物は、発掘調査報告書掲載分 143 箱とその他 255 箱に整理し直して収納し、県教育委員会に移管した。

表１　発掘・整理の概要

	調査面積	調査期間	出土遺物量
１区	1,068 ㎡	2009 年 12 月～2010 年３月	18 箱
２区	585 ㎡		35 箱
３区	1,459 ㎡	2010 年６月～2010 年 10 月	87 箱
４区	443 ㎡		18 箱
５区	2,296 ㎡		172 箱
６区	446 ㎡		12 箱
７区	1,549 ㎡	2011 年 11 月～2012 年２月	45 箱
８区	372 ㎡		11 箱
計	8,218 ㎡	―	398 箱

	整理対象	整理期間	成果物
第１次整理	出土遺物 398 箱他	2012 年４月～2013 年３月	発掘調査報告書の刊行
第２次整理		2013 年４月～2014 年３月	

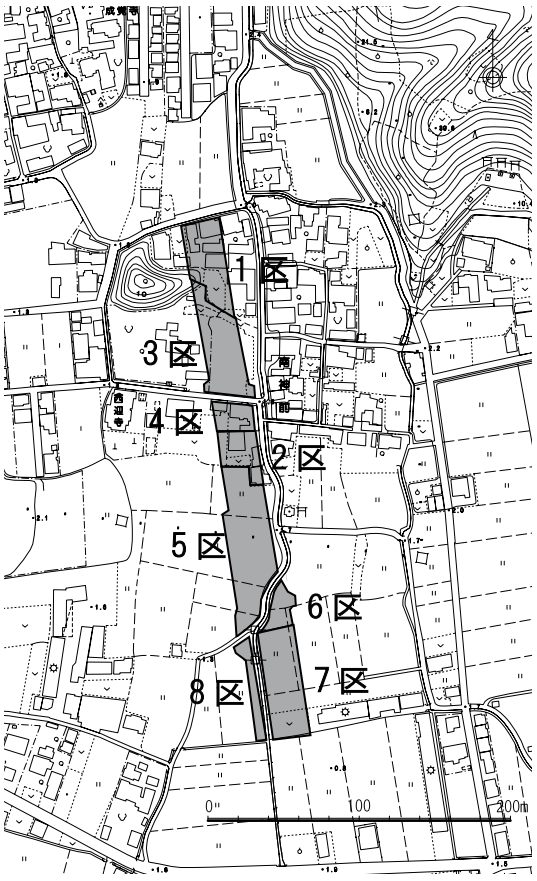


図３　調査区の配置

第２章　位置と環境

第１節　歴史地理的環境

１　地理的環境

和歌山県は日本列島中央部の南側に突き出した紀伊半島の西側を占めている。その北部を紀ノ川が西流しており、河口部には和歌山県最大の和歌山平野が形成されている。

紀ノ川流域は中央構造線が東西に走り、北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。内帯は砂岩・泥岩の互層からなる和泉層群であり、外体は結晶片岩を主体とする三波川変成帯で構成されている。和歌山平野はこの中央構造線上を西流する紀ノ川の沖積作用によって形成されている。

現在の紀ノ川は河口部まで東から西へとほぼ直線的に流れているが、時期により流れを変えていたことが知られている。約 6000 年前の縄文海進時には、和歌山平野の大部分は浸水していたと考えられる。その後、紀ノ川が運ぶ砂礫により、次第に陸化され沖積平野が形成される。紀ノ川の本流は古代末まで、支流である現在の和歌川へと流れる方向をとり蛇行していたが、11 世紀末頃の洪水により直流して現在の水軒川に流れを変えるようになった。更に現在の紀ノ川の流れとなったのは、15 世紀末の大地震による大津波の影響によるものと推測されている。

神前遺跡は和歌山平野の南東部にあたり、和田川によって形成された自然堤防上に立地する。紀ノ川の本流は堆積作用により徐々に西側に流路を変えるが、和田川の流域面積は小さかったため、遺跡周辺の堆積層は、粘質土やシルト質土等の粒径の細かいものが主体となる。下流には緩やかな三角洲性の低地が展開され徐々に埋積された。また、遺跡北東には、岩橋山塊の南西に位置する独立丘陵である福飯ヶ峯（標高約 102 m）が存在し、さらに、南西には名草山などの独立丘陵がみられる。

今回の調査地は福飯ヶ峯と独立した中務の築山と呼ばれる小丘陵の間を南北に抜ける道路用地である。幾筋かの小さな谷や流路があったものと考えられる場所であるが、現状では北半が集落、南半が水田となっている。現在の神前周辺の水田は、和田川からの用水ではなく、紀ノ川から音浦分水口を経て流れる宮井用水のうち新溝用水から水をひいており、紀ノ川流域の耕作地の一部となっている。標高が低いことから、歴史的に塩害や大雨による浸水の被害が起こる地域としても知られている。

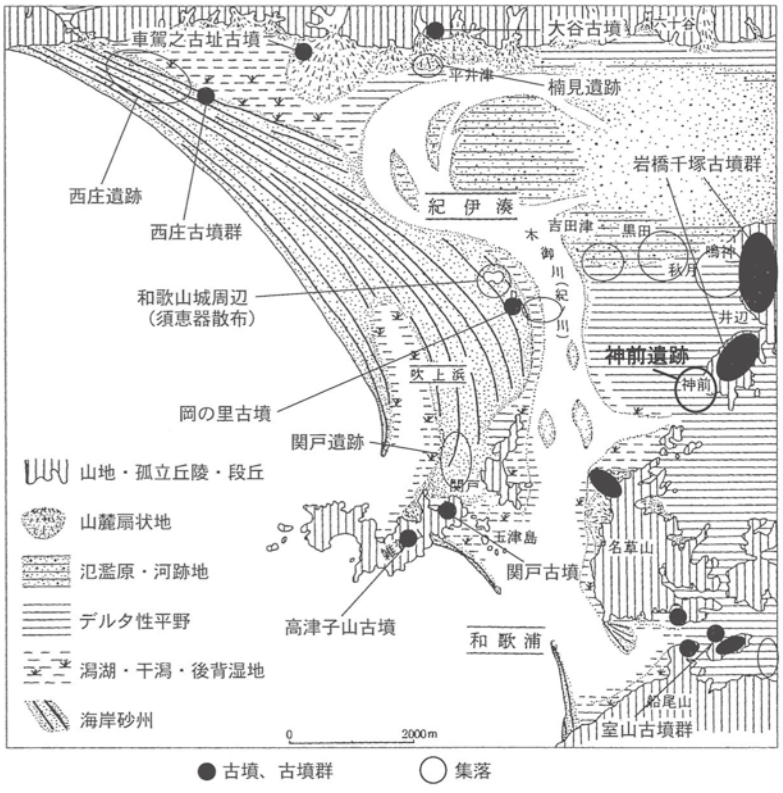


図４　神前遺跡周辺の旧地形
（和歌山県教育委員会 2010『和歌浦学術調査報告』の図に加筆）

２　歴史的環境

旧石器時代・縄文時代

旧石器時代の遺跡は調査が行われておらず、丘陵裾の溜池などでナイフ形石器が表採された地点が知られている。縄文時代時代には和歌山平野周辺の丘陵裾部で、鳴神貝塚、禰宜貝塚、吉礼貝塚、岡崎遺跡などが形成される。なかでも、昭和６年に国の史跡になった鳴神貝塚では、縄文時代中期から晩期および弥生時代前期にかけての遺物が出土しており、縄文時代晩期の土壙墓からは抜歯された女性の伸展葬人骨が発見された。また鳴神貝塚に隣接する鳴神Ⅳ遺跡では、縄文晩期の土壙墓３基や８体以上の人骨が発見されている。吉礼貝塚では縄文時代前期から後期にわたる土器が出土している。これらの貝塚から出土する貝類は主にハイガイ、ハマグリなどの海水系のものである。

弥生時代

JR 和歌山駅東側一帯に広がる太田・黒田遺跡は、和歌山県を代表する弥生時代の大規模集落遺跡である。集落は弥生時代前期に始まり、中期には最盛期を迎え、中期後葉から後期前半にかけては、滝ヶ峰遺跡などの高地性集落が見られるようになり、平野部での遺跡の展開が激減する。弥生時代後期後半になると、ふたたび平野部で集落が見られるようになる。神前遺跡の周辺では井辺遺跡、秋月遺跡、太田･黒田遺跡などがあるが、これらの遺跡では、弥生時代後期から遺物･遺構が認められ、古墳時代前期に継続して集落が展開する。

古墳時代

古墳時代になると、一時的に秋月遺跡に前方後円墳、井辺遺跡に前方後方墳が出現するが、その後も周溝墓的な古墳の築造が継続する。古墳時代中期から後期にかけて、朝鮮半島との交易が盛んになり、和歌山市平野の東部丘陵上には 850 基の古墳から成る岩橋千塚が形成される。岩橋千塚は 10 地区に区分され、神前遺跡北東部に位置する福飯ヶ峰には井辺前山古墳群（井辺前山地区）があり、井辺前山 24 号墳や井辺八幡山古墳などの前方後円墳が築かれている。神前遺跡から和田川を挟んだ南岸側には和田古墳群や竈山神社古墳が築かれる。

古代

古代には、秋月遺跡の中央部に紀伊一ノ宮とされる日前・国懸神宮が造営された。日前宮南の平野部は、条理型地割が現在も確認され、古代より日前宮の神領であったとされる。神前遺跡の南西には竈山神社があるほか、周辺には式内社が多数分布する。また、太田・黒田遺跡では井戸から和同開珎や万年通宝が、鳴神Ｖ遺跡からは陶硯、緑釉陶器、土馬が出土している。

中世

中世以降にも、太田・黒田遺跡や、秋月遺跡、鳴神遺跡などで遺構や遺物が見られる。太田・黒田遺跡南側には、豊臣秀吉による水攻めで著名な太田城の推定地があり、幅 10 ｍ、深さ３ｍの 16 世紀の壕状の遺構が検出された。岩橋高柳遺跡では、掘立柱建物２棟と井戸２基の鎌倉時代の屋敷跡や室町時代の堀状遺構が検出されている。一方、室町時代の神前周辺は、日前・国懸宮の神事や祭事に関係し、雑賀五組の社家郷に属している。

近世

近世に入り、神前周辺は神前村と呼ばれるようになる。神前遺跡では、江戸時代初頭の溝や土坑、暗渠排水溝が検出されている。


紀ノ川銅鐸出土地
(和歌山IC)
友田町遺跡
(JR和歌山駅)
太田・黒田遺跡
鳴神Ⅳ遺跡
音浦遺跡
花山古墳群
鳴神Ⅴ遺跡
鳴神貝塚
秋月遺跡
木広町遺跡
鳴神Ⅲ遺跡
津秦Ⅱ遺跡
津秦遺跡
井辺Ⅱ遺跡
大日山35号墳
岩橋千塚古墳群
大日山Ⅰ遺跡
井辺Ⅰ遺跡
岡崎縄文遺跡
井辺八幡山古墳
神前Ⅱ遺跡
井辺遺跡
井辺前山24号墳
井辺前山古墳群
寺内古墳群
森小手穂遺跡
神前遺跡
和田古墳群
和田遺跡
坂田遺跡
坂田地蔵山古墳
和田Ⅱ遺跡
菖蒲谷遺跡
竈山神社古墳
和田岩坪遺跡
(竈山神社)
千石山遺跡
三田古墳群
馬場遺跡
朝日石槍出土地
吉里銅鐸出土地
吉原古墳
広原古墳
薬師谷遺跡
滝ヶ峰遺跡
薬勝寺遺跡
薬勝寺跡
紀三井寺遺跡
名草貝塚
室山古墳群
山崎山古墳群
岡村遺跡
岩橋高柳遺跡
天王塚古墳
(天王塚山遺跡)
東吉礼遺跡
吉礼貝塚
西吉礼遺跡
0 200 1,000 2,000m

図５　周辺の遺跡

第２節　調査の方法

地区割りの設定

発掘調査は原則的に当センターの定めた『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006）に準拠して行った。

遺構図作成や遺物取り上げの際に用いた調査区の地区割りは、平面直角座標系（世界測地系）第Ⅵ系の座標軸を使用した。地区割りの基点はX=−198.0km、Y=−72.0kmに設定し、和歌山市内を網羅する区割りを想定して太田・黒田遺跡県１次調査及び平成20年度秋月遺跡調査（県９次）時との重複を避けた。この基点から100ｍ四方の区画を１単位とした中区画を設定し、北東端を基点とし西方向へローマ字の大文字でＡ～Ｊと、南方向へアラビア数字で１～10と表記した。今回の調査区はJ2～J4・I3～I4区となる。さらに４ｍ四方の区画を１単位とした小区画を設定し、北東端を基点とし西方向へローマ字の小文字でａ～ｙと、南方向へアラビア数字で１～25と表記した。遺構図作成や遺物取り上げの際には原則として、4ｍ四方の小区画で行い、中区画－小区画を組み合わせて表記し用いた。

方位は座標北を使用し、標高は東京湾平均海面（T.P.）からのプラス値を使用した。

調査区の設定

調査区の東西幅は北側で約25ｍ、南側で30～34ｍであり、部分的に21～40ｍとなる。中央での南北長が約340ｍの細長い道路用地で、南北座標軸より北→西に約10度傾く。

第１次調査

調査地は南北２箇所にわかれ、約70ｍ離れている。北側を１区、南側を２区とした。１区は調査面積1,068㎡であり、幅約23ｍ、長さ約62ｍで土地区画の都合上、南西部分は３区に含めた。２区は調査面積585㎡であり、幅約23ｍ、長さ約35ｍで南西部分は5-1に含めた。

第２次調査

調査区名称は県１次調査のものを踏襲し、北から３区、４区、５区、６区を設定した。調査区については､当初設計には無い農機進入路やU字溝を確保しながら調査を行う必要が生じたため、５区を5-1区～5-5区の５箇所に、６区を6-1区･6-2区の２箇所に、さらに小地区を設定した。調査面積は4,644㎡である。

第３次調査（県道和歌山橋本線）

第２次調査の５・６区の南隣りに調査区を設定した。宮井用水｢中溝水路｣を挟んで東側に７区、西側に８区を配して調査を行った。７・８区は同時に掘削を行っており、調査面積は1,921㎡である。

掘削手順

１・５・６区は調査区外に掘削排出土の仮置き場が確保できないため、調査区を分割・反転して調査を行った。その他の調査区では掘削排出土を調査区外の道路用地内に横置きし、反転せずに掘削手順は一度で行った。掘削に際し､近世遺物包含層（第０～Ⅲ層）まで機械掘削を行った。一部に残存する弥生土器等の遺物包含層（第Ⅳ層）は人力掘削を行い、また第４層が存在しない地点では遺構検出面の10㎝上位を人力掘削とし調査を進めた。包含層掘削後に遺構を検出し、遺構の埋土を人力掘削した。遺構検出は第Ⅴ層（基盤層）上面の１面で行った。

検出遺構はその種類にかかわらず、検出順に１から通し番号で遺構番号を付した。ただし調査

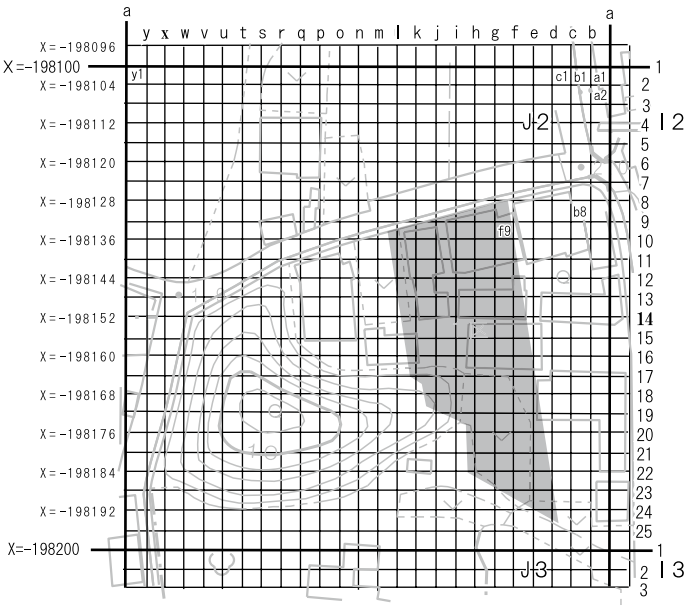
区を区別するため、１区の遺構は 001 ～ 079 とし、２区の遺構は 201 ～ 270、３区以降の遺構は 3001 ～、4001 ～とした。記述する場合、例えば「008 溝」のように遺構番号・遺構の種類で表記するが、複数の遺構番号にまたがる溝はそれらをまとめて「溝１」等と表記した。第１次調査では調査区ごとに、第２・３次調査では各調査年度ごとに、溝１から順に現場で番号を付けている。

出土遺物は４ｍ四方単位の小区画ごとに分けて取り上げ、１番からの登録番号を与え遺物登録台帳によって管理している。出土遺物はコンテナ（28 ℓ）に収納した。ただし前述の遺構番号と異なり、調査区ごとに区別せずに出土日順に登録した。

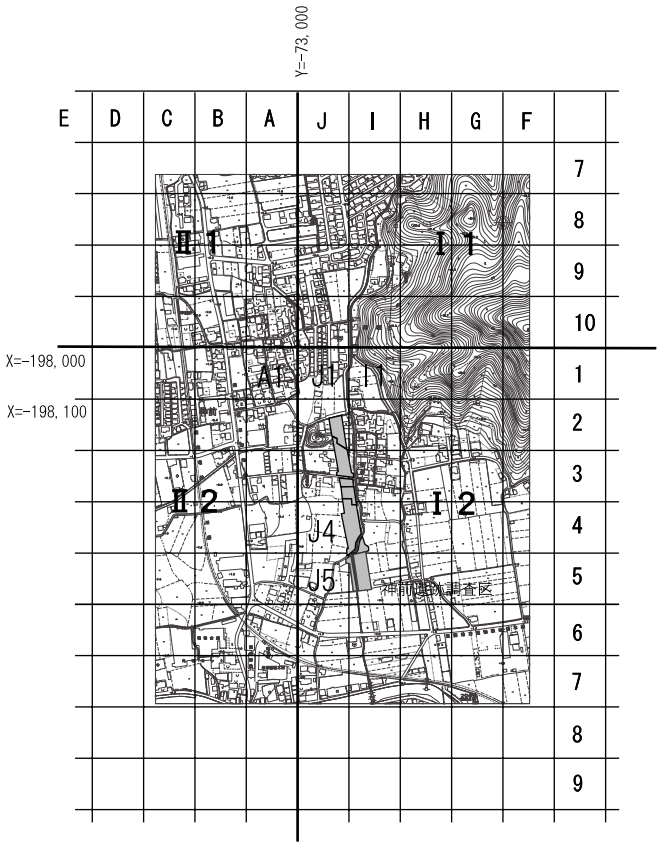
調査における記録として、写真撮影と記録図面を作成した。写真撮影については４×５判・６×７判・35㎜のカラーリバーサルおよびモノクロフィルムを使用した。また 600 万画素相当のデジタルカメラを補助的に使用した。撮影内容は、基本的に日時・調査区・対象・方向・使用フィルムを付記したほか、デジタル画像データに内容を付して保存している。

記録図面については、航空写真測量による S=1:50 の遺構平面図と、調査員・調査補助員による S=1:10・1:20 の遺構実測図（断面図・平面図）、1:20 の調査区土層図、S=1:100 の遺構配置図を作成した。

航空撮影・測量については、ラジコンヘリにより、それぞれ調査地遠景の斜め写真と図化用の垂直写真を撮影した。



４ｍグリッド（小区画）設定状況（１区）



100ｍグリッド設定状況

図６　地区割りの設定状況

基本層序

調査前の現況は宅地及び耕作地・工場跡地である。調査区によってはⅡ～Ⅳ層の包含層中に含まれる土器の量が少なく年代の判別が困難な場所もあるが、全体をみて推定される層位をあてている。

０層：現代造成土
　　にぶい黄褐色系細砂

Ⅰ層：近現代耕作土
　　褐灰色細砂（ａ層）：近現代耕作土
　　褐色～明黄褐色細砂（ｂ層）：床土

Ⅱ層：近世の遺物包含層（江戸時代後期の遺物包含層か）
　　暗い褐灰色～灰白色細砂

Ⅲ層：中世～近世初頭の遺物包含層
　　灰黄褐色～褐灰色細砂

Ⅳ層：弥生土器を含む遺物包含層
　　黄褐色～褐色のシルト～細砂

Ⅴ層：基盤層（無遺物とみられる層）
　　にぶい黄褐～黄褐色系のシルト～細砂（均質）
　　遺物を確認できない層をⅤ層としたが、遺物を含む流路より上層に当たる可能性がある堆積土はⅤ′層とした。

包含層と遺構面

遺構検出は地山であるⅤ層上面で行い、弥生時代前期から古墳時代中期の遺物の入る溝・土坑のほか、平安時代の溝・井戸等、中世～近世の屋敷地等についても同時に検出した。調査地は沖積地であり、無遺物の自然流路や堆積が認められるため遺構面の把握が難しい。

第Ⅴ層が無遺物層であり、これを弥生時代前期以降の遺跡が形成されたベース土として認識し、土層図ではスクリーントーンを貼り、旧地形を分かりやすくすることを意図した。

基盤層

地山である黄褐色シルト層は、同様の土層が周辺地域でも認識されており、基盤を成す河成堆積の砂泥層と考える。現地表は標高 2.4 m前後、黄褐色シルト層上面は標高 2.0 m前後であるが遺構面は削平されたとみられる。下層確認調査を行ったところ、黄褐色シルト層の厚さは 0.7 ～ 1.0 mほどで、その下にはグライ層である青灰色粘土層が堆積する。青灰色粘土層の下層は灰色細砂層が互層状に混じる。

基盤層であるⅤ層は、3 区は標高約 2m、5 区付近で標高は約 1.5m、8 区では標高約 1.3 mであり、南東に向かい緩やかに傾斜している。Ⅴ層は、下層を確認できた箇所では上下 3 層に細分できる。土色は共に黄褐色～黄褐色で、シルト～細砂質土から中砂、粗砂へと細分される。

第３章　調査成果

神前遺跡では、県道和歌山橋本線道路改良工事に伴い、最大幅約 40 ｍ、延長約 340 ｍ、計 8,218 ㎡の道路敷地を対象に、３年次・８区に渡る発掘調査が行われた。弥生時代前期から江戸時代までの遺構を検出し、出土遺物総数は出土遺物整理作業前でコンテナ 339 箱分、整理後でコンテナ 398 箱分である。

調査面は１面であるが、遺構把握のため、本章では各調査区ごとに若干異なる基準で時代を区切り、遺構番号順に並べて報告する。これらの検出遺構に伴い土器の説明を行い、各調査区の年代別に石器・木製品・金属製品を並べている。また、各調査区の弥生時代から江戸時代までの変遷を理解するための基礎資料として、調査区ごとに壁面土層図を掲載した。

全調査区に共通して検出される遺構として、弥生時代前期から古墳時代中期までの多数の溝がある。これらの溝については各調査区での通し番号による 201 溝や 3033 溝など遺構名の他に、第１次調査の１区で溝１～７、２区で溝１～５、第２次調査の３～６区で溝１～ 16、第３次調査の７・８区で溝１～ 10 の番号を振っている。１本の溝に複数の遺構番号がついている場合があり、遺構番号と溝番号の分かりやすい方を調査区ごとに適宜選択して使用している。記述に統一感が欠けるが、諒解されたい。

これらの溝群については、大きく弥生時代前期新段階～中期中葉のものと庄内期から古墳時代中期のものに分かれるほか、自然地形での谷筋にあたり弥生時代と古墳時代の遺物が混在して出土する溝がある。また、弥生時代中期を中心とする溝群の下層には、これに先行する溝や自然流路、谷状地形があり、弥生時代前期の土器が出土するものが多数確認できる。このような遺構として、１区の下層遺構 013、５区の下層遺構 5040、６区の下層遺構 6050、７区の下層遺構 7000-8000 及び 7002-8002 溝、7061・7165・7166 井戸がある。

古代末から中世前期の遺構は、遺構密度が低く、調査区全体に散在する。平安時代の遺構は自然地形に沿った溝や井戸があり、鎌倉時代の遺構は掘立柱建物・井戸・溝がある。

室町時代から江戸時代にかけての遺構は東西・南北の区画溝があり、特に江戸時代後期には石組や木樋・桶を用いた遺構を含めた屋敷地に伴う遺構が検出されている。これらの遺構は３区を中心に集中して分布しており、屋敷地が形成されていたものと考えられた。

なお各調査区の主要遺構は次のものが挙げられる。１区では弥生時代から古墳時代の溝１～７が検出されている。２区では調査区の中央で 201・202 溝が検出されており、弥生時代前期から古墳時代前期までの遺物が多量に出土している。３区では平安時代の遺物を含む 3081 溝、調査区北西部に散乱する備前焼大甕、井戸や石垣、暗渠、埋桶群を伴う中世末から近世にかけての遺構群が注目される。４区では 4021 竪穴状遺構が検出されている。５区では弥生時代前期の土器が大量に出土した 5040 流路とその上層に形成された弥生時代中期の溝群が注目される。出土した弥生土器は当該期の土器の変遷を考える上で貴重な資料といえる。６区では鎌倉時代の掘立柱建物が検出されている。７・８区では 7002 - 8002 流路から弥生時代前期の土器群が確認されているほか、旧流路上に落ち込みや溝が形成されている。

神前遺跡で出土した弥生土器は生駒山西麓産のものがほとんどなく、瀬戸内系の影響が強い。胎土に結晶片岩を含む土器が圧倒的に多いが、バリエーションがあり、弥生土器の胎土分析を行い、付章とした。

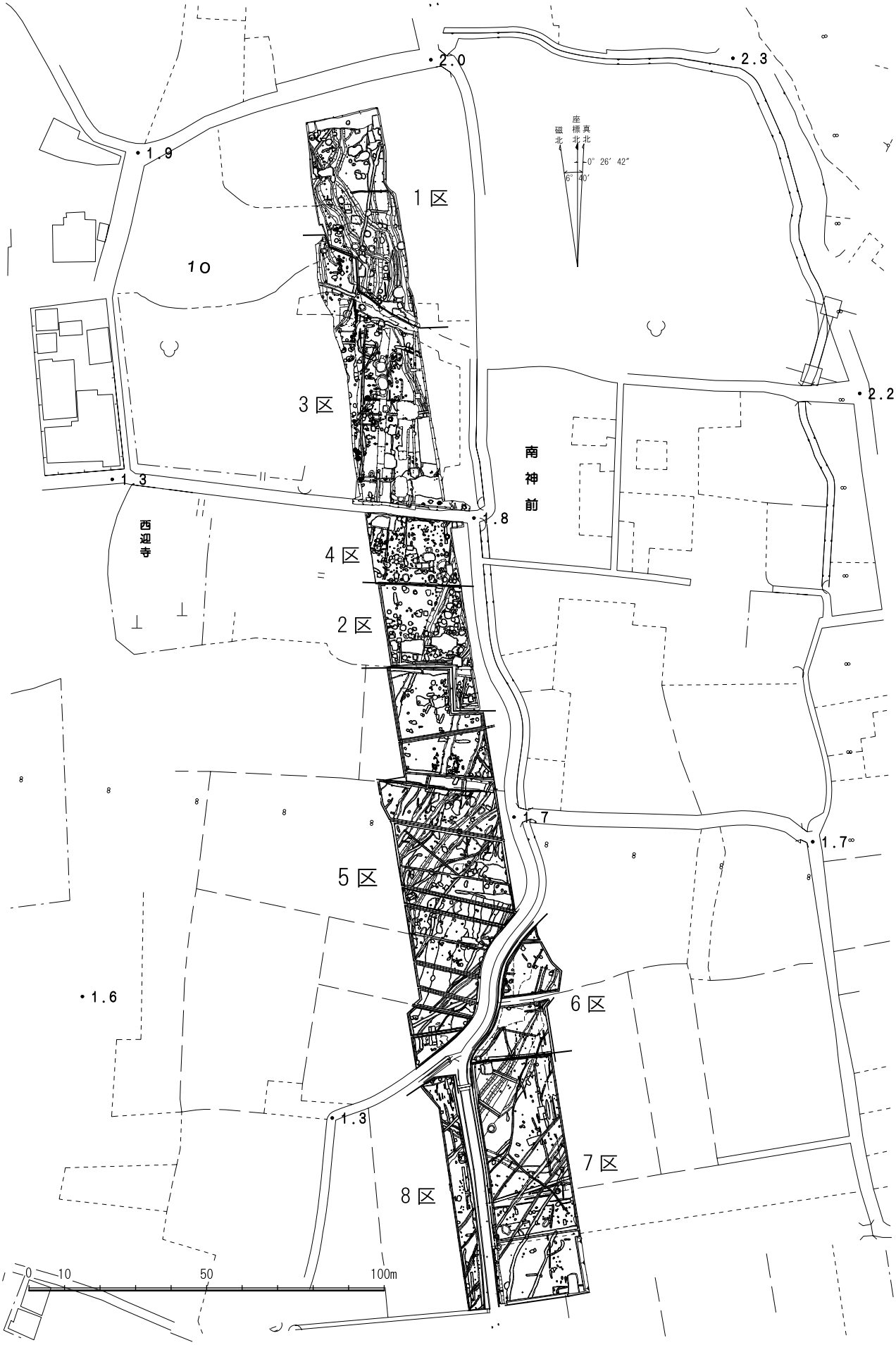


図７　遺跡全体図（S=1：1,500）

第１節　１区の調査

１　概要

１区は調査対象地の北端にあたる調査区である。東西幅約 22 ～ 25 ｍ、南北長約 67 ｍで、南北主軸が約 10 度西に傾く長方形の道路用地を基本とし、南西部は３区に接する。調査面積は約 1,068 ㎡であり、幅約 23 ｍ、長さ約 62 ｍである。

調査区の西側には中務の築山（塚山）と呼ばれる高さ６～７ｍの小丘陵があり、溝等の遺構はこの小丘陵を迂回して流れるようである。南西端部は１区の調査時には実施せず、３区の北西端部として調査を行っている。

１区では弥生時代前期～古墳時代中期の多数の溝、平安時代から鎌倉時代の南北方向の小溝と井戸、室町時代の区画溝・井戸・焼土坑、江戸時代の東西方向小溝と井戸・土坑を確認した。出土遺物は計 18 箱分で弥生土器・土師器・須恵器のほか、陶磁器・瓦が少量出土している。

２　弥生時代～古墳時代の遺構と遺物

１区の遺構は弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の遺構を同一面で検出したが、各時代に整理して遺構・遺物について説明する。

(1)　弥生時代～古墳時代の溝群

１区では弥生時代前期～中期中葉、後期～庄内期、古墳時代中期の３時期の遺物の出土する溝が蛇行・混在する。各溝は上・中・下層が明確なものが多く、同一遺構名で異なる時期の遺物が検出されている。溝は検出面で幅約 1.5 ～ 2.5 ｍ、深さ 0.5 ～ 0.8 ｍであり、屈曲が大きい。

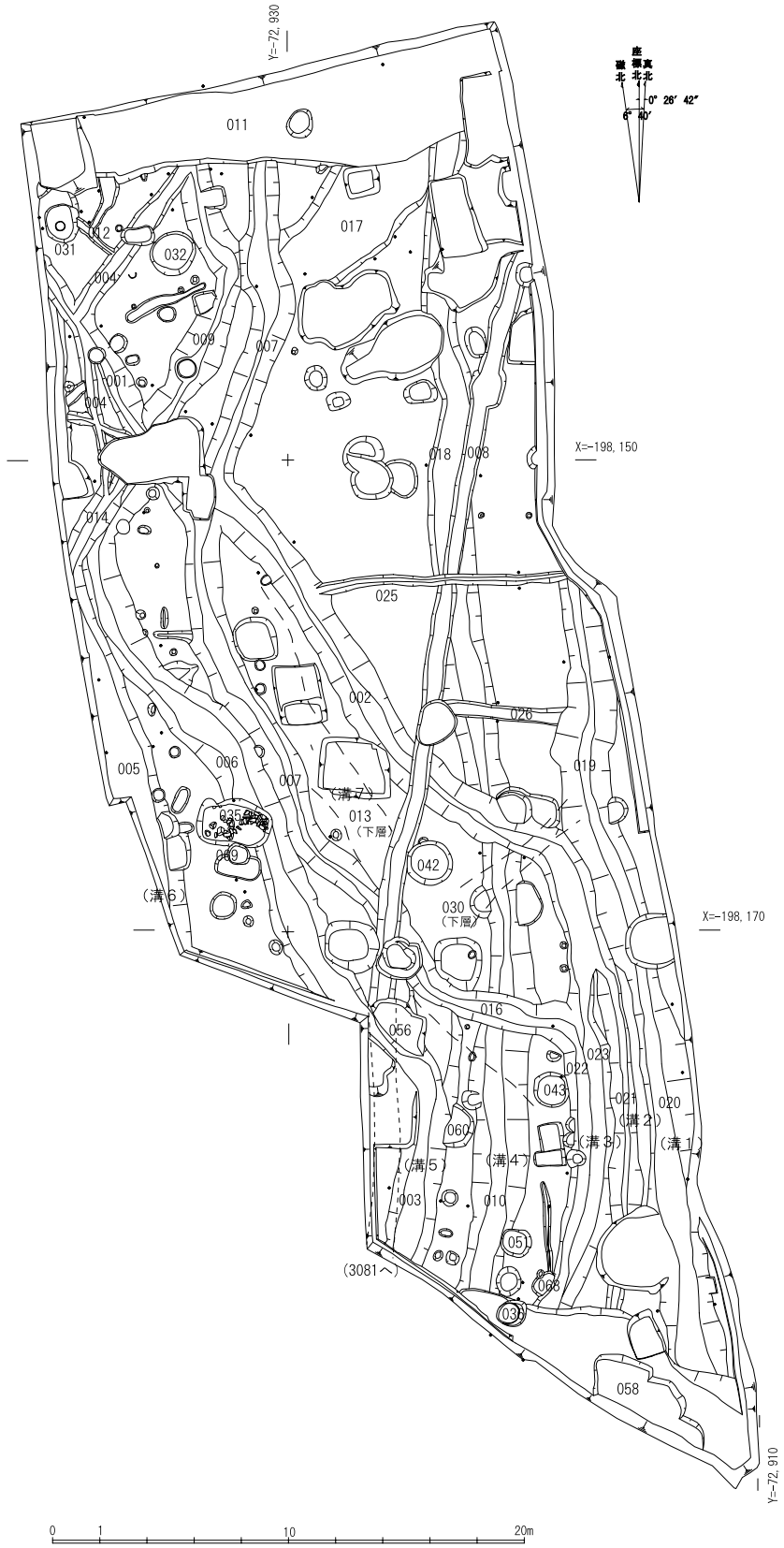
検出面で、溝は次の７本にまとめて認識できる。溝１（019･020 溝）、溝２（001･002･021 溝）、溝３（007・016・022・023 溝）、溝４（018・024・010 溝）、溝５（006・003 溝）、溝６（005 溝）、溝５・溝６の延長部の溝（014・015・009・004 溝）、溝７（013 溝）である。

１区は南西部に小高い丘があり、溝１・４はこれより東側を南北方向に直線的に流れている。溝２・３・５・６・７は小丘陵の東側を地形に沿って流れている。断面形は緩いＶ字状を呈し、砂礫を含む自然堆積層もみられないため、人為的に掘削された可能性がある。溝１・溝４は並行してほぼ直線的に南流し、溝２・３・５は北西方向から蛇行して南東に流れる。いずれも１条の溝に複数の溝が重複あるいは再掘削されており、なかでも溝３・５は少なくとも３時期の変遷が認められる。またいずれも溝の下層に腐食質を含むとみられる暗褐色シルト層が堆積する。溝３を中心に弥生時代前期の可能性がある土器片が出土したが、溝の並行・先後関係は遺物量が少なく切り合い関係を中心に考える必要がある。なお溝６の北半では古墳時代の須恵器片が出土しており、古墳時代の溝が重複する可能性がある。

溝の切り合い関係と出土土器から、溝５と溝６が新しく、調査区東側では溝１→溝２→溝３→溝４、調査区西側では溝６→溝５→溝７の順に古くなる。溝７（013 溝）は弥生時代前期、溝４・６では弥生時代後期から庄内式期の遺物が出土している。

001・002 溝（溝２）

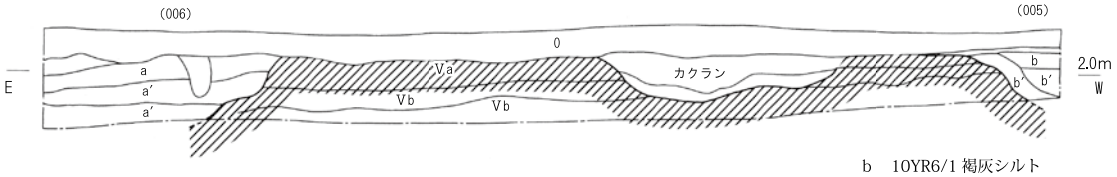
１区北半で検出された北西から南東へ向かう溝２の一部にあたる。幅 1.5 ～ 2.0 ｍ、深さ 0.7 ｍで、上層（１層）、中層（２～４層）、下層（５・６層）に区分できる。遺物はほとんど出土していない。溝１の手前で南へと流路を変え、021 溝と 023 溝に分かれるものと考えられる。



図中の「・」は土層断面図基準点

図８　１区平面図（S=1：300）

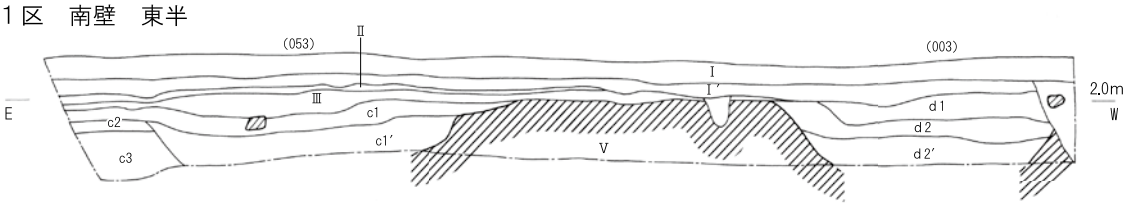
1区　南壁　西半



a　10YR6/1 褐シルト

b　10YR6/1 褐灰シルト

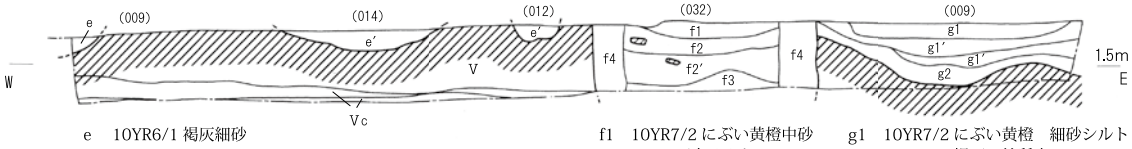
1区　南壁　東半



c1　10YR6/1 褐灰細砂
c2　10YR4/1 褐灰細砂
c3　10YR5/2 灰黄褐細砂

d1　10YR6/1 褐灰細砂
d2　10YR7/1 灰白シルト

1区　北トレンチ

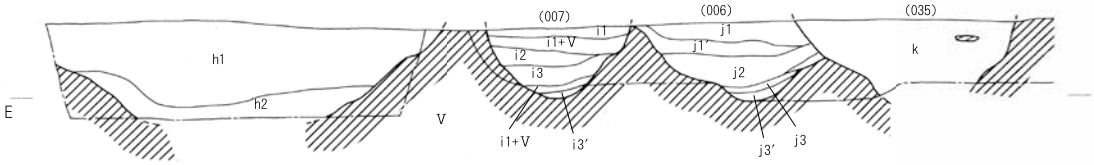


e　10YR6/1 褐灰細砂

f1　10YR7/2 にぶい黄橙中砂
f2　N7/　灰白シルト
f3　5B6/1 青灰粘質土
f4　10YR5/2 灰褐黄中砂

g1　10YR7/2 にぶい黄橙　細砂シルト
g2　10YR4/1 褐灰　粘質土

1区　南トレンチ



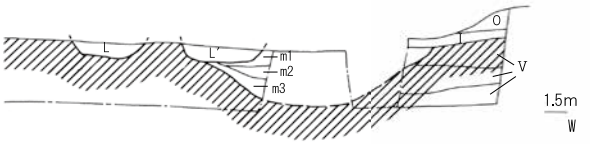
h1　4層の再堆積層
h2　10YR6/1 褐灰シルト粘質土

i1　10YR7/1 灰白中砂
i2　10YR6/1 褐灰中砂
i3　N6/ 灰シルト

j1　10YR6/1 褐灰中砂
j2　N6/　灰シルト
j3　N4/　灰シルト

k　10YR6/1 褐灰中砂
～N6/　灰シルト

1区の基本土層
- 0　表土
- Ⅰ　10YR4/2 灰黄褐（近現代耕作土）
- Ⅱ　10YR5/2 灰黄褐シルト・細砂（近世遺物包含層）
- Ⅲ　10YR5/2 灰黄褐シルト・細砂（中世～近世遺物包含層）
- Ⅳ　10YR6/3 にぶい黄橙シルト（弥生～中世遺物包含層）
- V　10YR7/6 明黄褐シルト～細砂（地山か）
- Va 10YR7/4 にぶい黄橙細砂
- Vb 10YR7/2 にぶい黄橙細砂
- Vc N6/　灰 5B6/1 青灰微砂砂質土



L　10YR6/1 褐灰中砂

m1　10YR7/1 灰白中砂
m2　10YR7/4 にぶい黄橙シルト
m3　N6/　灰シルト

1区　東壁土層

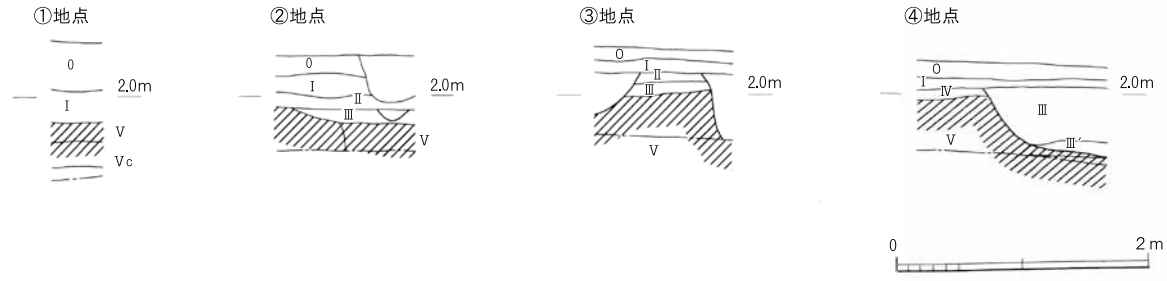


図９　１区　壁面土層図（S＝１：60）

003 溝（溝５）

１区南半の西端で検出された南北方向に流れる溝。屈曲して 006 溝に続く。図 13 に示した出土遺物の１・２は紀伊型甕の口縁部。１は口縁部の屈曲が大きく、２は口縁部の突帯部に刻み目を施す。

005 溝（溝６）

１区西端で検出された南北方向の溝。006 溝より新しい。弥生土器壺の底部片 (3) が出土しているが、遺構の形成年代を示す遺物であるか不明である。

006 溝（溝５）

１区西側の北西から南東に向かう溝で、003 溝に繋がるものと考えられる。複数時期の溝が微妙に流路を変えながら流れており、最上層（３層）、上層（４層）、中層（５・６層）、下層（７層）に区分できる。４は紀伊型甕口縁部。５は甕で口縁端部はまるく、肩部は屈曲する。外面はハケ調整を施す。６は古墳時代の高坏の接合部。

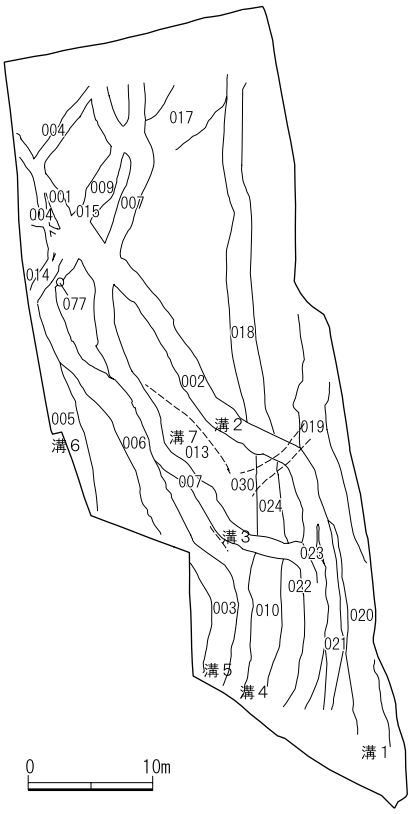


図 10　１区 弥生～古墳時代の遺構分布状況

007・016 溝（溝３）

１区西側で検出されたやや弧状を描く南北方向の溝。出土遺物はほとんどなく、006 溝・013 溝に後出する。調査区南側で南方へ屈曲する（022 溝）ものと考えられる。

009・014・015 溝

１区北西で検出された北東から南西へ流れる溝。溝１～７と方位がやや異なり、残存する深さは約 45 ㎝と浅い。調査区西端で屈曲し 005 に繋がる可能性もあるが､明確ではない。出土遺物は、古墳時代中期までの遺物を含む。７～ 10 は 009 溝出土の弥生土器ないし土師器。７は弥生土器壺で、肩部にヘラ描き沈線を施す。８～ 10 は弥生時代後期から庄内期相当の土器。８は土師器壺の口縁部、９は土師器壺の頸部、10 は弥生Ｖ様式系の甕底部で平底。15 ～ 18 は 014 溝出土の古墳時代中期の土器。15 は須恵器壺の口縁部。16 ～ 18 は土師器で、16 は壺口縁部、17 は高坏の接合部、18 は把手部分の破片。

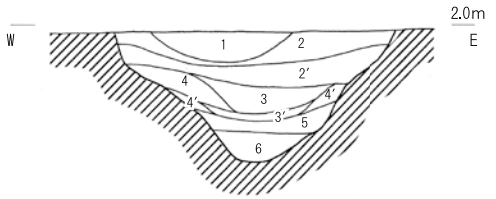
010・018・024 溝（溝４）

１区中央を南北に流れる溝。幅 1.5 ～ 2.5 ｍ、深さ 0.6 ～ 0.8 ｍ、延長約 53 ｍ分を検出した。溝の底は北から南へ､32 ｍで４㎝降る。11 ～ 13 は 010 溝で出土し､11 は弥生土器広口壺の口縁部。口縁端部が被厚し、刻目を施す。12・13 は弥生土器壺の底部で、外面はヘラミガキ調整、内面は板状工具によるナデを施す。26 はタタキ痕のある甕で、底部はややドーナツ底状を呈する。

013 溝（溝７）

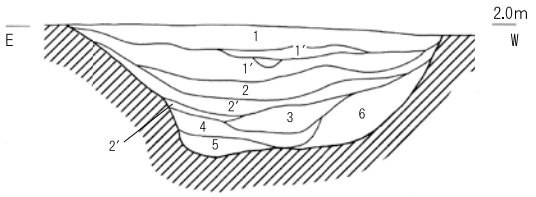
１区中央部南西寄りで検出した溝状遺構であるが、東側の肩部の輪郭が部分的に確認されたにとどまる。遺構の切り合い関係から、１区で最も古い遺構とみられる。出土遺物は 14 で、弥生時代前期～中期の壺底部片である。１区南西部にある小丘陵の東側を流れる弥生時代前期の下層流路の東肩部が検出されている可能性が考えられる。

002 溝（溝 2）



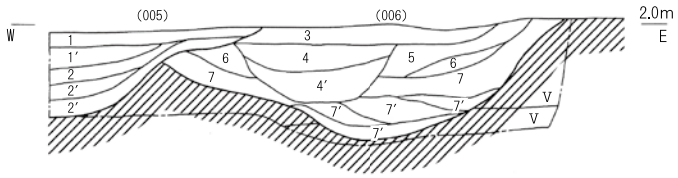
1　10YR7/1 灰白細砂
2　10YR6/1 褐灰細砂
3　N5/　灰シルト
4　N7/　灰白シルト（黄褐混）
5　N7/　灰白シルト
6　2.5Y7/2 灰黄細砂

003 溝（溝 5）



1　10YR6/1 褐灰細砂
2　N7/　灰シルト
3　N7/　灰シルト（黄褐ブロック混）
4　N6/　灰シルト
5　N3/　晴灰シルト
6　N7/　灰白シルト

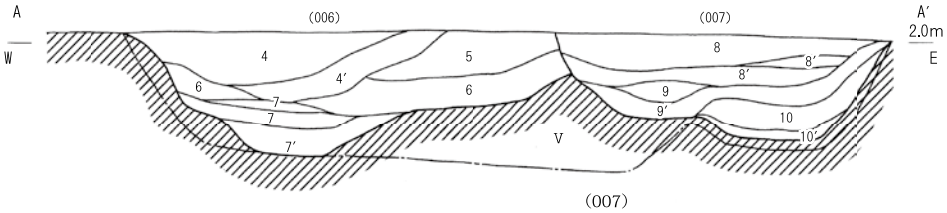
005 溝（溝 6）・006 溝（溝 5）



（005 溝）
1　10YR7/1 灰白シルト
2　N7/　灰白シルト

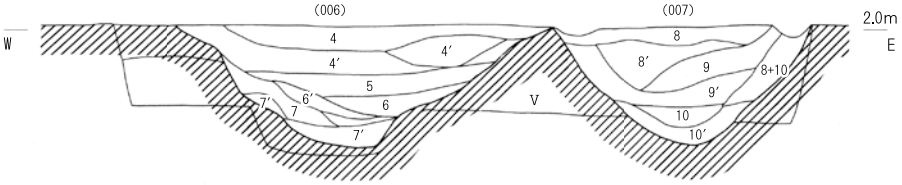
（006 溝）
3　10YR6/1 褐灰細砂
4　10YR7/1 灰白細砂
5　7.5YR6/1 褐灰細砂
6　10YR7/1 灰白シルト
7　N7/　灰白シルト

006 溝（溝 5）007 溝（溝 3）



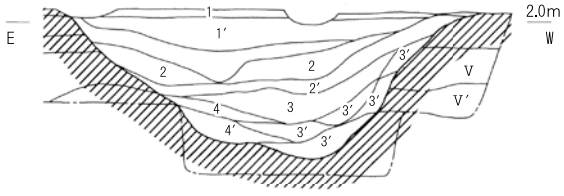
（007）
8　10YR7/1 灰白細砂
9　10YR7/1 灰白シルト
10　N7/　灰白シルト

006 溝（溝 5）007 溝（溝 3）



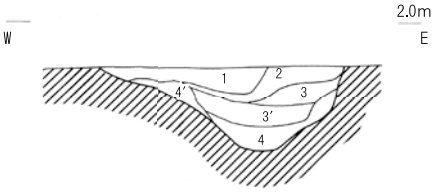
（007 溝）
8　10YR6/1 褐灰細砂
9　N6/　灰シルト
10　N7/　灰白シルト

010 溝（溝 4）



1　10YR6/1 褐灰中砂
2　10YR5/1 褐灰細砂
3　N7/　灰白シルト
4　N6/　灰白シルト

015 溝（溝 6）



1　10YR7/1 灰白シルト
2　10YR6/1 褐灰シルト
3　N7/　灰白シルト



図 11　1 区　弥生～古墳時代の溝①(S＝１：40)

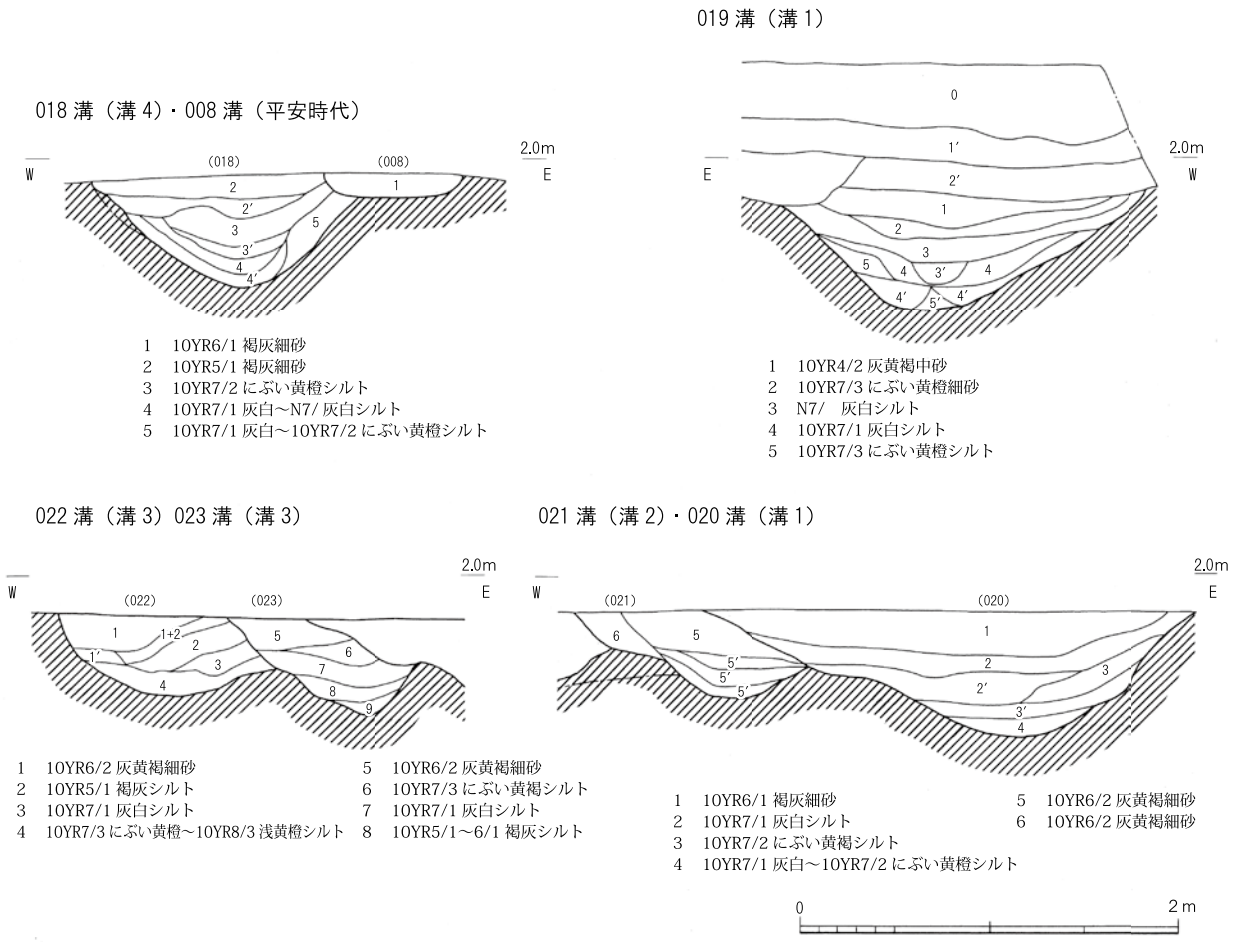


図 12　1 区　弥生～古墳時代の溝②(S＝１：40)

019 溝・020 溝（溝１）

１区東側で検出された溝で、北から南へわずかに傾斜して流れている。重複関係から、021 溝より新しいものと考えられる。19 は 019 溝から出土した突帯をもつ土器片。

021 溝（溝２東側流路）

１区南東部で検出した溝で、南北方向に流れ、屈曲して 002 に繋がる。21 は弥生土器広口壺の口縁部。弥生時代前期新段階。

022 溝（溝３）

１区南東部で検出した南北方向の溝。023 溝に先行する。22 ～ 24 は 022 溝と 023 溝掘削中に出土した弥生土器。22・23 は広口壺口縁部で、弥生時代前期の遺物。24 はドーナツ底状の底部。

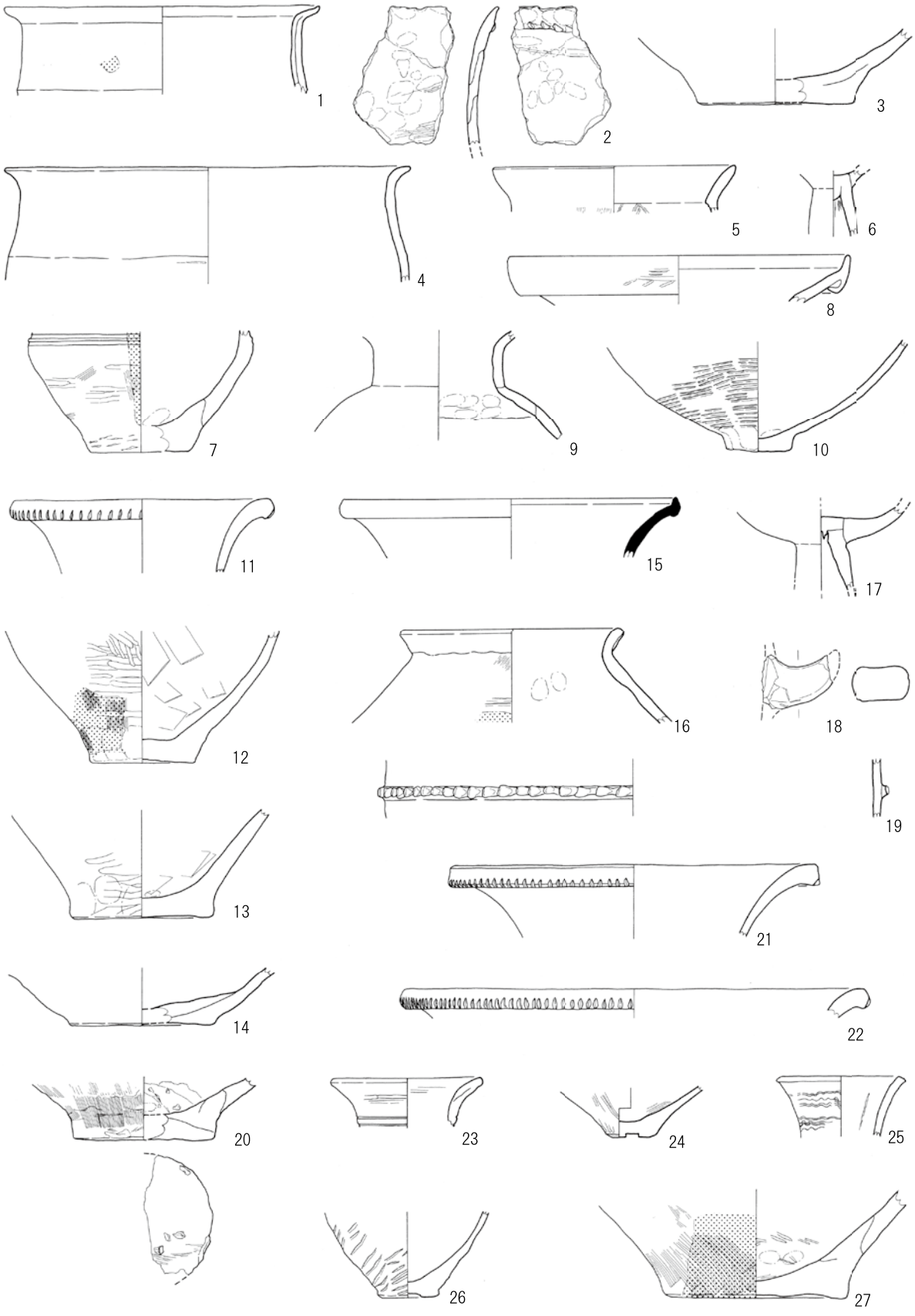
023 溝（溝２西側流路）

１区南東部で検出した南北方向の溝で、022 溝に後出する。25 は弥生時代中期の壺口縁部で、櫛描き波状文で飾る。

(2)　その他の遺構

077 土坑

077 土坑は溝５の東肩に位置する。溝との厳密な先後関係は明らかでないが、検出状況や出土土器からほぼ同時期の可能性がある。径 50cm、深さ 10cm 程度の浅い土坑で、弥生土器片が出土した。



1・2：003 溝　3：005 溝　4～6：006 溝　7～10：009 溝　11～13：010 溝
14：013 溝　15～18：014 溝　19：019 溝　20：020 溝　21：021 溝
22～24：022・023 溝　25：023 溝　26：024 溝　27：068 土坑

図 13　1 区　弥生～古墳時代の遺構出土土器

３　平安時代末期～鎌倉時代初頭の遺構と遺物

平安時代から鎌倉時代にかけての遺構は少ない。

008 溝

１区中央を縦断する平安時代末期の溝である。幅 0.7 ｍ、深さ 0.1 ｍで、断面Ｕ字形を呈する。北北東から南南西へと直線的に流れている。28 は土師器の皿ないし坏で、口径 13.8 ㎝、高さ 2.2 ㎝。口縁部は断続ナデ技法が見られる。29 は土師器埦の口縁部。

031 井戸

１区北西に位置する 031 は木製の曲物を井戸側とする井戸である。径約 30㎝の曲物を縦に２個体設置し、最上部には片岩板石を円形に並べており、元は石積みであった可能性がある。井戸の底は標高０ｍに達し、通水層である青灰色細砂層まで達する。30 は土師器埦の高台部であるが、高台は低い。31 は土師器の高台部で、台付き皿の可能性が考えられる。

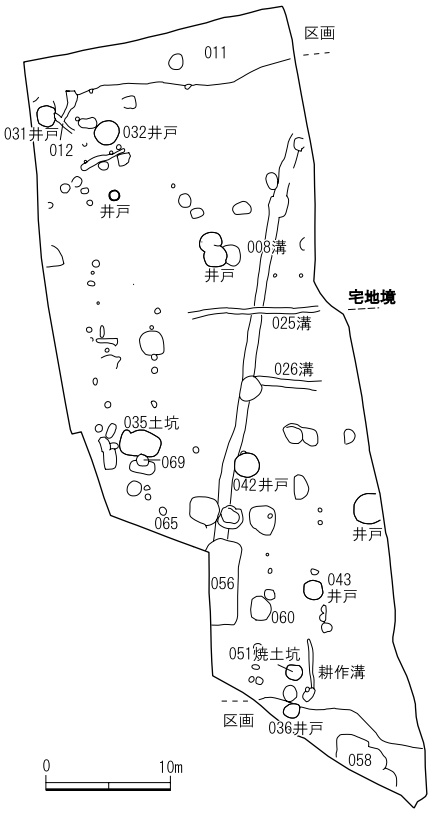


図 14　１区　古代末～近世の遺構分布状況

４　室町～江戸時代の遺構と遺物

(1)　室町時代の遺構

室町時代の遺構は、区画溝と井戸・土坑・焼土坑が確認される。

011 区画溝

１区北端で確認された東西方向の区画溝と考えられる遺構。調査区内で幅３～５ｍ、深さ 0.3 ～ 0.4 ｍの箱堀状の遺構となる。32 は龍泉窯の青磁碗で、見込みに福の文字を陰刻する。33 は土師器小皿。34 は瓦器埦で高台は形骸化している。14 世紀前半頃の遺物とみられる。35 は備前焼擂鉢で、クシ目は少ない。

012 溝

１区北西部で検出された小溝。幅 0.4 ｍ。土師器小皿 (36) が出土している。

035 土坑

１区南西部で検出された土坑で、多量の石が出土している。36 は底部糸切りの土師器小皿。38 は土師器焙烙で、口縁部外側に低い鍔をもち、外面はタタキ調整で深い。16 世紀後半の遺物とみられる。

036 井戸

内径約 0.9 ｍの井戸で、井戸底に据えたと見られる木製曲げ物が出土している。39 の龍泉窯製青磁が出土している。

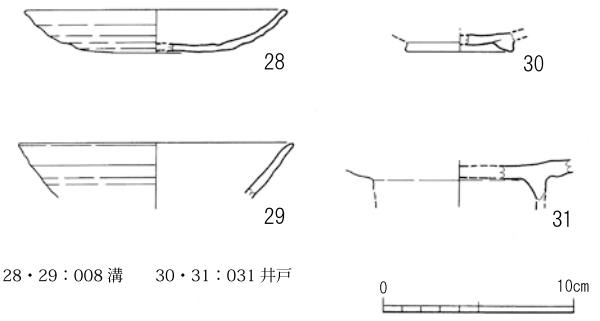


図 15　１区　古代末期～中世初頭の遺構出土土器

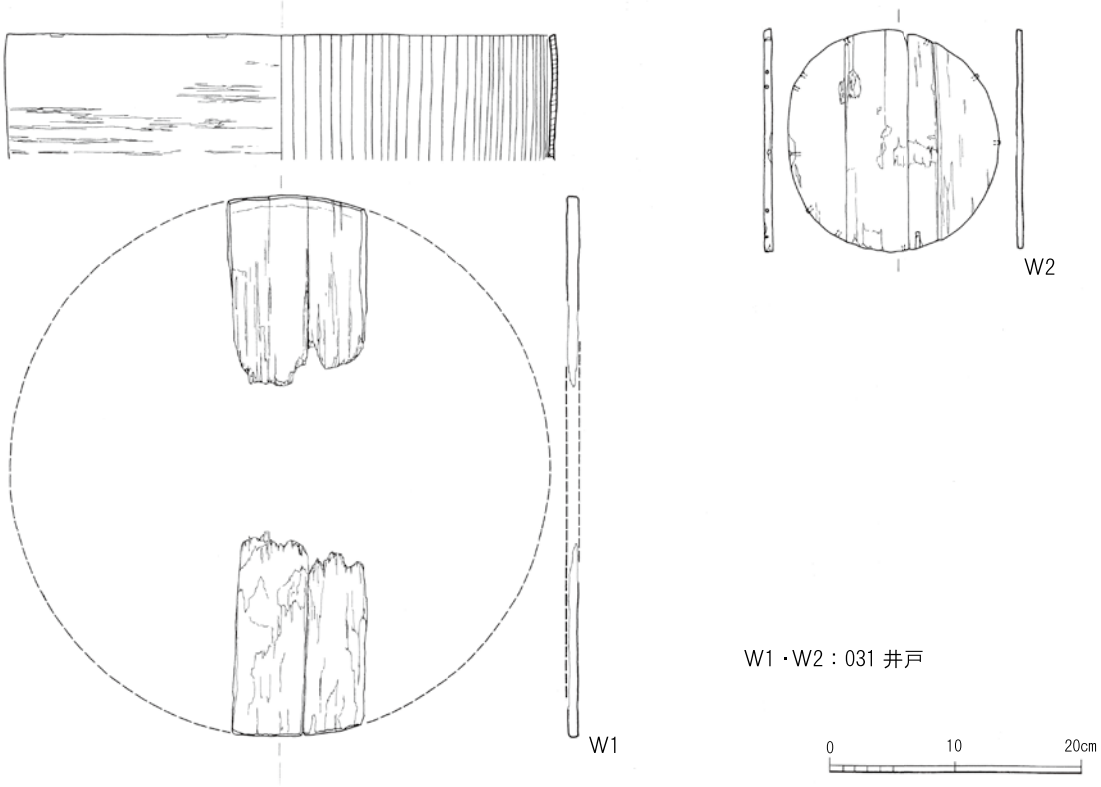


図 16　1 区　031 井戸出土木製品（木①）

042 井戸

1 区中央で検出された径約 2 ｍの井戸。40 は瀬戸の折縁皿。41・42 は反時計回りの三巴文軒丸瓦。巴の尾は長い。41 は珠点が 16 個まわり、058 と同笵と見られるが、笵傷が多い。

051 焼土坑

1 区南端に位置し、径 0.6 ｍ、深さ 0.3 ｍで壁面が被熱して赤変する。土坑内からは赤褐色の焼土塊がまとまって出土し、土坑中央の焼土上から擂鉢の底部が出土した。051 土坑の用途は不明であるが、周辺の近世遺物包含層は炭粒・焼土を含み、周辺に位置する土坑も炭を含むものが多く、051 土坑と同時期と考える。43 は結晶片岩片を含む地元産とみられる土師器の擂鉢。クシ目は少ない。

060 ピット

1 区南西部で検出したピット。瓦質の大甕の口縁部とみられる土器片（44）を検出した。

069 土坑

1 区南西部で検出した土坑。太い管状土錘（45）が出土している。

(2)　江戸時代の遺構

江戸時代の遺構は東西小溝のほか、多数の土坑が検出されている。

025 東西小溝

1 区中央東側で検出した東西方向の小溝である。溝の幅は 0.4 ｍ。染付碗（46）・蓋（47）と身（48）が出土した。

056 土坑

1 区南側で検出した土坑。50 は染付の丸碗。51 は白磁製の小坏。52 は肥前系陶器のハケメ鉢

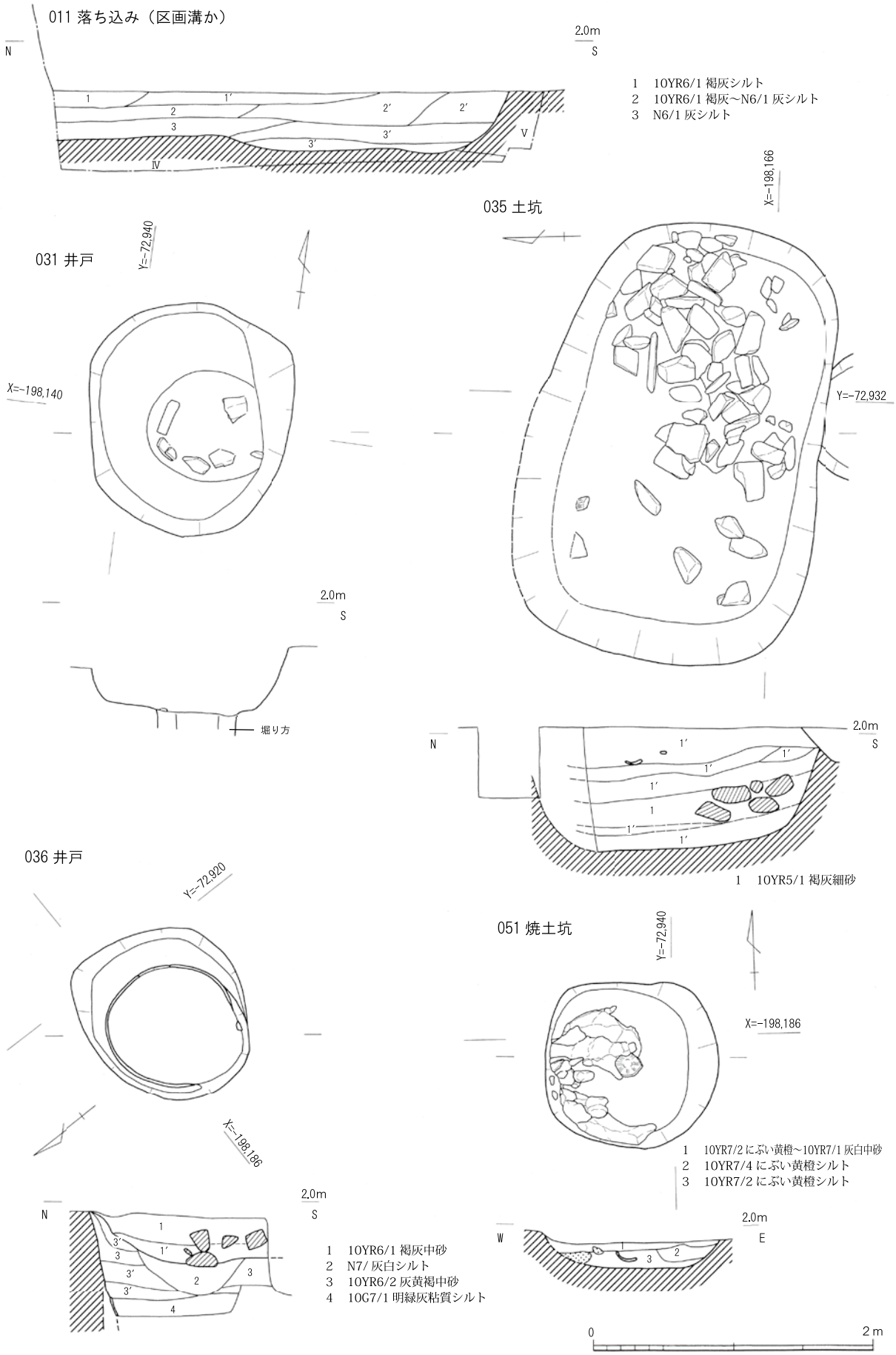


図 17　1 区　古代末期～近世の遺構（S＝１：40）

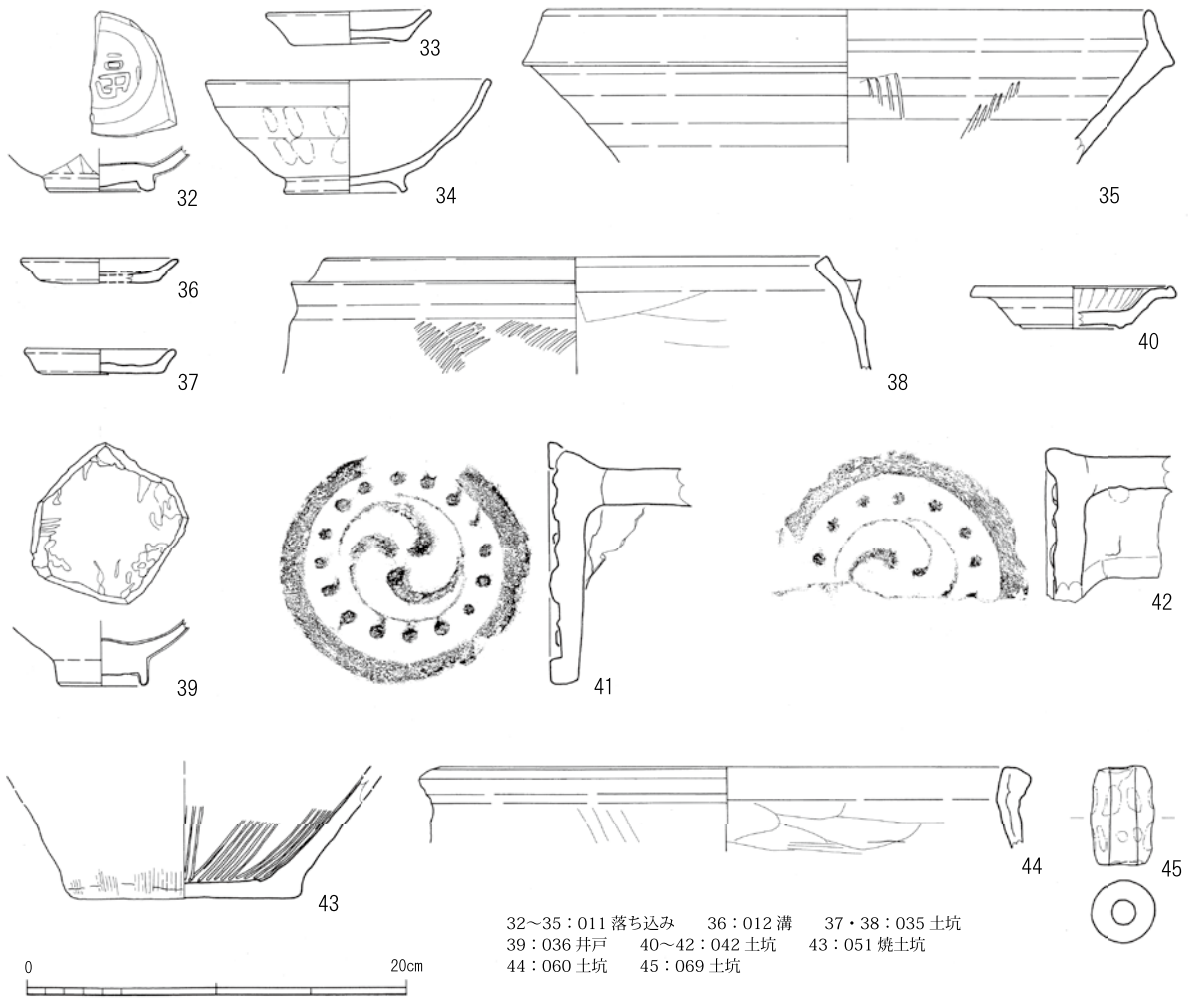


図 18　1 区　中世の遺構出土土器・瓦

とみられ、底部に高台が確認される。

058 土坑

1 区南東部で検出した土坑。54 は土師器の焙烙。55・56 は染付の皿と碗とみられる。57 は肥前系陶器のハケメ碗。58 は三巴文軒丸瓦。41 と同笵。

065 ピット

1 区南西部で検出したピット。59 は三巴文軒丸瓦で、他の軒丸瓦と巴の向きが逆転する。60 は唐草文軒平瓦。61 は鬼瓦の破片の一部であろう。

5　古代末～近世の石製品・木製品

1 区では、石製品は近世、木製品は古代末から中世初頭の遺物が出土している。

石製品は 2 点出土している（図 20）。S1 は 056 土坑で出土した硯。長さ 12.3 ㎝、幅 6.2 ㎝、厚さ 2.0 ㎝で、中央が若干窪み、墨を擦った跡とみられる擦痕が確認される。S2

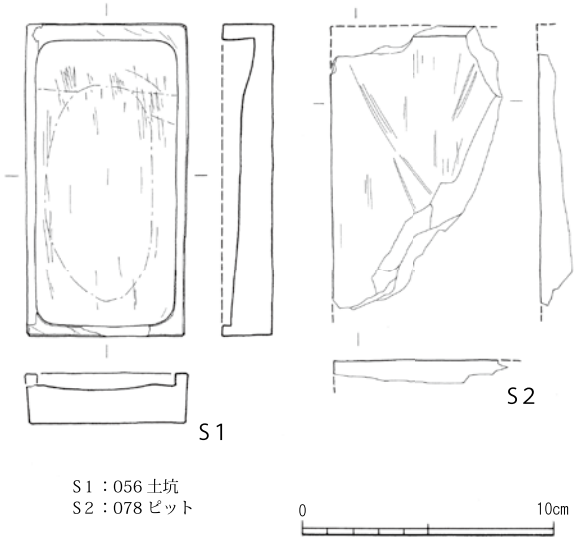


図 19　1 区　近世の石製品（石①）

は078ピットで出土した砥石。方形の砥石の一部で、擦痕が確認できるが、大きさ等は不明である。

木製品は２点出土している（図16）。W1は大型の曲げ物の破片。復元径43㎝の底板破片と、高さ9.9㎝分の側板片が出土しており、出土状況から031井戸で、井戸の底に据えたものと推定される。W2は小型の曲げ物の蓋か底板。径約17.6㎝、厚さ0.5㎝で、３枚ないし４枚の板を合わせて円盤形にする。縁には側板を取り付けた跡が確認できる。

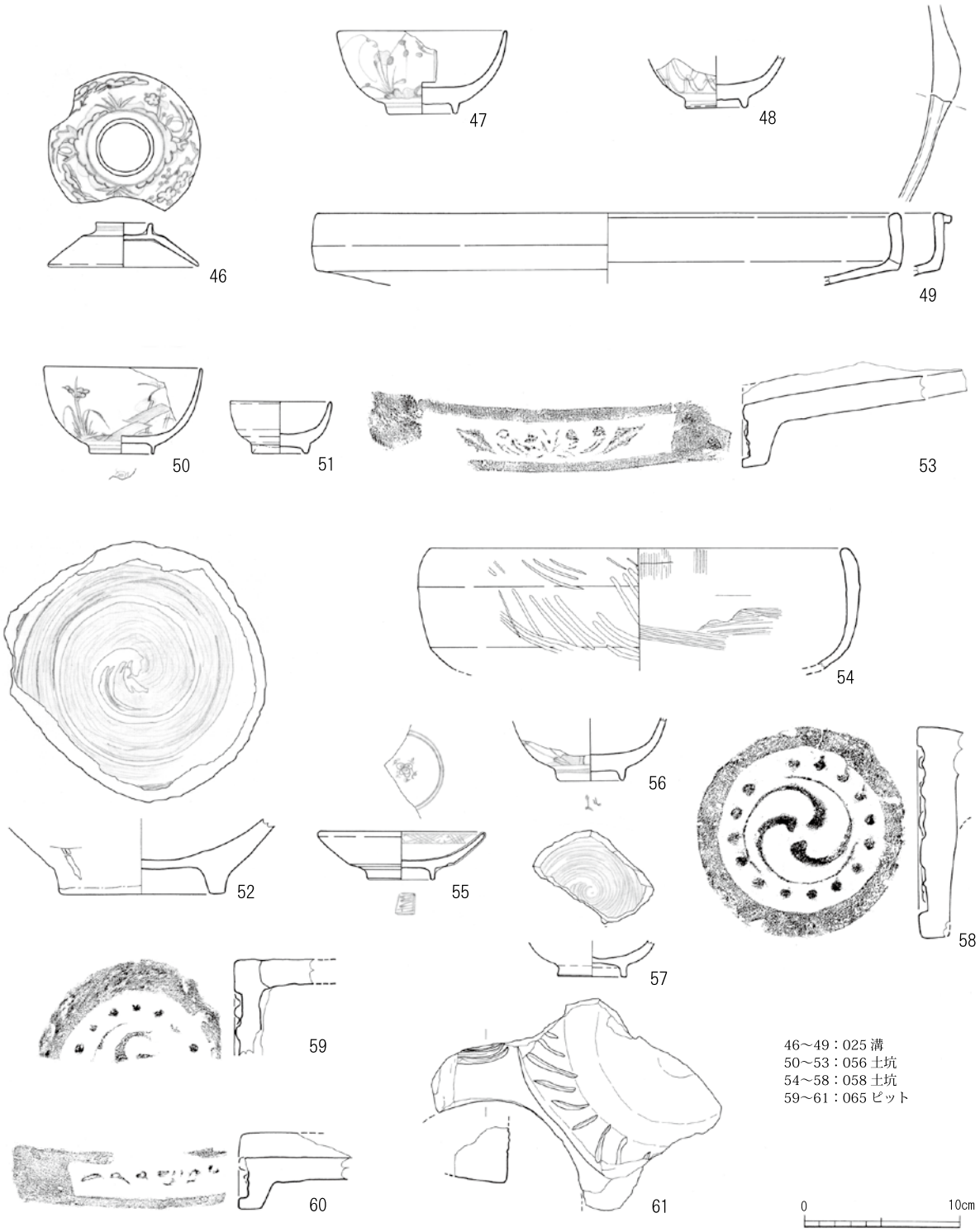


図20　１区　中世末期～近世の遺構出土土器・瓦

第２節　２区の調査

１　概要

２区は調査対象地の中央やや北側にあたる調査区である。東西幅約 23 ｍ、南北長約 35 ｍで、調査面積 585 ㎡であり、南西部分は未調査である。２区より北は小規模な住宅地となり、南側は水田となっている。

２区では弥生時代前期～古墳時代前期の溝と土坑、中世の東西方向の区画溝、江戸時代の井戸・土坑を確認した。出土遺物は計 35 箱分で、弥生土器・土師器のほか、瓦器・陶磁器・瓦が出土している。201 溝から出土した弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物が多数を占める。

第Ⅴ層をベースとして、弥生時代から古墳時代にかけての溝が形成されており、部分的に近世の包含層が覆っている。

２　弥生～古墳時代の遺構・遺物

弥生時代前期の土坑１基、前期～中期前葉の南北方向の溝５条、それに重複する後期の溝、井戸状遺構２基、土坑墓１基などがあり、それぞれ土器が多く出土した。

(1)　弥生時代～古墳時代の溝群

５条の溝は南北方向であり、微高地上を縦断する状況や埋土の堆積状況から、１区の溝と同様に人為的に管理された溝と考えられる。溝は北北東から南南西へ緩やかに傾斜しており、溝１（201・202 溝）、溝２（207 溝）、溝３（205 溝）、溝４（206 溝）、溝５（203 溝）として把握できる。

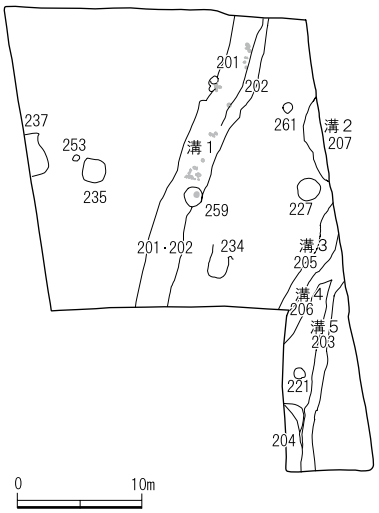


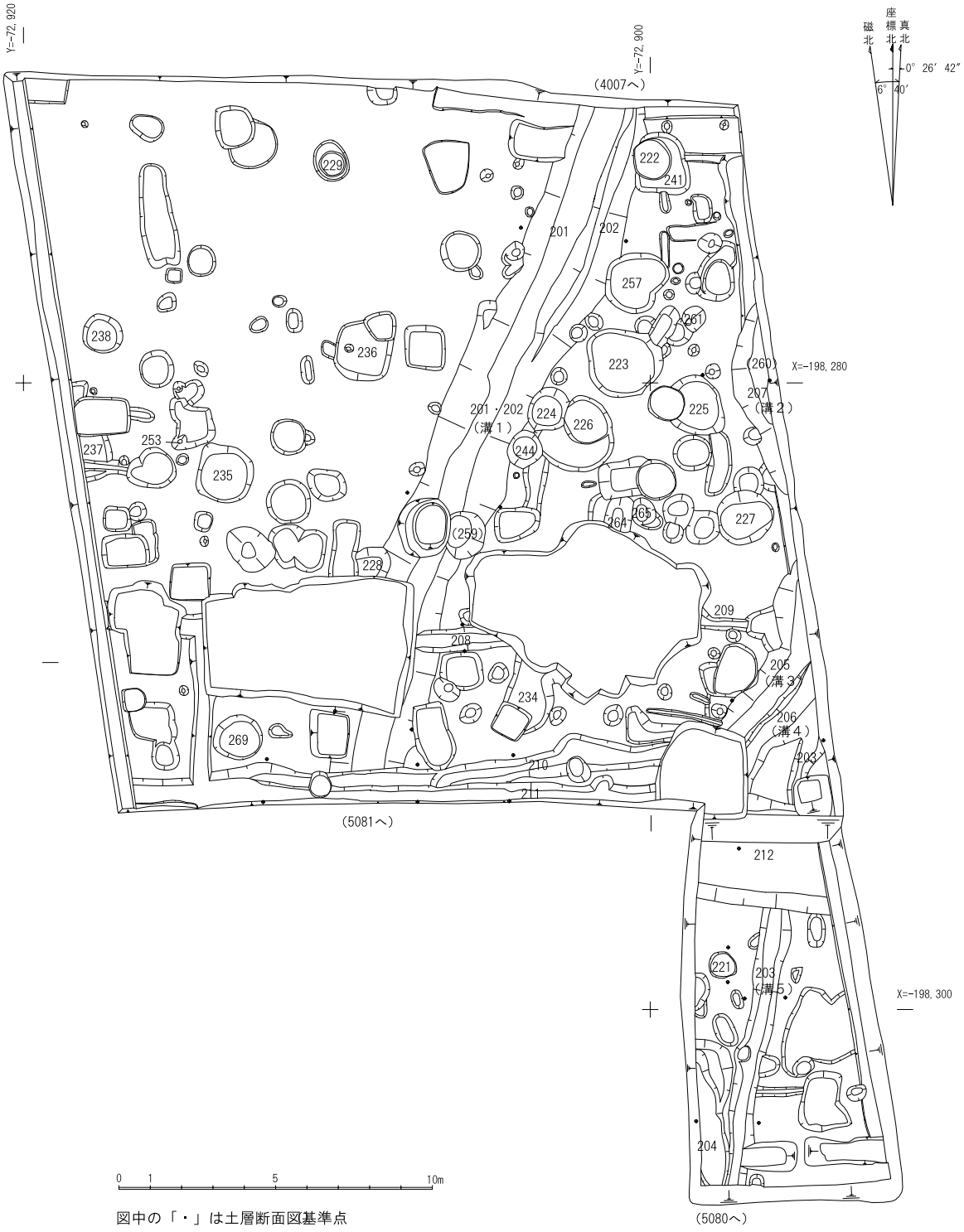
図 21　２区
弥生～古墳時代の遺構分布状況

201・202 溝（溝１）

２区中央を北北東から南南西方向に縦断する溝で、幅 3.0 ｍ前後、検出面からの深さ 0.7 ｍである。断面形は台形状であり、砂礫などの自然の流水堆積はみられず、下層には腐食質を多く含む暗褐色～黒褐色シルト層が堆積する。埋土の堆積から少なくとも２時期の変遷が認められ、出土土器もⅠ～Ⅲ様式とⅤ様式～布留式期の２種がある。弥生時代前期～中期中葉の溝に弥生時代後期～古墳時代前期の溝が重複していると考えられる。土器はいずれも残存状態がよく、庄内期の完形に近い土器が多数みられる。

２区北半では 201 溝と 202 溝の流路の中心が東西に分かれるが、２区南半では 201 溝が上層、202 溝が下層となり重複している。どちらの溝でも弥生時代前期から古墳時代前期までの遺物が出土しているが、弥生時代中期中葉から後期末の間の土器はみられない。ここでは、201 溝、201 溝と 202 溝の混在地点、202 溝の順に、遺物について記載する。

遺物は溝全体で出土しているが、特に南北２か所に残存状態の良い土器が多い。溝の北部では 77・83・91・93・97・98・101・102・109 が出土しており庄内式期の遺物と考えられる。そこから南西約３ｍにある西側肩部の土坑付近には、弥生時代後期後半の甕と鉢が出土している。



図中の「・」は土層断面図基準点

図 22　２区平面図（S=1：200）

２区　東壁

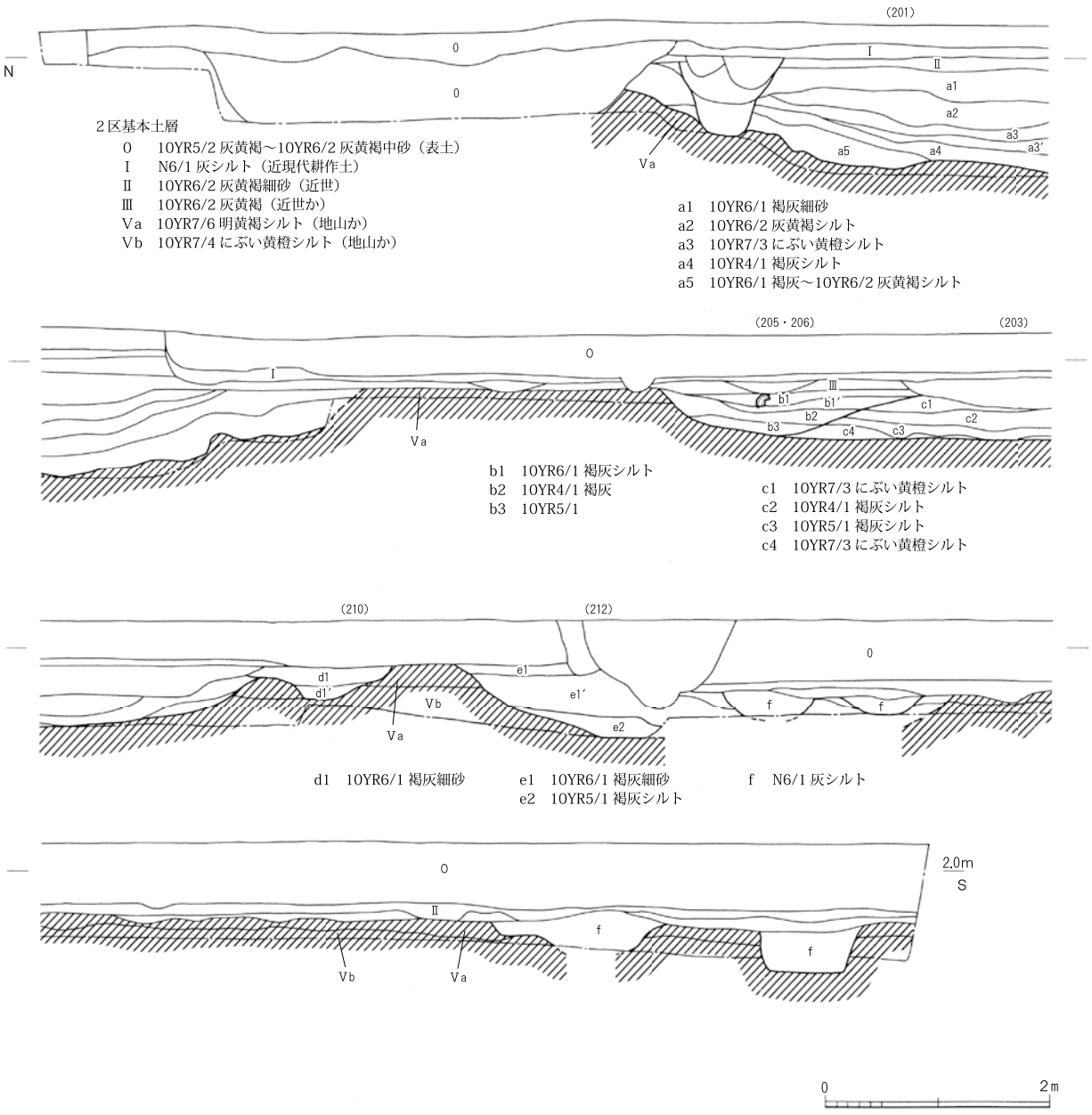


図 23　２区　壁面土層図（S＝1 ：60）

土器の出土傾向をみると、201 溝の南部では 64・66・81・82・85・86・88・107 が出土しており、庄内期前後の土器が多いが、弥生時代前期の土器もある。201 溝南部の土坑状に窪んだ付近からは 89・100・108・121 ～ 123 が出土している。古墳時代前期の土器である。

201 溝の出土土器は図 26 の 62 から図 29 の 110 まで図示した。うち 62 ～ 76 は弥生時代前期～中期の弥生土器である。62 ～ 66 は壺。62・63 は体部がやや張り、ヘラ描き沈線文を施す。64 は体部を穿孔する広口壺で、口縁部と頸部にヘラ描きで施文する。65 は厚手の広口壺で、頸部を櫛描き文で施文する。66 は櫛描直線文で飾る直口壺。67･68 は甕。紀伊型甕の口縁部片である。69 ～ 71 は鉢。70・71 は直口鉢で、70 は口縁部に小さな把手をもつ。72 ～ 76 は壺・甕・鉢類の底部。安定した平底を呈する。

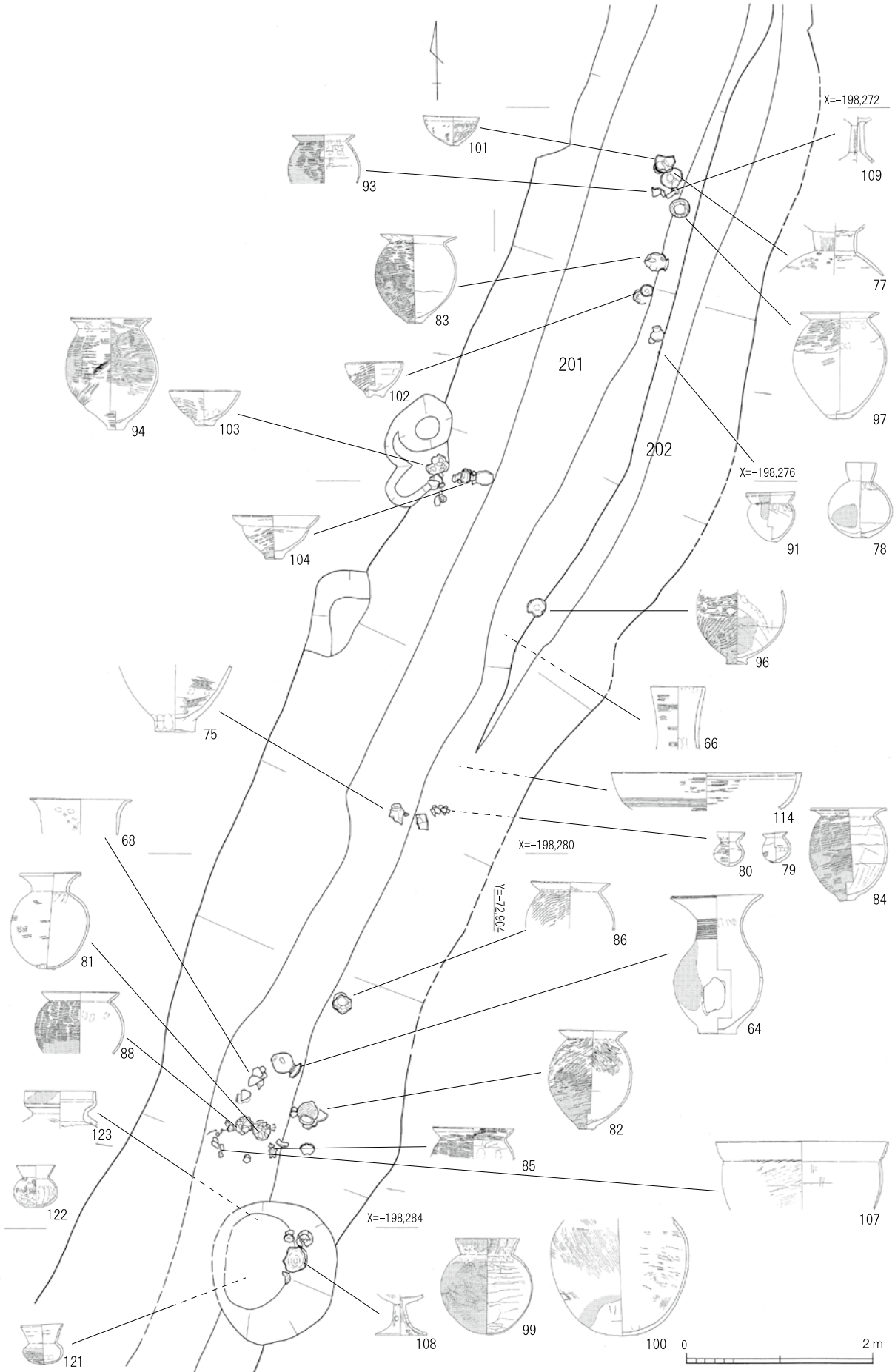
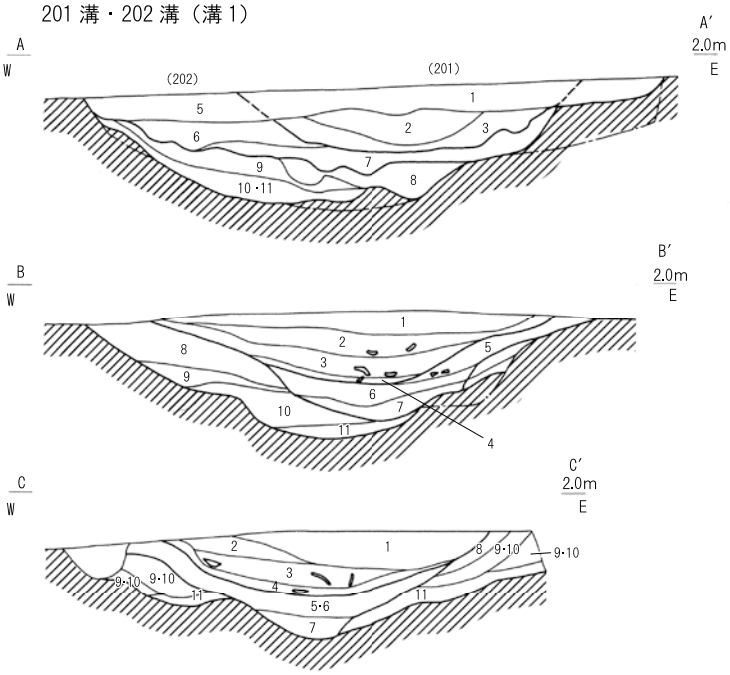


図 24　2 区　201・202 溝（溝 1）遺物出土状況（S=1：60）

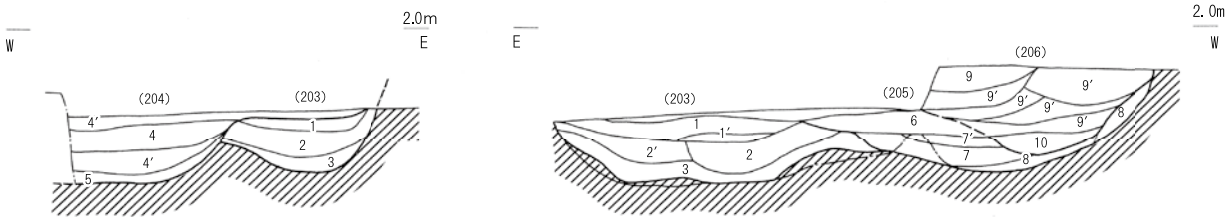
201 溝・202 溝（溝 1）



（201 溝）
1　10YR6/1 褐灰細砂
2　10YR6/1 褐灰シルト
3　10YR5/1 褐灰シルト
4　10YR4/1 褐灰シルト
5　10YR6/1 褐灰～10YR5/2 灰黄褐細砂シルト
6　10YR5/2 灰黄褐～10YR6/1 褐灰シルト
7　10YR5/2 灰黄褐～10YR6/1 褐灰シルト

（202 溝）
8　10YR6/1 褐灰～10YR6/2 灰黄褐シルト
9　10YR3/1 黒褐シルト
10　10YR7/2 にぶい黄橙シルト
11　10YR3/1 黒褐シルト

203 溝（溝 5）・204 溝



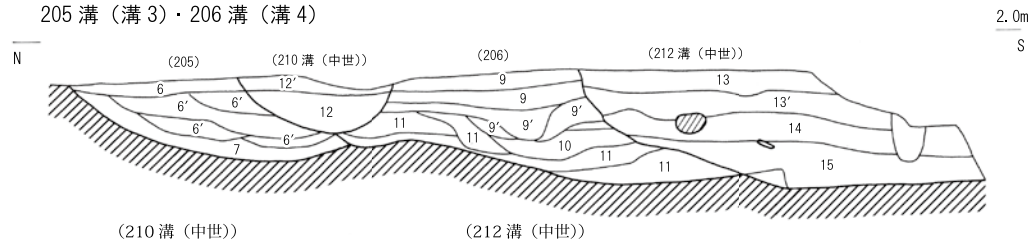
（203 溝）
1　10YR6/1 褐灰シルト
2　10YR6/1 褐灰シルト
3　10YR5/1 褐灰シルト

（204 溝）
4　10YR6/1 褐灰細砂～シルト
5　10YR5/1 褐灰シルト

（205 溝）
6　10YR7/2 にぶい黄橙シルト
7　10YR4/1 褐灰シルト
8　N7/　灰シルト

（206 溝）
9　10YR6/1 褐灰細砂
10　10YR5/1 褐灰シルト
11　10YR7/1 灰白シルト

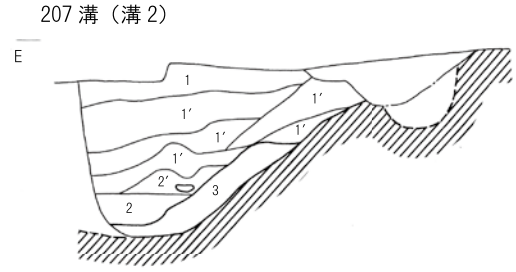
205 溝（溝 3）・206 溝（溝 4）



（210 溝（中世））
12　10YR6/1 褐灰～10YR7/1 灰白シルト

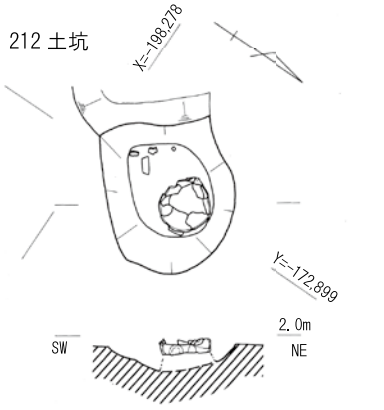
（212 溝（中世））
13　10YR6/1 褐灰細砂
14　10YR5/1 褐灰細砂
15　10YR7/1 灰白シルト

207 溝（溝 2）



1　10YR6/2 灰黄褐シルト
2　10YR5/1 褐灰～10YR6/1 褐灰シルト
3　10YR6/1 褐灰～10YR6/2 灰黄褐粘質シルト

212 土坑



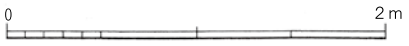


図 25　２区　弥生～古墳時代の遺構（S＝１：40）

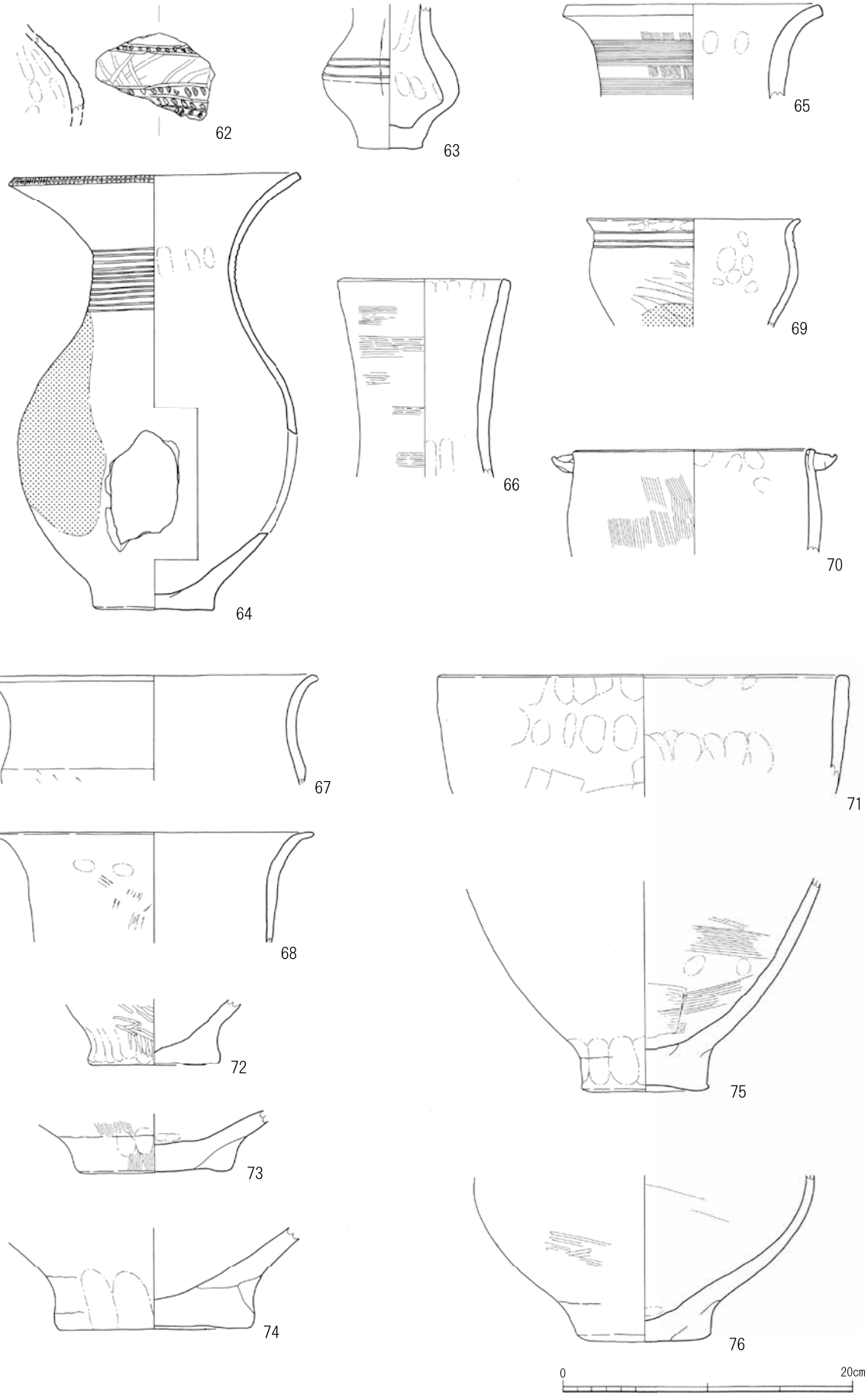


図 26　2 区　201 溝（溝 1）出土土器①

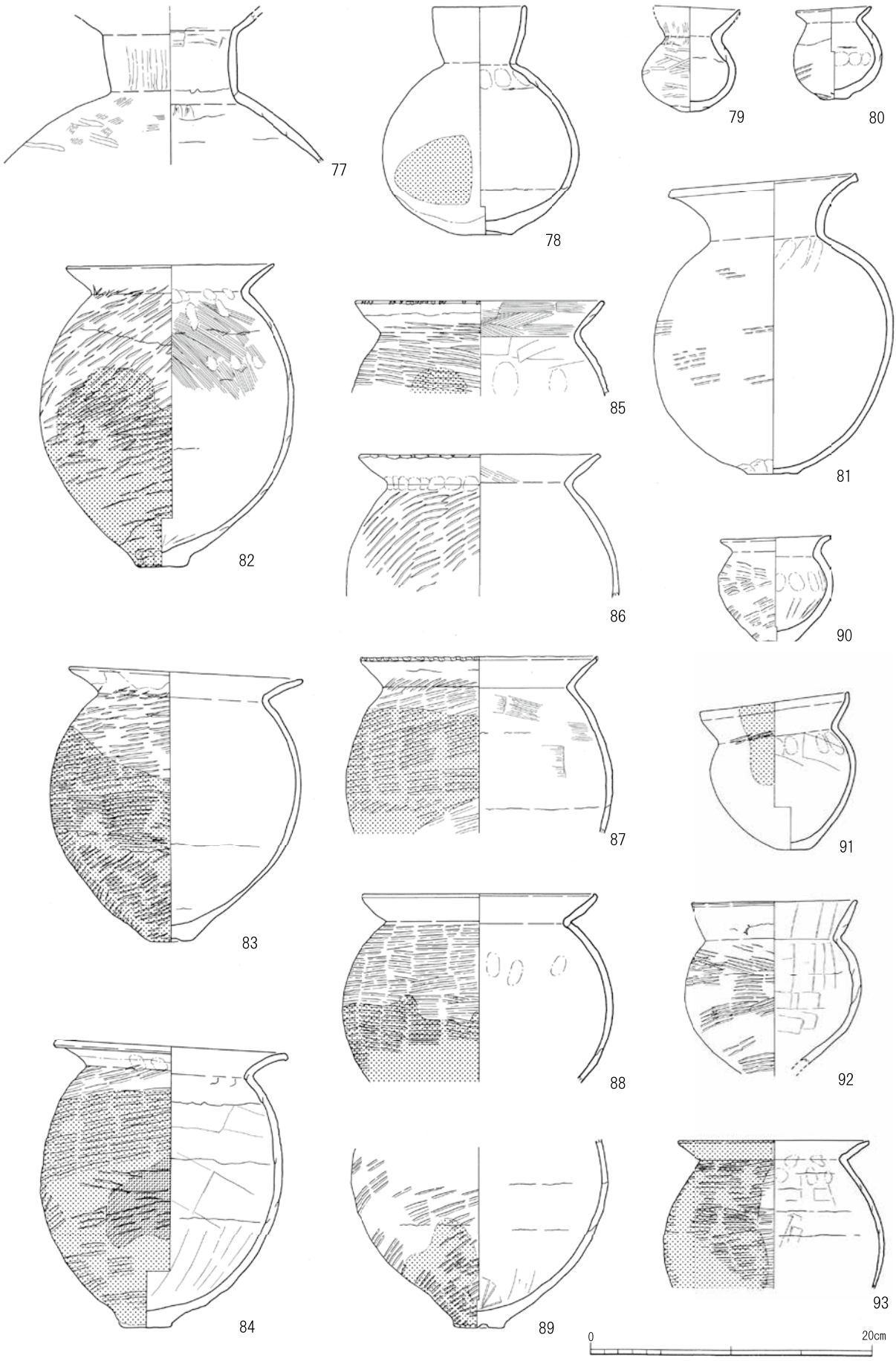


図 27　2 区　201 溝（溝 1）出土土器②

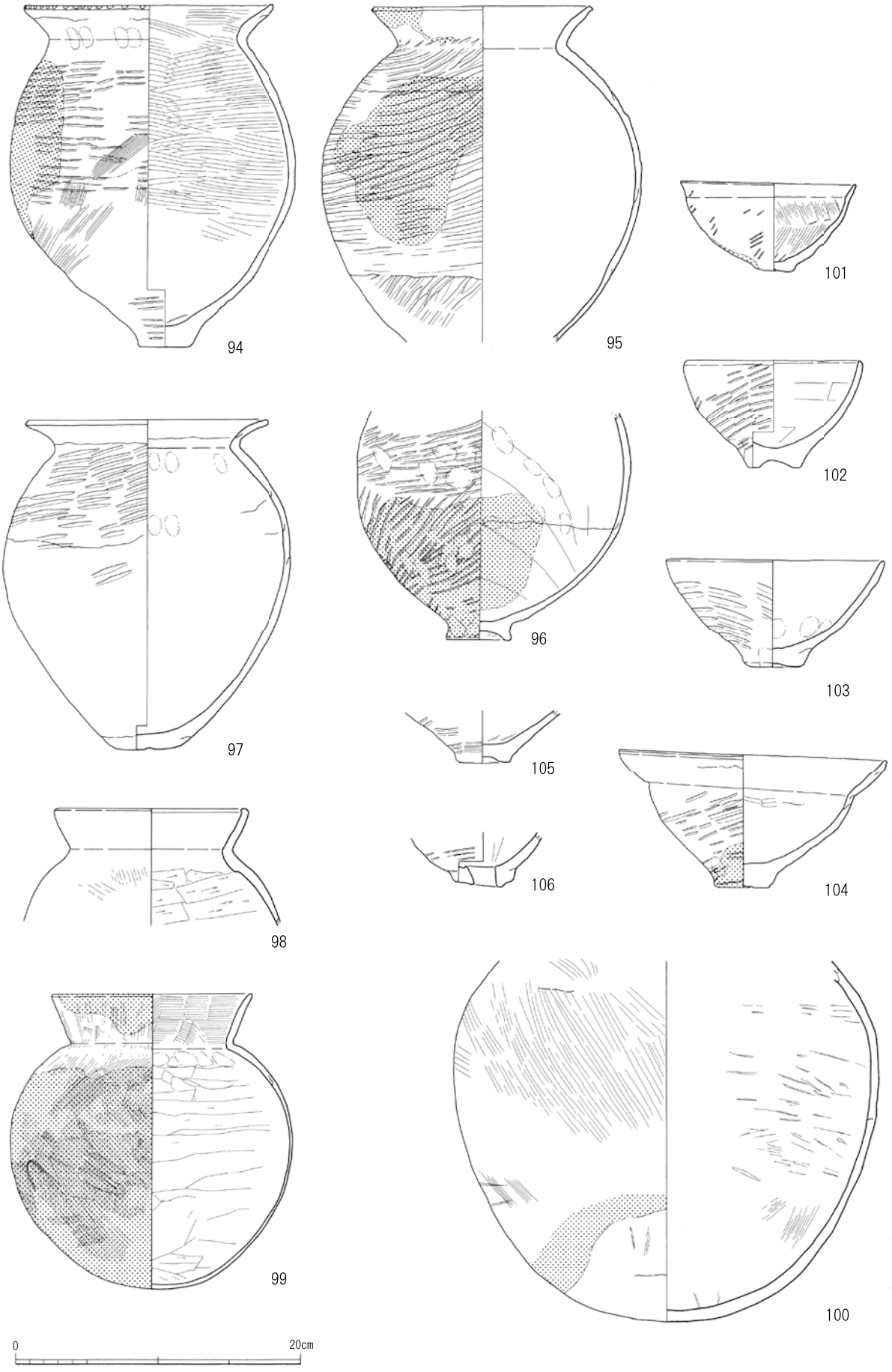


図 28　2 区　201 溝（溝 1）出土土器③

77 ～ 110 は弥生時代後期後半以降、古墳時代前期以前の土器である。77・78 は壺。77 は二重口縁壺等の頸部、78 はやや小型の直口壺である。79 ～ 81 は壺あるいは甕で、79・80 は小型品。80・81 はタタキ調整。82 ～ 97 は弥生Ⅴ様式系のタタキ甕。口縁部は大きく屈曲し、端部は丸め、端部を刻み目状に施文するものが散見される。底部は中央がくぼむドーナツ底状のものが多く、不安定である。94 は外面にハケ調整を併用し、97 の底部は丸みを帯びる。98 ～ 100 はいわゆる布留式甕。外面ハケ調整で丸底であり、内面をヘラケズリ、器壁は非常に薄い。98 は口縁端部が内側に肥厚する。

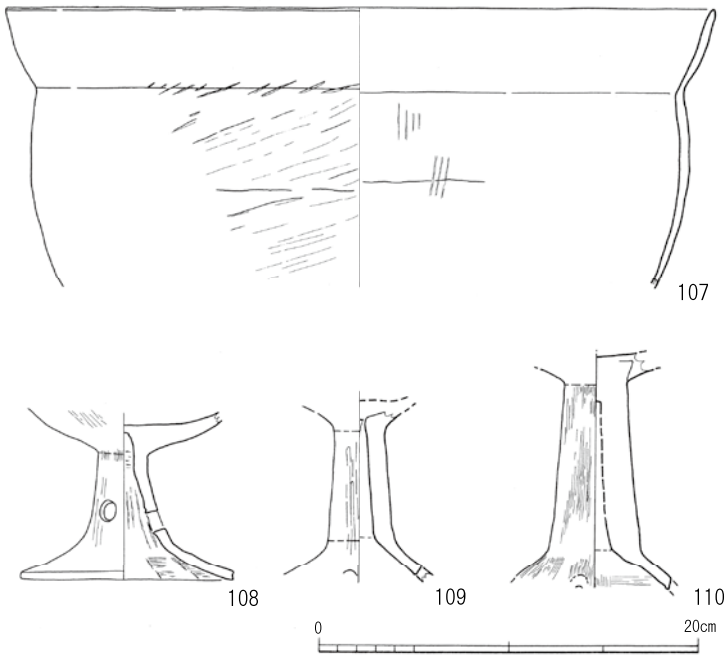


図 29　2 区　201 溝（溝 1）出土土器④

101 ～ 107 は鉢ほか。101 ～ 104 は小型鉢。外面はタタキ調整で、直口鉢と口縁部が屈曲するものがある。105・106 は甕・鉢類の底部。106 は有孔の底部で、甑として使用されたものと考えられる。107 は大型の鉢。外面タタキ調整で、口縁部は屈曲する。

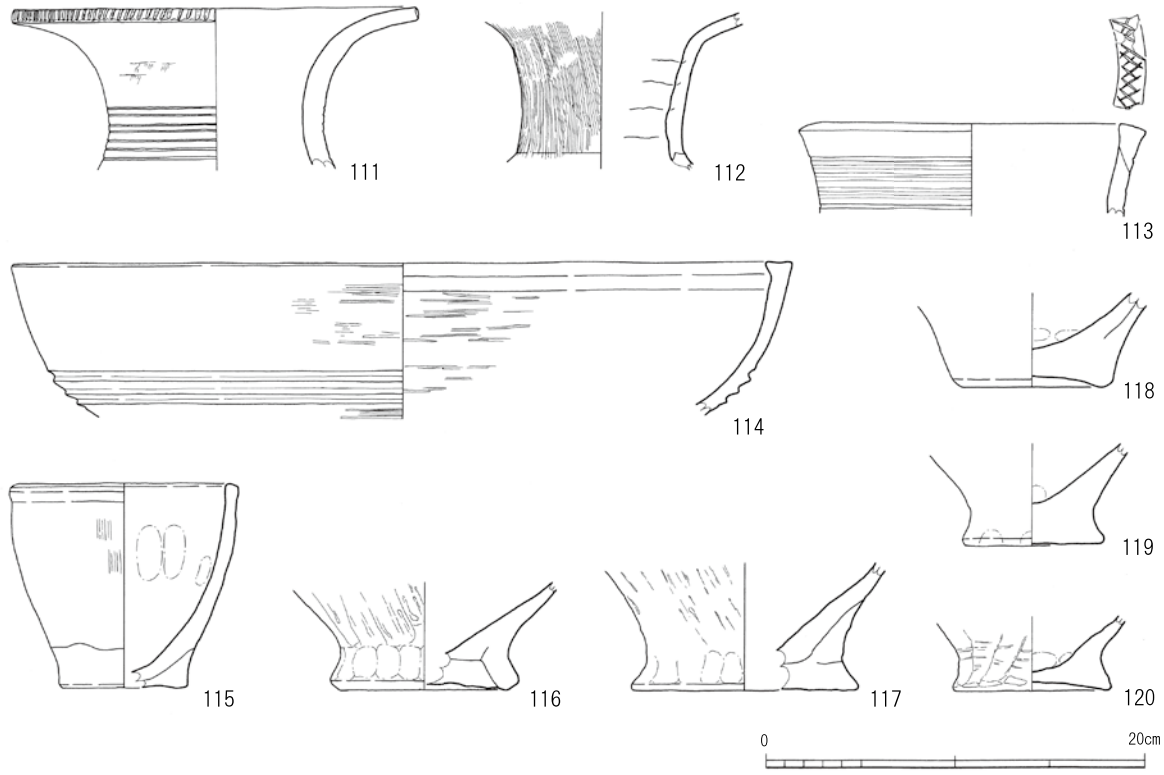


図 30　2 区　201・202 溝（溝 1）出土土器①

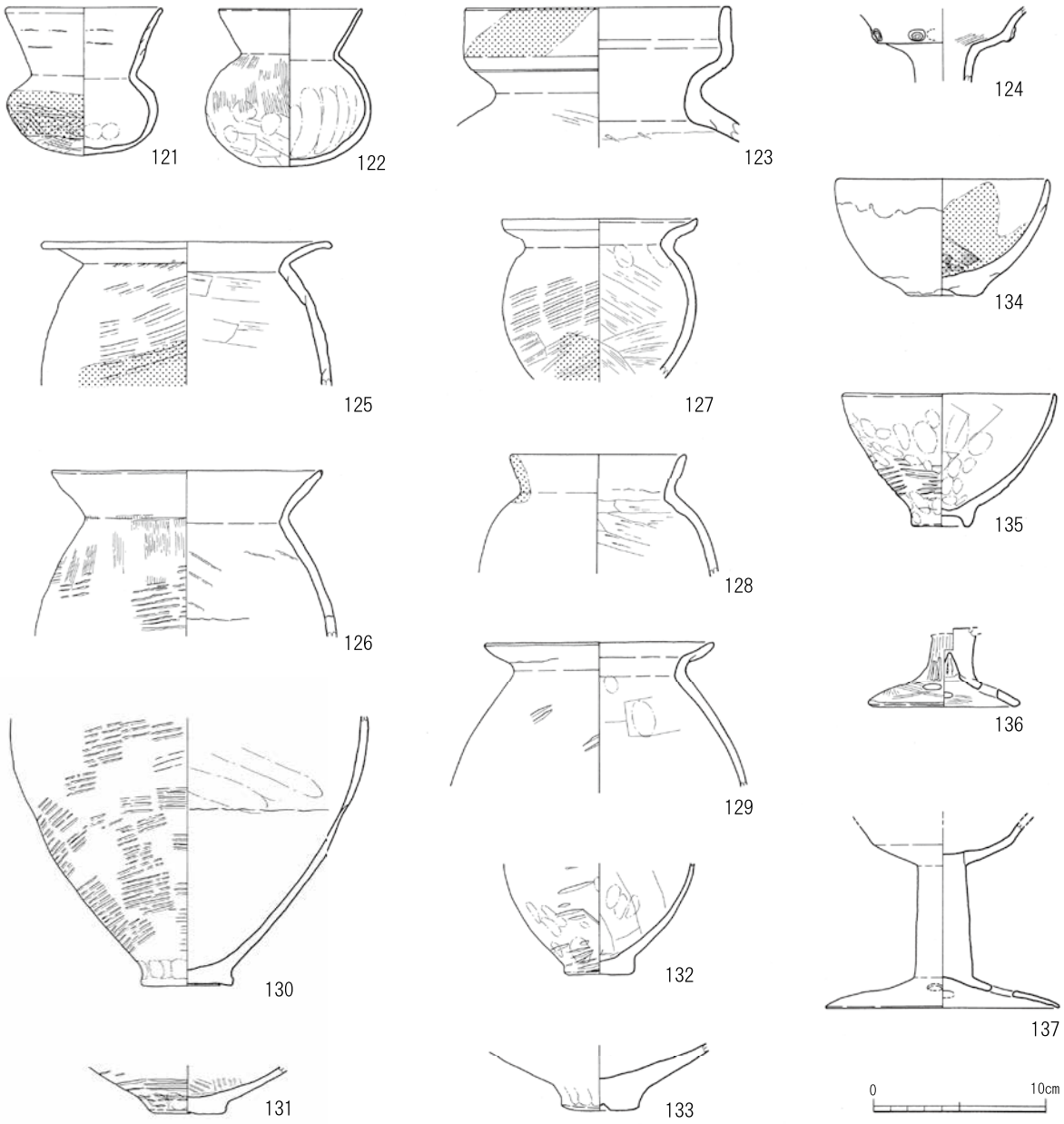


図 31　2 区　201・202 溝（溝 1）出土土器②

108 ～ 110 は高坏。脚部は中空で透かしをもち、外面はヘラミガキ調整。

201 溝・202 溝が混在する地点からは、図 30・31 の 111 ～ 137 が出土した。

111 ～ 120 は弥生時代前～中期の土器。111・112 は弥生土器広口壺。113 は中期前葉の直口壺、114・115 は鉢。114 は凹線文を施す大型の鉢で、当該時期の遺物は少ない。摩耗が著しい。115 は小型の直口鉢。116 ～ 120 は壺・甕・鉢類の底部。

121 ～ 137 は弥生時代後期後半～古墳時代中期の土器。121・122 は小型丸底壺。123 は受口状口縁の壺。３世紀後半の北四国産土器と推定される。124 は二重口縁壺の頸部。125 ～ 133 はタタキ甕。口縁部形状のばらつきが大きい。134・135 は直口鉢。134 は外面ナデ調整。136・137 は高坏の脚部。136 は短脚、137 は長脚で中実。

202 溝からは、図 32 の 138 ～ 140 が出土した。いずれも弥生土器の底部で、140 では底部付近

に若干タタキ痕が残る。

203 ～ 206 溝（溝２～５）

それぞれ、調査区南東で検出された溝である。それぞれ幅0.7～1.0ｍ、残存する深さ0.5ｍである。

141 ～ 146 は 203 溝出土の弥生土器。141・142 は広口壺口縁部。143・144 はヘラ描き沈線を施す壺。145 は蓋。146 は口縁部及び突帯に刻み目を施す無頸壺。

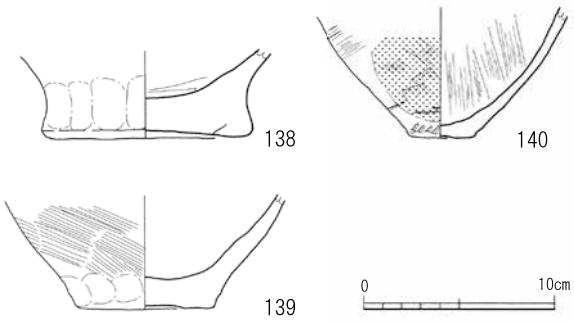


図 32　２区　202 溝（溝 1）出土土器

147 ～ 149 は 205 溝出土の弥生土器。147 は広口壺。203 溝よりやや新しい様相をしめす。

150 ～ 152 は 207 溝出土の弥生土器。151 は櫛描文を施す直口壺。152 は紀伊型甕。

なお、203 ～ 206 溝共通の上層部から、弥生時代末の土器（164・165）も出土している。

(2)　弥生時代前・中期の各種遺構

237・253・260・261 土坑

237 土坑は２区西端で検出された。片岩を含む在地の胎土で作られた播磨付近の影響を受けた

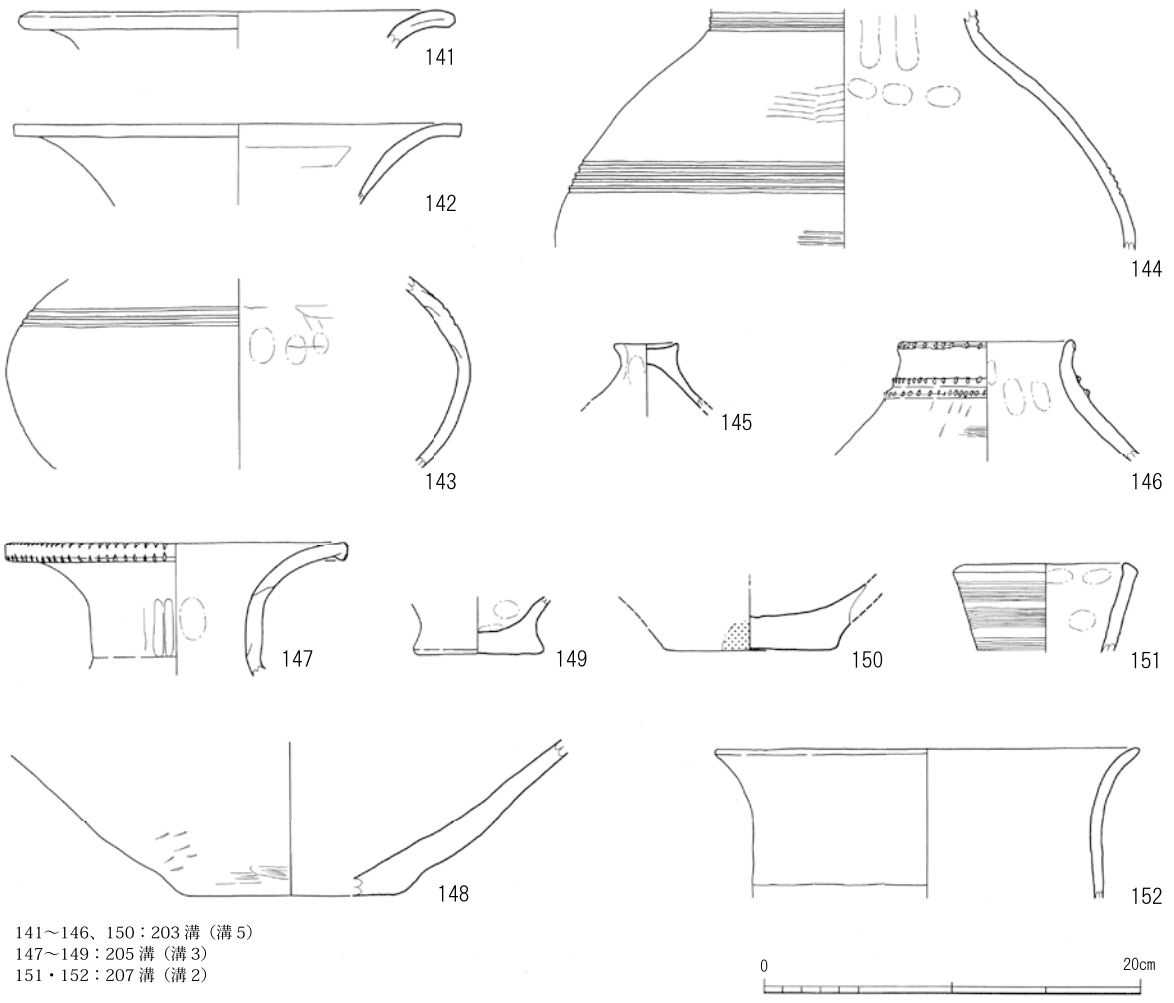


図 33　２区　203 溝（溝 5）・205 溝（溝 3）・207 溝（溝 2）出土土器

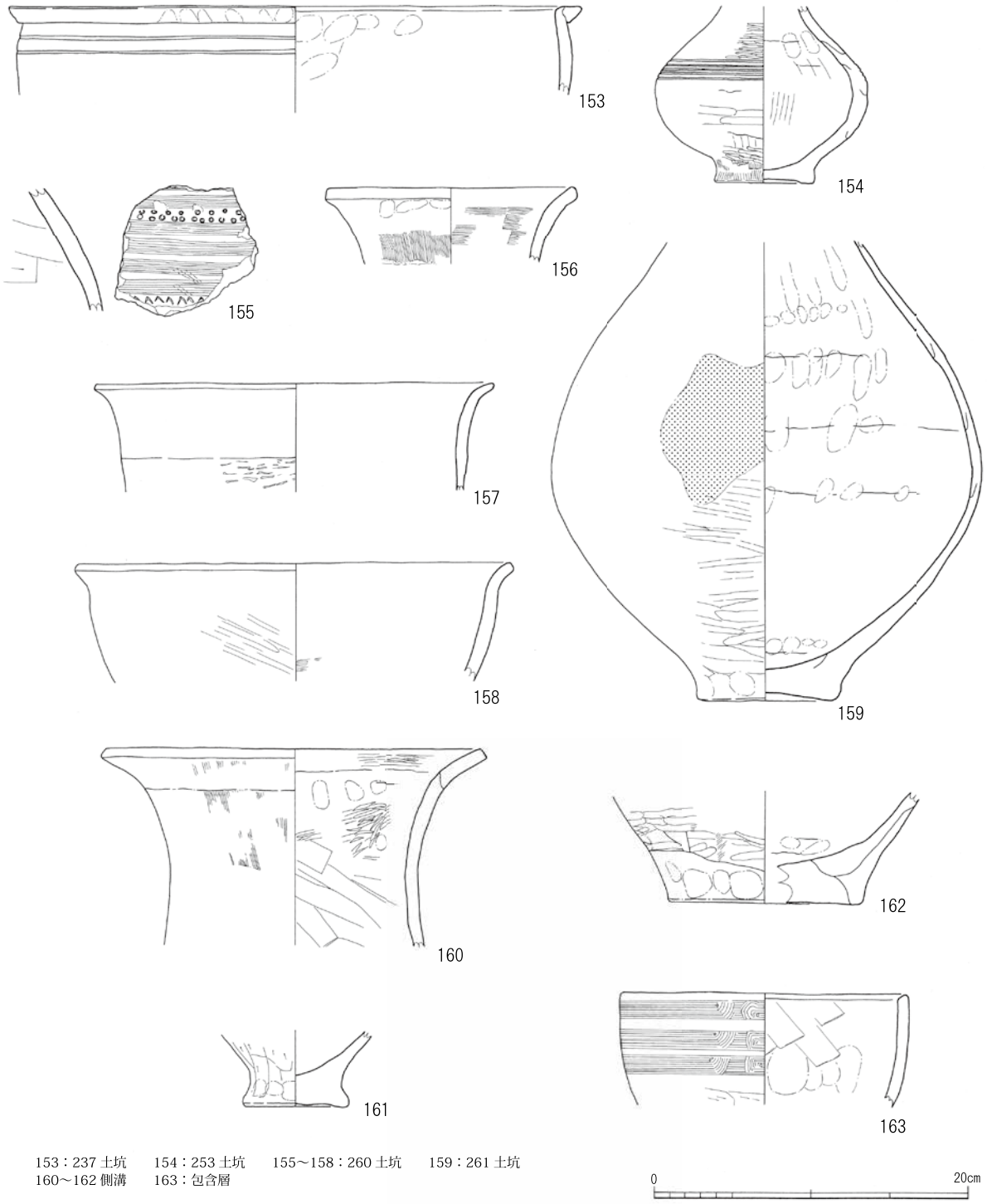
逆Ｌ字状口縁の鉢（153）が出土している。

253 土坑は２区西側で検出された土坑である。遠賀川系の壺（154）が出土した。

260 土坑は 207 溝上層で検出された。155 ～ 158 が出土した。

261 土坑は径 0.5 ｍ、深さ 0.3 ｍの土坑で、弥生土器壺の胴部下半（159）が斜位で出土した。壺の上半は後世の削平を受けて欠損する。

160 ～ 163 は２区の調査区側溝及び包含層から出土した。



153：237 土坑　154：253 土坑　155～158：260 土坑　159：261 土坑
160～162 側溝　163：包含層

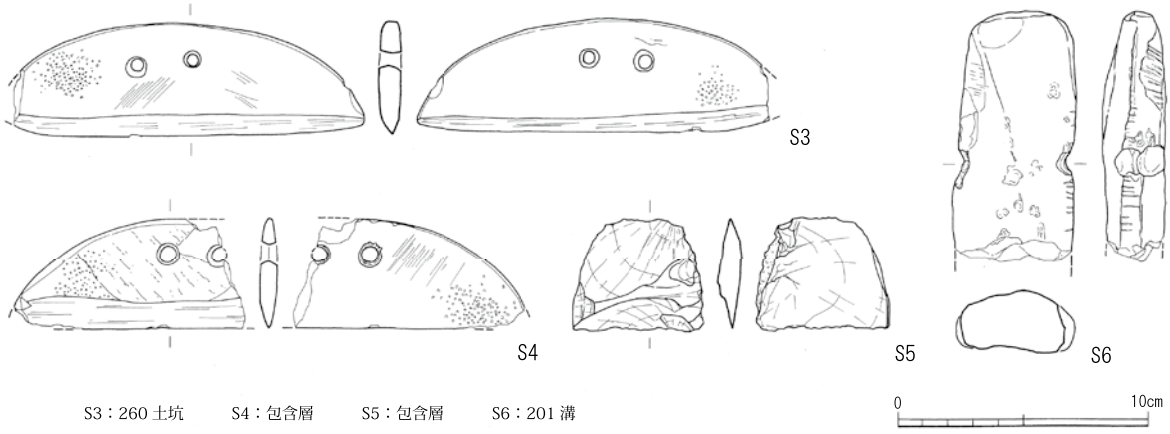
図 34　２区　弥生時代の遺構出土土器

(4)　弥生時代の遺構出土石器

S3・S4 は緑色片岩製の石包丁。半月形に成形し、刃部は直線的である。刃部と平坦部には擦痕があり、平坦部の両極には敲打痕がみられる。S3 は土坑 260（207 溝上層の可能性あり）から、S4 は包含層から出土している。S4 には孔内敲打痕がみられる。

S5 はサヌカイト製の打製石器である。台形様の形状をしているが、スクレイパーの可能性を考えている。

S6 は緑色片岩製の石錘とみられる製品。扁平な棒状品の両側面にくびれ部が削り出されている。約 80%残存しており、重量は 213 ｇ。



S3：260 土坑　S4：包含層　S5：包含層　S6：201 溝

図 35　２区　石包丁・スクレイパー・石錘（石②）

(5)　弥生時代後期後半～古墳時代の土坑と出土遺物

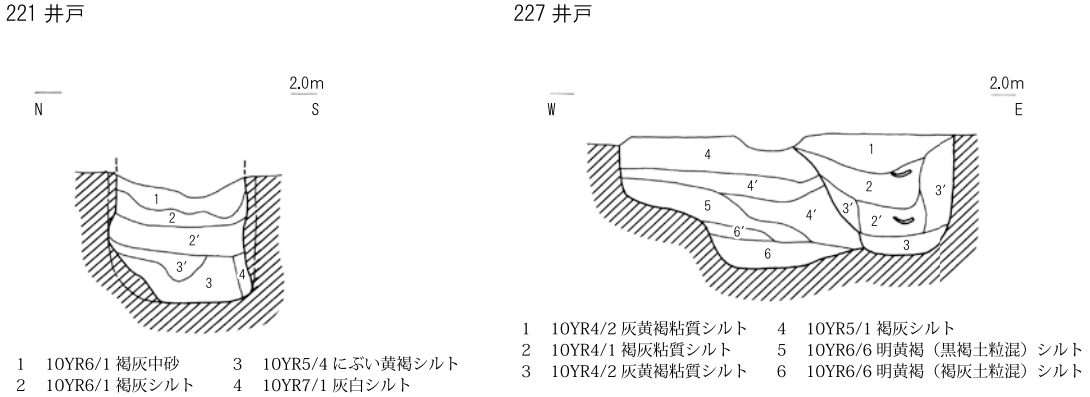
164・165 は前述したとおり、203 ～ 206 溝の混在する地点で出土している。

221・227 土坑

221 土坑は 203 溝の西に位置する径 0.5 ｍ、深さ 0.7 ｍの不整円形の土坑。口縁端部が肥厚し、竹管文を押した円形浮文で飾る広口壺（166）が出土した。

227 土坑は 207 溝の南西にある径 0.9 ｍ、深さ 0.8 ｍの円形の土坑。167 ～ 169 が出土した。167・168 は小型丸底壺、169 は甕の底部を穿孔しており甑とみられる。

221 土坑･227 土坑はいずれも通水層にまでは達せず､溜水程度の機能を有するものとみられる。下層には腐食質を含む黒褐色シルト層が互層状に堆積する。



1　10YR6/1 褐灰中砂　3　10YR5/4 にぶい黄褐シルト
2　10YR6/1 褐灰シルト　4　10YR7/1 灰白シルト

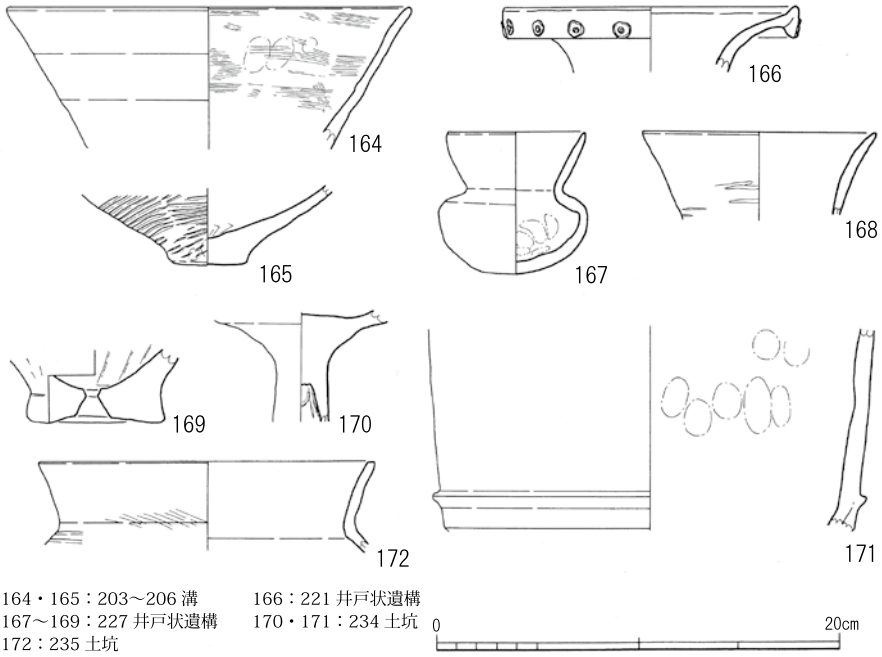
1　10YR4/2 灰黄褐粘質シルト　4　10YR5/1 褐灰シルト
2　10YR4/1 褐灰粘質シルト　5　10YR6/6 明黄褐（黒褐土粒混）シルト
3　10YR4/2 灰黄褐粘質シルト　6　10YR6/6 明黄褐（褐灰土粒混）シルト

図 36　２区　古墳時代の遺構（S=１：40）

234・235 土坑

234 土坑は２区南部で検出された土坑である。東西約 1.2 m、南北残存長 1.7 mの楕円形をしている。高坏片（170）とともに、円筒形で突帯を有し、表面が平滑な瓦質焼成の土器（171）が出土した。突帯付近で内側に屈曲しており、内面には指頭圧痕が残存する。

235 土坑は調査区西側で検出した径約 1.5 mの土坑。弥生Ⅴ様式系甕の口縁部片（172）が出土している。



164・165：203～206 溝　　166：221 井戸状遺構
167～169：227 井戸状遺構　　170・171：234 土坑
172：235 土坑

図 37　２区　弥生～古墳時代の遺構出土土器

３　中世～近世初頭の遺構・遺物

中世の遺物が出土する溝と、中世末から近世初頭までの遺物が出土する井戸・土坑を確認した。

208・210・212 溝

これらの溝は調査区南側で、東西方向に平行して流れている。

208 溝は調査区中央を走る幅 0.7 m、深さ 0.2 mの東西溝である。大きな攪乱坑に削平を受けて分かりづらいが、210 溝の北側約４mを平行して流れている。

210 溝は、幅 0.6 ～ 0.8 m、深さ 0.2 ～ 0.3 mの東西方

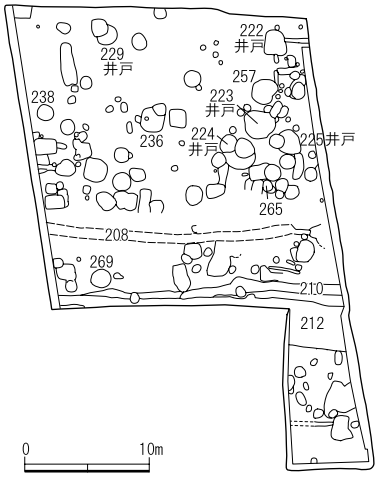


図 38　２区　中・近世の遺構分布状況

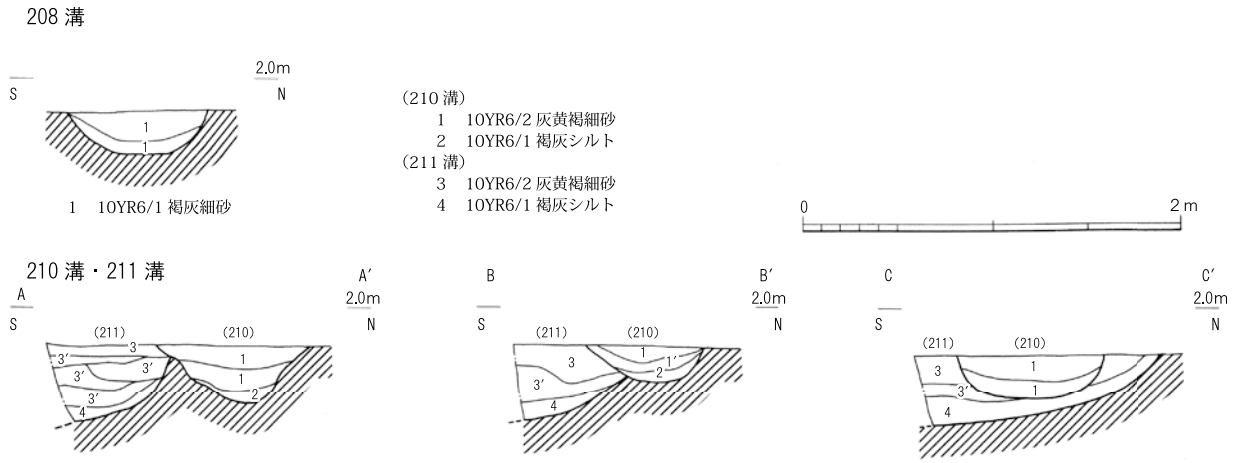


図 39　２区　中世の遺構（S=1：40）

向の溝で、現在の地割の位置とも重なるため、集落の区画を示す溝と推定される。調査前の状況ではこの地割りから南側は水田となっていた。瓦器埦（173・174）と土師質土器小皿が出土しており、12～13世紀を中心とする遺構と考えられる。

210溝の南に並行して212溝があるが、大部分が調査区外にかかるため全容は不明である。検出した部分では幅3.0ｍ、深さ0.6mである。

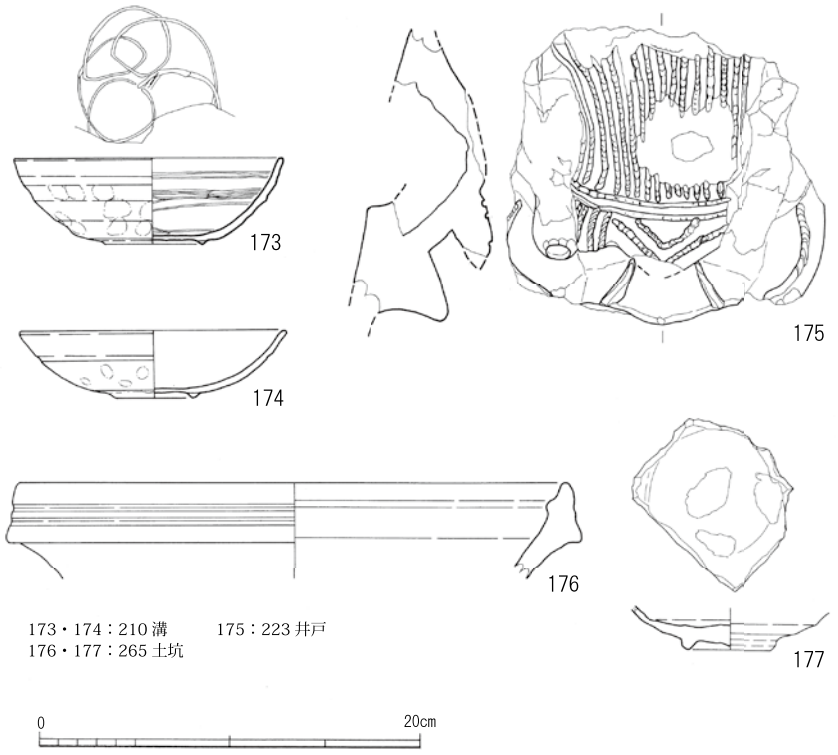


図40　２区　中世遺構出土土器・瓦

223井戸

２区北東側で検出した径2.2ｍの円形井戸で、中世末から近世初頭にかけての遺物が含まれる。175は同時期の鬼瓦と考えられ、立体的で、縄を用いて文様をつけている。

265土坑

２区東側で検出した径0.8～1.2ｍの土坑。備前焼鉢（176）と砂目のある唐津焼碗（177）が出土しており、17世紀前半の遺構と考えられる。

４　近世後期の遺構と遺物

中世から近世初頭までの遺構が多数見られたのに対して、17世紀後半から18世紀前半の遺構・遺物は少ない。18世紀後半～19世紀の遺物が出土する遺構は多数検出されており、屋敷地の検出された３区と同様の傾向がうかがえる。

222井戸

２区北東部で検出された平瓦を縦方向に積んで井戸側とする井戸。平面形は径0.6ｍの正円形であり、平瓦９枚で構成する。平瓦の長さは約40cmで、深さは平瓦４段分（約1.6ｍ）を確認したが、安全上の理由から調査が困難と判断し井戸底の確認は見送っている。使用されている平瓦はやや正方形に近く、彎曲も少なく平滑である（178・179）。

236土坑

２区中央で検出した隅丸方形の土坑。東西約2.0ｍ、南北約1.5ｍ。土師質土器小皿（180）と焙烙（181）が出土した。

238土坑

２区西で検出した径約1.2ｍの円形土坑。出土した焙烙（182）は口縁部がやや短く、底部への

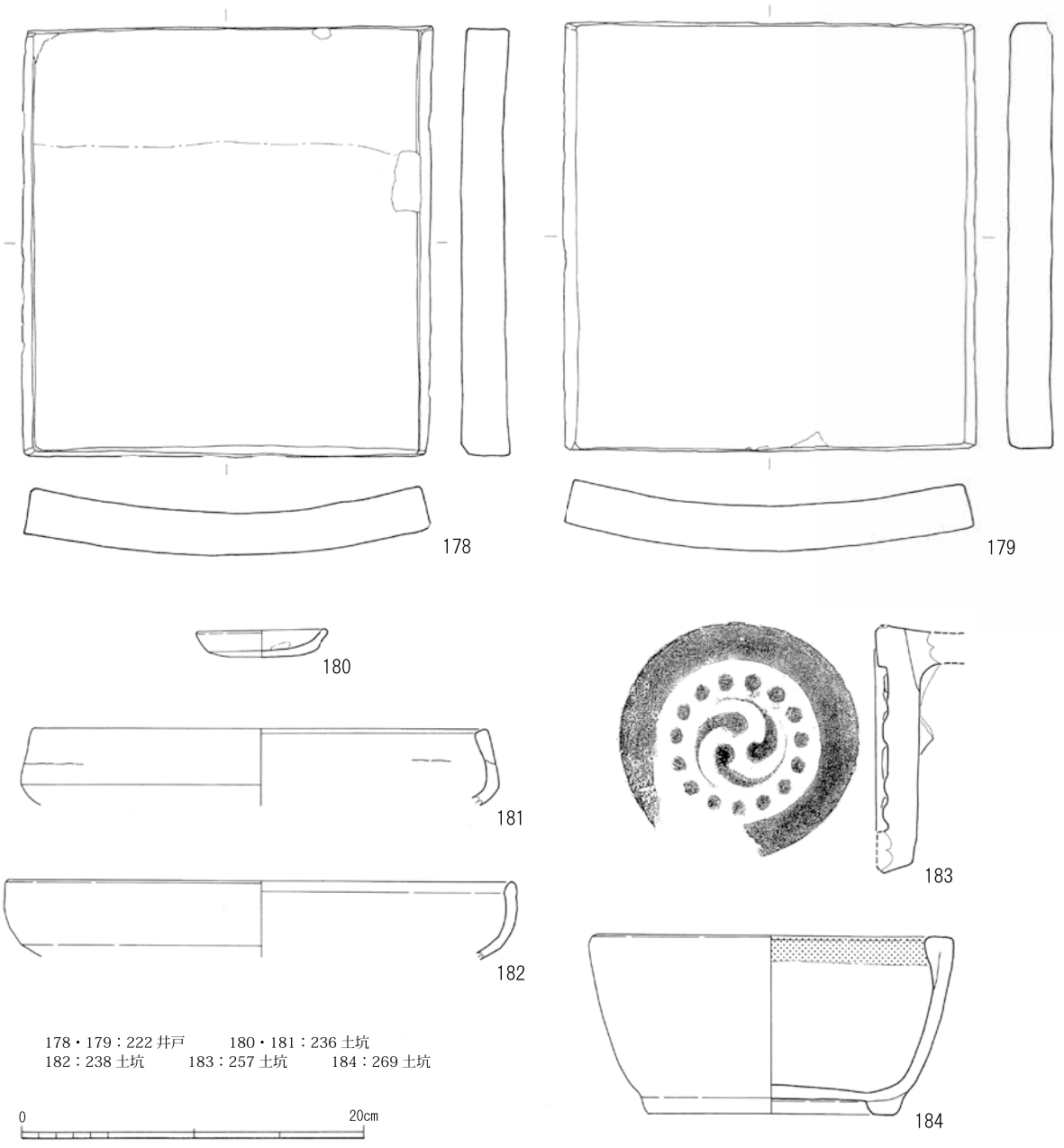


図 41　２区　近世遺構出土土器・瓦

屈曲は緩い。

257 土坑

調査区北東で検出した径 0.5 ｍの不整形土坑。出土した巴文軒丸瓦（183）は周縁が広く、江戸時代後期のものと考えられる。

269 土坑

２区南西で検出した径約 1.0 ｍの円形土坑。184 は土師質土器の火鉢で、高台が付き、口縁部は肥厚する。口縁部内側上面が黒色化する。

第３節　３区の調査

１　概要

(1)　調査区概要

３区は調査対象地北側の１区と２区の間、現状で集落の一角を占める位置にある。中央は、宅地造成に伴い財団法人和歌山市都市整備公社により約 220 ㎡の範囲で調査が行われており（市１次調査）、今回の調査区と重複する。調査区北西には、独立丘陵が存在し、調査区の一部にその裾がかかる。また、調査区西では、江戸時代に造成されたと考えられる石垣が検出され、約 0.7 ｍ土地が高くなり西側に続く。３区では、弥生時代中期初頭の溝、弥生時代終末期の溝・土坑、古墳時代のピット、平安時代の溝・井戸、室町時代の井戸・土坑・溝・甕ピット、江戸時代の井戸・石垣・溜桝・埋桶・土坑・土取り穴などを検出している。東西幅約 25 ｍ、南北長約 80 ｍで、調査面積 1,459 ㎡であり、北西部分が突出する形状である。

３区では弥生時代前期～平安時代の溝が少数と、中世末～近世の屋敷地に関連する遺構が多数検出されている。出土遺物は計 87 箱分で、弥生土器・土師器は少なく、陶磁器と瓦が多量に出土している。

(2)　基本土層と包含層出土遺物

Ⅴ層上面の弥生時代の溝に始まり、Ⅰ～Ⅲ層の上面にもそれぞれ遺構が形成される。弥生時代から中世までの遺構は少なく、近世の遺構が多数を占める。地山直上のⅣ層からは弥生時代前期新段階～中期前葉頃の壺･甕（185･186）や弥生時代後期末の甕（187）が出土した。３区北西部では、地山上面に備前焼大甕の破片が 10 ｍ以上の範囲に散乱していた。調査区外にある小丘陵の裾を平に整地した際に､散乱したものとみられる。備前焼片はⅢ層から出土したものと考えられるが、Ⅲ層からはその他に土師器皿（190･191）、瓦器埦（192･193）、唐津焼小皿（194）が出土している。Ⅱ層は鎌倉時代～安土桃山時代の遺物包含層とみられ、194 が下限年代を示すものと推定される。Ⅰ層からは染付の碗・仏飯器（195・196）、備前焼油徳利（197）、瓦猿（198）が出土しており、江戸時代後半の遺物包含層とみられる。

(3)　溝の名称

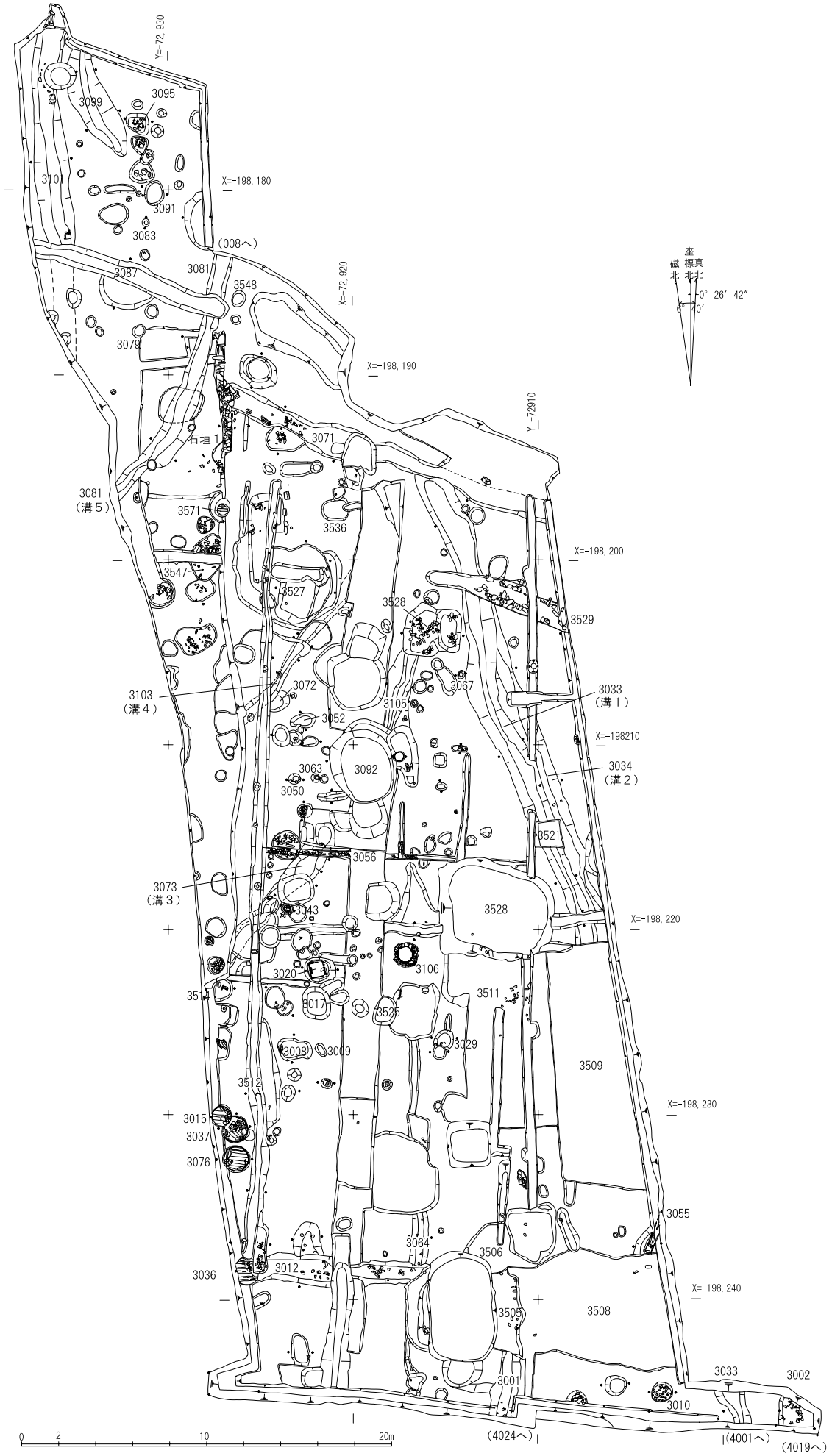
３区では中世から近世にかけての屋敷地に関連する遺構が多いが、調査区全体にそれに先行する時期の溝があり、溝１～５として把握されている。各溝からは、弥生土器のほか、土師器・須恵器・黒色土器等が出土しており、遺構の形成年代を明確に把握するのは難しい。溝は、調査区の北端から南東に向かうものと、南西に向かうものに分かれている。南東に向かう溝１・２と南西に向かう溝３・４では弥生土器が多いが、庄内期や古墳時代中期の土器等も少量含まれている。１区の溝１～５のいずれかに対応するものと考えられる。溝５では平安時代の土器が圧倒的に多く、１区の 008 溝に対応する可能性が高い。

２　弥生～古墳時代の遺構・遺物

(1) 弥生時代の溝

3033 溝（溝１）

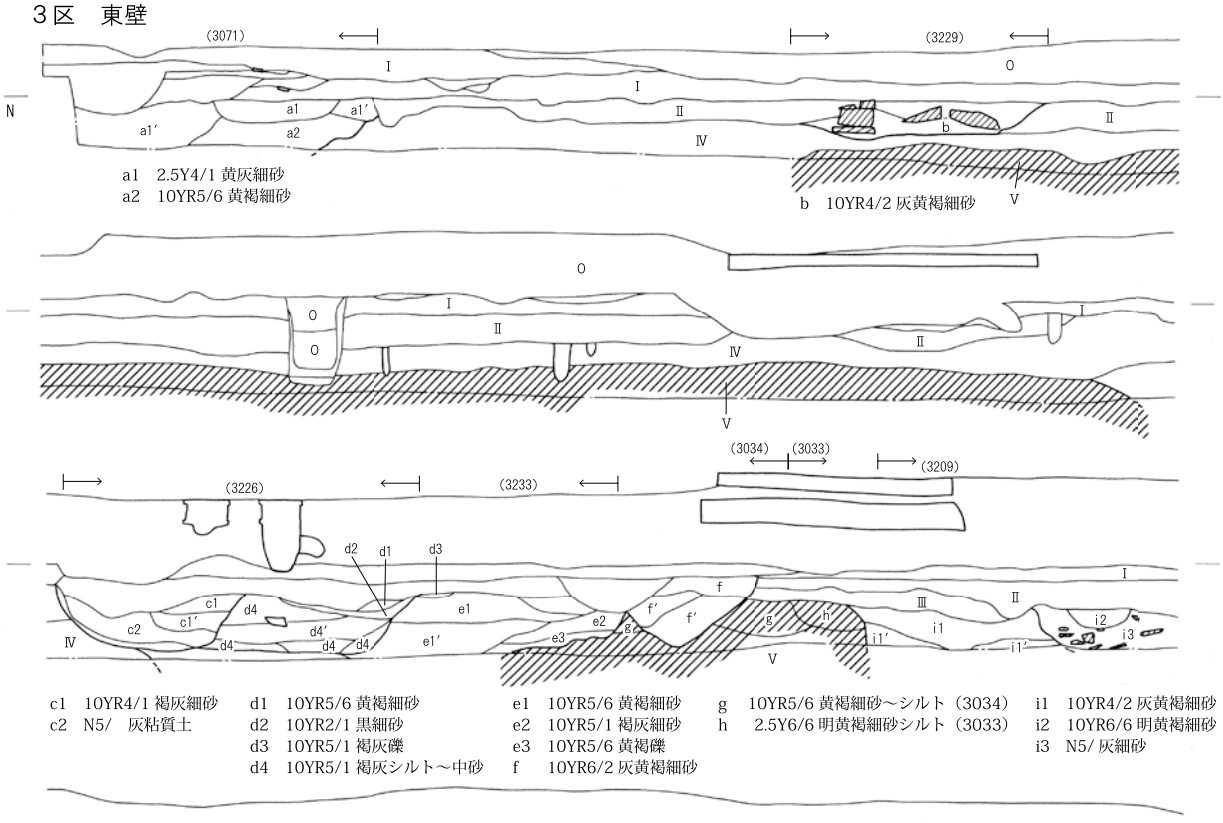
調査区北から南東方向へ流れる溝である。溝の北端は１区溝４（010 溝）延長部付近にあたる



図中の「・」は土層断面図基準点

図 42　3区平面図（S=1：300）

３区　東壁



３区　南東部北壁

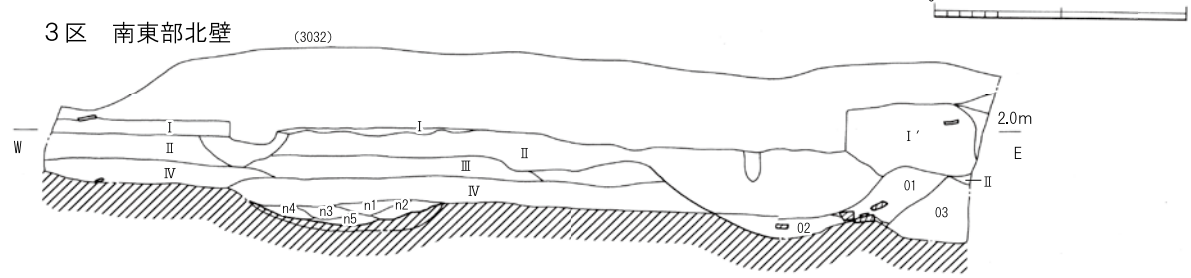


図 43　３区　壁面土層図（S=１：60）

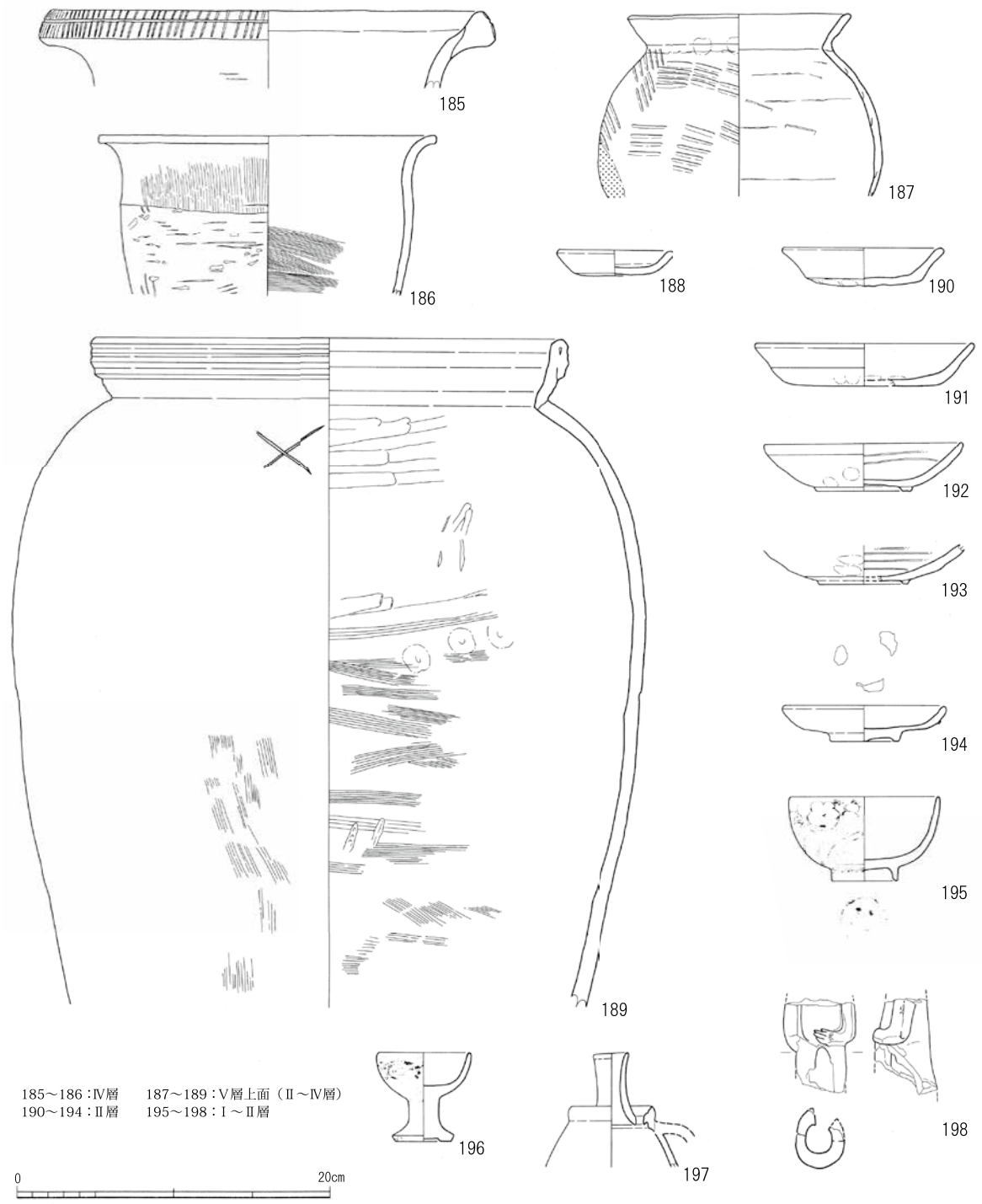


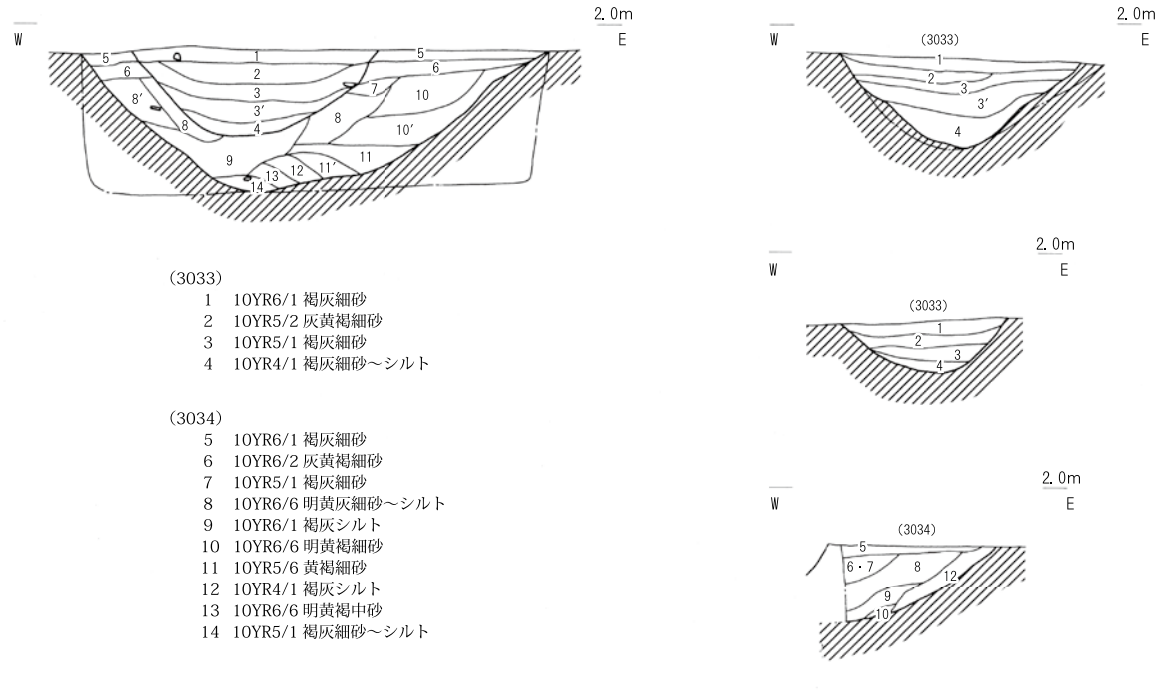
図 44　３区　遺物包含層出土土器

が、方位と年代を考慮すると 013 溝と 006 溝の延長にあたる弥生時代の溝である可能性も考えられる。なお、和歌山市１次調査の中央北東部で確認されている弥生時代の溝３に相当するものと考えられる。3034 溝と共に３区東の中央付近で調査区東外へと伸びるが、いずれかの溝の延長が調査区南東隅の 3034 溝（溝２）であると推定される。溝の幅約 1.3 m、深さ約 0.5 mで、溝は緩い断面Ｖ字を呈する。溝の埋土は水平に堆積しており、比較的緩やかな流れであったと考えられる。埋土からは、弥生時代中期の土器が出土しており、甕は紀伊型甕（201・202）と紀伊型以外（199・200）が確認される。

3034 溝（溝２）

調査区北から南東方向へ流れる溝で、3033 溝（溝１）と重複する。溝の幅は溝１と重複する

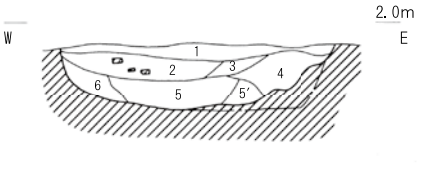
3033 溝（溝 1）・3034（溝 2）



(3033)
1　10YR6/1 褐灰細砂
2　10YR5/2 灰黄褐細砂
3　10YR5/1 褐灰細砂
4　10YR4/1 褐灰細砂～シルト

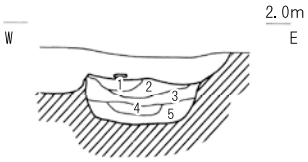
(3034)
5　10YR6/1 褐灰細砂
6　10YR6/2 灰黄褐細砂
7　10YR5/1 褐灰細砂
8　10YR6/6 明黄灰細砂～シルト
9　10YR6/1 褐灰シルト
10　10YR6/6 明黄褐細砂
11　10YR5/6 黄褐細砂
12　10YR4/1 褐灰シルト
13　10YR6/6 明黄褐中砂
14　10YR5/1 褐灰細砂～シルト

3073 溝（溝 3）



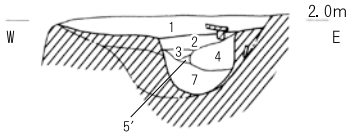
1　10YR6/1 褐灰細砂
2　7.5YR5/6 明褐細砂
3　10YR6/1 褐灰細砂
4　10YR4/1 褐灰細砂
5　10YR5/6 黄褐中砂
6　7.5YR5/6 明褐細砂～シルト

3103 溝（溝 4）



1　10YR4/1 褐灰細砂
2　10YR5/1 褐灰細砂
3　10YR4/1 褐灰細砂
4　10YR7/6 明黄褐細砂
5　10YR4/1 褐灰細砂～シルト

3105 溝（溝 3）



1　10YR6/1 褐灰細砂
2　10YR5/1 褐灰細砂
3　7.5YR4/1 褐灰細砂～シルト
4　7.5YR4/1 褐灰細砂～シルト
5′　7.5YR5/6 明褐シルト
7　10YR6/1 褐灰細砂



図 45　３区　弥生時代の溝（S=1：40）

ため不明箇所も存在するが、幅 2.5 ～ 3.0 m、深さ 0.8 ～ 1.0 mと比較的大きい。市第１次調査で谷状地形とされたものに相当する。埋土はベースとなる第５層とほぼ同じ色調を呈し区分が難しい。溝下層から弥生時代中期初頭の土器が出土している。205 は付加条沈線をもつ櫛描き文で飾る広口壺。206 は外面ハケ調整の平底部片。

3073 溝（溝３）

調査区中央を北から南西方向に弧を描いて流れる溝で、室町時代以降の遺構と重複し全容は不明であるが、幅は 1.5 m、深さは 0.7 m。この溝の上流は 3105 溝及び、1 区の 020 溝（溝１）ないし 021 溝（溝２）と推定される。弥生土器片が出土しているが、遺構の明確な時期は不明である。210 は 3073 直上の包含層から出土した広口壺。

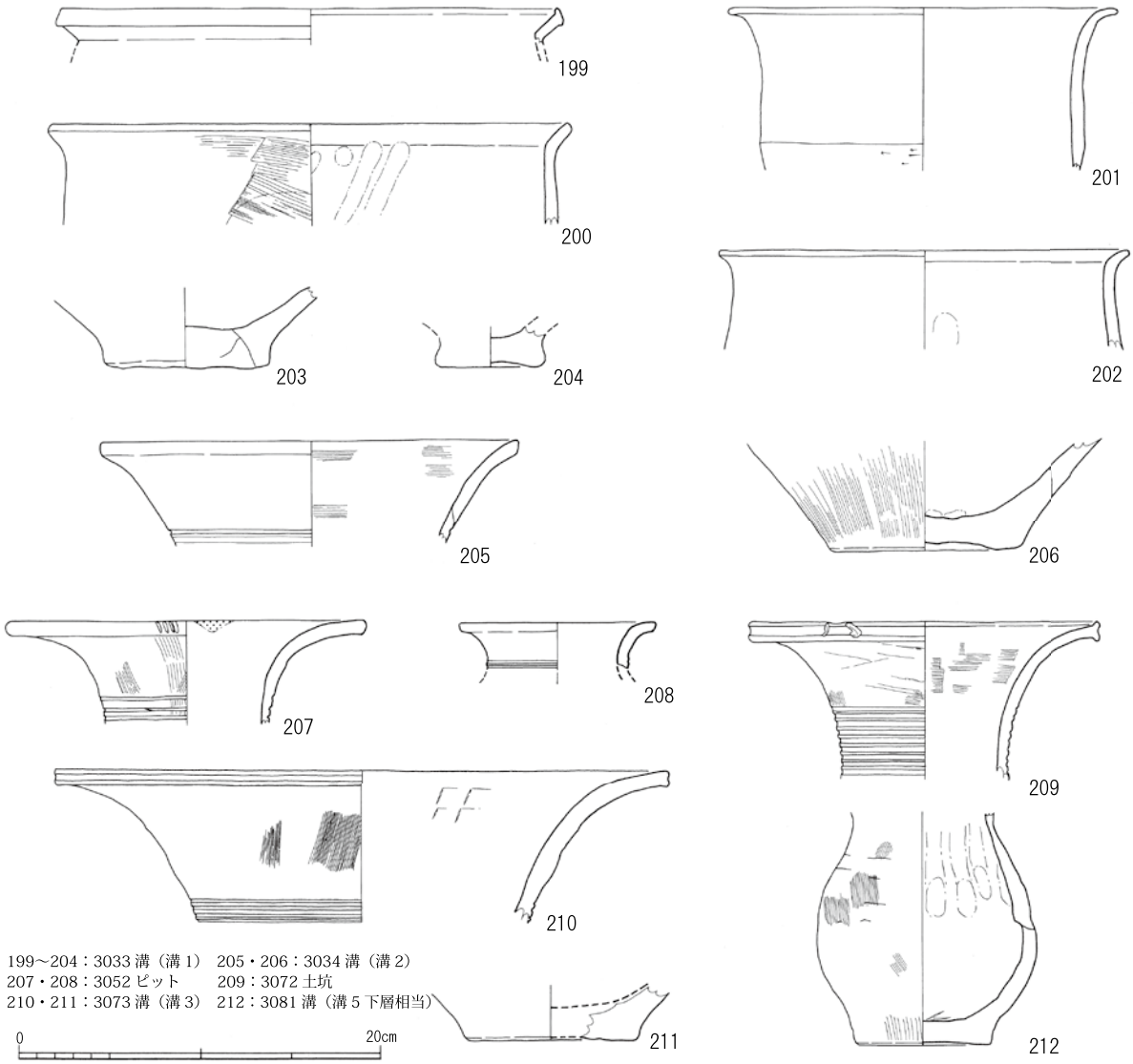


図 46　３区　弥生時代前～中期の遺構出土土器

3103 溝（溝４）

3103 溝も、3073 溝と同様の方向に流れる。幅は 1.0 m、深さは 0.5 m。この溝の上流は１区の 021 溝（溝２）ないし 022・023 溝（溝３）と推定される。溝下層から弥生時代中期初頭の土器片が出土している。

(2) 弥生時代～古墳時代の遺構（溝以外）

3052 土坑・3072 土坑

３区中央の 3103 溝南東側で検出した土坑。3052 は東西 1.4 m、南北 0.8 mの土坑。ヘラ描き沈線を施す広口壺 (207) と遠賀川式の壺の口縁部 (208) が出土した。

3072 土坑は東西 1.0 m以上、南北 1.0 mの土坑で、北西部を 3103 溝に削られている。前期新段階の広口壺後頸部が出土した。

212 は 3081 溝（溝５）から出土した弥生土器である。3081 溝は下層が平安時代の溝、上層が江戸時代の溝と推定される。３区は弥生土器の出土量が少ないが、この溝からは一定量出土しており注目される。

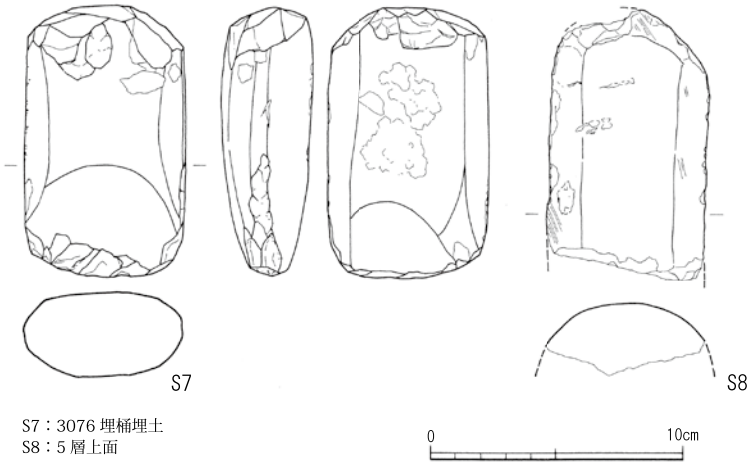


図 47　３区　石斧（石③）

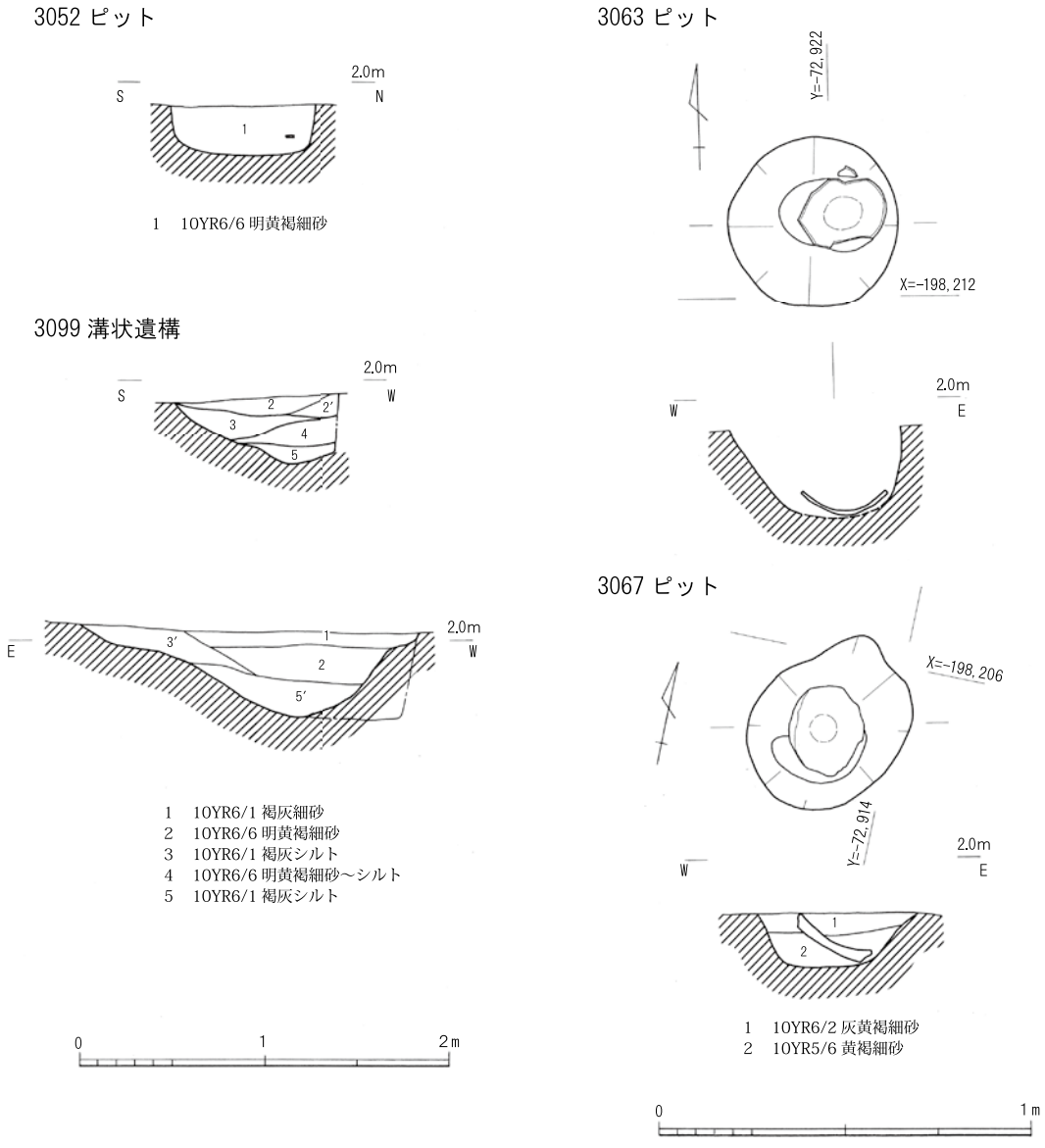


図 48　３区　弥生～古墳時代の遺構（S=1：20、S=1：40）

3052・3063・3067 ピット

3052 は径 0.8 m、深さ 0.3 mのピット。3063 は径 0.9 m、深さ 0.5m のピットで、底に直口鉢

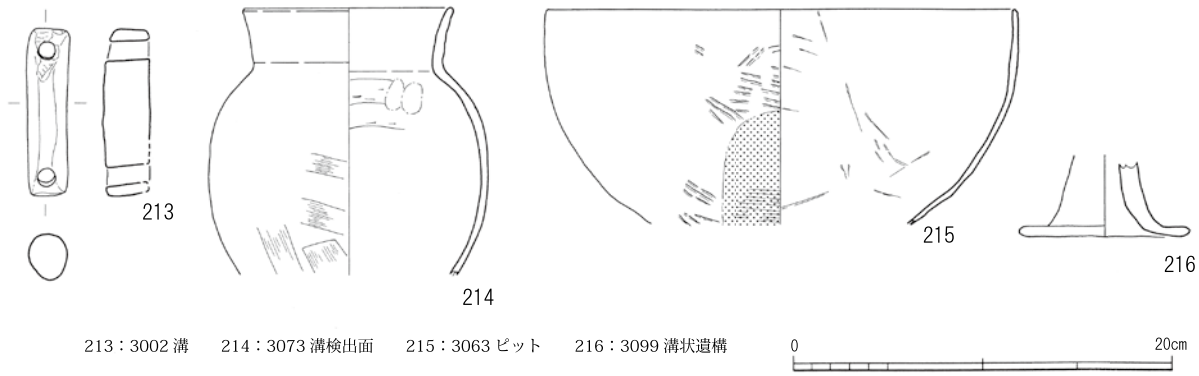


図 49　３区　古墳時代頃の出土土器・土錘

(215) が据えられている。

3067 は径 0.9m のピット。弥生土器底部が据えられた状態で出土した。

3073 上層溝・3099 溝

3073 上層溝は幅 1.0m、深さ 0.1m、土師器甕 (214) が出土している。

3099 溝は幅 1.8m、深さ 0.5m、土師器高坏脚部 (216) が出土している。

(3) 弥生時代の石器

弥生時代の石器は、磨製石斧が２点出土している。図 47 のＳ７は江戸時代の遺構に混入していた。長さ 10.3 ㎝､最大幅 6.1､厚さ 3.6 ㎝と短い。両端部が広く打ち欠かれた状態となっている。Ｓ８は長さ 10.3 ㎝以上、幅 6.2 ㎝以上の棒状製品片で、刃部が欠損しているが磨製石斧と推定される。

３　古代の遺構・遺物

古代の遺構は少ないが、調査区中央付近で 3009 土坑と 3020 溝、調査区の北西部で 3081 溝が確認されている。

3009 土坑

調査区南方で検出した土坑である。3020 井戸の南側にあり、平安時代と推定される土師器皿 (217) が出土した。

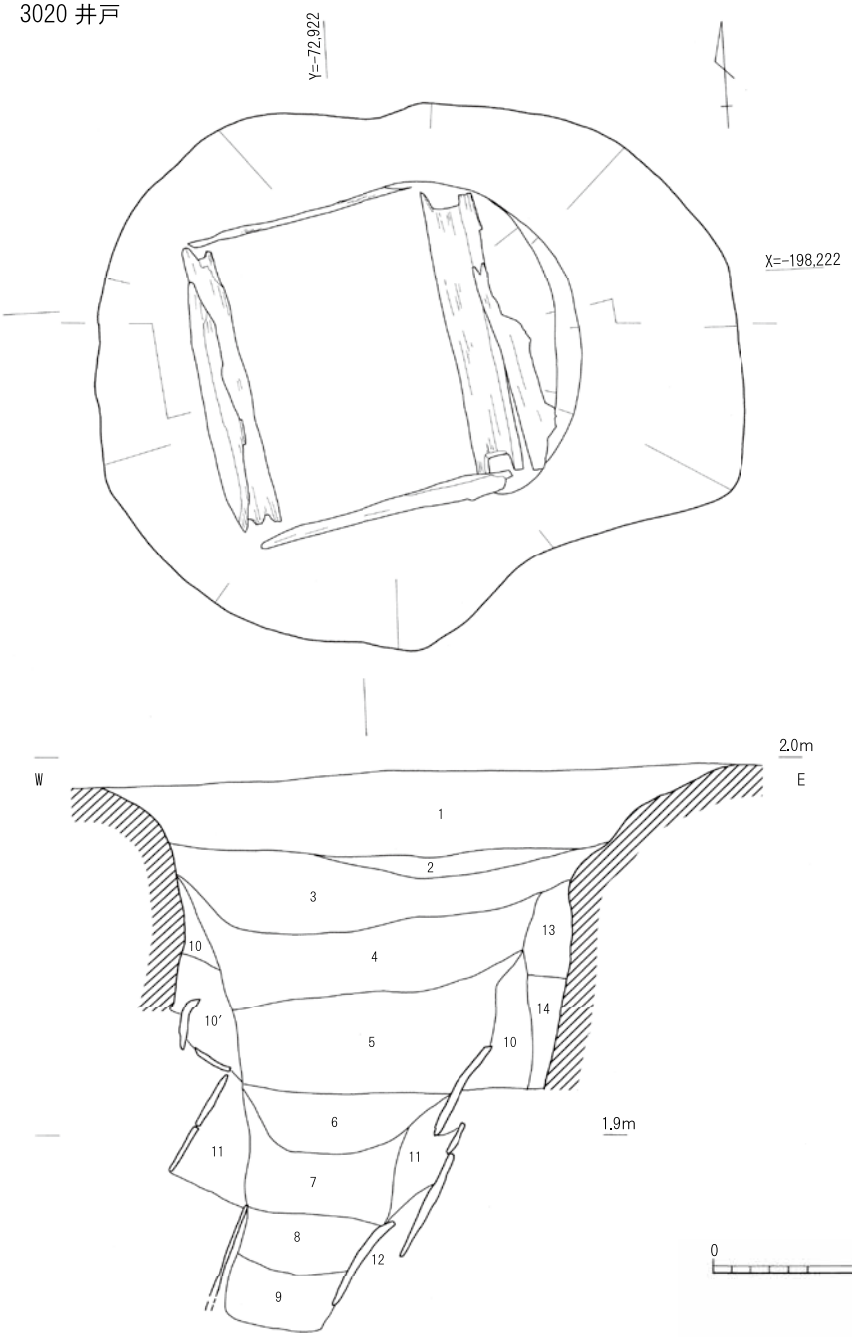
3020 井戸

3020 井戸は、調査区中央で検出した南北 1.5 ｍ、東西 1.6 ｍの掘り方をもつ井戸である。木製の井戸側が残存しており、横板を方形に組み井戸側としている。井戸側は残存状況が悪く、西側へ倒壊した状態で検出された。井戸内からは平安時代前期の土師器坏・埦、黒色土器埦が出土している。218 は平坦な底から口頸部が斜めに立ち上がる。219 は連続してヨコナデを施す土器片。220 は土師器埦高台部。221 は黒色土器埦高台部である。高台は断面三角形を呈する。

3081 溝

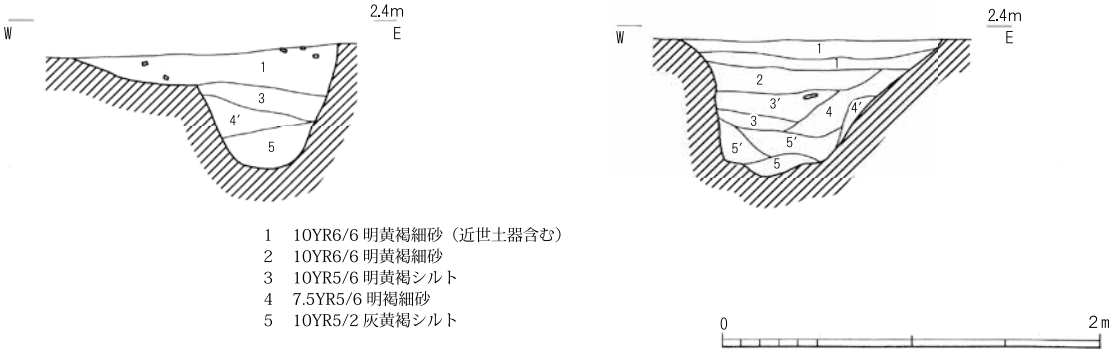
3081 溝は調査区北西で検出された溝で、北東から南西に流れる。幅約 1.4 ｍ、深さ約 0.7 ｍあるが、上層溝として近世の溝が重複しているものと考えられる。下層溝は弥生土器を少量含むが、出土遺物は平安時代の土器が圧倒的に多い。222 ～ 225 は土師器小型埦。径 9.7 ～ 10.6 ㎝、高さ 2.9 ～ 3.4 ㎝。226 ～ 228 は土師器埦口径 17 ㎝前後で 226 は内面にミガキ､外面に指頭圧痕、

3020 井戸



1　2.5Y7/1 灰白細砂
2　2.5Y6/1 黄灰細砂
3　10YR6/1 褐灰細砂
4　10YR5/1 褐灰シルト～細砂
5　10YR5/2 暗灰黄シルト～細砂
6　10YR6/4 にぶい黄橙細砂
7　5Y6/1 灰シルト
8　5Y5/1 灰シルト
9　2.5GY5/1 灰シルト
10　2.5Y6/1 黄灰シルト
11　5Y6/1 灰シルト
12　2.5Y5/1 黄灰シルト
13　10YR6/1 褐灰シルト～細砂
14　2.5Y5/1 黄灰シルト～細砂

3081 溝



1　10YR6/6 明黄褐細砂（近世土器含む）
2　10YR6/6 明黄褐細砂
3　10YR5/6 明黄褐シルト
4　7.5YR5/6 明褐細砂
5　10YR5/2 灰黄褐シルト

図 50　３区　古代の遺構（3020 井戸・3081 溝）

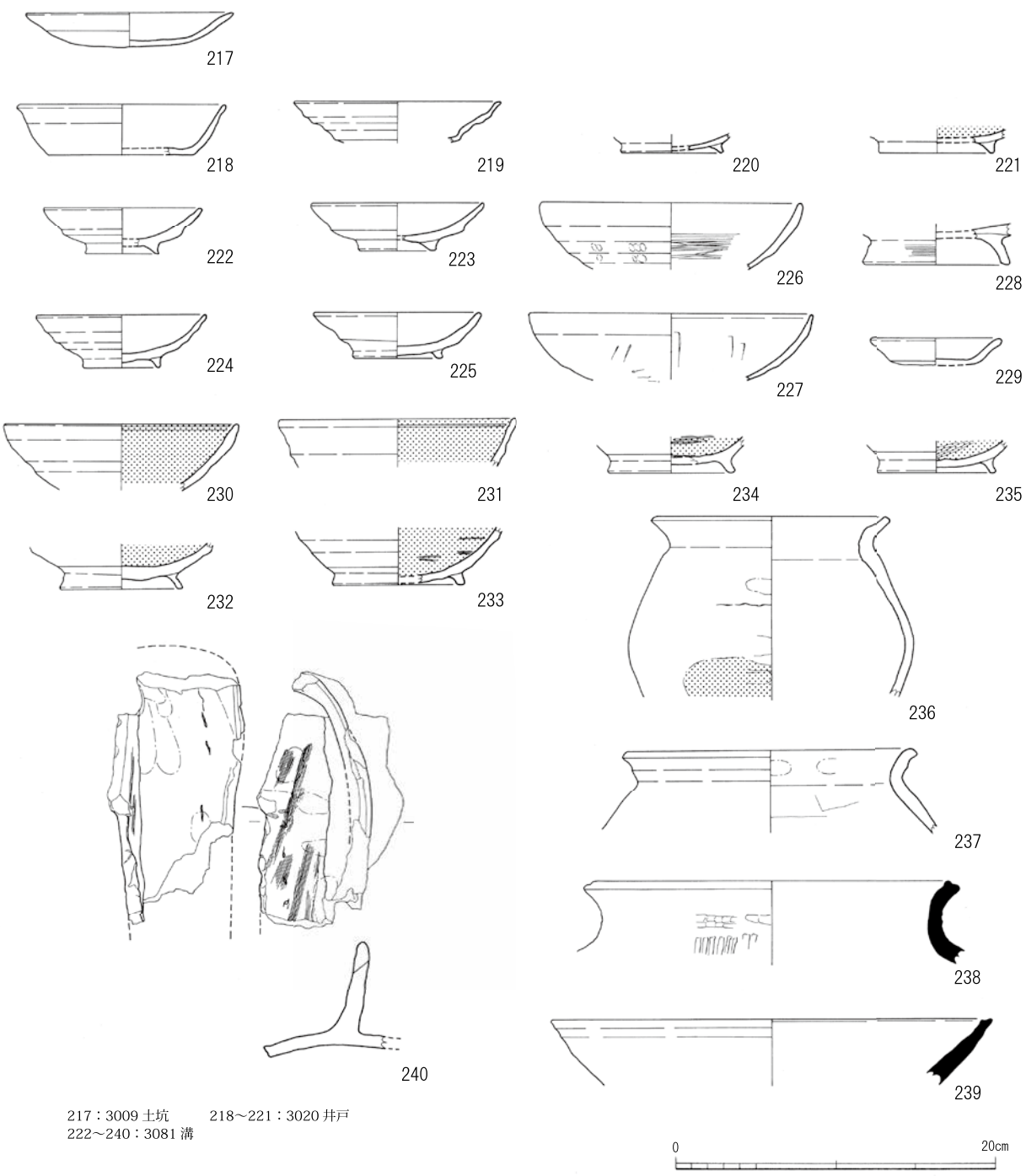


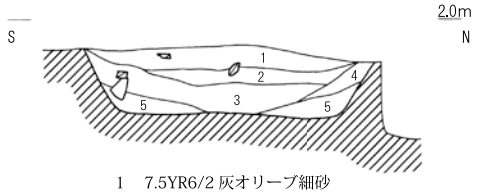
図 51　３区　古代の遺構出土土器

227 はヘラ状工具によるナデを施す。228 は高台の高さが８㎜あり、土師器埦か台付皿と考えられる。229 は土師器小皿。230 ～ 233 は黒色土器埦。口径約 14.5 ㎝で、端部内面に沈線をもつ。高台はやや高く外側に踏ん張り、径約 7.2 ～ 8.2 ㎝。236･237 は土師器甕。238 は須恵器壺甕類。平行叩きを行う。239 は須恵器鉢。240 は土師器移動式竈の鍔部付近の破片である。

４　中世～近世の遺構・遺物

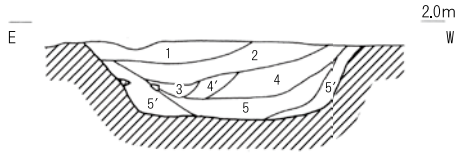
室町時代から江戸時代までの遺構は、屋敷地に伴う遺構とみられ、区画溝・井戸・埋桶・暗渠等が確認できる。遺構・遺物は大きく室町時代～江戸時代初頭のものと、江戸時代後期を主体とするものに分かれる傾向がある。

3012 東西溝



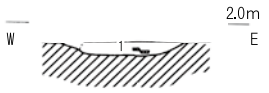
1　7.5YR6/2 灰オリーブ細砂
2　7.5YR6/1 灰細砂
3　5Y6/1 灰細砂
4　2.5Y6/1 黄灰細砂
5　5Y6/1 灰シルト～細砂

3017 土坑



1　10YR6/1 褐灰細砂
2　10YR6/2 灰黄褐細砂
3　7.5YR5/6 明褐細砂
4　10YR5/6 黄褐細砂
5　10YR5/1 褐灰シルト

3050 ピット



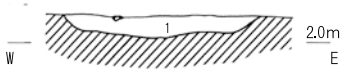
1　10YR6/1 褐灰細砂

3083 ピット



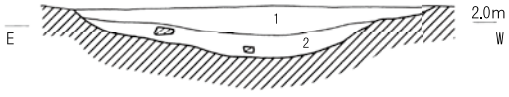
1　10YR5/6 黄褐細砂

3091 土坑

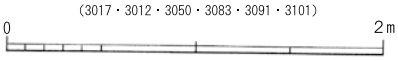


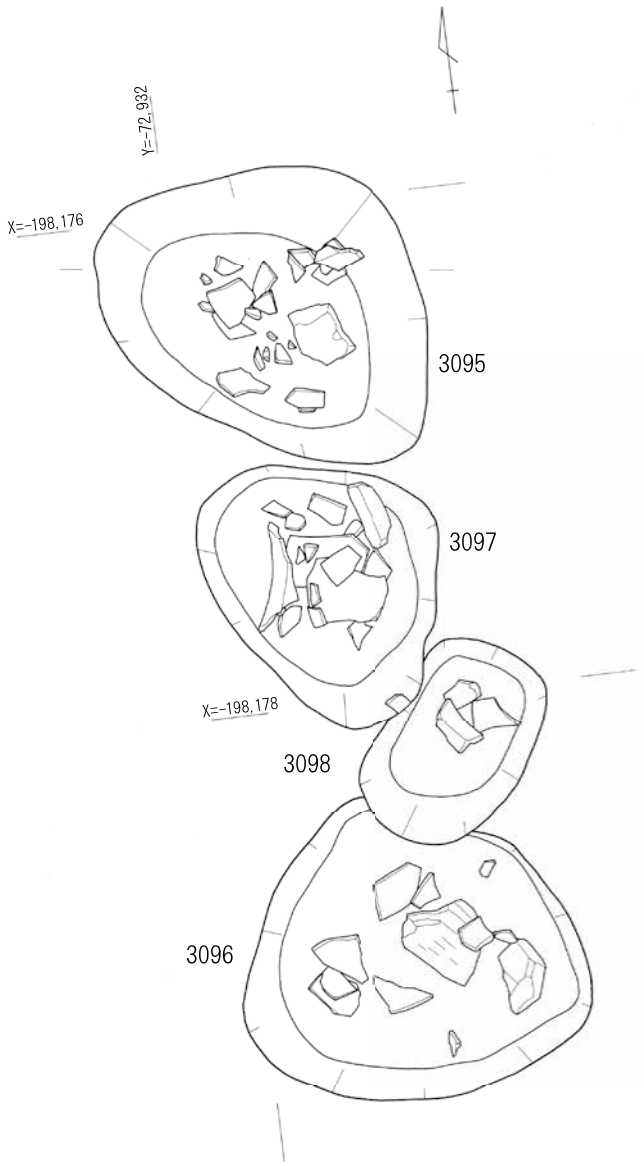
1　10YR5/6 黄褐細砂

3101 南北溝

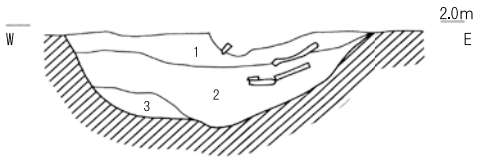


1　10YR5/1 褐灰細砂
2　10YR4/6 褐細砂





3095 土坑



1　2.5Y5/2 暗灰黄細砂
2　2.5Y4/1 黄灰細砂
3　2.5Y3/1 黒褐細砂



図 52　３区　中世末～近世初頭の遺構①（S=1：40、S=1：30）

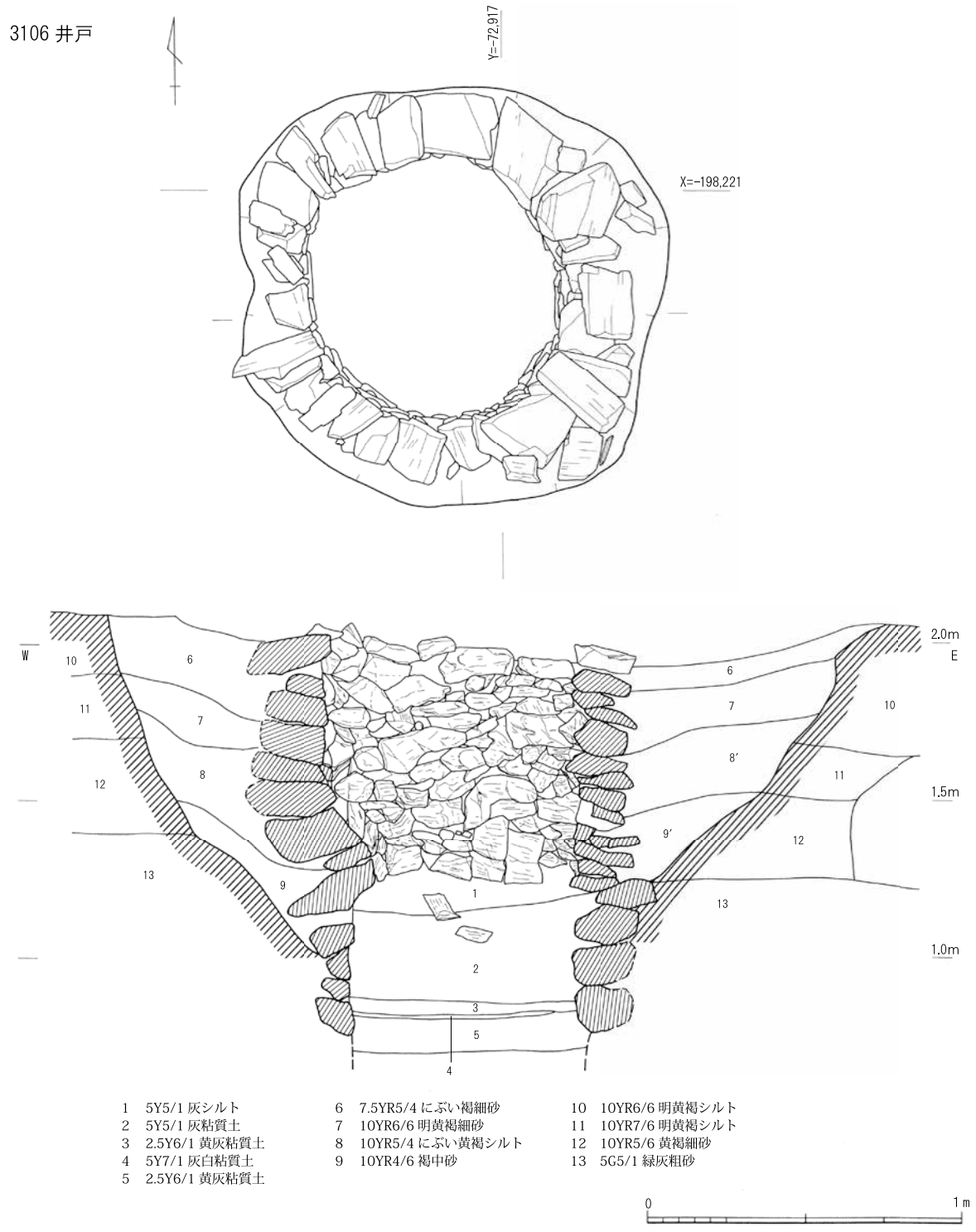


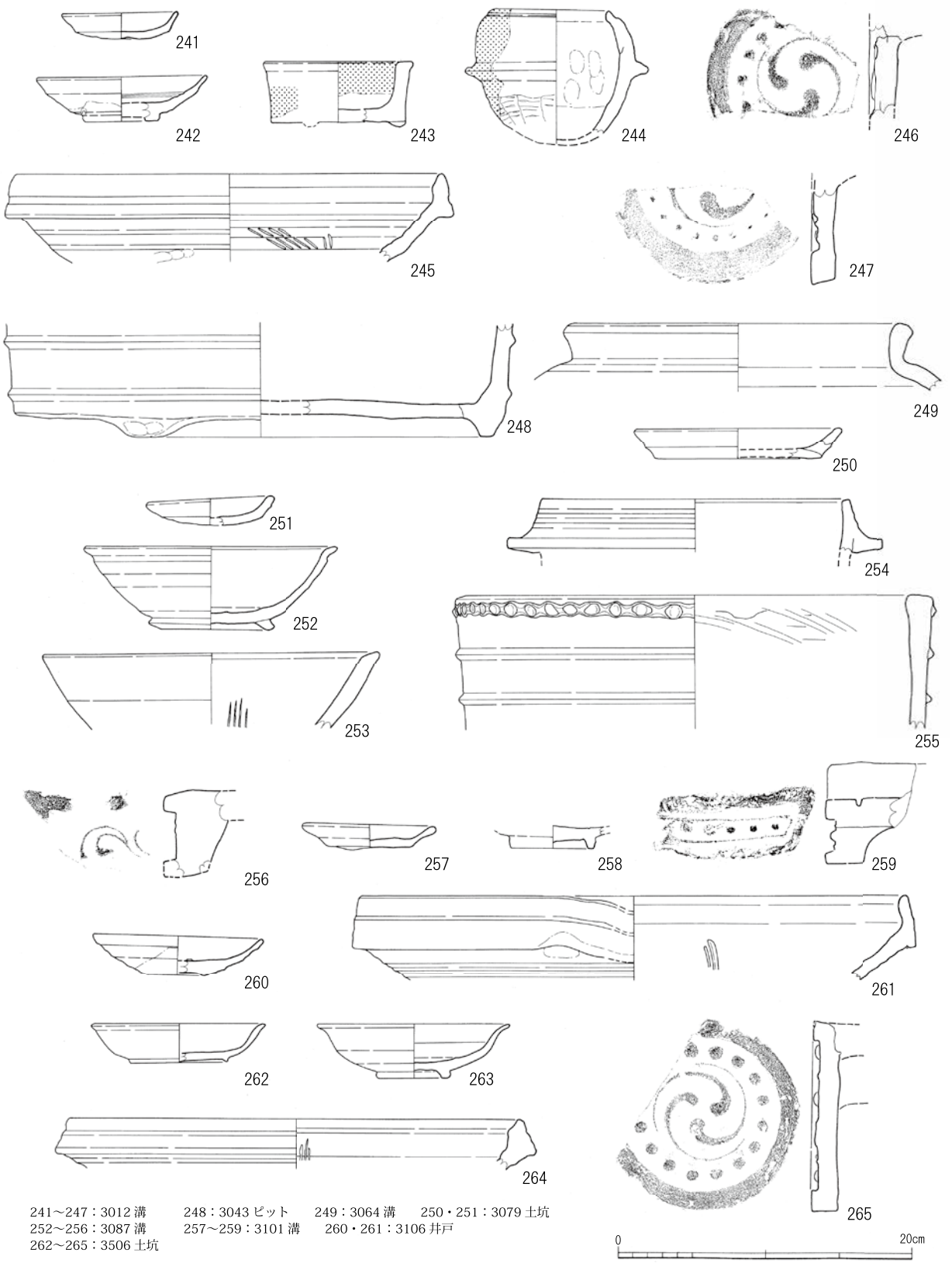
図 53　３区　中世～近世初頭の遺構②(3106 井戸)（S=1：20）

(1) 室町時代～江戸時代初頭の遺構・遺物

調査区の北西と南に区画溝・土坑があり、調査区中央部に井戸・ピットが検出された。

3012 東西溝

３区南側で検出した幅 1.0 ～ 1.5 m、深さ 0.4 mの溝。底が平坦で、土器･瓦が多数出土した。241 ～ 247 が出土し、242 は胎土目のある肥前陶器で 1600 年前後、245 は備前焼の擂鉢で 17 世



241～247：3012 溝　248：3043 ピット　249：3064 溝　250・251：3079 土坑
252～256：3087 溝　257～259：3101 溝　260・261：3106 井戸
262～265：3506 土坑

図 54　３区　中世末～近世初頭の遺構出土土器・瓦

紀初頭の遺物と考えられる。243・244 は煤が付着している。246・247 の巴文軒丸瓦は瓦当面に離れ砂を用いたものと考えられる。

3043 ピット

３区中央で検出した径 0.5 ～ 0.6 ｍのピット。瓦質土器の３足の火鉢 (248) が出土した。

3064 南北溝

3064 は南北溝と考えられている遺構で、備前焼大甕の口縁部 (249) が出土した。

3079 土坑・3083 ピット・3091 土坑

調査区北西部で確認された土坑・ピット。3079 土坑からは土師質の皿 (250)・小皿 (251) が出土している。3083 ピット・3091 土坑からは瓦器・陶器・土釜の破片が出土した。

3087 溝

３区北西部で検出された幅約１ｍの溝状遺構で、西北西から東南東に伸びる。13 世紀代の山茶碗 (252) のほか、瓦質土器の擂鉢 (253)・羽釜 (254)・火鉢 (255) が出土している。出土地点が離れているが、248 と同一個体である可能性もある。切り合い関係から 3101 溝に後出するが、遺物の年代はあまり遅れない。

3095 ～ 3098 土坑・3101 溝

調査区北西部で確認された溝と土坑。3095 ～ 3098 土坑は南北に並ぶ、径 0.6 ～ 1.3 ｍの不整形土坑で、3095 のみ深い。3101 溝は幅約２ｍ、深さ約 0.3 ｍの南北溝で、3095 ～ 3098 土坑の西側約３ｍに位置する。これらの遺構埋土及び周辺径 10 ｍの範囲の包含層からは同一個体となる備前焼大甕 (189) の上半部の破片が多数出土している。3095 は甕を据え置いた土坑があった可能性もあるが、底部の破片は全く出土していないため判然としない。3101 溝を埋め立てた整地土に入っており、その後、3087 溝が形成された可能性が高い。3101 溝からは、土師質小皿 (257)、青磁碗 (258)、連珠文軒平瓦 (259) が出土した。

3106 井戸

3106 井戸は、直径 1.4 ｍの円形石組井戸。石積みは、結晶片岩の板石を小口積みにして直立気味に積み上げられる。井戸廃棄の段階で、井戸内に直径 20 ～ 30 ㎝大の礫を投棄している。井戸内からは唐津焼小皿 (259)、備前焼擂鉢 (260) が出土し、16 世紀後半～ 17 世紀初頭のものと考えられる。断ち割り調査を行ったところ逆円錐形に掘り方を掘り、板石を積み上げていった状況を示していた。

3506 土坑

３区南東部、3012 溝の東側で検出された土坑。261 は志野焼で、胎土目が残る。1610 年代の遺物と考えられる。262 は肥前系陶器で、1620 年代の遺物と考えられる。263 は備前焼擂鉢の口縁部片、264 は巴文軒丸瓦。17 世紀初頭の遺構と考えられる。

(2) 江戸時代後期を主体とする遺構

調査区全域で、屋敷地に伴うものとみられる暗渠・埋桶・土坑等を確認した。

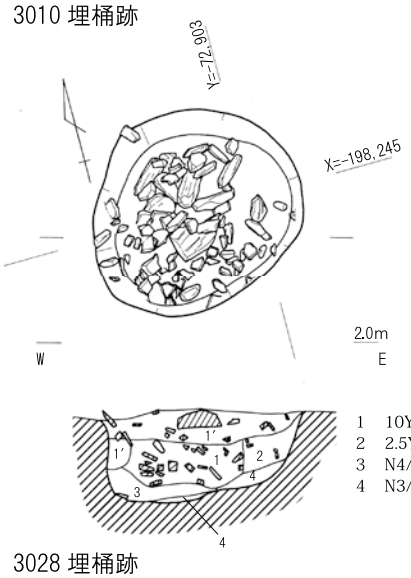
3001 溝

３区南端で検出した南北溝。付近では巴文軒平瓦 (266) が出土している。近世初頭の遺構の可能性もあるが、判然としない。

3010・3015・3028・3036・3037・3076 他　埋桶

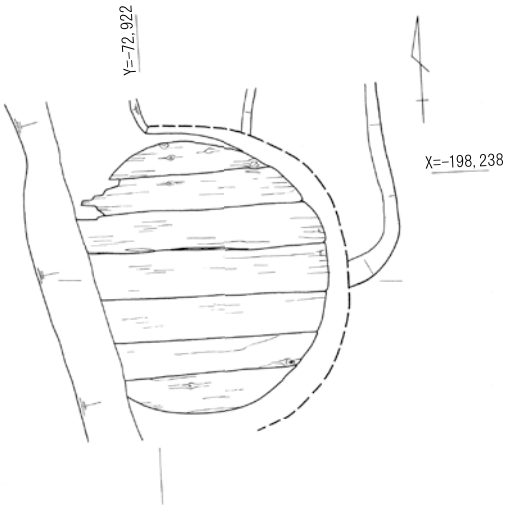
３区中央西側及び南東部に集中的に分布する。木製の桶が残存するものと、痕跡のみが残るものがある。3010・3028 は径 1.1 ｍの円形土坑で、桶の残存状況が悪い。3015 は径 1.0 ～ 1.1 ｍと比較的小型の桶が残存する。3036・3037・3076 は、７～８枚の板を合わせた底径 1.3 ～ 1.4 ｍ、高さ 0.4 ｍ以上の桶を、桶とほぼ同じ大きさの掘り方内に埋めている。これらの埋土からは多数

3010 埋桶跡

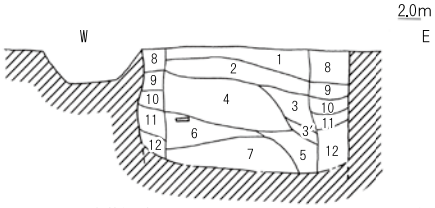


1　10YR3/4 暗褐細砂（礫・瓦片多量）
2　2.5Y5/2 暗灰黄細砂
3　N4/ 灰色シルト
4　N3/ 灰色シルト

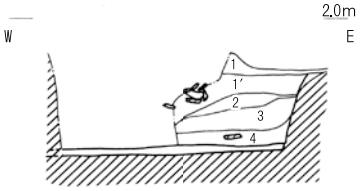
3036 埋桶



3028 埋桶跡

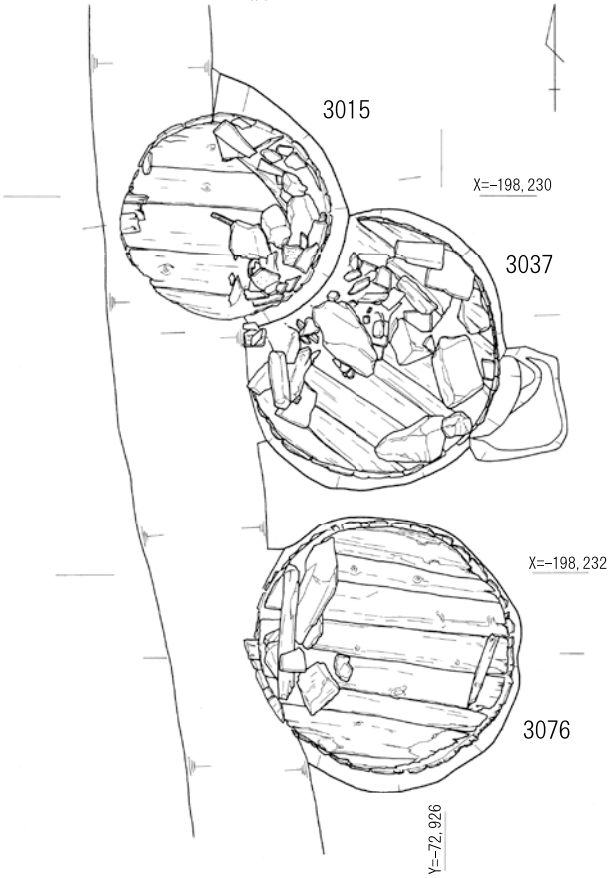


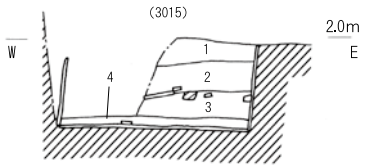
1　2.5Y7/3 浅黄細砂
2　2.5Y7/2 灰黄細砂
3　2.5Y6/1 黄灰細砂
4　10YR6/1 褐灰シルト～細砂
5　10YR6/1 褐灰細砂
6　2.5Y6/1 黄灰細砂
7　5Y6/1 灰シルト～細砂
8　2.5Y7/6 明黄褐細砂
9　2.5Y7/2 灰黄粗砂
10　2.5Y6/1 黄灰中砂～細砂
11　2.5Y7/2 灰黄粗砂
12　2.5Y6/1 黄灰中砂～細砂



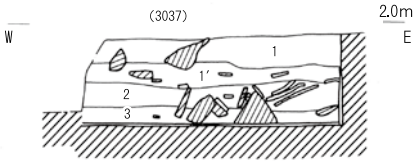
1　10YR6/6 明黄褐細砂
2　10YR5/1 褐灰細砂
3　10YR5/1 黄灰細砂～シルト
4　N4/ 灰シルト

3015・3037・3076 埋桶

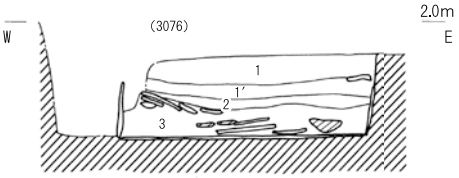




1　5Y5/1 灰細砂
2　2.5GY6/1 オリーブ灰シルト～細砂
3　2.5G5/1 オリーブ灰シルト
4　5GY5/1 オリーブ灰細砂



1　5Y4/1 灰細砂
2　10YR4/1 褐灰シルト
3　N4/ 灰シルト



1　10YR4/1 褐灰細砂
2　10YR5/1 褐灰細砂～シルト
3　N4/ 灰シルト

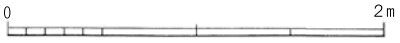


図 55　３区　近世の遺構①（埋桶）（S=1:40）

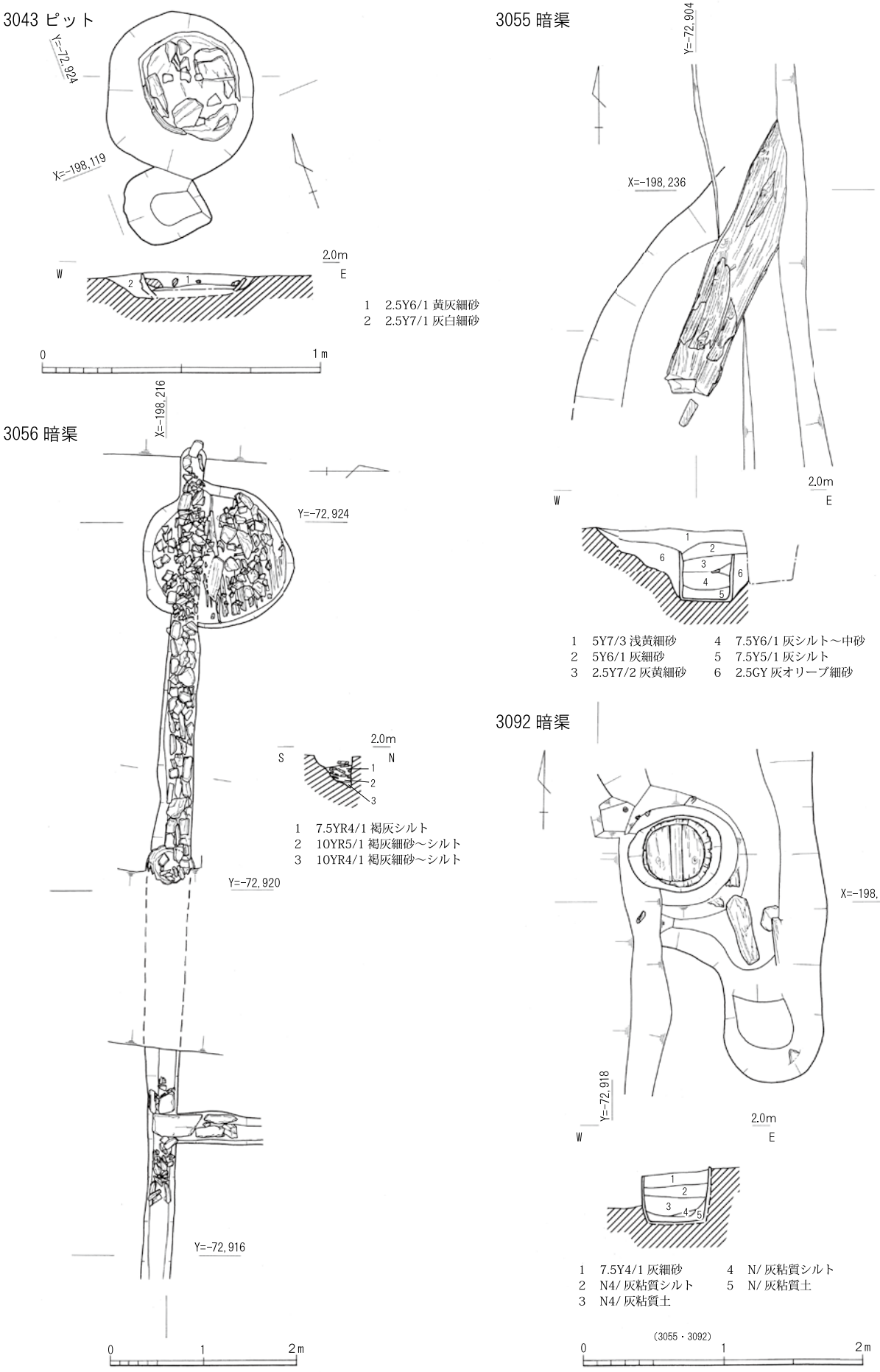


図 56　３区　近世の遺構②(S=1：20、S=1：40、S=1：60)

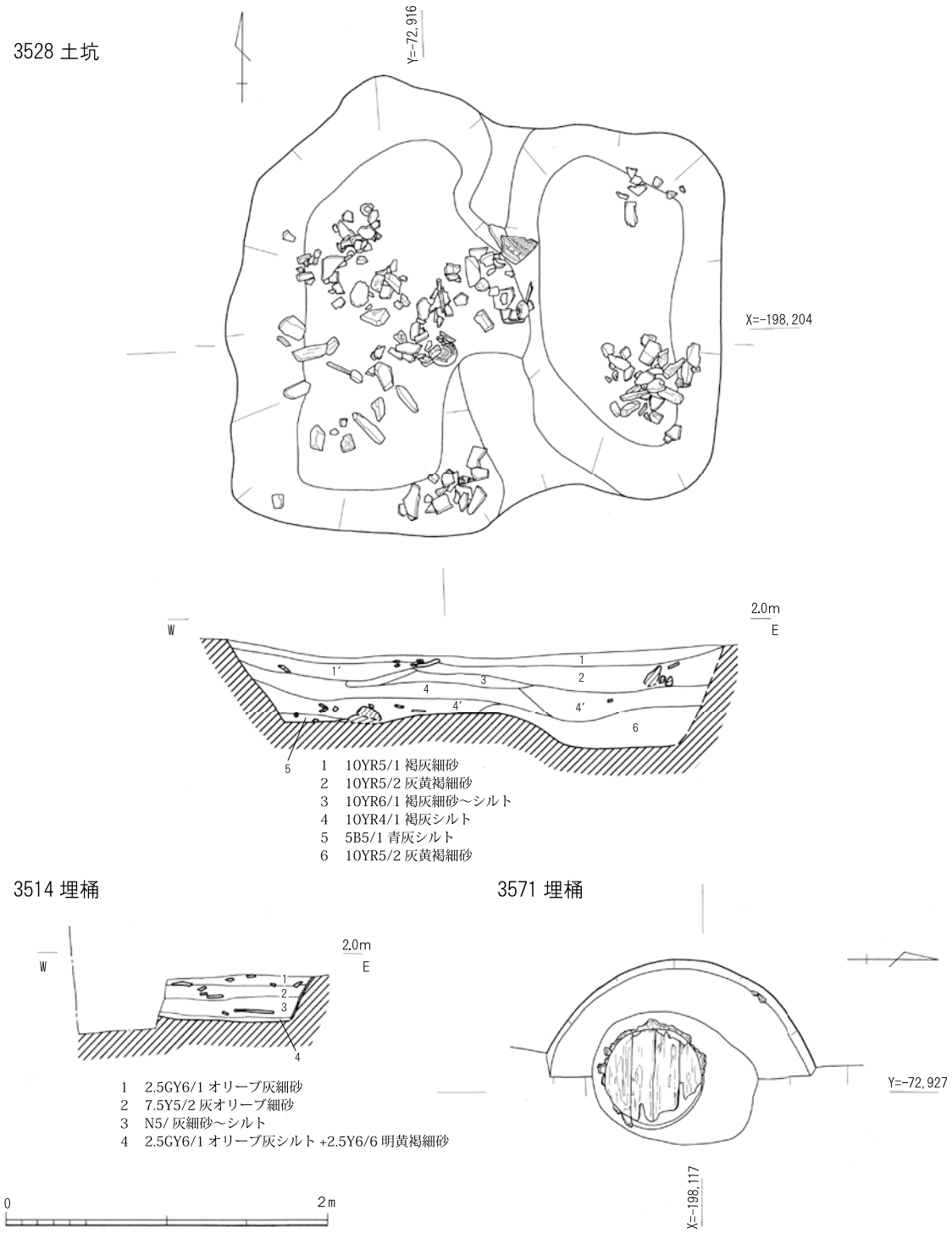


図 57　３区　近世の遺構③(S=1:40)

の陶磁器・土師質土器・瓦片（267 ～ 269）が出土しているが、いずれも破片である。269 はいわゆる江戸式の文様をもつ軒平瓦である。

3029 土坑

270 は 3029 土坑で出土した懸軒平瓦。いわゆる大阪式の瓦当文様をもつ。

3055 暗渠

３区南東で検出した一辺 0.35 mのコの字状の木製暗渠。

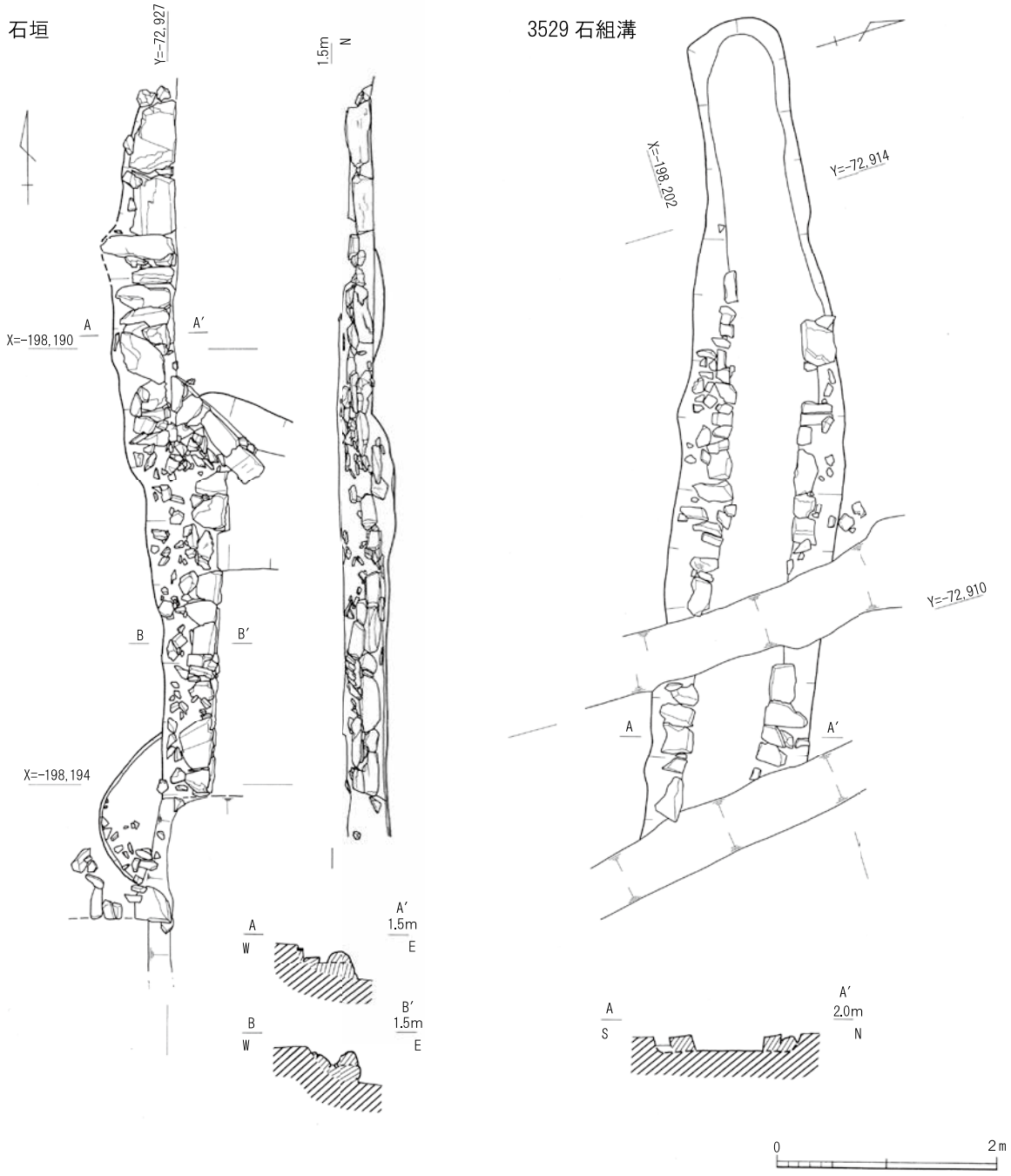


図 58　３区　近世の遺構④(S=1:60)

3056 暗渠

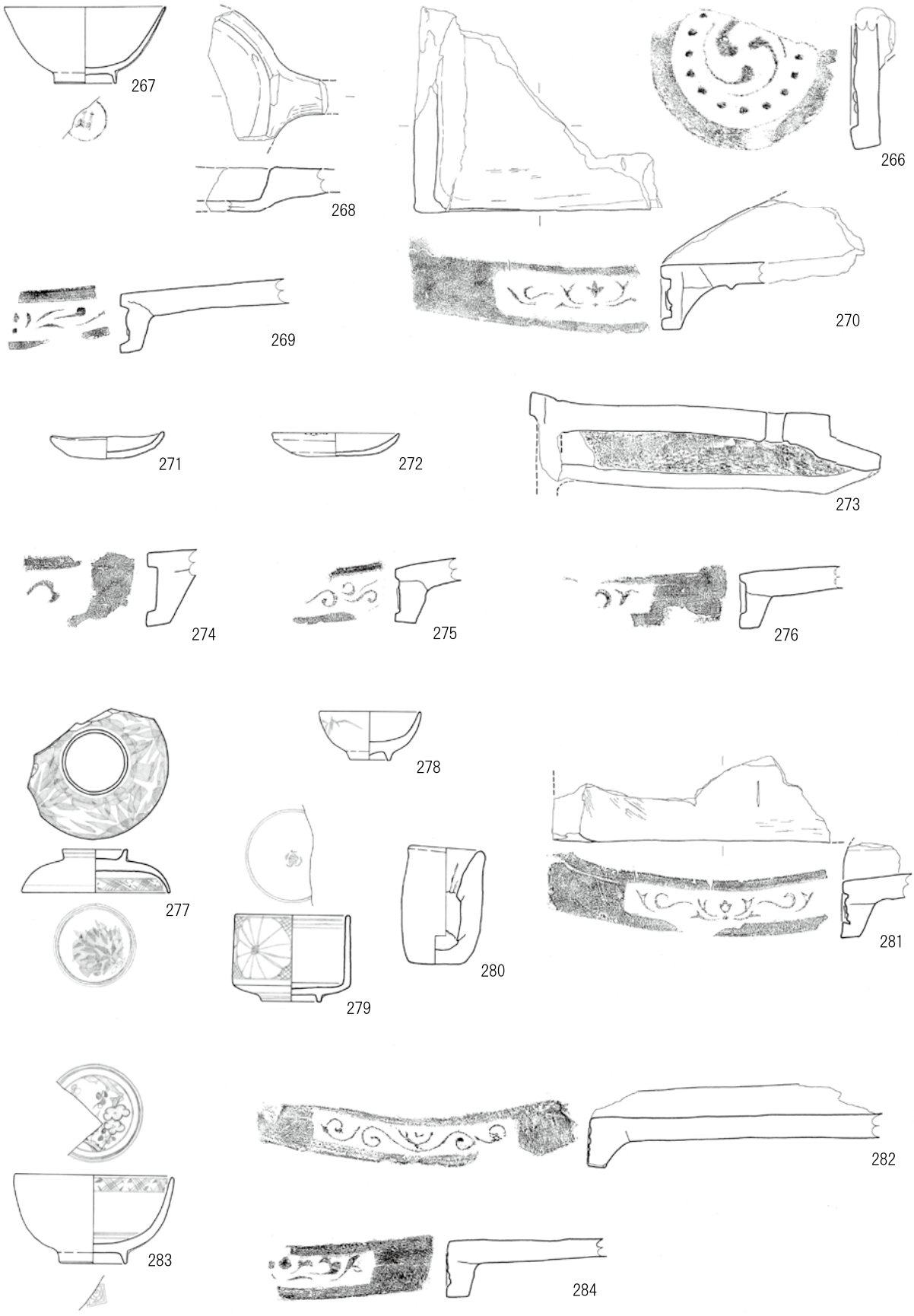
３区中央で検出された東西方向の暗渠。幅、深さは 0.3 ～ 0.4 ｍで、溝内は石と瓦で充填されている。土師質小皿 (271・272)、軒丸瓦 (273)、軒平瓦 (274 ～ 276) が出土した。

3071 溝

３区北を東南東－西北西方向に流れる溝で、現在の地割とほぼ同じ位置に存在する。3071 溝は石垣へ向かって伸び、石垣は 3071 溝より北と南で石積みの方向を変えることから、土地境界、または屋敷地を画する溝であったと考えられる。溝からは肥前系の染付 (277 ～ 279)、焼塩壺 (280) 等が出土した。

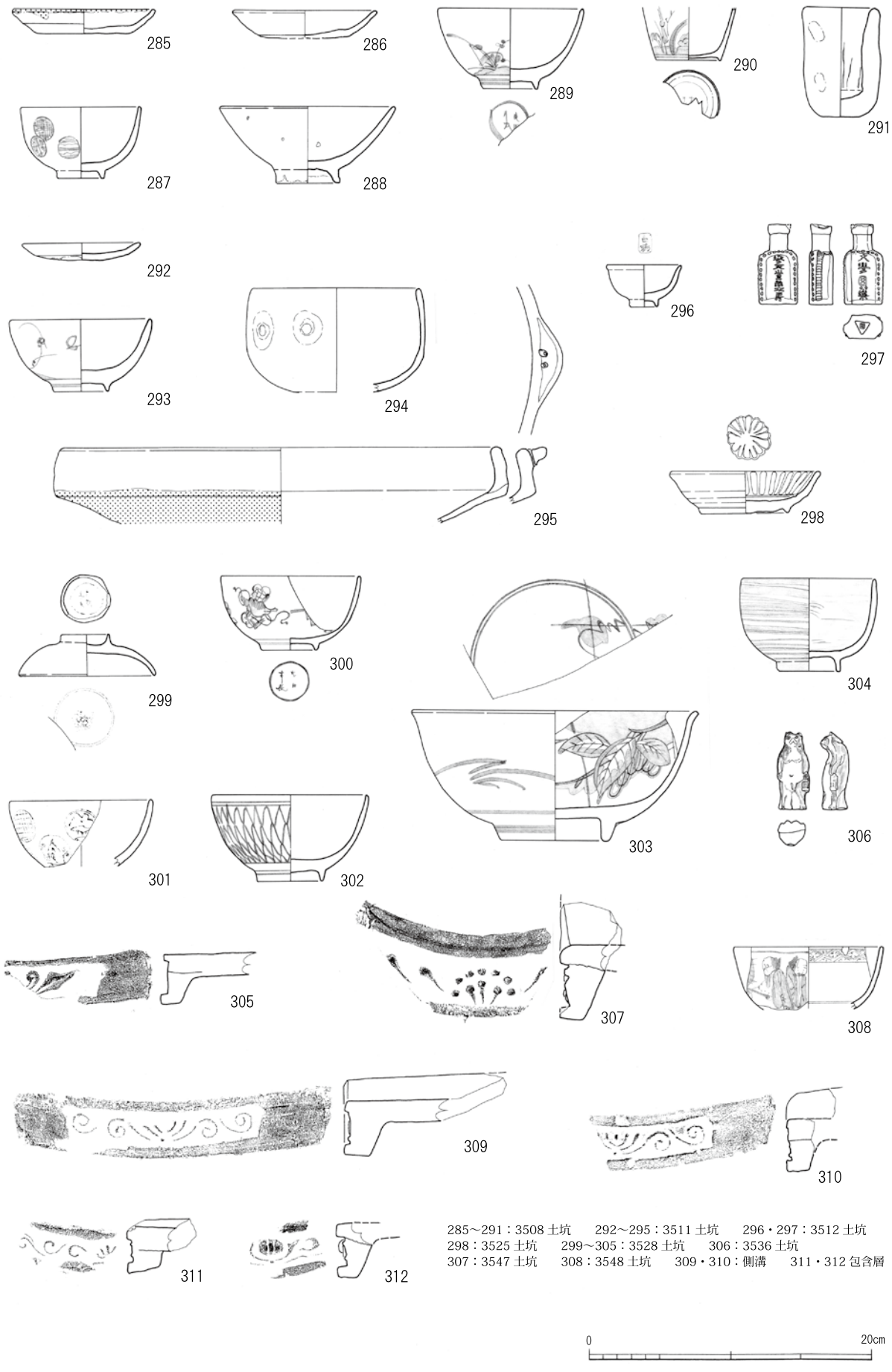
3092 埋桶

３区中央で検出された、径 0.4 ～ 0.5 ｍの桶を据え付けた土坑。他の埋桶とは大きさ、検出位



266：3001 溝付近　267～269：3010 埋溝　270：3029 土坑　271～276：3056 暗渠
277～280：3071 溝状遺構 281：石垣　282：3505 土坑　283・284：3506 土坑

図 59　3 区　近世の遺構出土土器・瓦①



285～291：3508 土坑　292～295：3511 土坑　296・297：3512 土坑
298：3525 土坑　299～305：3528 土坑　306：3536 土坑
307：3547 土坑　308：3548 土坑　309・310：側溝　311・312 包含層

図 60　３区　近世の遺構出土土器・瓦他②

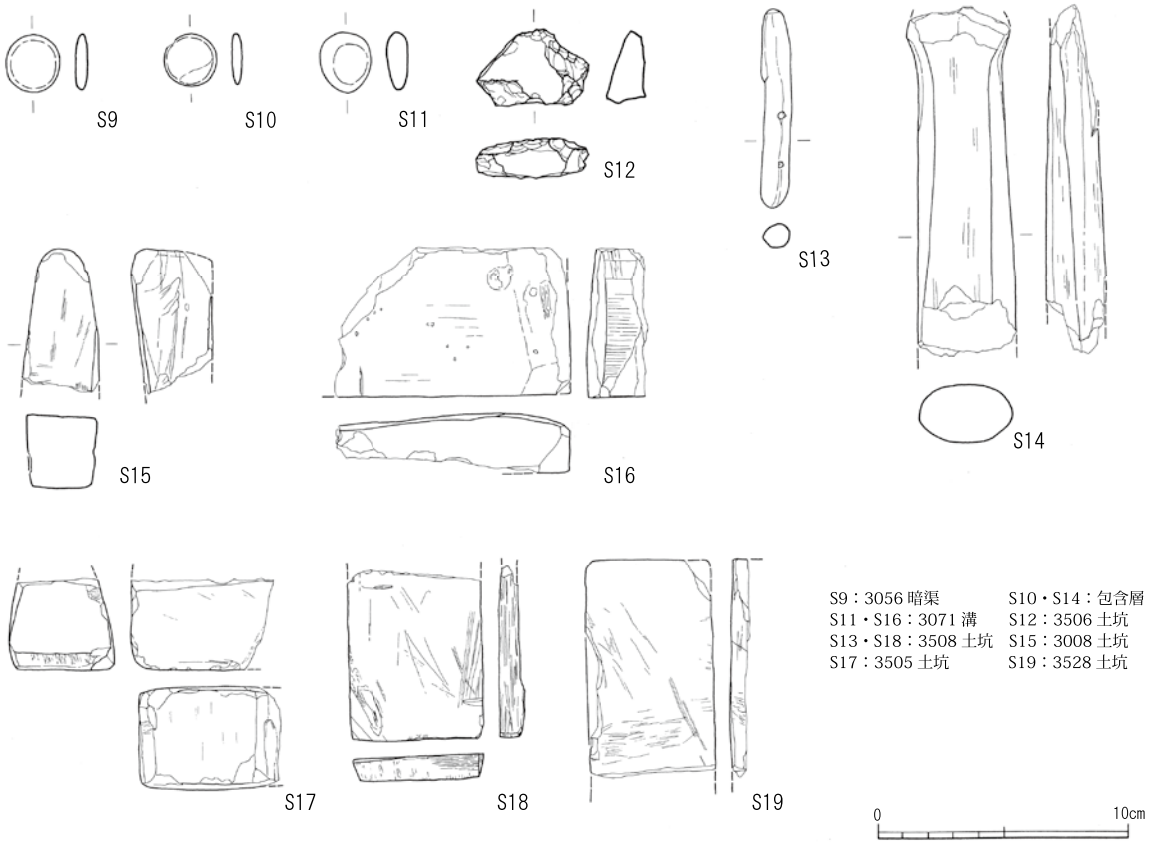


図 61　3 区　中世末期～近世の石器・石製品（石④）

置が異なり、埋土も他の埋め桶が瓦礫混じりの砂質土ないしシルトであるのに対し、灰色粘質土で埋まっている。周囲の遺構と一連のものとして、南東部に階段状の入口をもつ半地下式の遺構内に据えられている可能性も考えられる。

3134 土坑

3134 土坑は、南北 2.5 m、東西 3 mの大型の土坑である。土坑底部からは江戸時代中期の肥前陶磁器・唐津大皿・瀬戸陶器・土師器皿が出土している。

3508 土坑

3 区南東の大型廃棄土坑。土師質皿（285・286）、染付（287・289・290）、灰釉の陶器碗（288）、焼塩壺（291）等が出土した。

3511 土坑

3 区中央南東側で検出した大型廃棄土坑。土師質皿（292）、染付碗（293）、黒色釉の陶器（294）、焙烙（295）等が出土した。

3528 土坑

一辺約 3 mの土坑で、東西二つの土坑が繋がったような形状をしている。18 世紀の肥前系染付埦・蓋・鉢（299 ～ 303）、施釉陶器埦（304）、軒平瓦（305）等が出土した。

3514・3571 埋桶

3571 は径 0.6 mと小型の埋桶で、径 1.5 m以上の大型で浅い窪みの中に据えられている。

石垣 1

近世以降に造成された段の北側長さ 4.0 m、高さ 0.6 mの範囲で検出した遺構である。石材は長さ 50 ㎝、高さ 30 ㎝程の結晶片岩の板石を積み上げているが、依存状況は悪い。石垣付近より

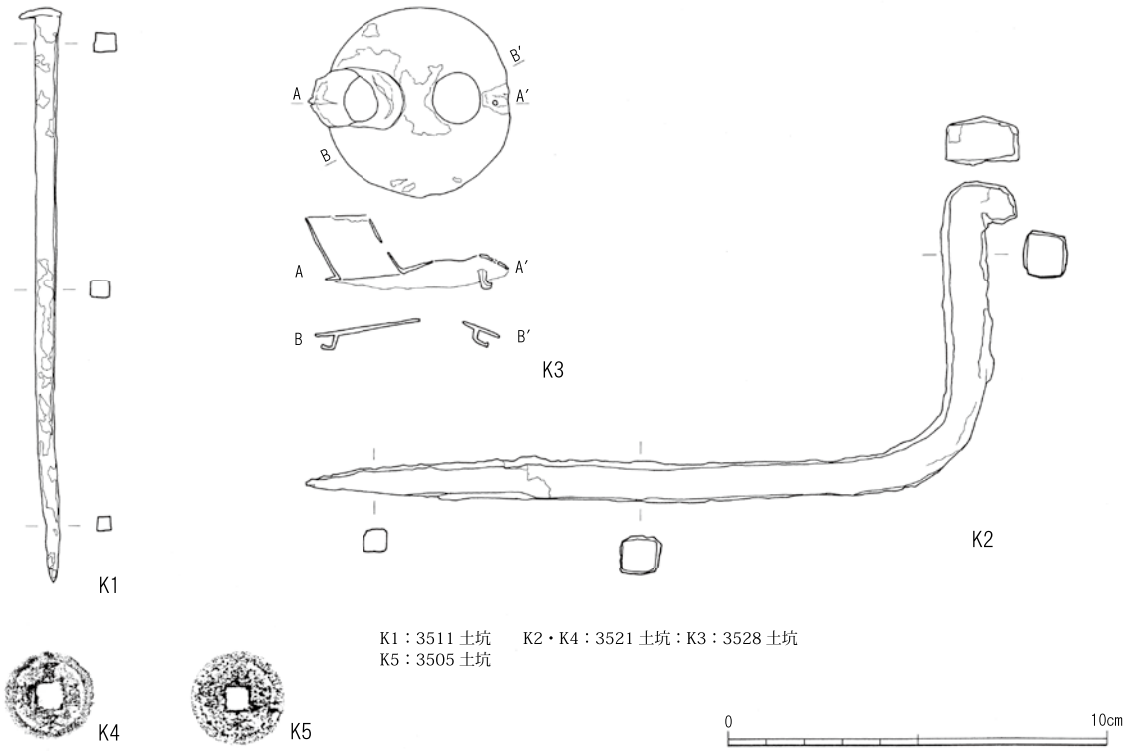


図 62　3 区　中世末期～近世の金属製品・銭貨（金属①）

出土した遺物より、江戸時代後期以前に築かれたと考えられる。造成段の状況から、石垣は段の南側にも続くと考えられる。石垣に並行して 3118 溝が南北方向に流れており、石垣に囲まれた屋敷地の東側を区画する溝と考えられる。石垣に伴い大阪式の懸軒平瓦（281）が出土している。

3529 石組溝

3071 溝の南側に平行して検出された石組溝。溝幅は 0.6 ｍ、残存する深さは石一段分となる 15 ㎝程度である。

このほか、江戸時代の屋敷地が廃絶した際の廃棄土坑とみられる遺構から、16 世紀後半の瀬戸美濃菊皿（298）から近世末～近代等の遺物（296・29・306 ～ 308）が出土した。このほか、調査区側溝や包含層から軒平瓦片（309 ～ 312）が出土した。

(3) 室町～江戸時代の石器・石製品

S9 ～ S11 は黒い碁石。S9・S10 は径 2.1 ㎝、厚さ４㎜。S11 はやや不整形である。

S12 はチャート製の石器で、稜線上に敲打痕が残る。火打石と推定している。

S13 は緑色片岩の長さ 7.8 ㎝、径５㎜の棒。側面に２か所小さな窪みがみられる。

S14 は一方が薄く幅広くなる、棒状製品。

S15 ～ S19 は砥石。きめがあまり細かくない方形・棒状のもの（S15 ～ 17）と、きめ細かく、剥離もしているが、板状を呈してるもの（S18・19）が確認される。

S9 は 3056 暗渠、S11･16 は 3071 溝、S15 は 3008 土坑、S12 は 3506 土坑、S13･18 は 3508 土坑、S17 は 3505 土坑、S19 は 3528 土坑から出土した。

(4) 室町時代～江戸時代の金属製品

K1・K2 は和釘。K1 は 3511 土坑から出土した。K2 は途中で 90 度に曲ったもので、3521 土坑で出土した。

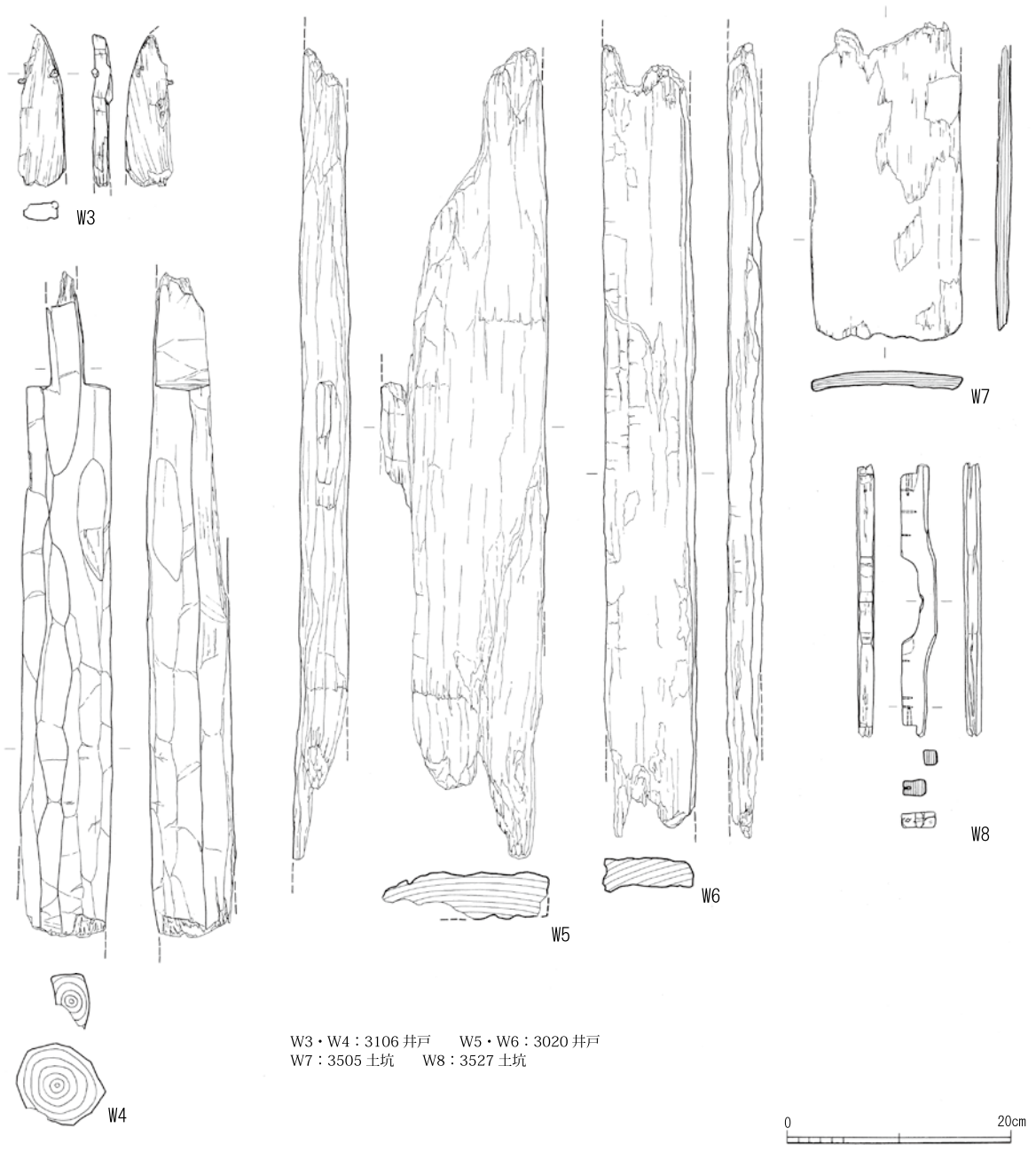


図 63　3 区　中世末期～近世の木製品（木②）

K3 は銅製品の破片。筒型製品の注ぎ口と推定される。

K4・K5 は寛永通宝。

(5) 室町時代～江戸時代の木製品

W3・W4 は 3106 井戸から出土した木製品。W3 は板状の製品破片、W4 は面取りした棒状製品で、少なくとも一方に突出部をもつ。

W5・W66 は 3020 井戸から出土した板状製品。長さ 0.7 m以上、幅 14 ㎝と 8 ㎝。

W7 は 3505 土坑から出土した板状製品。

W8 は把手状製品片

第４節　４区の調査

１　概要

４区は調査対象地のやや北寄り、２区の北側、３区の南側にあたる調査区である。調査区は東西幅約 23 m、南北幅 18 ～ 20 m、調査面積 443 ㎡であるが、やや平行四辺形気味の形状をしており、北東部に若干の突出部を設定している。

４区では、東端部で弥生時代～古墳時代の溝、中央で竪穴状遺構を確認したほか、近世とみられる石組井戸・埋桶、土坑・溝・ピットを検出した。出土遺物は計 18 箱分である。

２　弥生時代～古墳時代の遺構と遺物

(1) 弥生時代の竪穴状遺構

4021 竪穴状遺構

４区中央で検出した、東西約 3.8 m、南北 4.3 m以上の竪穴状遺構。関連する可能性のある遺構として、4090 ～ 4094 ピット・土坑が検出された。埋土からは 317 ～ 320 が出土しており、318 はヘラ描き沈線で木の葉文を描いており、遠賀川式の壺片の可能性がある。

(2) 弥生～古墳時代の遺構・遺物

4001 溝

４区北西端で検出した溝。4019 溝に先行し、２時期の別の溝に区分できる。西側にある上層溝は 4005 溝と同一溝、東側の下層溝は３区の 3032 の延長部と推定される。

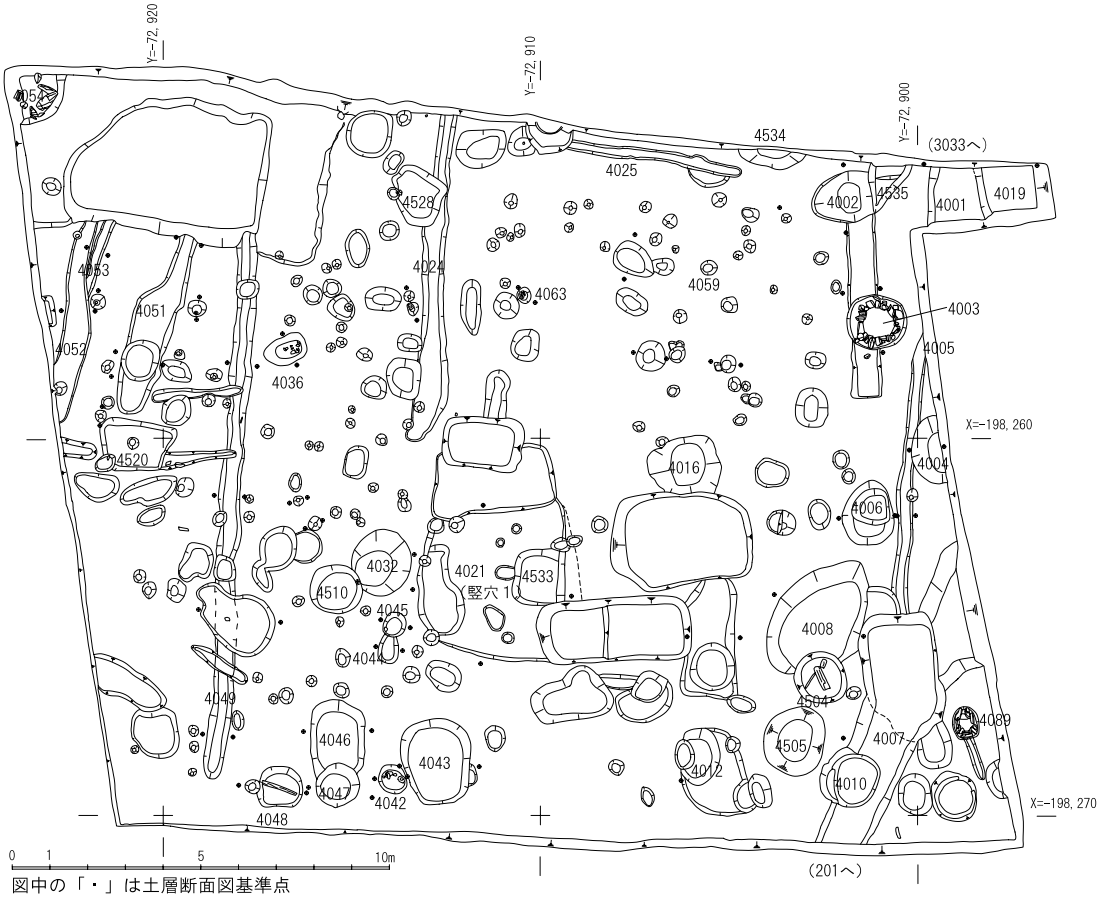


図 64　４区平面図（S=1：200）

4021（竪穴状遺構１）

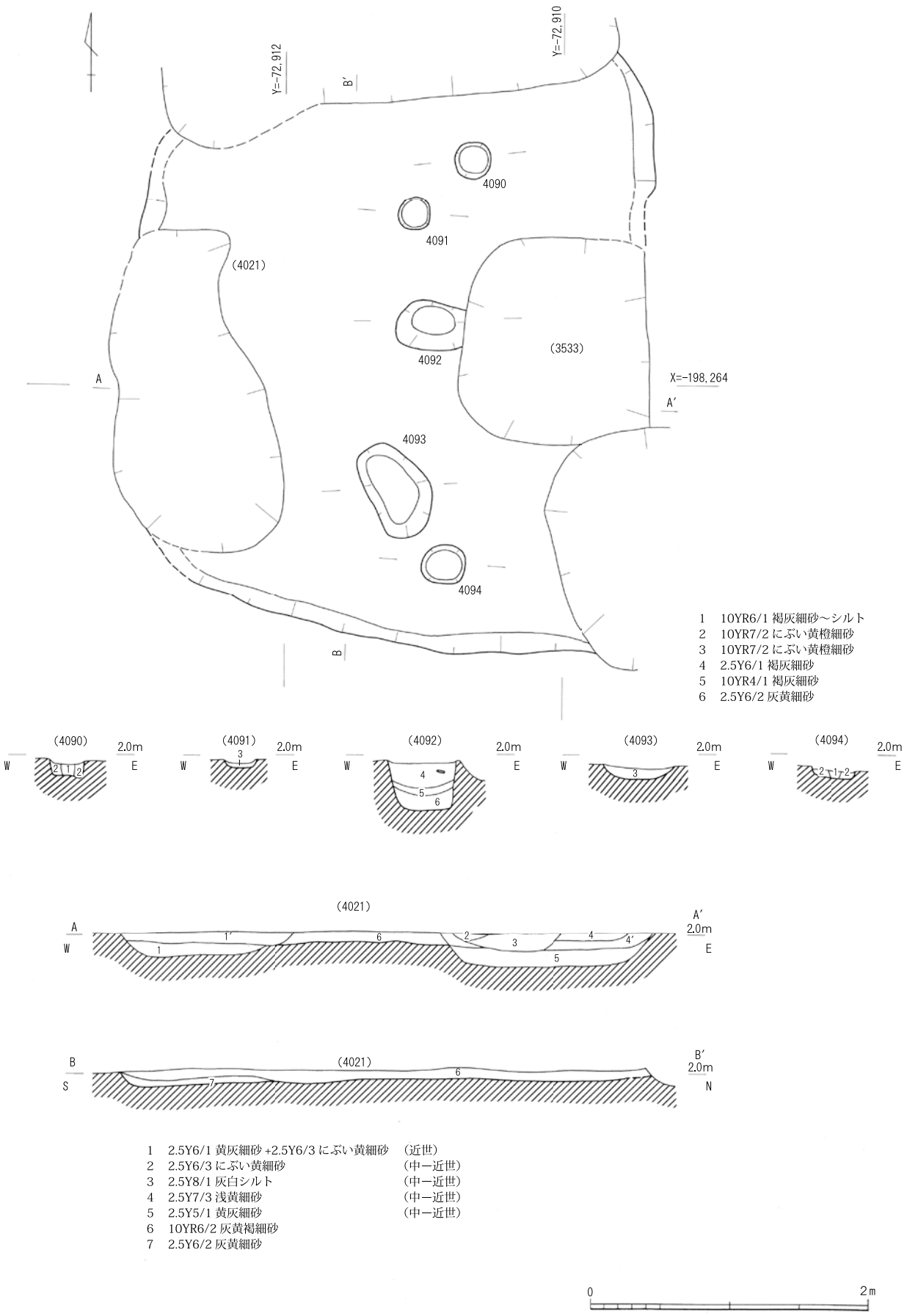
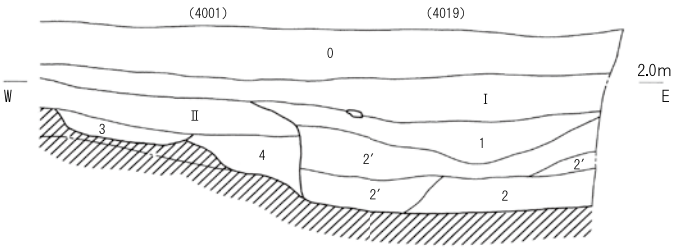


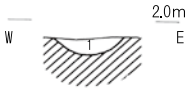
図 65　４区　弥生～古墳時代の遺構①（竪穴状遺構１）（S=1:40）

4001 溝他



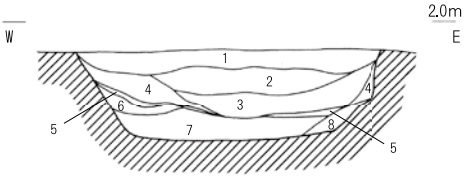
0　2.5Y6/3 にぶい黄細砂
I　2.5Y5/3 黄褐細砂 +2.5Y6/1 黄灰シルト～細砂
II　2.5Y6/1 黄灰細砂
1　2.5Y5/3 黄褐細砂～中砂 +2.5Y6/1 黄灰中砂
2　2.5Y6/1 黄灰中砂 +2.5Y6/4 にぶい黄中砂
3　2.5Y6/1 黄灰細砂
4　2.5Y6/1 黄灰細砂～中砂

4005 溝



1　2.5Y6/1 黄灰細砂

4007 溝



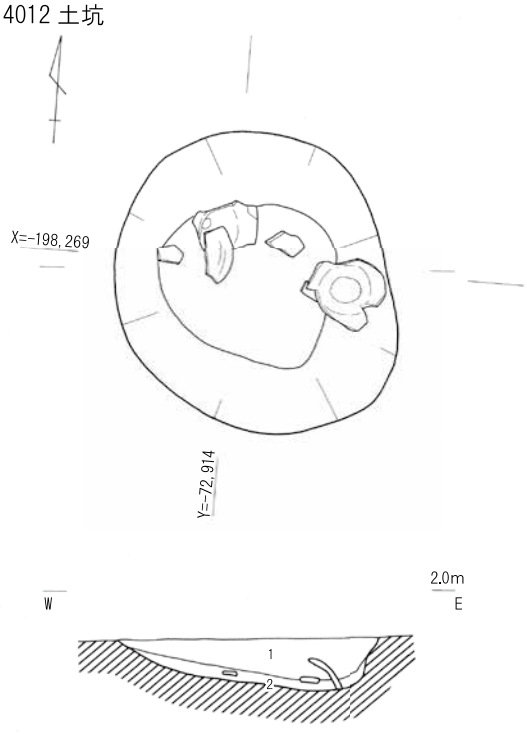
1　2.5Y7/1 灰白細砂 +2.5Y6/1 にぶい黄細砂
2　2.5Y7/2 灰黄細砂 +2.5Y6/1 にぶい黄細砂
3　2.5Y6/1 黄灰細砂～中砂
4　2.5Y7/1 灰白細砂 +2.5Y6/1 にぶい黄細砂
5　2.5Y6/1 褐灰シルト
6　2.5Y5/1 黄灰細砂
7　2.5Y7/1 灰白細砂～中砂 +2.5Y6/1 にぶい黄細砂
8　10Y5/1 褐灰シルト

4036 土坑



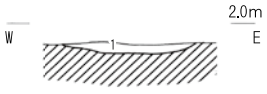
1　2.5Y7/2 灰黄細砂
2　2.5Y7/1 灰白細砂

4012 土坑



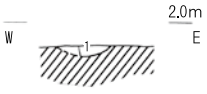
1　2.5Y6/1 黄灰細砂
2　2.5Y8/4 淡黄細砂

4052 ピット



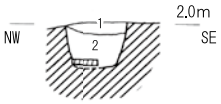
1　2.5Y7/2 灰黄細砂

4053 ピット

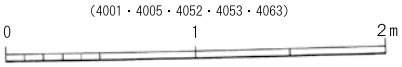


1　2.5Y6/1 黄灰細砂

4063 柱穴



1　10YR5/3 にぶい黄褐
2　10YR6/1 褐灰細砂



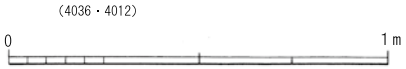


図 66　４区　弥生～古墳時代の遺構②（S=1:40、1：20）

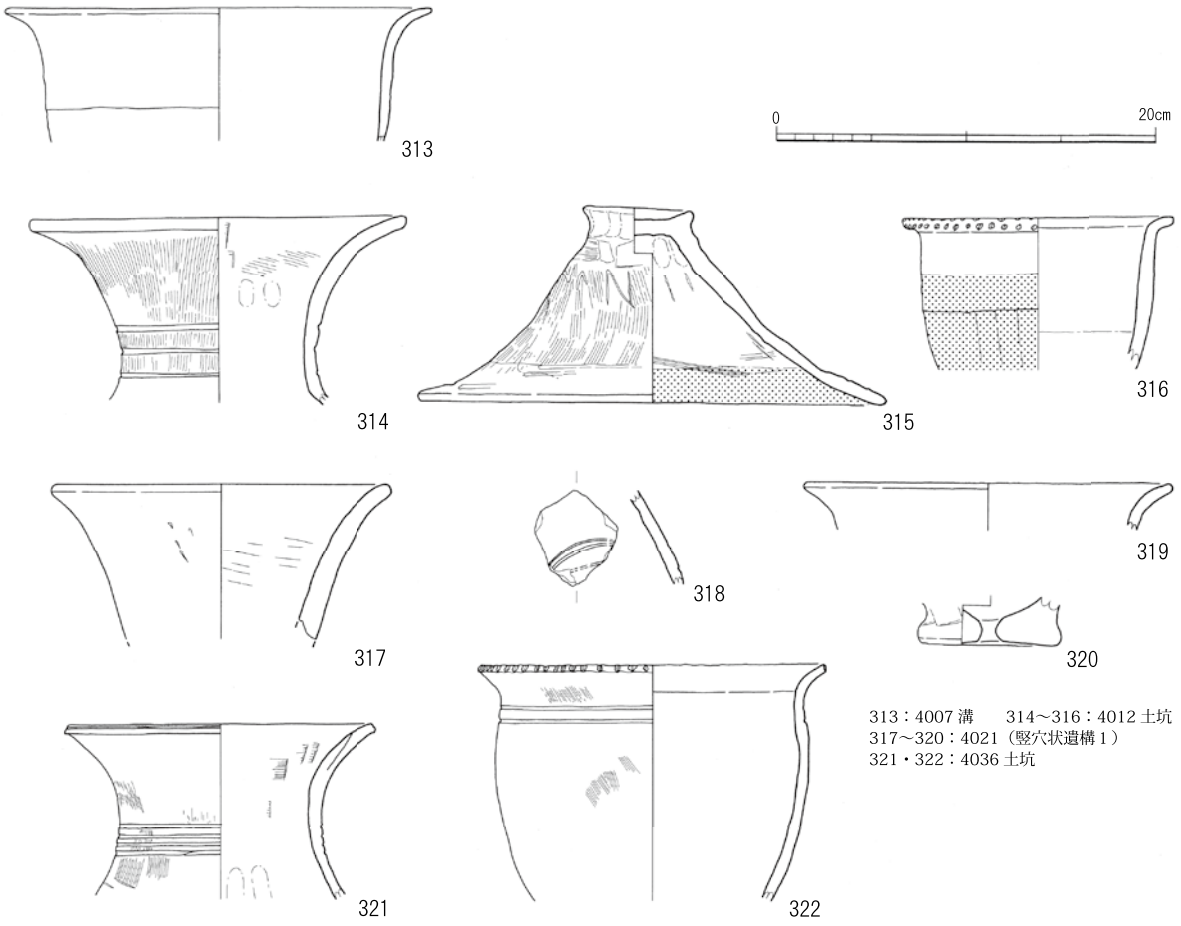


図 67　４区　弥生時代の遺構出土土器

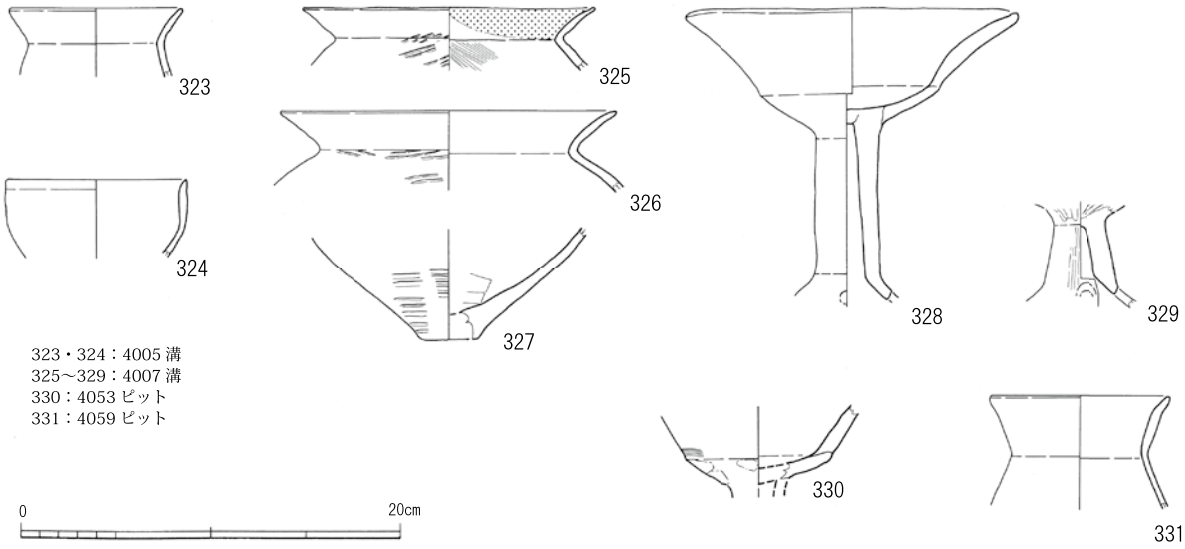


図 68　４区　古墳時代の遺構出土土器

4005 溝

４区東部で検出された幅 0.4 m、深さ 0.1 mの小溝。小型の甕（323）、小型の埦形（324）等が出土している。

4007 溝

４区南東部で検出した、南西向きに流れる溝。幅 1.6 m、深さ 0.5 mで、下層から弥生時代中期の紀伊型甕（313）が

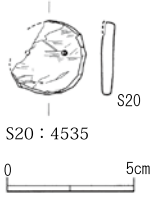


図 69　４区　双孔円盤（石⑤）

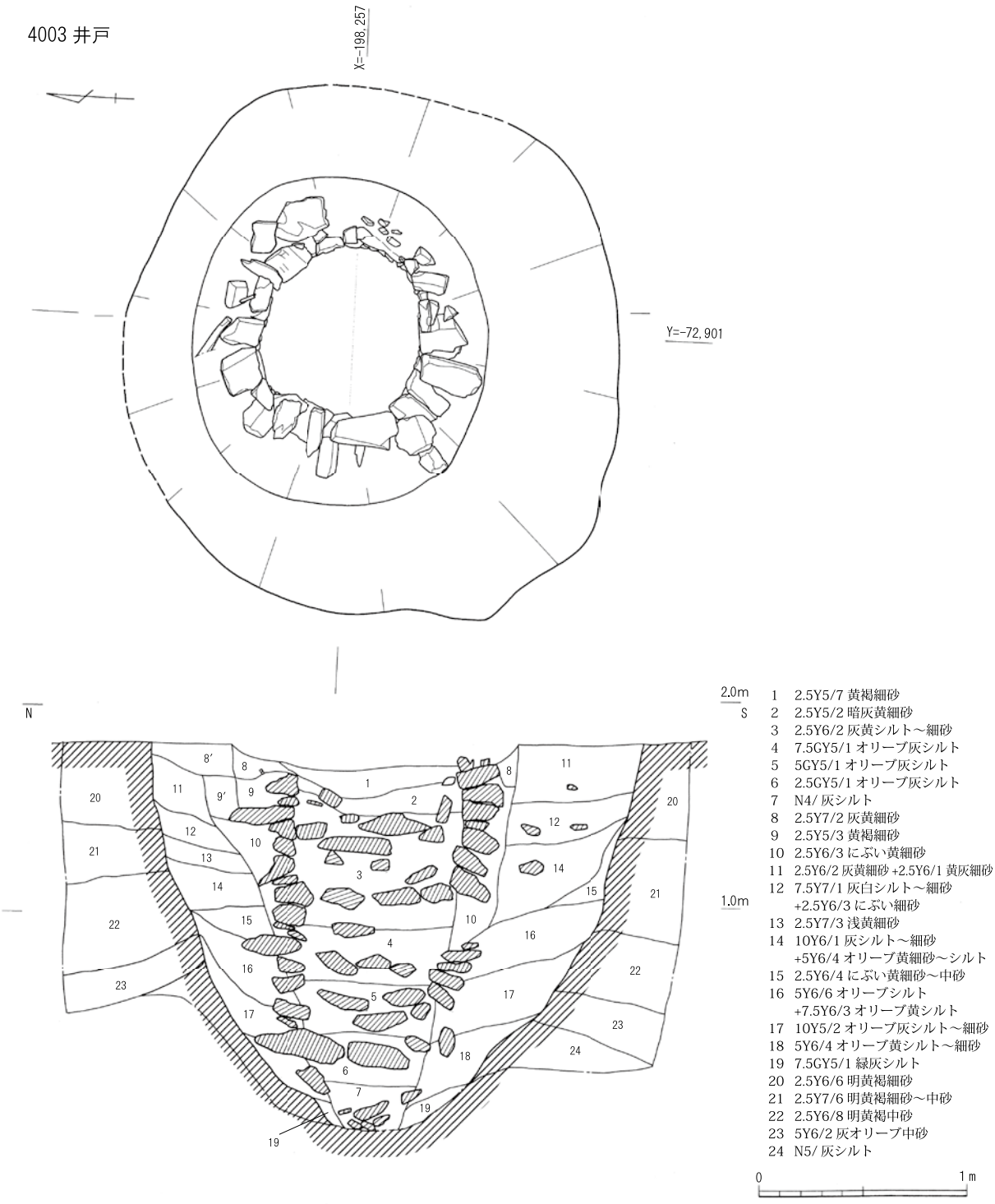


図 70　４区　近世の遺構①(4003 井戸)（S＝1：30）

出土したほか、後期のタタキ甕 (325 ～ 327)、高坏 (328・329) が出土している。

4012 土坑

４区南東部で検出した土坑。314 は頸部に三条のヘラ描き沈線文を施す広口壺である。315 は底径 24.4 ㎝、高さ 10.2 ㎝、紀伊形甕に伴う蓋とみられる土器である。316 は弥生時代中期の紀伊型甕であるが、口縁端部に上下から指頭圧痕を施す。

4036 土坑

４区北西部で検出した東西 1.15 m、南北 0.75 mの土坑。頸部に４条のヘラ描き沈線を施す広

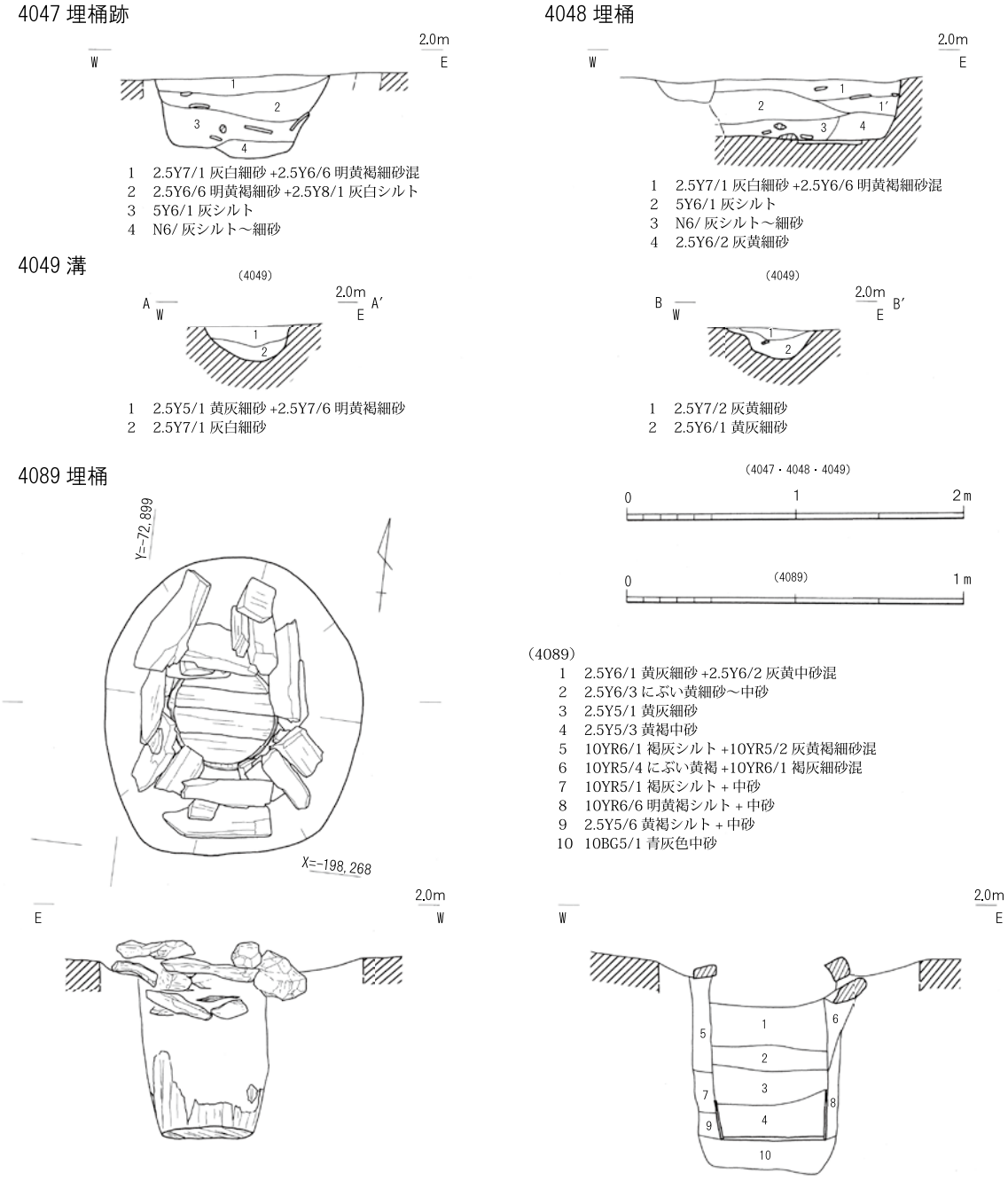


図 71　４区　近世の遺構②(S=1:40、1：20)

口壺 (321) と、肩部に２条のヘラ描き沈線を施す甕 (322) である。

4042 土坑

４区南西部で検出した径約 0.8 ｍの土坑。

4052・4053 溝

４区西側で検出した小溝。4052 溝は幅 0.8 ｍ、4053 溝は幅 0.3 ｍで、残存する深さは 10 ㎝以下である。高坏の破片 (330) が出土した。

(3) 古墳時代の石製品

S 20 は４区北東にある近世～近代の 4535 土坑埋土から出土した滑石製双孔円盤。径約３㎝、厚さ２㎜。

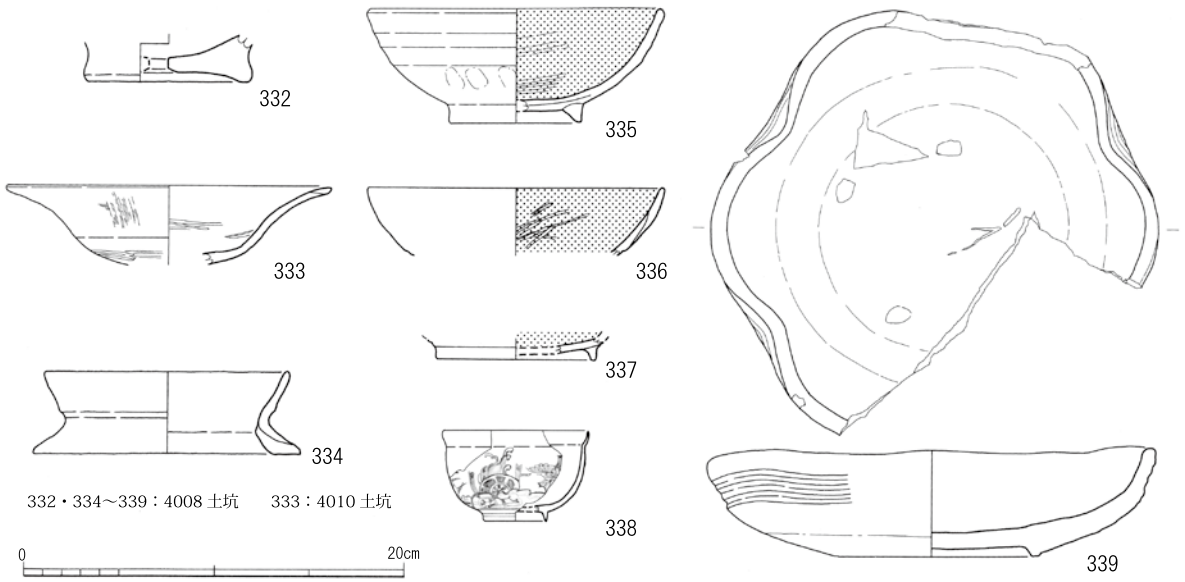


図 72　４区　近世の遺構出土土器①（各時代の遺物混在）

３　古代の遺構・遺物

古代の遺構は非常に希薄である。

4063 柱穴

４区中央北側で検出した礎板をもつ柱穴。土師器埦破片とみられる土器が出土しており、古代末の遺構の可能性が考えられる。

４　近世の遺構・遺物

(1) 近世の遺構・遺物

近世の遺構は多く、調査区全域に井戸・埋桶・土坑が散在している。東西・南北方向に走る小溝は多様な年代の土器が微量入るが、江戸時代の遺物が入るものが多い。

4003 石組井戸

４区北東で検出した検出面の径約 0.8 m、深さ 1.8 m以上の石組井戸。石組は崩れている部分も多く、井戸内の埋土には多数の石が入っている。掘り方は約 2.5 mで逆円錐形を呈する。底は緑灰シルトの湧水層とみられる層まで掘削している。丸瓦・平瓦片（340 ～ 342）が出土したが、形成・廃絶年代は判然としない。

4008 土坑

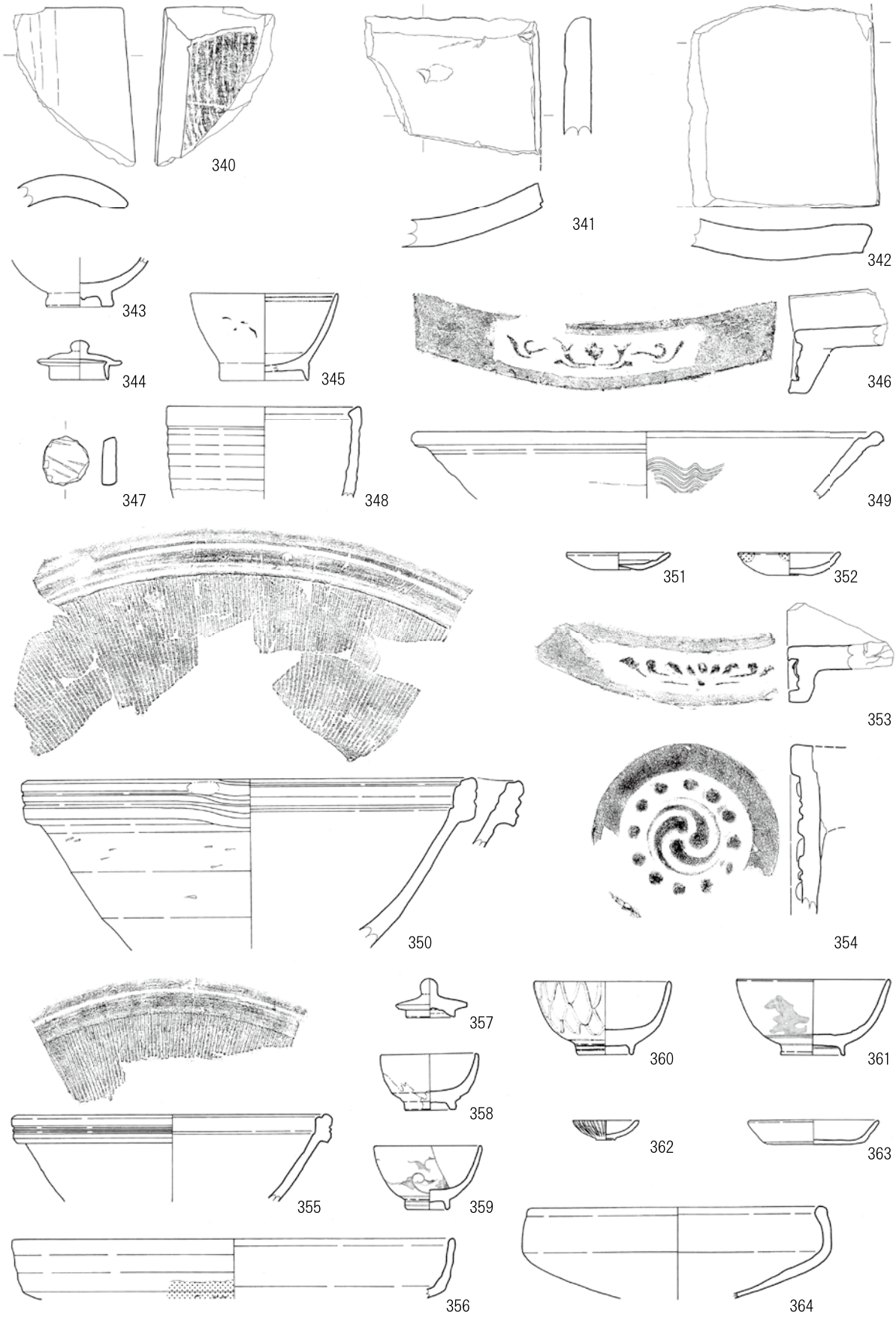
４区南東部で検出した近世の土坑であるが、様々な年代の遺物が混入する。332 は弥生土器の平底底部で中央に穿孔する。333 は高坏の坏部で、縦・横方向のヘラミガキを施す。334 は器台と考えられる。335 ～ 337 は内面の黒い黒色土器椀。335 は復元径 15.2 ㎝、高さ 6.0 ㎝。338 は染付碗、339 は瀬戸美濃と考えられる陶器の六花形浅鉢。

4019 溝

４区北東突出部で検出された江戸時代の溝。施釉陶器碗（343）が出土した。３区の 3002 溝と同一遺構と考えられる。

4046 土坑

４区南西部で検出した土坑。344 は京信楽系水注の蓋。4046 は肥前系染付の広東碗。19 世紀



340～342：4003 井戸　343：4019 溝　344・345：4046 土坑　346：4047 埋桶　347：4048 土坑　348・349：4089 埋桶
350：4504 土坑　351・352：4505 土坑　353・354：4510 土坑　355～361：4520 土坑
362：4528 土坑　363：4533 土坑　364：4534 土坑

図 73　４区　近世の遺構出土土器・瓦②

前半の遺構と考えられる。

4047・4048 埋桶

４区南西部で検出した埋甕。4047 は掘り方の径 1.4 ｍ、埋桶相当部分が径 1.0 ｍである。大阪式文様の懸軒平瓦が出土した。4048 は径 1.1 ｍ以上の埋桶跡である。347 は陶器製の泥面子。

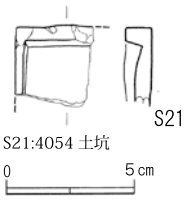


図 74　４区　硯（石⑥）

4049 溝

４区西側で検出した 0.5 ｍ、深さ 0.2 ｍの南北方向の小溝。

4089 埋桶

４区南西部で検出した径 0.6 ｍ、復元高約１ｍの埋桶を据えた土坑で、上面に板石を巡らせている。

4504・4505・4510・4520・4528・4533・4534・4535 土坑

検出時には攪乱と推定されるものであったが、江戸時代の陶磁器他が出土するので遺構として認識している。調査区全域に多数みられ、江戸時代から明治時代への変遷に伴う廃棄土坑が含まれるものと考えられる。350 は 4504 土坑出土の擂鉢、351・352 は 4505 土坑出土の土師質土器小皿で、352 は灯明皿として使用された痕が残る。353・354 は 4510 土坑出土の軒瓦、355 ～ 361 は 4520 土坑出土の陶磁器で、355 は小型の擂鉢、356 は焙烙、357・358 は小型の陶器蓋・碗、359 ～ 361 は肥前系染付碗。362 は 4528 土坑出土の紅皿。363 は 4533 土坑出土の土師質皿、364 は 4534 土坑出土の焙烙。小さな破片から復元しているが、底が平坦なものと考えた方がいいかもしれない。

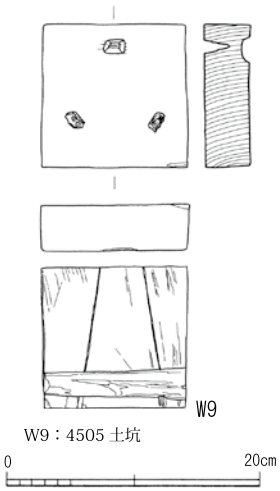


図 75　４区　近世の木製品（木③）

(2)　近世の石製品

Ｓ 21 は４区北西端で検出した 4054 土坑出土の硯の破片である。長方形の硯の３㎝ほどの破片で、縁がやや折れ曲っている。

(3)　近世の木製品

Ｗ９は４区南東部で検出した 4505 土坑出土の木製品である。木製品は一辺 11 ㎝、高さ 3.5 ㎝の方形の台状を呈する。上面とみられる面は平滑で、三箇所均等に小さな長方形の穴があけられている。裏面には幅２㎝、深さ 0.5 ㎝ほどの溝が通る。

第５節　５区の調査

１　概要

(1)　調査区の概要

５区は調査対象地のやや南寄り、２区の南側、６区の北西側、７・８区の北側にあたる。神前の集落の南東を画する琴平社の西に位置する調査区である。調査区は東西幅約 30 ～ 32 ｍ、南北長約 114 ｍ、面積 2,296 ㎡。

調査は、農機進入路・U字溝の関係から 5-1 区から 5-5 区に分け調査を行った。現況は水田であったことから、遺構面の遺存状態は良好で弥生時代から古墳時代の遺構を中心に検出した。調査区内には、弥生時代から古墳時代の溝が北東から南西に流れる。溝はいずれも並行して流れており、合計 14 本以上を数える。

また、５区中央にはこれらの下層遺構として、北東から南西へ伸びる谷状地形があり、最下層は無遺物の流路群、下層は弥生時代前期の遺物を含む下層流路群（5040）で埋没していく。溝状遺構や不整形土坑は 5040 埋土の一部を形成する遺構とも考えられ、谷状地形は幅 10 ～ 15 ｍほどに及んだものと考えられる。弥生時代中期の溝群は 5040 の上面に形成されており、地形の低いところを通る排水用の溝ないし自然流路を浚渫した溝として評価できる。庄内期及び古墳時代中期の遺物を含む溝や土坑は 5040 上面以外の場所にも検出されることから、このころには平坦な場所が広がっていたことがうかがえる。

古代・中世・近世の遺構は少なく、長期にわたり水田であったものとみられる。

５区の主な遺構は、弥生時代前期から中期の溝、庄内期から古墳時代中期の溝・土坑・ピット等を検出した。遺物は弥生土器が圧倒的に多く、総数 172 箱分の遺物が出土している。

なお、５区で検出された弥生時代中期～古墳時代後期の溝は、2010 年度の調査での続き番号で管理されており、溝６(5081)、溝７(5080・5227)、溝８(5096・5206)、溝９(5093・5205)、溝 10(5012・5118・5187)、溝 11(5014・5182)、溝 12(5016・5169・5180)、溝 13(5019・5144)、溝 14(5001・5142)、溝 15(5002・5140) と対応する。

このうち溝７～ 11 は弥生時代中期の溝、溝 12・15 は庄内期～古墳時代中期の溝、溝６・13・14 はこれらの時期の遺物が混在する自然流路を利用した溝と考えられる遺構である。

(2)　土層と包含層出土遺物

５区は、現代耕作土と床土のⅠ層、近世の遺物が見られる整地土のⅡ層がある。古代以降の遺物はほとんど出土せず、水田化されているものと考えられ、Ⅲ・Ⅳ層の年代把握は難しい。Ⅴ層は地山と推定される褐色系のシルト～細砂（Ⅴａ・Ⅴｂ層）と灰色系の粗砂ないし中砂（Ⅴｃ層）から成る。Ⅴａ・Ⅴｂ層とほぼ同系色の土層で弥生時代前期の 5040 に対応する年代の遺物包含層が堆積する場所もあるものとみられる。

図 79 は包含層及び側溝から出土した土器である。365 ～ 368 はⅤ層上面、369 ～ 371 はⅢ層上面、372 はⅡ層、373 は調査区側溝から出土した。367 は調査時にⅣ層の遺物と認識されたもので古墳時代中期の土師器で、甑の牛角状把手と推定される。368 は調査時にⅡ層の遺物と認識された陶器製の円盤で、371 の染付の仏飯器とともにⅡ層が近世の遺物包含層であることを示す遺物とみられる。

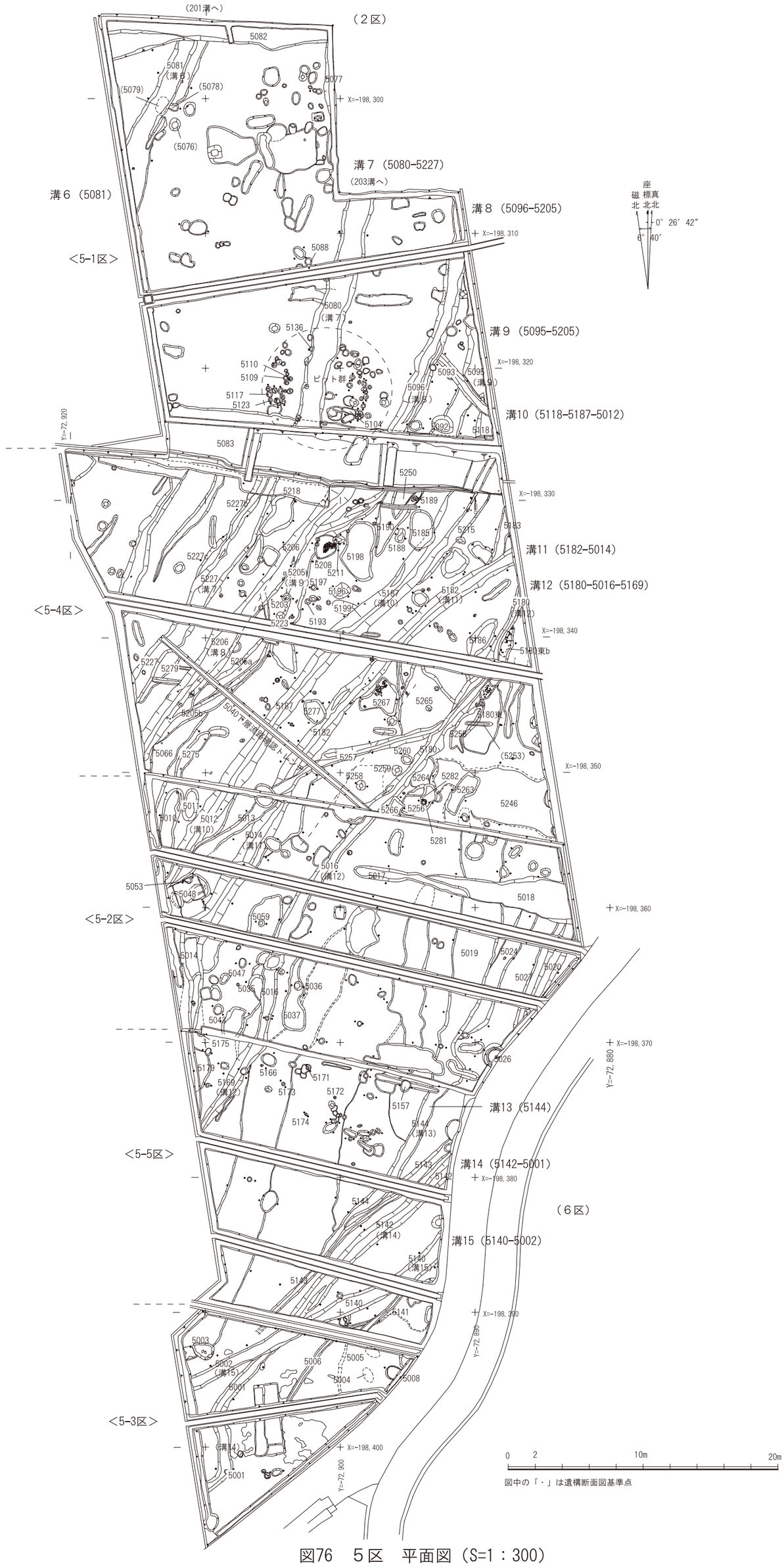
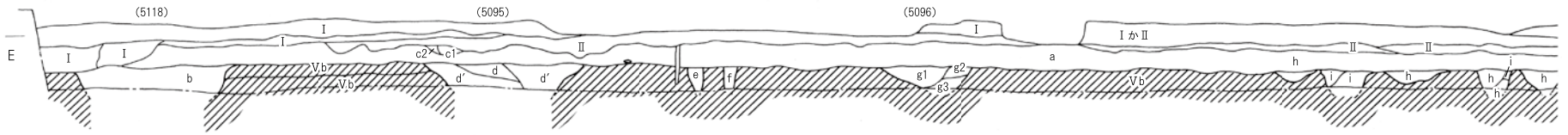
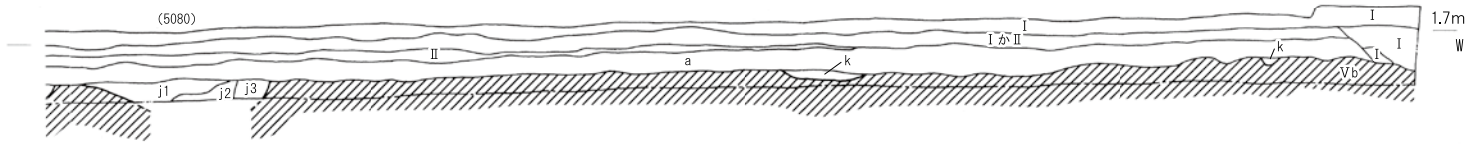


図76　５区　平面図（S=1：300）

5－1区　南壁

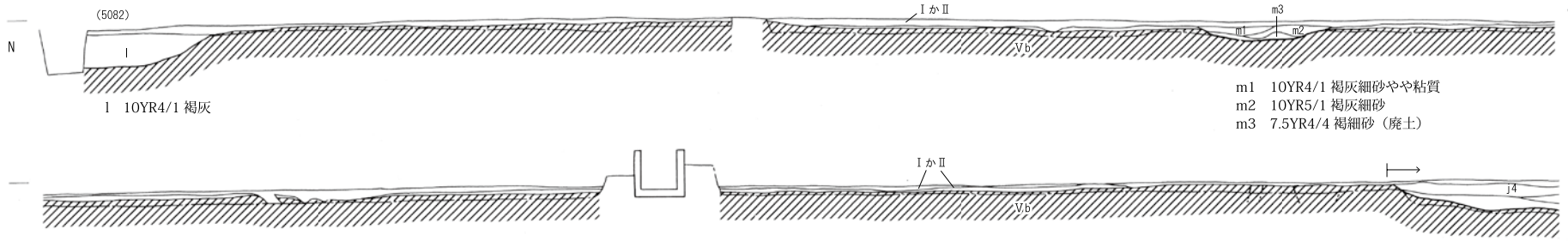


b　10YR4/6 褐細砂
c1　10YR4/6 褐細砂
c2　10YR5/1 褐灰中砂
d　10YR4/4 褐細砂
e　10YR4/4 褐細砂
f　10YR4/6 褐粗砂
g1　10YR4/1 褐灰細砂
g2　10YR5/6 黄褐中砂
g3　10YR5/6 黄褐中砂
h　10YR4/1 褐灰細砂
i　10YR4/6 褐中砂



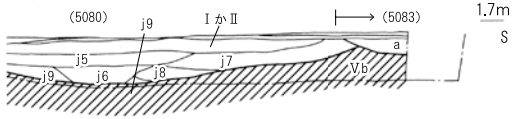
j1　7.5YR4/1 褐灰細砂
j2　10YR4/2 灰黄褐中砂
j3　10YR4/1 褐灰細砂
k　10YR5/1 褐灰細砂

5－1区　南北セクション東壁



l　10YR4/1 褐灰

m1　10YR4/1 褐灰細砂やや粘質
m2　10YR5/1 褐灰細砂
m3　7.5YR4/4 褐細砂（廃土）



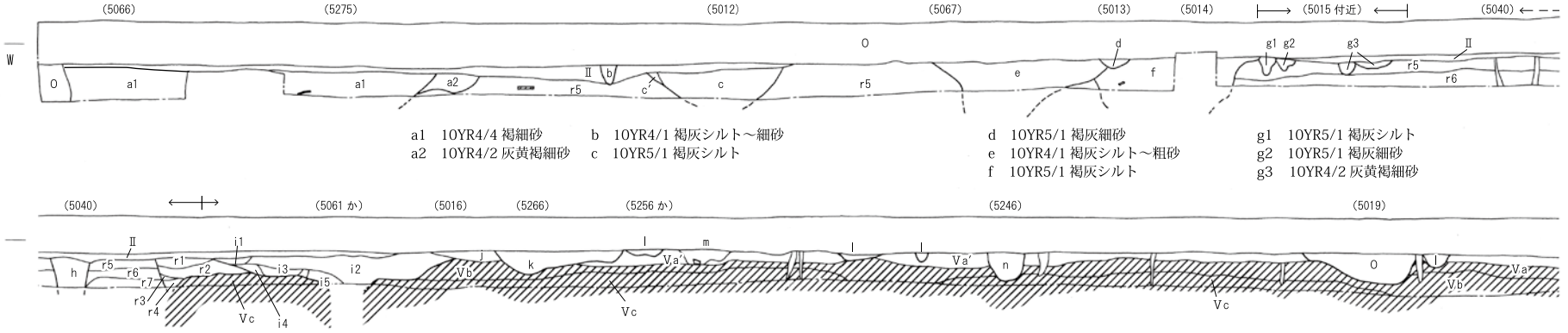
j4　10YR5/1 褐灰細砂
j5　10YR4/1 褐灰細砂
j6　10YR4/6 褐細砂
j7　10YR4/1 褐灰細砂（やや粘質）
j8　10YR5/1 褐灰中砂
j9　10YR5/2 灰黄褐細砂

5-1区基本土層
Ⅰ　10YR4/1 褐灰シルト（近現代耕作土）
Ⅱ　10YR5/1 褐灰細砂（近世）
Vb 10YR4/4 褐細砂（地山か）

0　2m

図 77　5－1区　壁面土層図（S=1：60）

5-2区　北壁



a1　10YR4/4 褐細砂
a2　10YR4/2 灰黄褐細砂
b　10YR4/1 褐灰シルト～細砂
c　10YR5/1 褐灰シルト
d　10YR5/1 褐灰細砂
e　10YR4/1 褐灰シルト～粗砂
f　10YR5/1 褐灰シルト
g1　10YR5/1 褐灰シルト
g2　10YR5/1 褐灰細砂
g3　10YR4/2 灰黄褐細砂

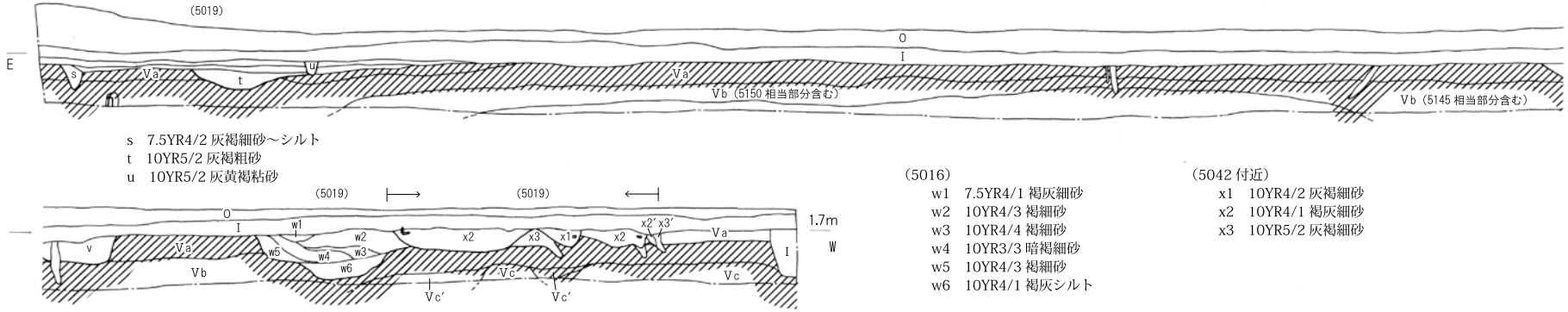
h　10YR5/1～4/1 褐灰粗砂
i1　10YR4/4 褐細砂
i2　10YR4/1 褐灰中砂
i3　10YR4/6 褐中砂
i4　10YR4/2 灰黄褐細砂
i5　10YR4/3 にぶい黄褐粗砂
j　10YR5/6 黄褐シルト～10YR4/1 褐灰マンガンまじる
k　7.5YR4/1 褐灰細砂
l　7.5YR4/1 褐灰細砂
m　7.5YR5/3 にぶい褐細砂
n　10YR5/1 褐灰細砂
o　10YR4/2 灰黄褐細砂

p　10YR6/1 褐灰細砂
q　10YR5/1 褐灰細砂

(5040)
r1　10YR4/2 灰黄褐中砂
r2　10YR4/6 褐細砂
r3　10YR5/1 褐灰細砂
r4　10YR5/4 にぶい黄褐シルト（やや粘質）
r5　10YR4/4 褐細砂
r6　10YR4/1 褐シルト～粗砂
r7　10YR3/2 黒褐粗砂

5-2区基本土層
0　10YR4/2 灰黄褐細砂（表土・造成土）
I　10YR4/2 褐灰細砂（近現代耕作土）
II　10YR7/1 灰白細砂（近世）
Va　10YR4/2 暗褐～10YR4/3 にぶい黄褐シルト（地山か）
Vb　10YR4/4 褐細砂（地山か）
Vc　10YR4/3 にぶい黄褐粗砂（地山）

5-2区　南壁



s　7.5YR4/2 灰褐細砂～シルト
t　10YR5/2 灰褐粗砂
u　10YR5/2 灰黄褐粘砂

(5016)
w1　7.5YR4/1 褐灰細砂
w2　10YR4/3 褐細砂
w3　10YR4/4 褐細砂
w4　10YR3/3 暗褐細砂
w5　10YR4/3 褐細砂
w6　10YR4/1 褐灰シルト

(5042 付近)
x1　10YR4/2 灰褐細砂
x2　10YR4/1 褐灰細砂
x3　10YR5/2 灰褐細砂

0　2m

図 78　5-2区　壁面土層図（S=1：60）

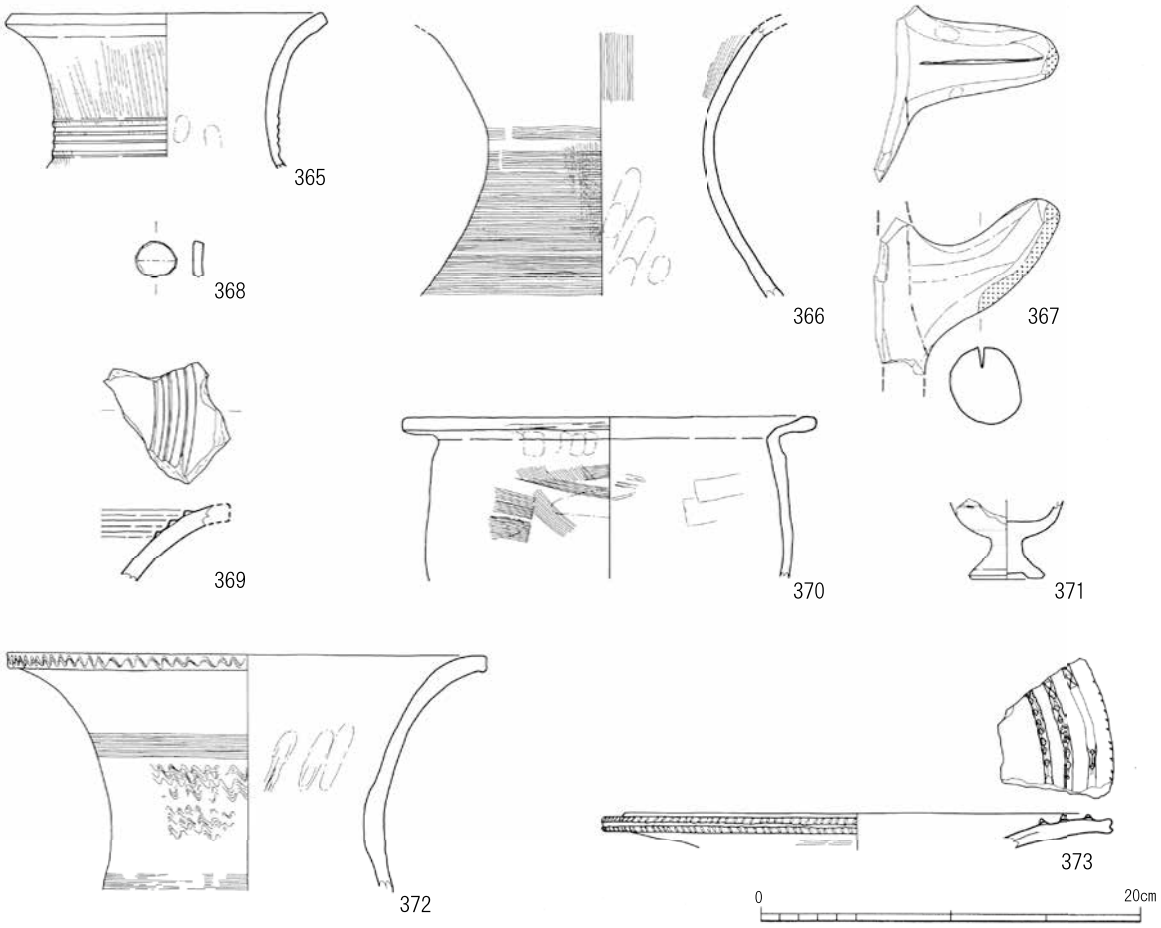


図 79　５区　遺物包含層出土土器

２　弥生時代期～古墳時代の遺構・遺物

(1)　弥生時代前期の流路（5040）とその出土遺物

調査は弥生時代中期～古墳時代中期の溝群の検出面を対象としており、下層の 5040 流路については部分的な確認調査にとどめている。5-4 区南区でトレンチを設定し、検出面での幅約 14 m、深さ 0.7 m以上の範囲に、複数の溝が折り重なるように堆積していく状況が観察された。東の肩部付近は無遺物とみられる堆積で埋まっており、東西の上層は幅２～３ｍのやや粗い砂による溝状堆積で埋没する。中央にあたる図 80 の 24・28・34 層は土器が多量に含まれる粘質のシルトであり（下層）、弥生時代前期の土器が多数投棄されたものとみられる。確認トレンチより南側を中心に遺物の取上げを行っている。上層は遺物が少なく、シルト～細砂で埋まっている。

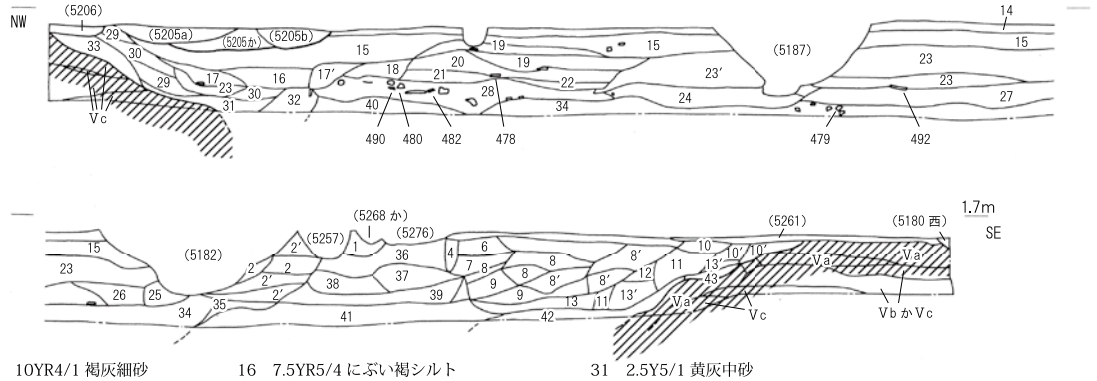
374 ～ 492 は 5040 流路出土土器で、そのうち 374 ～ 457 は下層から出土した。

374・375 は突帯文土器の壺の口縁部とみられる破片。374 は口縁部のやや下に三角形の突帯を貼り付け、刻みを施す。375 は口縁部から下へ伸びる扁平な突帯を貼り、下端部に刻みを施す。深鉢の可能性も考えられる。これらは和歌山では弥生時代前期中段階の土器との共伴が確認される土器である。このほか突帯文土器は深鉢 420・425・427、鉢 434 が出土している。

376 ～ 413 は弥生土器の壺で、無文のもの、削り出し突帯・貼り付け突帯をもつもの、ヘラ描き沈線をもつもののほか、櫛描き文を施すものが若干確認される。

376 ～ 378 は広口壺の口縁部で、施文の有無は不明。

5040 流路確認トレンチ北壁



1 10YR4/1 褐灰細砂
2 10YR6/1 褐灰細砂
3 7.5YR6/1 褐灰細砂
4 10YR6/2 灰黄褐細砂
5 10YR5/4 にぶい黄褐中砂
6 10YR7/1 灰白中砂～細砂
7 7.5YR6/6 橙中砂
8 10YR6/1 褐灰中砂
9 10YR5/6 黄褐中砂
10 10YR6/1 褐灰細砂
11 10YR6/8 明黄褐細砂
12 10YR7/6 明黄褐シルト中砂
13 7.5YR5/6 明褐シルト
14 7.5YR6/1 褐灰細砂
15 7.5YR5/6 明褐細砂
16 7.5YR5/4 にぶい褐シルト
17 2.5YR5/1 黄灰中砂
18 7.5YR5/8 明褐細砂
19 10YR6/1 褐灰中砂
20 7.5YR5/6 明褐細砂～中砂
21 10YR6/8 明黄褐細砂
22 7.5YR4/1 褐灰シルト～中砂（やや粘質）
23 10YR5/2 灰黄褐シルト～細砂
24 7.5YR4/1褐灰シルト(やや粘質:土器多量)
25 10YR6/1 褐灰シルト
26 10YR5/1 褐灰シルト
27 7.5YR4/1 褐灰シルト
28 10YR5/1褐灰シルト(粘質)+中砂(木片・土器多量)
29 10YR5/1 褐灰細砂
30 10YR5/2 灰黄褐細砂
31 2.5Y5/1 黄灰中砂
32 7.5YR6/1 褐灰中砂
33 7.5YR6/8 橙中砂
34 10YR5/6 黄褐シルト（やや粘質）
35 10YR5/4 にぶい黄褐シルト
36 7.5YR6/8 橙細砂
37 10YR6/1 褐灰細砂～中砂
38 10YR5/4にぶい黄褐細砂・シルト
39 10YR5/6 黄褐シルト
40 10YR6/6明黄褐シルト(やや粘質)＋中砂
41 10YR5/1 褐灰シルト
42 10YR6/6 橙シルト＋中砂
43 7.5YR5/2 灰褐シルト

Va 7.5YR6/6 橙～10YR7/8 黄橙シルト
Vb 10YR6/1褐灰＋10YR6/8明黄褐シルト
Vc N6/灰粗砂～10YR6/4にぶい黄褐中砂

0 2m

図 80　5－4 区　5040 流路土層断面図（S=1：60）

378 ～ 380 は削り出し突帯をもつ遠賀川系の広口壺。頸部と肩部の削り出し突帯を境に段があり、突帯上を沈線で二つに区分する。379 は外面に若干赤色顔料が付着しており、胎土に片岩を含む。380 は胎土分析により片岩類を含まないことが確認されており、搬入品と考えられる。

381 ～ 383 は無文の広口壺。外面調整はハケ及びミガキ。381・382 は頸部が短く、肩の張りが大きい。器壁は厚い。381 は口径 10.6 センチ、体部径 17.0 ㎝、器高 19.0 ㎝。382 は口径 12.6 ㎝、体部径 21.0 ㎝、器高 22.2 ㎝である。383 は頸部が長く肩の張りが緩やかになる。口径 16.4 ㎝、体部径 21.4 ㎝、器高 30.4 ㎝である。384 は肩部に沈線をもつ。385 は無文の広口壺で、外面ハケ調整。器壁が厚い。

386 ～ 388 は貼り付け突帯をもつ広口壺。貼り付け突帯上には刻み目を施している。386 は大型で頸部に４条以上の突帯をもつ。387 は頸部に１条、388 は頸部と肩部に１条ずつ突帯をもつ。

389・390 は無文の小型壺。389 は体部が張り、底部中央が高台状を呈する。390 は大きな平底の直口壺。

391 は７条以上の連続する突帯上に細かい刻みを施す。縦に２列の円形浮文を貼りつけている。胎土分析で片岩が含まれず、播磨を中心とする東部瀬戸内地域からの搬入品と考えられる。

392 ～ 414 はヘラ描き沈線をもつ壺と蓋。

392 は壺の蓋と考えられる土器片。上端部に隣接する二孔を有し、ヘラ描き沈線で飾る。

393 ～ 405 はヘラ描き沈線を頸部あるいは頸部と肩部に施す壺である。

393 は体部がやや張る小型の広口壺。肩部に４条のヘラ描き沈線を施す。

394 ～ 396 は広口壺の口頸部、397・398 は頸部～底部。397 は胎土分析を行っている。

399 は太頸広口壺。口縁端部に刻み、頸部に５条のヘラ描き沈線を施す。復元口径 36.1 ㎝。

400 は口頸部の極端に短い壺。401 はヘラ描きないし櫛描きを施す壺。

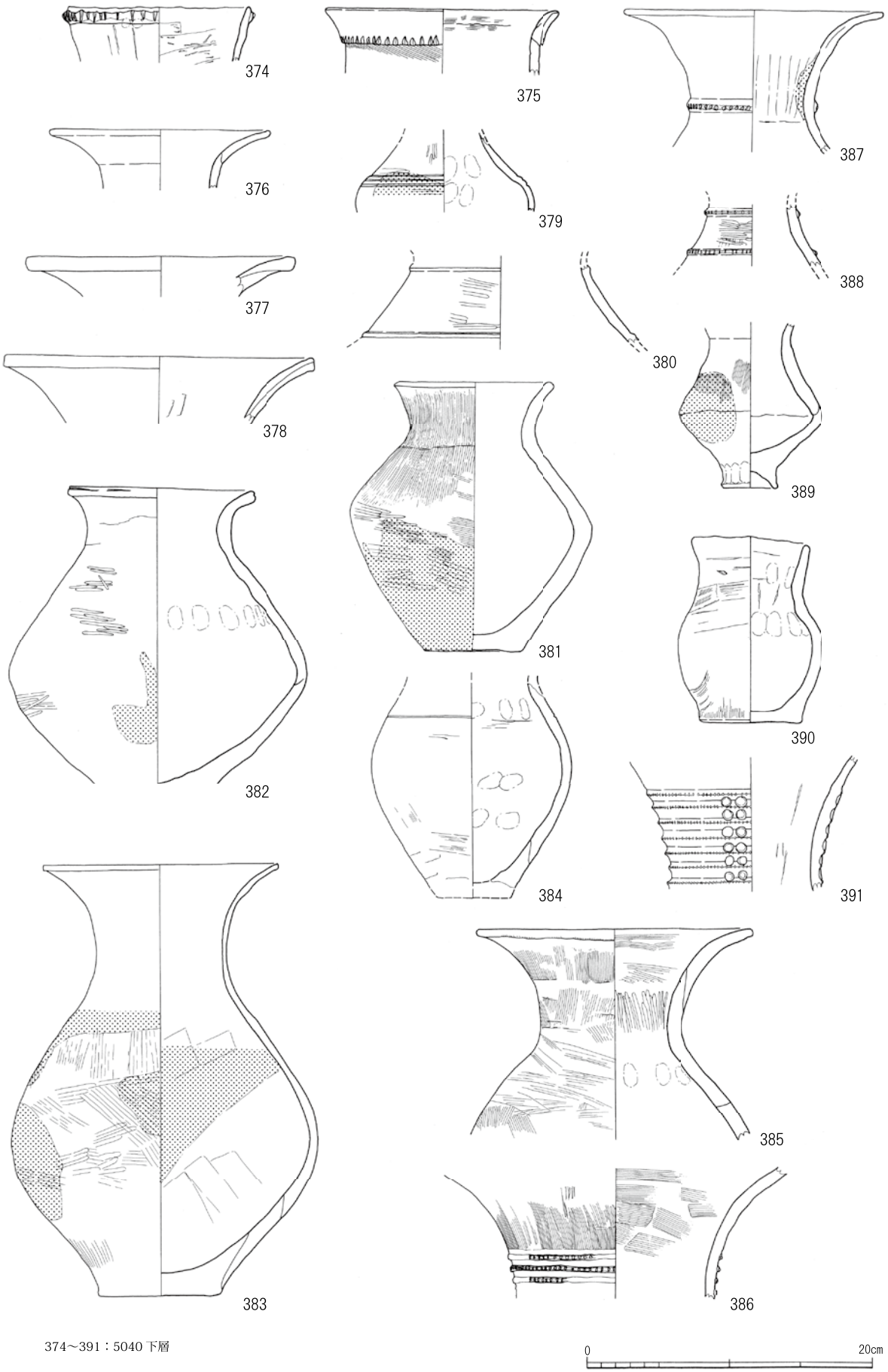


図 81　5 区　5040 流路出土土器①

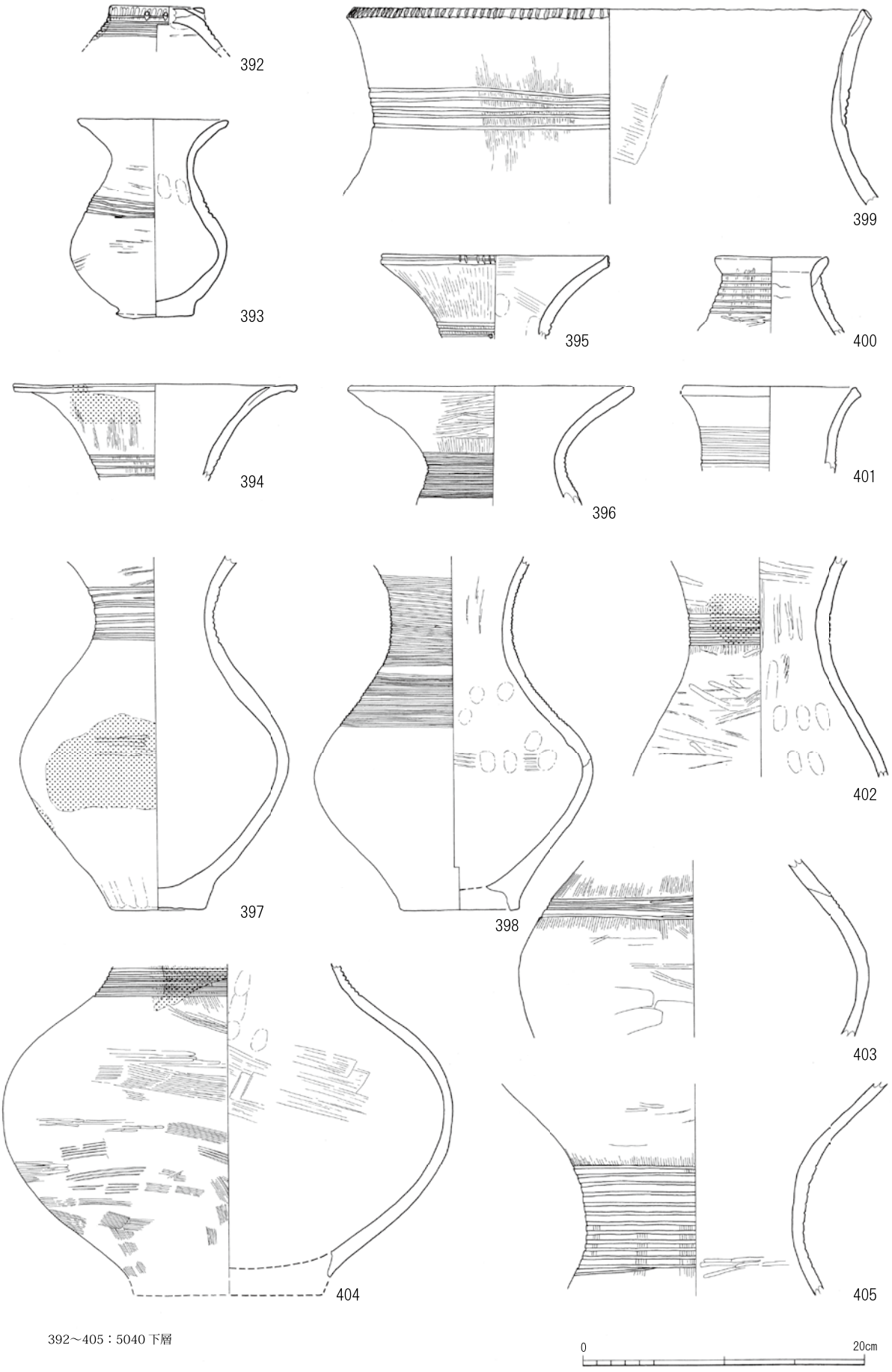
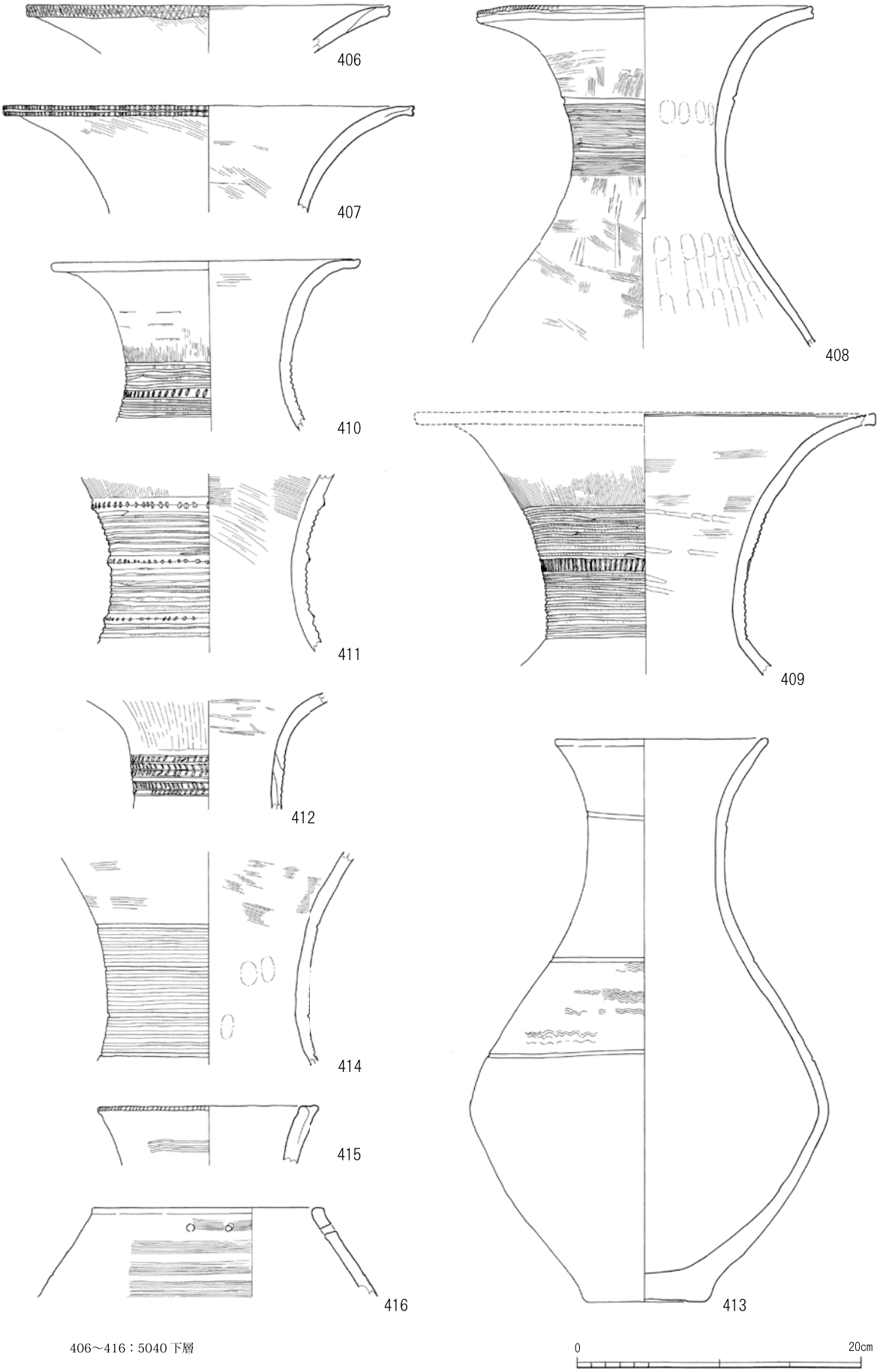


図 82　5 区　5040 流路出土土器②



406～416：5040 下層

図 83　5 区　5040 流路出土土器③

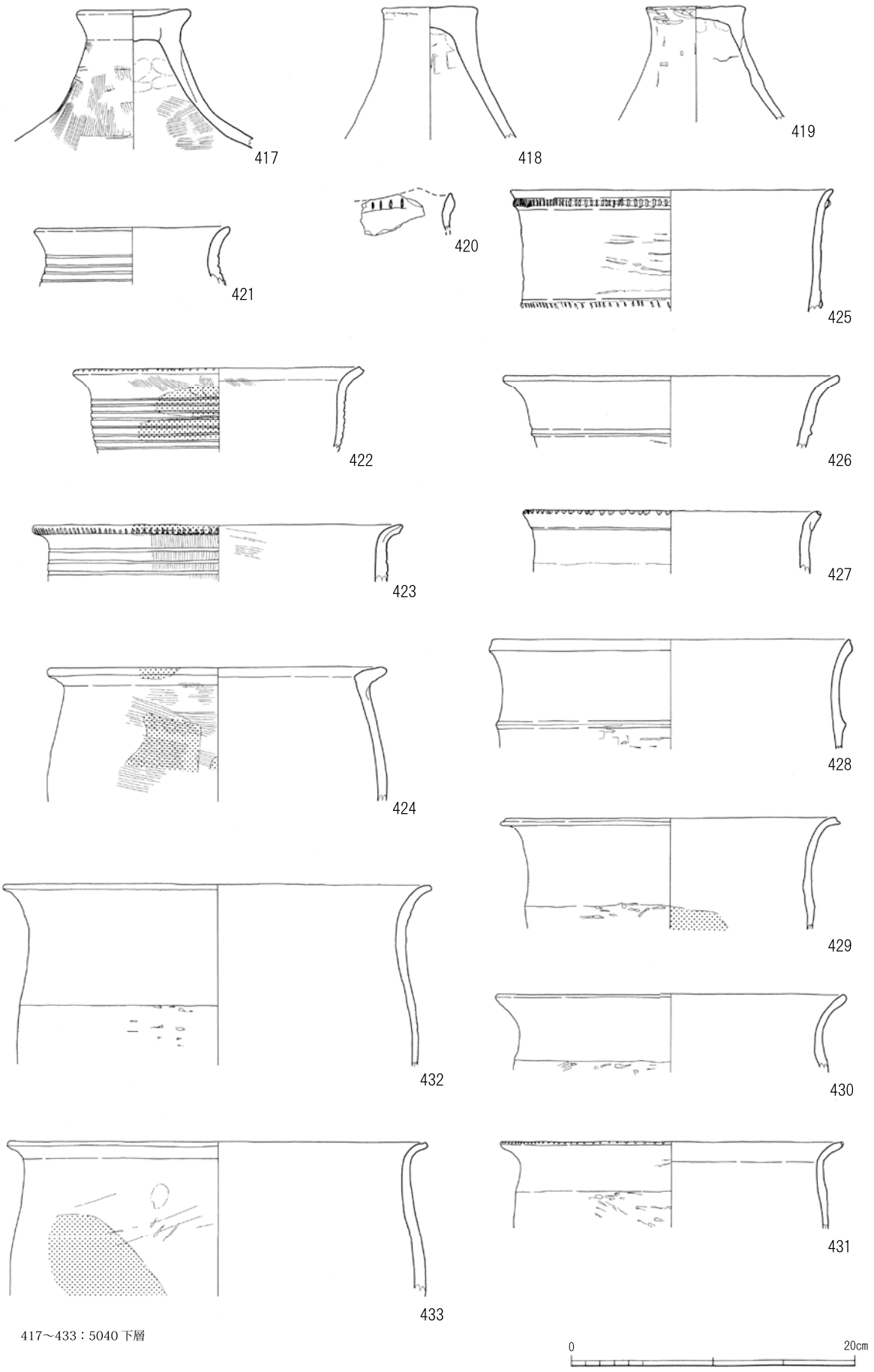


図 84　5 区　5040 流路出土土器④

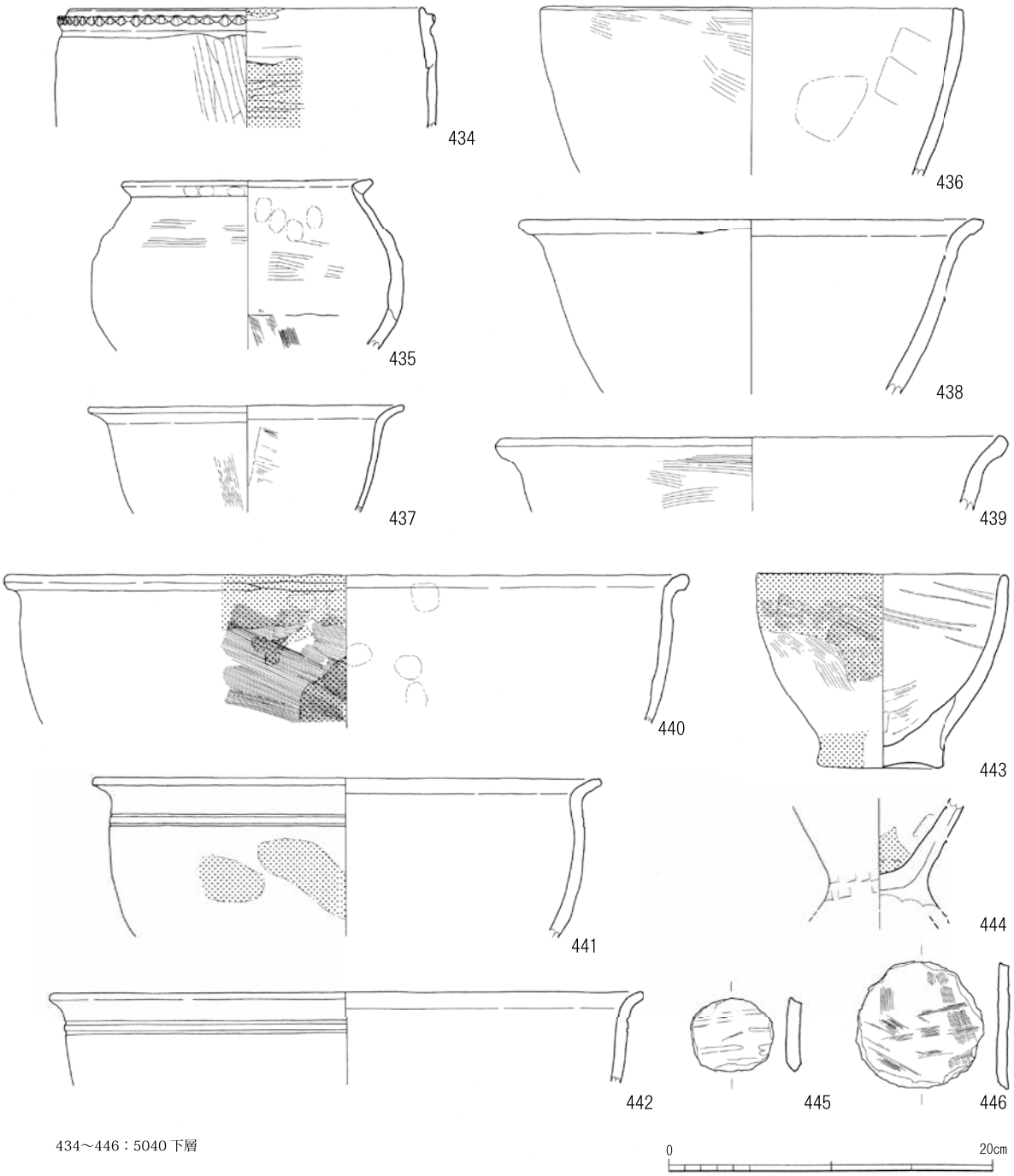


図 85　５区　5040 流路出土土器⑤

402 ～ 405 は頸部ないし肩部にヘラ描き沈線を施す壺の体部片。

406・407 は口縁端部にヘラ描き沈線及び刻み目を施す広口壺。

408 は頸部に多条のヘラ描き沈線を施し、上端に付加条沈線をもつ広口壺。口縁部中央にヘラ描き沈線をまわし、その上端部を３分の１周分だけ刻む。

409・410 は頸部に多条のヘラ描き沈線を施し、中央にあけた隙間に刻み目を施す。

411・412 は壺の頸部片。411 は細かい刻み目を施した貼り付け突帯で仕切られた間をヘラ描き沈線で充填する。412 はやや間隔をあけたヘラ描き沈線の間に綾杉状の刻み目を配する。

413 は付加条沈線の間に櫛描き波状文が確認できる広口長頸壺。摩耗が激しい。414 は付加条沈線の間をヘラを束ねたような櫛描き文で充填する。415・416 は櫛描き直線文のみられる細頸

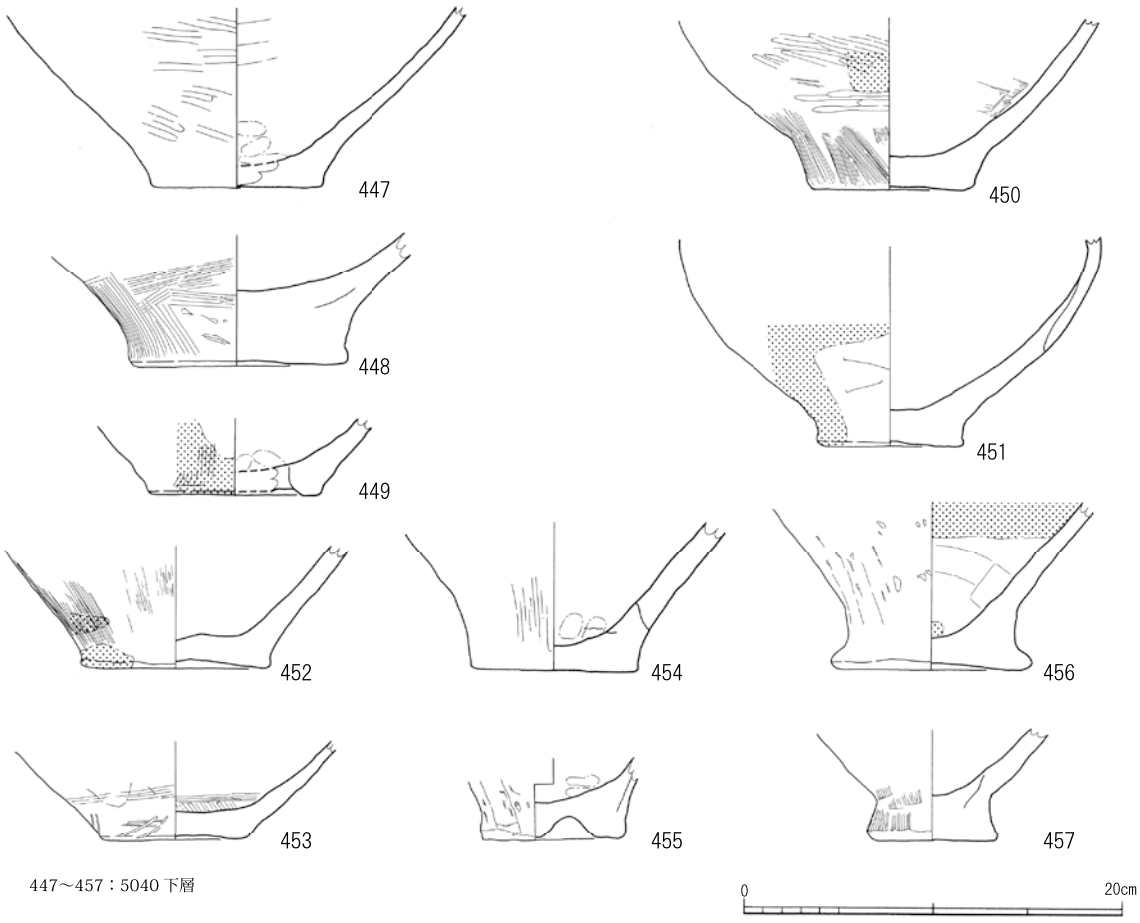


図 86　５区　5040 流路出土土器⑥

壺と無頸壺。5040 の埋土は一様に埋まっていないことから、一概に上層溝群より古いとは言い難いが、5040 の下層から出土した土器として注意が必要である。

417 ～ 419 は甕の蓋。

420・425・427 は突帯文土器の深鉢に相当する土器とみられる。425 は口縁端部の下と肩部に断面三角形の突帯を貼り付け、刻みを施す。427 は口縁端部の外側に扁平な突帯を貼り付け、刻みを施す。

421 ～ 423 は肩部にヘラ描き沈線を施す甕ないし鉢。422・423 は口縁端部を刻む。

424 は逆Ｌ字状の口縁をもつ甕ないし鉢。

426・428 は初期段階の紀伊型甕とみられ、口縁部あるいは肩部が突帯状を呈する。体部はケズリ調整。429 ～ 433 は紀伊型甕で、肩の稜線は様々な状態のものがみられる。

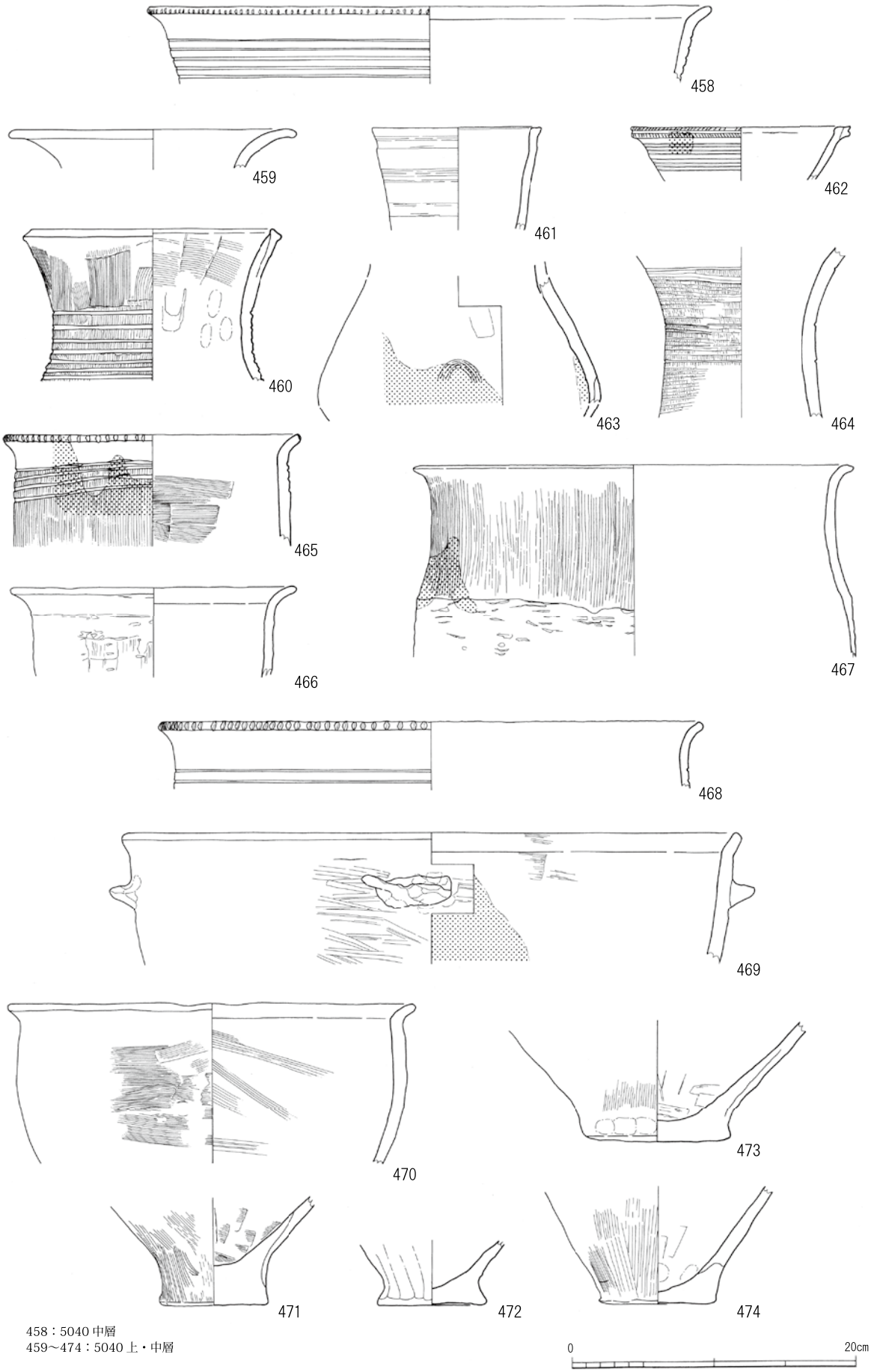
434 は突帯文土器の鉢。口縁部のやや下に突帯を貼り付け、刻みを施す。胎土分析により生駒西麓産からの搬入品と考えられ、器壁には種子圧痕が認められる。但し、同様の胎土の土器はほとんど出土していない。

435 は逆Ｌ字状口縁をもつ鉢で、胎土は乳白色系を呈する。胎土分析で片岩を含まず、堆積岩と火山ガラスを含むことが確認されており、瀬戸内系の搬入品と考えられる。

436 は無文の直口鉢。

437 ～ 442 は外反口縁鉢で無文のものと、肩に２条のヘラ描き沈線をもつものがある。

443・444 は小型の直口鉢。443 は胎土分析を実施した。



458：5040 中層
459～474：5040 上・中層

図 87　5 区　5040 流路出土土器⑦

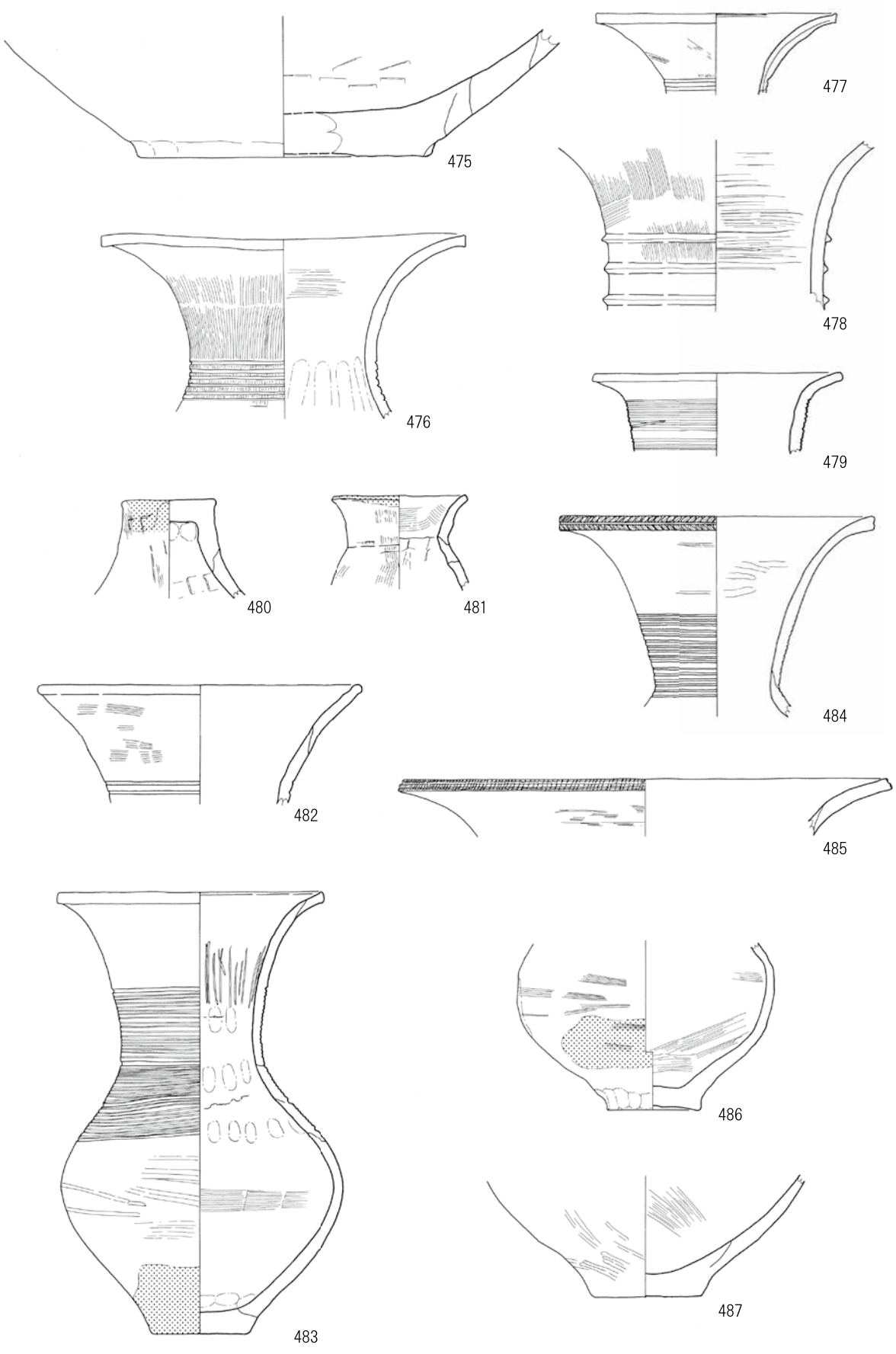


図 88　５区　5040 流路出土土器⑧

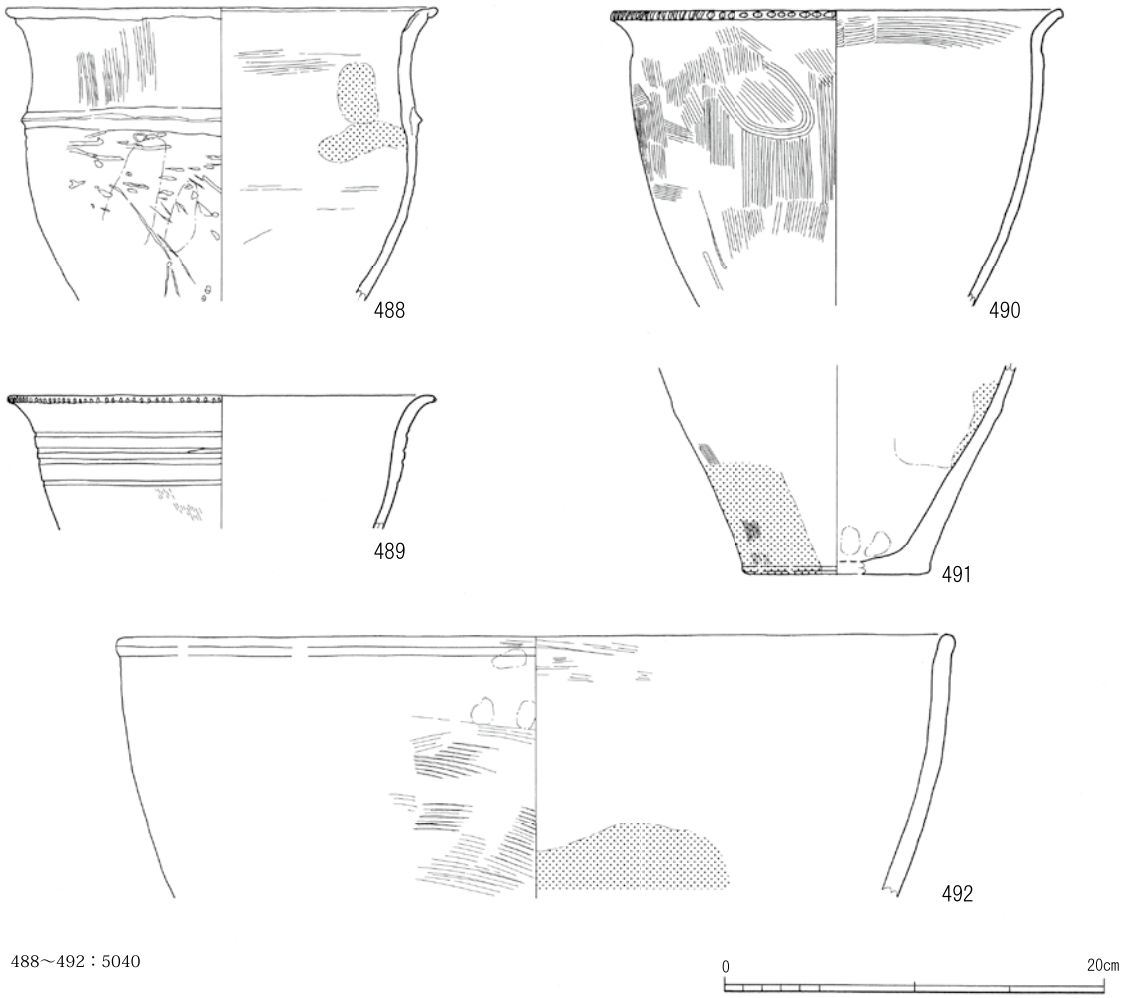


図 89　５区　5040 流路出土土器⑨

445・446 は土器片を用いた円盤状土製品。

447 ～ 457 は壺・甕・鉢の底部。455 は穿孔途中品と考えられる。

458 は 5040 中層出土の外反口縁鉢とみられる土器片。

459 ～ 474 は中・上層出土土器。461 は櫛描き文のみられる直口壺。463 は体部に櫛描きで半円形を描く。甕・鉢は下層出土土器と同様の土器片が出土している。

475 ～ 492 はトレンチ壁面の土器と他の遺構との境界出土土器である。

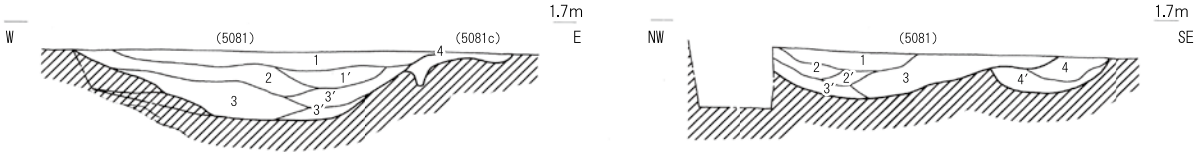
図 80 のトレンチ壁面にかかった土器は 478 ～ 480・482・490・492 で、下層遺物に相当するものと考えられる。壺は貼り付け突帯をもつ広口壺（478）、ヘラ描き沈線をもつ広口壺（479・482）、蓋（480）、ハケ調整の鉢（490）、ハケ調整の直口鉢（492）が認められる。多条のヘラ描き文を施す 479 が最も下層から出土しており、土器を含んだ土の再堆積も考える必要がある。

475・476・484・488 は 5040 流路ないし 5066 溝状遺構の遺物。486 は 5040 流路ないし 5010 溝状遺構の遺物である。

483 は 5040 流路の土器で、堆積岩・深成岩類を主体とし海水種の珪藻類と骨針化石を含む胎土をもつ、広口長頸壺。

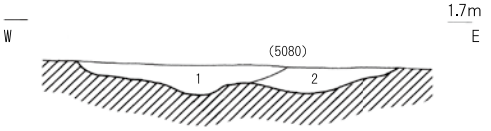
5040 流路の土器が多量に出土した層は、中央部に広く堆積する粘質のシルトで、前期の土器が多量に含まれる。ただ、5040 の東肩にみられる図 80 の３～ 13 層のように水平堆積で埋まら

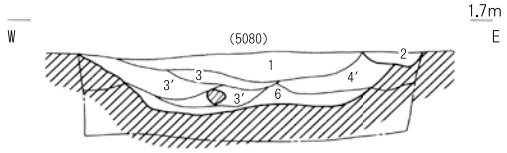
溝６（5081）

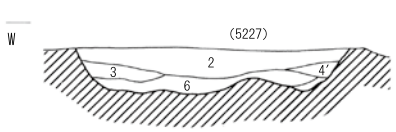


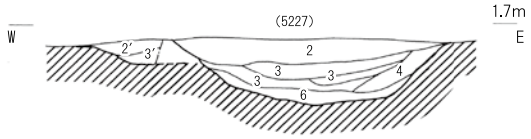
1　2.5Y6/1 黄灰細砂　　3　10YR6/1 褐灰細砂
2　2.5Y6/1 黄灰中砂　　4　10YR6/1 褐灰シルト（黒褐気味）

溝７（5080・5227）

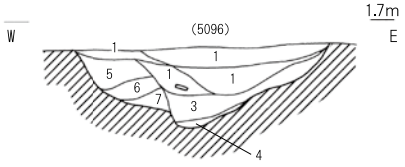


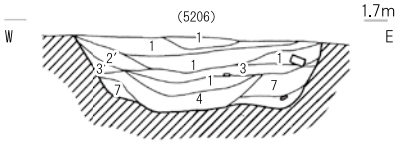


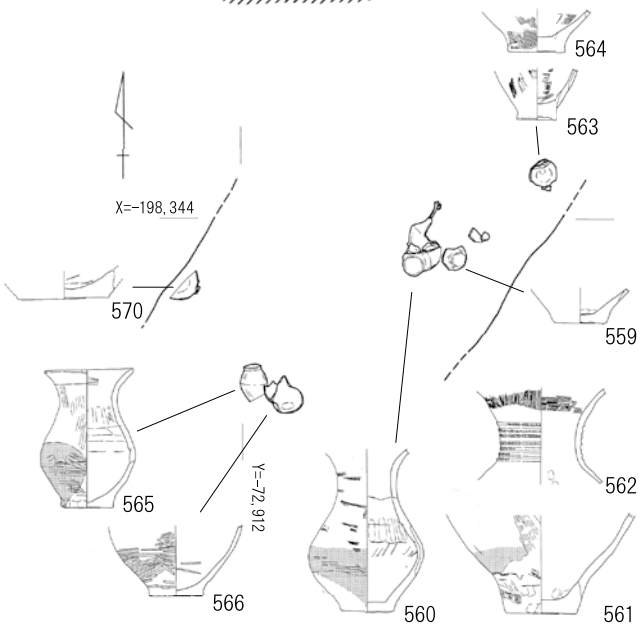


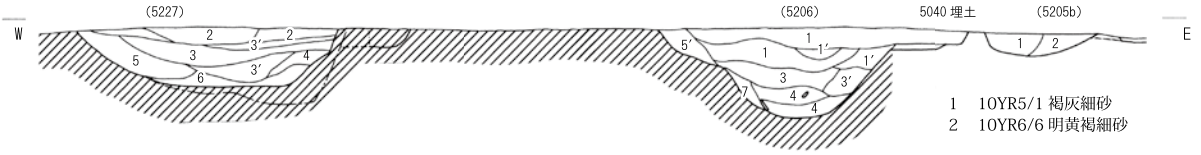


溝８（5096・5206）







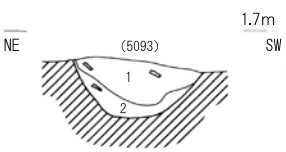


1　10YR5/1 褐灰細砂
2　10YR6/6 明黄褐細砂

（溝７（5080・5227））
1　10YR6/1 褐灰細砂
2　2.5Y4/1 黄灰シルト～細砂
3　2.5Y4/1 黄灰細砂～中砂
4　N３/　暗褐シルト
5　2.5Y6/6 明黄褐細砂
6　2.5Y6/1 黄灰中砂

（溝８（5096・5206））
1　2.5Y5/1 黄灰細砂
2　10YR5/6 黄褐細砂
3　2.5Y5/1 黄灰細砂
4　2.5Y5/3 にぶい黄褐シルト
5　5Y7/1 灰中砂
6　2.5Y7/6 明黄褐細砂
7　2.5Y7/1 灰白粗砂

溝８分流



1　10YR5/1 褐灰細砂
2　10YR4/1 褐灰シルト



図90　５区　弥生時代　溝６（5081）・溝７（5080・5227）・溝８（5096・5206）（S=1：40）

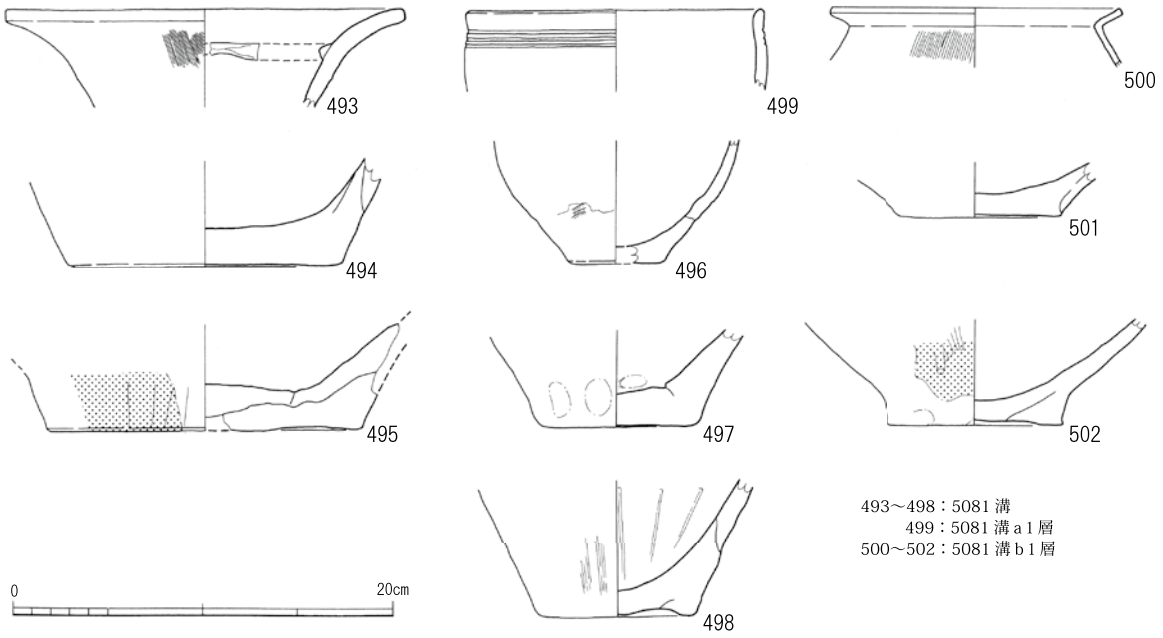


図 91　５区　溝６（5081）出土土器

ない、埋め立てたような堆積を示す部分もあり、中期の溝群と同時期ないし新しい年代の土器は、このような場所から出土した遺物であることも考えられる。

(2)　弥生～古墳時代の溝

５区では北東から南西へ流れる溝が 10 条検出された。調査区北端部では溝６が検出されており、庄内期を中心とする２区の 201 溝の延長部にあたる。５区中央部では下層流路 5040 上で弥生時代中期の溝７～ 11 と古墳時代中期の溝 12 を検出した。５区南部では溝 13 ～ 15 が検出されており、弥生時代中期から古墳時代中期の溝が確認される。

これらの溝が集まる場所が谷状地形で、その間が微高地状になることがうかがえるが、微高地状の部分では弥生時代の遺構は検出されておらず、比較的起伏が大きかった可能性がある。これらの溝はいずれも上端部を削平されており、断面Ｕ字形を呈している。溝の残存幅は１～２ｍ前後、深さは 0.3 ～ 1.2 ｍである。断面形や分岐する場所があることから溝として認識してよいものと思われるが、自然流路を浚渫して利用した可能性も考えられる。

溝６（5081 溝 (5-1 区)）

５区の北西で検出した溝で、北東から南西へ流れる。溝の幅は 2.3 ｍ、深さ 1.2 ｍで、断面形は緩いＵ字形を呈する。溝肩部は不整形な落ち込みが存在し、南端部では 5081 ａ～ｃの三時期の流路の埋土に分けられる。２区の 201・202 溝の延長部に相当するが、庄内式併行期（以下庄内期とする）の遺物は破片しかなく、弥生時代前期～中期の遺物が多く出土した。

493 ～ 498 は溝６出土土器。493 は口縁部内面突帯をもつ広口壺。494 ～ 498 は弥生土器の底部片。499 は 5081 ａから出土した頸部に３条のヘラ描き沈線を施す鉢。500 ～ 502 は 5081 ｂから出土した。500 は土師器のハケ甕である。

溝７(5080 溝 (5-1 区)・5227 溝 (5-4 区)・5279(5-4 区))

５区中央の溝群の中で一番北側に位置する溝である。北から南西へ若干弧を描いて流れる。溝の肩部で重複（5227 ｂ溝・ｃ溝、5279 溝）が認められることから、複数時期に渡って溝の再掘削、利用が行われていたものと思われる。溝は幅 1.4 ～ 1.8 ｍ、深さ 0.15 ～ 0.35 ｍで、断面は浅い

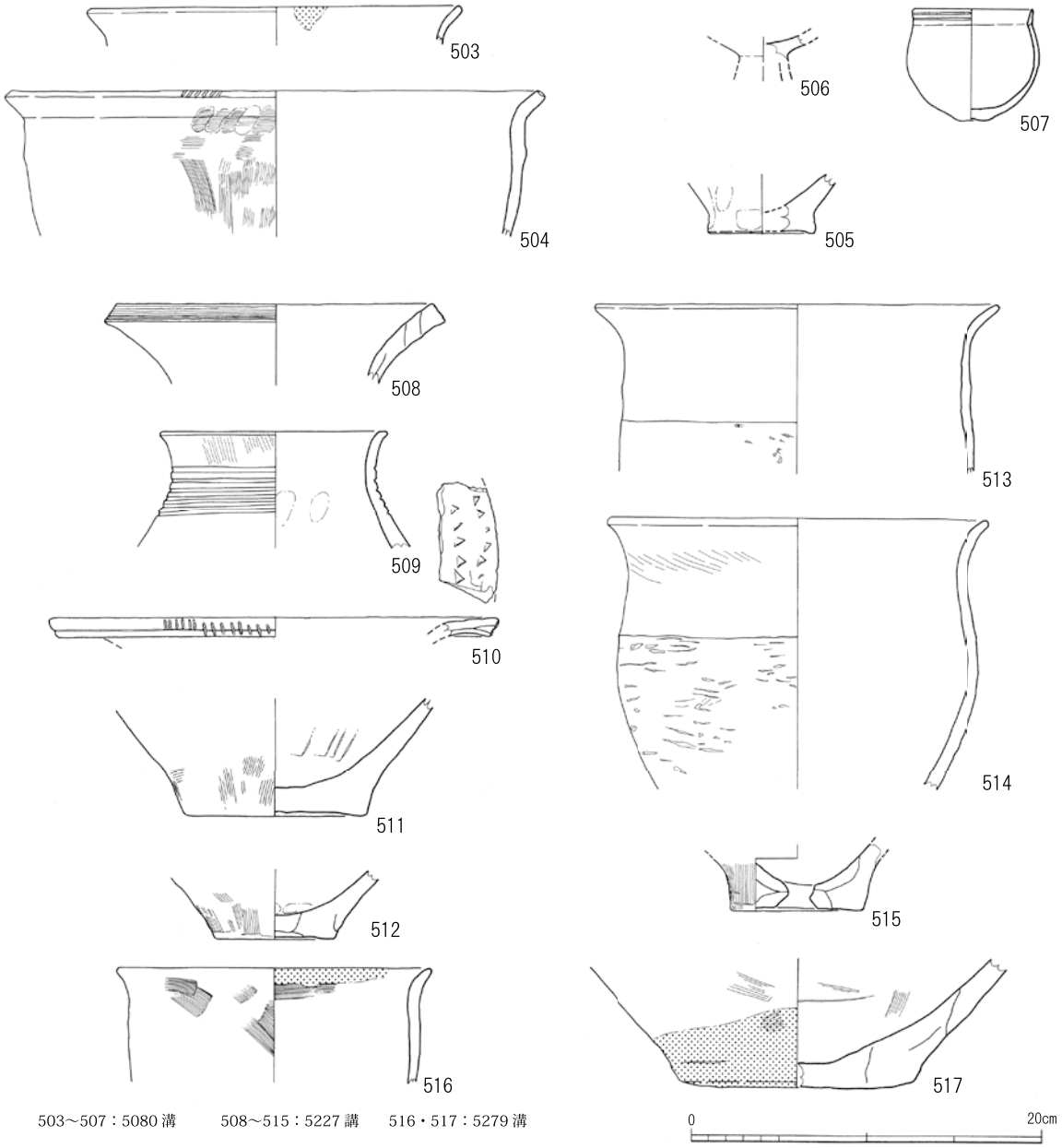


図 92　５区　溝７（5080・5227・5279）出土土器

U字形を呈する。他の溝よりやや砂混じりの土で埋まり、遺物は破片で出土量は少ない。

503 ～ 517 は溝７出土土器。503 ～ 507 は溝７北半（5080 溝）で出土した。506 は高坏片としたが、壺甕鉢類の底部片の可能性もある。507 は口縁部にヘラ描き沈線をもつ小型の鉢で、溝の検出面で出土した。508 ～ 515 は溝７の南半で出土した土器である。510 は口縁部内面に連続する山形文が押されている。513・514 は紀伊型甕で、肩部の稜線はあまい。516・517 は 5227 溝の肩部の堆積（5279）から出土した。溝７出土土器は、弥生時代前期新段階から中期前葉の遺物と考えられる。

溝８（5096 溝（5-1 区）・5206 溝（5-4 区））

溝８は 5040 下層流路上面の北西肩部で検出した溝で、部分的に溝９の上層を直線的に流れている。検出面でおよそ幅 1.3 ｍ、深さ 0.5 ｍであり、断面形状はU字ないしＶ字形を呈する。5-1 区南西付近において南東方向に伸びる 5093 溝が分岐しており、溝８の水流を南東へ流す溝

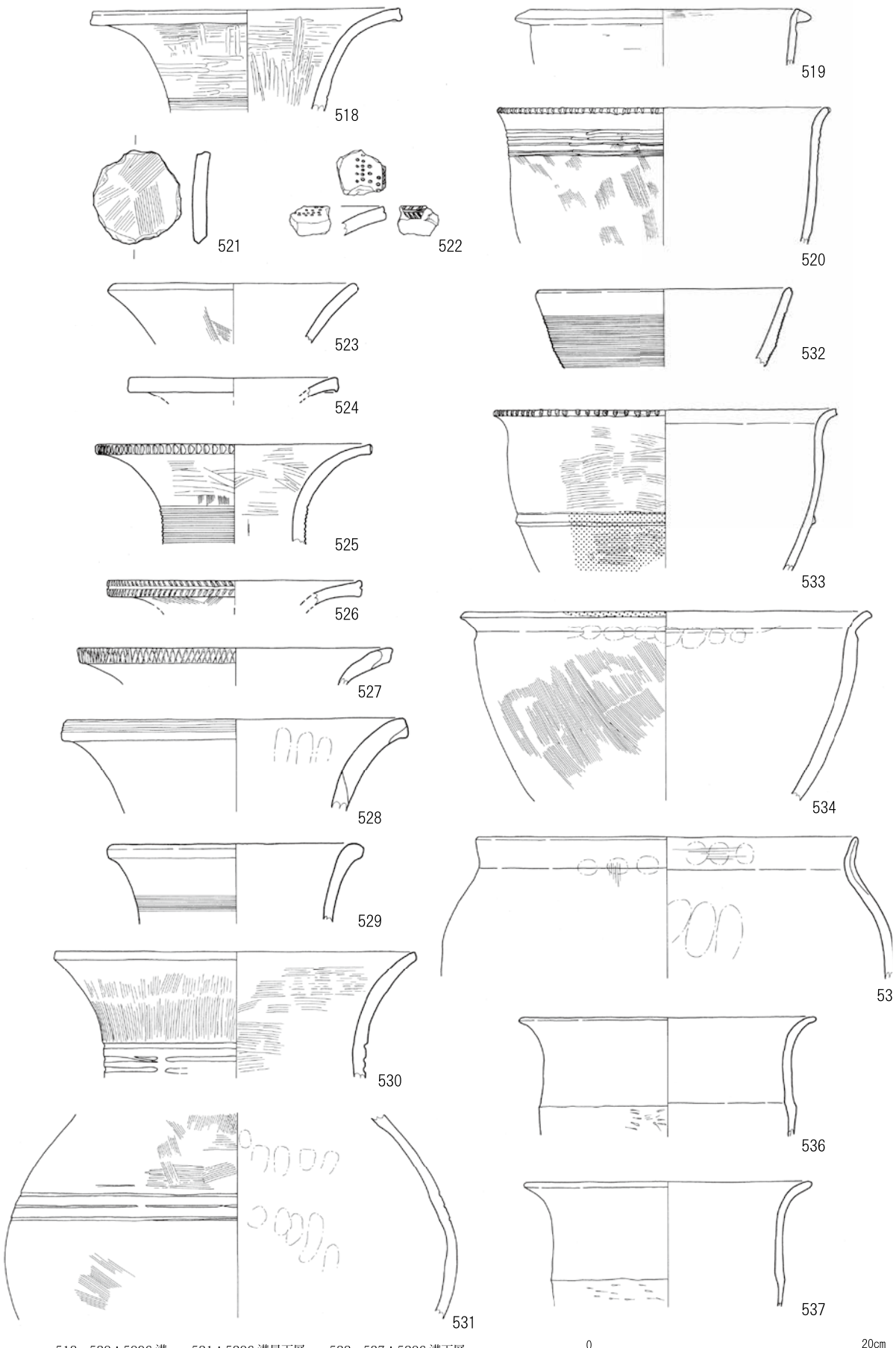
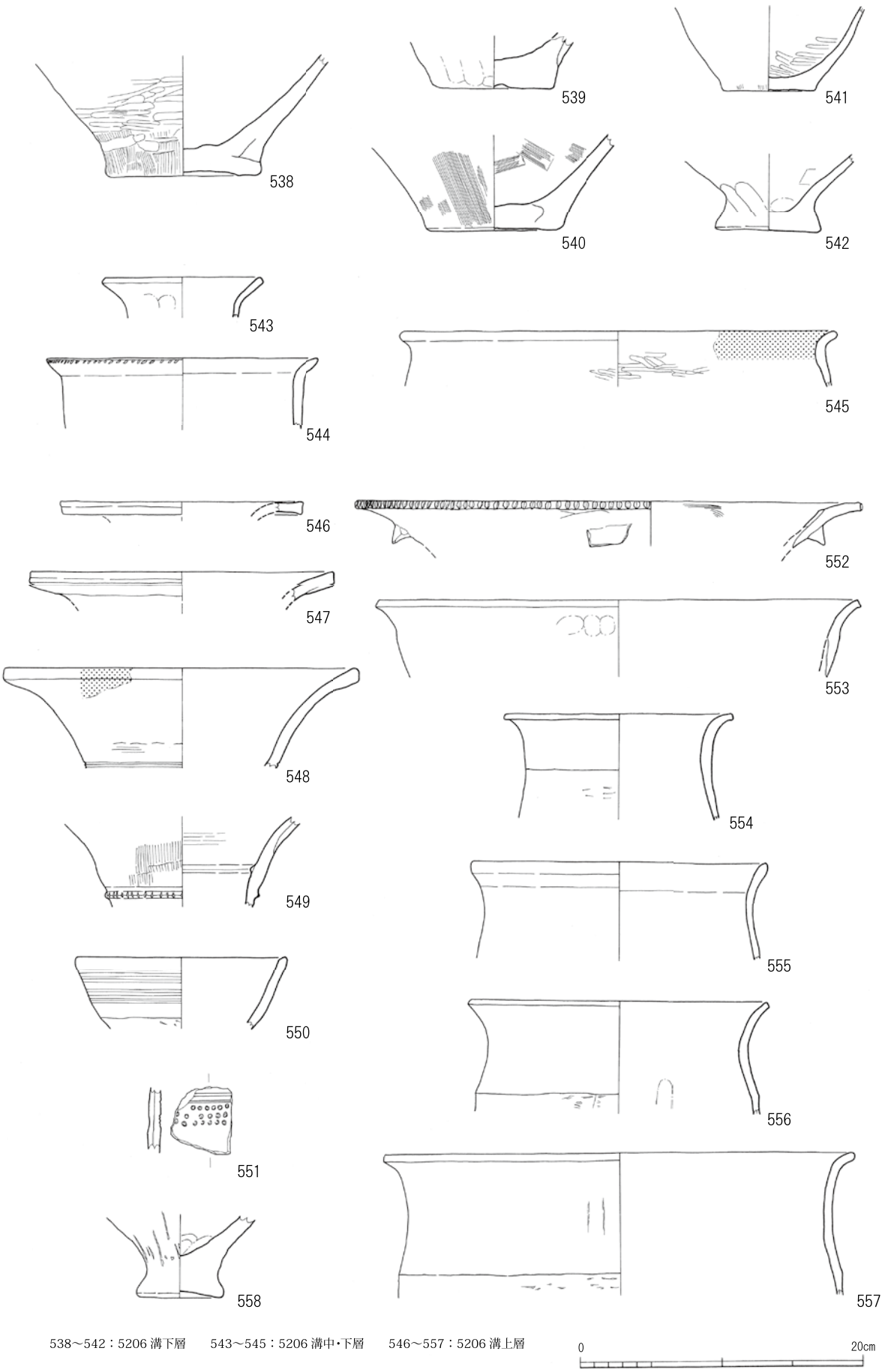
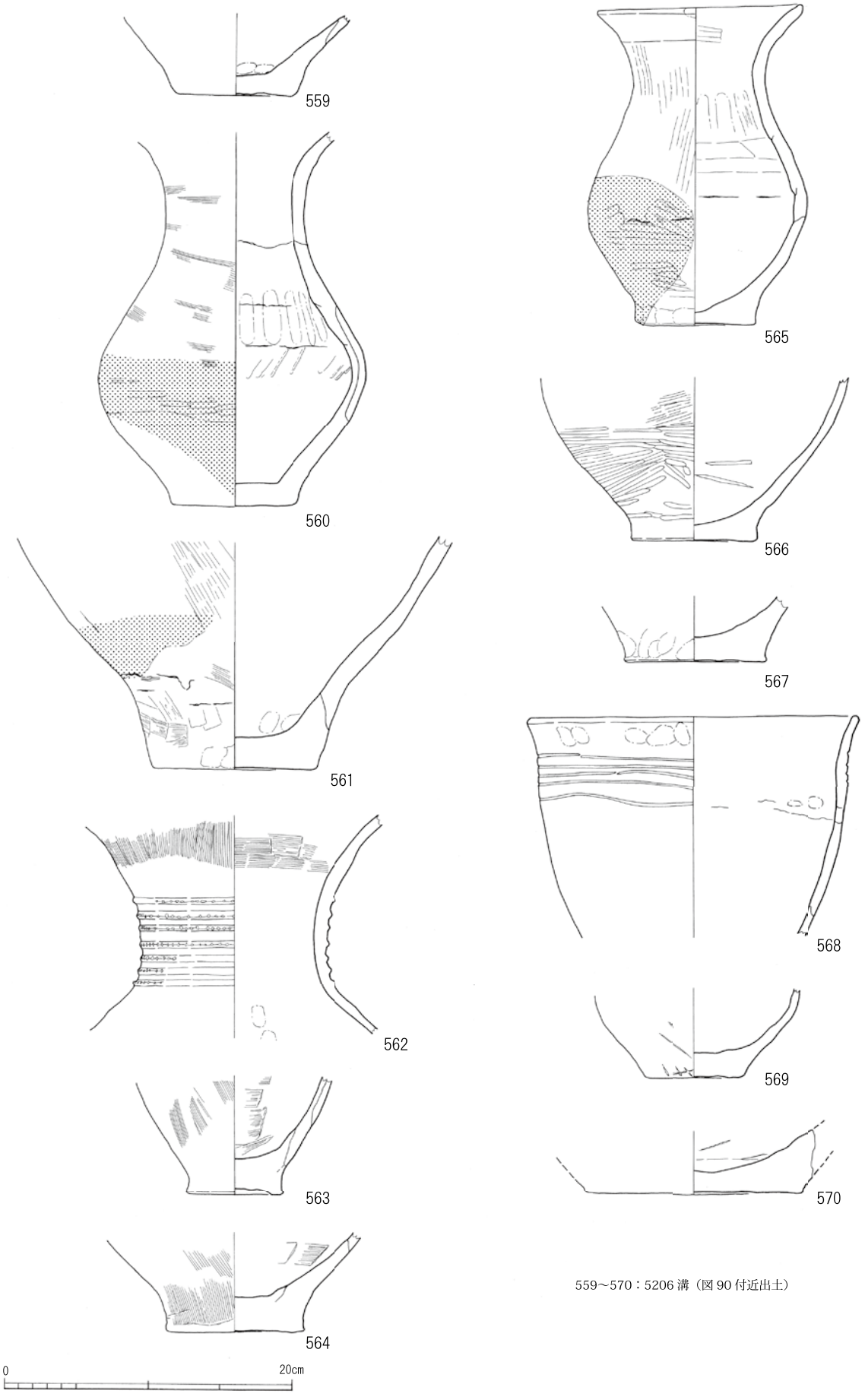


図 93　５区　溝８（5096・5206）出土土器①



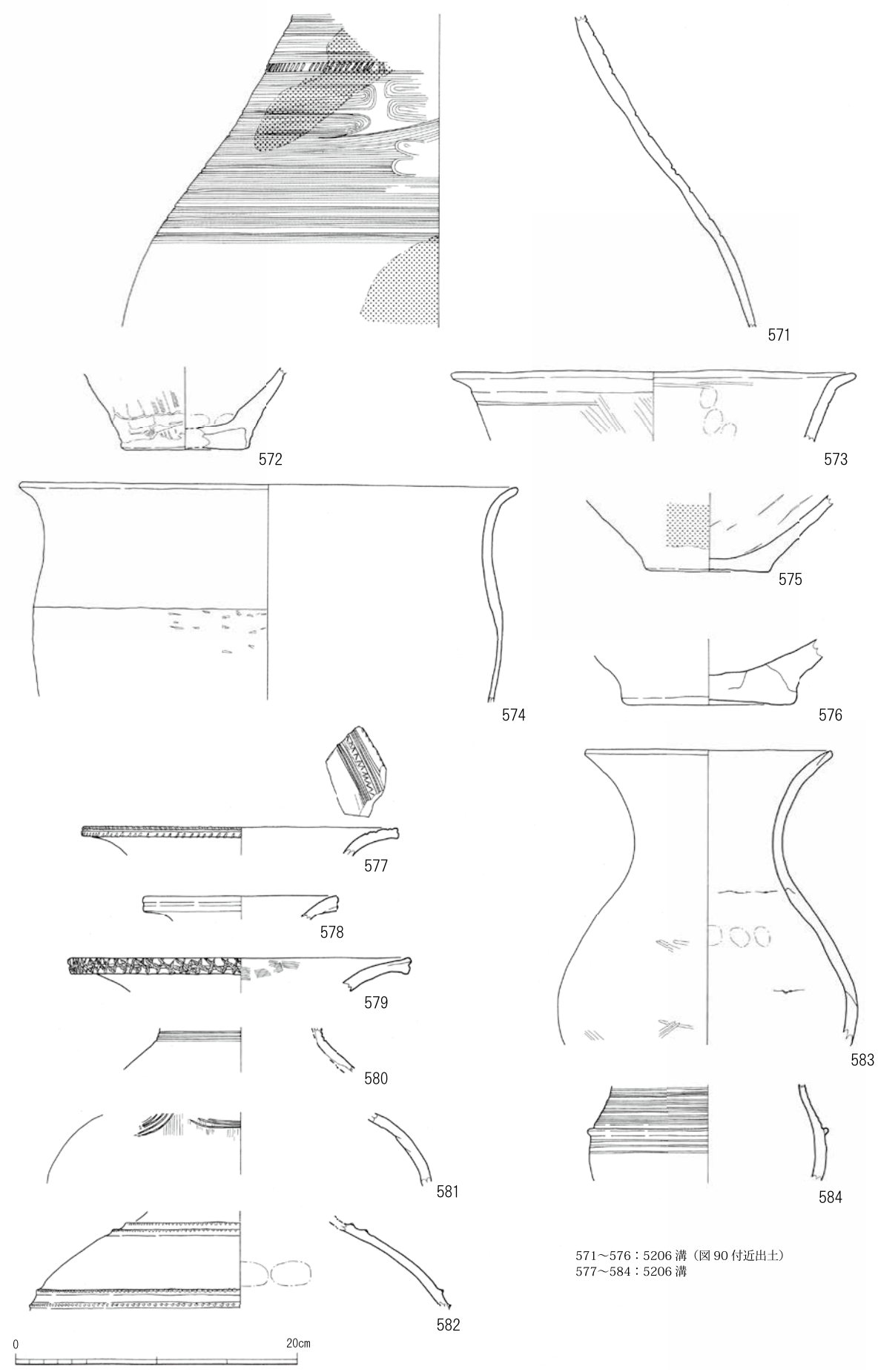
538～542：5206 溝下層　543～545：5206 溝中・下層　546～557：5206 溝上層

図 94　５区　溝８（5206）出土土器②



559～570：5206 溝（図 90 付近出土）

図 95　5 区　溝 8（5206）出土土器③



571～576：5206 溝（図 90 付近出土）
577～584：5206 溝

図 96　５区　溝８（5206）出土土器④

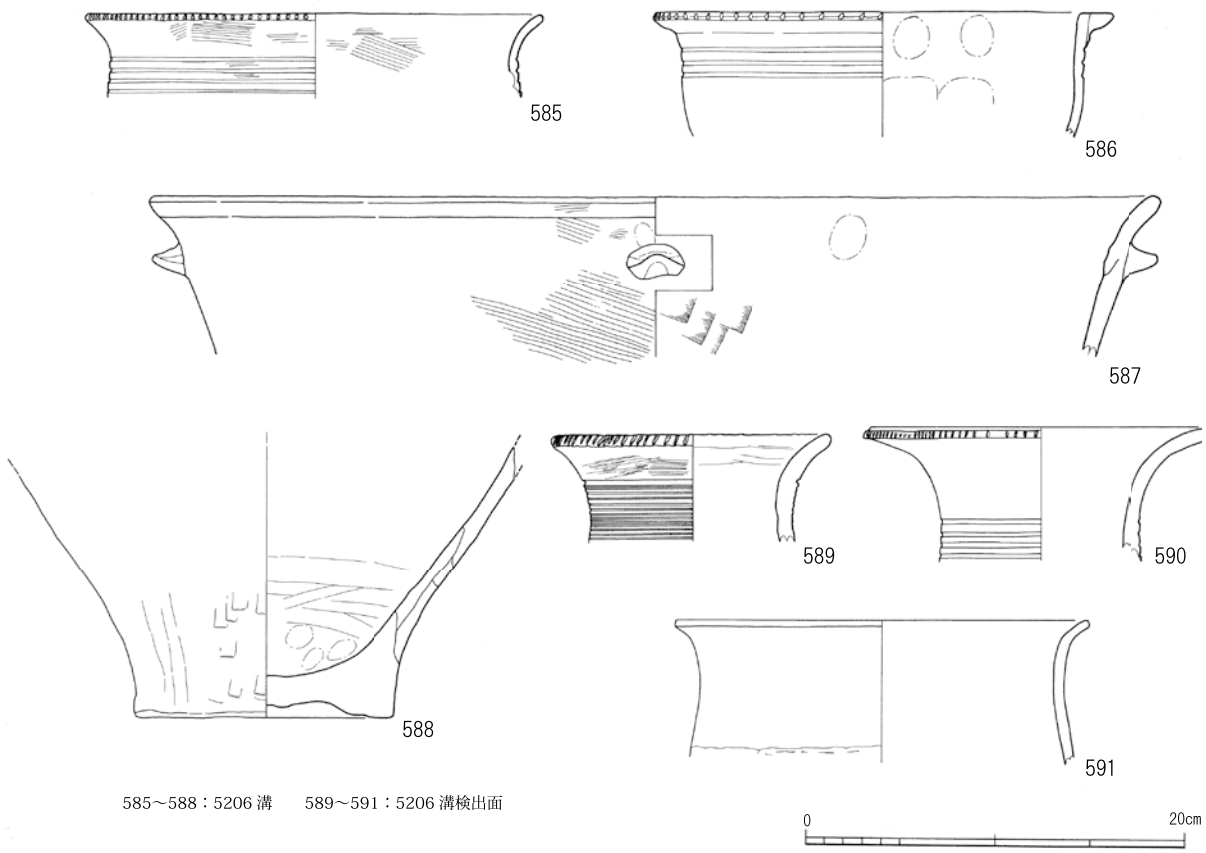


図 97　５区　溝８（5206）出土土器⑤

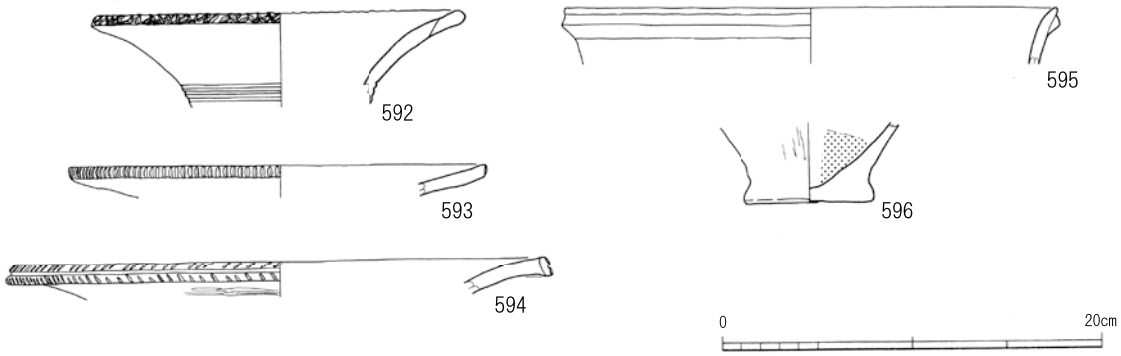


図 98　５区　溝８分流（5093）出土土器

と考えられる。図 90・99 の遺物出土状況図のとおり弥生時代前期の土器の出土量が多いが、中期中葉までの土器が混在する点が注意される。

518 ～ 591 は溝８から出土した。518 ～ 520 は溝８北半（5096 溝）から出土した土器であるが、溝８南半に対して出土量は極端に少ない。518・520 はヘラ描き沈線を施した広口壺と甕。519 は瀬戸内系の逆Ｌ字状口縁をもつ甕ないし鉢であり、胎土分析を行っている。なお 589 ～ 591 は 5096 溝の検出面で出土した土器である。

521 ～ 588 は溝８南半（5206）出土土器である。521 は最下層から出土した土製円盤。522 ～ 531 は下層出土の広口壺。522 は口縁部内面に竹管文を施す。530 と 531 は同一個体の可能性がある。520 ～ 535 は下層出土の鉢ないし甕。533 は胴部に突帯をもつ。536・537 は紀伊型甕。肩

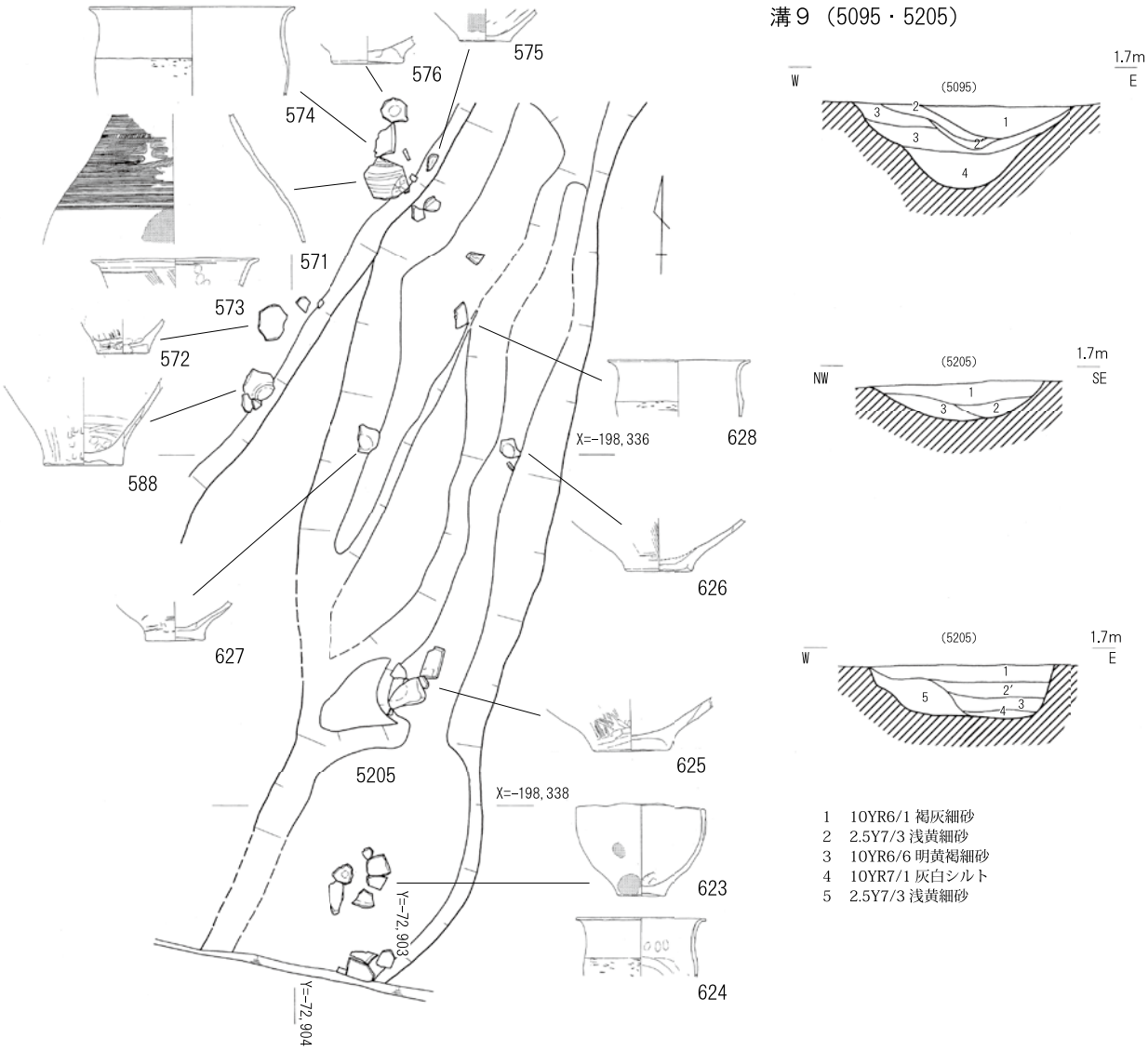


図99　５区　弥生時代　溝９(5095･5205)･溝10(5118･5187･5012)(S=1:40)

部の稜は溝６よりも明確である。538 ～ 542 は壺・甕・鉢の底部。

543 ～ 545 は中・下層出土土器。

546 ～ 549 は広口壺の口縁部。549 は頸部内外面に突帯をもつ。550 は櫛描き文、551 は竹管文を施す。552･553 は大型の鉢で、552 は口縁部に把手状の部分を貼りつける。554 ～ 557 は紀伊型甕。

559 ～ 566・570 は図 90 の出土状況図の位置で集中して出土した広口長頸壺。溝８の南端部、溝９と合流する付近にあたる。無文でハケ・ヘラミガキ調整のみられるものが多く、１点だけ貼り付け突帯をもつ。

571 ～ 576・588 は図 99 の出土状況図の位置で集中して出土した。溝８の中央部にあたる。571 は付加条沈線をもつ櫛描き直線文の間に流水文と刻み目を組み合わせて頸部を飾る大型の壺。574 は紀伊型甕で、肩部には稜がみられる。

577 ～ 587 は出土層位が不明な土器である。577 は口縁部内面にヘラ描き沈線と連続山形文を押す。581 は肩部にヘラで木の葉文を描いた壺片。584 は肩部に突帯を貼り、その上下をヘラ描き沈線で充填している。586 は逆Ｌ字状口縁の上を刻み、肩部にはヘラ描き沈線を３条施す甕ないし鉢。587 は口縁部付近に把手をつけた大型外反口縁鉢。

592 ～ 596 は溝８の分流にあたる 5093 溝から出土した。592 ～ 594 は口縁端部にヘラで装飾する広口壺片。595 は口縁端部付近に三角形状の突帯を貼りつける。596 は底部の薄い甕の底部。

溝８は前期新段階から中期前葉の溝と考えられる。

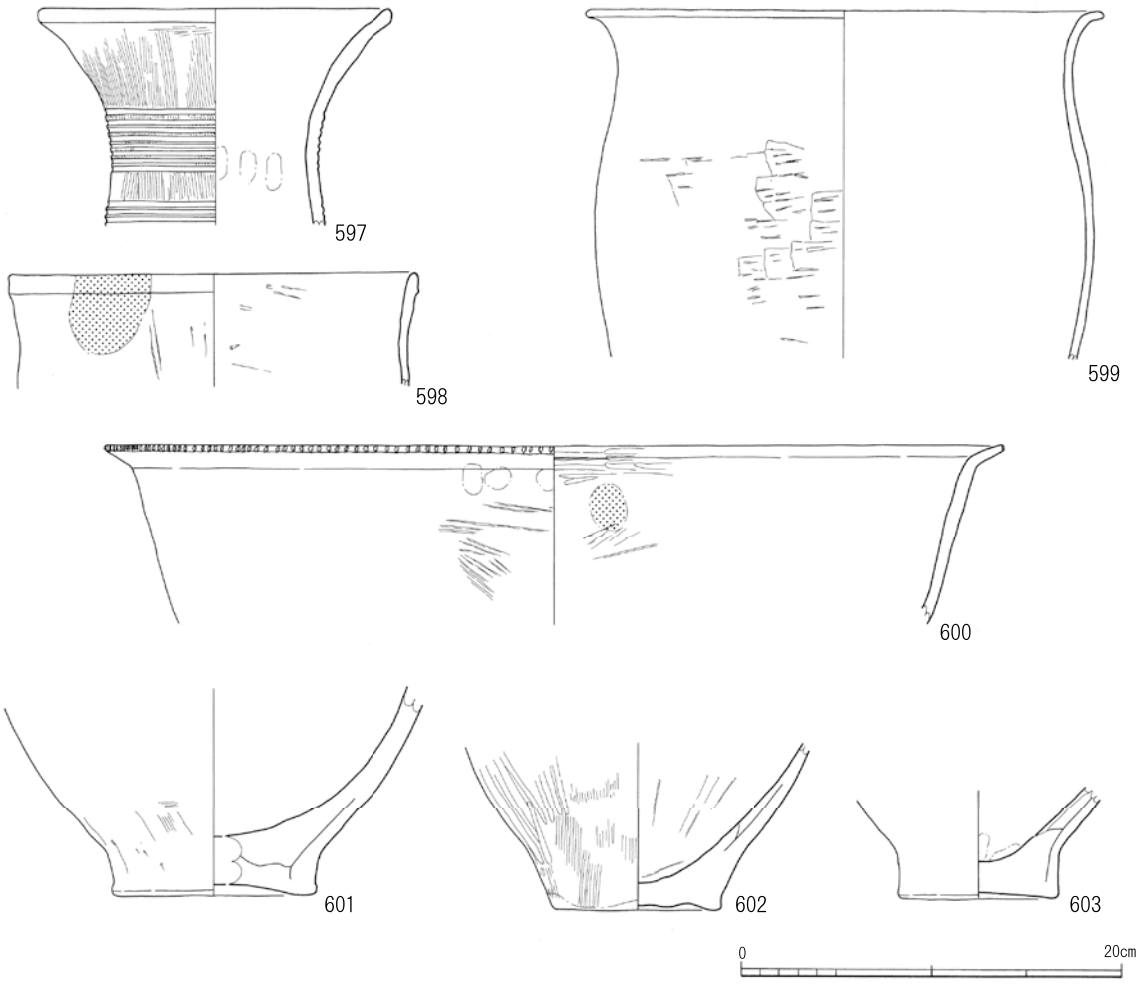
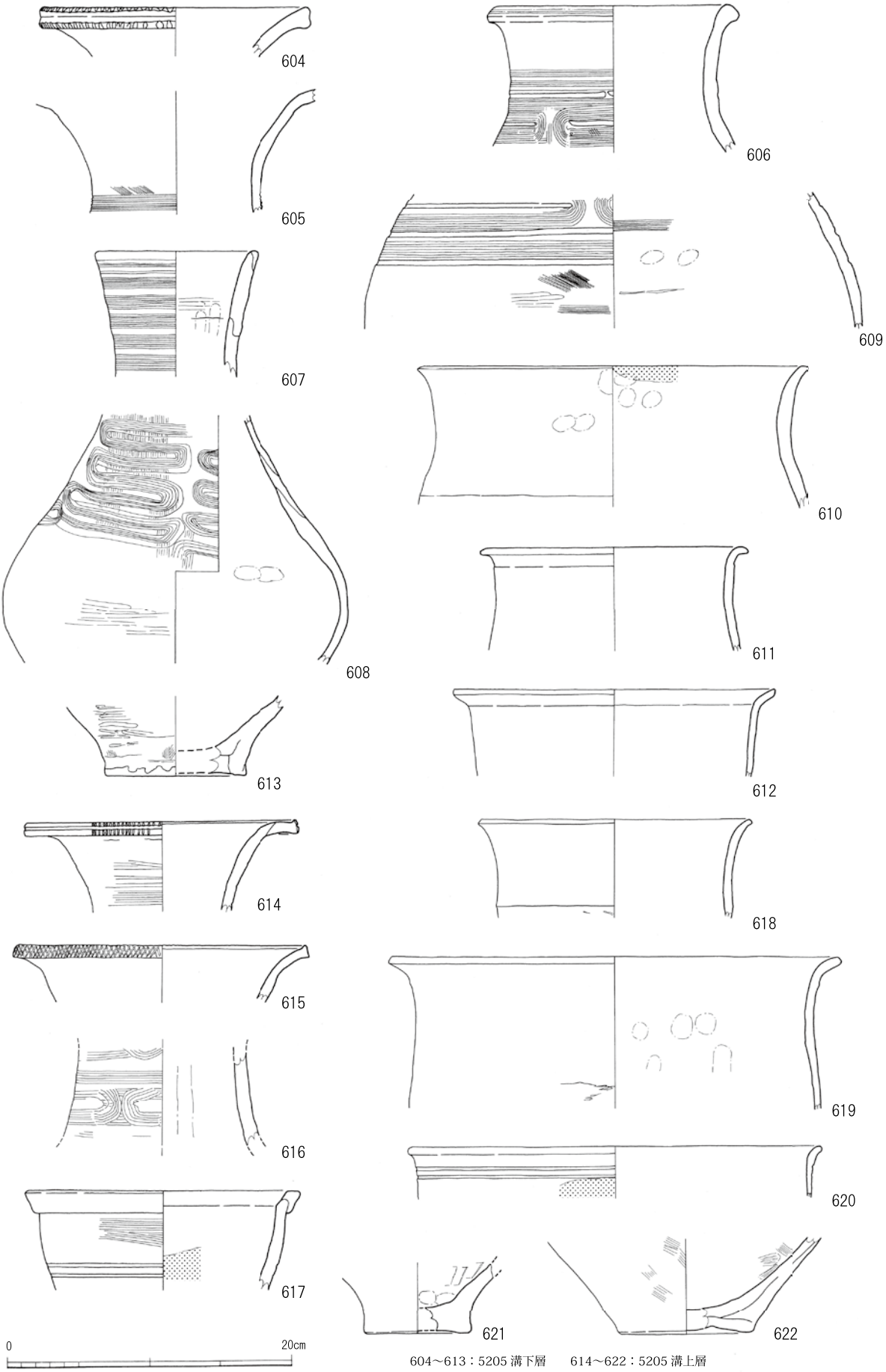
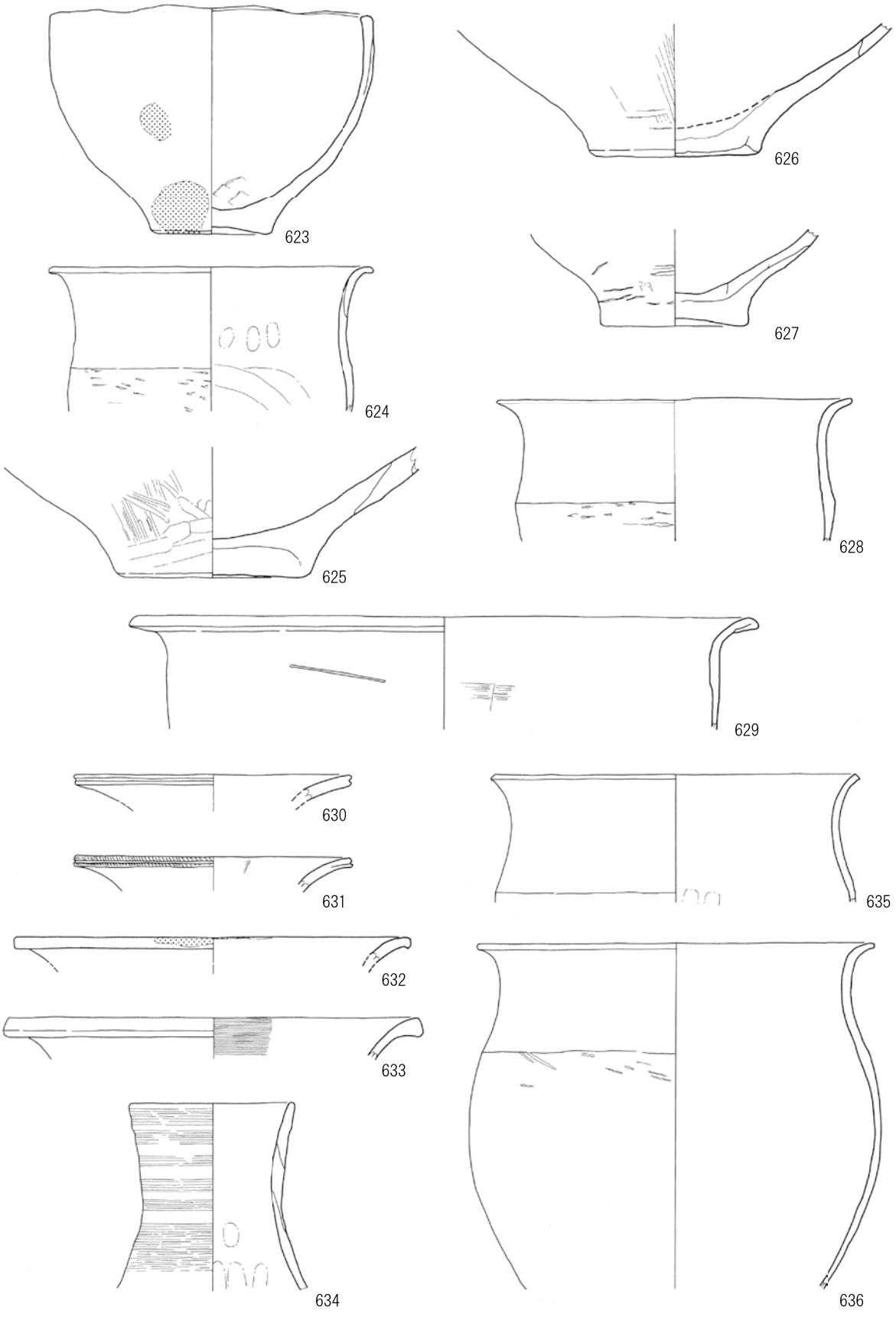


図 100　５区　溝９（5095）出土土器①



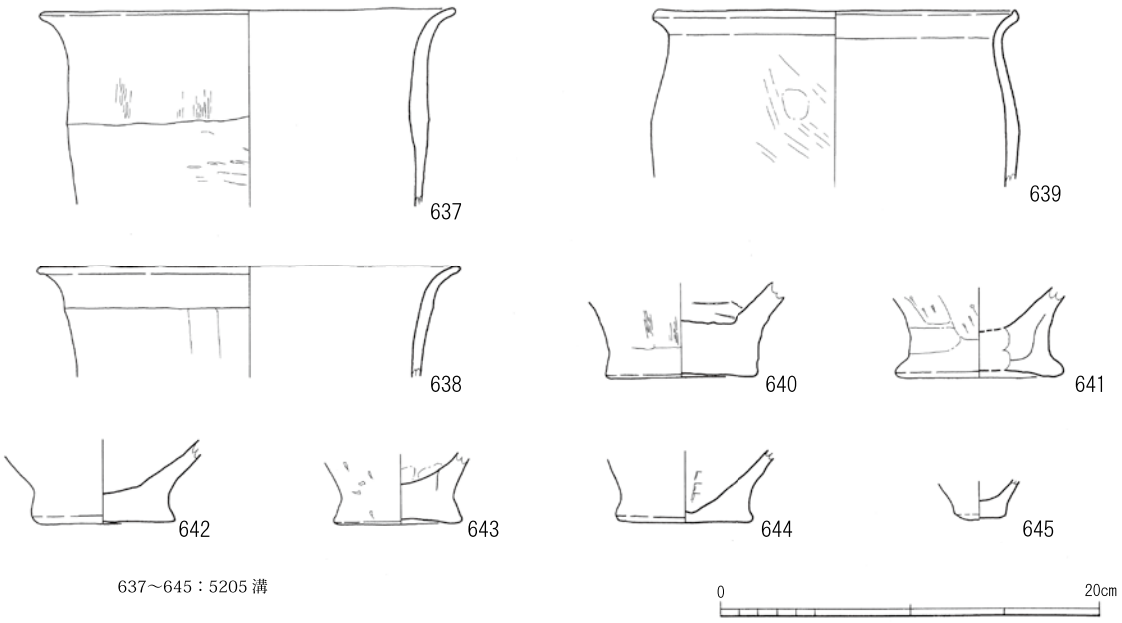
604～613：5205 溝下層　　614～622：5205 溝上層

図 101　５区　溝９（5205）出土土器②



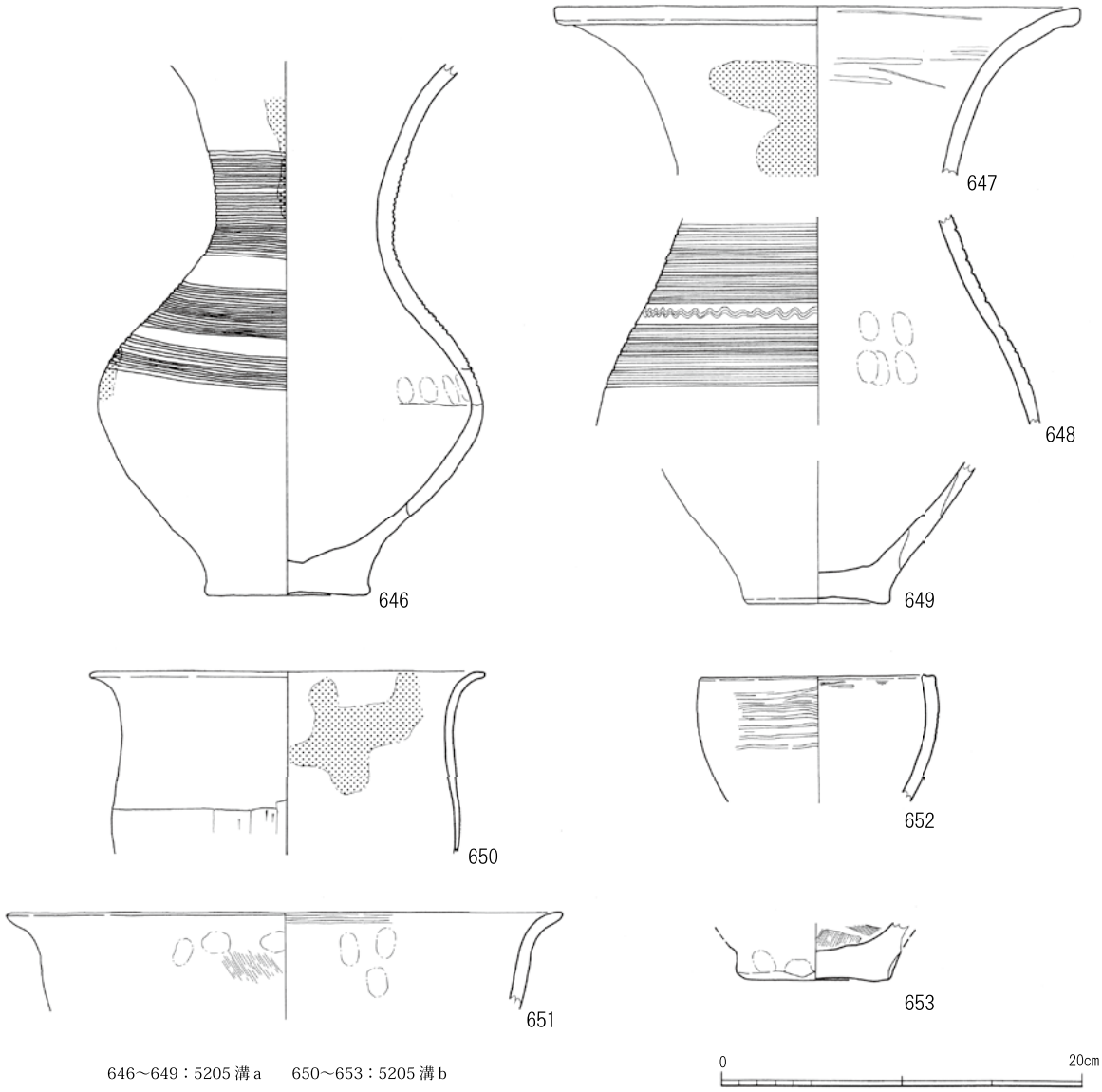
623～629：5205 溝（図 99）付近　630～636：5205 溝

図 102　５区　溝９（5205）出土土器③



637～645：5205 溝

図 103　５区　溝９（5205）出土土器④



646～649：5205 溝 a　　650～653：5205 溝 b

図 104　５区　溝９（5205）出土土器⑤

溝９(5095 溝（5-1 区）・5205 溝（5-4 区））

溝９は弥生時代中期の溝群の中央をやや蛇行しながら流れる溝あるいは流路で、5040 流路の上層に位置し、溝８に先行する。平均的に幅 1.0 ～ 1.2 m、深さ 0.3 ～ 0.5 m程度であるが、溝の底では段差が検出されており、複数の時期の溝が重なっていることがうかがえる。溝の南側（5205 溝）では、上層西溝（5205 a 溝）と上層東溝（5205 b 溝）の遺物を別々に取上げて調査が行われた。これらの溝からは、前期新段階から中期前葉の土器が出土している。

597 ～ 653 は弥生土器。597 ～ 603 は溝９の北側で出土している。２段に分かれるヘラ描き沈線で頸部を飾る広口長頸壺（597）、紀伊型甕（599）である。

604 ～ 645 は溝９の中央部で出土した土器である。604 ～ 612 は下層出土土器。605 ～ 609 は櫛描き文で飾る壺で、606 ～ 613 は頸部を流水文ないし擬似流水文で飾る。608 は胎土分析実施資料。610 ～ 612 が紀伊型甕の破片とみられる。614 ～ 622 は上層出土土器。616 は頸部に櫛描きで擬似流水文を施す。617 は口縁部を粘土貼り付けで拡張した鉢で、体部に２条のヘラ描き沈線を施す。618・619 は紀伊型甕。

623 ～ 628 は図 99 の遺物出土状況の位置で集中して出土しており、5205 中央部で出土した土器である。623 は無文の直口鉢。624・628 は紀伊型甕で、肩部に稜がみられる。624 は胎土分析対象資料である。

630 ～ 633 は広口壺の口縁部。634 は長頸の直口壺で、櫛描き文で飾る。635 ～ 638 は紀伊型甕で、肩の稜はやや甘い。639 は頸部のくびれる甕で、口縁端部が上方へ肥厚する。640 ～ 645 は甕の底部とみられる破片。

646 ～ 649 は 5205a 溝から出土した。646 は頸部と肩部に多条の沈線があるが、ヘラ描きか櫛描きか、摩耗が激しく判然としない。648 は付加条沈線の間をヘラのように太く深い沈線が走る櫛描き文で、直線文と波状文を施す。

650 ～ 653 は 5205 b から出土した。650 は紀伊型甕、652 はヘラ描き沈線を施す小型直口鉢。651 は外反口縁鉢。

溝 10(5118(5-1 区）・5187(5-4 区）・5012 溝（5-2 区））

溝 10 は 5040 流路の上面にあり、溝８・溝９から不整形土坑を多数挟んだ東側で確認された。幅は 0.9 ～ 1.7 m、残存する深さは 0.2 ～ 0.5 mで、溝の断面形状はＶ字形に近い。5215 溝の

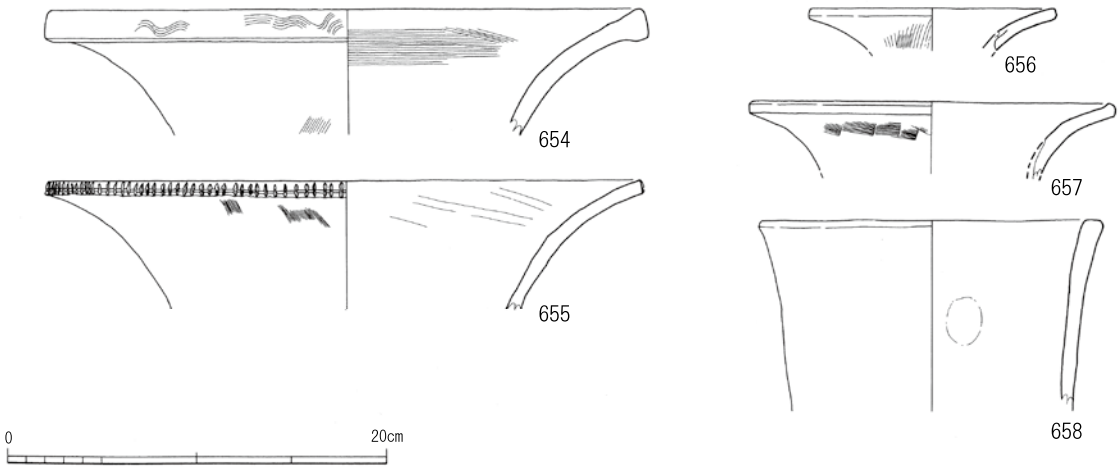


図 105　５区　溝 10（5118）出土土器①

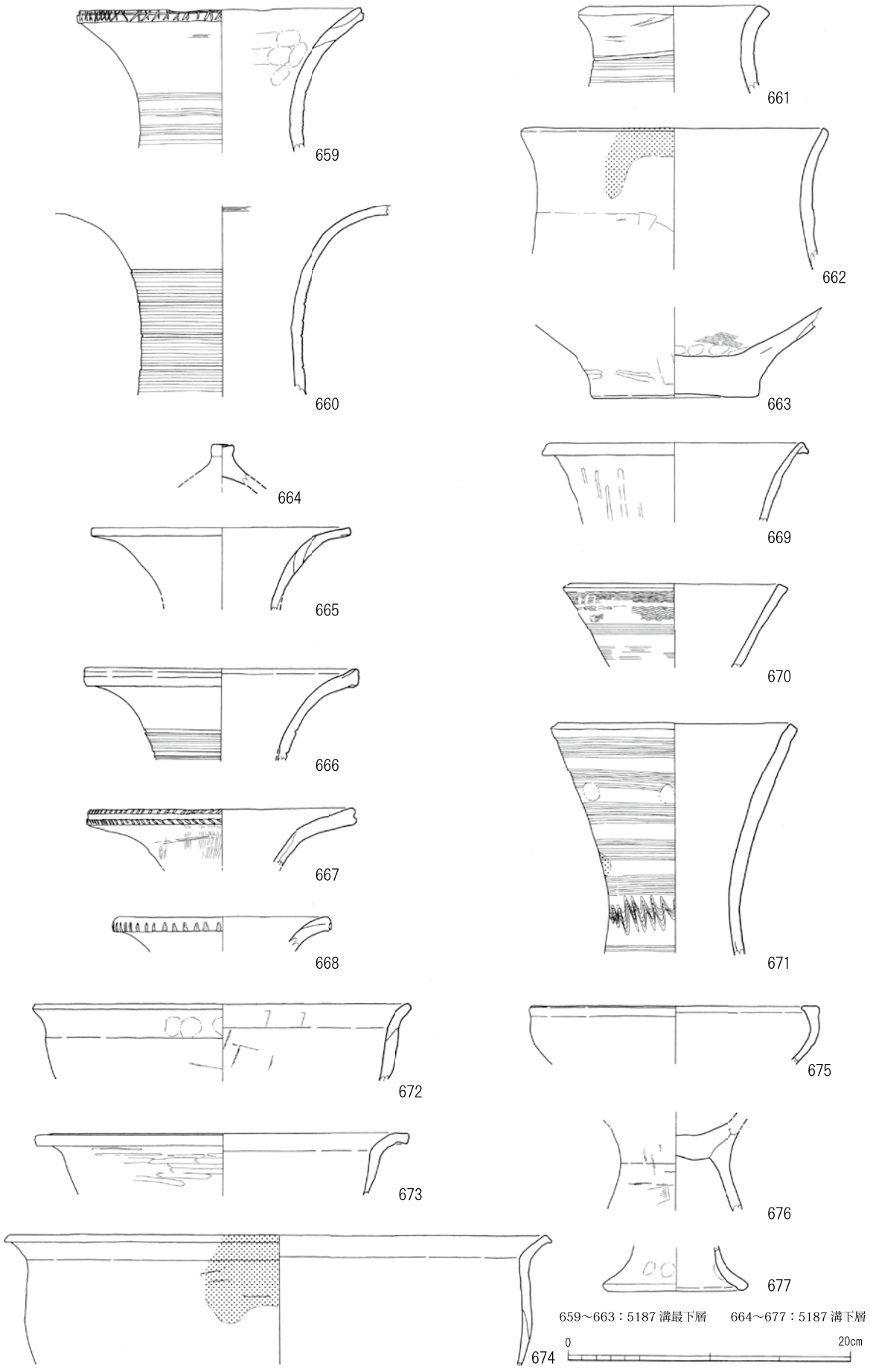


図 106　５区　溝 10（5187）出土土器②

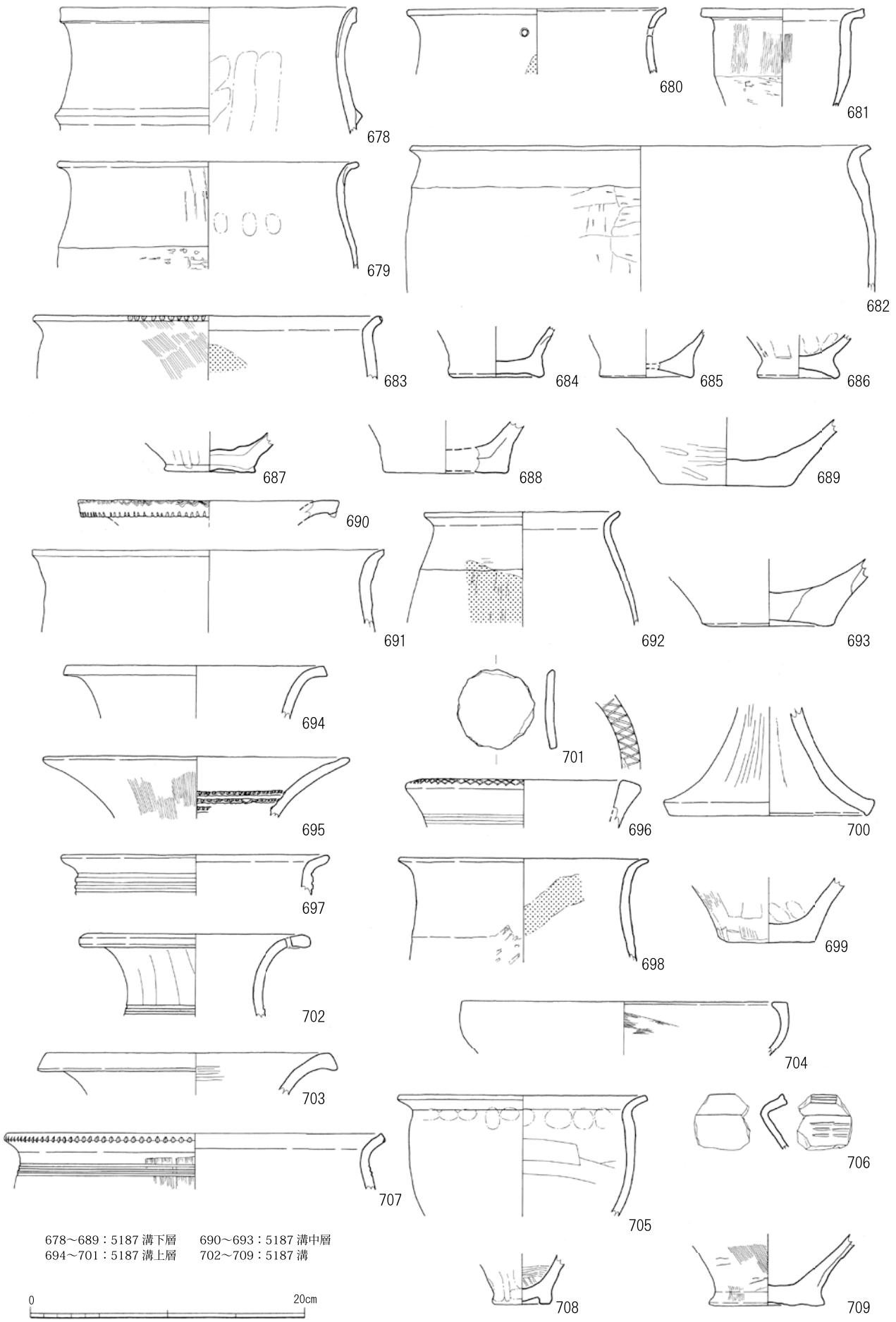


図 107　５区　溝 10（5187）出土土器③

ように、先行する溝の堆積が肩の一部に残る。弥生時代中期中葉の溝と考えられる。

654 ～ 718 は溝 10 及び関連遺構出土の弥生土器である。

654 ～ 658 は溝 10 北部（5118 溝）から出土した広口壺と直口壺の口縁部。654 では拡張した口縁部の端面に、櫛描き波状文を施している。

659 ～ 714 は、溝 10 中央部（5187 溝）から出土した土器で、最下層・下層・中層・上層の土器に分けられる。659 ～ 663 は最下層出土土器。壺の頸部は櫛描き文で飾り、広口長頸壺や紀伊型甕がみられる。664 ～ 689 は下層出土土器。664 は壺の蓋。665 ～ 668 は広口壺の口縁部。669 ～ 671 は長頸の直口壺。無文で口縁端部を三角形状に肥厚するもの（669）と、頸部全体を櫛描きの直線文と波状文で埋めるもの（671）が出土している。672 ～ 274 は外反口縁鉢。675 ～ 677 は高坏ないし鉢。675 は胎土分析を行っている。678 ～ 683 は甕で、紀伊型が多い。678 は突帯文土器の影響が残るものとみられ、680 は頸部に孔をもつ。681 は小型品、682 は大型品である。684 ～ 689 は甕・壺の底部。690 ～ 693 は中層出土土器。694 ～ 701 は上層出土土器。695 は口縁部内面突帯をもち、696 は口縁端部が肥厚する直口壺で、頸部に櫛描き文がみられる。698 は胎

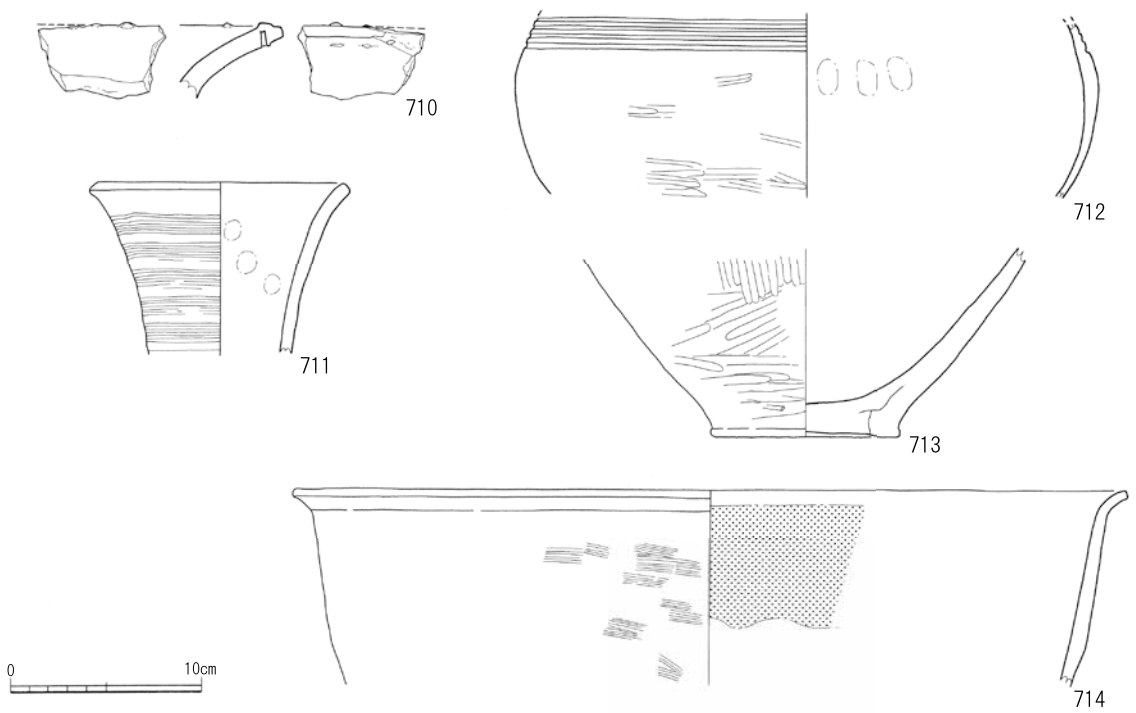


図 108　５区　溝 10（5012）出土土器④

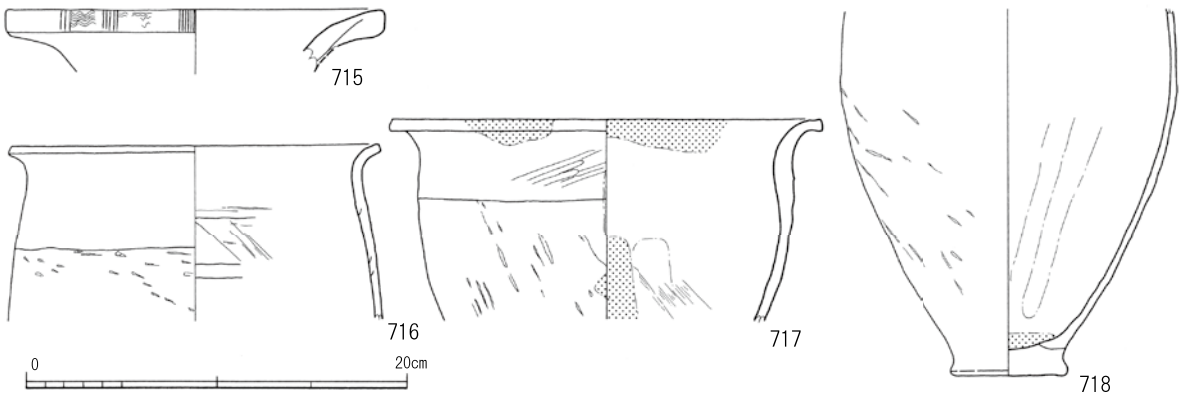


図 109　５区　溝 10 分流（5215）出土土器

土分析資料である。702 ～ 709 は上層から下層までの一括取り上げ資料である。

710 ～ 714 は溝 10 南部（5012）から出土した土器である。710 は口縁部下方から強く刺突された壺片。711 は櫛描き直線文で飾る長頸壺。その他、壺（712・713）、外反口縁鉢（714）等が出土した。

溝 10 の肩部では先行する溝の堆積 5215 が残されており、715 ～ 718 が出土した。715 は厚手の広口壺口縁部で、端部を櫛描き直線文と波状文で飾る。

溝 11(5182 溝・5014 溝・5183 溝（分流））

溝 11 は５区中央の溝群の中で一番南側を流れる溝である。5040 流路の上面で検出されており、北側では 5183 流路が合流している。検出面での幅 1.1 ～ 1.4 ｍ、深さ 0.2 ～ 0.6 ｍで、上流側の断面形はＵ字形で浅く、下流側はＶ字形で深くなる。土器はヘラ描き沈線文をもつ弥生時代前期中～新段階の土器群と、多数の櫛描き文と少量の凹線文がみられる中期中葉を中心とする土器群に分かれる。前者は図 110 の遺物集中地点で出土しており（753 ～ 758・762）、後者は溝の上層の遺物（740 ～ 752）である。溝の下層遺物（719 ～ 739）はこれらが混在して出土していることが分かる。出土状況を勘案すると、溝 11 は中期中葉の溝であり、前期の下層遺構を削って流れているものと考えられる。下層遺構の候補として、図 80 の 5040 流路土層断面図で溝 11 の東側下層に検出されている溝（5040 流路の２層に相当）などが考えられる。

719 ～ 802 は溝 11 出土弥生土器等。

719 ～ 762 は溝 11 北半（5182 溝）から出土しており、最下層・下層・上層及び遺物集中地点の土器に分けられる。

719 は 5182 溝の最下層出土、720 ～ 739 は 5182 溝の下層出土。720 ～ 725 は何れも広口壺であるが、施文方法は様々である。722 は口縁端部に近い内面に連続する突帯を貼りつける。725 は口縁端部とみられる部分を格子状に刻む壺の口縁部片。726 は端部が若干垂下する。727 は口縁が直口気味の壺で、櫛描き文を施す。728 は櫛描き波状文の上下に凹線が入る。729･730 は甕。紀伊型の特徴はなく、瀬戸内の影響を受けたものと考えられる。731 は鉢ないし高坏。732 は大型鉢で、口縁端部に指頭圧痕が並ぶ。733 ～ 739 は平底の底部片で、小型化したものが多い。ハケ調整の甕底部が見受けられる。720 ～ 724・732 は前期新段階の土器、726 ～ 731 は中期中葉の土器であろう。

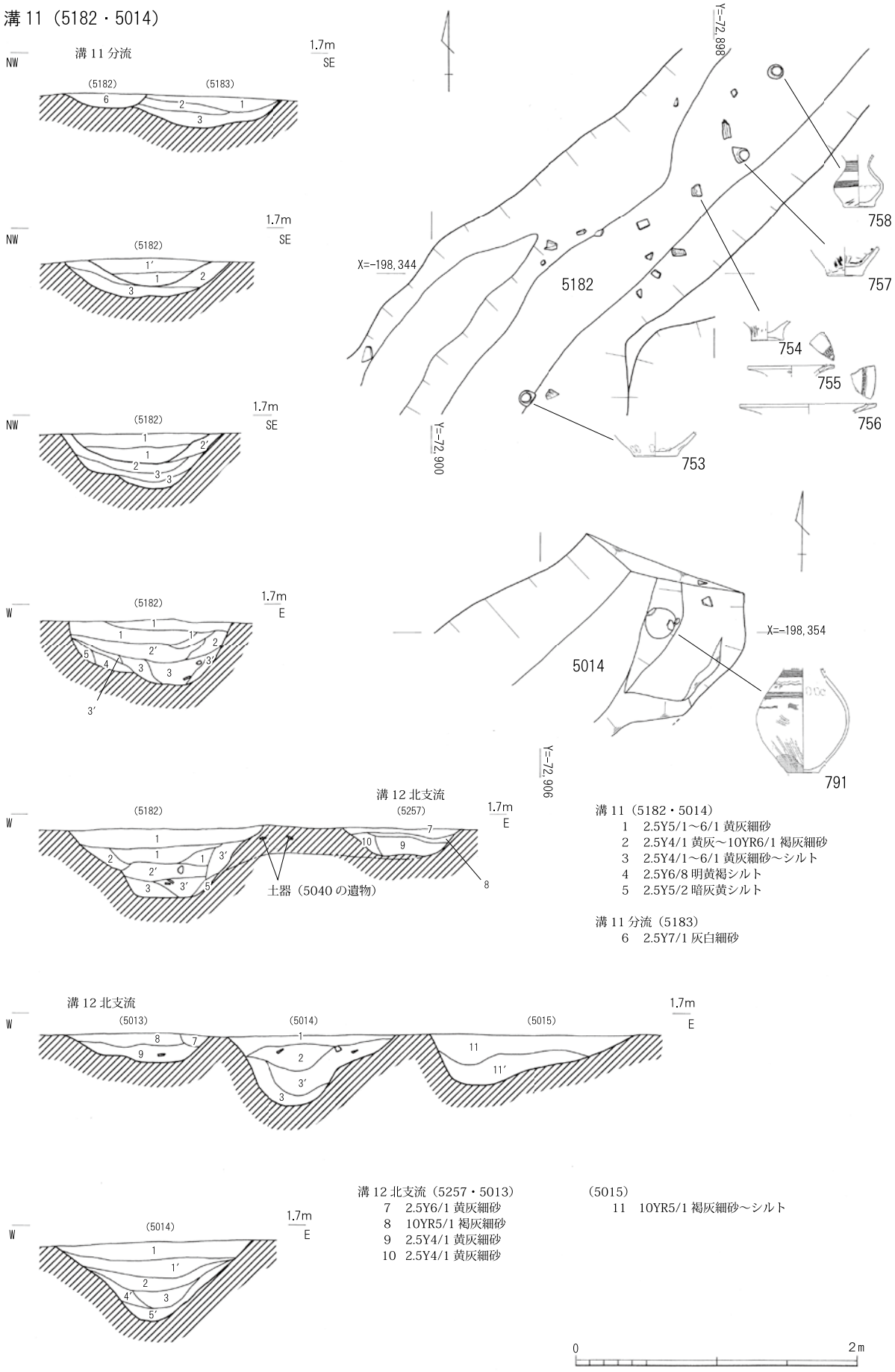
740～752は5182溝上層で出土した中期中葉の土器。740～744･747は頸部を櫛描き文で飾る壺。745 は口縁部内外面に凹線をもつ。748･749 は紀伊型甕で、口縁部が屈曲し、端部に面を有する。

750 はタタキ甕の底部。752 は、てづくね土器。

753 ～ 758・762 は 5182 溝中央の遺物集中地点（図 110 参照）で出土した弥生時代前期中～新段階の土器である。755・756 は口縁部内面突帯をもつ広口壺。瀬戸内の阿方式の影響を受けた土器と考えられるが、胎土は片岩を含む在地の土を使う。758 は遠賀川系の形状を示す壺。762 は頸部に３条のヘラ描き沈線を施す鉢。その他、753・757 など底部片が出土している。

このほか前期の土器（761）と中期の土器（759 ～ 760）が出土している。

766 ～ 802 は溝 11 の南側（5014 溝）で出土した弥生土器である。764 ～ 774 が下層、775 ～ 783 が上層、784 ～ 802 は層の区分なく出土した土器である。溝 11 北側（5182 溝）の上層と同じ傾向をもつ土器が出土しているものと考えられる。



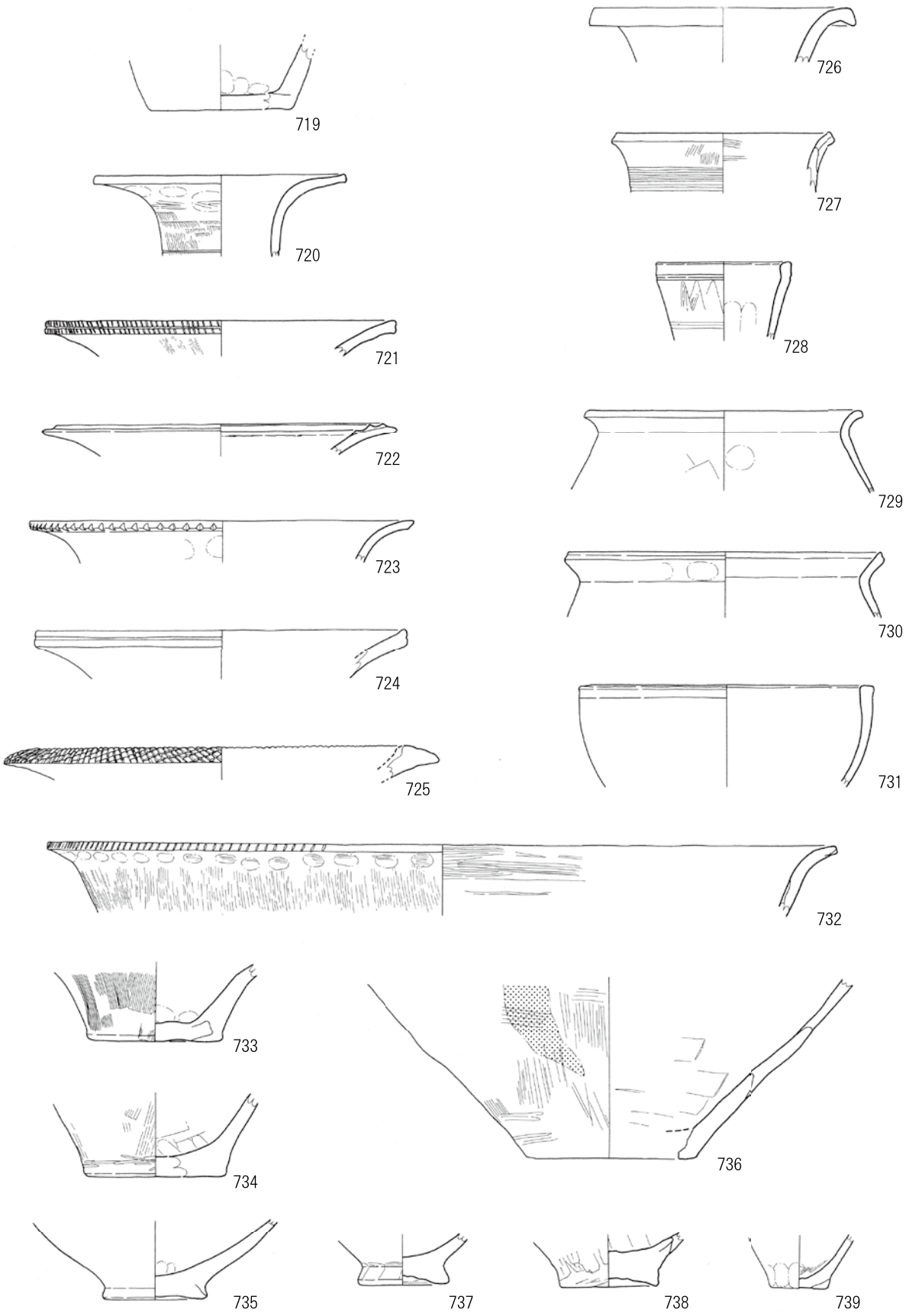
溝 11（5182・5014）
1　2.5Y5/1～6/1 黄灰細砂
2　2.5Y4/1 黄灰～10YR6/1 褐灰細砂
3　2.5Y4/1～6/1 黄灰細砂～シルト
4　2.5Y6/8 明黄褐シルト
5　2.5Y5/2 暗灰黄シルト

溝 11 分流（5183）
6　2.5Y7/1 灰白細砂

溝 12 北支流（5257・5013）
7　2.5Y6/1 黄灰細砂
8　10YR5/1 褐灰細砂
9　2.5Y4/1 黄灰細砂
10　2.5Y4/1 黄灰細砂

（5015）
11　10YR5/1 褐灰細砂～シルト

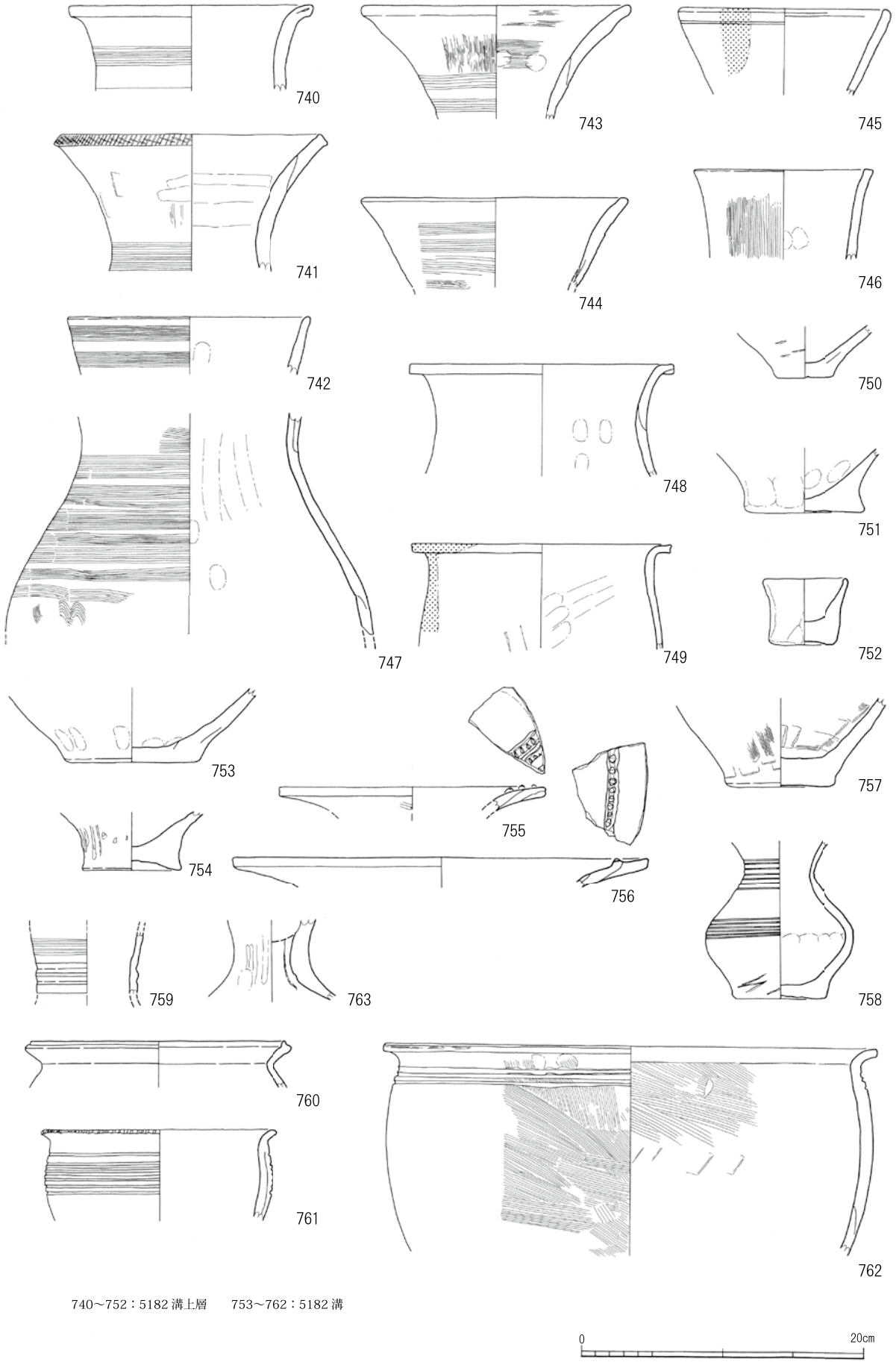
図 110　５区　弥生時代　溝 11（5182・5014）他（S=1：40）



719：5182 溝最下層　　720～739：5182 溝下層

0　20cm

図 111　５区　溝 11（5182）出土土器①



740～752：5182 溝上層　753～762：5182 溝

図 112　5 区　溝 11（5182）出土土器②

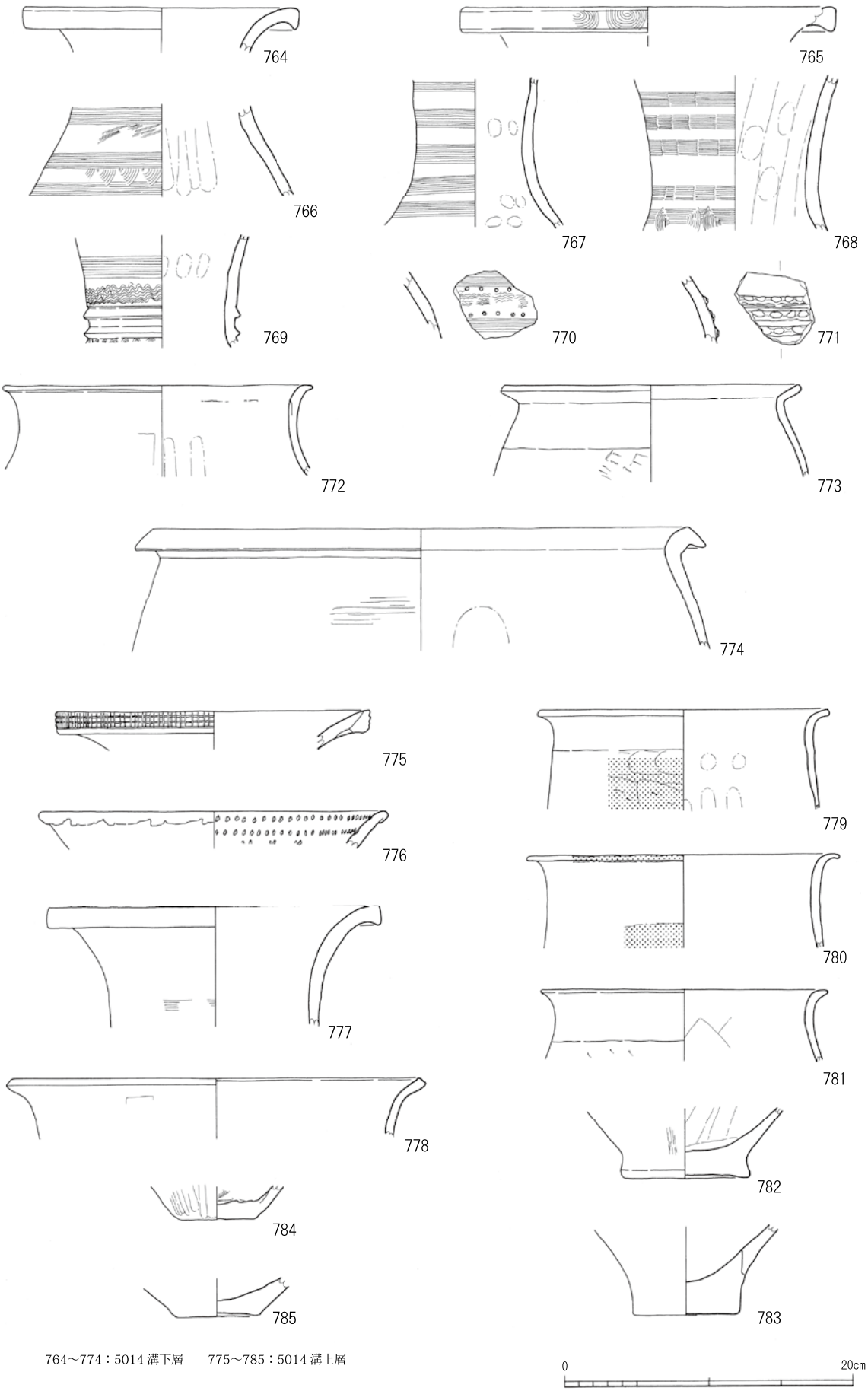


図 113　５区　溝 11（5014）出土土器③

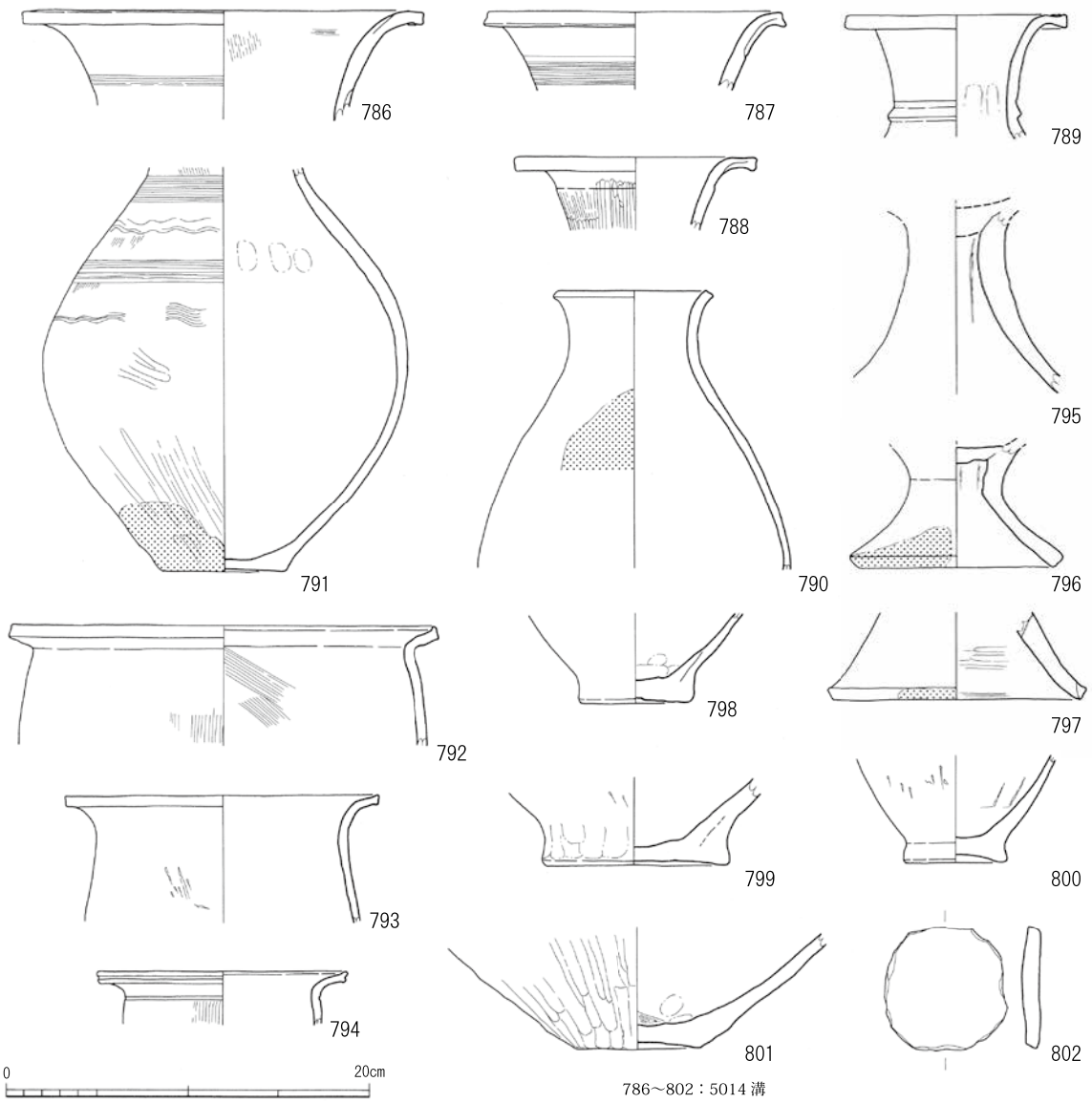


図 114　５区　溝 11（5014）出土土器④

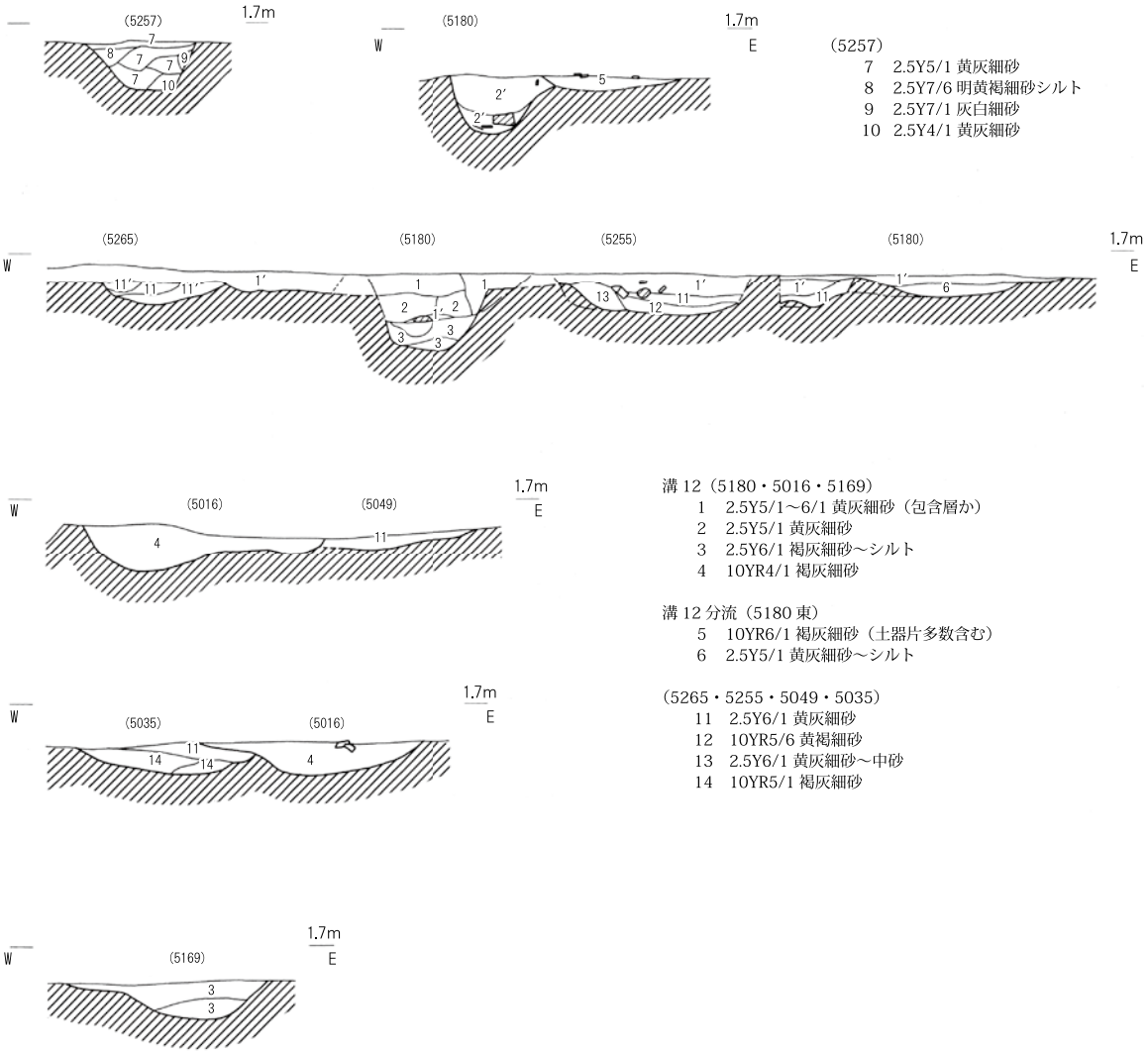
764 ～ 774 は下層の土器。764・765 は壺の口縁部が拡張する。766 ～ 770 は壺の頸部から肩部にかけての破片で、櫛描きの直線・波状・簾状・扇形文のほか、突帯・刺突で装飾する。772 は紀伊型甕、774 は口縁部が下方に折れ曲がる甕。773 はその中間的な形状を示す。775 ～ 783 は上層の土器。775 ～ 777 は口縁端部を高く起こし、ヘラや櫛・列点で装飾する。779 ～ 781 は紀伊型甕。782 ～ 785 は平底の土器底部。

786 ～ 789 は口縁部が屈曲し、端部に面をもつ壺。789 は胎土分析を行っており、片岩が多量に含まれる在地の土器である。791 も胎土分析を行っており、肩部は櫛描き文で飾る。792 は頸部が屈曲するハケ甕。795 は高坏片。796・797 は脚部片。798 ～ 801 は壺甕類の底部で、薄手となる。802 は土器片を利用した円盤状土製品。

溝 12（5180 溝（5-4 区）・5016 溝（5-2 区）・5169（5-5 区））

溝 12 は、５区中央部で確認された古墳時代の溝である。弥生時代前期の 5040 流路や弥生時代中期の溝群より約５ｍ南側の地山上を、北東から南西に平行して流れている。溝は北半で幅 0.6 ｍ、深さ 0.4 ｍ、南半は幅 1.3 ｍ、深さは 0.2 ｍとなる。北半では、5180 の東に分かれる溝状

溝 12 北支流　　溝 12（5180・5016・5169）



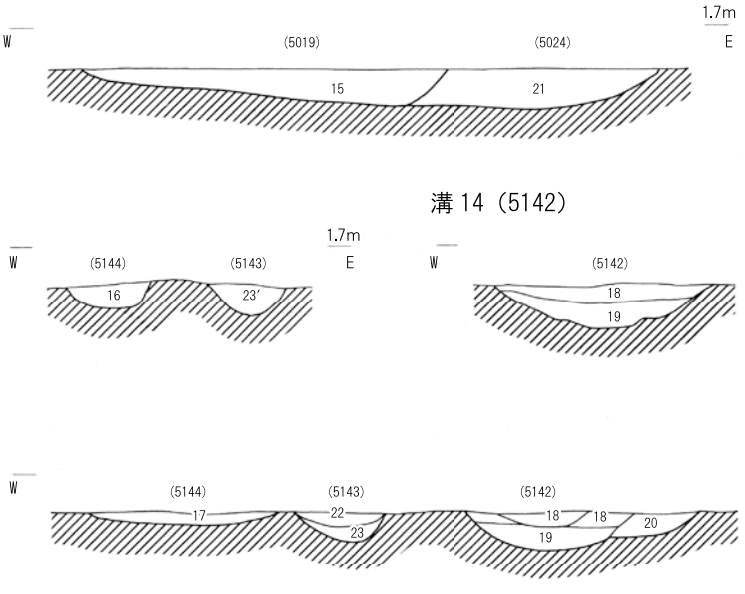
（5257）
7　2.5Y5/1 黄灰細砂
8　2.5Y7/6 明黄褐細砂シルト
9　2.5Y7/1 灰白細砂
10　2.5Y4/1 黄灰細砂

溝 12（5180・5016・5169）
1　2.5Y5/1～6/1 黄灰細砂（包含層か）
2　2.5Y5/1 黄灰細砂
3　2.5Y6/1 褐灰細砂～シルト
4　10YR4/1 褐灰細砂

溝 12 分流（5180 東）
5　10YR6/1 褐灰細砂（土器片多数含む）
6　2.5Y5/1 黄灰細砂～シルト

（5265・5255・5049・5035）
11　2.5Y6/1 黄灰細砂
12　10YR5/6 黄褐細砂
13　2.5Y6/1 黄灰細砂～中砂
14　10YR5/1 褐灰細砂

溝 13（5019・5144）



溝 14（5142）

溝 13（5019・5144）
15　10YR4/2 灰黄褐細砂
16　7.5YR6/6 橙細砂～シルト
17　10YR6/1 褐灰シルト

溝 14（5142）
18　7.5YR5/1 褐灰細砂～シルト
19　7.5YR4/1 褐灰細砂～シルト
20　10YR5/4 にぶい黄褐細砂～シルト

5024 溝
21　10YR4/1 褐灰細砂

5143 溝
22　10YR6/1 褐灰細砂
23　10YR6/6 明黄褐シルト



図115　５区　古墳時代　溝12(5180･5016)･溝13(5019･5144)溝14(5142)(S=1:40)

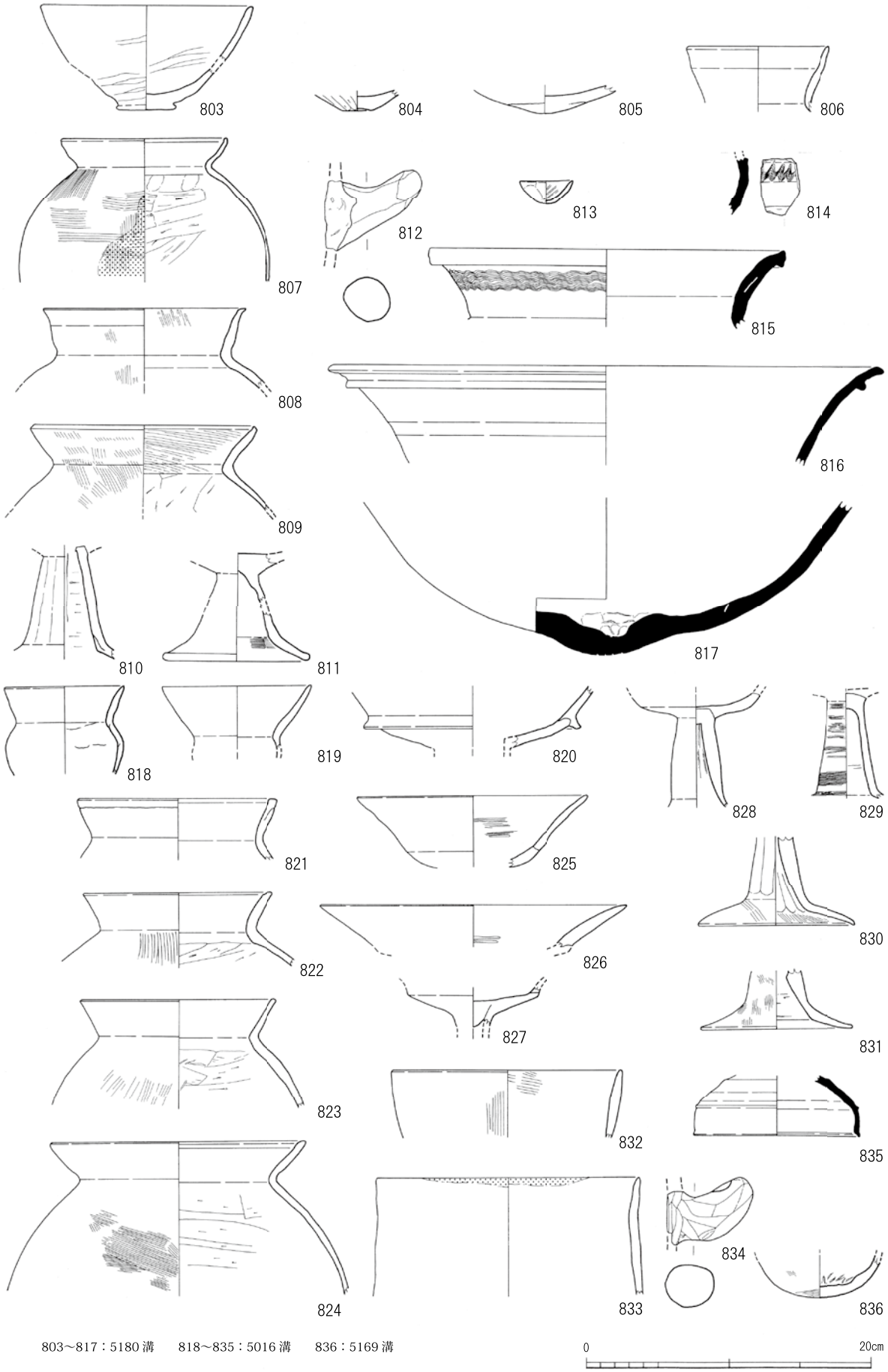


図 116　５区　溝 12（5180・5016・5169）出土土器

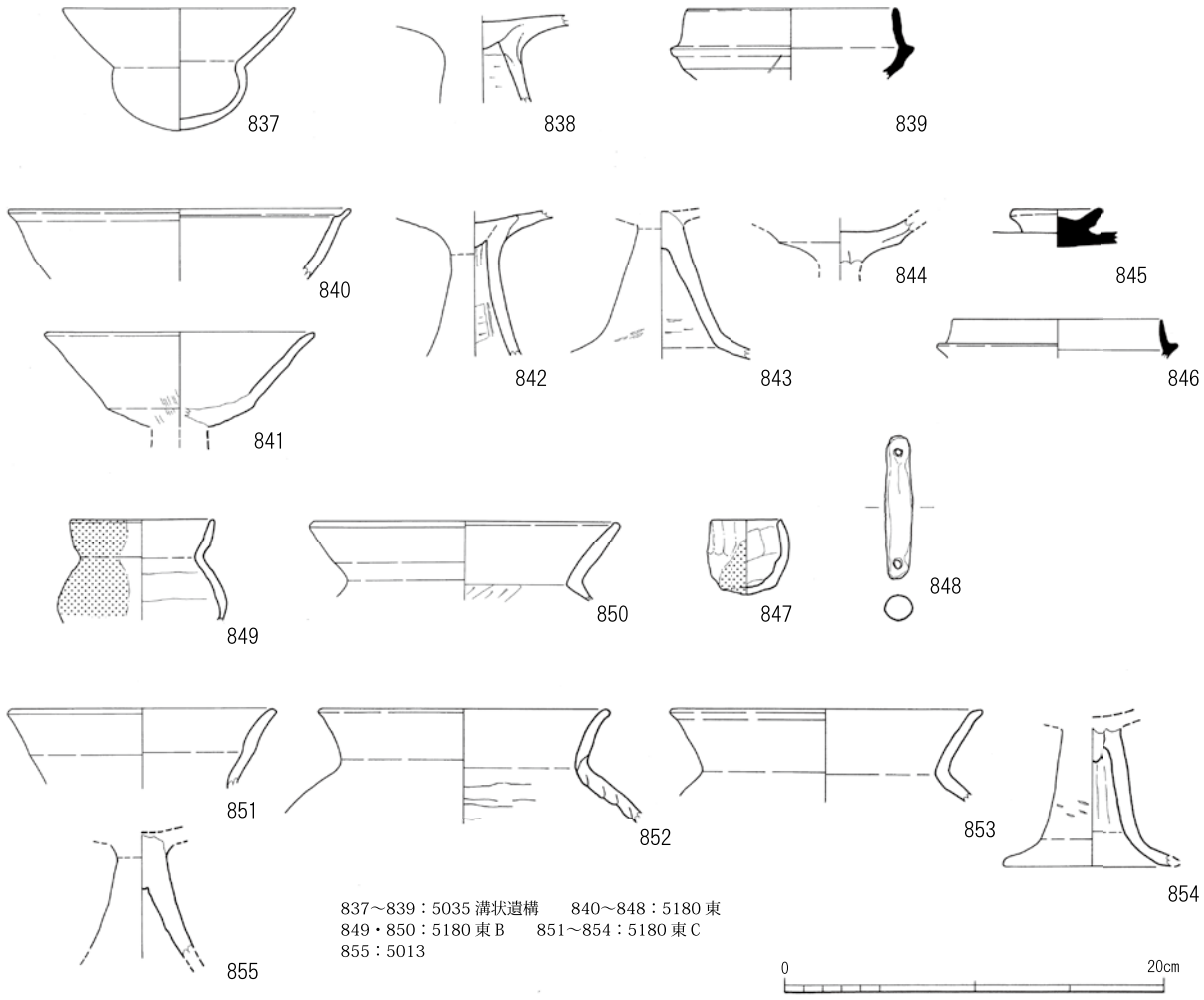


図 117　５区　溝 12 関連遺構出土土器

遺構と、やや西向きに分かれる 5257 溝（＝ 5013 溝）が検出されている。二つの溝・溝状遺構と溝 12 が接するあたり一帯は、古墳時代前期～中期の多数の不整形土坑に覆われた不安定な状態となっている。

803 ～ 836 は溝 12 出土の土師器と須恵器。803 ～ 817 は溝 12 北半（5180）から出土した。803 ～ 809 は古墳時代前期と考えられる土師器。803 は弥生Ｖ様式系の鉢であるが、タタキ痕が残らない。805 は尖底の甕片。806 は二重口縁壺の口縁部。807 ～ 809 は布留式の甕。807 は口縁端部が上方に肥厚し、頸部内側には段をもつ。外面はハケ調整、内面はケズリ調整で、器壁は薄い。810 ～ 813 は古墳時代中期の土師器。813 はミニチュアの製塩土器状を呈す。814 ～ 817 は初期須恵器。816 は口縁部下方に突帯をもち、817 は底部が尖底で内面に絞り痕をもつ。818 ～ 835 は溝 12 南側（5016 溝）から出土した。819・820・824・829 は古墳時代前期、その他は古墳時代中期の土器と考えられる。甕と高坏が多数、小型丸底土器と鉢・甑類が少数ある。須恵器は微量出土する。836 は溝 12 南端部（5169）で出土した丸底土器の底部片。

837 ～ 839 は溝 12 南部の西肩にある 5035 溝状遺構で出土した。837 は前期の小型丸底鉢、839 は中期の須恵器坏身。

840 ～ 846・849・850 は 5180 東出土。840 は有段口縁鉢。841 ～ 844 は土師器高坏、845 は須恵器の摘み、846 は坏身。847・848 は 5180 東Ｂ出土甕。851 ～ 855 は 5180 東Ｃ出土土師器。

溝 13(5019 溝 (5-2 区)・5144 溝 (5-5 区))

溝 13 は５区南部で検出した北東から南西に流れる溝群の中で、一番北に位置する溝である。溝の北半 (5019 溝) で幅２～３ｍ、深さ 0.2 ｍ、南半 (5144 溝) で 0.5 ｍ、深さ 0.1 ～ 0.2 ｍである。溝の北部 (5019 溝) は浅く広がって途切れており、下層に先行する 5024 溝がやや東側に流れていく状況が確認される。溝の南部 (5144) では、溝 15 の下層を流れていることが確認できる。弥生時代中期～後期の弥生土器片 (856・857) のほか、土師質の土器片が微量出土した。

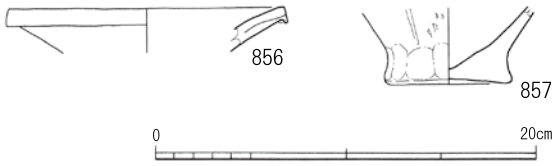


図 118　５区　溝 13 (5019) 出土土器

溝 14(5142 溝 (5-5 区)・5001 溝 (5-3 区))

溝 14 は５区南部の溝群の中央を流れる溝である。溝 14 の北部 (5142 溝) で幅 1.2 ｍ､深さ 0.2 ｍ、南部 (5001 溝) で幅 0.8 ～ 1.0 ｍ、深さ 0.2 ｍである。弥生土器片と土師器片が混在する。

858 ～ 865 は溝 14 出土の弥生土器と土師器。弥生土器は弥生時代中期頃の蓋 (858)、壺 (859) のほか、図 119 の出土状況図の位置から、櫛描き文で飾る広口長頸壺 (859) が出土している。土

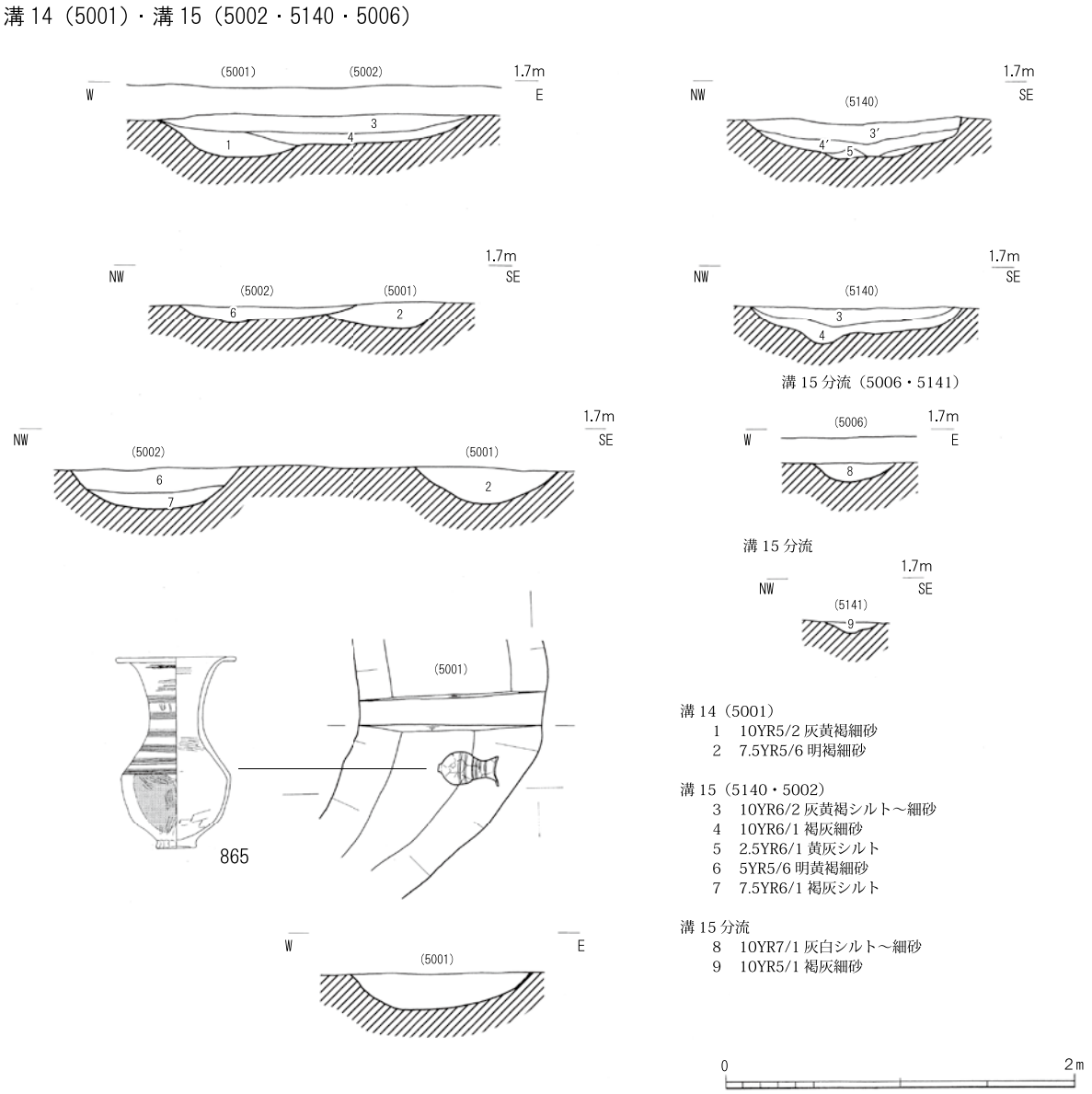


図 119　５区　弥生～古墳時代　溝 14 (5001)・溝 15 (5140・5002) (S=1：40)

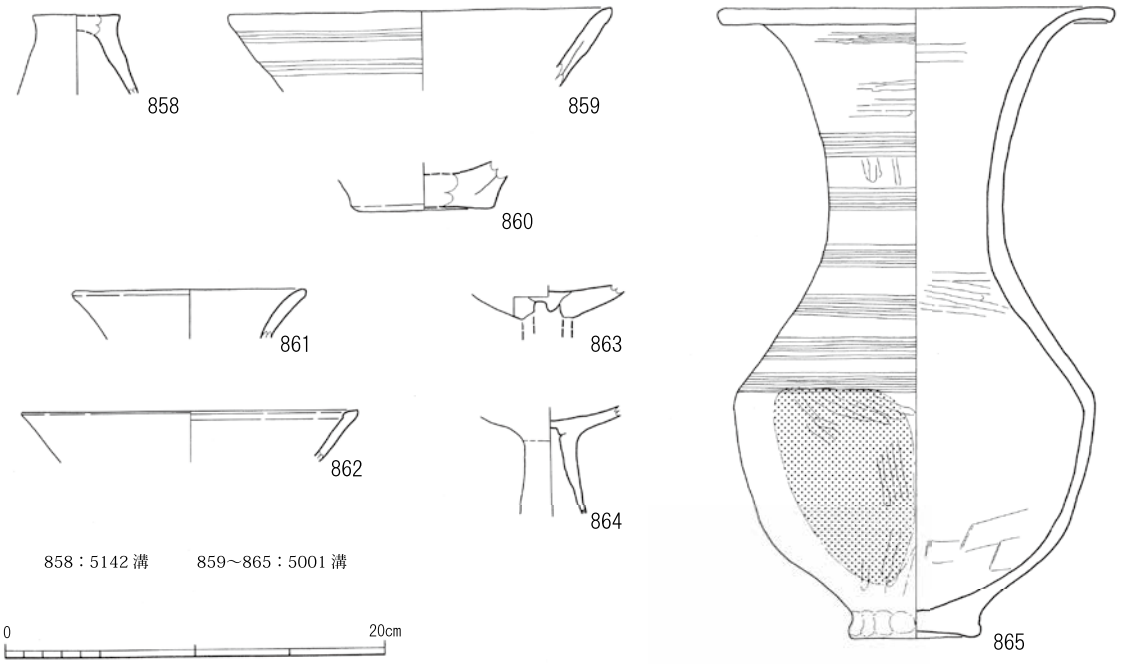


図 120　５区　溝 14（5142・5001）出土土器

師器は甕の口縁部（861・862）、高坏接合部（863・864）が出土している。

溝 14 の北側に平行して 5143 溝が流れており、弥生土器片が出土する。これらの溝はともに溝 15 に先行する溝である。これらの２本の溝の北側延長上付近に 5020 溝・5027 溝があり、弥生土器片と土師器・須恵器が少量ずつ出土している。

溝 15（5140 溝（5-5 区）・5002 溝（5-3 区））

溝 15 は５区南部の溝群のなかで南側を流れる古墳時代中期の溝である。幅 1.0 ～ 1.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 m。5140 溝上層からは青銅製の鈴（K6）が出土している。

866 ～ 871 は 5140 溝の土師器・須恵器。866・867 は 5140 溝下層出土の土師器高坏と須恵器坏である。868 ～ 871 は上層出土の土師器把手（868）、高坏（872）、須恵器坏蓋（869･870）、須恵器坏身（871）である。

なお、溝 15 の北端付近から幅約 0.4 m の細い溝（5141 溝・5006 溝）が分岐しており、土師器・須恵器片が出土している。

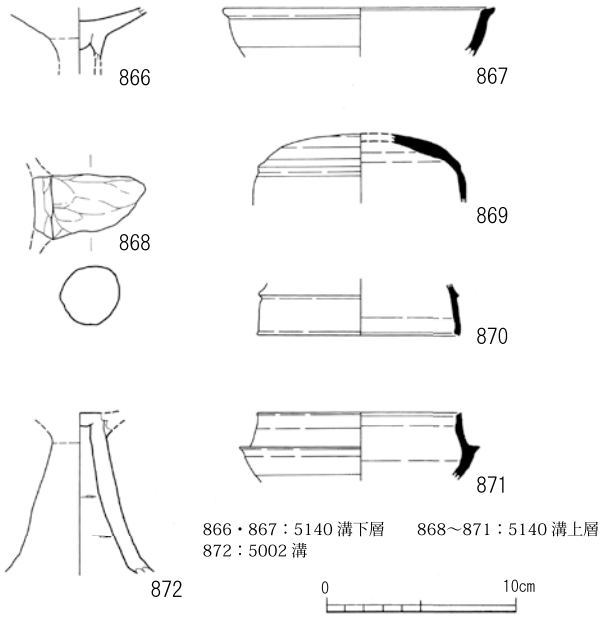


図 121　５区　溝 15（5140・5002）出土土器

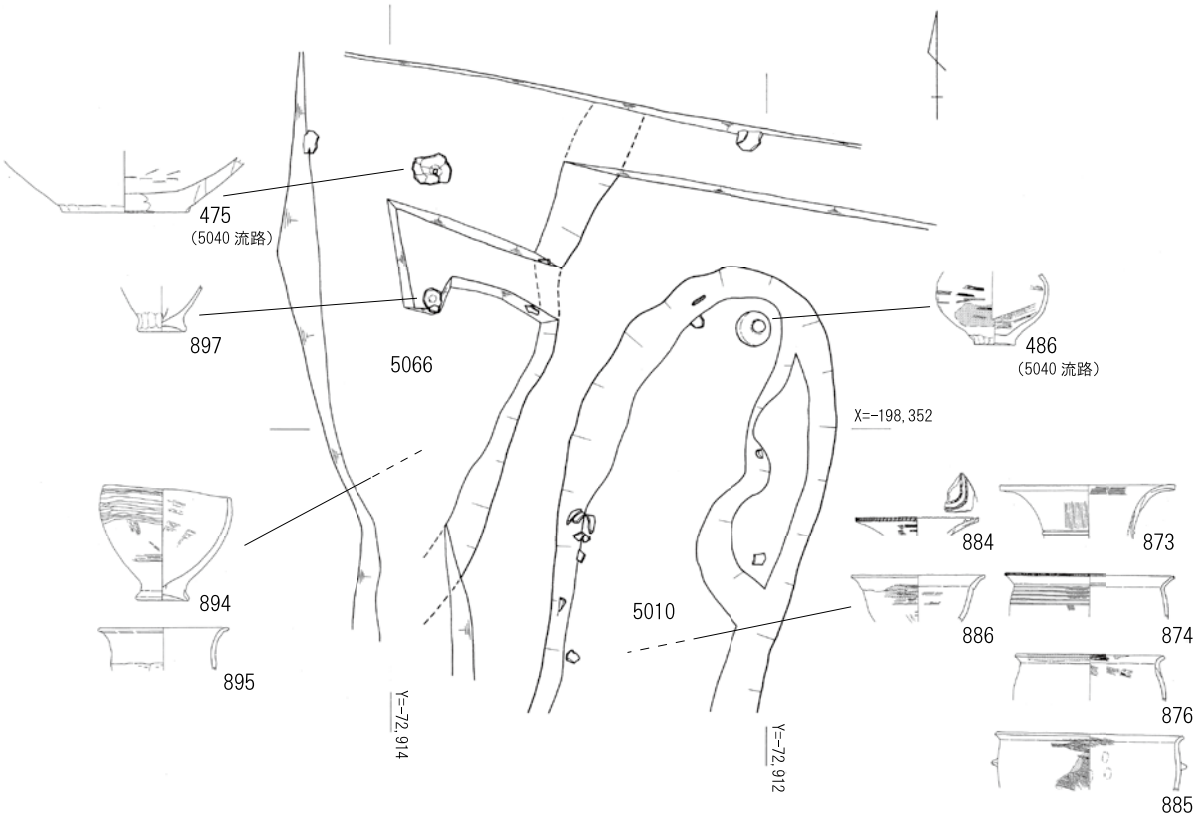
(3)　5040 流路上面の遺構群

５区中央を北東から南西に流れる 5040 流路の上面で、中期の溝群に前後する時期に形成された遺構が集中して検出された。5040 流路の埋土としての性格が強く、溝状遺構・不整形土坑・土坑・ピットが確認されている。

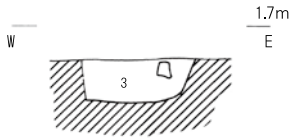
5010・5066 溝状遺構

5-4 区南西から 5-2 区北西にかけて検出された溝状の堆積である。切り合い関係から中期の溝

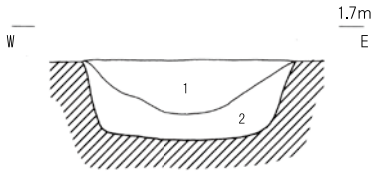
5010、5066 溝状遺構（5-2 区）



5066 溝状遺構



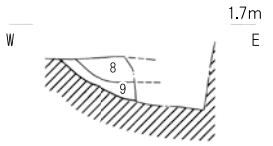
5010 溝状遺構



（5010 溝状遺構）
1　10YR6/1 褐灰細砂～シルト
2　10YR5/1 褐灰細砂～シルト

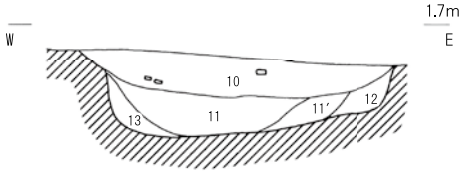
（5066 溝状遺構）
3　10YR4/1 褐灰細砂

5077 溝（5-1 区）



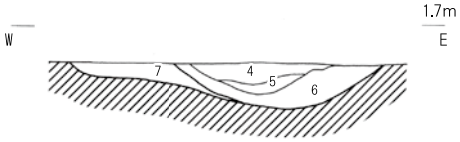
8　10YR6/1 褐灰シルト～細砂
9　2.5Y5/1 黄灰細砂

5092 土坑（5-1 区）



10　10YR4/1 褐灰細砂～シルト
11　10YR5/1 褐灰細砂～シルト
12　10YR6/1 褐灰細砂
13　10YR6/6 明黄褐細砂

5020・5027 溝（5-2 区）



4　10YR5/1 褐灰細砂～シルト
5　10YR4/1 褐灰シルト
6　10YR5/1 褐灰シルト
7　10YR5/3 にぶい黄褐シルト

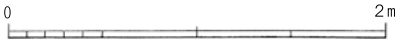
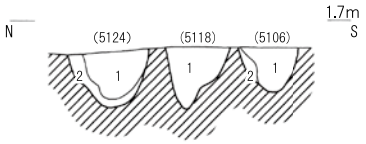


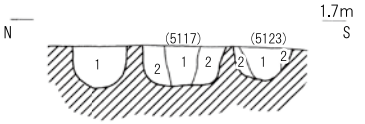
図 122　5 区　弥生時代の各種遺構①

ピット列（5-1 区）



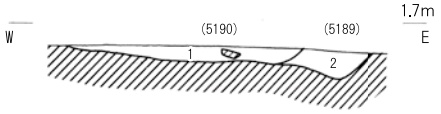
1　10YR5/1 褐灰シルト～細砂

ピット列（5-1 区）



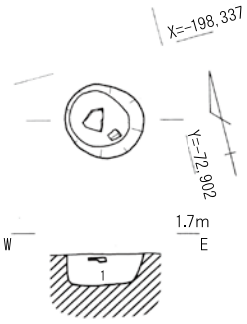
2　10YR6/1 褐灰シルト～細砂

5189、5190 不整形土坑（5-4 区）



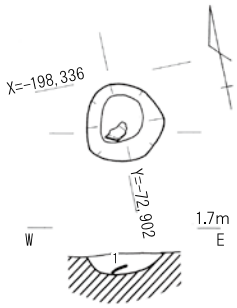
1　2.5Y6/1 黄灰細砂
2　10YR6/1 褐灰シルト～細砂

5193 ピット（5-4 区）



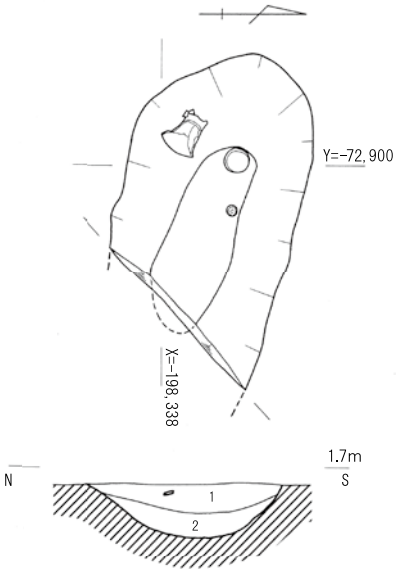
1　7.5YR5/1 黄灰細砂

5197 ピット（5-4 区）

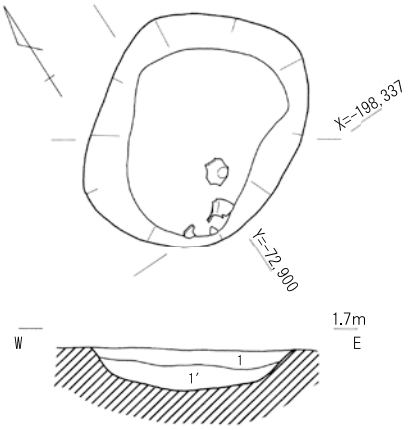


1　7.5YR5/6 細砂

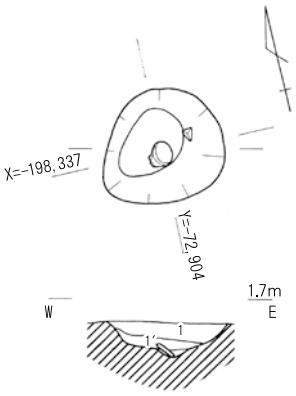
5199 土坑（5-4 区）



5196 土坑（5-4 区）

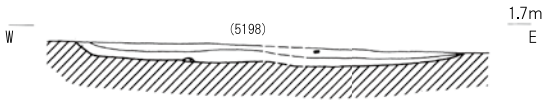


5203 土坑（5-4 区）



1　7.5YR5/1 黄灰細砂

5198 不整形土坑（5-4 区）



1　2.5Y6/1 灰細砂～7/1 灰白中砂
2　2.5Y6/3 にぶい黄～6/1 黄灰細砂

（5196 土坑）
1　2.5Y6/1 黄灰細砂

（5199 土坑）
1　2.5Y6/1 黄灰細砂
2　2.5Y6/3 にぶい黄細砂



図 123　5 区　弥生時代の各種遺構②(S=1：40)

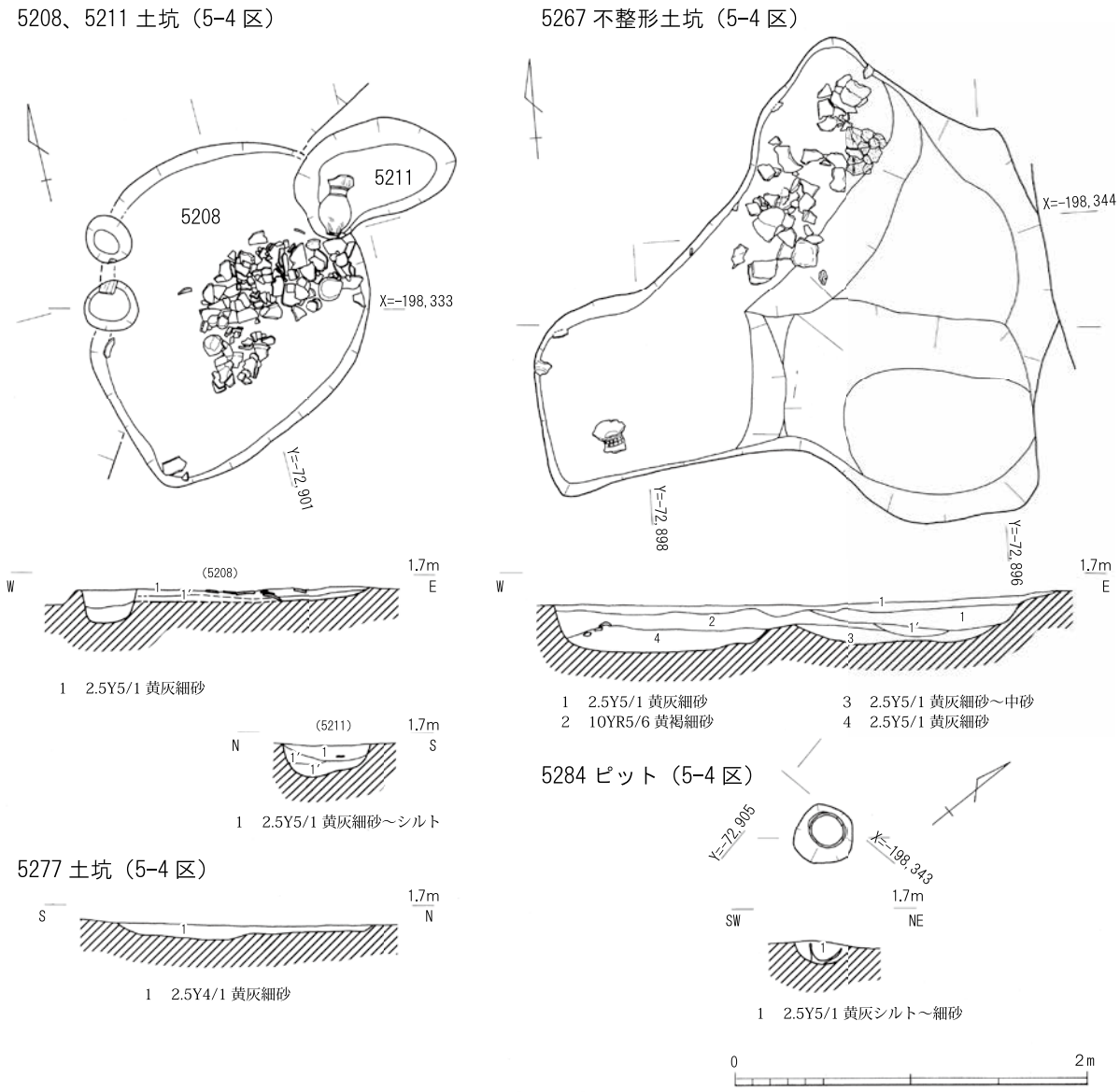


図 124　5 区　弥生時代の各種遺構③(S=1：40)

群に先行する遺構で、5066 は溝 9 の下層溝に相当する可能性がある。879 ～ 882 は 5010 溝状遺構の上層で出土したヘラ描き沈線文で飾る壺・甕類。884 ～ 890 は 5010 溝状遺構の下層（5040 流路相当層）から出土した土器で、口縁部内面に突帯をもつ壺や外反口縁鉢等がある。5066 溝状遺構からは多条のヘラ描き沈線をもつ直口鉢や紀伊型甕等（894 ～ 898）が出土している。

5048・5188・5189・5196・5198・5275 不整形土坑等（5-2 区・5-4 区）

中期の溝群と前後する時期の土坑等である。浅い堆積の中に土器が多量に含まれている。5-2 区の 5048 土坑から穿孔土器（893）、5-4 区の 5188・5189 不整形土坑から壺甕類（907 ～ 910）、5196 土坑から広口壺類（913 ～ 917）、5198 不整形土坑から甕類（919 ～ 921）が出土している。

5092・5185・5208・5211・5277 土坑（5-1 区・5-4 区）

中期の溝群の上層に形成された土坑である。5-1 区の 5092 土坑は円形の土坑で、紀伊型甕や付加条沈線をもつ櫛描き文の直口壺片が出土している。5-4 区の 5185 土坑・5208 土坑からは紀伊型甕（906、929 ～ 931）、5211 土坑は長径 0.8 m、短径 0.3 m、深さ 0.4 mを測る長楕円形の土坑で、長頸気味の広口壺（932）、5277 土坑からは直口壺（945）が出土している。前期新段階か

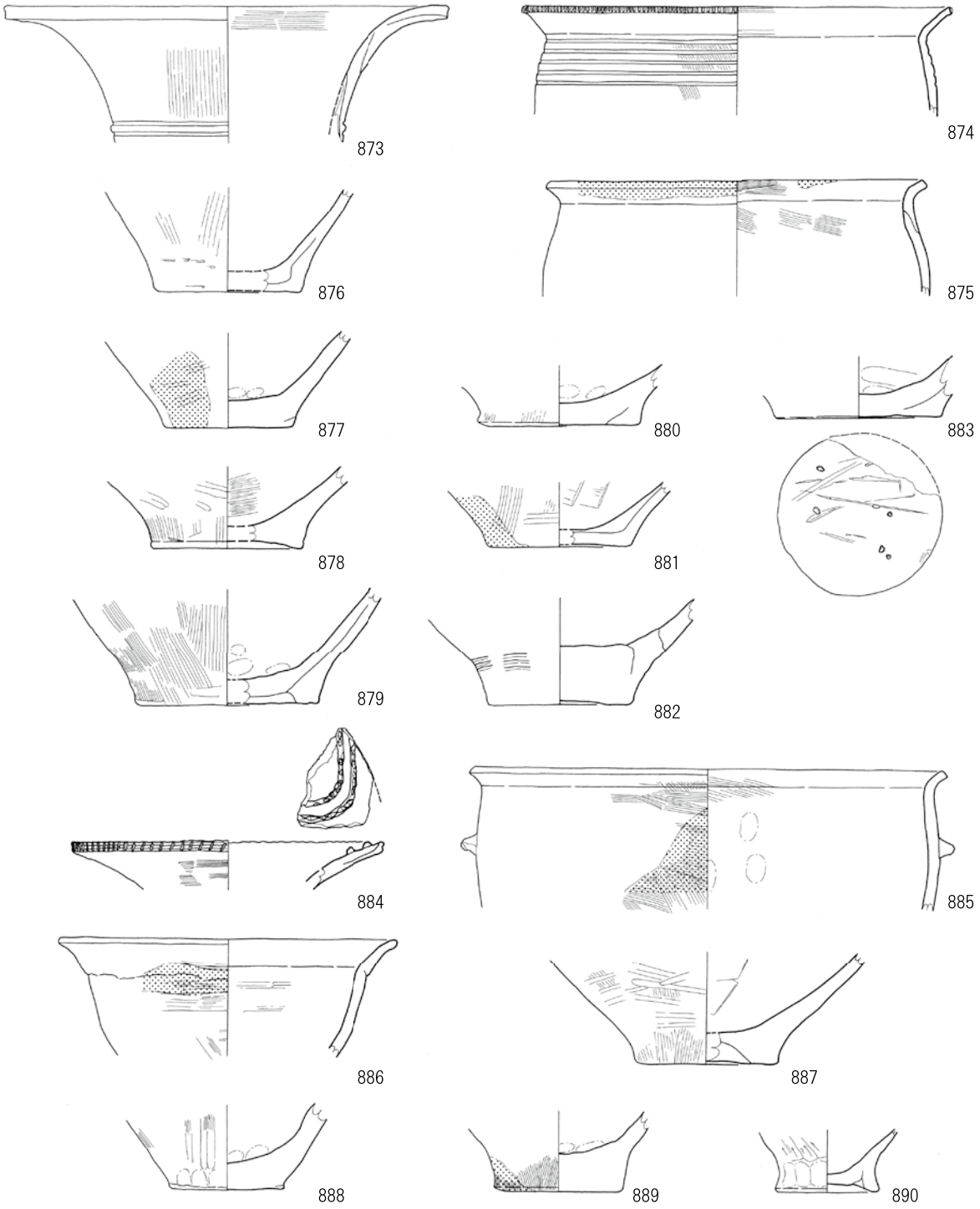


図 125　５区　弥生時代の各種遺構出土土器①

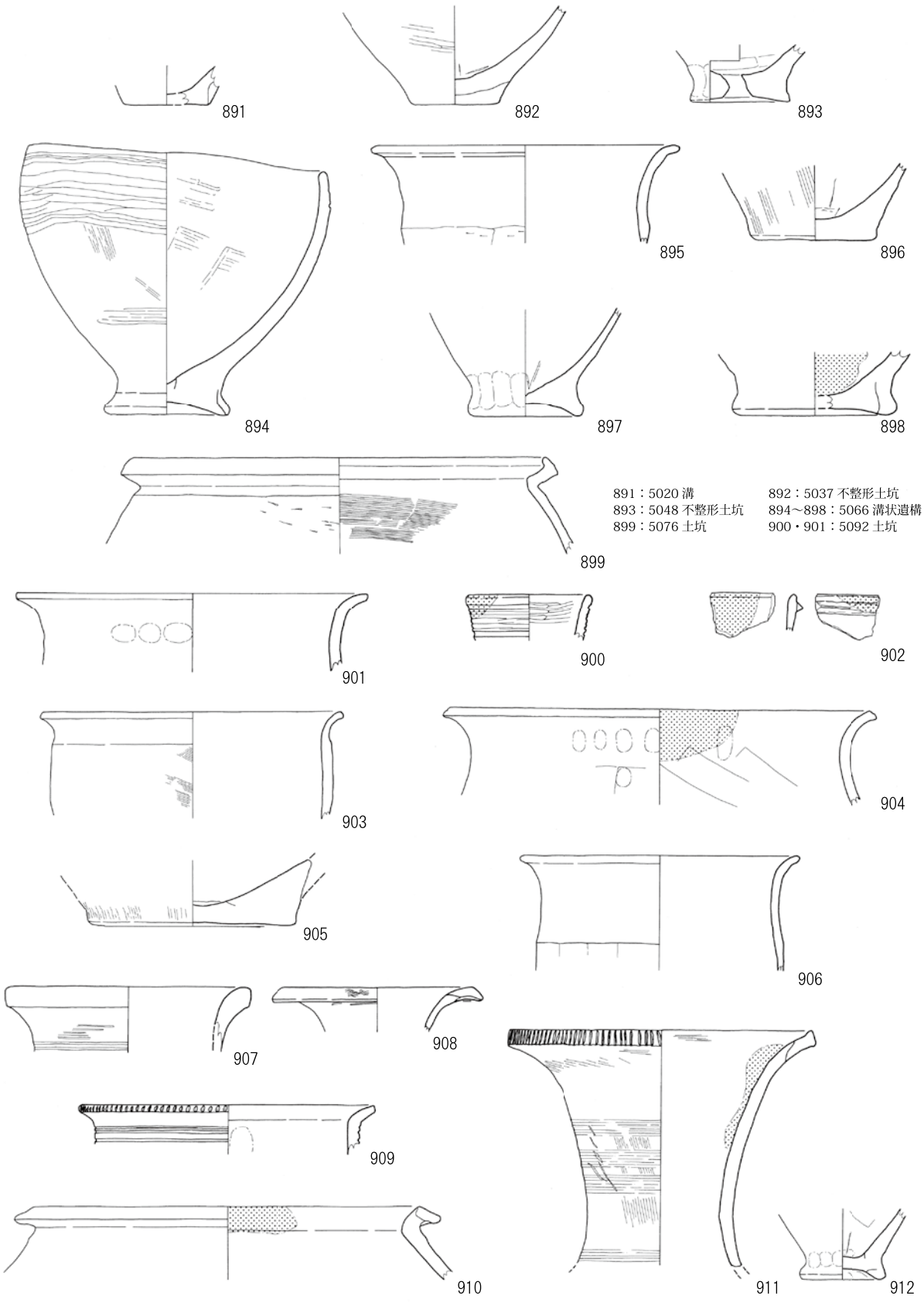
ら中期中葉頃の遺構と推定される。

5191・5193・5197・5284 ピット（5-4 区）

中期の溝群と前後する時期のピットである。甕底部（912）、紀伊型甕（918）、壺胴部（946）等が出土しており、中期前葉から中葉頃の遺構と推定される。

5203・5204 ピット（5-4 区）

中期の溝群のうち溝９の上層で検出されたピットである。926 ～ 928 が出土しており、紀伊型



891：5020 溝　892：5037 不整形土坑
893：5048 不整形土坑　894～898：5066 溝状遺構
899：5076 土坑　900・901：5092 土坑

902：5109 ピット　903：5110 ピット　904：5136 ピット　906：5185 土坑
907・908：5188 土坑　905・909・910：5189 不整形土坑　911：5190 不整形土坑　912：5191 ピット

0　20cm

図 126　５区　弥生時代の各種遺構出土土器②

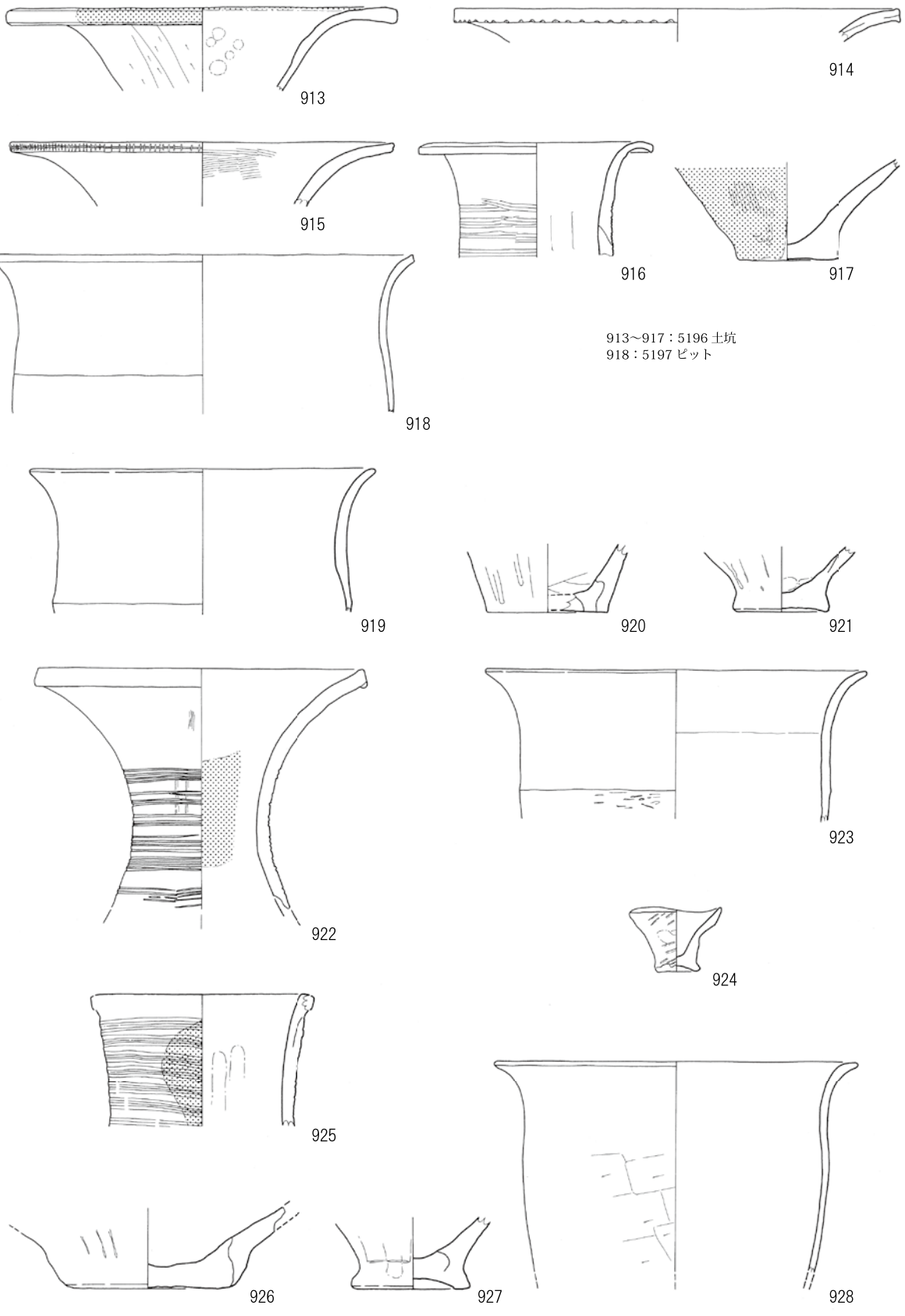
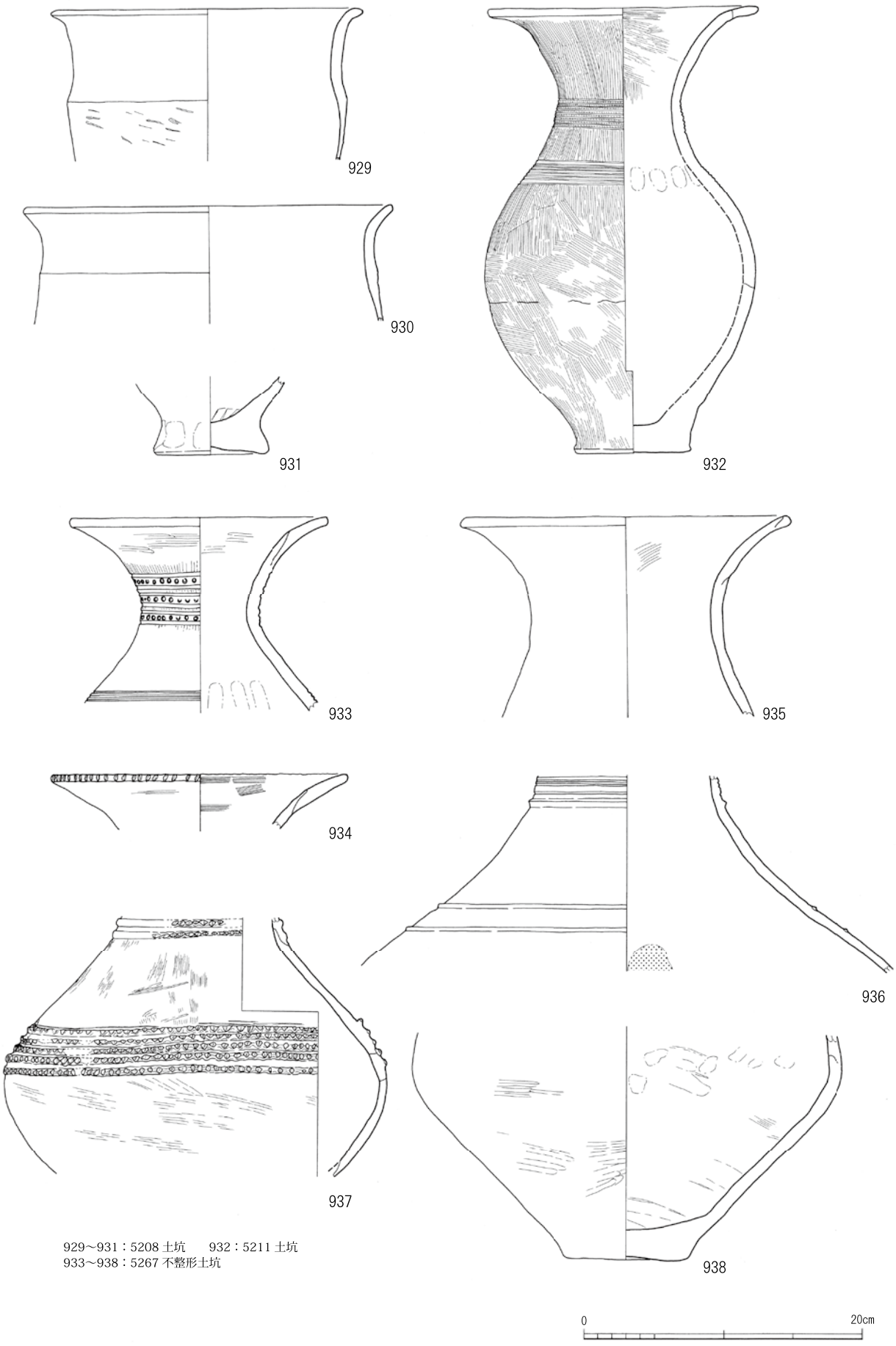


図 127　５区　弥生時代の各種遺構出土土器③



929～931：5208 土坑　　932：5211 土坑
933～938：5267 不整形土坑

図 128　５区　弥生時代の各種遺構出土土器④

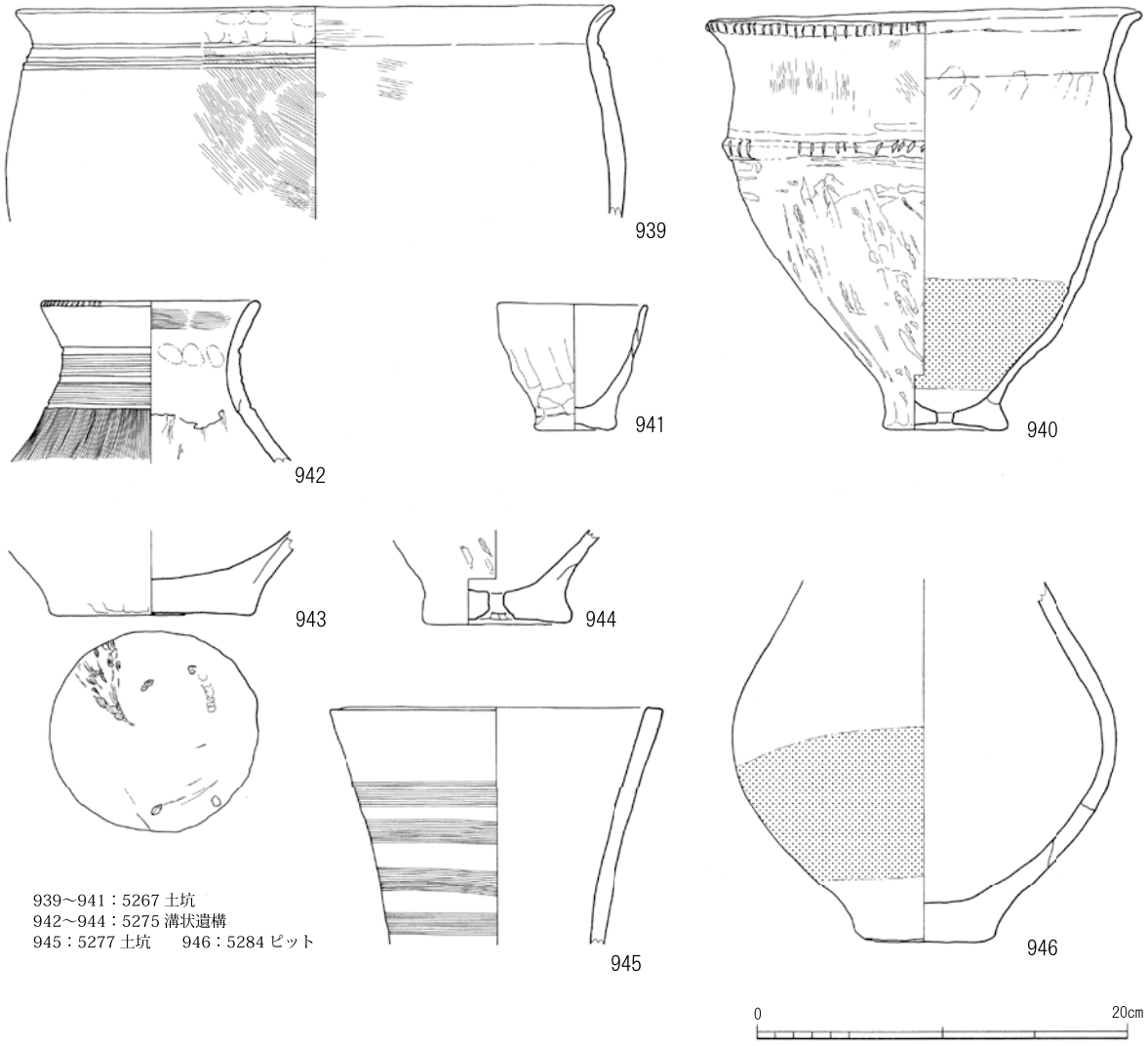


図 129　５区　弥生時代の各種遺構出土土器⑤

甕は肩の稜線が曖昧である。

5267 不整形土坑（5-4 区）

5040 流路の南東側の肩部付近に形成された不整形の堆積で、溝 11 に先行する。933 ～ 941 が出土し、広口壺（933 ～ 936）は口縁部に丸みがあり、胴の張った形態を呈する。933 は頸部と肩部にヘラ描き沈線を施し、頸部では竹管文と組み合わせて装飾する。936・937 は頸部と肩部に突帯を貼り付け、937 は突帯上を刻む。938 は体部下半をミガキ調整する。939 は頸部に３条の沈線を施す、大型の甕ないし鉢である。940 は突帯文系土器の影響を残す紀伊型甕で、口縁部と肩部突帯上を刻む。底部を穿孔し、甑として転用した可能性がある。941 は小型鉢。

5275 溝状遺構（5-4 区）

5011 溝状遺構と 5066 溝状遺構の間で検出された溝状遺構で、遺構の切り合い関係は不明。942 は付加条沈線をもつ壺で、口縁部の一部に刻みを施す。943 は稲穂の圧痕がある壺底部で、944 は底部穿孔土器。

(4)　その他の弥生時代の遺構

5020 溝・5027 溝（5-2 区）

5-2 区東端で検出した溝である。5020 溝は東側の溝で、5027 溝は西側の溝である。5020 溝は

２時期の堆積があり、その下層を 5027 溝が流れる。5020 溝は幅 1.1 ｍ、深さ 0.2 ｍで、5027 溝は幅 1.0 ｍ以上､深さ 0.2 ｍである。5020 溝からは弥生土器･土師器･須恵器が微量出土しており、すくなくとも 5020 溝の上層溝は古墳時代中期とみられる。

5076 土坑（5-1 区）

5-1 区の溝６（5081 溝）の東側にある径約１ｍの土坑。899 はハネあげ口縁が顕著で、胴部の張りの大きい瀬戸内系甕。5076 は中期中葉を中心とする時期の遺構と推定される。

5077 溝（5-1 区）

溝７の北側延長部の可能性のある溝。5-1 区北西で検出した。

ピット群（5109・5110・5136 ピット他：建物跡か）(5-1 区）

5-1 区南側で､径約 10 ｍの円形の範囲内に 50 ～ 60 基のピット･土坑が集中して分布する。ピットは径 0.2 ～ 0.4 ｍで、深さ 0.2 ～ 0.4 ｍのものが多く、黄灰シルト～細砂の埋土からなる。このうち、南西部の 5106 や 5123・5124 を含むピット列は、掘立柱建物などの構造物が存在した可能性が高いとみられている。ピット群の中央を溝７が縦断しており、溝７に先行する時期の遺構であると考えられる。

902 ～ 904 はピット群から出土した弥生時代前期の土器。902 は突帯文系土器と考えられる壺か甕の破片。903 は外反口縁鉢。904 は紀伊型甕。

なお、御坊市の堅田遺跡を始めとする弥生時代前期の和歌山県沿岸部の遺跡では、床面が硬化･変色するだけで竪穴を伴わず､中央土坑がなく柱穴が円形にまわる平地式住居が確認されており、この遺構もそれにあたる可能性がある。

5175 ピット（5-5 区）

5-5 区の北西端部で検出したピット。外面ハケ調整の弥生土器壺底部を検出した。

(5)　庄内式期～古墳時代中期の各種遺構

庄内式期から古墳時代中期には、５区の北側に溝６、５区南半に溝 12 と関連遺構、溝 13 ～ 15 と関連遺構が分布する。溝については先述したので、その他の遺構について記述する。

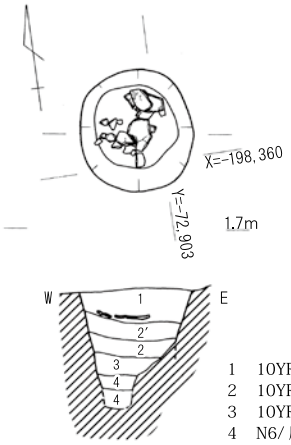
溝 12 沿いのピット群（5036･5047･5053･5059･5179･5259･5281･5282 ピット）(5-2・5-4・5-5 区）

古墳時代前期頃のピットとみられ、溝 12 に沿って南北１～２ｍの位置に分布する。ピットは径 0.4 ～ 0.6 ｍ、深さ 0.4 ～ 0.6 ｍで、埋土に土師器や板状の片岩が含まれるものが多く、須恵器は含まれない。5-2 区の 5036 ピットでは上層で多数の土師器片が出土し、5047 ピットでは上層に片岩、下層に土師器小型器台（947・948）が埋められていた。5-5 区の 5179 ピットでは穴の下部に片岩が据えられた状態で出土しており、弥生Ｖ様式系の甕の口縁部片が出土している。5281 ピットでは上層に布留式の甕が２点埋められており、底部穿孔等はみられない。5282 ピットは 5181 ピットに隣接し、弥生Ｖ様式系の甕片が出土している。

5078・5079 土坑（5-1 区）

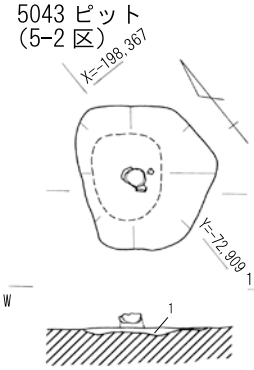
5-1 区の溝６の上で認識された土坑で、5078 土坑は 0.5 × 0.8 ｍ、5079 土坑は 0.7 × 1.3 ｍ、深さはともに 0.1 ｍ以下である。5079 土坑からは 949 ～ 951 が一括で出土していることから、庄内期の弥生Ｖ様式系の甕と高坏片と考えられる。２区の 201 溝では弥生土器から古墳時代前期までの土器が混在して出土しており、５区の溝６では弥生時代前～中期の土器しか出土していないので、当該資料は溝６の上層埋土を形成する窪みの残存部分にあたる土坑と考えられる。

5036 ピット（5-2 区）



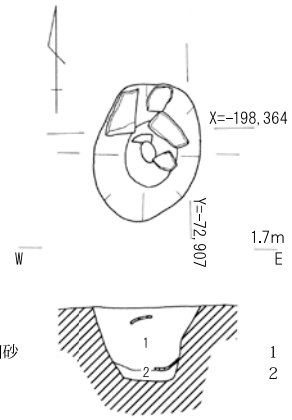
1　10YR4/4 褐灰細砂
2　10YR4/3 にぶい黄褐シルト
3　10YR4/4 褐シルト～中砂
4　N6/ 灰粗砂

5043 ピット
（5-2 区）



1　10YR4/1 褐灰細砂

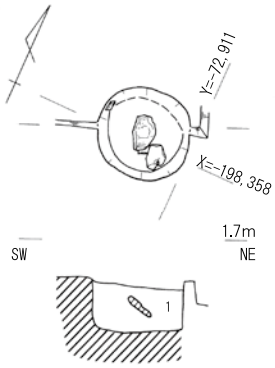
5047 ピット（5-2 区）





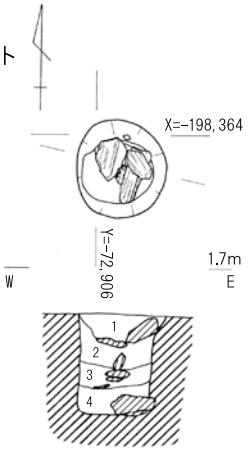
1　10YR4/1 褐灰シルト
2　10YR4/1 褐灰細砂

5053 ピット（5-2 区）



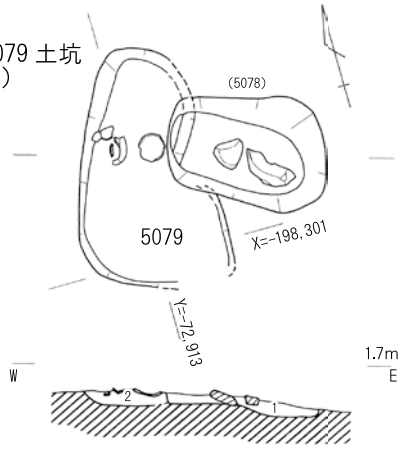
1　10YR6/1 褐灰シルト

5059 ピット
（5-2 区）



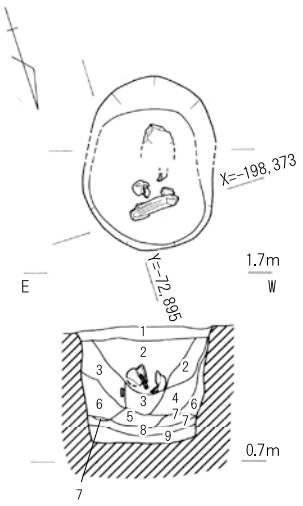
1　10YR4/1 褐灰シルト
2　10YR5/1 褐灰中砂～シルト
3　10YR5/2 灰黄褐中砂
4　10YR5/6 黄褐中砂

5078･5079 土坑
（5-1 区）



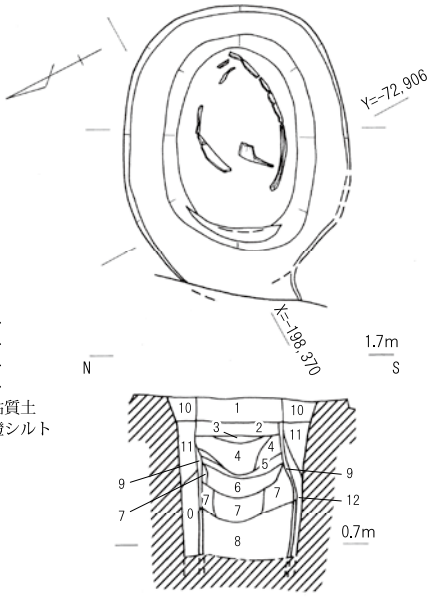
1　5YR6/1 灰細砂
2　2.5Y4/1 黄灰細砂

5157 井戸（5-5 区）



1　10YR4/1 褐灰シルト
2　10YR5/1 褐灰シルト
3　10YR5/1 褐灰シルト
4　10YR5/2 灰褐シルト
5　10YR6/4 にぶい橙粘質土
6　10YR6/4 にぶい黄橙シルト
7　7.5Y4/1 灰粘質土
8　2.5Y5/1 黄灰粘質土
9　N5/ 灰中砂

5166 井戸
（5-5 区）



1　10YR4/4 褐細砂
2　5Y6/1 灰細砂～シルト
3　10YR7/6 明黄褐中砂
4　10YR5/1 褐灰細砂
5　7.5YR4/6 褐中砂
6　10YR6/1 褐灰細砂シルト
7　N5/ 灰シルト
8　N4/ 灰シルト
9　N6/ 灰シルト
10　10YR4/4 褐細砂
11　2.5YR 橙細砂
12　N6/ 灰シルト

0　2m

図 130　５区　古墳時代の各種遺構①(S=1：40)

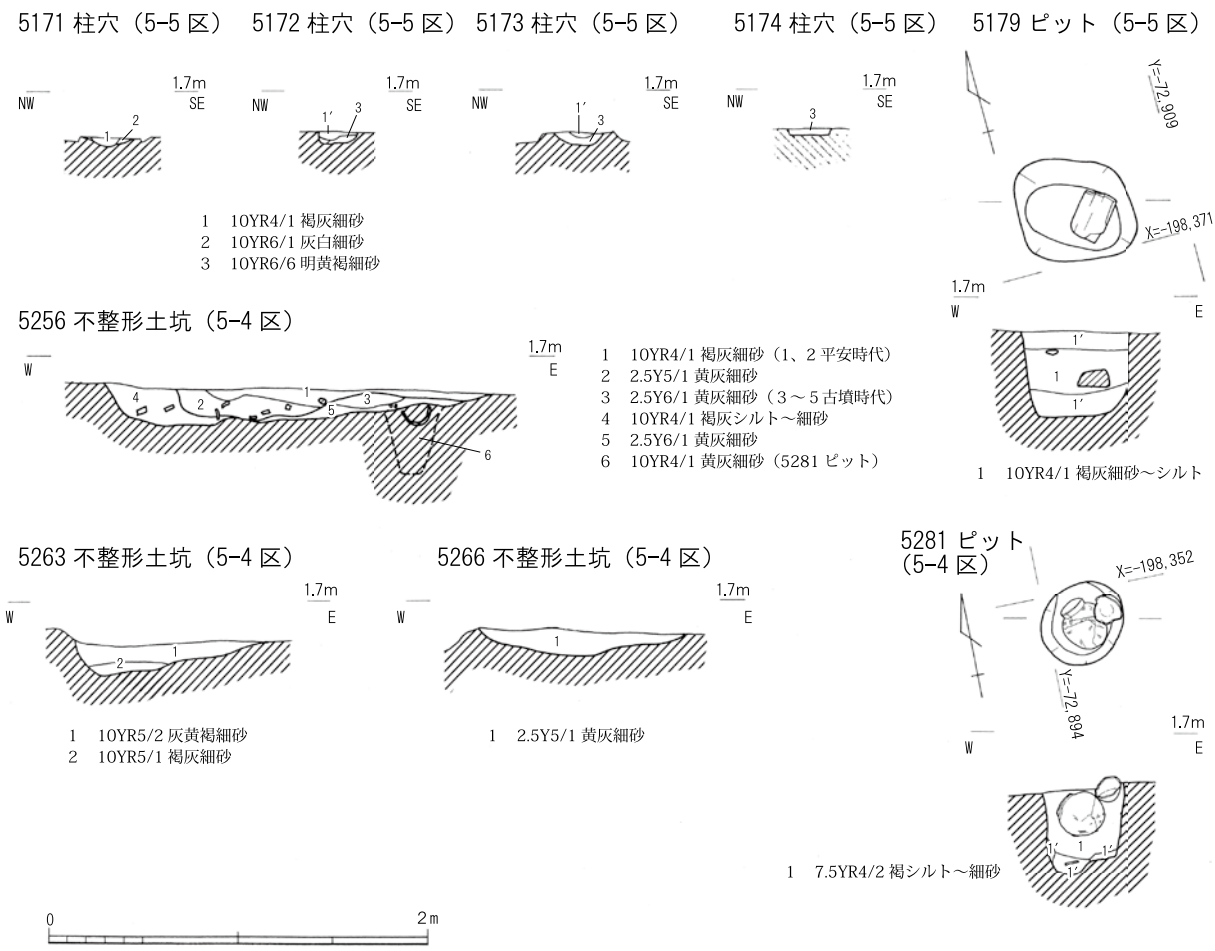


図 131　５区　古墳時代の各種遺構②(S=1：40)

5088 土坑 (5-1 区)

溝 7 の西側にある径 0.7 mほどの土坑。口縁部が若干屈曲する土師器壺の口縁部 (952) が出土した。5086・5087 土坑も同時期の可能性がある。

5157 井戸 (5-5 区)

5-5 区北東部で検出した素掘りの井戸である。直径 0.5 m、深さ 1.2 mで、上層は灰白色の細砂、にぶい黄色の細砂、下層は黄灰色シルトで埋まる。埋土の中層付近で古墳時代前期の土器が出土した。

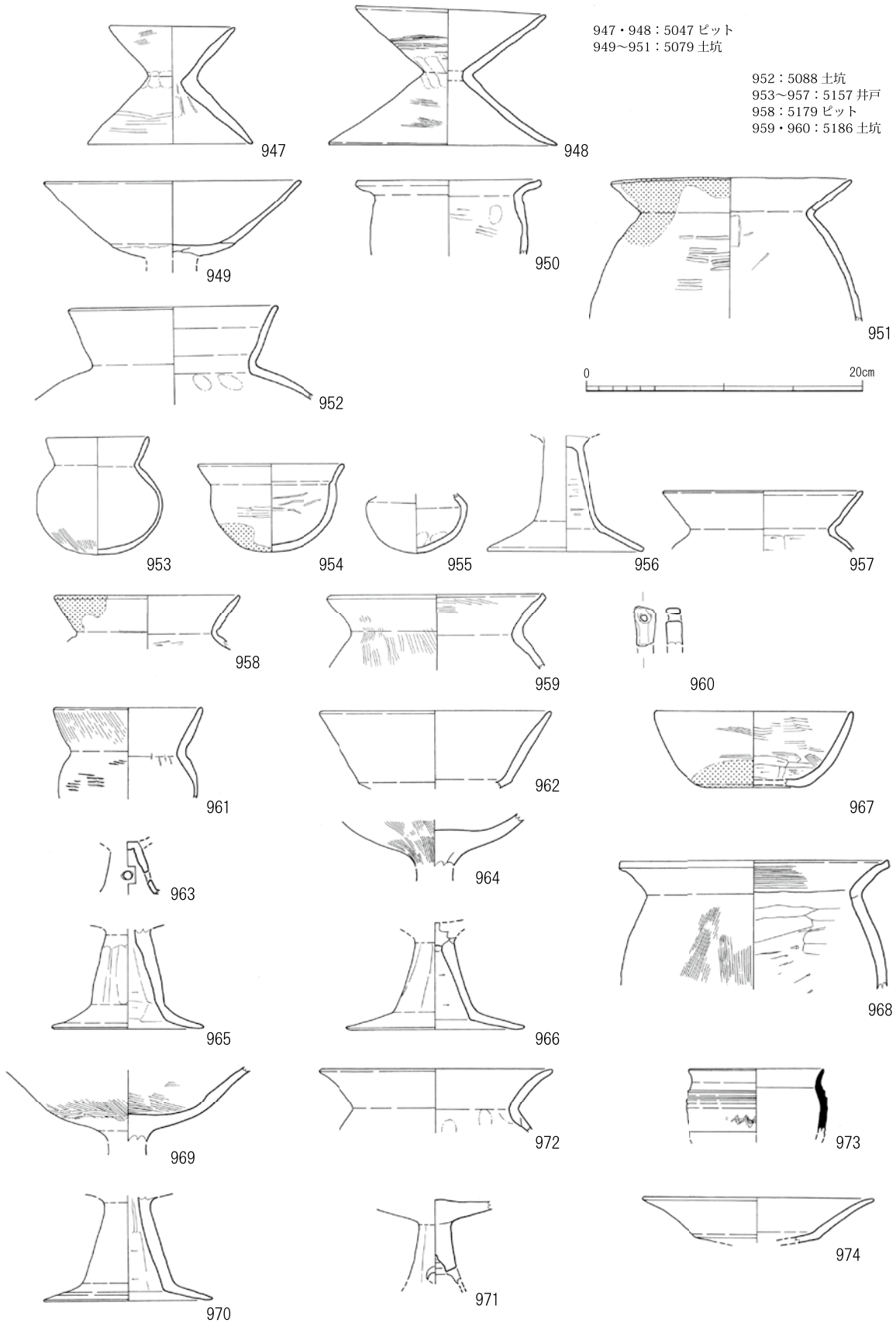
953・954 は小型丸底土器の壺と鉢で、完形品。その他、小型丸底土器の胴部 (955)、高坏脚部 (956)、甕口縁部 (957) が出土した。

5166 井戸 (5-5 区)

5-5 区北西部で検出した、長径 0.8 m、短径 0.6 mの楕円形の井戸。井戸底面では刳り抜きの井戸側材が残存している。井戸の裏込め土からは土師器片、井戸内下層からは古墳時代中期の土師器・須恵器片が出土している。

ピット群 (建物推定遺構 : 5171 ～ 5174 柱穴) (5-5 区)

5-5 区北部で検出した方形に並ぶピットで、１間×１間の建物の柱穴と推定される。柱穴は径 0.2 m、深さ 0.1 m未満で、方位は溝等の地形に沿った向きに方形に並ぶ。柱間距離は 2.2 ～ 3.0 mとややいびつであり、周囲に竪穴の痕跡は確認できない。土師器とみられる土器片が１点出土したのみで、年代は不詳である。



961～968：5255 不整形土坑　969～971：5256 不整形土坑　972・973：5256 不整形土坑　974：5257 溝

図 132　5 区　庄内式期～古墳時代の各種遺構出土土器①

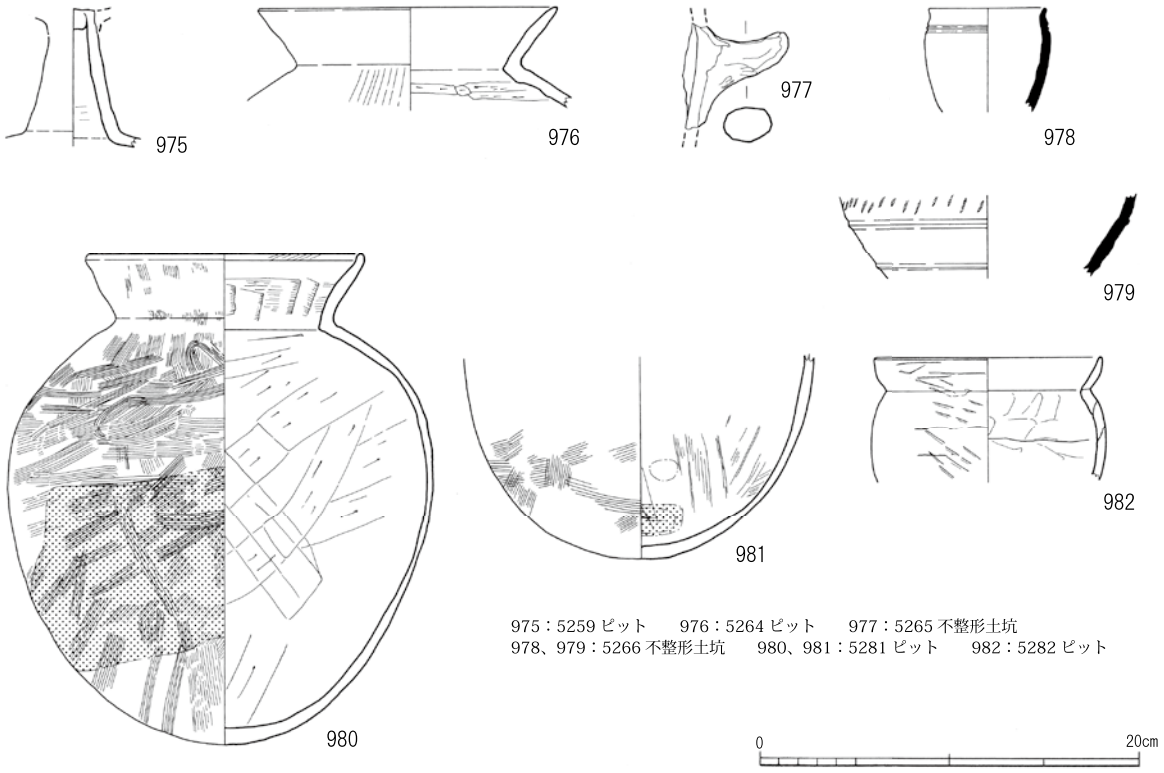


図 133　５区　庄内期～古墳時代の各種遺構出土土器②

溝 12 沿いの不整形土坑群（5186・5255・5256・5263・5264・5265・5266 不整形土坑）(5-4 区）

溝 12 北半（5180 溝）と 5257 溝の接するあたりには、古墳時代前期～中期の土器を含む不整形土坑が多数分布している。これらは不安定な地にあった多数の窪みとして認識される。5180 溝と 5180 東溝状遺構の間にある 5255 不整土坑には土器が多量に含まれており、5256 不整土坑は上層に平安時代の遺物が混じっている。

959 ～ 974、976 ～ 979 はこれらの不整形土坑出土遺物で、古墳時代前期から中期にかけての土師器・初期須恵器・土錘が含まれている。甕は外面にタタキ痕を残すもの（961）、外面ハケ調整で、口縁端部を引き上げるもの（959・968）、外面調整が不明で口縁端部は丸めるもの（972・976）がある。高坏の坏部は大きく立ち上がる有稜のもの（962）やハケ調整で稜が曖昧なもの（964・969）があり、脚部は内面ケズリ調整で屈曲して開くもの（965・966・970）や、内面に絞り痕があり透かしをもつもの（963・971）がある。これに伴いコップ形の初期須恵器片（973・978）と、器形不明の須恵器片が出土している。973・978 は白味を帯びた胎土の在地産初期須恵器とみられるが、979 は陶質土器の可能性もある。

(6)　弥生～古墳時代の石器・石製品

５区ではサヌカイト製の石器は S22 ～ S30 及び剥片が計 112 点、計 1,084 ｇ分出土している。

S22 は打製石剣。両端部付近に原礫面が残り、未成品と考えられる。長さ 17.6 ㎝、幅 5.2 ㎝、厚さ 2.3 ㎝、213 ｇ。5040 流路で出土した。S23 は尖頭器と推定される破片。幅 5.0 ㎝、厚さ 1.4 ㎝。原礫面が残る。溝 10（5187 溝）から出土した。S24 は石核。多数の剥離痕があり、風化が進んでいる。大きさは 9.9 × 5.8 × 3.0 ㎝で、重量 180 ｇ。5267 不整形土坑から出土した。S25 は一端が長く尖っており、石錐と推定される石器である。長さ 4.2 ㎝。

S26 ～ S28 は剥片石器で、スクレイパーとしての用途が推定される。S26 は長 3.8 ～ 4.4 ㎝で、

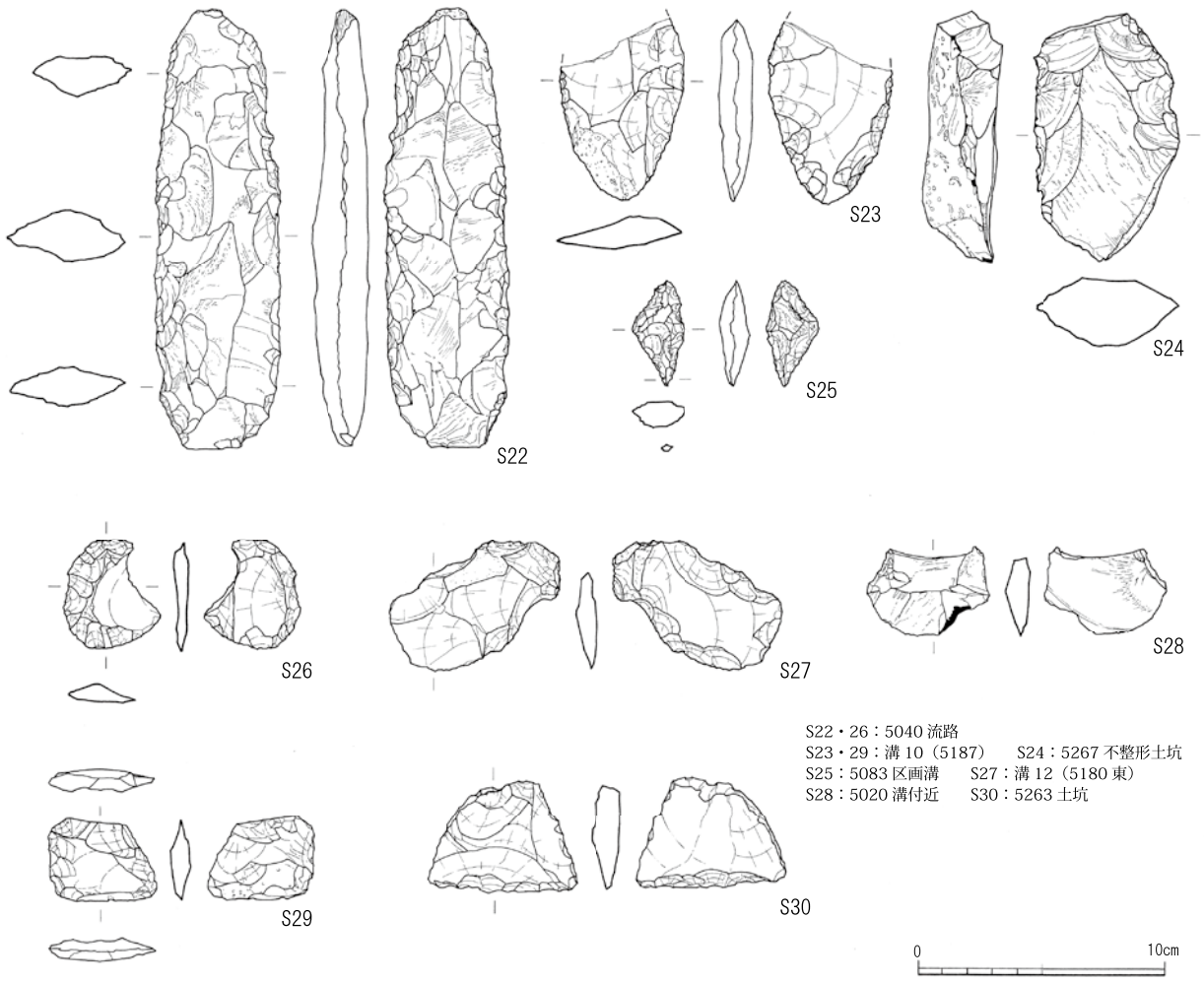


図 134　５区　打製石器（石⑦）

厚さ 0.7 ㎝、5040 流路から出土している。S27 は石匙状の形状をしている。S28 は剥片。S29・S30 は楔形の形状をしている両極石器。S29 は 4.3 × 3.3 ㎝で、厚さ 0.8 ㎝。重量 15 ｇ。溝 10(5187 溝) から出土している。S30 は 6.0 × 4.5 ㎝。厚さ 1.1 ㎝。重量 31 ｇ。

S31 ～ S41 は緑色片岩製の石包丁。盤状剥離により、原礫面が露呈しているものが多く、石材としては割れやすいものを使用している。石英とみられる透明～白色の結晶が析出しているものも見受けられる。S31 ～ S34 は 5040 流路で出土した弥生時代前期の石包丁。形状にばらつきがあるが、すべて外湾刃隅丸長方形としてくくることができる。S31 は短く、幅広の形態を示す。S32・S33 は杏仁形に近い形状を示すもの。S32 は刃部が曖昧で穿孔前の製作途中品の可能性がある。S33 は孔内に敲打痕がみられる。S34 はやや細長い長方形を呈し、孔内のほか、身の先端近くに多数の敲打痕がみられる。

S35 ～ S39 は弥生時代中期の溝群から出土した石包丁。S35 は溝８、S36 は溝９、S37・S41 は溝 10、S38 は溝 11・S39 は溝７検出面から出土した。S37 は外湾刃杏仁形を呈し、S41 も同様の形の石包丁の破片と推定される。S39 は直線刃半月形で、刃部の幅は狭い。刃部と反対の面で、孔から背に向かう紐ずれ痕とみられる線状痕が残る。身部の孔より外側に､敲打痕が確認される。S40 は庄内期の遺構から出土した石包丁片であるが、直線刃半月形を呈する。

S42 ～ S44 は緑色片岩製の大型石包丁。S42 は外湾刃扇形で、一方の面に刃部をつけ、他方の

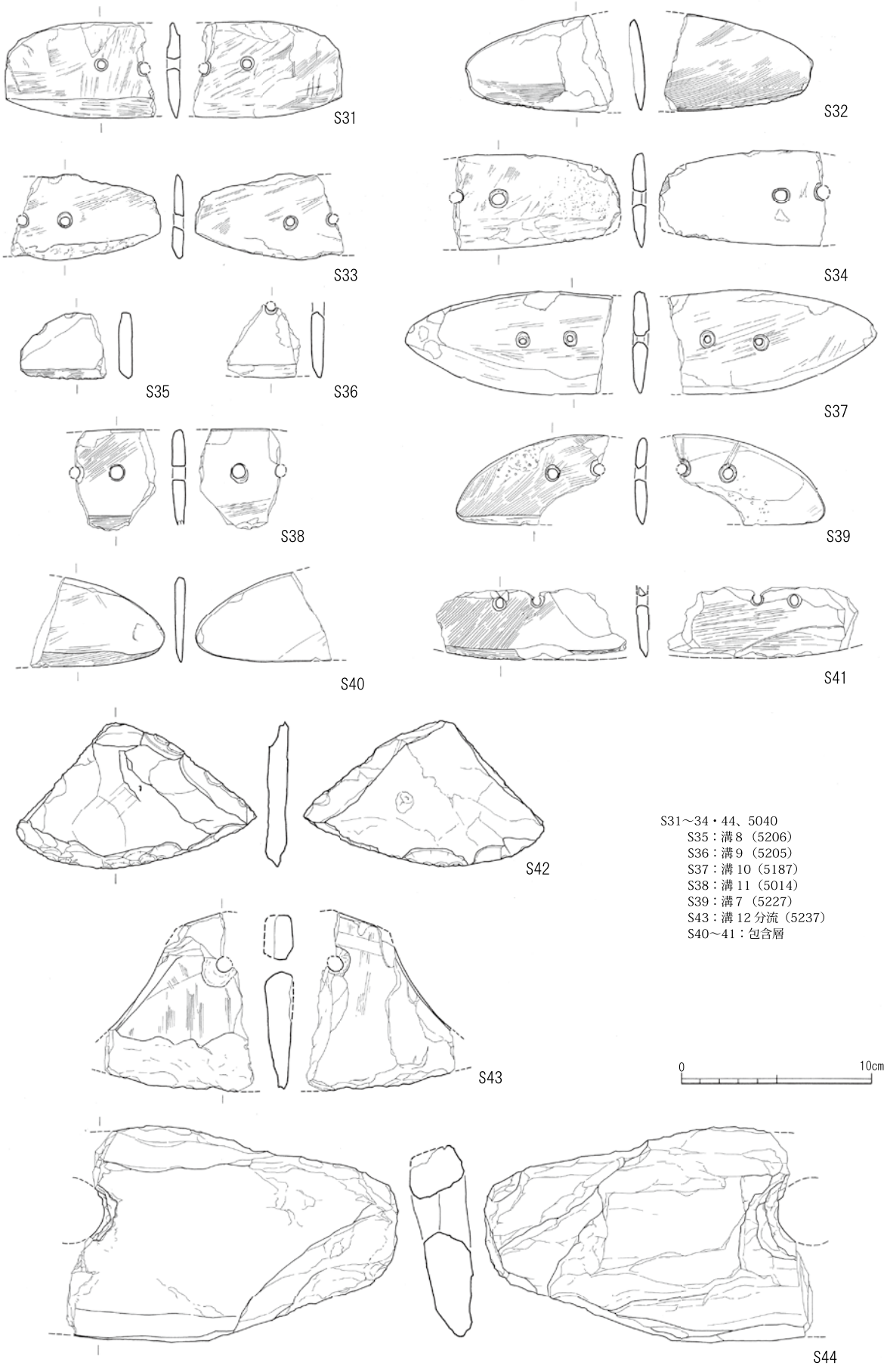
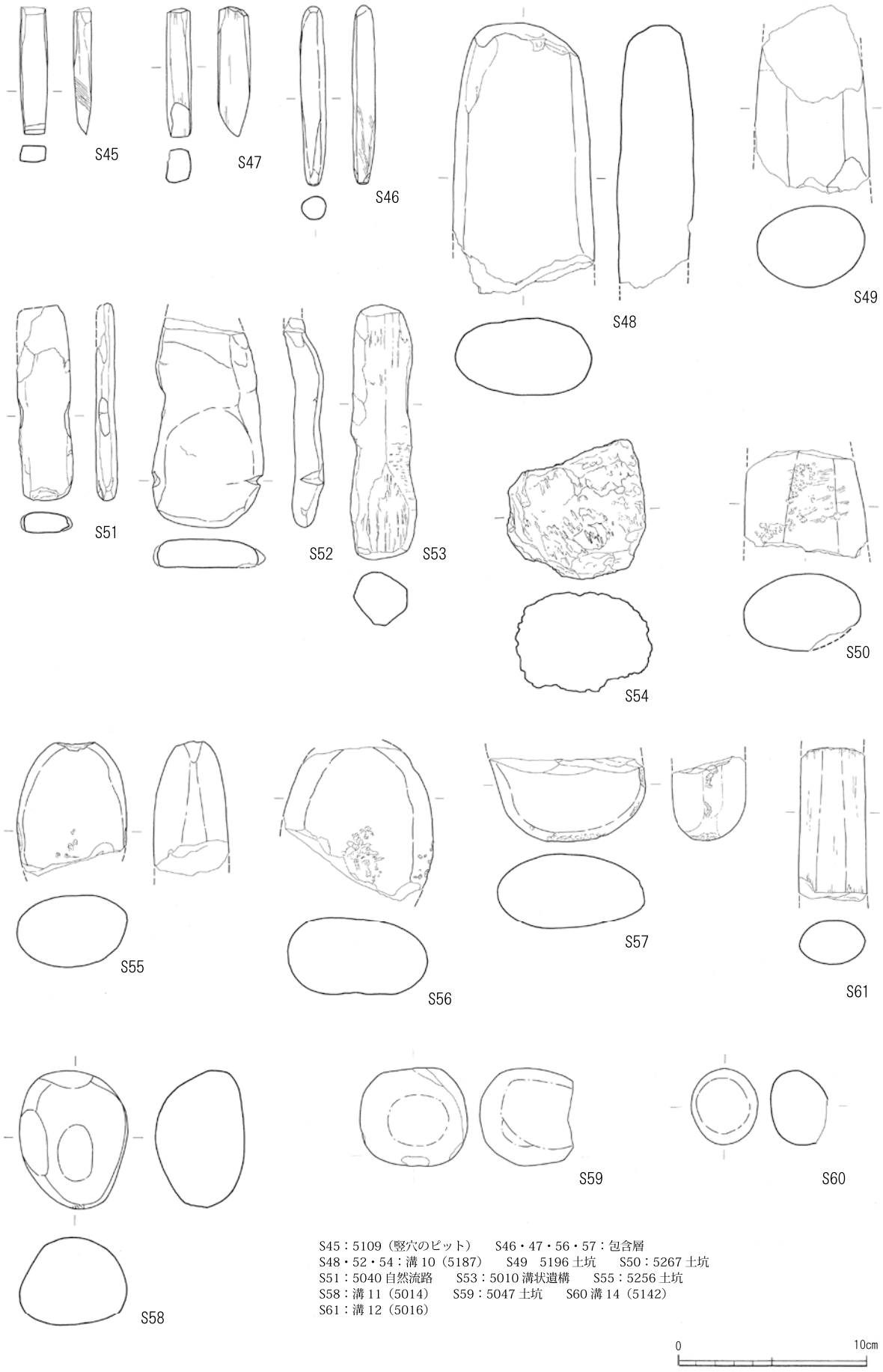


図135　5区　石包丁・大型石包丁（石⑧）



S45：5109（竪穴のピット）　S46・47・56・57：包含層
S48・52・54：溝 10（5187）　S49　5196 土坑　S50：5267 土坑
S51：5040 自然流路　S53：5010 溝状遺構　S55：5256 土坑
S58：溝 11（5014）　S59：5047 土坑　S60 溝 14（5142）
S61：溝 12（5016）

図 136　５区　石斧・石錘・礫石器他（石⑨）

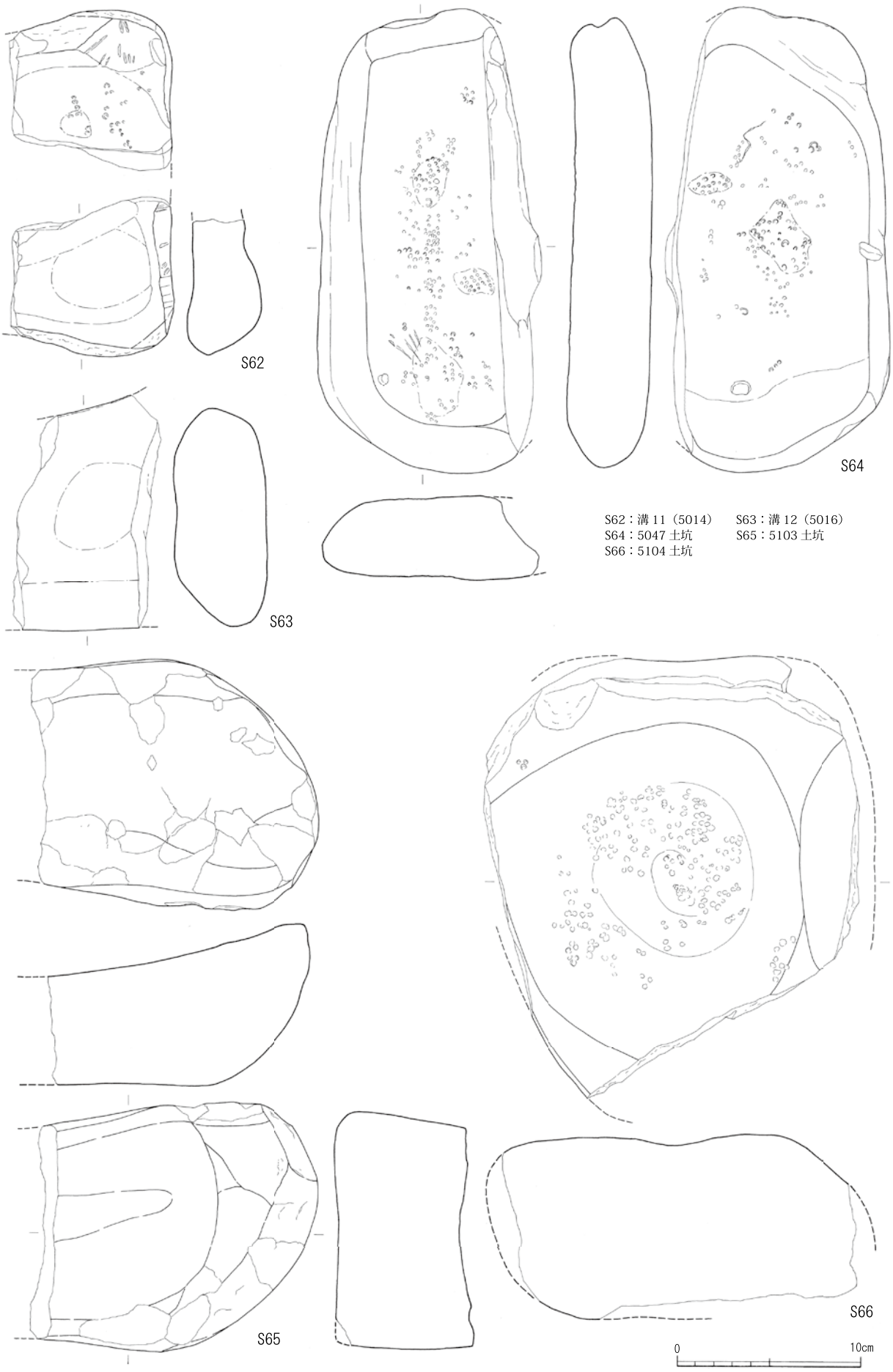


図 137　5 区　石皿・台石（石⑩）

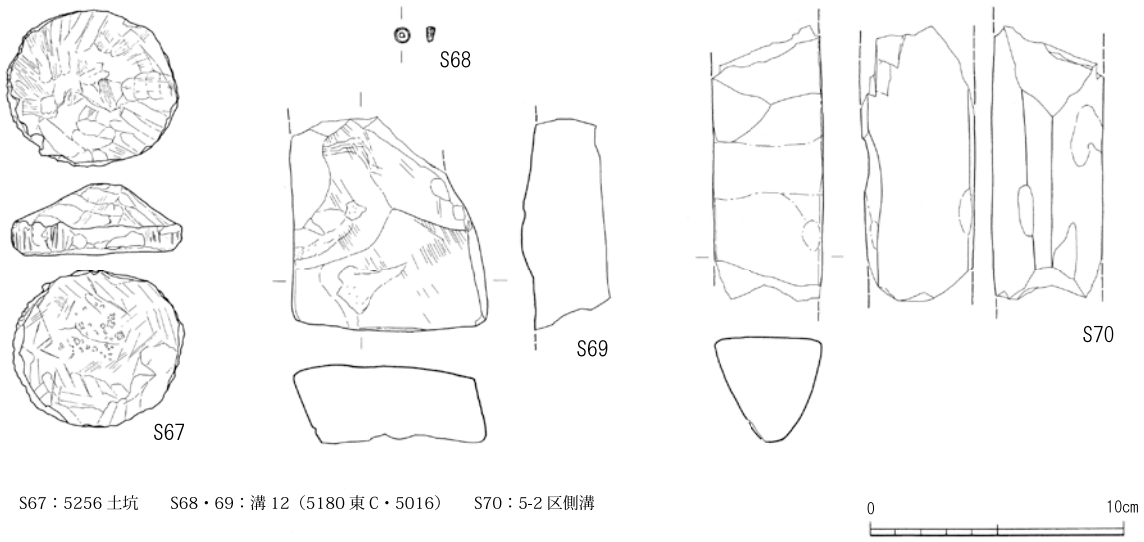


図 138　５区　紡錘車・臼玉・砥石（石⑪）

面に穿孔を始めた状態の製作途中品である。長さ 12.6 ㎝、幅 7.6 ㎝、厚さ 1.2 ㎝で重量は 130 ｇ。溝８から出土した。S43 は外湾刃で鉞形を呈する大型石包丁である。幅広の片刃をつけ、穿孔するが破損しており、孔数は不明である。残存幅 9.3 ㎝、厚さ 1.5 ㎝。長さと重量は約半分となっているが、それぞれ 7.8 ㎝、113 ｇである。5257 溝から出土したが、弥生時代の中期の遺物と推定している。S44 は外湾刃隅丸方形の大型石包丁。片面に刃部をつけ、穿孔する。5040 流路で出土する他の石包丁と同じ特徴を明確に意識して作られているが、何らかの実用性をもったのか、祭祀的なものかは不明である。半分以上を欠失した破損品であるが、残存長 17.3 ㎝、幅 10.3 ㎝、重量 880 ｇ。弥生時代前期の遺物である。

S45･46 は小型の柱状片刃石斧。S45 は残存長 6.7 ㎝、幅 1.4 ㎝、厚さ 0.9 ㎝で重量 19 ｇ。5109 ピットから出土した。石材は白みの強い緑色で、シルト質片岩製と推定される。S46 は長さ 6.8 ㎝、幅 1.3 ㎝、厚さ 1.8 ㎝、重量 32 ｇ。石材は結晶片岩と推定される。

S47 は緑色片岩製の小型棒状製品。長さ 9.5 ㎝、径 1.3 ㎝、重量 29 ｇ。一部に擦痕が残る。Ⅴ層上面で出土した。

S48 ～ 50 は弥生時代中期の遺構から出土した磨製石斧。すべて破片で、刃部はない。緑色凝灰岩製とみられる石材を用いる。S48 は溝 10、S49 は 5196 土坑、S50 は 5267 不整形土坑から出土している。

S51・52 は切目石錘。S51 は結晶片岩製の扁平な石錘で、長辺側面の中央部に切り込みを入れている。長さ 10.3 ㎝、幅 2.8 ㎝、厚さ 1.2 ㎝で、重量は 51 ｇ。5040 流路の下層から出土した。S52 は砂岩風の扁平な石材の長辺側面の一端に切り込みを入れた石錘で、もう一端は欠失している。残存長 11.1 ㎝、幅 5.9 ㎝、厚さ 2.2 ㎝、重量 186 ｇ。溝 10 の最下層から出土した。

S53 はくびれのある棒状の石製品。石錘やすり石として利用可能な形状をしている。5010 溝状遺構から出土した。

S54 は溝 10 の下層から出土した丸みを帯びた軽石で、浮子の可能性を考えている。

S55 ～ 57 はすり石・凹石。楕円形で扁平な砂岩の中央の凹みと側面に敲打痕を残す。S55 は 5256 不整形土坑、S56・57 は包含層中から出土した。

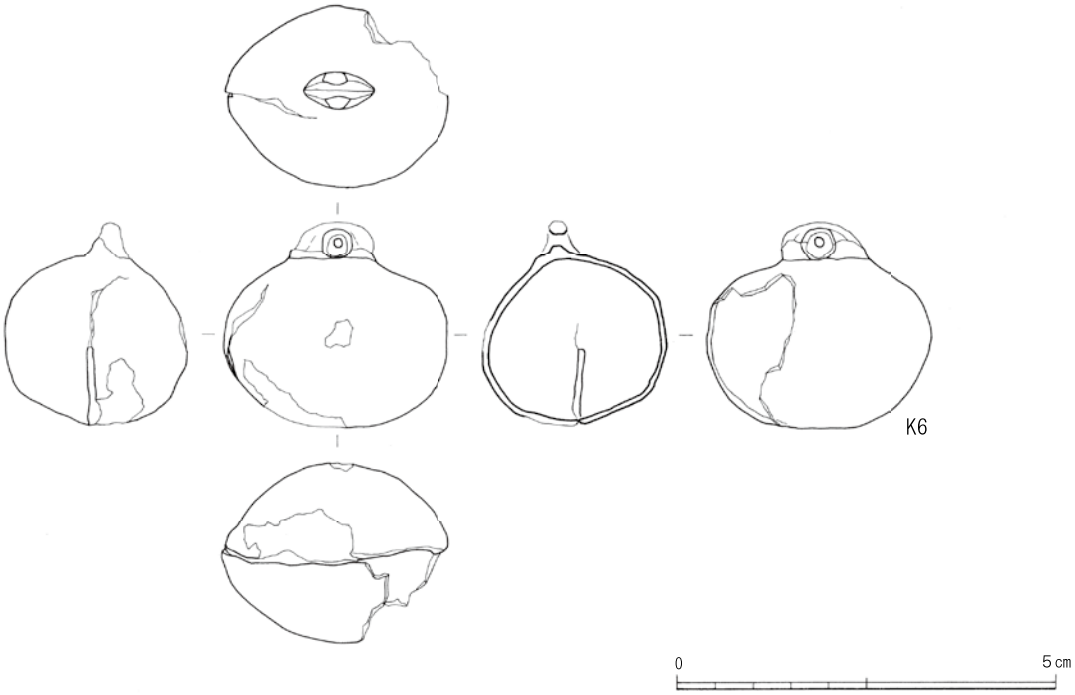


図 139　５区　溝 15（5140）出土銅鈴（金②）

S58 ～ S60 は石器かどうか不明な円礫。S58 は溝 11、S59 は 5047 ピット、S60 は溝 14 から出土した。S58 は若干の敲打痕とやや平坦な面をもつ。S59 は敲打により窪みのある円形に仕上げられている。S60 は 57 ｇの円礫で投弾の可能性も考えられる。

S61 は紅廉片岩製の石棒片。平滑に仕上げられている。

S62 ～ 66 は石皿・台石。S62 は敲打痕の残るやや小型品で、溝 11 で出土した。S63 は溝 12 出土。S64 は上下面に敲打痕をもち、割れ面に石英が析出している。土器・片岩・S59 とともに、5047 ピットから出土した。S65・66 は 5-1 区のピット集中地点の 5103・5104 ピット出土。S65 は上面が平滑になり、S66 は多数の敲打痕をもつ。

S67 は滑石製紡錘車の未成品。5256 不整形土坑から出土した。Ｓ 68 は滑石製の臼玉。5180 東Ｃから出土した。

S69・70 は砥石の破片と考えられる。S69 は古墳時代前期から中期の溝 12 から出土した。S70 は断面三角形で、一面にくびれ部をもつ。

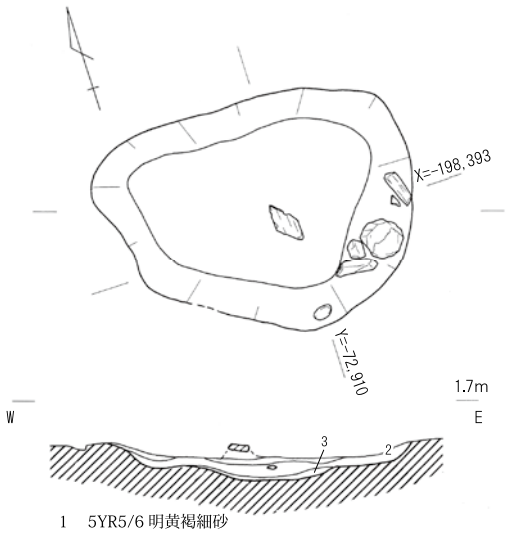
(7)　古墳時代の銅製鈴

５区では銅製の鈴が出土している。

K6 は青銅製の鈴で、長さ 3.0 ㎝、幅 2.4 ㎝、高さ 2.7 ㎝、残存重量 10.2 ｇ。上部に紐、下部に溝があり、溝の周りを一部欠失している。

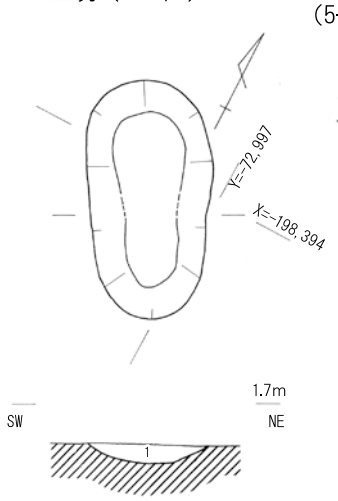
鈴は 5140 溝の底面の上部から出土した。溝からは須恵器・土師器の破片が出土しており、5140 溝は田辺編年 TK23 ～ 47 型式期の遺構と考えられる。鈴は脆弱で粉化していたため、保存処理として脱塩処理及び銅安定化処理を行ったうえで樹脂をコーティングし、外気を遮断した。鈴の下部は一部破損しており、内部には石製の丸は確認されなかった。なお、周辺には井辺前山古墳群や和田古墳群、竈山神社古墳など多数の古墳が分布している。

5003 土坑（5-3 区）



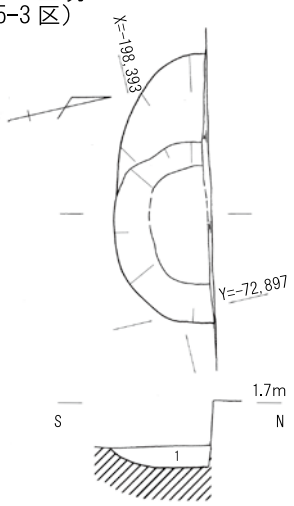
1　5YR5/6 明黄褐細砂
2　7.5YR6/1 褐灰シルト
3　7.5YR5/6 明褐細砂

5004 土坑（5-3 区）



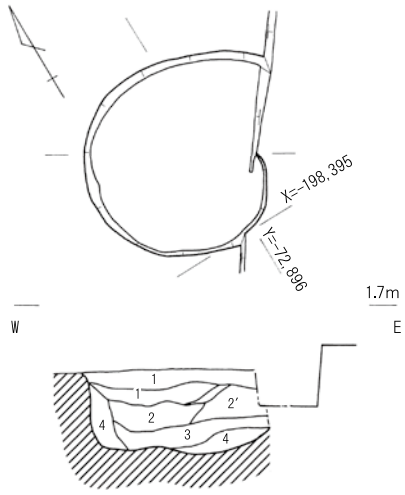
1　7.5YR6/1 褐灰シルト

5005 土坑
（5-3 区）



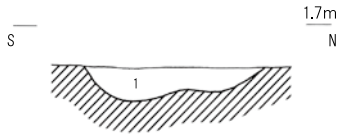
1　7.5YR6/1 褐灰シルト

5008 土坑（5-3 区）



1　10YR7/2 にぶい黄褐細砂～シルト
2　10YR7/1 灰白シルト
3　2.5Y6/1 黄灰シルト～細砂
4　2.5Y6/1 黄灰シルト

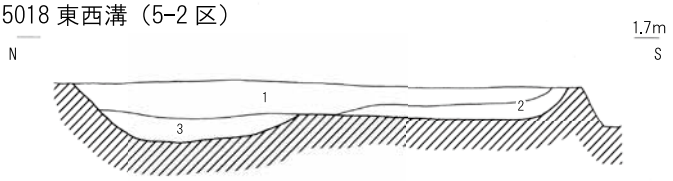
5017 東西溝（5-2 区）



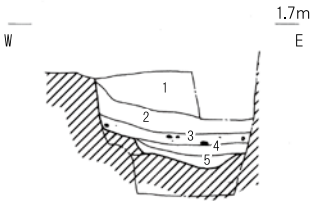
（5017）
1　10YR5/2 灰黄褐細砂

（5018）
1　2.5Y6/3 にぶい黄褐細砂
2　2.5Y6/1 黄灰シルト～細砂
3　2.5Y5/2 暗黄灰細砂

5018 東西溝（5-2 区）

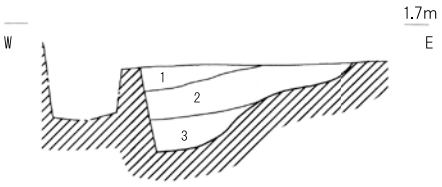


5026 水留め（5-2 区）



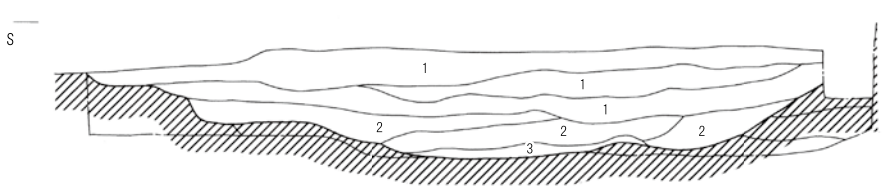
1　10YR6/1 褐灰細砂
2　2.5Y5/1 黄灰シルト
3　10YR3/2 黒褐細砂
4　10YR1.7/1 黒シルト（炭層）
5　5G5/1 緑灰粘質土

5082 東西溝（5-1 区）



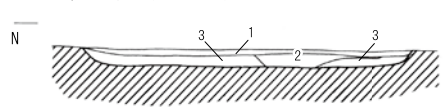
1　2.5Y6/2 灰褐細砂
2　10YR6/1 褐灰細砂
3　10YR6/1 黄灰シルト

5083 東西溝（5-1・5-4 区）



1　2.5Y5/2 暗灰黄細砂
2　2.5Y6/1 黄灰細砂
3　7.5YR4/6 褐細砂

5218 東西溝（5-4 区）



1　2.5Y5/1 黄灰細砂
2　2.5Y6/1 黄灰細砂
3　2.5Y5/1 黄灰細砂

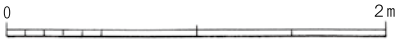


図 140　5 区　古代末期～近世の遺構（S=1：40）

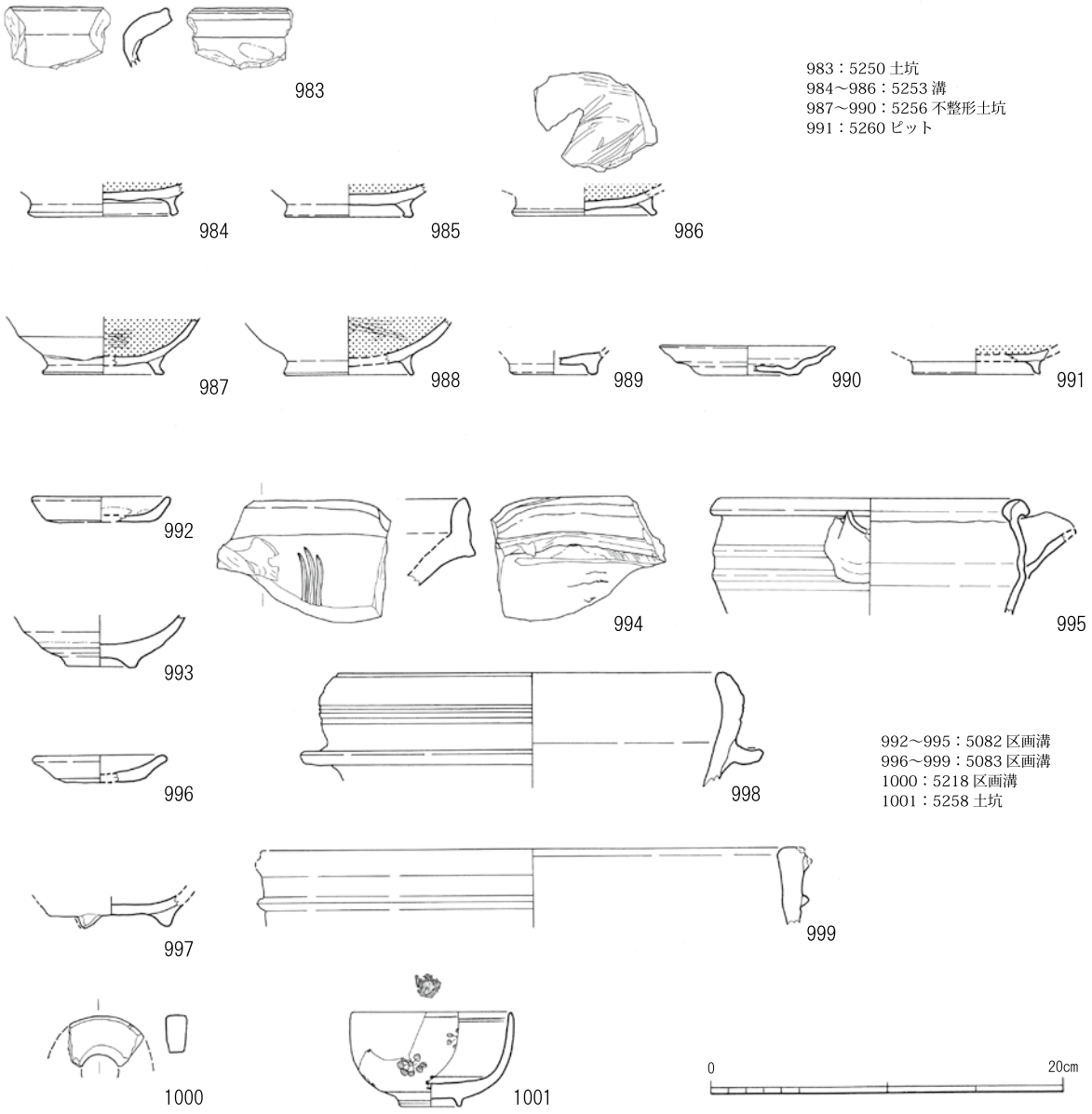


図 141　５区　古代・中世・近世の遺構出土土器他

３　古代～近世の遺構・遺物

(1)　古代末期～中世前半の遺構・遺物

5003 土坑（5-3 区）

5-3 区西部にある径 1.3 ～ 1.7 m、深さ 0.2 mの土坑。礫とともに瓦器片等が出土している。鎌倉時代の遺構と推定される。

5004・5005 土坑（5-3 区）

5-3 区東部で確認された長軸 1.2 ～ 1.4 m、短軸 0.6 mほどの楕円形土坑。遺物が出土しないため年代は定かではないが、5003 土坑や 5008 土坑と近い年代の遺構と推定している。

5008 土坑（5-3 区）

径１m程度、深さ 0.4 mの円形土坑。瓦器片等が出土する。

5017・5018 東西区画溝（5-2 区）

中世初頭とみられる土器片が微量含まれる東西区画溝である。

5138 土坑（5-1 区）

5-1 区南部で検出した径 0.9 ｍの土坑。瓦器片が出土する。

5250・5253・5256・5260 土坑・ピット（5-4 区）

5-4 区の不整形土坑やピットにおいて平安時代後期の黒色土器・土師器が出土する。遺構内には圧倒的に弥生土器・土師器が多く、遺構上面の窪みに平安時代の遺物が入っている可能性が考えられる。土師質の土釜･埦･皿（983･989･990）と黒色土器埦（984 ～ 988、991）が出土している。

(2)　中世後半～近世の遺構・遺物

5026(5-2 区）

5-2 区東壁面で検出した江戸時代の井戸。陶器片が出土している。

5082・5083 東西区画溝（5-1・5-4 区）

5082 溝は 5-1 区北辺､5083 溝は 5-1 区と 5-4 区の間を区画する東西溝。5082 溝は幅 1.6 ｍ以上、深さ 0.4 ｍ以上で、土師器小皿（992）、陶器碗（993）、備前焼擂鉢（994）、陶器注口付土器（995）が出土している。5083 溝は幅４ｍ､深さ 0.6 ｍで､土師器小皿（996）､土師器三足付き小皿（997）、土釜（998）、瓦質土器火鉢（999）が出土している。これらの区画溝からは中世から近世初頭までの遺物が多数出土するが、995 のような近世後期の遺物も見受けられる。

5218・5245 東西区画溝状遺構（5-4 区）

5083 東西区画溝に沿って形成された溝状遺構で、磁器製の戸車（1000）等が出土した。

5246 東西区画溝状遺構（5-4 区）

染付片が含まれる近世の東西溝状遺構。

5258 土坑（5-4 区）

5-4 区南部で検出した円形土坑。染付碗（1001）が出土した。

第６節　６区の調査

１　概要

６区は調査対象地の南東部付近にあたる調査区である。東西幅 16 ～ 23 ｍ、南北長さ約 37 ｍで、調査区面積 446 ㎡である。新溝水路を挟んで５区の南東側にあたり、北半を 6-1 区、南半を 6-2 区に細分して調査を行った。

６区では５区同様に北東から南西に流れる弥生時代の溝が確認された。その他、中世の掘立柱建物と同時期の東西区画溝等を検出している、出土遺物は計 12 箱分で、弥生土器のほか、瓦器が散見される。

地山面の標高は 6-1 区北部で標高 1.6 ｍ、6-1 区南部で 1.4 ～ 1.5 ｍ、6-2 区南部で 1.3 ｍである。調査区中央では弥生時代の落ち込み、調査区西側では近世の落ち込みが確認された。

２　弥生時代の遺構・遺物

(1)　弥生時代前期の流路と溝群

調査区の北東から南西に流れる弥生時代前期の溝と下層遺構を確認した。

6050 落ち込み・下層流路・井戸

6-2 区南壁沿いのトレンチで確認した、6011 溝・6039 溝の下層遺構である。弥生土器が含まれる深さ 0.3 ｍほどの浅い落ち込みは東西幅７～ 13 ｍに達し、調査区を北東から南西へ流れる流路状を呈し、７区の 7001 落ち込みへと続いている。その中央部に断面Ｕ字形の明確な輪郭をもつ幅約３ｍ、深さ 0.6 ｍの堆積があり、上部は薄い水平堆積で埋没している。（図 143)。これらは 7000 下層流路や 7166 井戸に対応する遺構の可能性がある。

1025 ～ 1027 は広口壺の口縁部片。1026 は頸部をヘラ描き沈線文で飾り、口縁端部を刻む。弥生時代前期の遺物である。

なお、6050 流路の幅広で浅い堆積は、７区の 7000 流路に対応している。7000 溝では弥生時代前期から中期中葉ないし後葉の土器群が出土しており、6050 の土層断面上に現れる複数単位の流路に対応するものと推定される。

6011 溝（溝 16)

６区の北東から南西に流れる溝で、幅 1.0 ～ 1.5 ｍ、深さ 0.5 ｍ。6050 落ち込み・下層流路上にあり、6039 溝と流路が重なって検出されている。

6011 溝内からは 1004 ～ 1016 が出土した。広口壺と甕のほか高坏等の脚部とみられる破片が出土している。口縁部は無文のものと刻み目を施すもの、突帯を貼りつけるものがある。頸部は多条のヘラ描き沈線文で飾るものが多数みられる。1006 は遠賀川系の壺頸部。1011 は口縁部に縁を付けた形状を呈する。1012 は瀬戸内系の逆Ｌ字状口縁をもち、口縁端部を刻む。これらは弥生時代前期新段階の遺物と考えられる。

6011 溝は７区の 7004 溝あるいは 7001 溝の上流部に位置する溝であるが、出土遺物の年代が一致しないため、本来は下層にある 6050 の遺物が溝内に入っているものと推定される。

6006 溝 (6-1 区）・6039 溝（溝 17)(6-2 区）

6-2 区南部の 6011 溝西側で確認された溝である。幅 1.0 ｍ、深さ 0.3 ｍで、断面Ｖ字形を呈する。

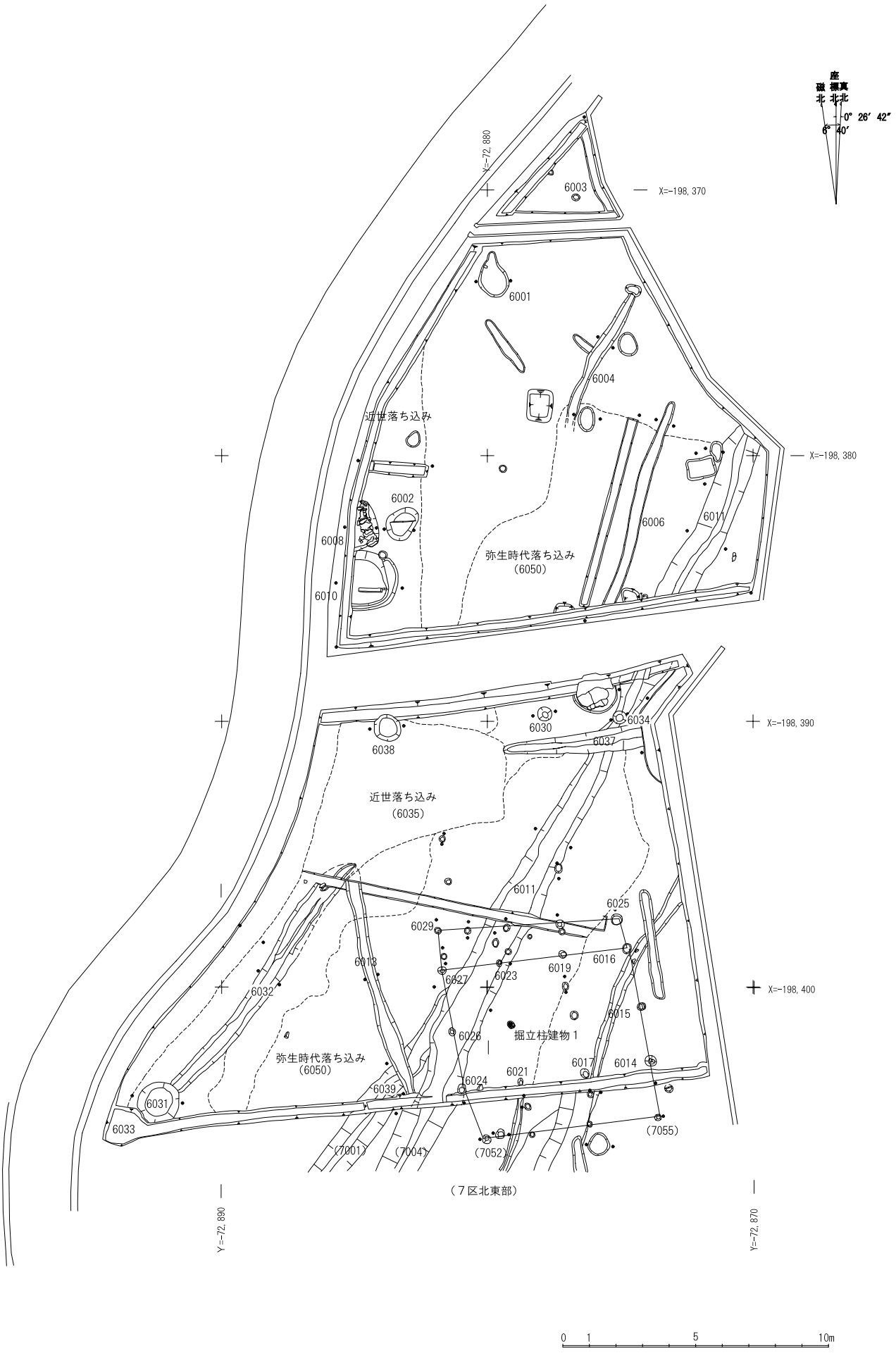
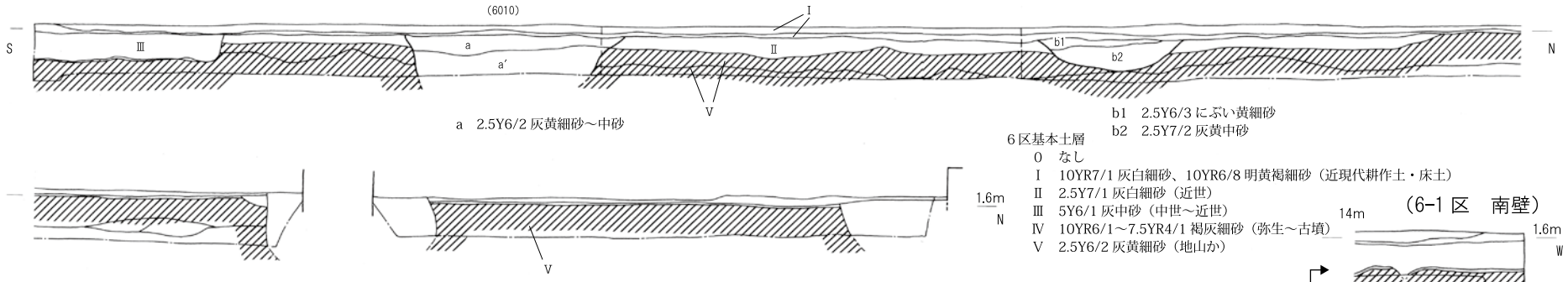


図142　6区平面図（S=1：200）

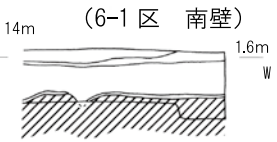
6-1 区　西壁



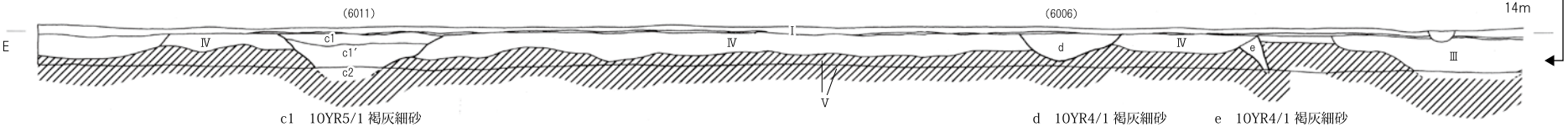
a　2.5Y6/2 灰黄細砂～中砂

b1　2.5Y6/3 にぶい黄細砂
b2　2.5Y7/2 灰黄中砂

6 区基本土層
0　なし
Ⅰ　10YR7/1 灰白細砂、10YR6/8 明黄褐細砂（近現代耕作土・床土）
Ⅱ　2.5Y7/1 灰白細砂（近世）
Ⅲ　5Y6/1 灰中砂（中世～近世）
Ⅳ　10YR6/1～7.5YR4/1 褐灰細砂（弥生～古墳）
Ⅴ　2.5Y6/2 灰黄細砂（地山か）



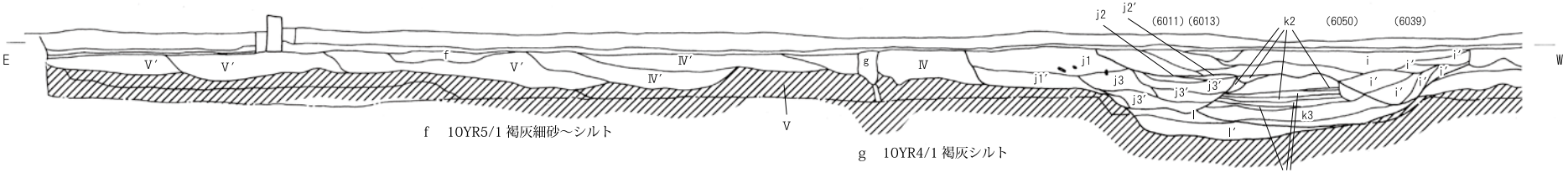
6-1 区　南壁



c1　10YR5/1 褐灰細砂
c2　10YR5/1 褐灰中砂

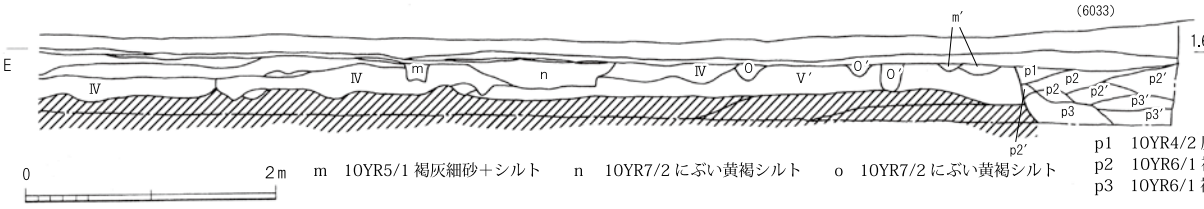
d　10YR4/1 褐灰細砂　　e　10YR4/1 褐灰細砂

6-2 区　南壁



f　10YR5/1 褐灰細砂～シルト

g　10YR4/1 褐灰シルト



0　2m

m　10YR5/1 褐灰細砂＋シルト　　n　10YR7/2 にぶい黄褐シルト　　o　10YR7/2 にぶい黄褐シルト

h　10YR7/2 にぶい黄褐シルト
i　10YR4/1 褐灰シルト～細砂（6039）
j1　10YR4/1 褐灰細砂～シルト（以下 6011）
j2　10YR3/1 黒褐シルト
j2′　5Y5/1 灰シルト
j3　10YR4/1 褐灰シルト

k1　2.5Y7/4 浅黄褐シルト（以下 6050）
k2　10YR4/1 褐灰シルト
k3　10YR4/1 褐灰シルト
l　10YR5/6 黄褐シルト

p1　10YR4/2 灰黄褐シルト
p2　10YR6/1 褐灰中砂＋シルト
p3　10YR6/1 褐灰シルト＋中砂

図 143　6 区　壁面土層図（S=1：60）

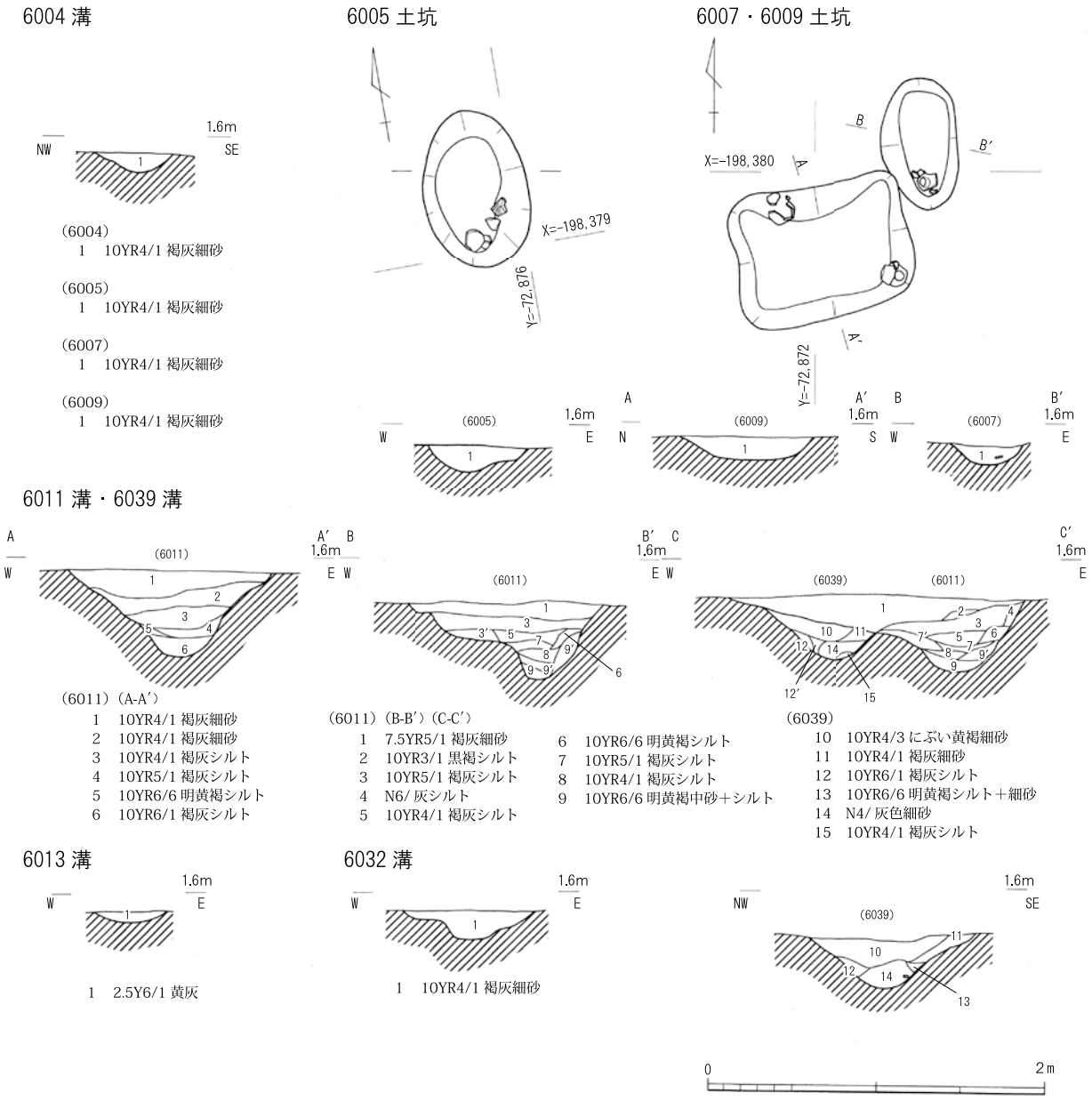


図 144　6 区　弥生～古墳時代の遺構（S=1：40）

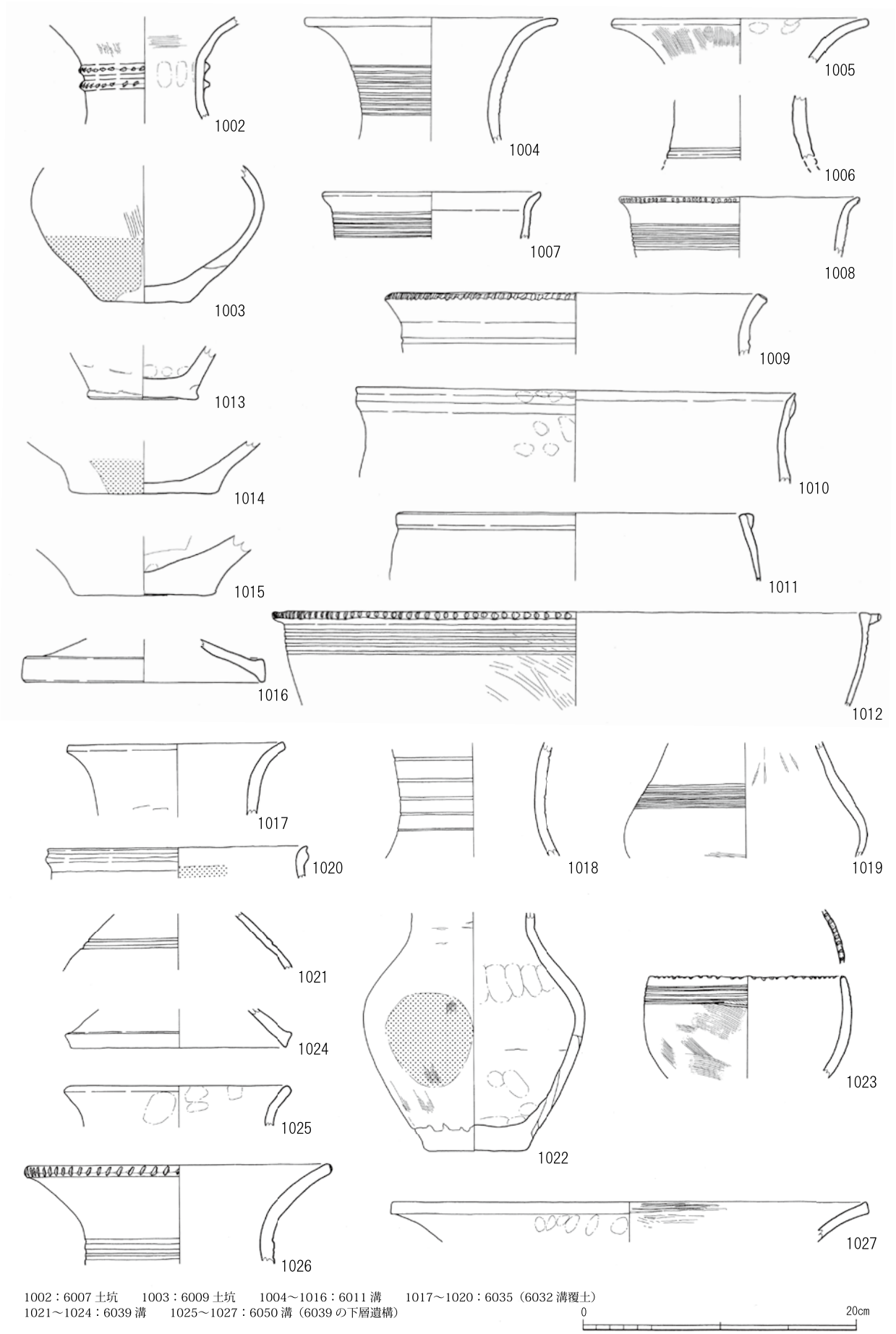
6-1 区の 6011 溝西側で検出されている 6006 溝に繋がる可能性もある。

1021 は遠賀川式土器の壺肩部と考えられる破片。1022 は無文の壺、1023 はヘラ描き沈線文の鉢。1024 は脚部と推定される破片である。

6004 溝（6-1 区）・6032 溝（6-2 区）

6-1 区北半で確認された 6004 溝は幅 0.5 ｍの溝である。その下流側にあたる 6-2 区には 6032 溝があり、幅 0.7 ～ 1.0 ｍである。二つの溝は北東から南西方向へと流れており、その中央にある包含層状堆積（6035）中では弥生土器が出土している。

1017 ～ 1020 は 6035 堆積土から出土したが、6004 溝・6032 溝に由来するものと推定される。1017 は無文の壺の口縁部、1018 は頸部に間隔の広いヘラ描き沈線文を施す壺。1019 は遠賀川系の壺であるが、肩部の沈線は多条である。1020 は口縁部下に突帯をもつ甕。



1002：6007 土坑　1003：6009 土坑　1004～1016：6011 溝　1017～1020：6035（6032 溝覆土）
1021～1024：6039 溝　1025～1027：6050 溝（6039 の下層遺構）

図 145　6 区　弥生時代の遺構出土土器

(2)　弥生時代の土坑

6005 土坑（6-1 区）

6-1 区中央で確認した土坑である。土坑の形状は、南北約 1m、東西 0.8m の楕円形で、深さ 0.25 mである。弥生土器の破片が出土している。

6007・6009 土坑（6-1 区）

6-1 区東側で検出した土坑。6007 土坑は長さ 1.0 m、幅 0.8 mの長方形の土坑で、頸部に刻み目を施した２条の突帯を貼りつける広口壺（1002）が出土した。

6009 土坑は長さ 0.8 m、幅 0.45 mの楕円形の土坑である。壺の胴部（1003）が出土した。

(3)　弥生時代の石器

S71 はサヌカイト製の平基式の石鏃である。長さ 2.2 ㎝、幅 1.3 ㎝、厚さ 0.4 ㎝、重量 0.8 ｇで、微妙に欠けた部分がある。

掘立柱建物の柱穴から出土しているが、本来はその下層にある弥生時代前期の流路内に由来する遺物と考えられる。



図 146　6 区　石鏃（石⑫）

３　中世の遺構・遺物

6-2 区で、鎌倉時代の掘立柱建物１が確認される。その北側では 6037 区画溝と並列する 6030・6034 ピット、掘立柱建物の西にある 6013 溝は同時代の遺構と考えられることから、屋敷地を形成する一連の遺構である可能性が考えられる。

掘立柱建物１

6-2 区南東側で、南北２間以上、東西３間で、北側に１間の庇をもつ掘立柱建物１を検出した。建物は地形でなく、条理型地割と同様の方位を意識して建てられている。７区の北端で検出されている掘立柱建物に繋がるものと考えられるため、南北３間で北側に庇をもつ建物として復元できる。建物規模は東西約７m、南北約８mになるものとみられる。

柱穴の底には根石があり、柱痕が残るもの（6021）も見られた。柱穴間の距離は、東西方向では 2.25m から最大 2.51m で、南北方向では 2.08m から最大 2.37m である。

6023 柱穴と 6024 柱穴から瓦器埦、6027 柱穴から土師質小皿が出土した。瓦器埦は 12 世紀後半から 13 世紀にかけてのものと推定される。

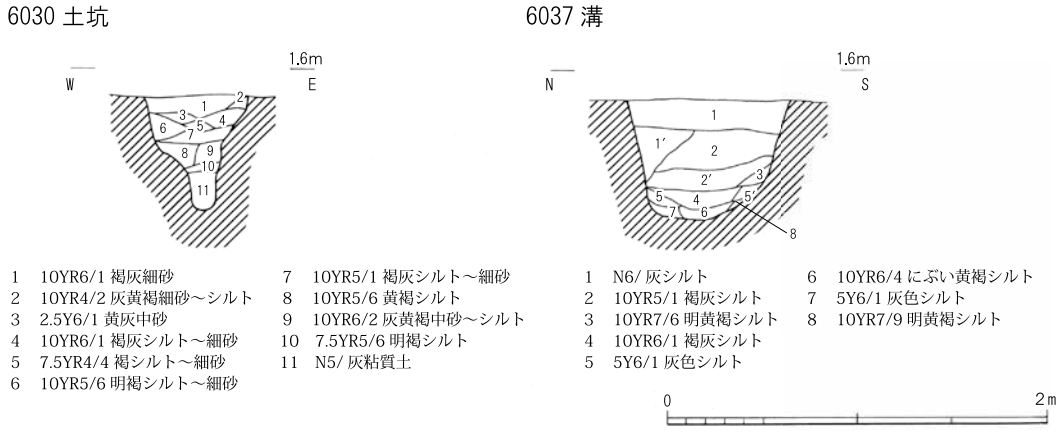


図 147　6 区　中世の遺構①（S=1：40）

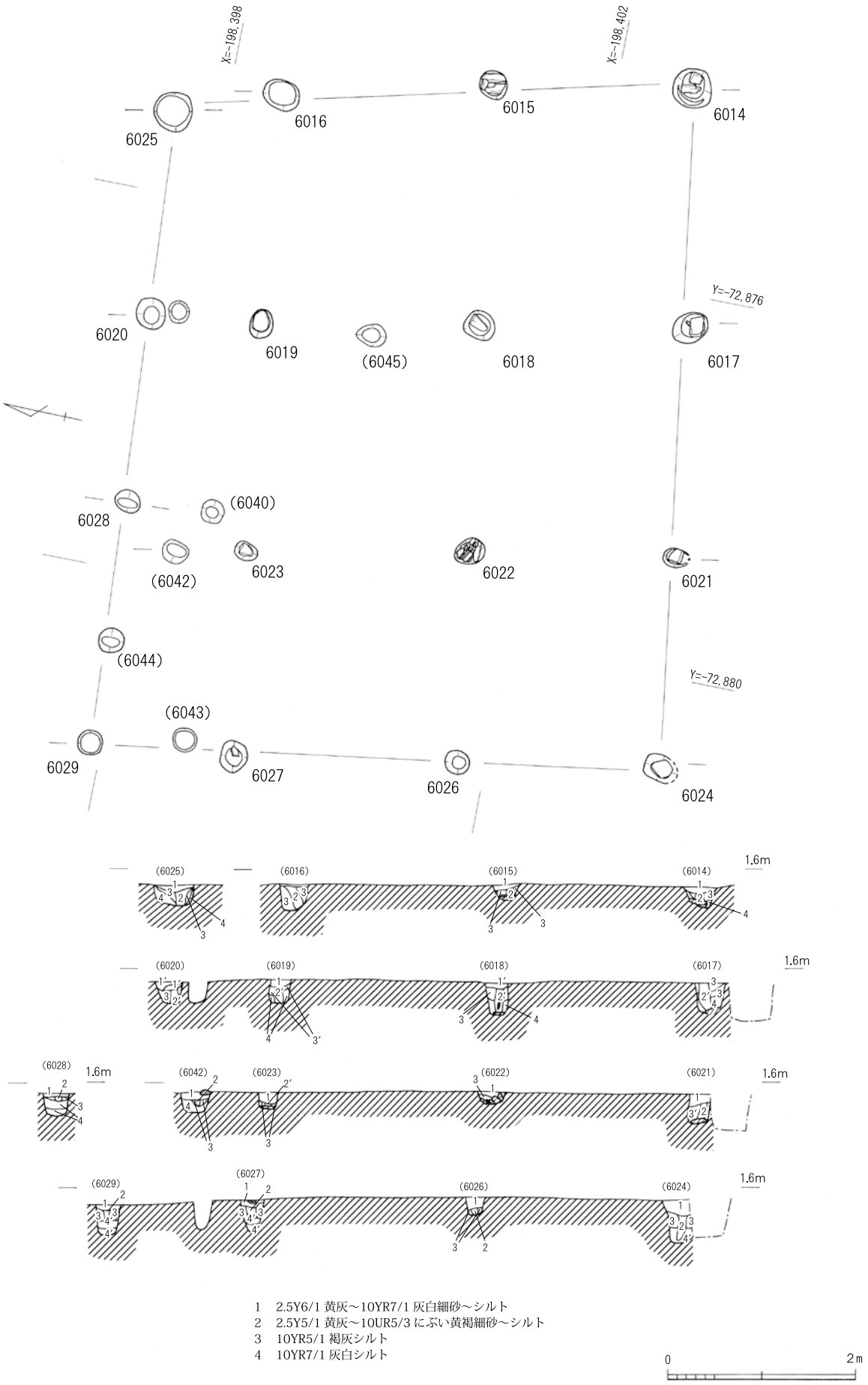


図 148　6 区　中世の遺構②（掘立柱建物 1 ）（S=1：60）

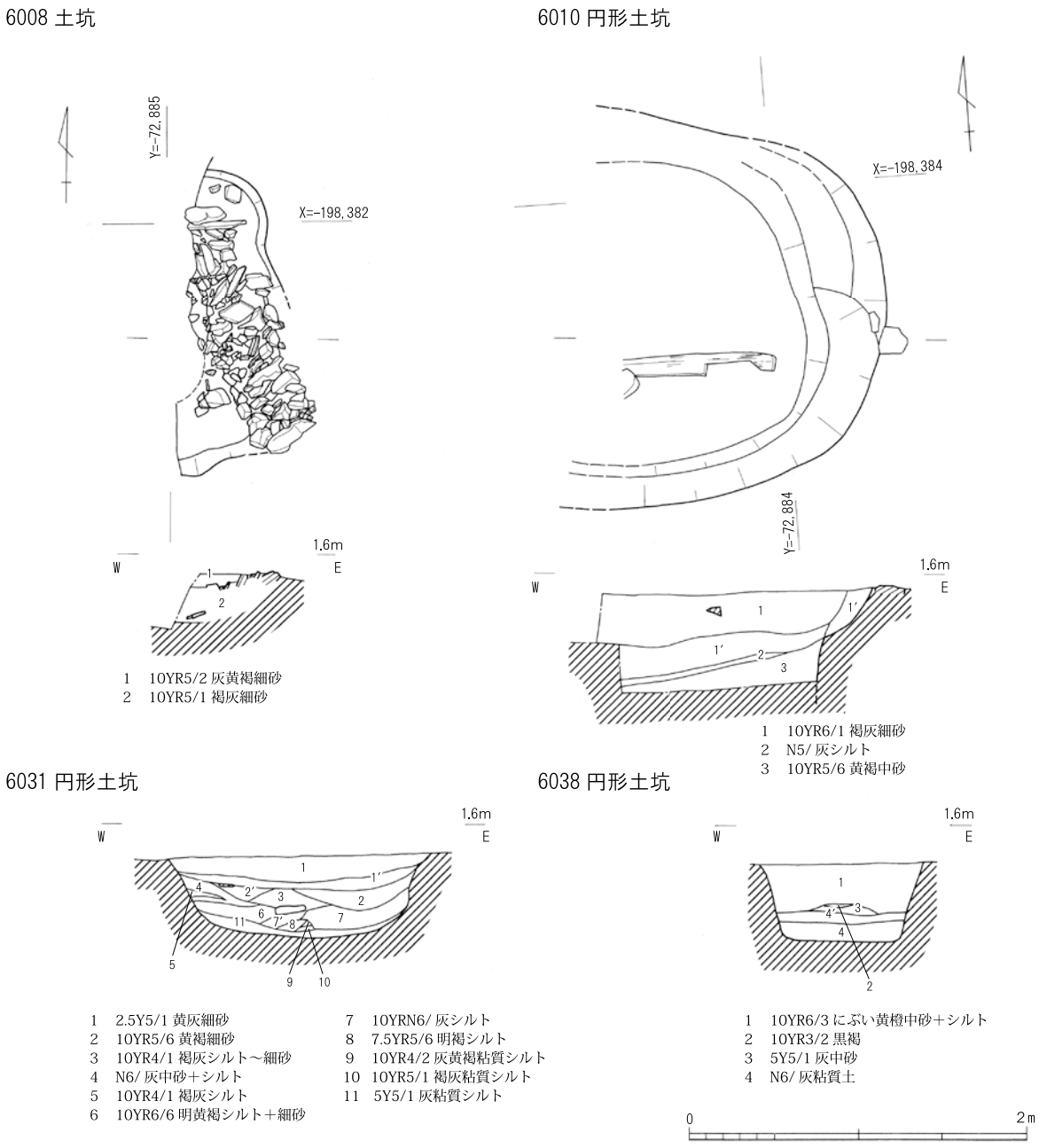


図 149　6 区　近世の遺構（S=1：40）

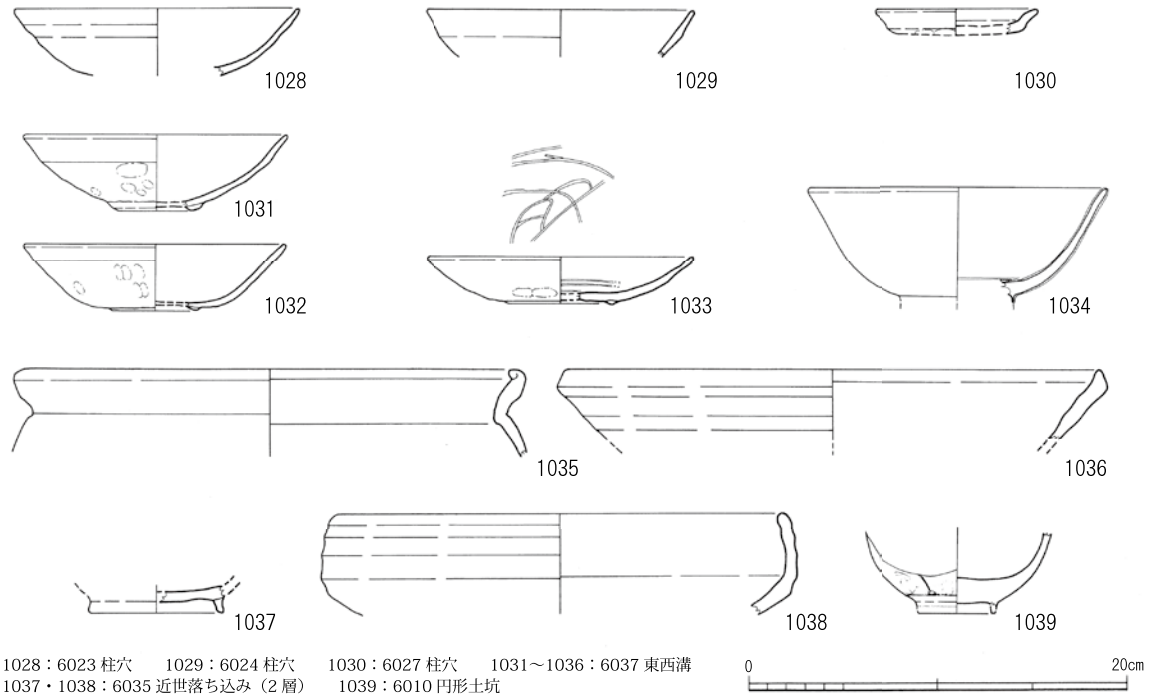
6030・6034 土坑

6-2 区北東部、6037 溝北側で検出した径約 0.5 ｍの２基のピットである。ピット間の芯々距離は 2.7 ～ 2.8 ｍで、6037 溝のすぐ北側に並んでいるようにみえる遺構であり、出土遺物の年代も同年代といえる。

6037 溝

6-2 区北東部で検出した東西方向の区画溝。現行の土地区画のほか、掘立柱建物 1 とも方位が一致する。西側は弥生～近世の遺物を含む堆積によって途切れている。同様の溝として 6013 南北溝があり、掘立柱建物 1 の北と西を区画する形で検出された。

1031 ～ 1036 は 6037 溝から出土した土器である。1031 ～ 1033 は瓦器埦。1031 は口径 13.8 ㎝、器高 4.0 ㎝で高台が機能しており、12 世紀後半から 13 世紀前半頃の遺物と考えられる。1032 は埦形から坏のような形状に若干変わっており、13 世紀の遺物と考えられる。1033 は器高 2.6 ㎝



1028：6023 柱穴　1029：6024 柱穴　1030：6027 柱穴　1031～1036：6037 東西溝
1037・1038：6035 近世落ち込み（2 層）　1039：6010 円形土坑

図 150　6 区　中世・近世の遺構出土土器

の皿状を呈する瓦器埦であるが高台が残る。紀ノ川下流域の特徴的な退化傾向が現れた遺物であり、13 世紀後半から 14 世紀前半の遺物と考えられる。1034 は青磁碗。1035 は土師質の土釜類。1036 は東播系須恵器の鉢。

４　近世の遺構・遺物

６区西側の水路沿いに土坑・埋桶が分布している。これらの遺構は遺物包含層上に形成されている。包含層からは土師器埦（1037）や焙烙（1038）などが出土している。

6008 土坑

6-2 区南西で検出された土坑である。土坑内には、約 20 ㎝の片岩と瓦が組み上げられているが、用途は不明である。

6010 井戸

6008 土坑の南側で検出された径約２ｍの井戸である。出土遺物は染付碗（1039）のほか、木製品、瓦、土師器片などがある。

6031・6038 円形土坑

6031 土坑は 6-2 区南西で検出した径 1.6 ｍ、深さ 0.5 ｍの土坑である。6038 土坑は 6-2 区北西で検出した径約 1.0 ｍ、深さ約 0.5 ｍの土坑である。水溜め用の埋桶の跡であった可能性が考えられる。

第７節　７区の調査

１　概要

７区は、８区とともに調査対象地の南部にあたる調査区である。７・８区は平成 22 年度の調査で、同時併行で掘削を行っている。７区は東西幅約 23 ～ 24 ｍ、南北長約 38 ｍで、調査区面積 1,549 ㎡である。

調査前現況は水田と工場の跡地で、水田はＮ－6.5°－Ｗの方位軸線をとる河南条里の条里痕跡を良好にとどめている。調査地周辺の水は北東から南西にかけて緩やかに傾斜する状況が明確にみてとれる。県教育委員会の試掘調査では、調査区の南には青灰色の砂土や灰色のグライ化土壌が堆積する低湿地が広がる状況が確認されており、和田川を越えて再び微高地状になる場所に和田遺跡が形成されている。７区と８区の間には、紀ノ川左岸水利組合が管理する現有水路である宮井用水中溝水路が南北方向に流れ、周辺の水田及び、安原盆地を灌漑している。

調査では近現代の水田耕作土、床土（Ⅰ層）を機械掘削し、Ⅱ層以下を人力掘削して遺構を検出した。地山とみられる遺構検出面には上位層の水田耕作の影響でマンガンが多く沈着しており、遺構の検出が困難であったため、黄褐色シルト層を１層分掘り下げて遺構検出を行った。

調査区北半部分には、6 区 6050 流路から続く幅約 10 ｍほどの 7000 落ち込み･流路が存在する。その上面に弥生時代中期中葉の溝２条等が掘削されていることから、上面遺構の完掘後、落ち込みを掘り下げ、落ち込みの下面において遺構検出を行った。この落ち込みの上面で検出した遺構面を上層遺構面、落ち込みの下面で検出した遺構面を下層遺構面として区別して調査を行っている。落ち込み上面の遺構は弥生時代中期以降であり、下層遺構面の遺構は弥生時代前期新段階の時期を示す。

古墳時代の溝はやや不規則に流れており、その後、宮井用水中溝水路の下層で水路の前身と考えられる溝が成立している。出土遺物は計 45 箱分で、弥生土器・土師器のほか、少量の中近世の陶磁器が出土した。

２　弥生時代の遺構・遺物

(1)　弥生時代前期の流路と溝群（下層遺構面の遺構）

調査区の北部に流れる弥生時代前期の 7002 溝と 7000 流路及び井戸状遺構等を確認した。7000 流路は複数時期に渡る堆積をもつものとみられ、上層の落ち込みに前期から中期にかけての遺物が含まれているものと考えられる。

7000 落ち込み・流路（＝ 6050 落ち込み、8000 落ち込み・流路）

７区北で検出した遺構で下層は流路、上層は落ち込み状を呈する遺構である。西壁では深さ 0.6 ｍ以上の流路となっており、南端部に一時期古い年代の溝状堆積が確認できる。北東方向から南西方向へ延びており、自然流路の埋没後に、再び形成された流路状の落ち込みに土器が多数投棄されたものと考えられる。落ち込み内では、井戸３基を検出しており、地形の低い地点を利用し掘削されたものとみられる。落ち込みは検出長約 36.0 ｍ以上、幅約 11.5 ｍ、深さ 0.2 ～ 0.4 ｍで、緩やかな流路状を呈する。埋土は複数に分層できるが、上層は褐灰色シルト、中層は炭化物を含む淡黄色シルト及び黄灰色シルトが互層に堆積し、下層は灰白色～黄灰色シルトが堆積する。

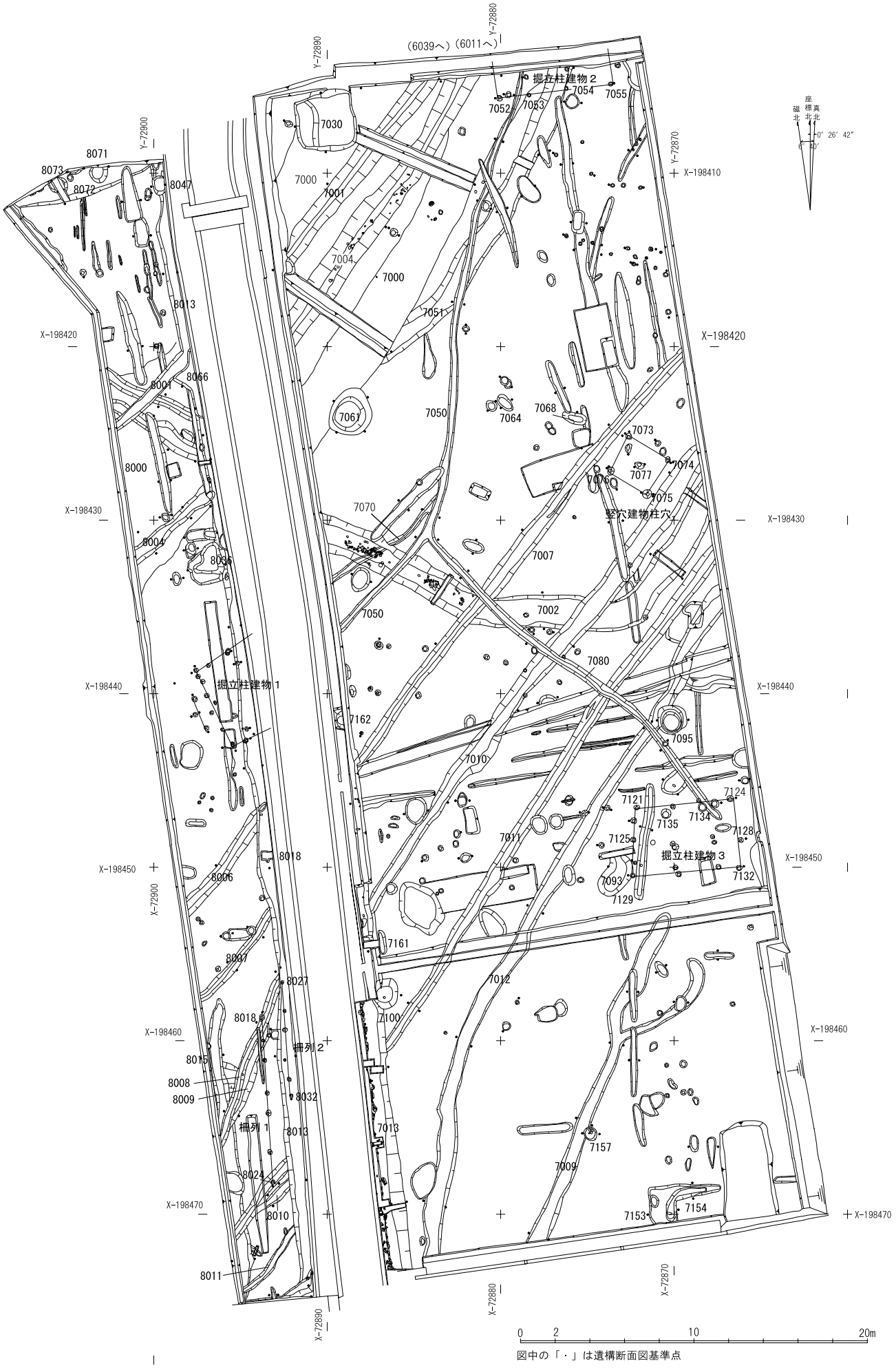


図151　７・８区平面図（S=1：300）

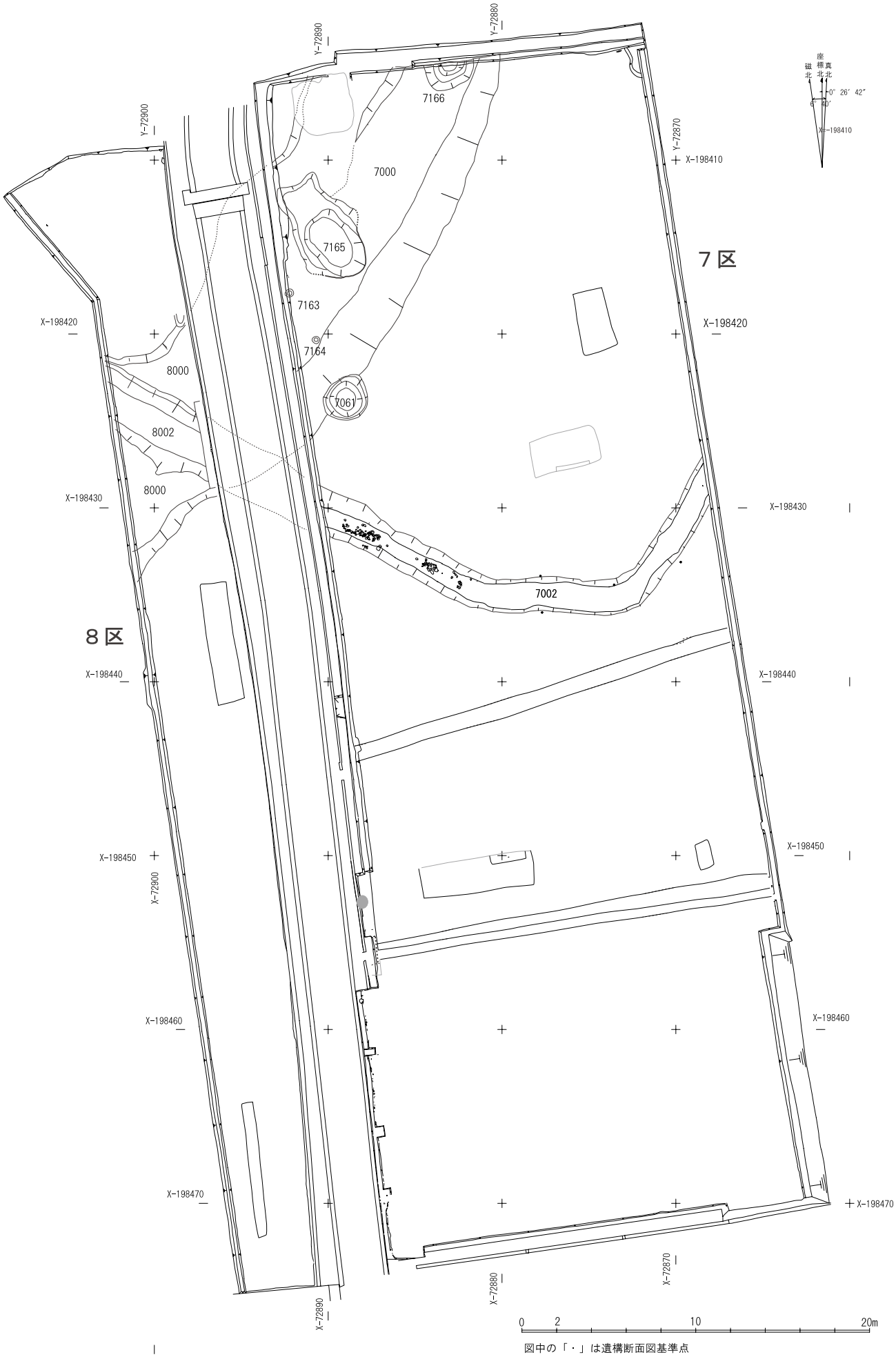
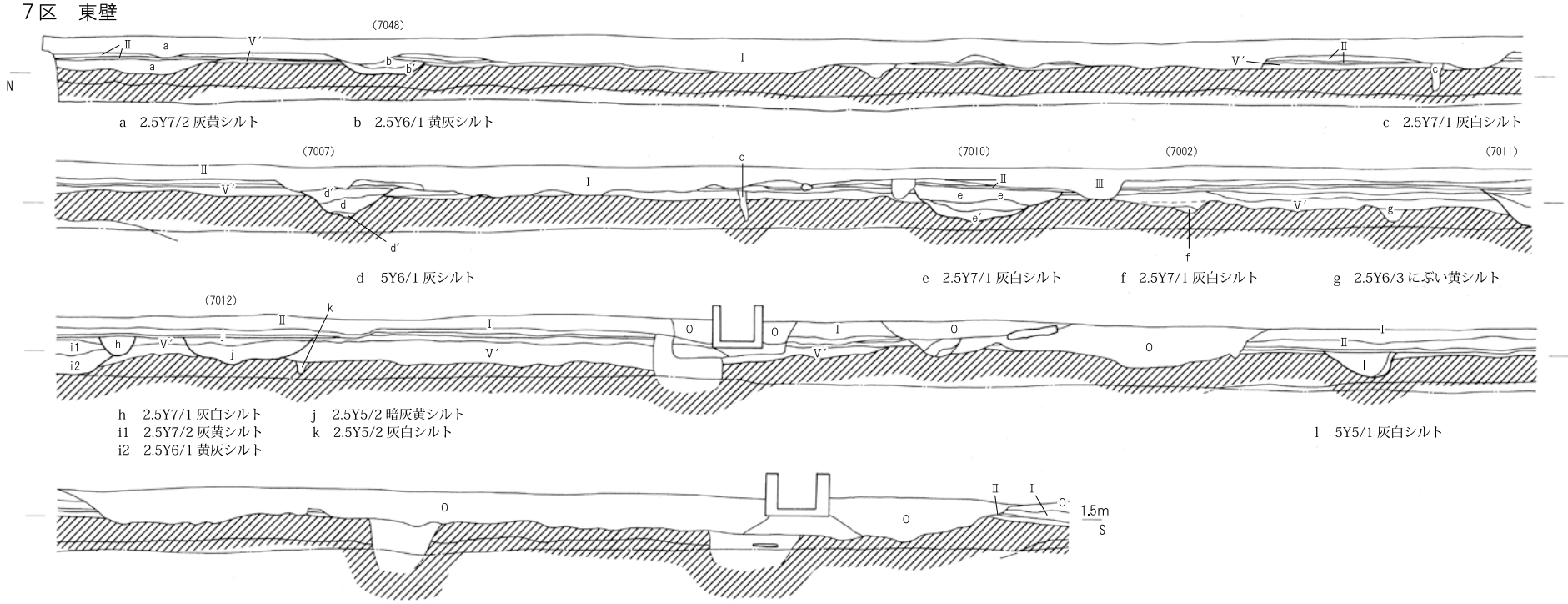


図152　7・8区下層遺構平面図（S=1：300）

7区　東壁



7区　西壁

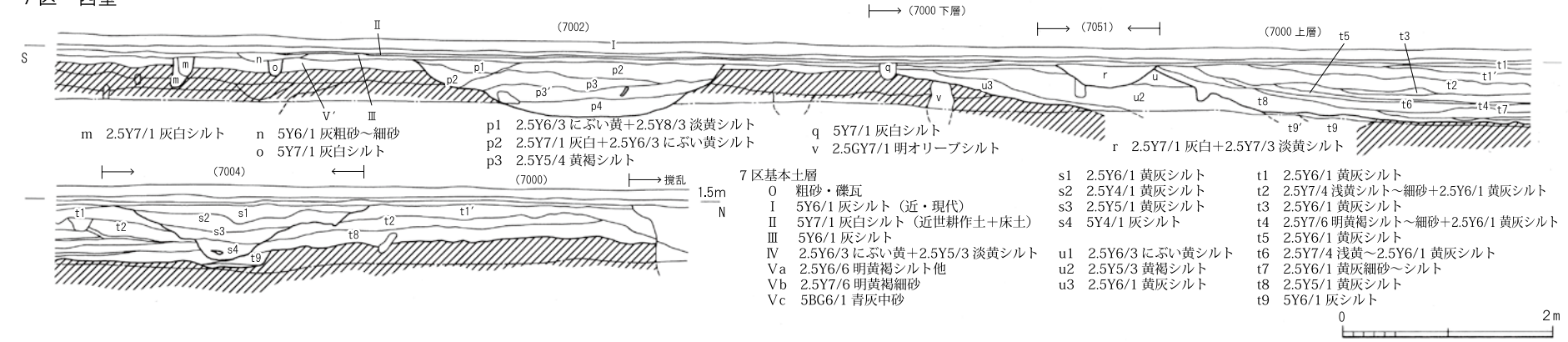


図 153　7区　壁面土層図（S=1：60）

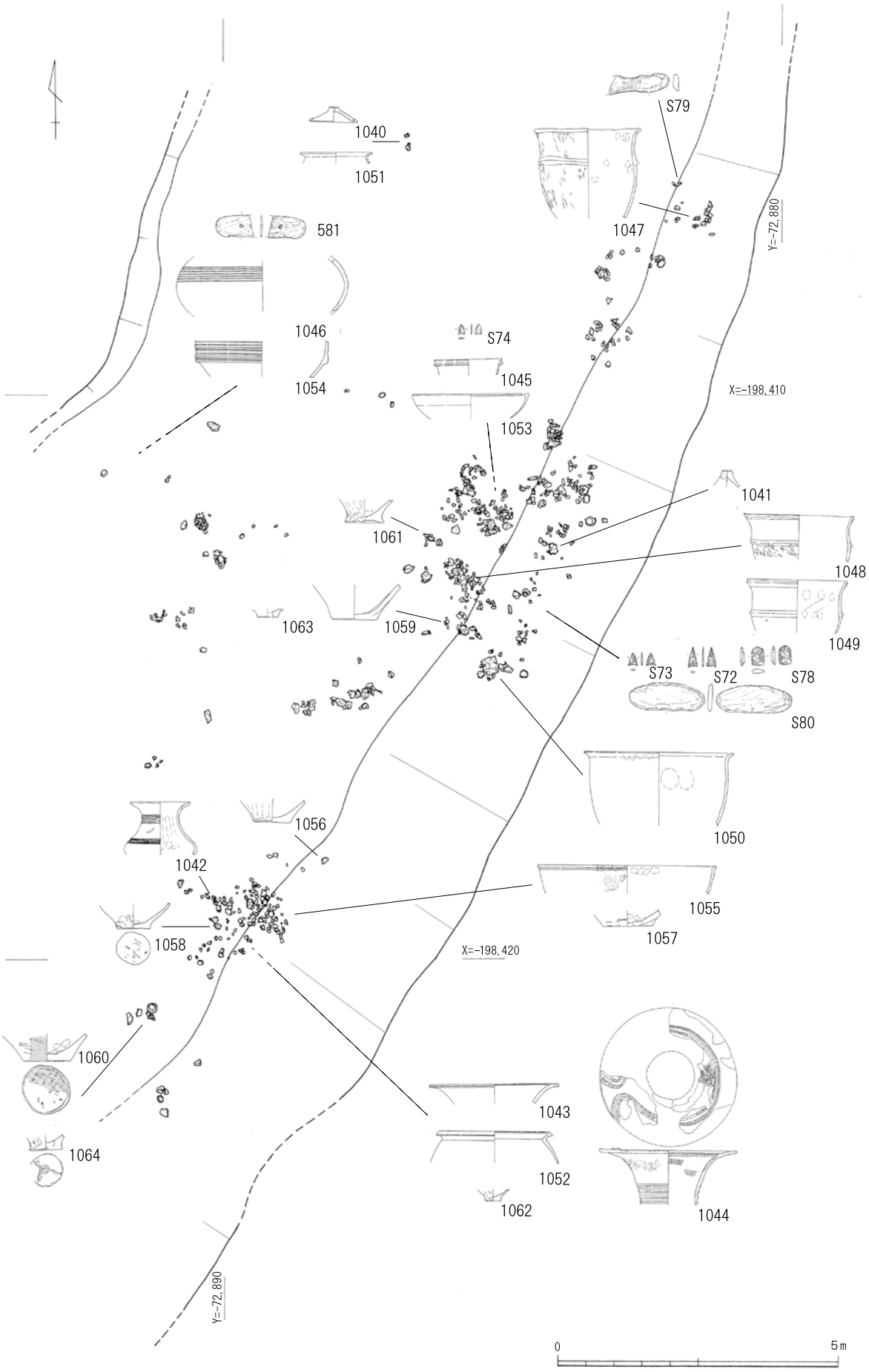
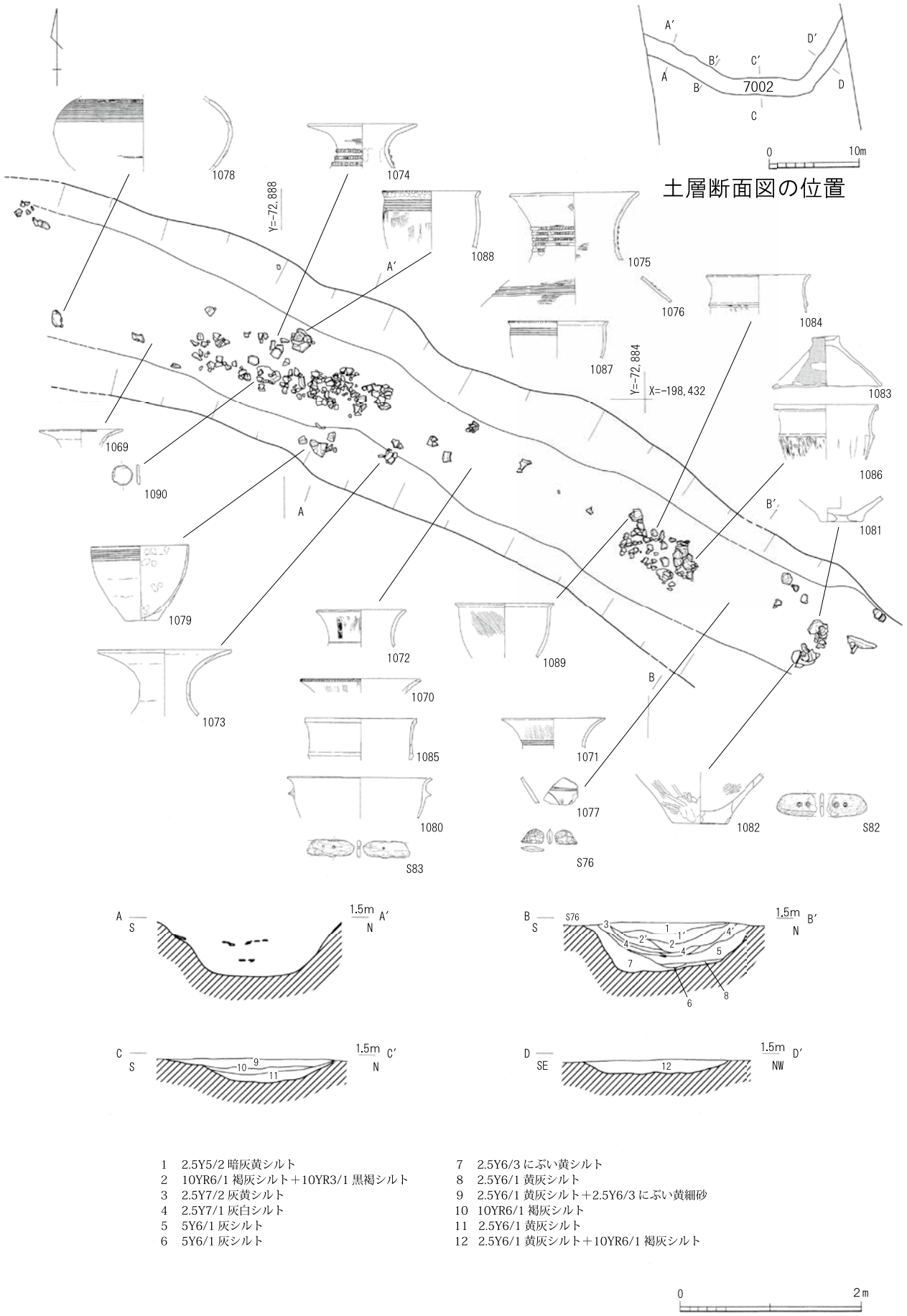


図 154　7 区　7000 流路遺物出土状況（S=1：100）



1　2.5Y5/2 暗灰黄シルト
2　10YR6/1 褐灰シルト＋10YR3/1 黒褐シルト
3　2.5Y7/2 灰黄シルト
4　2.5Y7/1 灰白シルト
5　5Y6/1 灰シルト
6　5Y6/1 灰シルト
7　2.5Y6/3 にぶい黄シルト
8　2.5Y6/1 黄灰シルト
9　2.5Y6/1 黄灰シルト＋2.5Y6/3 にぶい黄細砂
10　10YR6/1 褐灰シルト
11　2.5Y6/1 黄灰シルト
12　2.5Y6/1 黄灰シルト＋10YR6/1 褐灰シルト

図 155　7 区　7002 溝遺物出土状況（S=1：60）

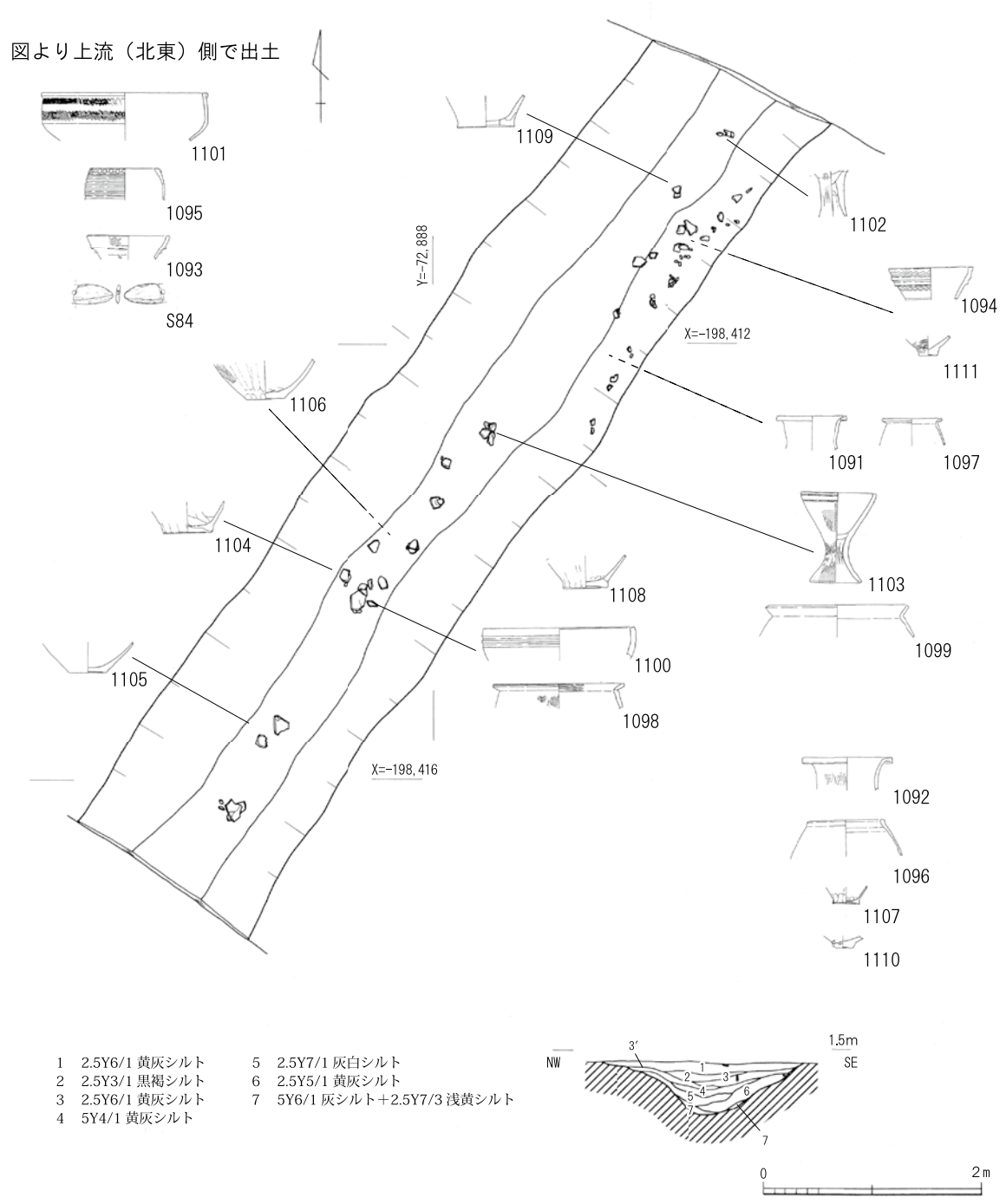


図 156　7 区　7004 溝遺物出土状況（S=1：60）

遺物は落ち込み東側の肩部から集中して出土し、土器集中地点が複数存在する（図 154)。落ち込み埋没の際に土器の投棄が行われたと考えられ、完形に復元可能な土器が、投棄され押しつぶされた状態で出土している。出土遺物にはやや年代幅があり、複数時期の堆積に対応する可能性も考えられる。

7000 下層流路は、図 153 の 7 区西壁の土層断面で u1 ～ u3 層、上層落ち込みは t1 ～ t9 層に相当する。下層流路を埋没させた堆積はそのまま 7 区全面に薄く堆積し、その上面に自然地形に逆らうように流れる弥生時代前期の 7002 溝と、自然地形に沿った 7000 上層流路が形成されている。なお、図 153 の地山ラインは 7000 下層流路に対応したものであるが、7002 溝に先行する堆

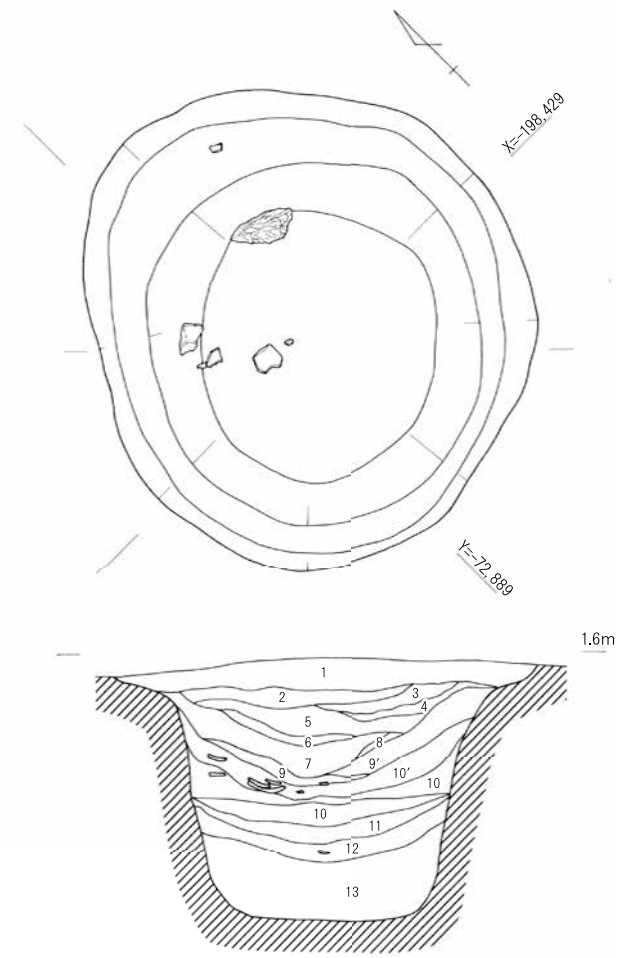


図 157　7 区　7061 土坑（S=1：40）

積は無遺物層の可能性も高い。弥生時代前期頃に谷や低地が埋没しており、その途中の層から土器が多量に出土している状況がうかがえる。

1040 ～ 1064 は 7000 落ち込み出土の弥生土器。7000 落ち込みでは上層と下層に分けて遺物を取り上げているが、これは先述した上層落ち込み・下層流路に対応するものではない。弥生時代前期の遺物が多いが、上層で取上げた遺物には弥生時代中期中葉の遺物が混じる。

1040・1041 は壺類の蓋。1042 ～ 1044 は広口壺で、遠賀川系の壺（1042）や、口縁部内面に沈線をもつ壺（1043）、瀬戸内西部の影響を受けたとみられる口縁部内面突帯をもつ壺（1044）が確認される。1045 は口縁部下方に突帯を貼りつける直口壺。1046 はヘラ描き沈線文をもつ壺体部。1047 ～ 1052 は甕。1047 ～ 1049 は紀伊型甕で、口縁部や肩部に突帯を貼りつける古いタイプのものである。1050 は無文の甕。1051・1052 は口縁部が折れ曲がる甕で、1051 は小型、1052 は口縁端部が上方に肥厚する。1053 は高坏の坏部、1054 は凹線文をもつ鉢と考えられる。1055 は大型の鉢。1056 ～ 1064 は平底の底部片であるが、なかには種子圧痕のあるもの（1058・1060）や穿孔しかけたもの（1064）が確認される。

7002 溝（＝ 8002 溝）

７区の中央やや北寄りで検出した溝である。切り合い関係から弥生時代の他の溝より古く、今回検出した遺構の中では最も古い段階の遺構と認識される。7002 溝は北東から流れてきて、屈折して北西へと延びており、他の溝の流れとは異なる方向に流れている。溝の規模は、７区東では幅約 1.6 ｍ、深さ約 0.15 ｍと浅いＵ字形を呈するのに対し、７区中央で深くなり、幅約 1.9 ｍ、深さ約 0.55 ｍのＵ字形を呈する。８区では、さらに幅が広がり、幅約 3.1 ｍ、深さ約 0.4 ｍとなる。埋土は大きく上層・中層・下層・最下層に分けられ、上層は主に黄灰色～暗灰黄色シルトを呈し、溝が深くなる部分では炭化物を含む暗灰黄色シルトが堆積する。中層では炭化物・遺物を多く含む褐灰色シルト層が、下層では黄灰色～灰色シルト層が、最下層では灰色シルト層及び基盤層と分別しにくいにぶい黄シルト層が堆積し、いずれもレンズ状堆積を示す。

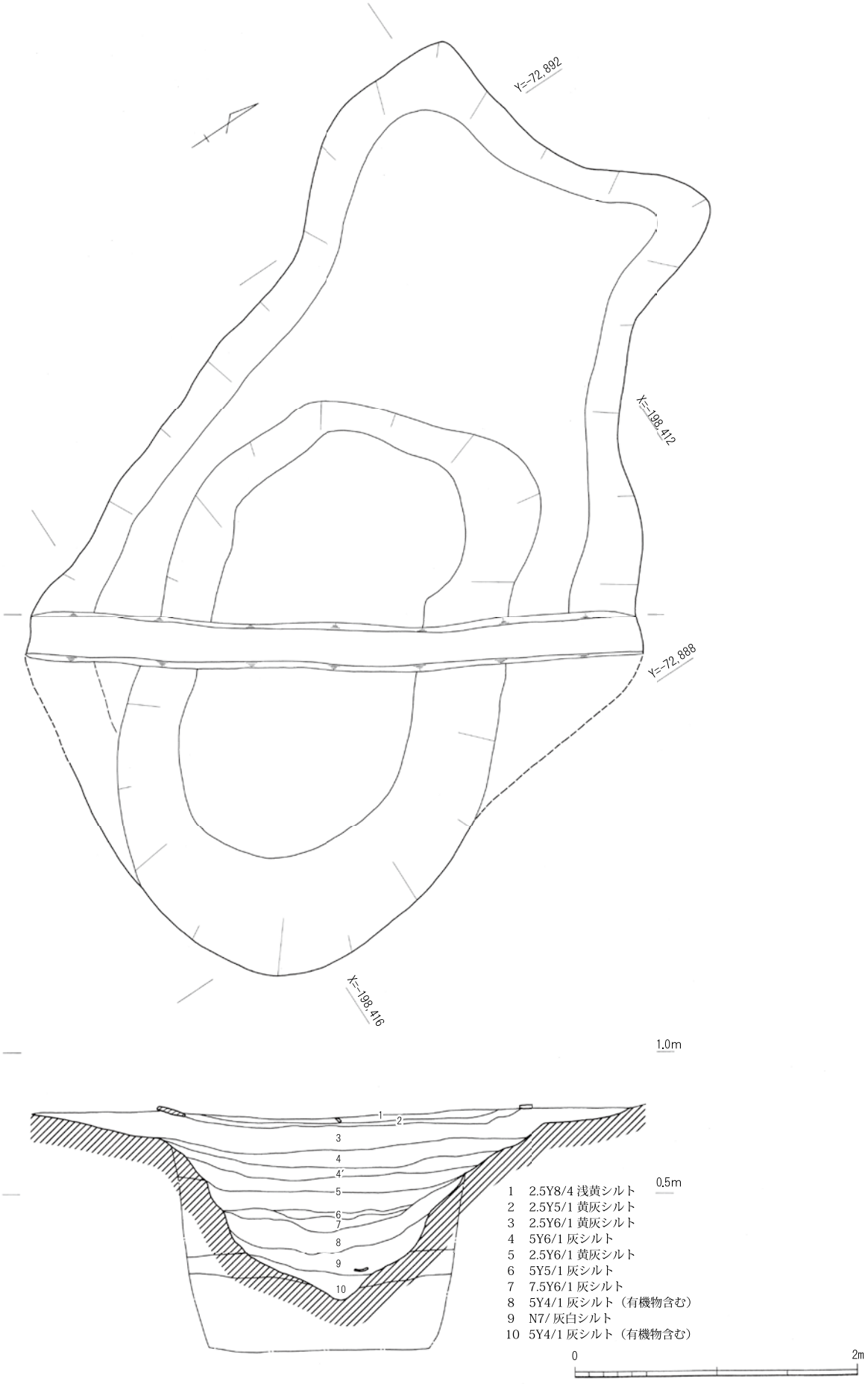
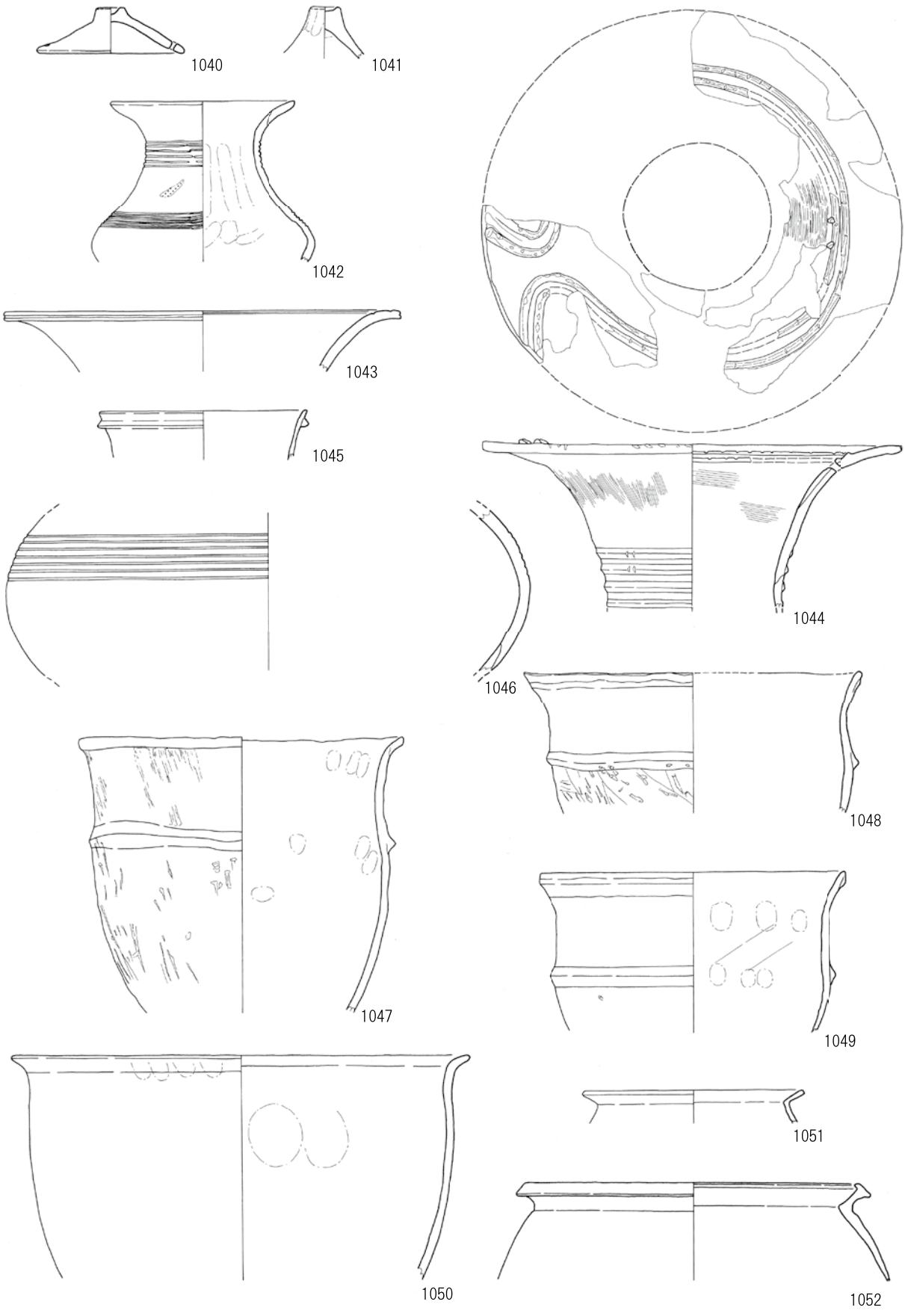


図 158　7 区　7165 土坑（S=1：40）



1040・1043：7000 落ち込み下層　1041・1042　1044～1052：7000 落ち込み上層

図 159　7 区　7000 落ち込み出土土器①

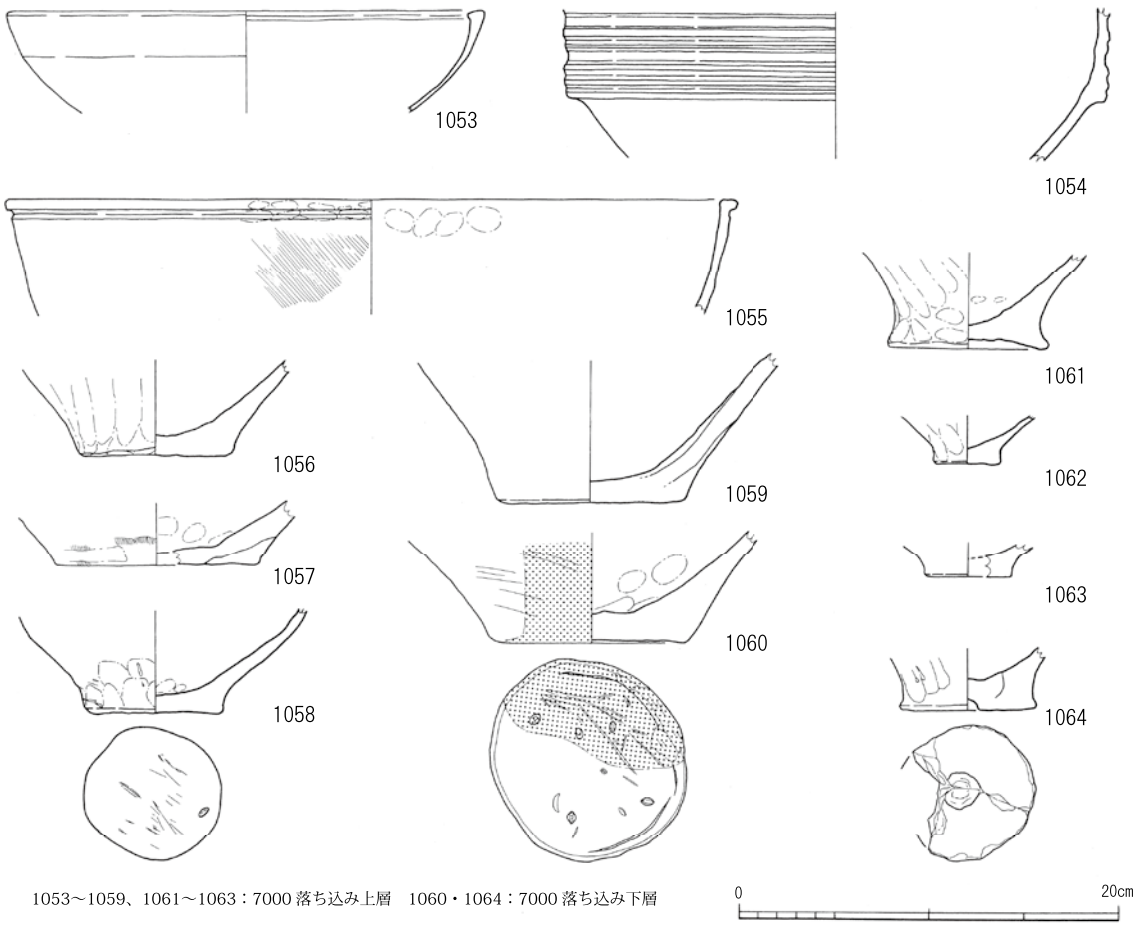


図 160　7 区　7000 落ち込み出土土器②

遺物の多くは中層及び下層で出土した。溝からは比較的良好な形で弥生土器が出土しており、出土遺物から遺構の時期は、弥生時代前期後葉とみられ、一部下層の遺物が弥生時代前期中葉にさかのぼる可能性が残る。

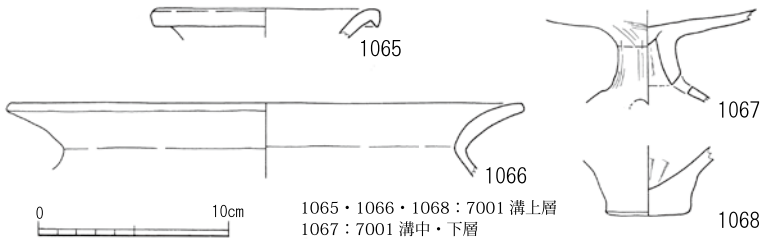
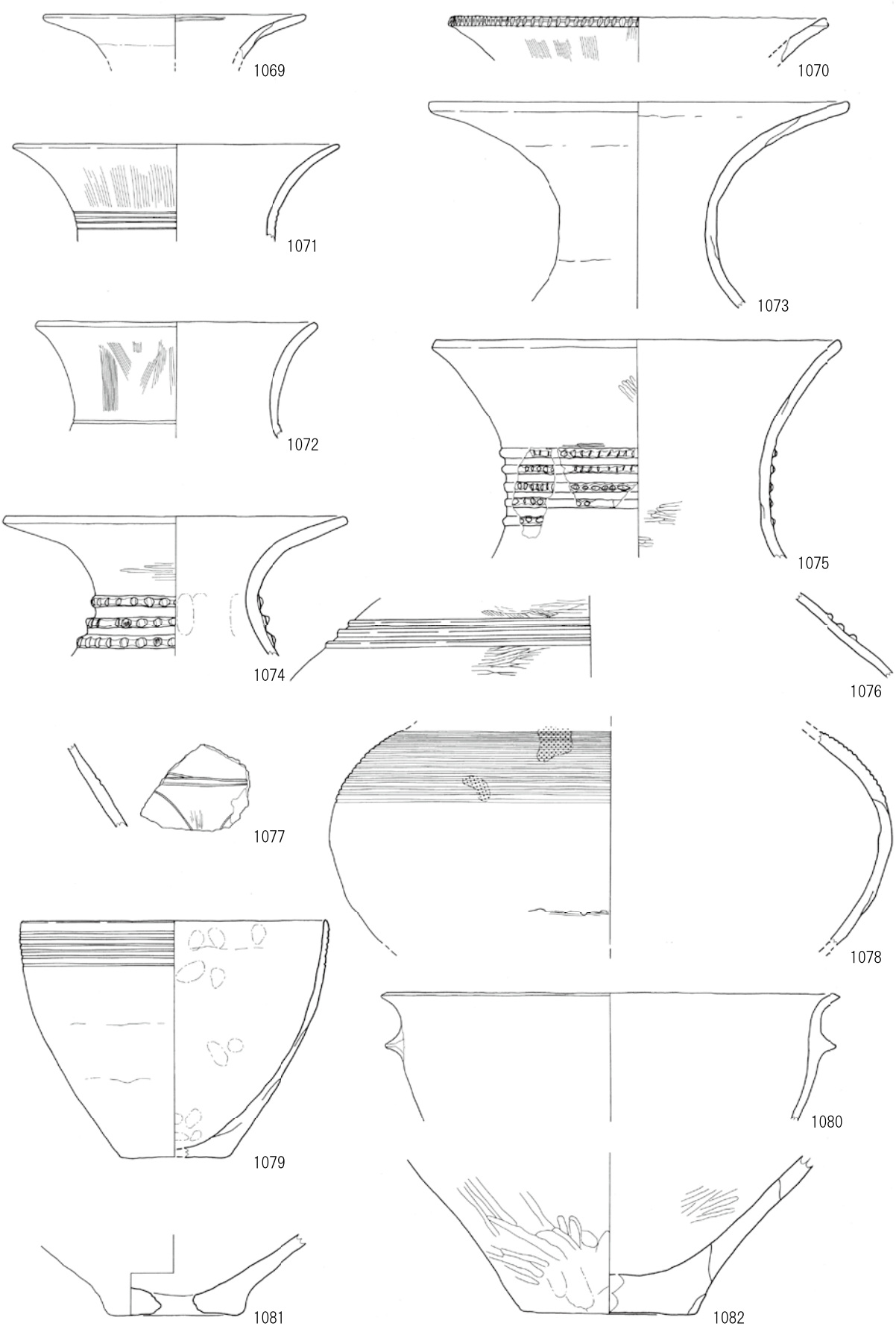


図 161　7 区　7001 溝出土土器

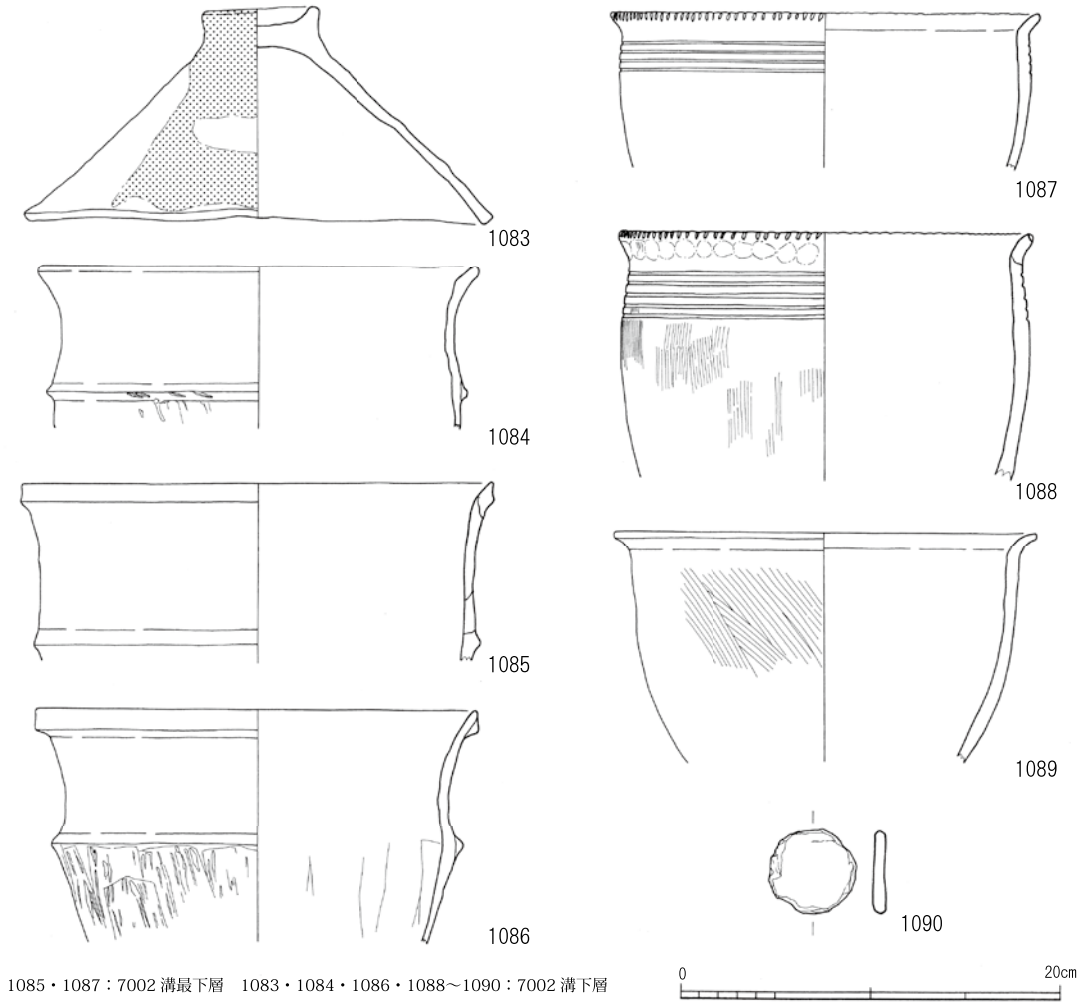
1069 ～ 1090 は 7002 溝で出土した弥生土器。貼り付け突帯とヘラ描き沈線で飾り、刻み目をつける土器群である。1069 ～ 1074 は広口壺の口縁部。口縁端部を丸めるものが多いが、1070 は端部が平坦でヘラ描き沈線と刻み目を施す。頸部は屈曲が緩いもの（1072・1075）があるのに対して、折れ曲がるように大きく湾曲するもの（1069・1073・1074）がある。1076 ～ 1078 は壺胴部で、1077 は木の葉文とみられる線刻をもつ。1079 は 6 条のヘラ描き沈線で飾る直口鉢、1080 は把手付きの外反口縁鉢。1081・1082 は平底の底部で、1081 は穿孔する。1083 は甕の蓋。笠形で上面が窪む。1084 ～ 1086 は紀伊型甕で突帯文系土器の影響を残す。1086 は口縁部と肩部に断面三角形の高い貼り付け突帯を施し、肩の突帯より下を縦方向に粗くけずる。1087・1088 は如意形口縁をもつ倒鐘形の甕で、口縁端部に刻み、肩部にヘラ描き沈線を施す。1089 は外反口縁の甕ないし鉢で、外面ハケ調整を施す。1090 は土器片を利用した円盤。



1069・1070・1074・1082：7002 溝最下層　1071・1073・1075・1076・1078・1079・1081：7002 溝下層
1072・1077・1080：7002 溝上層

0　20cm

図 162　7 区　7002 溝出土土器①



1085・1087：7002 溝最下層　1083・1084・1086・1088～1090：7002 溝下層

図 163　7 区　7002 溝出土土器②

(2)　弥生時代前～中期の井戸

7061 井戸

7 区北の 7000 落ち込み内で検出した井戸である。井戸東側をⅤ層上面で検出し、西側を 7000 落ち込み内で検出した。

7061 井戸は直径約 2.2 m、深さ 1.4 mで、平面形はおおよそ円形を呈する。断面形は、上面は緩やかな段を持つが、そこから底面まで円筒形に下がる。素掘り井戸とみられ、埋土は大きく４層に区分できる。上層は黄灰色系のシルト、中層は炭化物を含む淡黄色系のシルト、下層は灰シルト、最下層はオリーブ灰色～緑灰色系のシルトを呈する。遺物は主に中層下位の炭化物層から出土している。最下層の下部では、灰色シルト層及び灰色中砂層が互層に堆積した湧水層を確認している。最下層では、自然木の破片を検出しているが井戸に伴うものではなく、落ち込み下層に存在する自然流路に伴うものと考えられる。弥生時代前期の遺構と考えられる。

1112 は 7061 井戸出土の無頸壺。５条の低い貼り付け突帯上に細かい刻み目を施している。

7165 井戸

7 区北、7000 落ち込み中央の底で検出した井戸である。井戸上面には、長径約７m、短径約４mの緩やかな落ちが存在し、井戸は長径約４m、短径約３m、深さ 1.3 mで、平面形は楕円形を呈する。断面形はすり鉢状を呈し、埋土は上層・下層・最下層に大きく分けられる。出土遺物の多くは、上層の緩やかな落ちである炭化物を含む黄灰色シルト層と、下層の有機物を含む灰白色



1091～1093、1097～1105、1107～1109：7004 溝下層　1094～1096：7004 溝中層
1106：7004 溝中・下層　　1110・1111：7004 溝上層

図 164　7 区　7004 溝出土土器

シルト層から出土した。最下層の下部壁面では､灰色シルト層及び灰色中砂層が互層に堆積した、湧水層を確認している。弥生時代前期の遺構と考えられる。

1114 ～ 1127 は 7165 井戸から出土した弥生土器。1114・1115 は広口壺、1114 は口縁部に穴をあける。1115 は外面に明瞭なハケ調整を残し、頸部にヘラ描き沈線を施す。1116・1117 は外反口縁をもち、肩部に３条のヘラ描き沈線を施す。1118・1119 は平底の底部で、1118 は外面にハケ調整を残し、1119 は底部を穿孔する。1115 は下層、1118 は中層、その他は上層から出土している。

7166 井戸（＝遺構 6050 の一部か）

7 区北端、7000 流路内で検出した井戸である。６区壁面で確認された遺構 6050 中央部上層の堆積に対応するものと推定される。7166 井戸は直径約 1.5ｍ、深さ約 0.6ｍで、平面形は不整円形、断面形はすり鉢状を呈する。遺物は上層部分から出土しており、井戸埋没の最終段階に投棄されたものとみられる。弥生時代前期新段階の遺構と考えられる。

1120 ～ 1127 は 7166 井戸から出土した弥生土器。1120 ～ 1126 は壺で、ヘラ描き沈線及び貼り付け突帯文で飾る。1120 は口縁端部が平坦で、沈線と刻み目を施す。1121 は頸部が長く、間隔のあいた５条の沈線を施す。1122 は頸部に低い貼り付け突帯を施し、口縁部が大きく屈曲して開く。1124 は真っすぐ開く口縁部に２条の貼り付け突帯を付ける破片。1126 は頸部と肩部に間隔の開いた４条のヘラ描き沈線をほどこし、1125 は頸部に低い６条以上の突帯をもつ。1127 は蓋。頂部は平坦で外面にハケ調整を施す。

(3)　弥生時代中期～庄内式期の溝・土坑

7000 落ち込み上に２条、７区中央から南側に数条の溝が、北東から南西に向かって直線的に流れている。7004 溝以外は出土遺物が少なく、詳細な年代は判然としないものが多い。

7001 溝（＝ 6039 溝、8001 溝）

7001 溝は 7000 落ち込みの上面で検出された幅約 1.2ｍ、深さ約 0.3 ～ 0.35ｍの溝である。断面形は緩やかなＶ字形を呈し、埋土は上層・中層・下層として区分して調査した。上層と中層は、炭化物を含む黄灰色シルト層である。下層に一定量の遺物がみられ、庄内期の遺構と推定される。上流は６区の 6039 溝、下流は８区の 8001 溝に繋がる。この溝は弥生時代中期中葉の 7004 溝の西側に形成されている。

1065 ～ 1068 は 7001 溝から出土した土器。1065 は広口壺で、口縁端部が垂下する。1066 は頸部が屈曲する甕。1067 は脚部の短い高坏で、ミガキが施される。1068 は甕・鉢類の底部で、タタキ痕は確認できない。

7004 溝

7004 溝は 7000 落ち込みの上面で検出された、幅約 1.9ｍ、深さ約 0.5ｍの溝である。断面形は緩やかなＶ字を呈する。埋土は炭化物を含む黄灰色～黒褐色シルト及び、灰色～灰白色シルトからなり、両者が互層に堆積する。上層・中層・下層に分かれ、下層の底面よりやや上から多くの土器が出土している。おそらく、溝が埋没開始した段階で土器が投棄されたものと考えられる。弥生時代中期中葉～後期の遺構と考えられる。

1091 ～ 1111 は 7004 溝から出土した弥生土器。1091・1092 は広口壺で、口縁端部を上下に肥厚させる。1093・1094 は直口壺で、開きぎみの口縁部の下方に突帯を貼り付け、櫛書き波状文で飾る。1095 は細頸壺で、内湾する口縁部に凹線を施し、口縁端部直下に円形浮文を貼りつける。1096 は無頸壺。1097 ～ 1099 は甕で、1097 は小型品。1098 は外面ハケ調整である。1100・1101・1103 は鉢で 1100 は凹線文、1101 は櫛描き波状文で飾る。1103 は小型の台付き鉢で、口縁部に２条の細い凹線を施す。胎土は乳白色を呈している。1102 は高坏の脚部と推定され破片。1104 ～ 1109 は平底の底部で、1107 ～ 1109 は突出する底部が薄手に仕上げられている。1110・1111 はタタキ甕の底部であり、この２点だけが上層出土遺物である。上層の埋没年代は弥生時代後期ないし庄内式期の可能性が考えられる。

7009 溝

7009 溝は７区南部で検出した長さ約 20.0 ｍ、幅約 0.8 ｍ、深さ約 0.1 ｍの溝。断面形は緩やかな皿状を呈する。隣接する他の溝と平行するが、北側で２方向に分岐し、途切れている。溝の上面に弥生時代末期の 7157 土坑があることから、弥生時代の溝と判断される。

7007・7010・7011 溝（＝8007 溝）

７区中央で検出した溝群のうち北にある３条の溝で、７区北東から７区南西へＮ－ 45 －Ｅに傾いて流れる。溝の規模や方位が合っており、同時併存しない場合でも、近い年代の遺構と推定される。遺構の切り合いから弥生時代前期の 7002 溝よりも新しく、年代不詳の 7080 溝より古い年代の遺構といえる。溝からは弥生土器や土師質の土器片が微量出土している。

7007 溝は検出長約 30 ｍ、幅約 1.1 ｍ、深さ約 0.25 ｍ。断面形は緩やかなＵ字形を呈し、埋土は４層に分層でき、黄灰色シルト及び灰白色シルトが交互に堆積する。下層では、灰黄色シルトが堆積する。

7010 溝は検出長約 33 ｍ、幅約 1.1 ～ 1.4 ｍ、深さ 0.3 ｍ。断面形は不整形な逆台形を呈し、埋土は４層に分層され、下層は炭化物を含む黄灰シルト層が堆積する。

7011 溝は検出長約 36 ｍ、幅約 0.7 ～ 0.8 ｍ。断面形はＵ字形を呈し、他の溝よりも幅が狭く、深い特徴がある。埋土は３層に分層でき、上層は灰黄色～灰白色シルト、下層は炭化物を含む黄灰色シルトが堆積する。

竪穴建物１柱穴（7073 ～ 7077）

７区西中央で検出した竪穴建物と推定される遺構である。柱穴が並び中央に炉があることから認識したもので、建物の竪穴は検出されておらず、平地式建物の可能性も考えられる。柱穴掘方は直径約 0.3 ｍ、深さ約 0.3 ～ 0.4 ｍである。埋土は、いずれも２層から４層に分層でき、柱痕跡と考えられる黄灰色シルト層が確認できた。建物の構造は方形４本柱、柱穴の間隔は約 2.6 ｍである。柱穴に隣接して、小穴が存在しており、貯蔵穴と考えられる。炉は４本柱の中央で検出しており、直径約 0.4 ｍ、深さ約 0.15 ｍ。埋土は単層で、黒褐色の炭化物層に黄灰シルトが混じる。炉埋土については、サンプルとして持ち帰っている。柱穴から弥生土器小片が出土していることと、四本柱の小型竪穴建物の検出例の多さから、庄内式期前後の遺構と推定している。

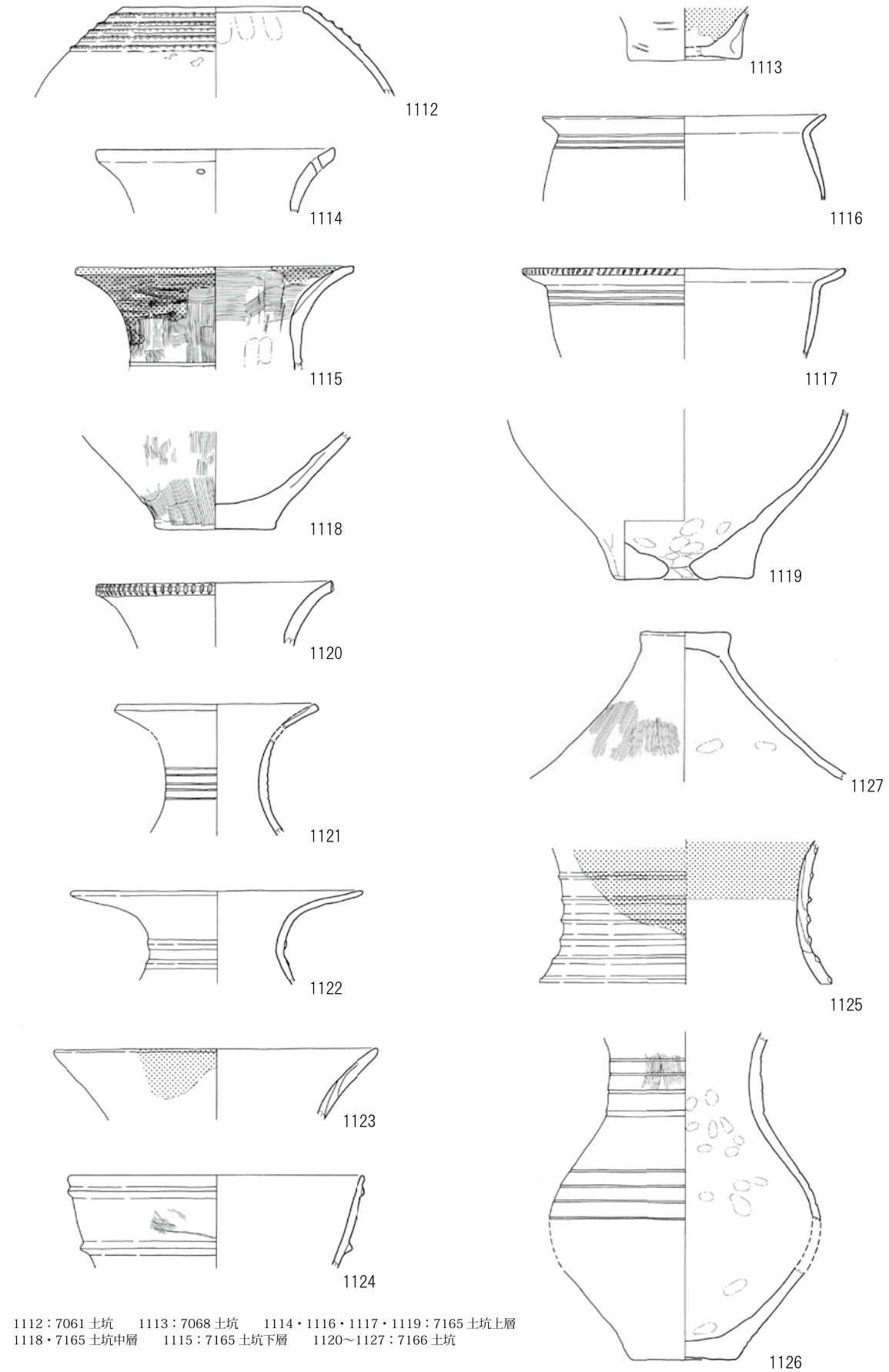
7068 土坑

７区中央で検出した土坑で、竪穴建物１のすぐ北西側にある。長径約 1.8 ｍ、短径約 0.6 ｍ、深さ約 0.3 ｍで、平面形は長楕円形を呈する。埋土は３層に分層でき、中層は炭化物を含み、下層は焼土層が混じり底面が固く締まる。出土遺物から弥生時代後期の遺構とみられる。

7157 土坑

７区南で検出した土坑で、7009 溝の上面に作られている。直径約 0.75 ｍ、深さ約 0.3 ｍで、平面形は円形を呈する。埋土は３層に分層でき、上層・中層には完形の土器を多く出土し、下層は炭化物を含む。遺物は、古式土師器壺・高杯・甕・鉢が出土しており、土坑廃絶に際して一括投棄されたものとみられる。出土遺物から庄内式期前半の遺構とみられる。

1128 ～ 1131 は 7157 土坑から出土した土師器である。1128 は広口壺で、胴が張り、底部は小さい平底である。1129 はタタキ甕で、頸部内面の屈曲がややあまい。1130 は埦形の鉢、1131 は円形透かしをもつ脚台部。



1112：7061 土坑　1113：7068 土坑　1114・1116・1117・1119：7165 土坑上層
1118・7165 土坑中層　1115：7165 土坑下層　1120～1127：7166 土坑

図 165　7 区　弥生時代の遺構出土土器

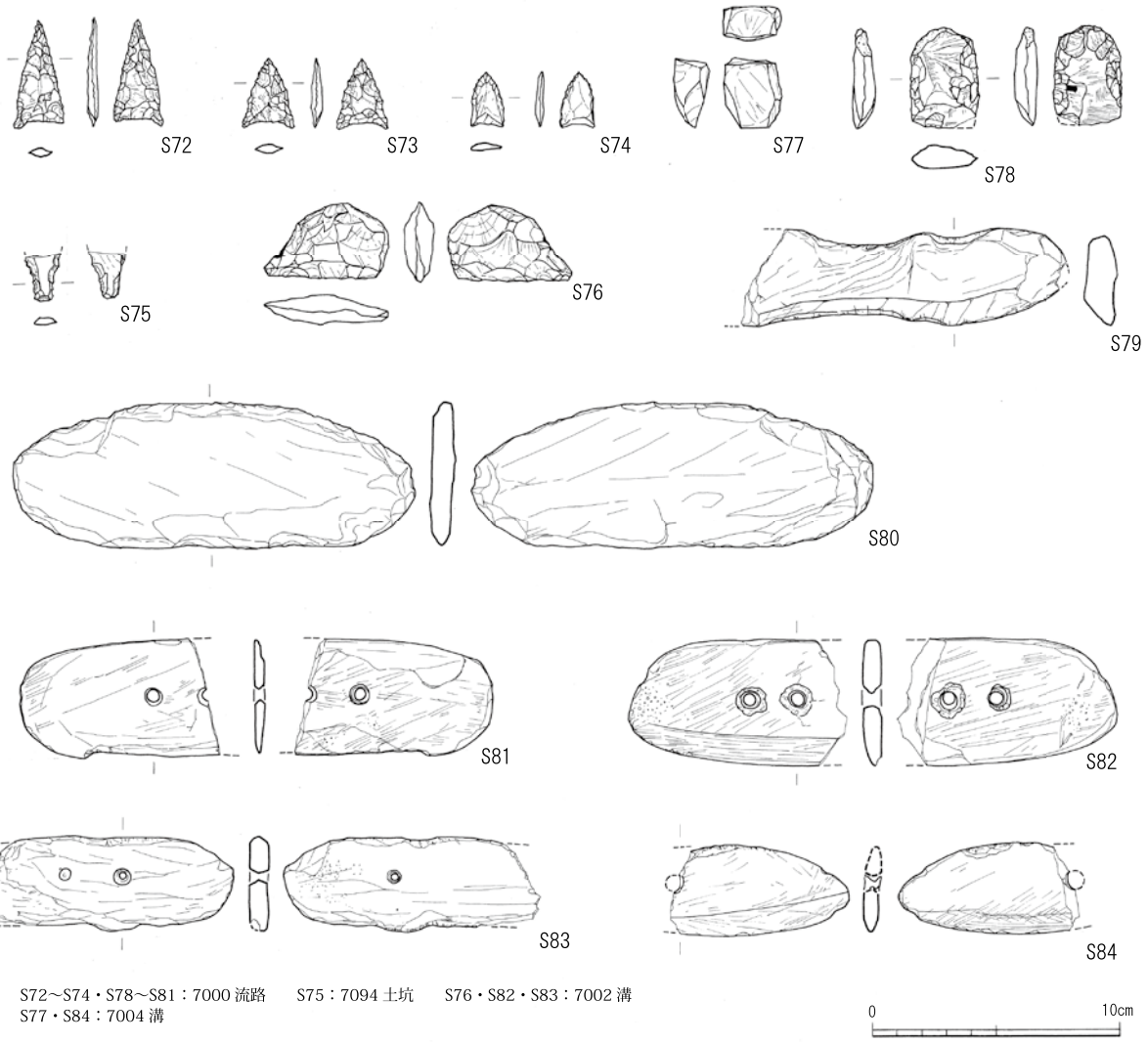


図 166　7 区　打製石器・石包丁（石⑬）

(4)　弥生時代の石器

7 区からは弥生時代の石器が多数（S72 ～ S84）出土した。図示したものを含め、サヌカイト製品・剥片が計 93 点、計 851 ｇ、チャート片が 3 点、7.7 ｇ出土している。

S72 ～ S74 は石鏃。S72･S73 はサヌカイト製であるが､S74 はサヌカイト以外の石材とみられる。S72 は尖頭器とも考えられる縦長のもので､S73 は平均的なもの､S74 は平坦で薄く､各重量は 3.3 ｇ・1.9 ｇ・0.9 ｇ。これらの石鏃は 7000 落ち込みで出土した。

S75 はサヌカイト製の石錐。先端が尖り、基部は欠失している。7094 土坑で出土した。

S76 はサヌカイト製のスクレイパー。5.0 × 3.1 ㎝で、厚さ 1.2 ㎝。7002 溝で出土した。

S77 はサヌカイトの石核。他の剥片より風化が進んでいる。重量 12.6 ｇ。

S78 はサヌカイト製の小型扁平片刃石斧。打製で成形され､部分的に磨製となっている。長さ 4.0 ㎝、幅 2.8 ㎝、厚さ 1.0 ㎝、重量 14.7 ｇ。7000 落ち込みから出土している。

S79 ～ S84 は緑色片岩製の石包丁。S79 は孔がなく細長いが、刃部が付く。S80 は粗割り段階の未成品。16.2 × 5.9 × 0.9 ㎝。189.2 ｇ。S81 は隅丸方形で、半面が薄く剥離し刃部も欠ける。S82・S83 は孔の位置をみると、S82 は短く幅広で、S83 は細長い形状とみられる。S83 は穿孔途中の未成品である。S84 は外湾刃杏仁形を呈する。

３　古墳時代から古代にかけての遺構

遺構の切り合い関係から弥生時代前期以降、鎌倉時代以前と判断されるが、出土遺物が微量であり詳細な年代は不明である。

7012 溝

7012 溝は検出長約 45 m、幅約 0.8 ～ 1.0 m、深さ約 0.1 m。緩やかなU字形を呈し、平行する他の溝よりも浅く、緩やかに蛇行する。埋土も平行する他の溝と異なり、暗灰黄色シルトの単層である。出土遺物は微量であるが古代・中世頃の土器・陶器片が含まれており、宮井用水中溝水路との切り合い関係は不明であるが、その成立に伴い廃絶した溝の可能性も考えられる。

7050・7070・7080 溝

７区中央で検出した分岐する小溝である。７区北から中央部分へと流れ、7050 溝・7070 溝・7080 溝の３本に分岐する。いずれもその延長は検出されておらず、途中で途切れている。遺構の切り合い関係から、弥生時代の溝群より新しく、7013 溝・7032 ～ 7039 溝状遺構より古い遺構である。遺物には、精良な胎土の土師質の土器片が数点含まれることから、古墳時代以降、平安時代以前の遺構と考えられる。

7050 溝は７区北から流れ、７区西で調査区外へと延びる。溝の検出長約 36 m、幅約 0.5 m、深さ約 0.1 ～ 0.15 mで、溝の断面形は緩やかなU字形となる。

7070 溝は途中、7050 溝より分岐し、７区西で調査区外へと延びる。溝の幅約 0.4 m、深さ 0.1 mである。7050 溝・7070 溝はともに浅く、７区から８区にかけては高低差が存在することから、一部、床下げにより削平を受けた可能性がある。

7080 溝は 7050 溝から分岐し、ほぼ直角に向きを変え７

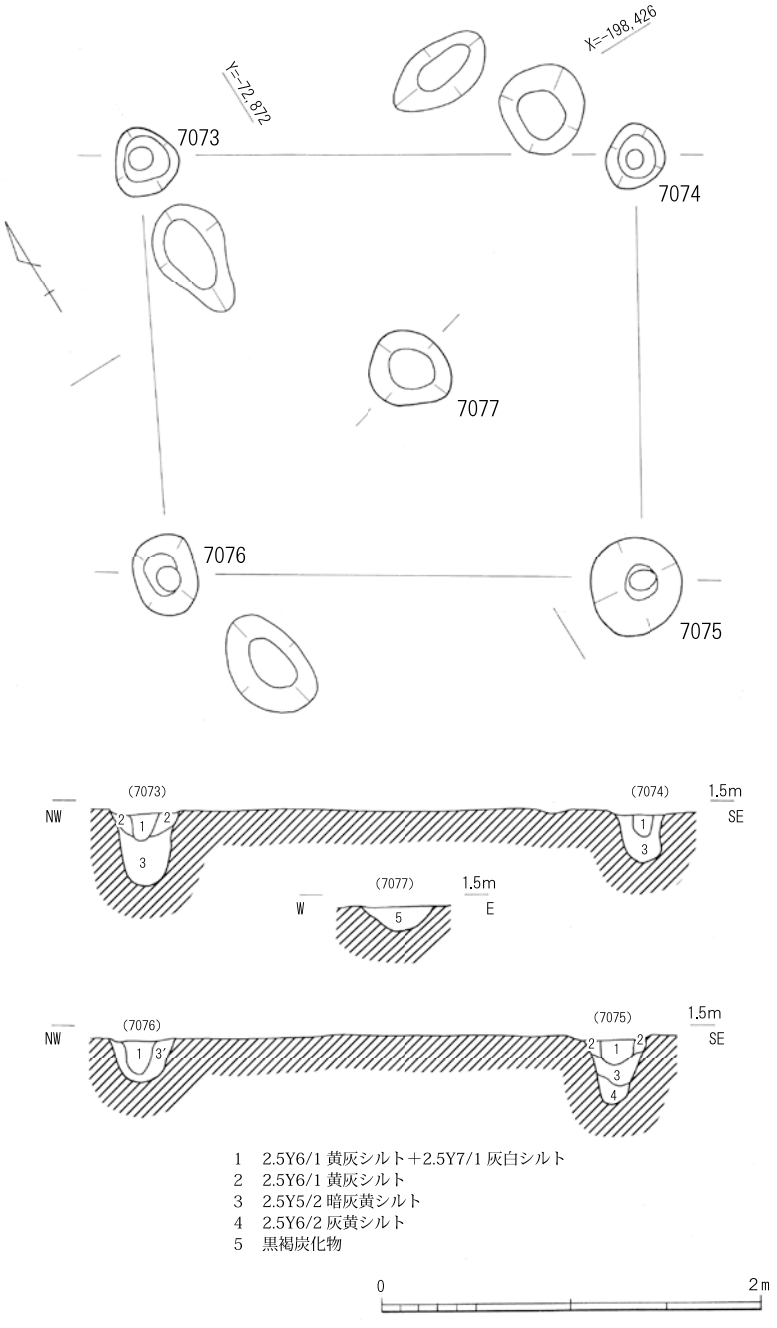


図 167　７区　竪穴建物１の柱穴（S=1：40）

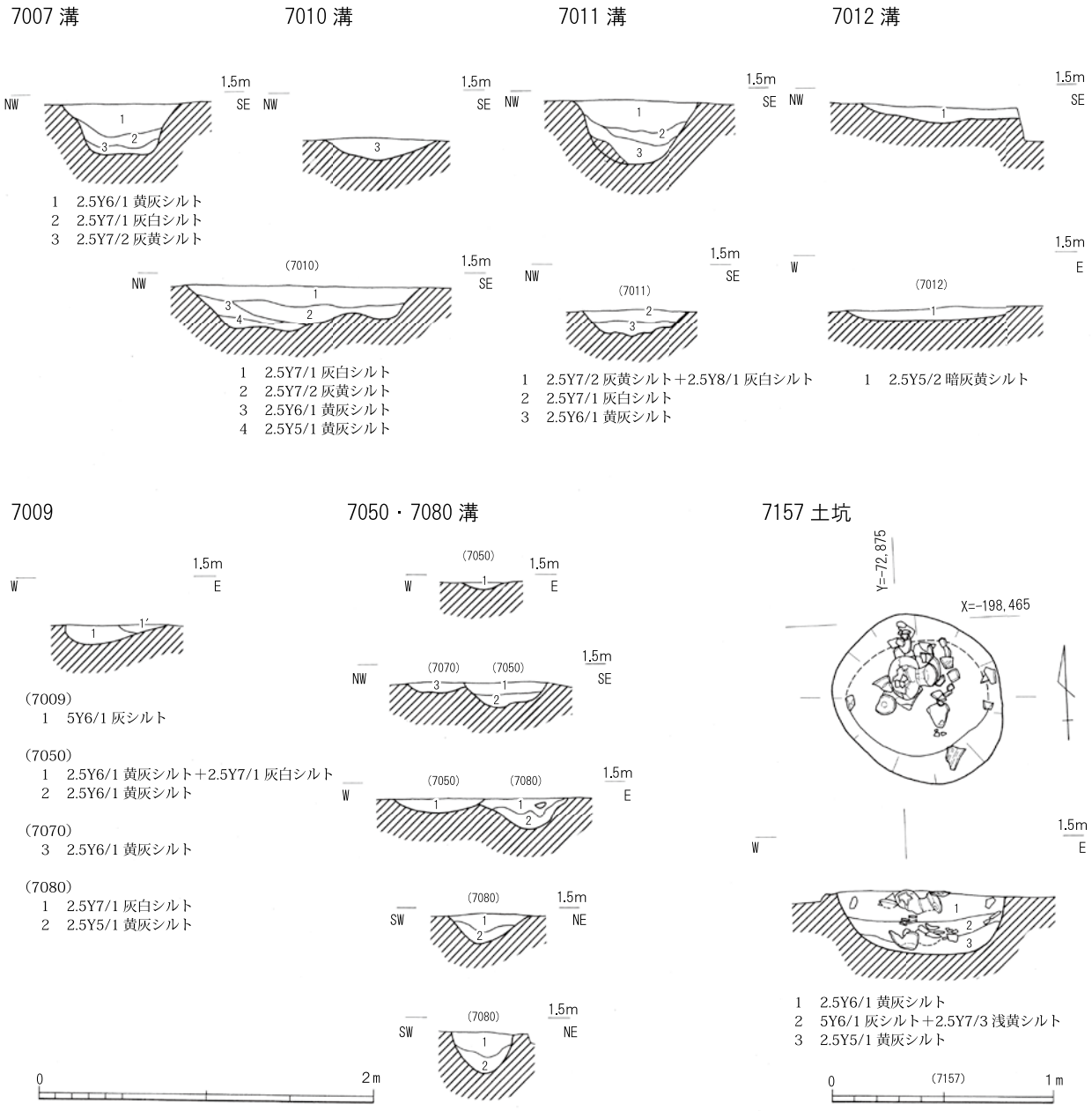


図 168　7 区　古墳時代頃の遺構（S=1：30、1：40）

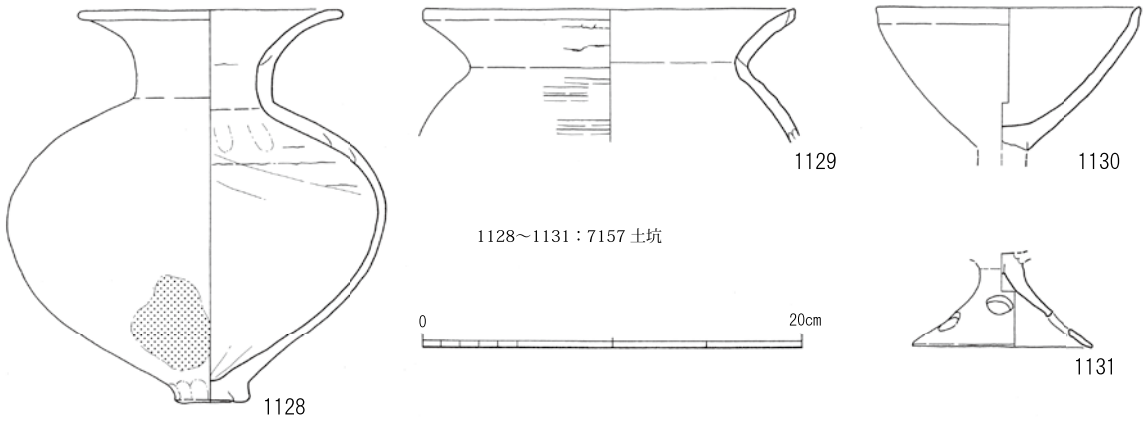
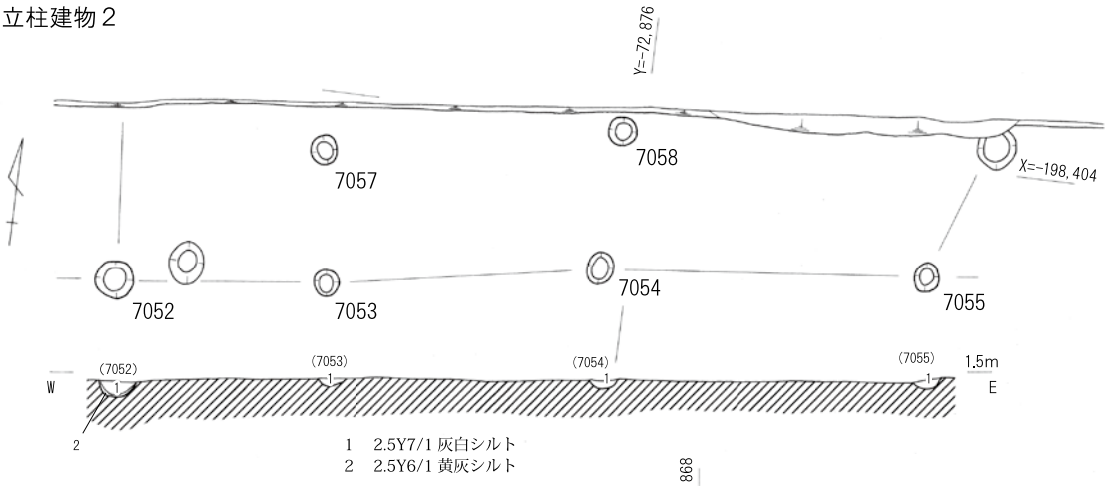


図 169　7 区　7157 土坑出土土器

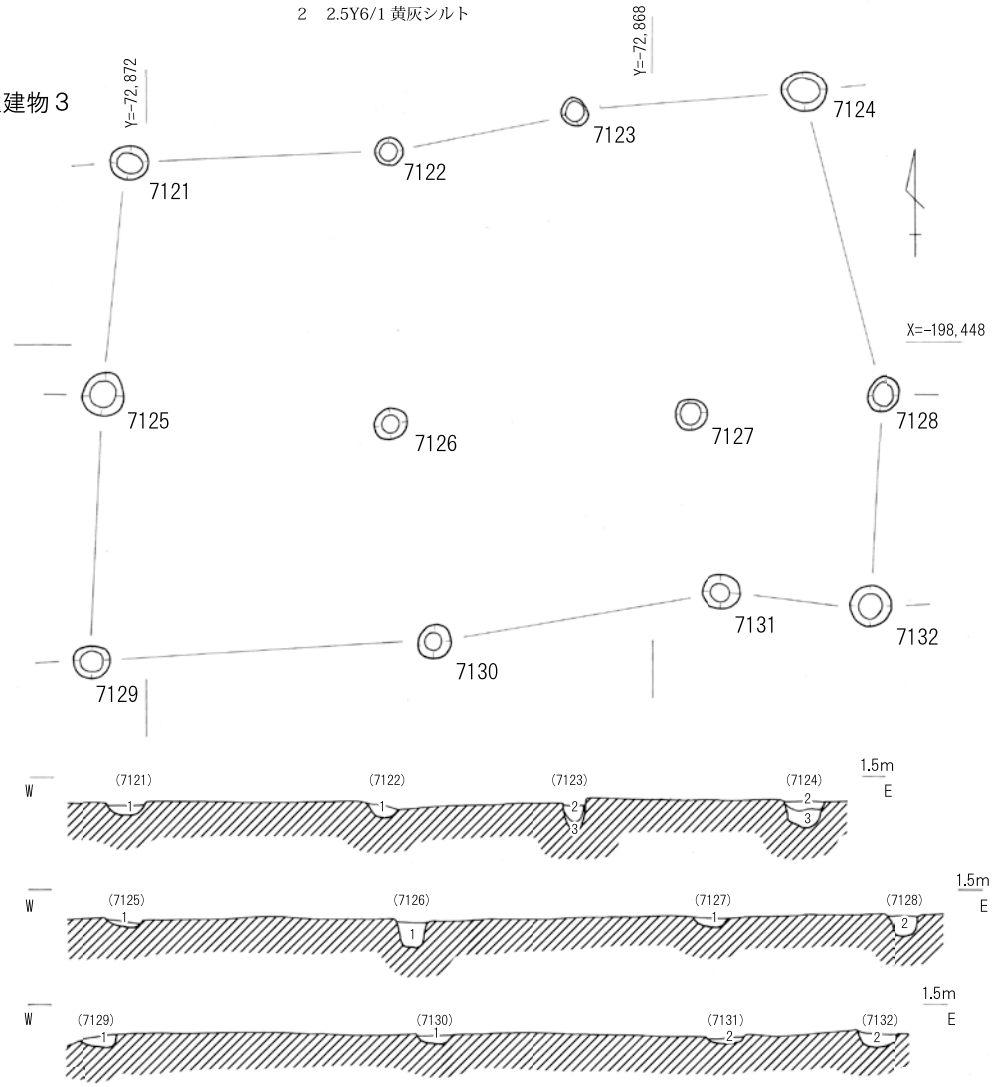
区東へと流れる。途中、溝は途切れて無くなる。溝の検出長約 24 m、幅約 0.6 m、深さ 0.2 ～ 0.3 mで、断面形は緩やかなＶ字またはＵ字形を呈する溝である。

掘立柱建物２



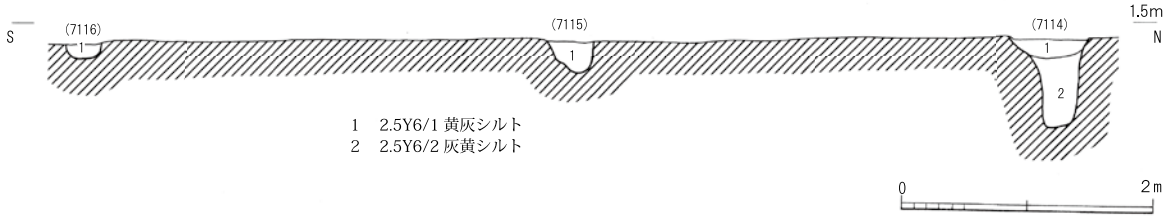
1　2.5Y7/1 灰白シルト
2　2.5Y6/1 黄灰シルト

掘立柱建物３



1　2.5Y6/1 黄灰シルト
2　2.5Y7/1 灰白シルト＋2.5Y8/1 灰白シルト
3　2.5Y7/1 灰白シルト

柱列１



1　2.5Y6/1 黄灰シルト
2　2.5Y6/2 灰黄シルト

図 170　７区　掘立柱建物２・３他（S=1：60）

４　中世～近世の遺構・遺物

(1)　中世の遺構・遺物

7013 溝（＝8013 溝）

7013 溝は宮井用水中溝水路の下層で検出される先行溝の東肩部で、近世の陶磁器（1133 ～ 1135）とともに、瓦器埦の破片（1132）が出土している。より下層の状況が分かる８区の 8013 溝の項でまとめて説明するので参照されたい。

掘立柱建物１（7052 ～ 7058）

７区北東部で検出した掘立柱建物で、６区で検出した掘立柱建物１の南側部分に相当するものと考えられる。今回検出した柱穴はいずれも浅く、柱穴掘形は、直径約 0.2 m、深さ約 0.2 mで、建物の南辺部分と思われる。今回検出した延長部分から、建物の構造は、桁行３間、梁行２間、北面に廂が取りつく。建物の規模は、東西約 7.0 m、南北約 4.5 m、廂を含めると南北約 8.6 mとなる。東西棟であり建物の主軸は北から５度、西へ傾く。建物の時期は６区の柱穴出土遺物から鎌倉時代と考えられる。

掘立柱建物３（7122 ～ 7132）

７区西中央で検出した掘立柱建物である。柱穴掘形は、直径約 0.3 m、深さ約 0.1 ～ 0.15 mを測り、やや浅い。埋土は黄灰色シルト～灰白シルトを呈し、浅い柱穴で１層、深い柱穴で２層に分層できた。建物の構造は、桁行３間、梁行２間に復元できるが、柱間間隔は約 2.0 ～ 1.6 mとまとまりがなく、柱通も不整形である。建物の規模は、東西約 5.4 m、南北約 3.9 mを測り、東西棟である。建物主軸はやや西へ傾くもののほぼ正方位である。柱穴が溝 7080 の上で検出されていることから、掘立柱建物１と同様に鎌倉時代の建物跡と考えると妥当であろう。

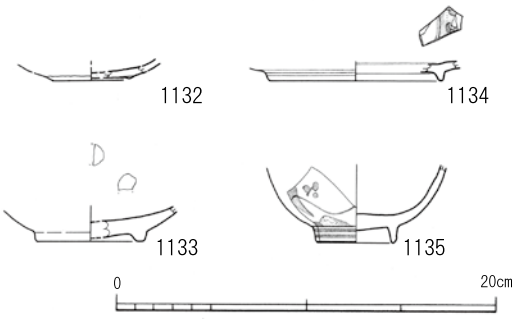


図 171　７区　7013 溝出土土器

7133・7134・7135 土坑

７区南の掘立柱建物３付近で集中して確認された土坑で、7134 と 7135 は 7080 溝の上面に作られている。

いずれも直径約 0.4 ～ 0.5 mで、7133 土坑は深さ 0.15 mである。

7134・7135 土坑は深さ 0.55 mあり、土坑壁面は直立気味に立ち上がる。7135 土坑の下層は炭化物・有機物を含み、ほぼ完形の瓦器椀が出土した（1138）。12 世紀後半の遺物と考えられる。いずれの土坑も同規模で近接し

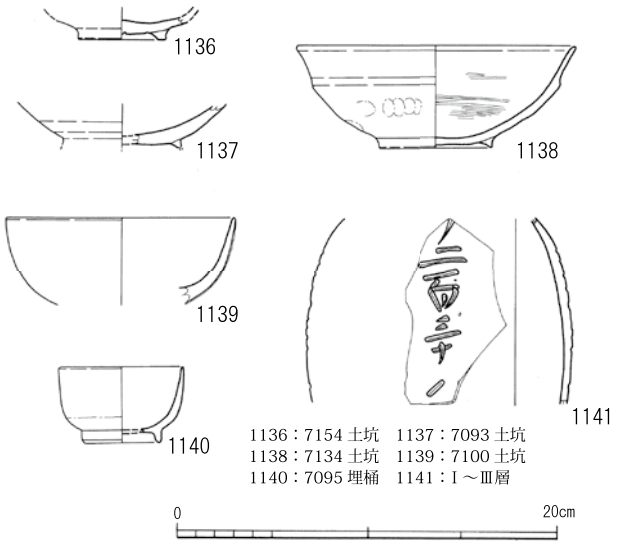


図 172　７区　中世・近世の遺構他出土土器

て存在しており、掘立柱建物３を含めて関連する遺構と推定される。

7153・7154 土坑

７区南端で検出したＬ字形に屈曲する土坑で、東西約 4.5 m、南北約 2.0 m以上。土坑底面では、Ｌ字形に一段深く掘り込まれた 7154 土坑が存在する。土師器埦（1136）が出土しており、平安時代末ないしそれに近い年代の遺構と考えられる。

(2)　近世の遺構・遺物

7095 埋桶

７区西中央で検出した埋桶と考えられる遺構で、底面に結桶が残存する。直径約 1.6 m、深さ約 0.55 mで、平面形は円形を呈する。埋土は灰黄色シルト～灰白色シルトからなり、ブロック状に混じりあう。明黄褐色シルトを側面に貼り付け掘形を埋め、その後、結桶を据え付けたものとみられる。近世末の施釉陶器小埦（1140）が出土している。

7100 井戸

７区南西で検出した井戸で、7013 溝上面に作られている。遺構の規模は、直径約 1.4 m、深さ約 0.4 mで、平面形は円形を呈する。埋土は浅黄色シルト～灰白色シルトからなる。出土遺物から、江戸時代のものとみられる。

7030 土坑

７区北端で検出した大型の土坑で、7000 落ち込み上面に掘られている。南北約 3.2 m、東西約 3.4 mで、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。土坑断面形は西側が緩やかに立ち上がり、東側は直立する。埋土はおおむね３層に分層され、にぶい黄色細砂、灰黄色細砂、暗灰黄色細砂からなる。いずれの層にも、直径５～ 10 ㎝大の黄灰色または灰白シルトブロック、マンガンを多

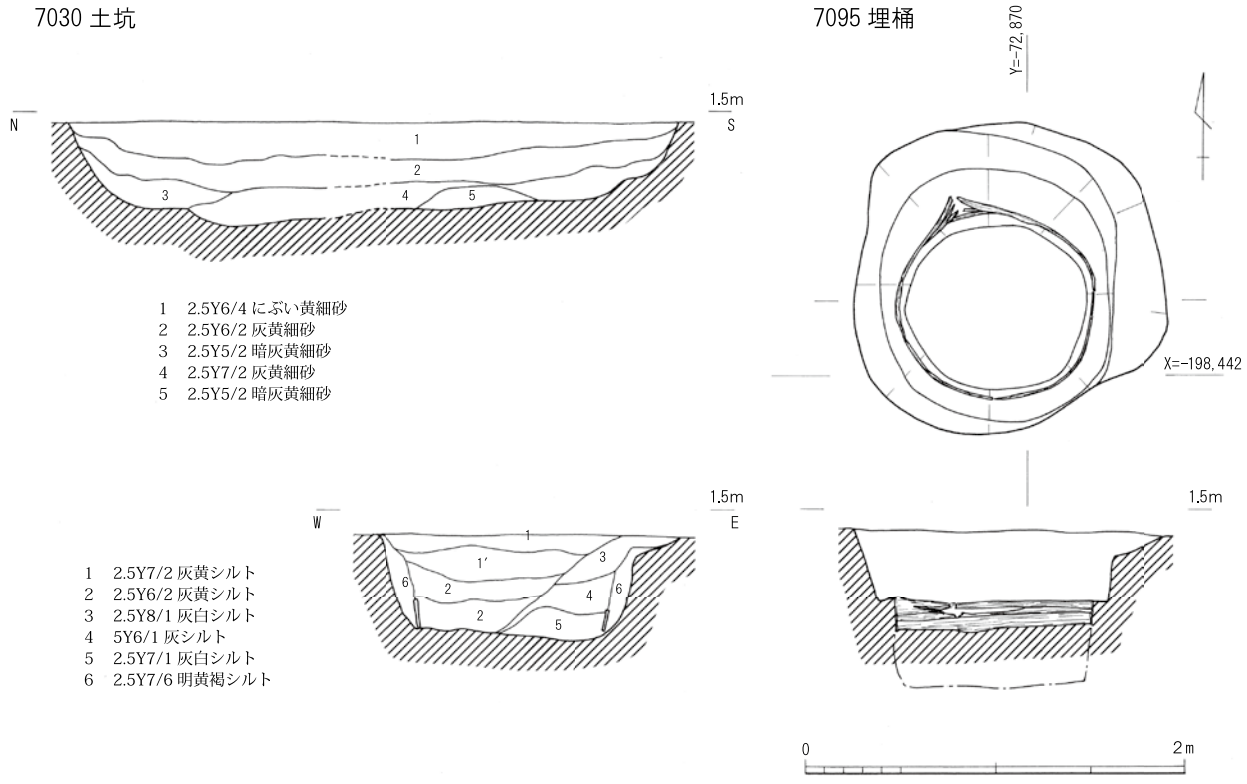


図 173　７区　近世の遺構（S=1：40）

く含む。これらのシルトブロックは、土坑掘削時のもので、落ち込み埋土を起源とし、比較的短期間に埋没したものとみられる。土坑の性格については不明であるが土取り穴の可能性もある。出土遺物には弥生土器片が多く存在するがこれらは落ち込みの遺物が混入したと思われる。出土した近世陶磁器より江戸時代の遺構と考えられる。

溝状遺構１（7032 ～ 7039）

７区北から南にかけて、途切れながらも調査区を縦断するように検出した。いずれの溝状遺構も検出長約 6.0 ～ 8.0 m、幅約 0.3 m、深さ約 0.2 mの溝状の遺構で、埋土が特徴的な灰白色シルト～粘土であるため一連の溝と考えられる。６区でその延長部分を検出しており、溝状遺構の方向は、水田区画に残る条里型地割に対応する。調査前現況で確認できた水田境界に対応する位置に存在することから、境界溝または、坪境溝と考えられる。遺物等の出土は皆無であるが、中世以降の遺構と考えられる。

(4)　近世の木製品

W10 は 7100 溝、ないし下層の 7013 溝から出土した杭であるが、上層から打ち込まれたような状態で出土しており、遺構に伴うものではなく、新しいものの可能性が強い。7100 溝の現在の状態に縮小された時期と関連する可能性もあるので、参考までに掲載する。

W11 は 7095 溝から出土した結桶の側板である。高さ 14.3 ㎝、幅 7.7 ㎝で、厚さ 1.8 ㎝。板の中央に孔をあけている。

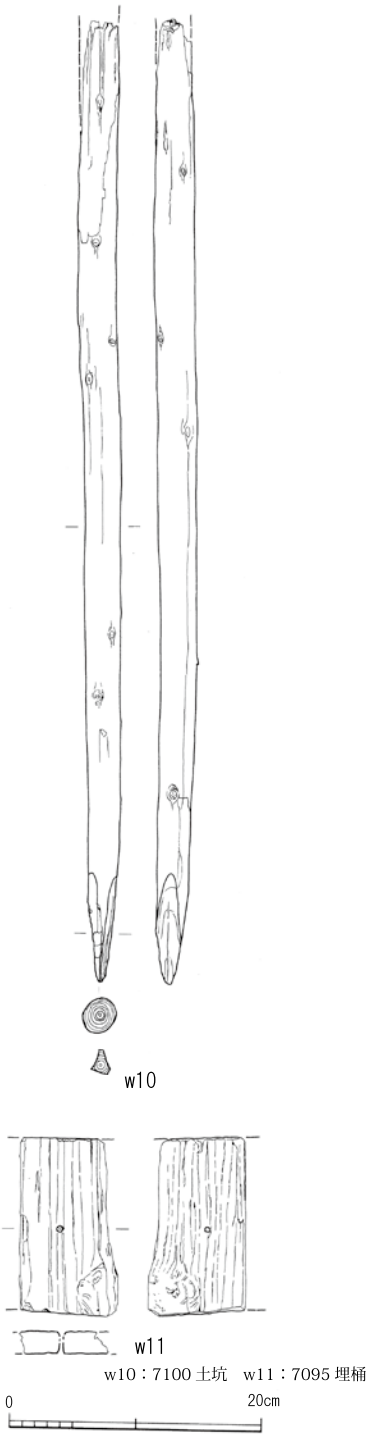


図 174　７区　近世の木製品（木③）

第８節　８区の調査

１　概要

８区は、調査対象地の南端のうち宮井用水中溝水路を挟んだ西側にあたる。東西幅５～９ｍ、南北長さ約 66 ｍで、調査区面積 372 ㎡である。

調査前は水田である。調査は７区と同時に行い、両地区に渡る溝が多数検出されている。これらの溝については７区に詳しいが、宮井用水中溝水路の下層溝（7013-8013 溝）については、８区の方が若干下層に近い部分を掘削し、溝の成立期とみられる遺物が出土しているため 8013 溝に詳述した。

８区では７区同様､弥生時代から近世まで多数の溝が流れている。これらの溝や掘立柱建物跡、柵などでは、出土遺物も少なく、年代は判然としない。出土遺物は計 11 箱で、弥生土器のほか、陶磁器片が散見される。

２　弥生時代の遺構・遺物

(1)　弥生時代前期～中期の流路・溝・落ち込み

８区では、７区から続く落ち込みと流路が検出された。８区の 8000 落ち込みと７区の 7000 落ち込、８区の 8001・8002・8004 溝と７区の 7001・7002・7004 溝が同一の遺構と考えられる。８区の 8006 ～ 8011 溝と７区の 7007・7009 ～ 7011 溝の対応関係はやや曖昧である。

8000 落ち込み・下層流路（7000・8000）

8000 落ち込み・流路は、下層流路と上層の落ち込みの２時期に分けられる遺構である。

8000 下層流路として認識されるものは、図 175 の８区西壁土層のℓ５・ℓ６層にあたる幅 10m 前後の流路であり、深さ約 0.3 ｍの場所と、そこから深く落ちる幅５ｍほどの部分から成っている。8000 下層流路を埋める堆積は８区全体に堆積するものとみられ（Ⅴ′層）、当調査後に隣接する井辺遺跡で縄文時代晩期の遺構が初めて確認されたことから､今後注意が必要な堆積である。

明確に土器が出土している 8000 落ち込みはℓ１～ℓ４層にあたるもので、8000 下層流路の上に形成される落ち込みとして評価される｡下層に灰色礫混じり粗砂と黄灰色シルトが堆積しており、８区中央で、8000 落ち込みの下を 8002 溝が通過する状況を確認した。

出土遺物は一定量あるが、摩耗の著しい弥生土器小片ばかりである。7000 落ち込みで出土した土器の細片とみなして問題ない。

8001 溝（＝ 7001 溝）

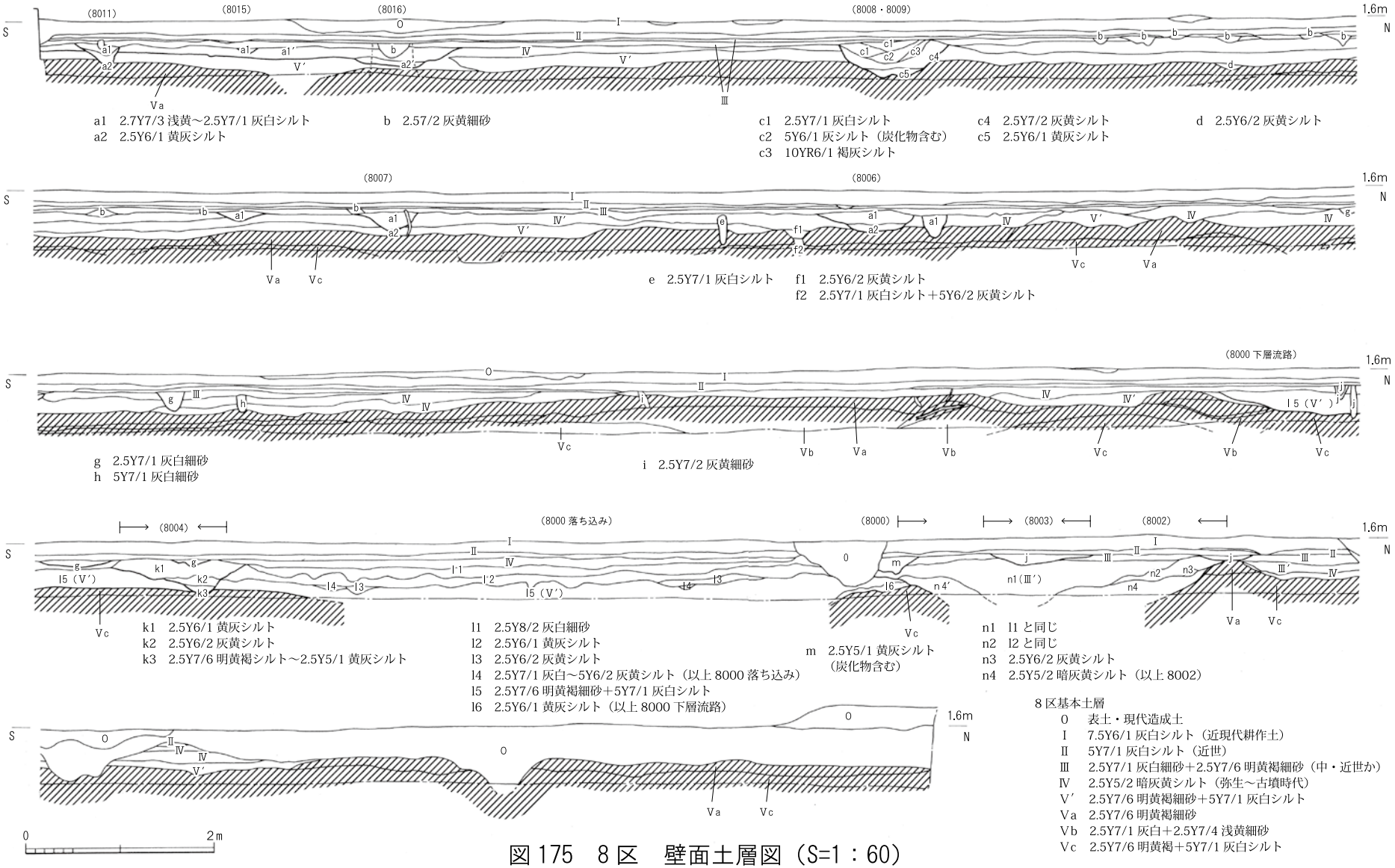
８区北部を北東から南西方向に流れる幅 0.7 ｍ、深さ 0.2 ｍの溝である。8000 落ち込みの上面で検出しており、上流部は７区の 7001 溝にあたるものと考えられる。

出土遺物は少ないが、壺の口縁部ないし脚部と考えられる弥生土器片（1156）が出土しており、7001 溝同様に弥生時代中期中葉の溝と考えられる。

8002 溝（＝ 7002 溝）

８区中央で検出した北西から南東に流れる幅約 3.1 ｍ、深さ約 0.4 ｍの溝である。上流部は７区の 7002 溝にあたるものと考えられる。出土土器は弥生時代前期新段階とみられ、最下層の遺物の一部は前期中段階にさかのぼる可能性がある。溝の中からは木製品（W12）が出土したほか、８区東壁の土層断面では埋土中に粘土ブロックが多数確認されている。地形に逆らって流れる大

8区西壁



a1　2.7Y7/3 浅黄～2.5Y7/1 灰白シルト
a2　2.5Y6/1 黄灰シルト
b　2.57/2 灰黄細砂
c1　2.5Y7/1 灰白シルト
c2　5Y6/1 灰シルト（炭化物含む）
c3　10YR6/1 褐灰シルト
c4　2.5Y7/2 灰黄シルト
c5　2.5Y6/1 黄灰シルト
d　2.5Y6/2 灰黄シルト
e　2.5Y7/1 灰白シルト
f1　2.5Y6/2 灰黄シルト
f2　2.5Y7/1 灰白シルト＋5Y6/2 灰黄シルト
g　2.5Y7/1 灰白細砂
h　5Y7/1 灰白細砂
i　2.5Y7/2 灰黄細砂
k1　2.5Y6/1 黄灰シルト
k2　2.5Y6/2 灰黄シルト
k3　2.5Y7/6 明黄褐シルト～2.5Y5/1 黄灰シルト
l1　2.5Y8/2 灰白細砂
l2　2.5Y6/1 黄灰シルト
l3　2.5Y6/2 灰黄シルト
l4　2.5Y7/1 灰白～5Y6/2 灰黄シルト（以上 8000 落ち込み）
l5　2.5Y7/6 明黄褐細砂＋5Y7/1 灰白シルト
l6　2.5Y6/1 黄灰シルト（以上 8000 下層流路）
m　2.5Y5/1 黄灰シルト（炭化物含む）
n1　l1 と同じ
n2　l2 と同じ
n3　2.5Y6/2 灰黄シルト
n4　2.5Y5/2 暗灰黄シルト（以上 8002）

8区基本土層
0　表土・現代造成土
Ⅰ　7.5Y6/1 灰白シルト（近現代耕作土）
Ⅱ　5Y7/1 灰白シルト（近世）
Ⅲ　2.5Y7/1 灰白細砂＋2.5Y7/6 明黄褐細砂（中・近世か）
Ⅳ　2.5Y5/2 暗灰黄シルト（弥生～古墳時代）
Ⅴ′　2.5Y7/6 明黄褐細砂＋5Y7/1 灰白シルト
Va　2.5Y7/6 明黄褐細砂
Vb　2.5Y7/1 灰白＋2.5Y7/4 浅黄細砂
Vc　2.5Y7/6 明黄褐＋5Y7/1 灰白シルト

図 175　8区　壁面土層図（S=1：60）

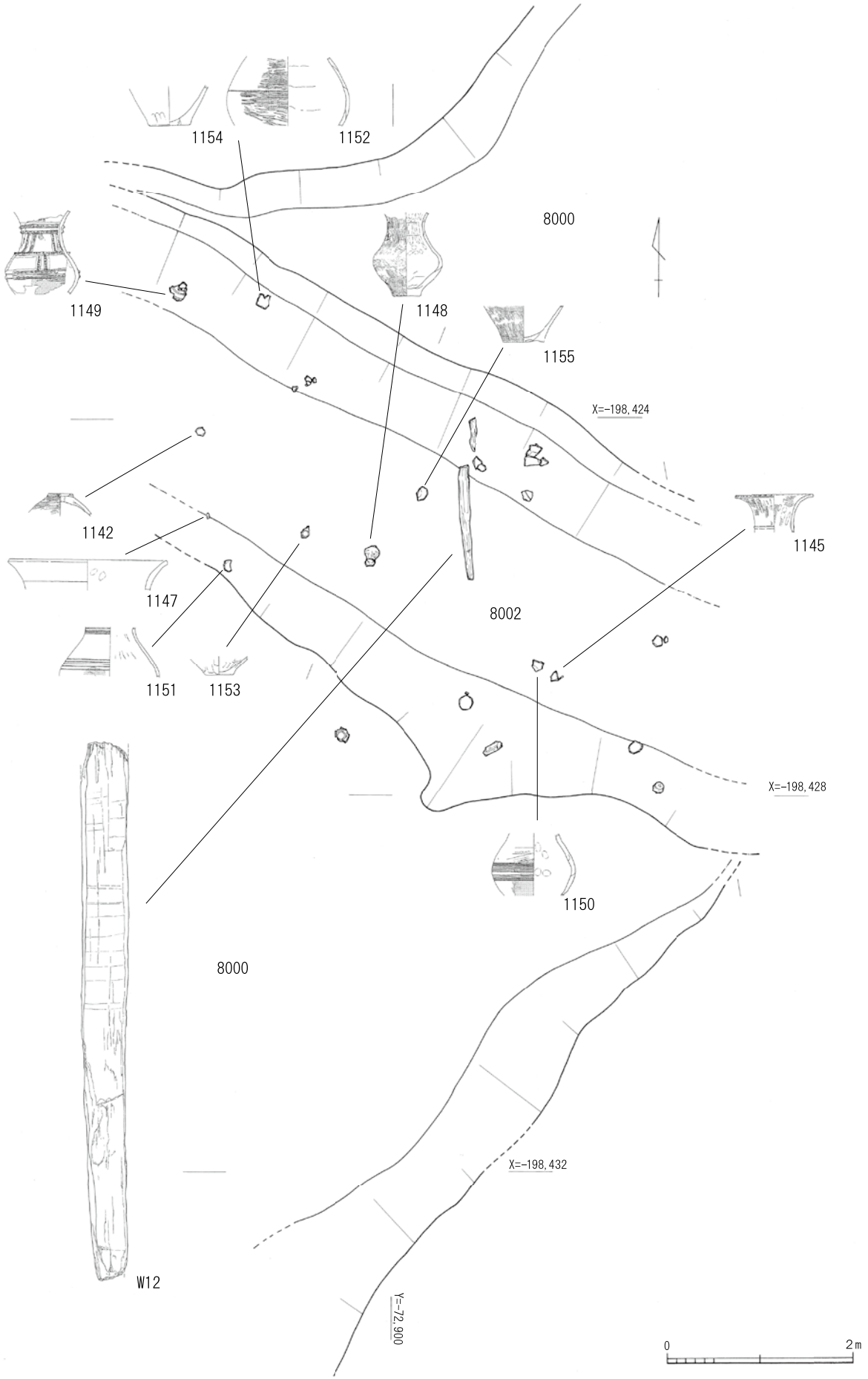


図 176　8 区　8000 落ち込み・8002 溝遺物出土状況（S=1：60）

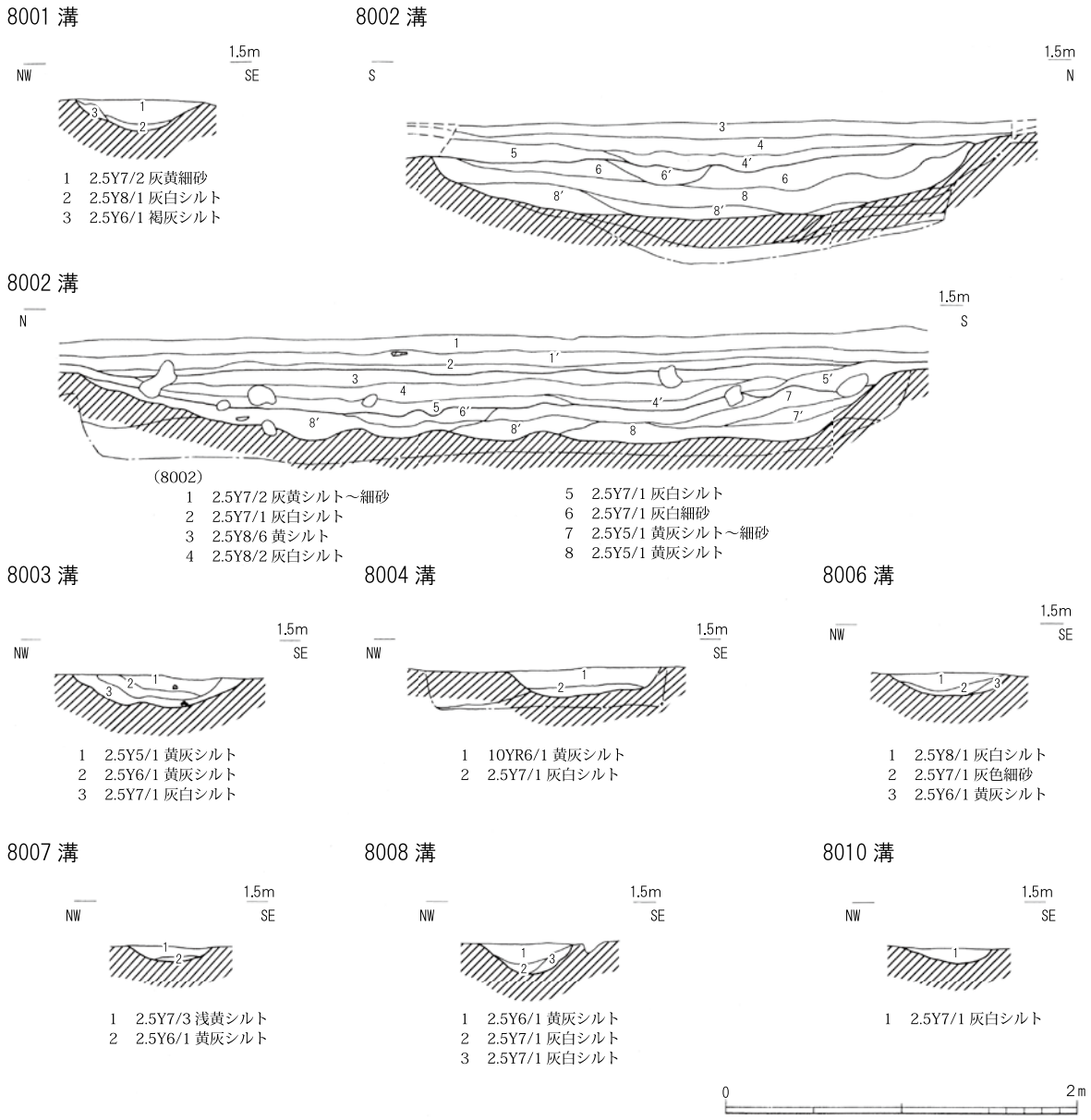


図 177　8 区　弥生～古墳時代の溝（S=1：40）

型の溝であることから、この地を潤した基幹的な用水路である可能性がある。

1144 ～ 1155 は 8002 溝から出土した弥生土器である。1142 は壺の蓋。外面にミガキ調整を行う。1143 ～ 1147 は広口壺の口縁部。1143 は無文で、1144 は口縁内側に突帯を貼り付けて刻む。頸部には２条の沈線を施す。1145 は口縁部上を刻み、頸部に低い突帯をもつ。1146 は口縁部内面に２条の低い突帯を貼り付け、その内側に粘土を円錐形の粘土を貼りつけている。1147 は厚手の口縁部の破片。

1148 ～ 1152 は壺の体部。1148・1149 の体部は扁球形で、頸部下半がやや直線的に伸びて狭まり、若干頸部の長い広口壺となる。1148 は外面ハケ調整で、口縁部は意図的に打ち欠いた可能性もある。1149 は頸部から体部にかけて、刻み目を施した隆帯（突帯）を縦横に貼り付け、２段に区画する。隆帯のはがれた場所では隆帯位置の下書き線とみられるヘラ描き沈線が確認される。なお隆替は基本的に２本一対であるが、１本になっている場所が散見される。胎土分析では片岩が含まれており、他地域の影響のみられる在地生産品と考えられる。1150 は体部最大径付

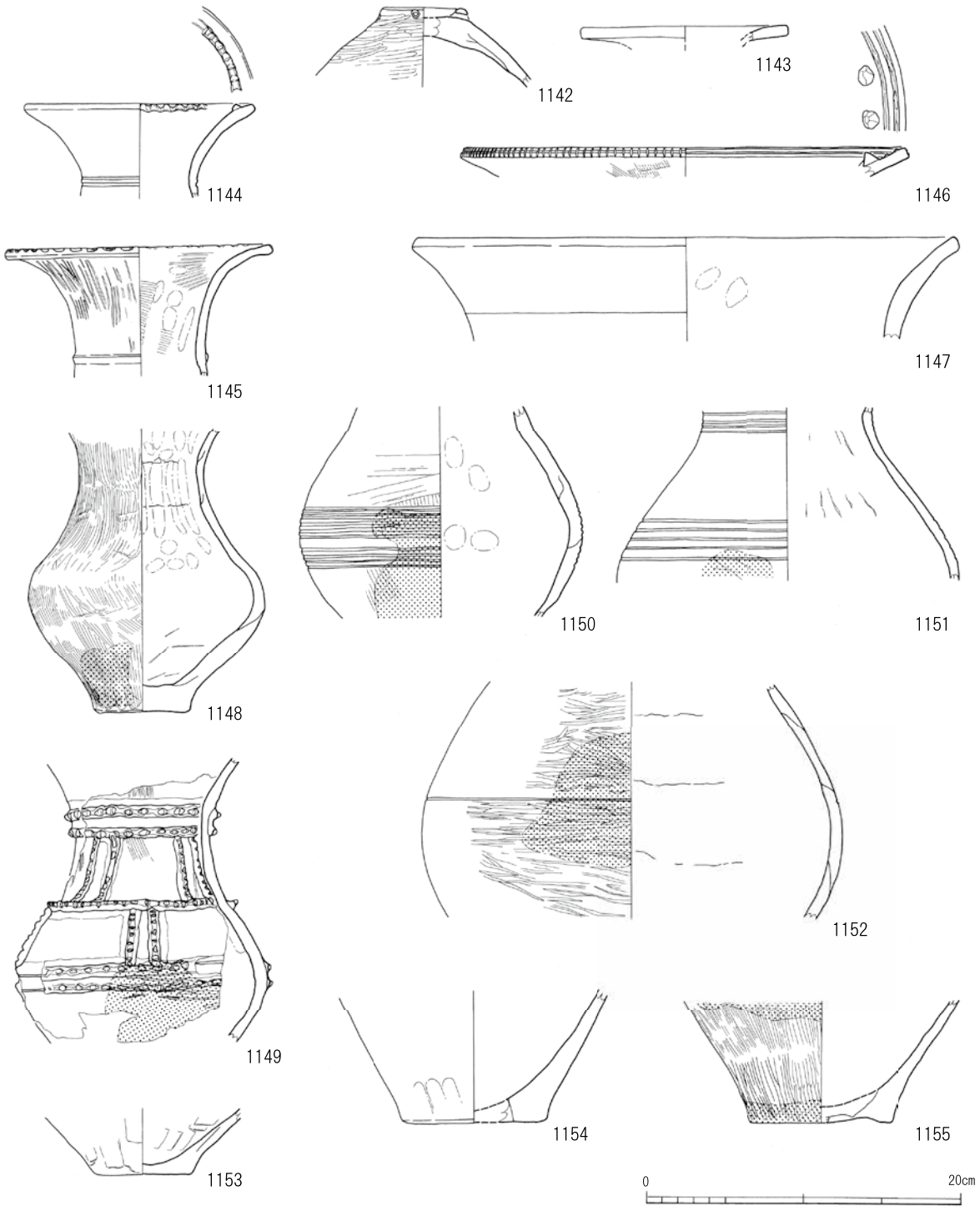


図 178　8 区　8002 溝出土土器

近に、多条のヘラ描き沈線を施す。1151 は頸部と肩部に４～５条程度の間隔のあいたヘラ描き沈線を施す。1152 は外面ミガキ調整で、肩部をヘラ描き沈線で区切る。1153 ～ 1155 は平底の底部。1142・1145・1146・1148・1152・1153 が最下層、その他が下層から出土している。

8004 溝（＝ 7004 溝か）

８区北部で検出した幅 0.4 ～ 1.0 m、深さ 0.10 ～ 0.2 mの溝である。溝の東側は不安定で曲っているが、上流部は 7004 溝と推定される。出土遺物は微量であるが、弥生時代のタタキ甕片が出土しており、7004 溝と同様に弥生時代後期ないしは庄内式期の遺構と考えられる。

(2)　弥生時代の木製品

W12 は 8002 溝から出土した木製品。残存長 117 ㎝、幅 10 ㎝、厚 5.7 ㎝。厚手で、片面を粗く平坦に加工している。流路内から単独で出土しているので、流路幅の狭い場所にかけられた橋であった可能性などが考えられる。

(3)　条理制施行前の遺構

遺構の切り合い関係から弥生時代中期の溝群より新しく、鎌倉時代の宮井用水下層溝（8013 溝）より古い年代の溝などが多数検出されている。出土遺物はほとんどなく、詳細な年代は不詳である。

8006 溝

８区中央部、8007 ～ 8011 溝より北をほぼ平行して流れる溝である。幅 0.7 ｍ、深さ 0.15 ｍで、瓦器片が出土する。溝の東端は宮井用水先行溝（8013 溝）に切られており、条理型地割に沿った用水路が整備される直前期の溝と推定される。上流部は７区掘立柱建物３の北側約６ｍを東西に流れる溝に対応する可能性が考えられる。溝の廃絶年代は 13 世紀で、8013 溝の成立年代と同時期と推定される。

8007 ～ 8011 溝

８区南半で検出した北東から南西へ流れる溝群である。溝からの出土遺物は少なく、遺物の年代も様々であり、遺構の年代特定は難しい。これらの溝は幅 0.4 ～ 0.5 ｍ、深さ 0.1 ～ 0.2 ｍで黄灰～灰白シルトで埋まる。７区の溝との対応は、8007 溝と 7007 溝、8008・8009 溝と 7010 溝、8010・8011 溝と 7011 溝と推定される。8008 溝からは弥生時代中期の櫛描き扇形文のある土器片が出土し、8011 からは弥生時代後期から庄内式期のものと考えられるタタキ甕片が出土している。

柵列２（8027 ～ 8032 柱穴）

８区南、8013 溝の底面で検出した柵列である。ピットは直径 0.2 ｍ、深さ 0.15 ～ 0.2 ｍである。埋土は灰白色シルトからなり、中央部分には、やや粘性のある灰白シルトが存在し、杭痕跡とみられる。柵列の規模は南北約 6.6 ｍである。ピットの間隔は芯々で約 1.0 ～ 1.6 ｍを測る。出土遺物は見られないが 8013 溝に先行し、鎌倉時代以前の遺構とみられる。



図 179　８区　8002 溝出土木製品（木④）

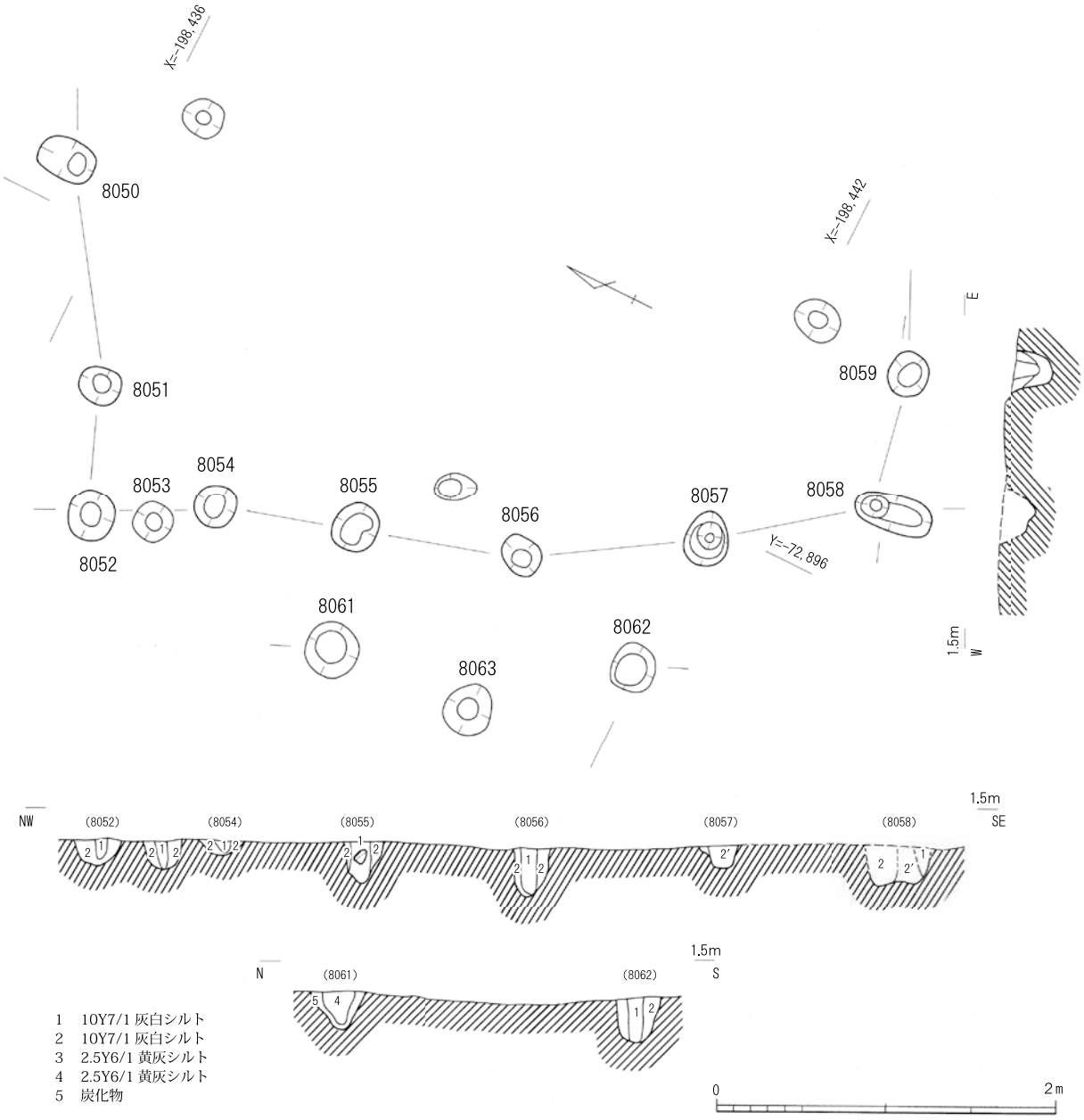


図 180　8 区　掘立柱建物 1（S=1：40）

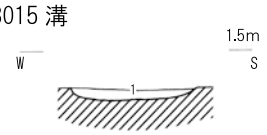
8048 土坑

8 区中央、8013 溝の底面で検出した。方形土坑の南辺に突出部があり、中央には柱痕跡と思われるピットが存在する。掘立柱建物の柱穴と考えられるが、このほかに対応する柱穴は存在しない。

掘立柱建物 2（8050 ～ 8063 柱穴）

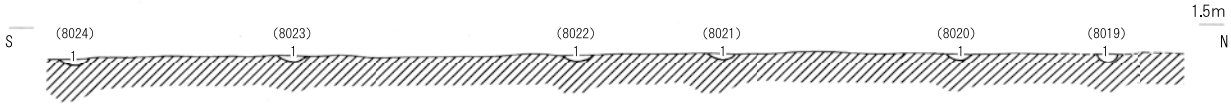
8 区中央で検出した掘立柱建物で、東半部は調査区外となる。8013 溝に先行する。柱穴は、直径約 0.26 ～ 0.28 m、深さ約 0.3 m。建物の構造は南北 5 間、東西 2 間以上に復元できるが、柱間間隔は芯々で約 1.0 mと狭く、柱通も不整形である。建物の規模は、南北約 4.75 m、東西約 2.0 m以上である。掘立柱建物 2 の西側には、建物に並行して並ぶ柱穴 2 基と、炭化物が充填されたピットが存在し、建物に付属するものと思われる。側柱建物で、地形に沿って建てられており、他の掘立柱建物とは異なる傾向をもつ。出土遺物はほとんどないが、精良な土師質の土器片が確認され古墳時代頃の建物と推定される。

8015 溝

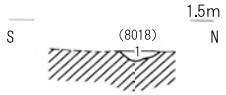


1　2.5Y7/2 灰黄シルト

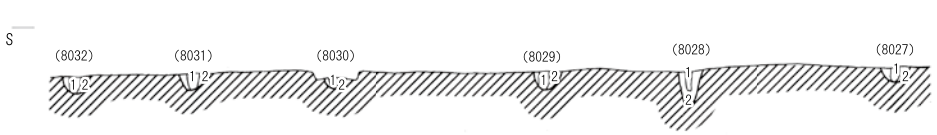
ピット列



(8018～8024)
1　10Y6/1 灰細砂

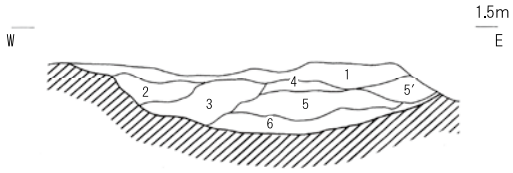


柱列



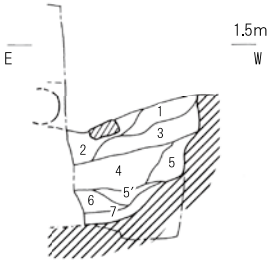
(8027～8032)
1　2.5Y7/1 灰白シルト
2　2.5Y7/1 灰白シルト

8036 土坑



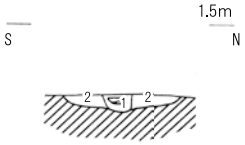
1　10Y6/1 灰細砂
2　2.5Y7/4 浅黄シルト
3　2.5Y6/1 黄灰シルト
4　2.5Y7/1 灰白シルト
5　2.5Y8/4 淡黄シルト
6　2.5Y7/3 浅黄シルト

8047 土坑



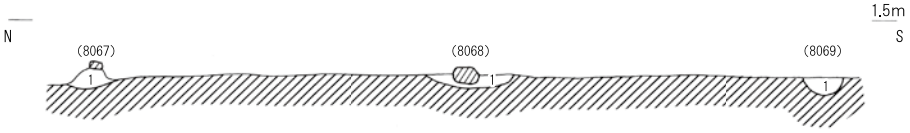
1　2.5Y7/1 灰白細砂
2　2.5Y8/4 浅黄シルト
3　5Y6/1 灰中砂
4　2.5GY7/1 明オリーブ灰シルト
5　2.5Y7/4 浅黄シルト
6　2.5GY7/1 明オリーブ灰シルト
7　2.5GY6/1 浅黄シルト

8048 柱穴



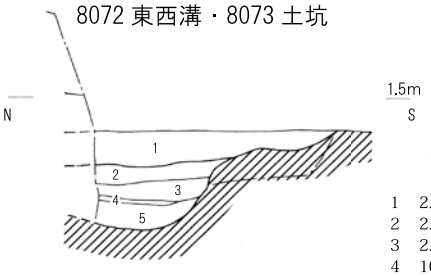
(8048)
1　2.5Y8/1 灰白シルト
2　2.5Y7/1 灰白シルト

柱列（礎石か礎板あり）



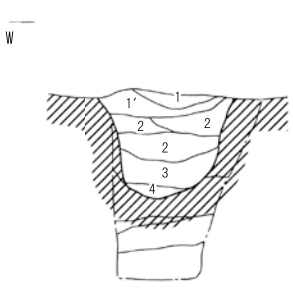
(8067・8068・8069)
1　5Y7/1 灰シルト

8072 東西溝・8073 土坑



1　2.5Y8/3 浅黄シルト（8072）
2　2.5Y8/2 灰白シルト
3　2.5Y7/1 灰白シルト
4　10YR6/6 明黄褐細砂
5　5Y6/1 灰シルト（以上 8073）

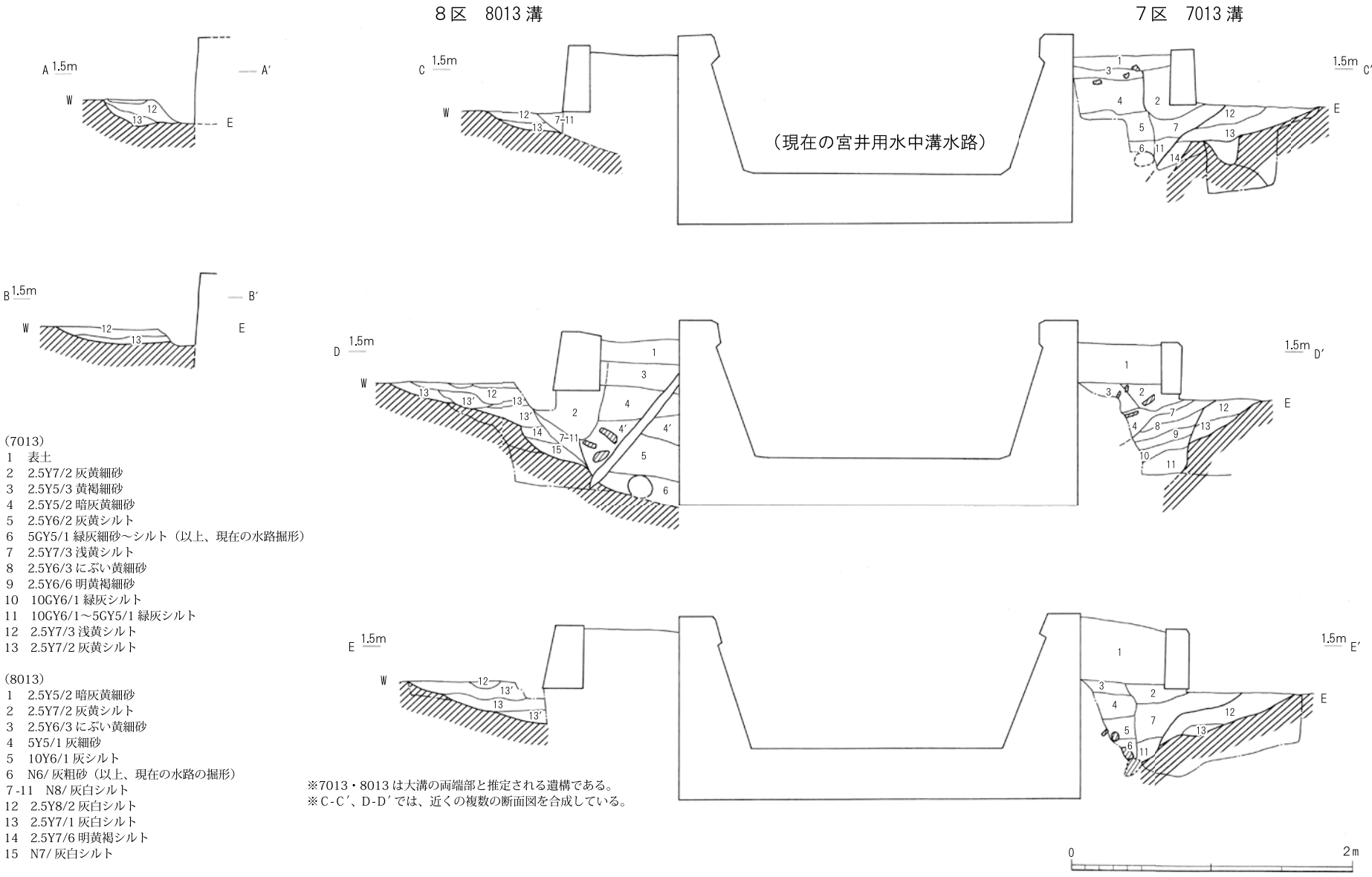
8074 土坑



1　2.5Y7/1 灰白シルト
2　2.5Y7/1 灰白シルト
3　5Y6/1 灰シルト
4　2.5GY6/1 オリーブ灰シルト



図 181　8 区　中世～近世の遺構（S=1：40）



（7013）
1　表土
2　2.5Y7/2 灰黄細砂
3　2.5Y5/3 黄褐細砂
4　2.5Y5/2 暗灰黄細砂
5　2.5Y6/2 灰黄シルト
6　5GY5/1 緑灰細砂～シルト（以上、現在の水路掘形）
7　2.5Y7/3 浅黄シルト
8　2.5Y6/3 にぶい黄細砂
9　2.5Y6/6 明黄褐細砂
10　10GY6/1 緑灰シルト
11　10GY6/1～5GY5/1 緑灰シルト
12　2.5Y7/3 浅黄シルト
13　2.5Y7/2 灰黄シルト

（8013）
1　2.5Y5/2 暗灰黄細砂
2　2.5Y7/2 灰黄シルト
3　2.5Y6/3 にぶい黄細砂
4　5Y5/1 灰細砂
5　10Y6/1 灰シルト
6　N6/ 灰粗砂（以上、現在の水路の掘形）
7-11　N8/ 灰白シルト
12　2.5Y8/2 灰白シルト
13　2.5Y7/1 灰白シルト
14　2.5Y7/6 明黄褐シルト
15　N7/ 灰白シルト

※7013・8013は大溝の両端部と推定される遺構である。
※C-C′、D-D′では、近くの複数の断面図を合成している。

図182　7・8区　7013・8013南北溝断面模式図（S=1：40）

柱列（8067 ～ 8069 柱穴）

８区中央東側、8013 溝の底で検出した柱穴列。8067 柱穴と 8068 柱穴内には礎石か礎板とみられる石が据えられている。

8073・8074 井戸

８区北端を流れる宮井用水中溝水路先行溝の分流とみられる 8072 東西溝の底で検出した径 0.7 ｍの井戸、または水溜めと考えられる遺構である。

8073 井戸は深さ約 0.35 ｍとやや浅い。

8074 は深さ約 0.6 ｍで、上層は灰白色シルト、中層は灰白色及び明黄褐色シルト、下層は灰色～オリーブ灰シルトで埋まる。下層部分にはオリーブ灰シルトの湧水層が存在する。鎌倉時代以前に埋没した遺構として評価できる。

４　中世～近世の遺構・遺物

8013 溝（＝ 7013 溝、宮井用水「中溝水路」の下層溝）

8013 溝は８区東壁に沿って検出された溝で、南北溝の西肩部である。７区の 7013 溝は南北溝東肩部の遺構であり、方位・埋土・出土遺物年代に共通点があることから、二つの溝は７・８区の間を流れる現在の宮井用水中溝水路の下層にある南北方向の大溝の両肩部に相当しているものと考えられる。7013-8013 溝は幅約 1.0 ～ 1.2 ｍの範囲で検出されており、検出長約 66.0 ｍ、深さ約 0.25 ～ 0.3 ｍ分を掘削した。弥生時代・古墳時代の溝のほか、瓦器片を含む 8006 溝を縦断して流れており、溝肩部の上面には江戸時代末期とみられる 8047 井戸が作られている。

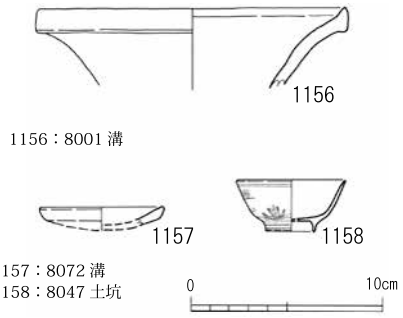


図 183　８区　各種遺構出土土器

中溝水路は図 182 の通りの構造をしているものと考えられる。現行水路に対して先行する下層溝は３時期の遺構に分けられる。下層溝１は 14・15 層、下層溝２は 12・13 層、下層溝３は７～11 層に相当する。下層溝１は推定幅 4.6 ｍ程で、下層溝２は幅 6.0 ～ 6.3 ｍ、下層溝３は幅 4.9 ｍである。7013 溝と 8013 溝で出土した遺物から、下層溝１が鎌倉時代前期の 13 世紀代に成立し、下層溝３が江戸時代後期末に廃絶する遺構と考えられる。

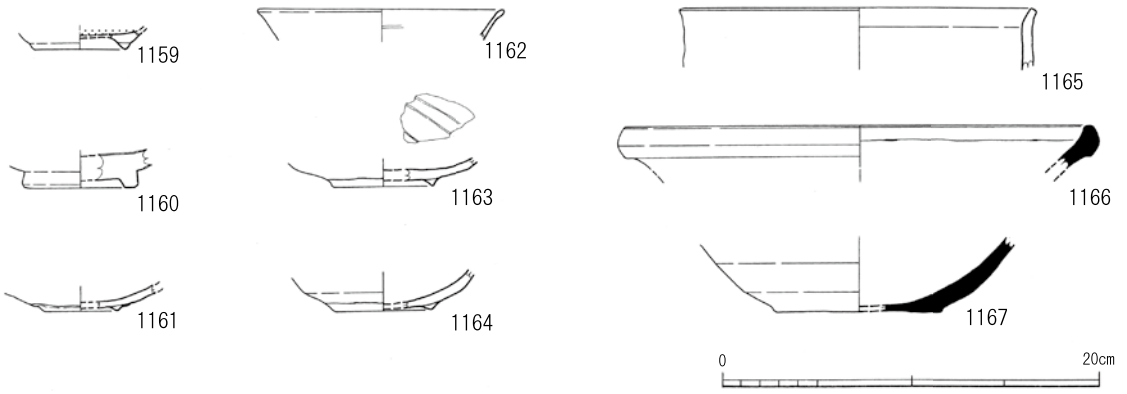


図 184　８区　8013 南北溝出土土器

8013 溝は河南条里の方位軸線に沿って、ほぼ北から南へと直線的に流れている。一方、今回検出した弥生時代から古墳時代の溝の多くは、地形の傾斜を利用し北東から南西へと流れている。この溝は幅約 6.0 mに復元できる大溝であり、地形に逆らい南側へ水を流す用水路であったと考えられることから、先行する時期の宮井用水として評価することが妥当であろう。

1159 ～ 1167 は 8013 溝から出土した土器。1159 は黒色土器埦の底部細片。1160 は青磁碗底部。1161 ～ 1164 は瓦器埦。13 世紀から 14 世紀前半の遺物とみられる。1165 は土師質土器の鍋とみられる破片。1166・1167 は東播系須恵器鉢。14 世紀後半頃の遺物と考えられる。これらの遺物は 11 世紀から 14 世紀頃の遺物であるが、8013 溝に先行する遺構に瓦器片が入ることと、8013 溝には 12 世紀代の瓦器埦が含まれないことから、13 世紀～ 14 世紀前半の瓦器埦 4 点の時期が溝の成立時期に近いものと推定される。

柵列 1（8018 ～ 8024 ピット）

８区南で検出したピット列である。ピットの掘形が小さく建物状に並ばないことから柵列とした。ピット掘形はいずれも深さ約 0.05 mと浅い。柵列の規模は南北約 9.4 mを測り、ピットの間隔は芯々で約 1.0 ～ 2.0 mで均等に並ばない。遺物の出土は見られないが、調査時の埋土の観察では近世以降のものとみられている。

8036 土坑

８区北で検出した大型の土坑で、8000 落ち込み・8013 溝より新しい遺構である。南北約 2.1 m、東西約 2.0 mを測り、平面形は不整形である。埋土はにぶい黄シルトを呈し、基盤層との区別が難しい。出土遺物から江戸時代の遺構とみられる。

8047 井戸

８区北端で検出した井戸で、西半部分は調査区外となる。素掘りの井戸とみられ、南北約 1.0 m、東西約 0.7 m以上、深さ約 0.65 mで、平面形は隅丸方形を呈する。埋土は、上層は灰白色細砂及び灰中砂からなり、下層はオリーブ灰色シルトを含む。下層部分では井戸側と考えられる木材が出土している。染付小埦（1158）などの江戸時代末期とみられる遺物が出土している。

8072 溝

８区北端の現行地割に沿って検出した溝である。検出長約 9.0 m、検出幅約 1.3 m、深さ約 0.18 mで、埋土は 8013 溝と同様の淡黄シルトを呈す。宮井用水中溝水路下層の 8013 流路と分岐し、地形に沿って流れる分流と考えられる。溝からは土師質の小皿（1157）のほか、瓦器片が出土している。

第４章　総括

１　調査概要

神前遺跡では平成 21 ～ 23 年度に４次に渡る発掘調査を実施しており、そのうち３次の調査を和歌山橋本線の調査成果として本書で報告した。調査区数は８区で、調査面積計 8,228 ㎡、出土遺物数は 398 箱分であった。

各調査区の代表的な成果をまとめると次のとおりである。１区では、弥生時代から古墳時代にかけての蛇行する溝群を検出した。２区では、弥生時代前期から古墳時代前期までの完形の土器が混在する溝（201 溝）を確認した。３区では、平安時代の井戸や溝のほか、中世末から近世にかけての屋敷地を確認した。４区では、弥生時代の溝が調査区の東側を通過している様相が確認された。５区では、弥生時代前期から古墳時代中期までの溝が多数確認され、多量の弥生土器が出土した。６区では、鎌倉時代の屋敷地が確認された。７区では、旧流路上に弥生時代中期から庄内式期にかけての落ち込みと溝が形成されていることが確認された。８区では、７区から続く弥生時代前期の溝が確認された。

神前遺跡では、全調査区で確認できる弥生時代前期から古墳時代中期までの溝群と、３区を中心とした屋敷地が特に注目される。

２　神前遺跡の溝・流路・谷について

和歌山平野東部の神前の地には、現在では紀ノ川から取水した宮井用水の「中溝水路」が流れており、一面に田畑が広がっている。しかし、神前遺跡は本来和田川沿いの自然堤防上にあり、海に近く塩害に悩まされた土地であることから、「中溝水路」が整備されるまでに数々の開拓の跡が刻まれていることが予想された。

神前遺跡周辺では、縄文時代の遺跡として丘陵裾部に貝塚が分布することが知られている。平地部の状況は知られていなかったが、2014 年になって、井辺遺跡で縄文時代晩期の埋め甕が検出された。神前遺跡においても弥生時代前期の土器とともに突帯文系土器が若干出土しており、縄文時代から弥生時代にかけて周辺に遺跡が成立する状況がうかがえる。

当調査対象地の周辺は発掘された面積は少ないが、和歌山市の確認調査や和歌山県の試掘調査が行われており、神前遺跡と井辺遺跡の間には庄内式期以前の旧流路が想定される谷状地形があり、１区の流路ないし溝群はそこから取水し、弧を描いて５区に流れ込むものと推定されている（前田 2008・田中 2011）。周辺の様相はこれらの考察にゆずり、ここでは１区から８区の範囲で検出された多数の溝について、その変遷をまとめておく。

１区では東西の丘陵に挟まれた場所を多数の溝が北から南へ抜けていく状況が確認された。遺物は非常に少ないが、二度ないし三度の堆積で埋まる明確な輪郭を持った溝が多数あることから、度々、溝底の土砂をさらえていたことが考えられる。１区では主に３時期の溝群が切り合っているが、まず下層溝とされる溝７は、弥生時代前期頃の溝と推定される。次に溝１・４は南北方向に流れる弥生時代前期から庄内式期までの溝と考えられ、溝の肩付近まで残存している。そして溝２・３・５・６は庄内式期から古墳時代中期までの流路と考えられ、流路の上面は削平されている。これら４本の流路は南西にある丘陵の縁辺部を蛇行しており、年代が新しくなるにつれ谷

が埋まり、丘陵に近づいていったようである。平安時代には浅く直線的な 008 溝が調査区を縦断しており、ほぼ平坦地であったことがうかがえる。

３・４区では、調査区の東と西で溝を３～４条ずつ確認した。溝は幅が狭く、調査区東側の溝は南南東へ、調査区西側の溝は南南西へ緩やかに分かれていくことから、３区・４区は南北方向になだらかな微高地であったと推定される。平安時代の 3081 溝は、１区の 008 溝の延長部にあたるが、３区では遺物もやや多く、近くに井戸も掘削されている。

４区より南は地形が北東から南西へ傾斜しており、同方向に流れる流路を多数検出している。多量の土器が出土した２区 201・202 溝は４区 4007 溝や５区 5081 溝と同一の溝である。この溝は底に凹凸があることと、弥生時代前期と庄内式期の完形の土器が隣り合うように混在して出土していることが特徴である。実際には溝というより幅の狭い谷底ないし川底に当たるものと考えられ、弥生時代前期から庄内式期まではほとんど埋まらず、庄内式期になって多量の土器とともに土砂がかぶり埋没していることが注目される。201 溝出土土器として取り上げている布留式土器の一群は、出土状況から、溝がほぼ埋没した後に掘られた土坑の一括遺物と考えてよいだろう。

５区中央では幅約 14 m、深さ 0.7 m以上の谷状地形を呈する 5040 流路を確認した。最下層の状況は不明であるが、無遺物の堆積で始まるものと推定される。下層で弥生時代前期の土器が多量に出土しているが、Ⅱ様式の土器がⅠ様式の土器より下の層から出土する逆転現象もみられ、単純に下層から順に堆積した流路ではなく、土器を含んだ土が谷底で再堆積を繰り返しながら次第に埋まっていった様子がうかがえる。その谷は多数の溝状遺構や不整形土坑を形成しながら埋まり、上面には中期前葉から中葉の溝が５条形成されている。それらのうち中期前葉の溝（溝９）は谷上面の中央部を緩やかに蛇行して流れ、溝底に段差があり、自然流路に近い特徴をもつ。また、中期前葉から中葉の溝（溝７・８・10・11）は断面形がＵ字形ないしＶ字形で、緩やかな弧を描いて流れており、5093 溝や 5183 溝のような分岐・合流がみられる溝である。これらの溝はすべて谷筋に流れ込んでくる特徴をもつことから、少なくともこの付近では排水機能の強いものといえる。そして、谷筋がほぼ埋まった後、庄内式期から古墳時代中期までの流路（溝 12、5013-5257 溝）はやや南側に移動し、その周囲には溝状遺構や不整形土坑が形成される。溝 12 沿いには多数のピットがあり、南東側の流路（溝 13・14）までの間には井戸や建物と推定される遺構も分布している。古墳時代中期には５区南端部に溝 15 が形成され、青銅製の鈴が出土している。

５区の谷と谷の間には、基本的に弥生時代中期以前の遺構が分布しない。例外的に 5040 流路の北西肩部付近で検出されている溝７とピット群についても、溝の肩部と建物の竪穴部分が削平されている遺構である可能性が高いことを考えると、遺構の検出されない地点はそれ以上の削平を受けたことが予想される。これらのことから、５区は元来起伏に富んだ地形をしていたが、段階的に谷が埋まり、現在の状況にいたったものといえるだろう。

６～８区にも幅が広い谷状地形があり、その下層部（6050-7000-8000 下層流路）では遺物が確認されていない。この流路が途中まで埋まった段階で水溜め機能の強い井戸と、隣接する谷筋の溝を集めた後、地形に逆らって流れていく用水路（7002-8002 溝）が作られており、和田川沿いの灌漑用水の初現期の状況がうかがわれる。これらの遺構では弥生時代前期中段階から新段階とみられる土器群が出土しており、和歌山の土器様相を知る上で重要である。この水路の廃絶後はもとの谷筋に沿った落ち込み状の浅い流路（7000 - 8000 落ち込み）が再度形成され、落ち込

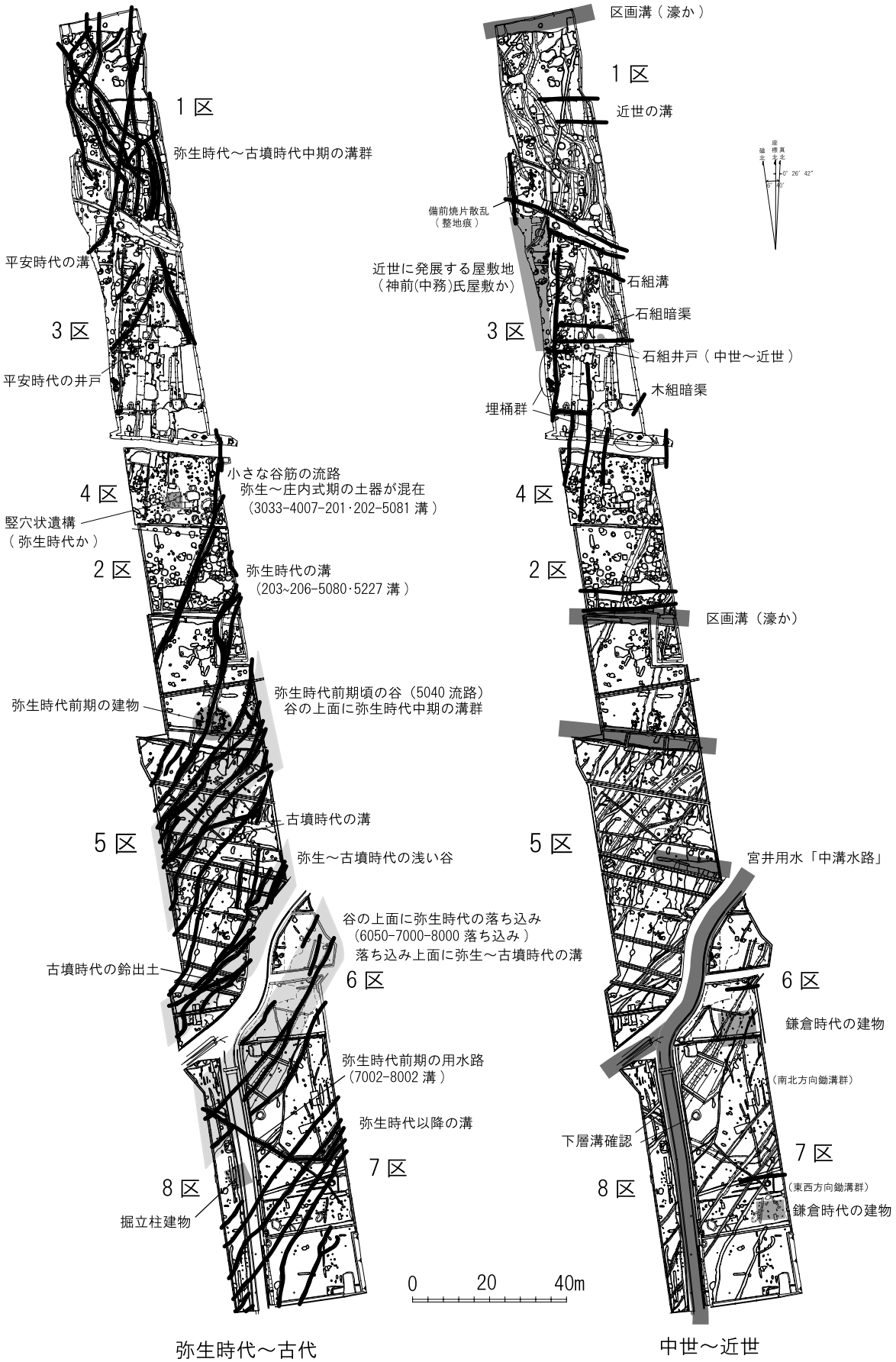


図 185　神前遺跡における流路の変遷

み埋没後は庄内式期までに２条の溝（7001 － 8001 溝、7004 - 8004 溝）が掘削されている。谷筋より南側を平行して流れる溝では、微量ながら弥生土器や土師器のほか、瓦器・陶器片を含むものがあり、多様な時期の溝があるものと推定される。

現在、これらの溝を縦断して宮井用水「中溝水路」が南北に流れており、７・８区ではその下層溝の東西の肩部とみられる遺構（7013 溝・8013 溝）が確認された。下層溝は幅 4.6 ～ 6.3 m で 13 世紀の瓦器片を多数含み、上面は江戸時代の遺物を含む土で埋まることから、鎌倉時代に成立した旧宮井用水「中溝水路」の跡と推奨される。

これらの溝・流路・谷からは多量の弥生土器のほか、多数の種子圧痕のある土器片や獣骨、石器・石製品類、また古墳時代の青銅製鈴・初期須恵器片が出土している。このうち石包丁は緑色片岩あるいは緑泥片岩と呼ばれる、神前遺跡東側の丘陵部の岩盤を構成している石で製作されているもので、未成品を含み、弥生時代前期から中期にかけて、曲線刃隅丸方形から曲線刃杏仁形・直線刃半月形へと変化する傾向が確認できる。大型石包丁が３点出土しており、前期の大型石包丁に曲線刃隅丸方形を志向するものがあることも注目される。

神前遺跡では、弥生時代前期に起伏に富んだ地形を利用しながら水田耕作が始まり、庄内式期にはほぼ平坦な耕作地になったものと考えられた。鎌倉時代に紀ノ川からの用水路と南北方向の条理型地割が導入され、現在の景観にいたったことが分かった。

３　屋敷地の成立と展開

神前遺跡では、３区と６・７区を中心に屋敷地が確認された。

３区では平安時代の木枠のある井戸と溝が確認でき、溝は北東から南西へ周辺全体の自然地形を踏襲した方向に流れている。鎌倉時代の遺構は和歌山市の第１次調査で石組井戸が確認されている。平安～鎌倉時代の遺構は整地や削平の影響により少ないが、その後の屋敷地に継続するものと推定される。中世には各調査区の境で区画溝状の遺構が成立しており、「中溝水路」の整備とともに周囲一帯に条理型地割が導入されたことが分かる。

中世前半の遺物は少ないが、中世末から近世初頭にかけて遺物量は若干増加する。瓦が多数出土するほか、石組井戸も作られており、３区付近が瓦葺きの建物のある屋敷地に発展したことが分かる。近世初頭以降の屋敷地造成についても３区北西部に整地状況がうかがわれる場所がある。丘陵に近い地を削って整地したものと考えられ、備前焼大甕の上半部破片が 12 ～ 20 mにわたって散乱し、その整地土で 3095 土坑や 3101 溝が埋まっているようである。近世になると３区西側では石垣と段状の高まり、３区中央で石組の溝や暗渠、３区南西部・南部では埋桶群が形成されており、瓦や陶磁器の出土量も増加している。以上のとおり、３区の屋敷地は平安時代に出現し、中世末から近世にかけて継続・発展したものと考えられる。

神前の地には雑賀五組のうち社家郷に属する神前氏がいたことが知られており、『湯川直春起請文』には「神前中務丞」という人物が記載されている。神前中務丞は織田信長が雑賀攻めを行った際に織田方に便宜を図っていることや、３区北西の丘陵が地元で「中務の築山（塚山）」と呼ばれていること、調査地西側にあった屋敷地は明治時代以前は中務氏の所有であったことなどが発掘調査時の聞き取り調査等により判明している。また、家系図によると中務氏は室町時代から続く家系で、江戸時代に神前氏から中務氏に苗字を変更しているという（田中・津村 2011）。３

区で検出した屋敷地は神前・中務氏の屋敷地である可能性が高いといえるだろう。

そのほか注目すべき遺物として、近世後期の陶磁器とともに出土した近世前期の焼塩壺２点があげられる。神前遺跡のすぐ南西側にある布引浜の塩田は汽水域のきめ細かい塩が重宝され、大規模に塩作りを行っていた地として有名である。近世後期には和歌山でも堺の壺屋の印を押した焼塩壺が流通しているが、３区の屋敷地で出土した焼塩壺は堺の壺屋の印のない 17 世紀代の特徴をもった壺である。商品流通網を介せずに、地元の特産品を入手していた可能性も考えられるため、今後類例の増加を待ちたい。

また、６・７区には付近の条理型地割に沿った方位をもつ鎌倉時代の掘立柱建物が２棟確認されており、それらを結んで流れる年代不詳の小溝との関係も注目される。北側の建物は柱穴に礎板を据え、庇をもつ構造の３×３間の掘立柱建物で、区画溝と２基のピットから成る遺構が伴う屋敷地を構成しているものと考えられる。南側の建物は柱穴の小さい２×３間の掘立柱建物である。これらの建物は宮井用水「中溝水路」成立期のもので、３区の屋敷地のように継続はしない。

＜主要参考文献＞

井場好英・川口修実・北野隆亮 2000「神前遺跡第３次調査」『和歌山市内遺跡発掘調査概報―平成 10 年度―』和歌山市教育委員会・（財）和歌山市文化体育振興事業団

奥村薫 2000「神前遺跡発掘調査」『和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報６―平成８(1996)・平成９(1997) 年度―』（財）和歌山市文化体育振興事業団

海津一朗編 2006『和歌山平野における荘園遺跡の復元研究―中世日前宮領の研究―』

北野隆亮 2006「神前遺跡第５次確認調査」『和歌山市内遺跡発掘調査概報―平成 16 年度―』和歌山市教育委員会・（財）和歌山市文化体育振興事業団

佐伯和也 2012「神前遺跡の発掘調査（和歌山橋本線）」『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2011』

田中元浩・津村かおり 2011「神前遺跡の発掘調査」『財団法人和歌山県文化財センター年報 2010』

田中元浩 2011「神前遺跡出土の青銅製鈴」『財団法人和歌山県文化財センター年報 2010』

田中元浩 2011「神前遺跡と水路の整備」『和歌山平野の集落遺跡―弥生時代から古墳時代へ―』（財）和歌山県文化財センター

土井孝之 1989「紀伊地域」『弥生土器の様式と編年・近畿編１』木耳社

冨永里菜 2010「神前遺跡の発掘調査」『財団法人和歌山県文化財センター年報 2009』

前田敬彦 2008「紀伊における弥生時代遺跡の基礎的研究（２）―和歌山市神前遺跡―」『紀伊考古学研究』11 紀伊考古学研究会

和歌山県教育委員会 2010「神前遺跡、井辺遺跡」『和歌山県埋蔵文化財調査年報―平成 20 年度―』

和歌山県教育委員会 2011「井辺遺跡、神前遺跡」『和歌山県埋蔵文化財調査年報―平成 21 年度―』

和歌山県教育委員会 2012「神前遺跡周辺」『和歌山県埋蔵文化財調査年報―平成 22 年度―』

付章　自然科学分析の成果

1節　神前遺跡出土土器の胎土分析

藤根　久・米田恭子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の鉱物組成から、砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定するのは容易でない。土器は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料が比較的良質とも思える粘土層から採取されていたことが、粘土採掘坑の調査から推察される(藤根・今村，2001)。また、粘土自体に珪藻化石やプラント・オパール、放散虫化石が混在している場合があり、材料の粘土が生成された時の環境がわかる。

一方、混和材としての砂粒物は、粘土層から粘土を採取する際に、粘土層の上下層や周辺に分布する砂層などから採取されたと予想される。東海地域の弥生時代後期の赤彩を施したパレススタイル土器では、3分の1程度の土器に、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている（藤根，1998)。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層由来と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について微化石類およびテフラなどの鉱物を含めて検討する必要がある。

神前遺跡は、和歌山平野南東部の紀ノ川支流の和田川の自然堤防に立地する遺跡である。調査では、弥生時代前期の流路、弥生時代前期～中期前葉の溝、弥生時代後期の溝や井戸状遺構などが検出された。ここでは、弥生時代前期～中期の鉢・壺・甕について薄片の偏光顕微鏡観察による胎土分析を行った。

2. 試料と方法

試料は、壺または壺と思われる器種が13点、鉢が8点、甕が6点、鉢または高坏が1点、粘土塊が2点の合計30点である（表1)。

これらの土器は、偏光顕微鏡観察用の薄片を作製した。方法は、一部をダイヤモンドカッターで切断した後、エポキシ樹脂で固化処理を行い、精密岩石薄片作製機および研磨フィルムを用いて厚さ20～30μmの土器薄片を作製した。

薄片観察は、砂粒構成を微化石類（珪藻化石や植物珪酸体化石)・鉱物・岩片に分けて、粒度区分毎に同定・計測を行った。計測は、メカニカルステージを用いて0.3㎜間隔におけるポイント法により中粒シルト以上の粒子200個体について同定・計数した。なお、本方法は、松田ほか（1999）の方法を参考にした。

土器胎土中の粒子を同定または分類する際の各分類群の特徴を示す。

[放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百μm程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉（1988）や安藤（1990）は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石（海水種、淡水

表１　土器胎土分析を行った土器とその詳細

分析No.	遺物№	時期	土器の器種他	胎土色調	目視での予想産地	遺構番号	砂粒組成分類	砂粒の特徴	微化石類等
1	1044	Ⅰ～Ⅱ	広口壺（阿方式）	灰色～灰白色	紀伊（器形は西部瀬戸内）	7000（落ち込み）	A1	片岩類主体、チャート、砂岩質、ホルンフェルス含む	
2	435	Ⅰ	逆Ｌ字形口縁鉢	乳白色	西部瀬戸内（伊予か）	5040（下層流路）	B1	堆積岩類主体、火山ガラス（バブル）軽石型）	珪藻化石（淡水種Pinnularia属、不明種）
3	123	３世紀後半	受け口口縁壺（土師器）	褐色系	北四国	201・202（流路）	A1	片岩類主体、堆積岩類、深成岩類	骨針化石、イネ頴珪酸体
4	391	Ⅰ	広口壺（円形浮文直列）	褐色系	東部瀬戸内	5040（下層流路）	B3	堆積岩類・テフラ主体、流紋岩類、深成岩類、火山ガラス	珪藻化石（淡水種Pinnularia属、不明種）、骨針化石
5	586	Ⅰ	逆Ｌ字形口縁鉢	褐色系	河内か紀伊（器形は瀬戸内）	5306（溝８）	A2	片岩類・堆積岩類主体、深成岩類	珪藻化石（海水泥質干潟Diploneis smithii）、骨針化石
6	675	Ⅱ	鉢か高坏	乳白色系	河内か紀伊（器形は瀬戸内）	5187（溝10）	A2	堆積岩類・片岩類主体、深成岩類	珪藻化石（淡水種Pinnularia属/Cymbella属）、骨針化石
7	755	Ⅰ～Ⅱ	広口壺（阿方式）	褐色系	河内か紀伊（器形は瀬戸内）	5182（溝11）	A2	片岩類・堆積岩類主体、深成岩類	
8	519	Ⅰ～Ⅱ	逆Ｌ字形口縁鉢	暗茶褐色系	紀伊（器形は瀬戸内）	5096（溝８）	A1	片岩類主体、深成岩類、堆積岩類	
9	774	Ⅲ	河内型甕	暗い乳白色系	紀伊（器形は河内）	5014（溝11）	A1	片岩類主体、深成岩類	
10	1042	Ⅰ	遠賀川系壺	褐色系	大和か河内か紀伊	7000（落ち込み）	A2	堆積岩類・片岩類主体	
11	397	Ⅰ	広口壺	暗褐色系	大和か河内か紀伊	5040（下層流路）	C1	深成岩類（花崗岩類）主体、テフラ	
12	380	Ⅰ	遠賀川系壺	肌色系	九州・瀬戸内か	5040（下層流路）	B1	堆積岩類主体、流紋岩類伴う	
13	434	Ⅰ併行期か	突帯紋系鉢	暗茶褐色系	生駒山西麓	5040（下層流路）	C2	現れい岩質（断層ガウジ）	＊イネ・アワ種子圧痕あり
14	443	Ⅰ	直口鉢	緑を帯びた褐色系	河内か紀伊	5040（下層流路）	A1	片岩類主体、堆積岩類、片岩起源の鉱物群多産	
15	520	Ⅰ	外反口縁鉢	緑を帯びた褐色系	河内か紀伊	5096（溝８）	B1	堆積岩類主体、片岩類、深成岩類	骨針化石
16	608	Ⅱ	広口長頸壺か（流水紋）	褐色系	紀ノ川下流域	5205（溝９）	A2	片岩類・堆積岩類主体、深成岩類	
17	483	Ⅰ～Ⅱ	広口長頸壺	褐色系	紀ノ川下流域	5040（下層流路）	B2	堆積岩類・深成岩類主体、流紋岩類	珪藻化石（海水種Coscinodiscus属/Thalassiosira属）、骨針化石多産
18	791	Ⅱ	広口長頸壺か	乳白色系	紀ノ川下流域	5014（溝11）	A1	片岩類主体	珪藻化石（淡水種Pinnularia lata）
19	1149	Ⅰ	広口壺（隆帯）	褐色系	紀ノ川下流域	8002（溝）	A2	堆積岩類・片岩類主体	
20	1074	Ⅰ	広口壺（突帯）	褐色系	紀ノ川下流域	7002（溝）	A2	堆積岩類・片岩類主体、流紋岩類	
21	789	Ⅲ	広口長頸壺か	褐色系	紀ノ川下流域	5016（溝11）	A3	片岩類・テフラ主体	
22	484	Ⅰ	広口壺	褐色系	紀ノ川下流域	5040（下層流路）	A1	片岩類主体	
23	1047	Ⅰ	紀伊型甕	暗褐色系	紀ノ川下流域	7000（落ち込み）	A1	片岩類主体	
24	1050	Ⅰ～Ⅱ	外反口縁鉢	暗褐色系	紀ノ川下流域	7000（落ち込み）	A3	片岩類・テフラ主体、堆積岩類、深成岩類	
25	－	Ⅰ～Ⅱ	粘土塊	褐色系	紀ノ川下流域（地元の土か）	5206（溝８）	A2	堆積岩類・片岩類主体	
26	－	中世～近世か	粘土塊	褐色系	紀ノ川下流域（地元の土か、被熱）	5082	A1	片岩類主体、堆積岩類、深成岩	焼成温度やや高い
27	1080	Ⅰ～Ⅱ	外反口縁鉢	褐色系	紀ノ川下流域	7002（溝）	B1	堆積岩類主体、片岩類、深成岩類	焼成温度やや高い
28	624	Ⅱ	紀伊型甕	褐色系	紀ノ川下流域	5180（溝９）	A2	堆積岩類・片岩類主体、深成岩類	
29	721	Ⅰ～Ⅱ	広口壺	褐色系	紀ノ川下流域	5182（溝11）	A2	堆積岩類・片岩類主体	
30	698	Ⅱ～Ⅲ	紀伊型甕	褐色系	紀ノ川下流域	5187（溝10）	A1	片岩主体、堆積岩類、深成岩類	

種）を分類した。

［骨針化石］

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状からなる。海綿動物の多くは海産であるが、淡水産としても23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

［胞子化石］

胞子は、直径約10～30μm程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

［植物珪酸体化石］

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50μm前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

［植物遺体化石］

木本または草本植物の細胞組織である。

［石英・長石類］

石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く、一括して扱う。なお、輝石類を含有する石英を含む。

［長石類］

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶を示すものと累帯構造を示すものに細分される。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの（パーサイト構造）と格子状構造（微斜長石構造）を示すものに分類される。

［輝石類］

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類､ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、

肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類やケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類あるいは火山岩類に産出する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。

[ジルコン]

無色の長柱状または錐面に囲まれた形を呈し、屈折率が高い。

[砂岩質・泥岩質・チャート]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約 0.06㎜以上のものを砂岩質、約 0.06㎜未満のものを泥岩質とした。チャートは、微細な結晶の集合体で結晶度の高い岩石である。

[片岩類]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。結晶片岩や粘板岩である。

[深成岩類]

大型の石英や長石から構成され、輝石類や角閃石類あるいは雲母類などを含む完晶質の岩石である。

[凝灰岩]

ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、結晶度が低く、直交ニコルで観察した際に全体的に暗い粒子である。

[流紋岩]

石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、流理構造を示す岩石である。

[火山岩]

斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。

[火山ガラス]

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス（バブル･ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

[多結晶石英]

多結晶石英は､石英の集合している粒子で､基質（マトリックス）の部分をもたないものである。

[酸化鉄結核]

赤褐色～褐色を呈する岩石であり、光学的には不透明である。

[不明鉱物および不明岩石]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

3. 結果

偏光顕微鏡を用いた薄片ポイント法による計測結果と特徴を表 2-1 ～ 2-6 に示す。また、一部の微化石類を除いてグラフを図 1 ～ 3 に示す。また、砂粒分の粒度組成の結果を図 4 に示す。表 2-1 ～ 2-6 の備考欄には、薄片全体の砂粒組成や微化石類の特徴について示した。また、砂粒組成による分類も示した。

一部の土器胎土中には、粘土材料の堆積環境などの特徴を示す珪藻化石や骨針化石が含まれていた。

4. 考察

偏光顕微鏡による土器薄片のポイント法および観察の結果から、片岩類主体（分類 A1）、片岩類・堆積岩類主体（分類 A2）、片岩類・テフラ主体（分類 A3）、堆積岩類主体（分類 B1）、堆積岩類・深成岩類（分類 B2）、堆積岩類・テフラ主体（分類 B3）、深成岩類の花崗岩質主体（分類 C1）、深成岩類の斑れい岩主体（分類 C2）に分類された。

砂粒組成の特徴から、分類 A1 が 10 試料、分類 A2 が 10 試料、分類 A3 が 2 試料、分類 B1 が 4 試料、分類 B2 が 1 試料、分類 B3 が 1 試料、分類 C1 が 1 試料、分類 C2 が 1 試料であった。

分析 No.25 と No.26 の粘土塊は､在地の砂粒組成を示すと思われる試料であり､片岩類主体（分類 A1）および片岩類・堆積岩類主体（分類 A2）である。紀ノ川流域では、中央構造線の南側に三波川帯の泥質片岩などの片岩類が広く分布する（栗本ほか, 1998)。分類 A1 や分類 A2 のほか、分類 A3 を含めて片岩類を多く含む組成は、在地的な組成と考えられる。したがって、分類 A1 の 10 試料、分類 A2 の 10 試料、分類 A3 の 2 試料は在地産の可能性が高い。なお、分析 No.5 の逆Ｌ字形口縁鉢の胎土中には、小杉（1988）が設定した海水泥質干潟指標種群の *Diploneis smithii* が含まれていた（図版 4-5c)。この土器胎土の粘土材料として干潟成粘土が利用されたことを示す。

分類 B1 とした組成では、分析 No.2 の逆Ｌ字形口縁鉢と分析 No.12 の遠賀川系甕は、片岩類を全く含まない。一方、分析 No.15 と分析 No.27 の外反口縁鉢は、少ないものの片岩類を含んでいることから、在地組成を示すと考えられる。

分類 B2 とした分析 No.17 の広口長頸壺は、僅かに片岩類を含んでいる。

分類 B3 とした分析 No.4 の広口壺（円形浮文直列）は、片岩類を全く含んでいない。なお、この土器胎土中には、バブル型の火山ガラスを特徴的に含み、淡水種珪藻化石 Pinnularia 属を含んでいた。この土器は、粘土材料が淡水成粘土であることを示す。

深成岩類の花崗岩質主体（分類 C1）とした土器（分析 No.11）は、花崗岩類と思われる砂粒を含み、テフラを含む組成である。紀ノ川上流域では、中央構造線の北側に領家帯の花崗岩類が分布することから（栗本ほか, 1998)、紀ノ川上流域や支流の橋本川流域などが考えられる。

深成岩類の斑れい岩主体（分類 C2）とした突帯紋系鉢（分析 No.13）は、塩基性岩の斑れい岩に近い組成と考えられる。畿内では、生駒西麓産土器あるいは河内の土器と呼ばれる暗褐色～茶褐色を呈する土器群が知られているが、これらの土器材料は、生駒斑れい岩を原岩として形成された断層内物質（断層ガウジ）を材料として作られた土器群であることが知られている（藤根・小坂 ,1997)。この突帯紋系鉢は、塩基性岩の斑れい岩が分布する地域であることから、非在地材料である。なお、断層内物質（断層ガウジ）の特徴として尖った粒子が特徴的に多いことが挙げられる。なお、紀ノ川中流域に位置する西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡の弥生時代中期の壺や甕においても同様の特徴を示す土器が検出されている（財団法人和歌山県文化財センター, 2010)。

その他の特徴として、突帯紋系鉢(分析No.13;断層ガウジ)の外面には、イネ籾や・キビ果実（有ふ果）などの圧痕が観察された。また、分析No.3の受け口口縁壺の胎土中には、イネ籾表面に形成される頴の珪酸体化石が含まれていた(図版4-3c)。こうした観察事例は、稲作の証拠を示す。

分析No.2の逆Ｌ字形口縁鉢、分析No.4の広口壺（円形浮文直列)、分析No.6の小型鉢または高坏、分析No.18の広口長頸壺？は、淡水種珪藻化石を含んでいたことから、粘土材料が淡水成粘土と考えられる。また、分析No.5の逆Ｌ字形口縁鉢、分析No.17の広口長頸壺は、海水種珪藻化石を含んでいたことから、粘土材料が海成粘土と考えられる。さらに、分析No.3の受け口口縁壺は、骨針化石を含んでいたことから粘土材料が水成粘土と考えられる。なお、周辺域における海成粘土は、大阪層群など限られた地層と考えられる。

5. おわりに

偏光顕微鏡による土器薄片のポイント法および観察の結果、片岩類主体（分類A1)、片岩類・堆積岩類主体（分類A2)、片岩類・テフラ主体（分類A3)、堆積岩類主体（分類B1)、堆積岩類・深成岩類（分類B2)、堆積岩類・テフラ主体（分類B3)、深成岩類の花崗岩質主体（分類C1)、深成岩類の斑れい岩主体（分類C2）に分類された。

砂粒組成の特徴から、分類A1が10試料、分類A2が10試料、分類A3が2試料、分類B1が4試料、分類B2が1試料、分類B3が1試料、分類C1が1試料、分類C2が1試料であった。このうち、片岩類を特徴的に含む分類A1、分類A2、分類A3が在地組成と考えられた。なお、分類B1の一部土器と分類B2では片岩類を僅かに含んでいた。これ以外の分類B3や分類C1あるいは分類C2に分類された土器は非在地組成と推定された。

参考・引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42（2)，73-88.

藤根　久・小坂和夫（1997）生駒西麓（東大阪市）産の縄文土器の胎土材料―断層内物質の可能性―．第四紀研究,36(1),55-62.

藤根　久（1998）東海地域（伊勢－三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料．第６回東海考古学フォーラム岐阜大会，土器・墓が語る，108 － 117.

藤根　久・今村美智子（2001）第３節　土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴．波志江中宿遺跡，日本道路公団・伊勢崎市・(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団，262-277.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，1-20.

栗本史雄・牧本　博・吉田史郎・高橋裕平・駒澤正夫（1998）20万分の1地質図幅「和歌山」．地質調査所

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高（1999）瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察．日本文化財科学会第16回大会研究発表要旨集，120-121.

日本の地質「近畿地方」編集委員会編（1992）日本の地質6「近畿地方」，共立出版，293p.

財団法人和歌山県文化財センター（2010)「西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡」一般国道24号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う第1次・第2次発掘調査報告書.

表 2-1　ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片												岩石片														
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
1	礫	細礫	2mm 以上																				16														16	片岩類主体、チャート、砂岩質、ホルンフェルス含む	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				17														17		
		粗粒砂	0.5-1mm																				6														6		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2											4														6		
		細粒砂	0.125-0.25mm									2				1							7					1	2								13		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									20			2		1						4				1	4									32		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									47																4									51		
		中粒シルト	0.032mm 以下							2		53					3												1								59		
	基質																																				188		
	孔隙																																				25		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片												岩石片														
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
2	礫	細礫	2mm 以上																			57														57	堆積岩類主体火山ガラス（バブル》軽石型）珪藻化石（淡水種 *Pinnularia* 属、不明種）	B1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																																		0		
		粗粒砂	0.5-1mm									5		1								1															7		
		中粒砂	0.25-0.5mm									5									1	1						2	2	1							12		
		細粒砂	0.125-0.25mm									4	3	1		1	1					1						15	1	1							28		
		極細粒砂	0.064-0.125mm							1		2	1									1						19	3			1					28		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							6		12	3															14		1							36		
		中粒シルト	0.032mm 以下							5		13			4													12									34		
	基質																																				222		
	孔隙																																				21		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片												岩石片														
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
3	礫	細礫	2mm 以上																				48														48	片岩類主体、堆積岩類、深成岩類骨針化石、イネ頴珪酸体	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				12														12		
		粗粒砂	0.5-1mm																			3						2								13		
		中粒砂	0.25-0.5mm								2	1	2										8					5	1							19		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1				1							4				1	3	2							12		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									5				1							1				1	1	1							10		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							12		19			1		1												1	1						35		
		中粒シルト	0.032mm 以下							8	2	31			5												1		4							51		
	基質																																				248		
	孔隙																																				41		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片												岩石片														
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
4	礫	細礫	2mm 以上																			34			41												75	堆積岩類・テフラ主体、流紋岩類、深成岩類、火山ガラス（バブル型）珪藻化石（淡水種 *Pinnularia* 属、不明種）、骨針化石	B3
	砂	極粗粒砂	1-2mm									3																									3		
		粗粒砂	0.5-1mm																									1									1		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2		1									9					9									12		
		細粒砂	0.125-0.25mm									5									1							12	2								20		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									13	4			1						2						15	4								39		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							6		14	1		1						2							6	2								32		
		中粒シルト	0.032mm 以下							4		9			2														3								18		
	基質																																				354		
	孔隙																																				24		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片												岩石片														
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
5	礫	細礫	2mm 以上																			16	27	29				14									86	片岩類・堆積岩類主体、深成岩類珪藻化石（海水泥質干潟 *Diploneis smithii*）、骨針化石	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																			2															2		
		粗粒砂	0.5-1mm																				1														1		
		中粒砂	0.25-0.5mm									1		5		2						5						1	1	2							17		
		細粒砂	0.125-0.25mm									5				5													1	1							12		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									8			1	4														1	1						15		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							3		16	2		5	4	1												2	3							36		
		中粒シルト	0.032mm 以下							5		23			6		2	1												3							40		
	基質																																				526		
	孔隙																																				87		

表 2-2　ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																		合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石								
6	礫	細礫	2mm 以上																																			0	堆積岩類・片岩類主体、深成岩類珪藻化石（淡水種 *Pinnularia* 属/*Cymbella* 属）、骨針化石	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				8	2														10		
		粗粒砂	0.5-1mm									1	1	1							1	8	1	6				7										26		
		中粒砂	0.25-0.5mm								1	3	3				1				1	12		6			1		3	6	6	1						44		
		細粒砂	0.125-0.25mm									4	1			2						5	1	2				2	5	1								23		
		極細粒砂	0.064-0.125mm							2		7	2			1							1	1			1	11	5	1		1						32		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							16		17			1								1					5	3	2								45		
		中粒シルト	0.032mm 以下							5		13																		3								21		
	基質																																					441		
	孔隙																																					27		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																		合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石								
7	礫	細礫	2mm 以上																			5		6														11	片岩類・堆積岩類主体、深成岩類	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																					18														18		
		粗粒砂	0.5-1mm																					7				2										9		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2																1										3		
		細粒砂	0.125-0.25mm									4		1	2	1								4														12		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									10		1	14	2	6							1														34		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									19			32		7											1	2								61		
		中粒シルト	0.032mm 以下							3		18			29	1	1												2								54		
	基質																																					242		
	孔隙																																					26		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																		合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石								
8	礫	細礫	2mm 以上																					45														45	片岩類主体、深成岩類、堆積岩類	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																					9														9		
		粗粒砂	0.5-1mm																					4	2			1										7		
		中粒砂	0.25-0.5mm																					3				2										5		
		細粒砂	0.125-0.25mm									3					1					1		3				1	3									12		
		極細粒砂	0.064-0.125mm							1		10																1	1	1								14		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							2		28		1	10		1											1	3	1								47		
		中粒シルト	0.032mm 以下							2		44			22	1													1	1								71		
	基質																																					237		
	孔隙																																					30		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																		合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石								
9	礫	細礫	2mm 以上																					2														2	片岩類主体、深成岩類	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																					15														15		
		粗粒砂	0.5-1mm																					44				1										45		
		中粒砂	0.25-0.5mm																					9					8	1	2							20		
		細粒砂	0.125-0.25mm									3		1										1					5	1								11		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									8																2	6	1								17		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							7		19	1	1		1						1						1	1	1		1						34		
		中粒シルト	0.032mm 以下							5		53			11																							69		
	基質																																					205		
	孔隙																																					14		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																		合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石								
10	礫	細礫	2mm 以上																			22																22	堆積岩類・片岩類主体	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																					5				10										15		
		粗粒砂	0.5-1mm																					1														1		
		中粒砂	0.25-0.5mm													1								2				2	1									6		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1				1												3	3									8		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									18					1											4	4	1								28		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							30		19																2	1	1								53		
		中粒シルト	0.032mm 以下							18		43			3		1													3								68		
	基質																																					126		
	孔隙																																					40		

表 2-3　ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片										岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
11	礫	細礫	2mm 以上																																	0	深成岩類（花崗岩類）主体、テフラ	C1
	砂	極粗粒砂	1-2mm														6							25													31		
		粗粒砂	0.5-1mm									4												20													24		
		中粒砂	0.25-0.5mm									5												5				1									11		
		細粒砂	0.125-0.25mm									19		1			5							1	1			2	1	1							31		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									14	1	1	1		8								1			2		2	1						31		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							1		15	1		1		16													7	1	1					43		
		中粒シルト	0.032mm 以下							4		16	3		3		2											1		2							31		
	基質																																			216		
	孔隙																																			18		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片										岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
12	礫	細礫	2mm 以上										21																	7							28	堆積岩類主体、流紋岩類伴う	B1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																			11								22							33		
		粗粒砂	0.5-1mm																		1	10					3										14		
		中粒砂	0.25-0.5mm									5	1								2	7					4		3	2							24		
		細粒砂	0.125-0.25mm									9									1	8					1			7							26		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									8	3									3							4	2							20		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									7	5				1	1				1					1		6	8							30		
		中粒シルト	0.032mm 以下							2		21	3				1													26							53		
	基質																																			355		
	孔隙																																			16		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片										岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
13	礫	細礫	2mm 以上																					50													50		
	砂	極粗粒砂	1-2mm																					6													6		
		粗粒砂	0.5-1mm																					17													17		
		中粒砂	0.25-0.5mm									1		1		3	1							7						2							15		
		細粒砂	0.125-0.25mm									2	1		2	11	2							3						1							22		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									6	5			17	4																				32		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									10		3	2	17	2												1	3							38		
		中粒シルト	0.032mm 以下							1		4			1	18																					24		
	基質																																			132		
	孔隙																																			23		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片										岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
14	礫	細礫	2mm 以上																			8	9														17	片岩類主体、堆積岩類、片岩起源の鉱物群多産	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																																		0		
		粗粒砂	0.5-1mm																																		0		
		中粒砂	0.25-0.5mm												1								1	4														6		
		細粒砂	0.125-0.25mm																				7															7		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									7			14																							21		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									21			44	7	1													2							75		
		中粒シルト	0.032mm 以下									8			61	1														4							74		
	基質																																			46		
	孔隙																																			15		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片										岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
15	礫	細礫	2mm 以上																			78															78		
	砂	極粗粒砂	1-2mm																																		0		
		粗粒砂	0.5-1mm																				3															3		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2																										2		
		細粒砂	0.125-0.25mm									3				1																						4		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									4			2	1	1												1								9		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							5		11		1	17	1	1													3							40		
		中粒シルト	0.032mm 以下							3		10	1		52															1							67		
	基質																																			146		
	孔隙																																			40		

表 2-4　ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片											岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	不明鉱物	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
16	礫	細礫	2mm 以上																																	0	片岩類・堆積岩類主体、深成岩類	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																		8	14	9													31		
		粗粒砂	0.5-1mm																		4															4		
		中粒砂	0.25-0.5mm										1																							1		
		細粒砂	0.125-0.25mm										5										1					1								7		
		極細粒砂	0.064-0.125mm										3			5	1	1			1		2						2	2						17		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							2			17	1	2	27													4	1						54		
		中粒シルト	0.032mm 以下							3			16			66														2						87		
	基質																																			190		
	孔隙																																			21		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片											岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	不明鉱物	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
17	礫	細礫	2mm 以上																				22													22		
	砂	極粗粒砂	1-2mm																																	0		
		粗粒砂	0.5-1mm										1									7		2												10		
		中粒砂	0.25-0.5mm										6	1								5														12		
		細粒砂	0.125-0.25mm										11								2	4							5	1	1					24		
		極細粒砂	0.064-0.125mm										11	4							3	1		1					12							32		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							1			22	6			1	3			1	2							17	2						55		
		中粒シルト	0.032mm 以下							1			33	2		3		3												3						45		
	基質																																			128		
	孔隙																																			8		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片											岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	不明鉱物	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
18	礫	細礫	2mm 以上																																	0	片岩類主体珪藻化石（淡水種 *Pinnularia lata*）	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				35						1							36		
		粗粒砂	0.5-1mm																				28						5		4					37		
		中粒砂	0.25-0.5mm										1										8					1	9	1	3					23		
		細粒砂	0.125-0.25mm										1										3					3	2		1					10		
		極細粒砂	0.064-0.125mm										5				1											7	4							17		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							3			14	1		2		1										3	14							38		
		中粒シルト	0.032mm 以下							5			33	1		4		1										1		4						49		
	基質																																			149		
	孔隙																																			7		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片											岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	不明鉱物	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
19	礫	細礫	2mm 以上																				31													31		
	砂	極粗粒砂	1-2mm																		3		16						6							25		
		粗粒砂	0.5-1mm																		4	4	2	3						4						17		
		中粒砂	0.25-0.5mm										1											1													2		
		細粒砂	0.125-0.25mm										3			1								1													5		
		極細粒砂	0.064-0.125mm										4			5																					9		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							1			6			22	1																				30		
		中粒シルト	0.032mm 以下										10			69														8						87		
	基質																																			130		
	孔隙																																			22		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																合計	備考	砂粒による分類
				微化石類									鉱物片											岩石片															
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	不明鉱物	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石						
20	礫	細礫	2mm 以上																		4	36														40		
	砂	極粗粒砂	1-2mm																			6														6		
		粗粒砂	0.5-1mm																			8	4						2							14		
		中粒砂	0.25-0.5mm														1						3						1							5		
		細粒砂	0.125-0.25mm										7	1		2		1											4	2						17		
		極細粒砂	0.064-0.125mm										6			16	4												3							29		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm										12			46	11	1											1							71		
		中粒シルト	0.032mm 以下										6			32	9	1												1						49		
	基質																																			37		
	孔隙																																			6		

表 2-5　ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																				合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
21	礫	細礫	2mm 以上																				15					17				32	片岩類・テフラ主体	A3
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				28									28		
		粗粒砂	0.5-1mm									2											20					2				24		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2											22				3	1				28		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1			1	1					1		3				4	2				13		
		極細粒砂	0.064-0.125mm							1		1	1										1				11	2				17		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							3		5			2		3										3	1	2			19		
		中粒シルト	0.032mm 以下							3		25			3		1												8			40		
	基質																															179		
	孔隙																															28		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																				合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
22	礫	細礫	2mm 以上																													0	片岩類主体	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				49									49		
		粗粒砂	0.5-1mm																				12						2			14		
		中粒砂	0.25-0.5mm																				5					1				6		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1											7					3	1			12		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									10				1							4					6	1			22		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									31	1		2	1												11	1			47		
		中粒シルト	0.032mm 以下									42			4	1													4			51		
	基質																															142		
	孔隙																															6		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																					合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
23	礫	細礫	2mm 以上																				43									43	片岩類主体	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				17									17		
		粗粒砂	0.5-1mm									2											5					1	3			11		
		中粒砂	0.25-0.5mm									3											3					2				8		
		細粒砂	0.125-0.25mm									5											1					7	1			14		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									3			4		4											7	1			19		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							1		13			12		8											5	1			40		
		中粒シルト	0.032mm 以下							1		20			25		2												3			51		
	基質																															134		
	孔隙																															17		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																					合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
24	礫	細礫	2mm 以上																				25									25	片岩類・テフラ主体、堆積岩類、深成岩類	A3
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				19									19		
		粗粒砂	0.5-1mm																				2							12		14		
		中粒砂	0.25-0.5mm																				1				5	2		1		9		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1									1		1				4	2				9		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									1	2														12	2		1		18		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							2		14			7	1	6										11	2				43		
		中粒シルト	0.032mm 以下							3		33			22	4	4												2			68		
	基質																															189		
	孔隙																															25		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																																					合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片												岩石片																
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
25	礫	細礫	2mm 以上																													0	堆積岩類・片岩類主体細粒質	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																													0		
		粗粒砂	0.5-1mm														2															2		
		中粒砂	0.25-0.5mm																		1	2						2				5		
		細粒砂	0.125-0.25mm									3	2				6				6	6	1	1				5	2			32		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									15	3		1		12				5	2					1	6	5			50		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									23	1		2	2	13				7	2						8	5			63		
		中粒シルト	0.032mm 以下							2		32			5		4												12			55		
	基質																															111		
	孔隙																															11		

表 2-6　ポイント法による粒子の同定・計測結果

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																														合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片											岩石片												
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
26	礫	細礫	2mm 以上																				26									26	片岩類主体、堆積岩類、深成岩類焼成温度やや高い	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																													0		
		粗粒砂	0.5-1mm																	2	6		3	3				1				15		
		中粒砂	0.25-0.5mm									1	1							2	1		3						1			9		
		細粒砂	0.125-0.25mm									5	1							1	1	1						3	1			13		
		極細粒砂	0.064-0.125mm							1		5					1			4								7	1			19		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							6		35					1	1		1								4	10			58		
		中粒シルト	0.032mm 以下							3		59			2		1												3			68		
	基質																															146		
	孔隙																															47		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																														合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片											岩石片												
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
27	礫	細礫	2mm 以上																	6	33		6									45	堆積岩類主体、片岩類、深成岩類、焼成温度やや高い	B1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																	12	14											26		
		粗粒砂	0.5-1mm																													0		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2																				2		
		細粒砂	0.125-0.25mm									9																3			3	15		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									10																			22	32		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									18			1	1													2		30	52		
		中粒シルト	0.032mm 以下							2		23			3																1	29		
	基質																															312		
	孔隙																															16		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																														合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片											岩石片												
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
28	礫	細礫	2mm 以上																		24											24	堆積岩類・片岩類主体、深成岩類	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm																		9											9		
		粗粒砂	0.5-1mm									3								9	28	2	17	9					7				75		
		中粒砂	0.25-0.5mm									1									1											2		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1																1				2		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									3					1											4				8		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							2		10			4		1											6	1			24		
		中粒シルト	0.032mm 以下									26			18	2	2												9			57		
	基質																															200		
	孔隙																															79		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																														合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片											岩石片												
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
29	礫	細礫	2mm 以上																													0	堆積岩類・片岩類主体	A2
	砂	極粗粒砂	1-2mm								1										7											8		
		粗粒砂	0.5-1mm									3			1																	4		
		中粒砂	0.25-0.5mm									4																3	1			8		
		細粒砂	0.125-0.25mm									10			3	1												7				21		
		極細粒砂	0.064-0.125mm									10			17													2				29		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm									23			36	2	1											2	1	1		66		
		中粒シルト	0.032mm 以下									19			46																	65		
	基質																															46		
	孔隙																															18		

分析番号	砂粒区分		粒度範囲	粒子の種類構成																														合計	備考	砂粒による分類
				微化石類										鉱物片											岩石片												
				放散虫化石	海水種珪藻化石	淡水種珪藻化石	不明珪藻化石	骨針化石	胞子化石	植物珪酸体化石	植物遺体化石	石英・長石類	カリ長石	斜長石	輝石類	角閃石類	雲母類	ジルコン	不透明鉱物	不明鉱物	泥岩	砂岩	チャート	片岩類	深成岩類	凝灰岩	流紋岩	火山岩	火山ガラス	多結晶石英	酸化鉄結核	粘土塊	不明岩石			
30	礫	細礫	2mm 以上																									4				4	片岩主体、堆積岩類、深成岩類	A1
	砂	極粗粒砂	1-2mm																				20	2					7			29		
		粗粒砂	0.5-1mm									2					1						22					12	1			38		
		中粒砂	0.25-0.5mm									2											3						1			6		
		細粒砂	0.125-0.25mm									1					1												1			3		
		極細粒砂	0.064-0.125mm												3		3												5			11		
	シルト	粗粒シルト	0.032-0.064mm							2		10			16	9	9												7			53		
		中粒シルト	0.032mm 以下							1		11			26	11	1												8			58		
	基質																															130		
	孔隙																															16		

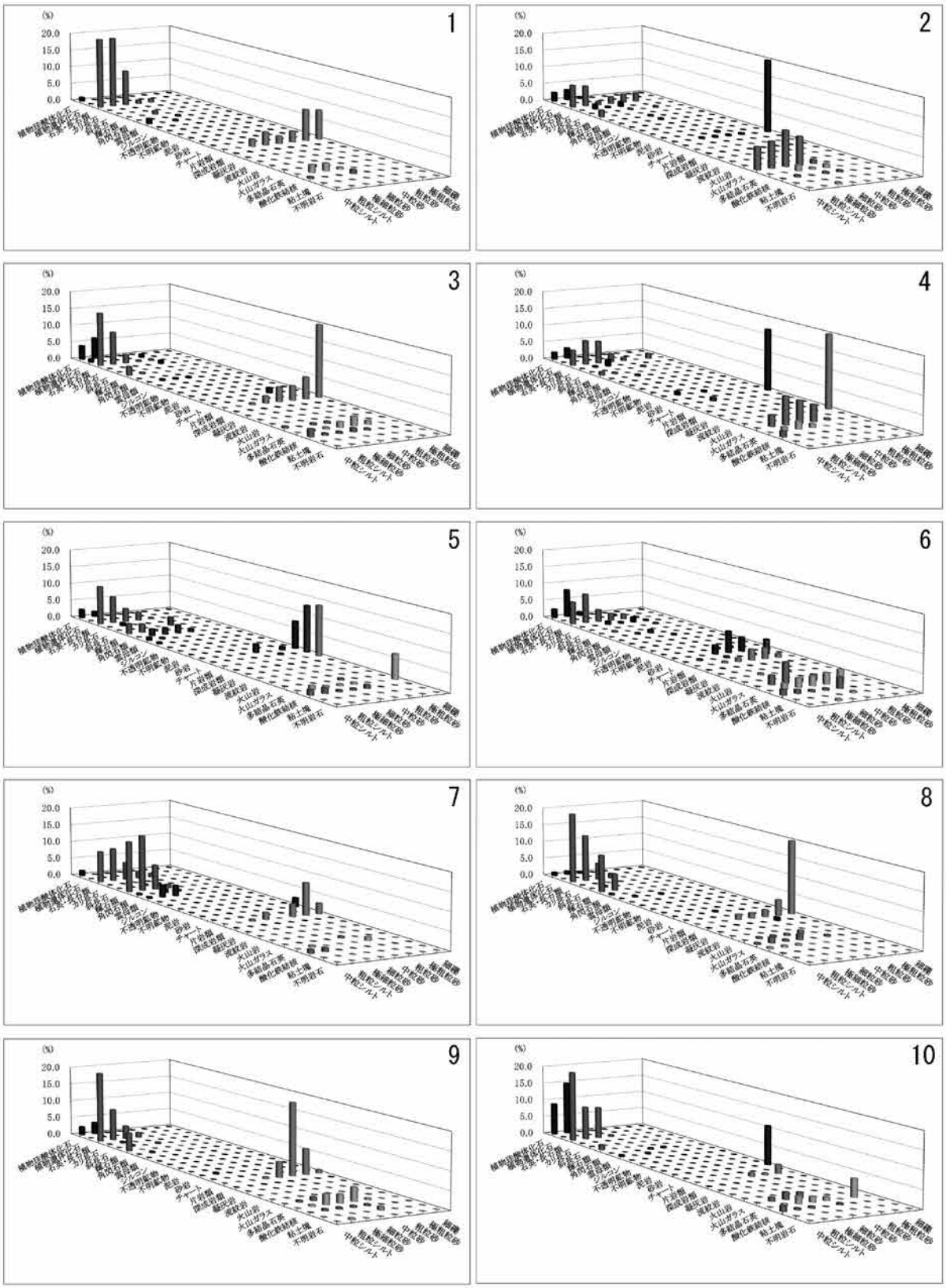


図1　胎土中の各粒度階における微化石類・鉱物・岩石の出現図（分析No. 1～10）

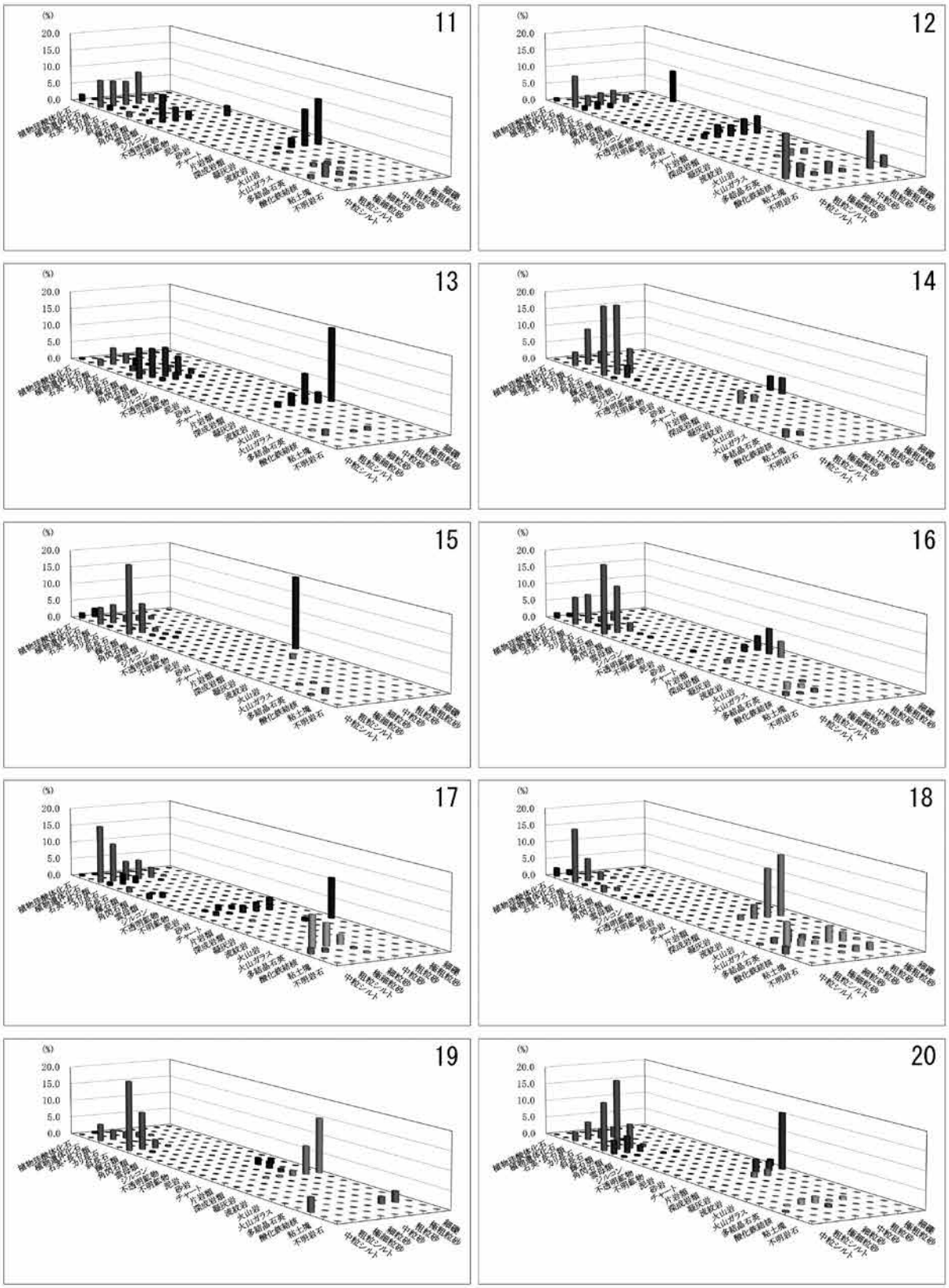


図2　胎土中の各粒度階における微化石類・鉱物・岩石の出現図（分析No. 11～20）

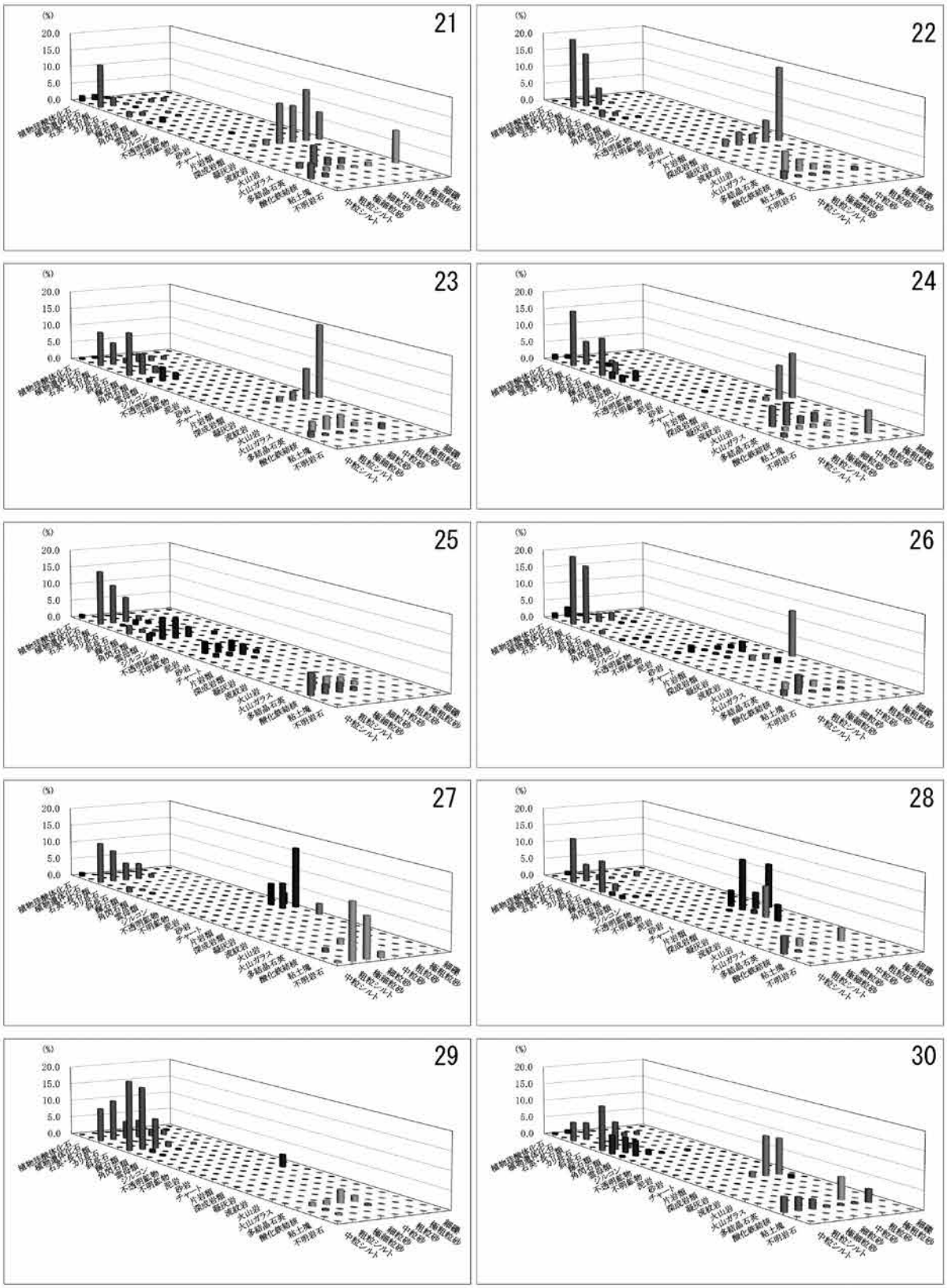


図3　胎土中の各粒度階における微化石類・鉱物・岩石の出現図（分析No. 21～30）

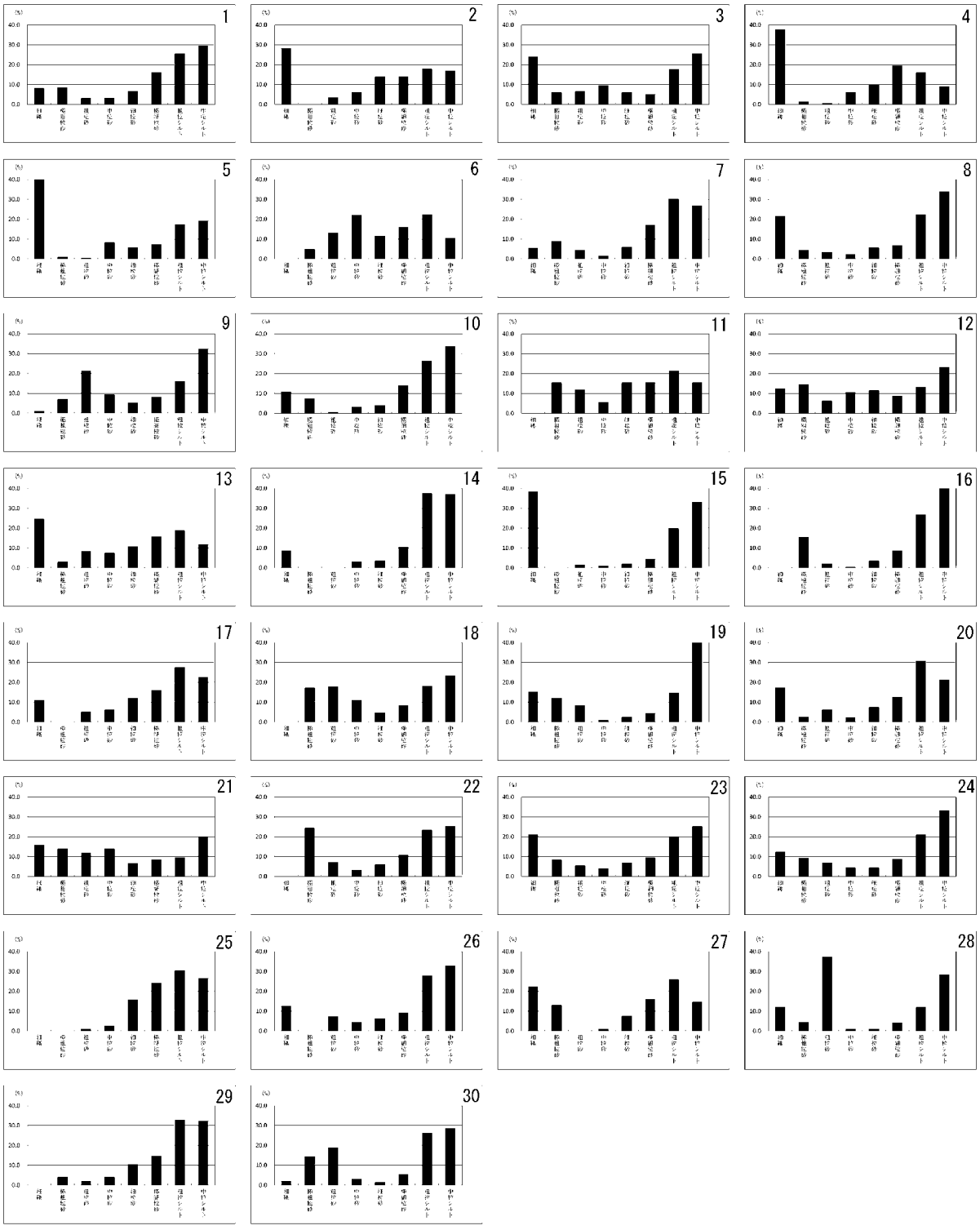
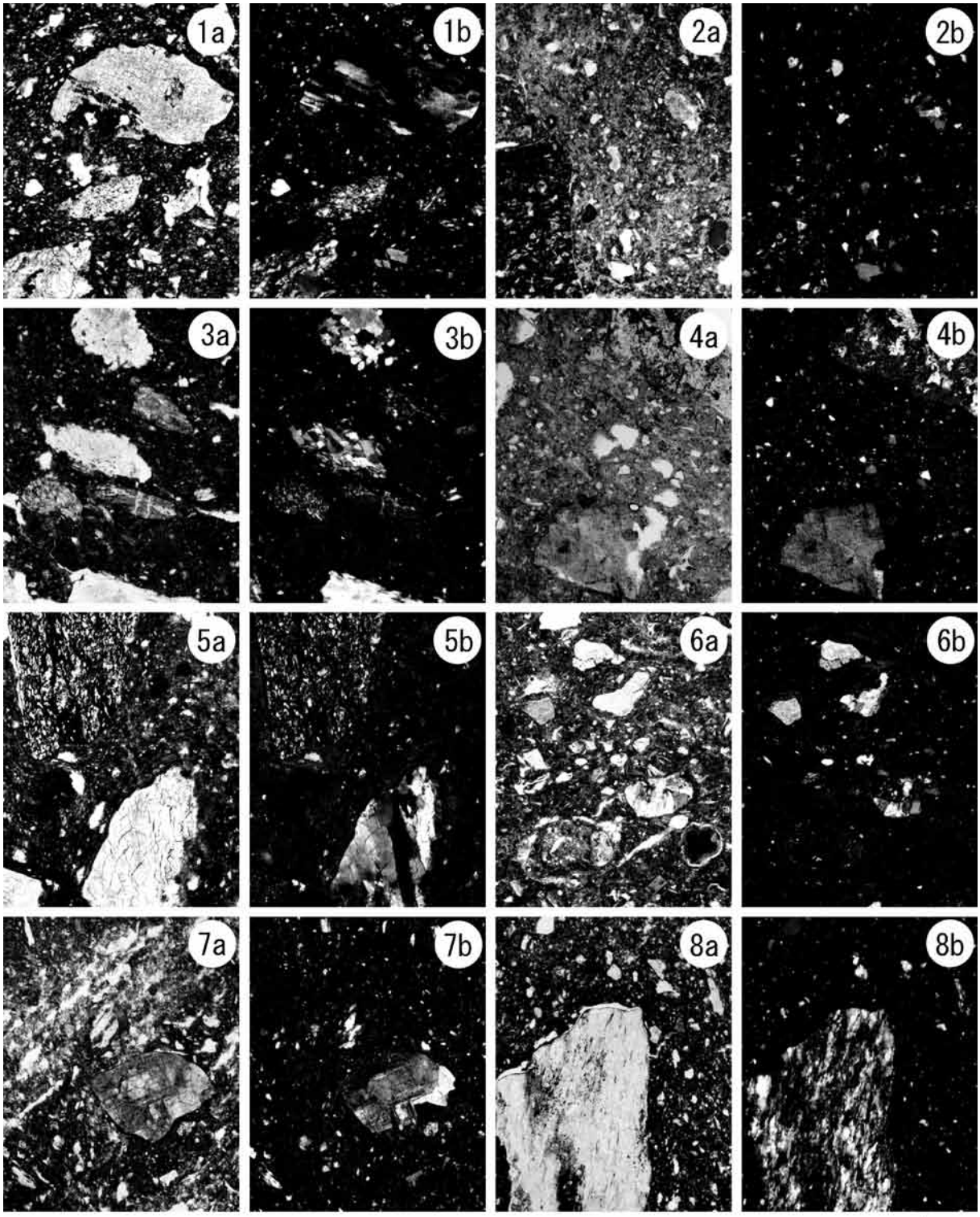


図4　胎土中の砂粒分の粒度組成図（分析No.1～30）



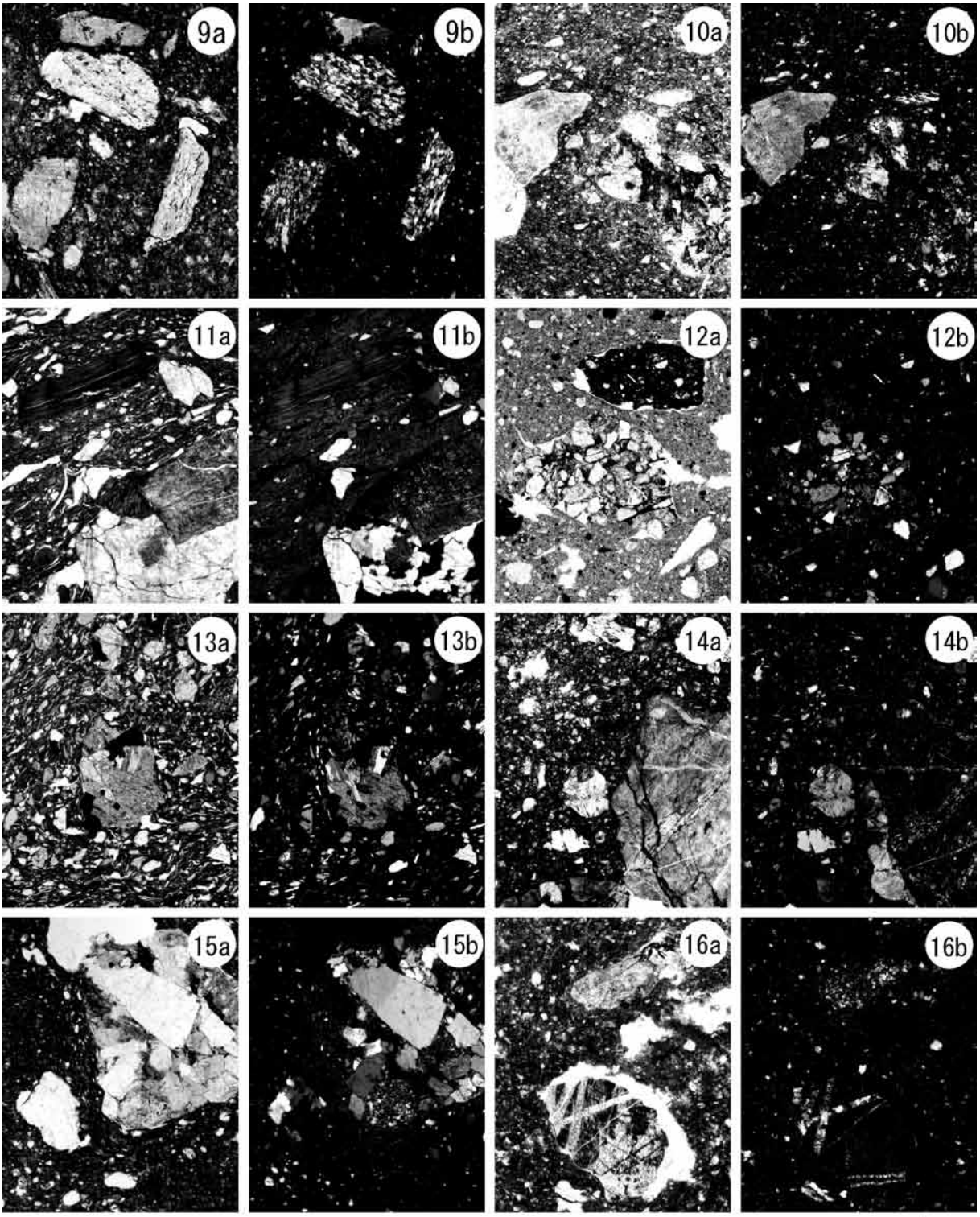
図版1　土器胎土の偏光顕微鏡写真（スケール:500μm、a: 解放ニコル、b: 直交ニコル）

1a. 分析No.1　1b. 分析No.1　2a. 分析No.2　2b. 分析No.2

3a. 分析No.3　3b. 分析No.3　4a. 分析No.4　4b. 分析No.4

5a. 分析No.5　5b. 分析No.5　6a. 分析No.6　6b. 分析No.6

7a. 分析No.7　7b. 分析No.7　8a. 分析No.8　8b. 分析No.8



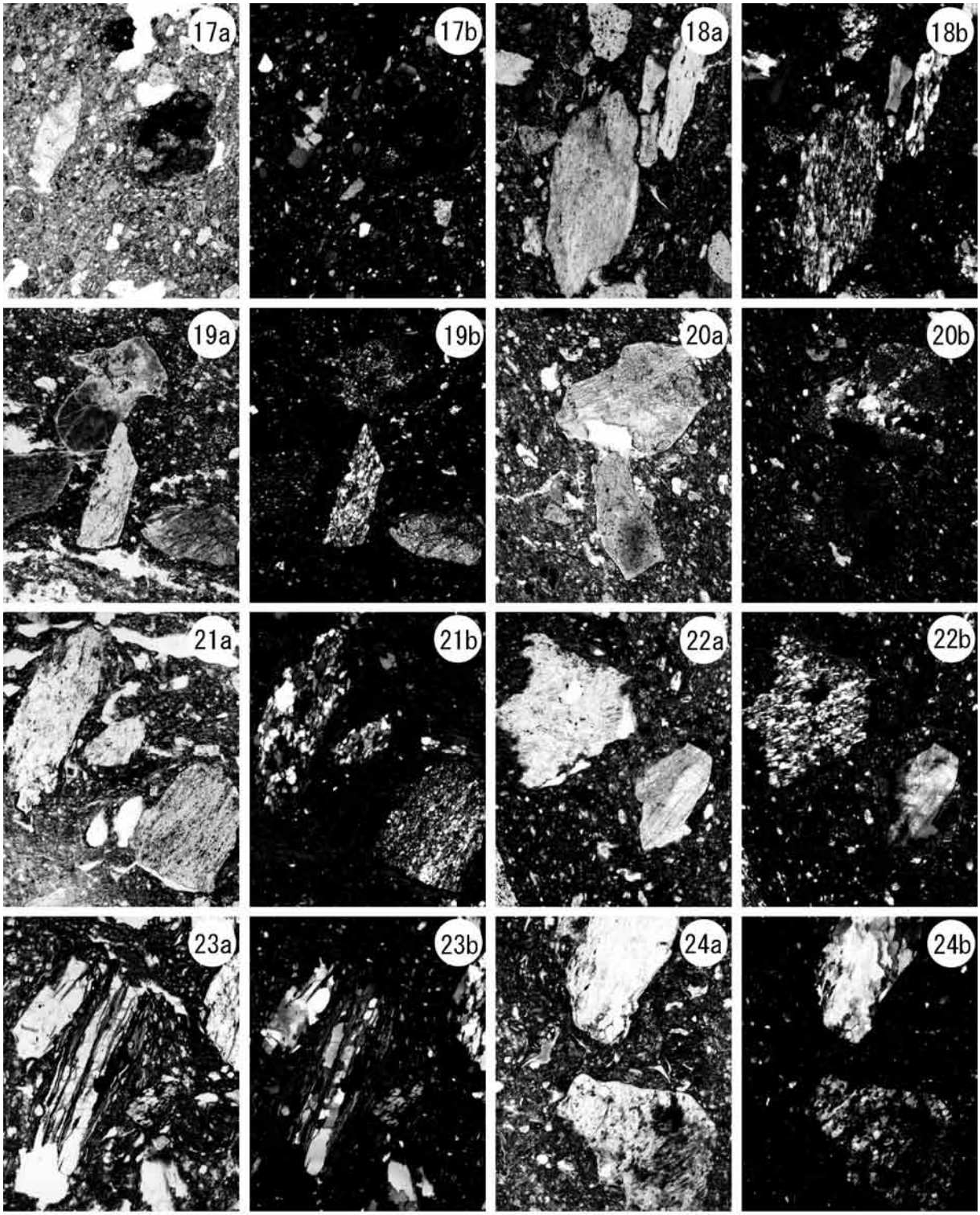
図版2　土器胎土の偏光顕微鏡写真（スケール:500μm、a: 解放ニコル、b: 直交ニコル）

9a. 分析No.9　9b. 分析No.9　10a. 分析No.10　10b. 分析No.10

11a. 分析No.11　11b. 分析No.11　12a. 分析No.12　12b. 分析No.12

13a. 分析No.13　13b. 分析No.13　14a. 分析No.14　14b. 分析No.14

15a. 分析No.15　15b. 分析No.15　16a. 分析No.16　16b. 分析No.16



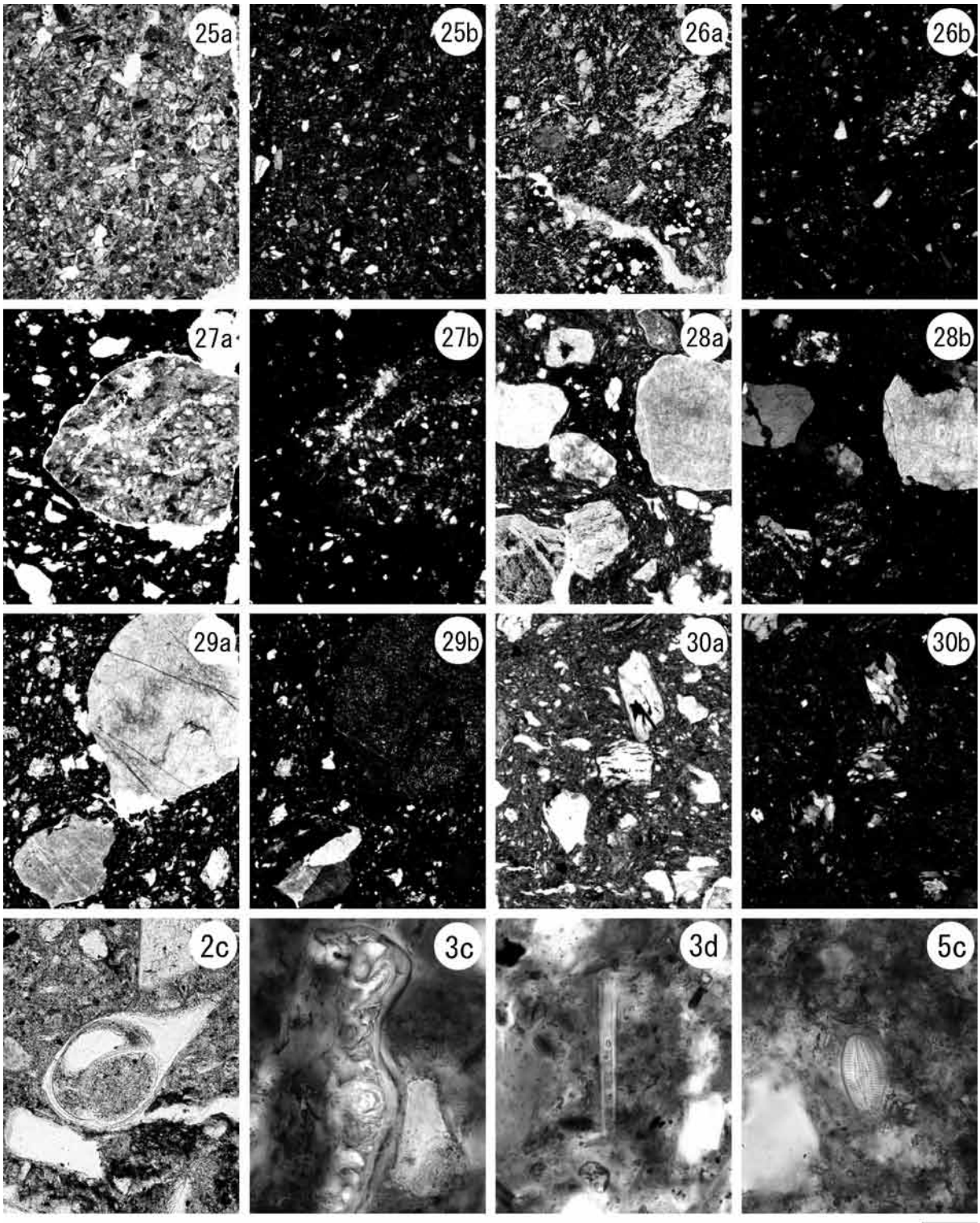
図版3　土器胎土の偏光顕微鏡写真（スケール:500μm、a: 解放ニコル、b: 直交ニコル）

17a. 分析No.17　17b. 分析No.17　18a. 分析No.18　18b. 分析No.18

19a. 分析No.19　19b. 分析No.19　20a. 分析No.20　20b. 分析No.20

21a. 分析No.21　21b. 分析No.21　22a. 分析No.22　22b. 分析No.22

23a. 分析No.23　23b. 分析No.23　24a. 分析No.24　24b. 分析No.24



図版4　土器胎土の偏光顕微鏡写真（スケール:500μm、a: 解放ニコル、b: 直交ニコル）

25a. 分析No.25　25b. 分析No.25　26a. 分析No.26　26b. 分析No.26

27a. 分析No.27　27b. 分析No.27　28a. 分析No.28　28b. 分析No.28

29a. 分析No.29　29b. 分析No.29　30a. 分析No.30　30b. 分析No.30

2c. バブル型火山ガラス（100μm）　3c. イネ穎珪酸体（20μm）

3d. 骨針化石（20μm）　5c. 珪藻化石、海水泥質干潟*Diploneis smithii*（20μm）

2節　レプリカ法による土器の種実圧痕の同定

佐々木由香・米田恭子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

和歌山市神前遺跡は、弥生時代前期から中期の水路とみられる溝などが検出された遺跡である。胎土分析が行われた30点の土器のうち、弥生時代前期の土器1点には種実の圧痕が複数確認された。ここでは種実圧痕のレプリカを採取して種実の同定を行なった。なお、同一試料で胎土分析も行われている（1節参照）。

2. 資料と方法

資料は、下層流路（5040）から出土した突帯紋系の鉢の口縁部（胎土分析番号13、実測番号10-532）である。種実圧痕は、外面に1点（圧痕番号1）、断面に1点（圧痕番号2）、内面に1点（圧痕番号3）の、計3点を確認した。土器の時期は、弥生時代前期（第Ⅰ様式併行期）と考えられている。

圧痕内を筆と流水で水洗し、乾燥条件下でブロアーを用いて付着物を除去した。その後、実体顕微鏡下で観察し、作業前の記録として土器全体と圧痕部分を撮影した。レプリカ法は、丑野・田川（1991）等を参考にして以下の手順で行った。資料の保護のため、パラロイドB72の5%アセトン溶液を離型剤にして圧痕内および周囲に含浸させた。印象剤に用いるシリコーン樹脂（JMシリコン　レギュラータイプ）を医療用注射器に入れ、圧痕部分ならびに周囲に充填してレプリカを作製した。このレプリカを実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）で観察および写真撮影を行った。なお、採取したレプリカは（株）パレオ・ラボ、土器は公益財団法人和歌山県文化財センターに保管されている。

3. 結果

採取したレプリカを同定した結果、圧痕番号1はイネの籾、圧痕番号2はキビ有ふ果、圧痕番号3は不明種実であった（表1）。産出した種実圧痕の記載と図版を掲載し、同定の根拠とする。

表1　土器種実圧痕の同定結果（単位mm、括弧は破片値）

胎土分析番号	時期	土器の器種他	遺構番号	登録番号	実測番号	圧痕番号	圧痕位置	分類群	部位	備考	長さ	幅	厚さ（mm）
13	Ⅰ併行期か	突帯紋系鉢	5040（下層流路）	15257	10-532	1	外面	イネ	籾	芒残存	6.39	3.46	(1.92)
						2	断面	キビ	有ふ果		(2.58)	(1.60)	(1.58)
						3	内面	不明	種実		2.12	1.62	(0.66)

(1) イネ　*Oryza sativa L.*　籾　イネ科

上面観が楕円形で、側面観は長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくならぶ。果柄は残存していない。先端部に芒が一部分残る。芒の周辺に100 μm以下の短いふ毛が散在する。芒を除く籾の大きさは、長さ6.39mm、幅3.46mm、残存厚1.92mm。

(2) キビ　*Panicum miliaceum L.*　有ふ果　イネ科

約半分の残存であるが、完形ならば紡錘形で先端は丸く、内頴側が膨らむ。表面は平滑で長細

胞は観察されなかった。残存長 2.58㎜、残存幅 1.60㎜、残存厚 1.58㎜。

(3) 不明種実　Unknown　種実

側面観はいびつな楕円形で、上面観はやや扁平か。表面には不規則な凹凸がある。短軸の片側中央に臍？がある。長さ 6.39㎜、幅 3.46㎜、残存厚 1.92㎜。

4. 考察

第 1 様式併行と考えられている突帯紋系の鉢に付着していた圧痕は、栽培植物であるイネの籾とキビの有ふ果、科以上の詳細な同定ができなかった不明種実であった。イネ籾は、芒の先端のレプリカが採取できなかったが、芒やふ毛などの残存状況が良かった。また厚みから、籾殻ではなく籾と判断した。キビの有ふ果は、土器の断面に約半分残存していた。

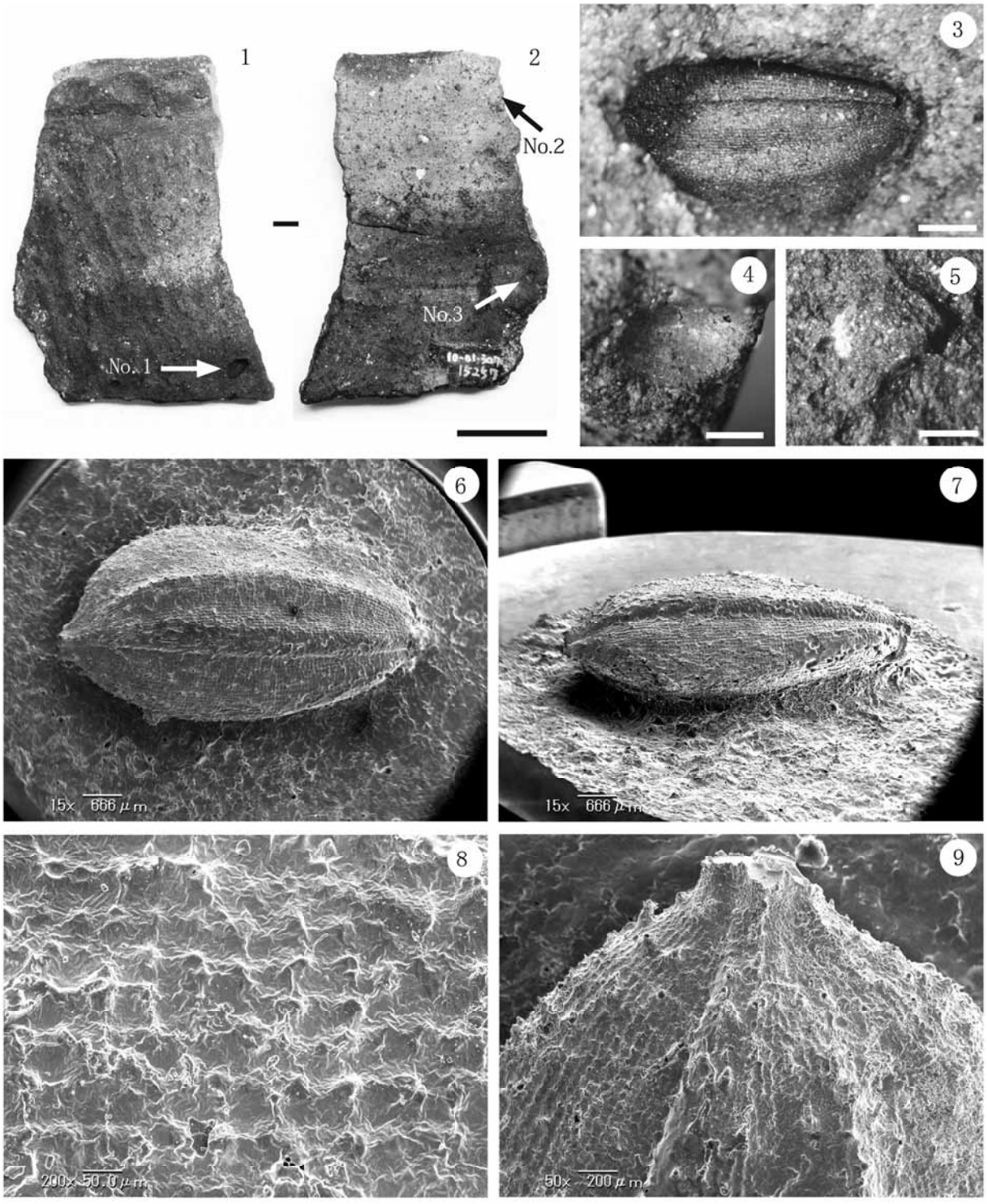
土器づくりの際にこれらの種実が付近にあり偶発的に混ざったか、意図的に混和された可能性がある。またイネ籾の圧痕はオーバーハングしており、キビ有ふ果の圧痕断面から得られた。このため、鉢を成形後に外側から種実を押し付けたのではなく、成形前に意図的に混和したか、偶発的にまざったと考えられる。

土器は、胎土分析によって生駒山西麓産と推定された突帯紋系の鉢に付着しており、そのほかの同時期の他の地域や在地の土器には種実圧痕が検出されなかった（1 節参照)。遺跡内では 16 条以上の溝が検出されており、溝は水路で、農耕稲作の開始に伴い、灌漑用水の整備がなされたと推定されている。目視では胎土分析資料外の土器にも穀類の圧痕が確認されている。したがって、胎土分析に供された以外の在地と推定される土器でも、イネやアワ・キビなどの穀類の有無を検討する必要があろう。

本分析は、平成 25 年度科学研究費基盤研究（A）課題番号 25244036「植物・土器・人骨を中心とした日本列島農耕文化複合の形成に関する基礎的研究」(代表:設楽博己)の一部を使って行った。

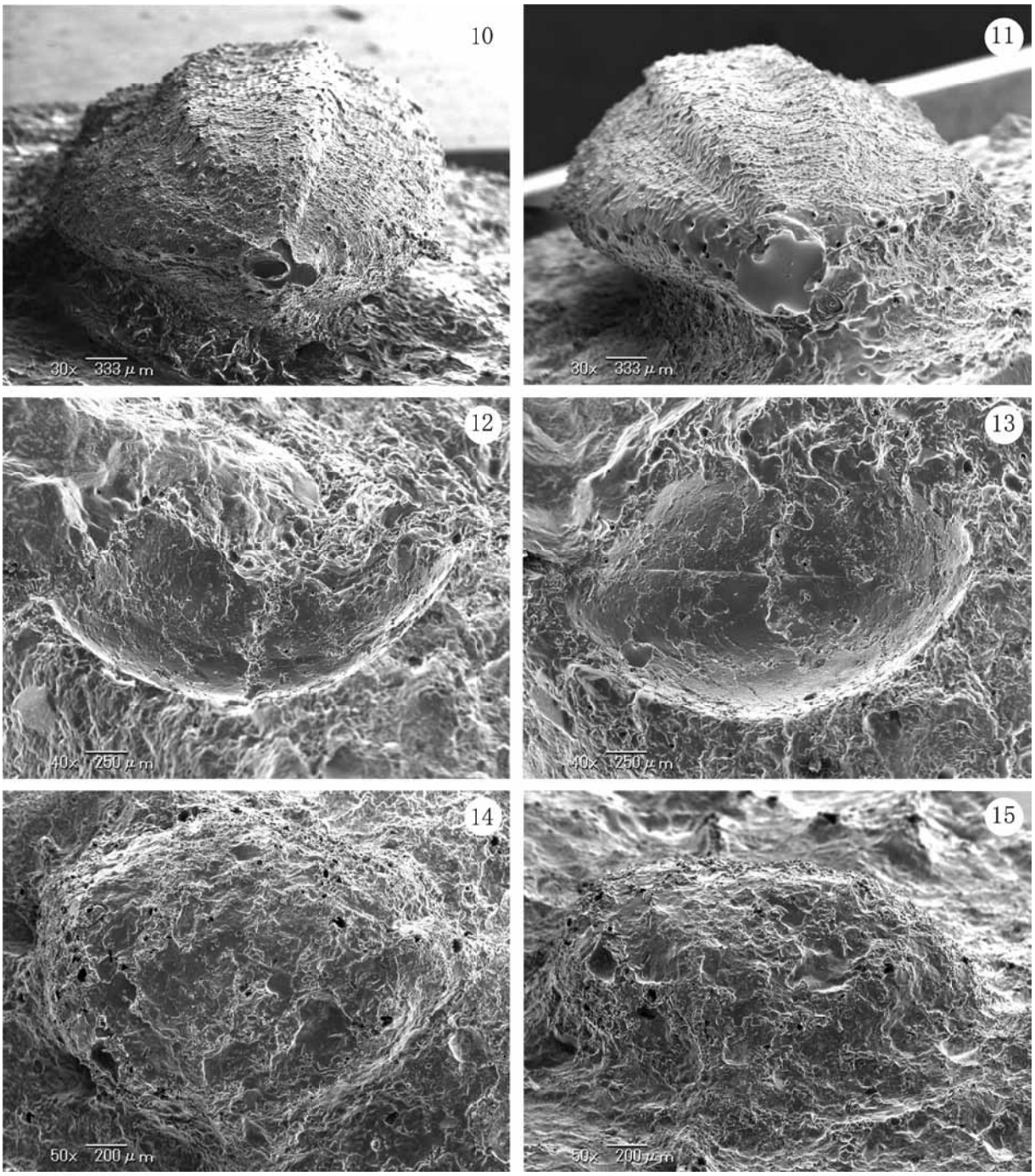
引用文献

丑野　毅・田川裕美（1991）レプリカ法による土器圧痕の観察．考古学と自然科学,24,13-36．日本文化財科学会．



図版 1　神前遺跡出土土器の種実圧痕およびレプリカ（1）

1．土器 No.13 外面、2．土器 No.13 内面、3．圧痕番号 1 の拡大、4．圧痕番号 2 の拡大、5．圧痕番号 3 の拡大、6-9．圧痕番号 1 のレプリカ（6．イネ籾、7．イネ籾（側面観）、8．イネ籾の顆粒状突起の拡大、9．イネ籾の芒およびふ毛）
圧痕部拡大写真のスケール：1㎜、走査型電子顕微鏡写真のスケール：写真上に記載、土器写真内矢印は種実圧痕位置を示す



図版２　神前遺跡出土土器のレプリカ（2）

10･11．圧痕番号１のレプリカ（10．イネ籾先端側、11．イネ籾護穎側）、12･13．圧痕番号２のレプリカ（12．キビ有ふ果（内頴側）、13．キビ有ふ果（側面観））、14・15．圧痕番号３のレプリカ（14．不明種実、15．不明種実（側面観））スケールは写真上に記載

表２　土器観察表

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
1	13	18	1区	J2	g21	003	溝	下層	弥生土器	甕	(21.5)	(5.8)	9%	粗　2.5㎜以下の石英・片岩多量	外：7.5YR6/4 内：10YR6/2	紀伊型甕。紀伊Ⅰ-3様式。口縁部の屈曲大きい。
2	13	30	1区	J2	f19	003	溝		突帯文系土器	深鉢	―	(9.5)	5%	粗　3㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：7.5YR6/4 他 内：2.5Y7/1 他	全体に磨滅著しい。円礫多量。弥生前期併行か。瀬戸式
3	13	73	1区	J2	j15	005	溝		弥生土器	壺	―	(5.1)	40%	粗　3㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：2.5Y7/3 内：2.5Y8/3	平底。弥生前～中期
4	13	70	1区	J2	j14	006	溝		弥生土器	甕	(27.6)	(8.1)	8%	粗　3㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：7.5YR5/4 内：7.5YR7/4	紀伊型甕。肩の稜線があまい。紀伊Ⅱ様式
5	13	70	1区	J2	j14	006	溝		土師器	甕	(16.5)	(3.3)	10%	密　0.5㎜以下の長石・雲母微量	外：2.5YR7/3 内：7.5YR5/4	布留式。口縁部厚く、端部を丸める。外面ハケ調整。古墳時代前～中期
6	13	70	1区	J2	j14	006	溝		土師器	高坏	(2.7)	(4.6)	75%	密　0.5㎜以下の長石・赤色酸化粒微量	外：2.5YR7/3 内：7.5YR5/4	高坏接合部。坏部に脚を差込み、円盤充填する。
7	13	210	1区	J2	h10	009	溝	上層	弥生土器	壺	―	8.8	30%	粗　2㎜以下のチャート多量	外：7.5YR7/2 内：2.5YR8/1	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式
8	13	210	1区	J2	h10	009	溝	上層	土師器	壺	(23.4)	3.3	11%	密　0.5㎜以下の長石微量	外：10YR7/3 内：2.5Y4/1	土師器壺口縁部。受口状で端部が垂下。若干加飾する。厚手
9	13	65	1区	J2	j11	009	溝		弥生土器/土師器	壺	―	(7.4)	25%	密　2㎜以下の石英・チャート少量	外：7.5YR6/4 内：5YR6/4	広口壺。庄内式期
10	13	65	1区	J2	j11	009	溝		弥生土器	甕	―	7.6	76%	密　4㎜の石英微量　1.5㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	大型のタタキ甕。底部突出し、平坦にケズリを施す。
11	13	16	1区	J2	f20	010	溝	下層	弥生土器	広口壺	(17.5)	(5.0)	10%	やや粗　2㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：5YR5/8 内：5YR5/8	全体に剥離、磨滅極めて著しい。円礫中量。Ⅱ-1様式
12	13	33	1区	J2	f21	010	溝		弥生土器	壺	―	(9.1)	100%	粗　2.5㎜以下の長石・石英・チャート・片岩多量	外：7.5YR6/2 内：10YR7/2	全体にやや磨滅ぎみ。円礫多量。Ⅰ様式
13	13	24	1区	J2	f20	010	溝	最下層	弥生土器	壺	―	(7.4)	50%	粗　3㎜以下の長石・チャート多量	外：10YR7/2 他 内：10YR7/3	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式か。
14	13	83	1区	J2	g18	013	溝	上層	弥生土器	壺	―	(4.0)	40%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/4 他 内：7.5YR5/4	平底。弥生前～中期
15	13	69	1区	J2	j13	014	溝		須恵器	甕	(22.9)	(4.1)	9%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：N5/ 内：10Y5/1	甕の口縁部か。外面に自然釉付着。端部上下に肥厚。
16	13	71	1区	J2	j14	014	溝		土師器か	壺	(14.5)	(6.5)	13%	やや粗　4㎜以下の長石・石英・片岩多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	無頸壺か短頸の直口壺片。つくり、胎土粗い。タタキ後ナデか。年代不詳。
17	13	71	1区	J2	j14	014	溝		土師器	高坏	―	(5.6)	63%	密　0.5㎜以下の長石・赤色酸化粒微量	外：2.5YR7/3 内：2.5YR7/2	厚手で、ケズリ調整がみられる。
18	13	72	1区	J2	j14	014	溝		土師器	把手	―	―	80%	密　2.5㎜以下の石英微量	外：5YR7/4 内：7.5YR7/4	土師器把手。先端欠失。
19	13	197	1区	J2	f11	019？	(008溝内)		突帯文系土器	深鉢	―	3.9	10%	粗　2.5㎜以下の赤色酸化粒・チャート・石英・長石多量	外：7.5YR5/4 内：10YR8/2	突帯紋系土器の深鉢片か。縄文晩期～弥生前期併行。胎土粗い。
20	13	151	1区	J2	d22	020	溝		弥生土器	壺	―	4.3	40%	やや密　2.5㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR6/3 内：2.5YR6/1	弥生土器底部。底に種子圧痕あり。
21	13	150	1区	J2	d20	021	溝		弥生土器	広口壺	(25.4)	(5.0)	20%	密　2㎜以下の長石・チャート少量	外：5YR5/6 内：5YR6/4	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅱ-1様式
22	13	154	1区	J2	e21	022,023	溝		弥生土器	広口壺	(31.6)	(2.0)	5%	粗　2㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅱ様式か。広口壺。口縁部肥厚し、下端に刻目を施す。
23	13	154	1区	J2	e21	022,023	溝		弥生土器	広口壺	(10.0)	(3.9)	16%	粗　2㎜以下のチャート・石英少量	外：5YR6/6 内：10YR7/3	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。頸部にヘラ描沈線を施す。
24	13	194	1区	J2	e19	022,023	溝		弥生土器	甕か鉢	―	(3.4)	80%	やや密　2㎜以下の片岩・石英少量	外：7.5YR6/3 内：N4/	甕か鉢の底部。ドーナツ底
25	13	216	1区	J2	e20,21	023	溝		弥生土器	直口壺	(7.9)	(4.2)	25%	粗　3㎜以下の長石・石英・赤色酸化粒多量	外：5YR6/4 内：5YR6/6	紀伊Ⅱ様式。壺口縁部。櫛描波状紋で飾る。
26	13	208	1区	J2	f18	024	溝		弥生土器	甕	―	(5.8)	100%	やや粗　4㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR7/2 内：10YR8/3	内面剥離、磨滅著しい。外面一部剥離、磨滅著しい。
27	13	28	1区	J2	e22	068	土坑		弥生土器	壺	―	(7.4)	100%	粗　4㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：10YR7/3 他 内：7.5YR6/4	角礫多量。Ⅰ様式
28	15	38	1区	J2	g18,19	008	溝		土師器	皿	(13.8)	2.2	12%	密　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/6	平安時代。多段ヨコナデを行う。歪みが大きい。
29	15	38	1区	J2	g18,19	008	溝		土師器	埦	(14.4)	(2.9)	12%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 内：5YR7/6	平安時代。多段ヨコナデの若干残る土師器埦
30	15	63	1区	J2	j11	031	井戸		土師器	埦	―		33%	密　0.5㎜以下の石英・片岩・赤色酸化粒微量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/3	土師埦高台片。低くふんばった高台。磨耗。平安時代。10世紀頃か。
31	15	63	1区	J2	j11	031	井戸		土師器	台付皿	―	(2.1)	20%	粗　1.5㎜以下の石英微量　1.5㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/4 内：10YR8/3	高台付の土師器皿。平安時代末頃
32	18	61	1区	J2	j10	011	溝	上層	青磁	碗	―	(2.3)	20%	密	釉：5GY6/1 露胎：7.5Y6/1	太宰府分類。龍泉窯系青磁碗Ⅰ5b類
33	18	203	1区	J2	g,h9	011	溝		土師器	小皿	8.5	1.8	88%	密　3㎜の石英２個　1㎜以下の白色微粒微量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	全体に磨滅著しい。
34	18	209	1区	J2	g10	011	溝		瓦器	椀	15.0	6.9	53%	密　1㎜の白色粒微量	外：N4/ 内：N3/	全体に磨滅著しいため内面側壁ミガキ、見込、暗文不明。14世紀前半
35	18	203	1区	J2	g,h9	011	溝		備前焼	擂鉢	(32.0)	(8.1)	5%	密　0.6㎜以下の長石・チャート少量	外：7.5YR4/1 他 内：7.5YR5/1 他	中世5-a期（間壁Ⅳ B期）（乗岡中世５期）15世紀後半
36	18	62	1区	J2	j11	012	小溝		瓦器	小皿	(8.2)	1.4	30%	密　2.5㎜以下の片岩・石英微量	外：N4/ 内：10YR7/2	中世。焼成あまく、磨耗する。
37	18	57	1区	J2	j17	035	石組井戸		土師器	小皿	(7.7)	1.4	30%	密　1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：5YR7/4 内：7.5YR8/3	平坦な底部だが、糸切り痕は粗密さもない。口縁部外反する。中世
38	18	57	1区	J2	i17	035	石組井戸		土師器	焙烙	(26.5)	(6.2)	20%	密　1㎜以下の石英多量　2㎜以下の片岩・チャート少量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6	頸があり、底部にタタキがみられる。紀伊南部に多い形態。亜円礫少量。煤付着。16世紀後半頃
39	18	29	1区	J2	f22	036	井戸	井戸側内	磁器青磁	碗	―	(3.5)	100%	密	釉：7.5GY6/1 露胎：2.5YR5/4	太宰府分類：龍泉窯系青磁碗。青磁連弁文C群
40	18	207	1区	J2	g17	042	土坑		施釉陶器瀬戸美濃系	折縁皿	(10.4)	2.2	25%	密	釉：7.5Y5/3　露胎：7.5YR5/4	1580～1590年の製品
41	18	207	1区	J2	g17	042	土坑		瓦	軒丸瓦	13.4	―	100%	粗　3㎜以下の赤色酸化粒・白色微粒多量	5Y7/1 他	全体に磨滅著しい。焼成遺存不良。
42	18	207	1区	J2	g17	042	土坑		瓦	軒丸瓦	13.6	―	50%	密　1㎜の赤色酸化粒微量	N4/～N7/	全体に磨滅著しい。
43	18	77	1区	J2	f21	051	焼土坑	焼土	無釉陶器	擂鉢	―	(6.4)	100%	粗　1.5㎜の長石少量　7㎜以下の赤色酸化粒多量　5㎜以下の片岩少量	外：5YR5/4 内：2.5YR6/4 他	全体に磨滅著しい、特に外面体部の剥離は極めて著しい。在地生産品か。
44	18	19	1区	J2	f20	060	土坑		瓦質土器	甕	(64.8)	(8.8)	17%	密　5㎜以下の石英少量	外：10YR4/1 内：10YR4/1	口縁端部の剥離、磨滅著しい。
45	18	36	1区	J2	h17	069	土坑		土製品	管状土錘	3.4	5.3	100%	密	7.5Y6/1 他	指頭圧痕多い。
46	19	198	1区	J2	f14	025	小溝		染付（肥前系）	広東碗蓋	9.5	2.8	90%	密	釉：10GY8/1 露胎：N8/0	折枝梅文。19世紀
47	19	198	1区	J2	f14	025	小溝		染付（肥前系）	碗	(10.7)	5.3	50%	密	外：5B7/1 内：7.5GY7/1	厚底で灰色がかる。波佐見焼か
48	19	198	1区	J2	f14	025	小溝		染付（肥前系）	碗	―	(3.3)	38%	密	釉：2.5GY8/1 他	二重網目文
49	19	198	1区	J2	f14	025	小溝		土師質土器	焙烙	(36.9)	(4.6)	8%	密　1㎜以下の石英・長石・雲母多量	外：5YR6/4 内：5YR6/6	江戸時代後期。耳の一部が残る。
50	19	4	1区	J2	g20	056	土坑		染付（肥前系）	碗	(10.0)	5.5	27%	密	釉：2.5GY8/1 露胎：5Y8/1	やや薄手
51	19	4	1区	J2	g20	056	土坑		唐津 or 瀬戸美濃	小坏	(6.4)	3.4	90%	密	釉：2.5Y4/4 露胎：2.5Y6/2	褐釉が見込みに溜る。
52	19	39	1区	J2	g19	056	土坑		施釉陶器肥前系	鉢	―	(4.8)	100%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：2.5YR4/3 内：2.5YR4/1 他	鉄釉に白土をかけてハケ目調整
53	19	4	1区	J2	g20	056	土坑		平瓦	軒平瓦	23.3	4.0	80%	密　細かい石英少量　灰色砂粒多量	N4/0 他	軒丸瓦
54	19	196	1区	J2	d23	058	土坑		土師質土器	焙烙	(26.4)	(7.8)	25%	密　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR4/2 内：7.5YR7/4	土塲（焙烙）16世紀後半～17世紀前半
55	19	196	1区	J2	d23	058	土坑		青磁染付（肥前系）	小皿	(10.5)	3.1	40%	密	釉：10GY7/1 露胎：N8/0	五弁花文、桝に寿。口縁内に四方襷文
56	19	196	1区	J2	d23	058	土坑		染付（肥前系）	碗	―	4.0	100%	密	外：10BG7/1 他 内：5GY8/1	高台に離れ砂。草花文
57	19	196	1区	J2	d23	058	土坑		肥前系（唐津）	碗	―	(2.3)	15%	密	釉：5Y7/3、10YR4/2 他	ハケメ唐津
58	19	196	1区	J2	d23	058	土坑		瓦	軒丸瓦	―	―	95%	密　2㎜のチャート微量　細かい片岩少量	7.5Y6/1	41と同笵

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
59	19	20	1区	J2	h18	065	ピット		瓦	軒丸瓦	―	―	40%	密　5㎜の片岩１個　4㎜の灰色小石１個　1㎜以下の赤色酸化粒・白色微粒少量	5Y6/1 他	全体に磨滅著しい。
60	19	20	1区	J2	h18	065	ピット		瓦	軒平瓦	―	―	40%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・白色微粒少量	5Y6/1 他	全体に磨滅著しい。
61	19	20	1区	J2	h18	065	ピット		瓦	鬼瓦	―	―	10%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	N4/	鬼瓦。正面から見て左下部。瓦質焼成。立体的につくる。
62	26	166	2区	J3	c23	201	溝		弥生土器	壺	―	(5.6)	13%	密　3㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR7/3 内：2.5Y7/3	全体にやや磨滅ぎみ。Ⅰ-2様式か。
63	26	149	2区	J3	c23	201	溝	上～下層	弥生土器	壺	―	(10.1)	90%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/6 内：5YR5/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式
64	26	256	2区	J3	b21	201	溝	取上11	弥生土器	広口壺	19.6	30.4	85%	やや粗　7㎜以下石英多量　1㎜以下の角閃石多量	外：2.5YR6/6 他 内：2.5YR6/6 他	全体に剥離、磨滅著しい。口縁部やや歪つ。角閃石、角礫多量。Ⅰ-3様式
65	26	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	広口壺	(17.4)	(6.6)	10%	密　4㎜以下の石英多量　細かい雲母少量　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：5YR6/6 他 内：5YR7/6 他	全体に磨滅著しい。Ⅱ-1様式
66	26	137	2区	J3	a20	201	溝	下層	弥生土器	直口壺	(11.0)	(13.8)	25%	粗　1.5㎜以下のチャート・片岩多量	外：5YR7/6 内：5YR6/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ-2様式
67	26	240	2区	J3	a19	201	溝		弥生土器	甕	(21.1)	(7.3)	10%	密　2㎜以下の片岩多量　2㎜以下の石英少量	外：10YR5/1 内：10YR6/1	全体に磨滅ぎみ。Ⅱ-1様式
68	26	248	2区	J3	b21	201	溝	取上10	弥生土器	甕	(19.2)	(7.7)	13%	粗　1.5㎜以下の石英・チャート・片岩多量　4㎜の石英１個	外：7.5YR7/4 内：7.5YR6/6	全体に磨滅著しい。角礫多量含む。紀伊型甕。Ⅱ-1様式
69	26	166	2区	J3	c23	201	溝		弥生土器	鉢	(14.6)	(7.5)	10%	粗　5㎜以下の長石・チャート多量	外：5YR6/6 内：2.5Y7/3	内面剥離、磨滅著しい。Ⅰ-2様式か
70	26	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	鉢	(15.8)	(7.2)	13%	粗　2㎜のチャート・片岩多量　3㎜の片岩少量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR8/4	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-2様式か
71	26	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	鉢	(28.5)	(8.2)	13%	密　3㎜以下の長石・チャート多量　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/6 内：7.5YR7/3 他	全体に磨滅ぎみ。
72	26	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	壺	―	(4.6)	100%	粗　3㎜以下の赤色酸化粒・石英多量　5㎜の石英少量	外：10YR8/3 他 内：10YR8/4	全体に剥離、磨滅極めて著しい。亜角礫多量。Ⅰ様式
73	26	267	2区	J3	b21	201	溝		弥生土器	壺	―	(4.1)	50%	密　3㎜以下の石英中量　4㎜以下のチャート多量	外：5YR6/6 内：2.5Y7/2	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ様式
74	26	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	壺	―	(7.1)	75%	密　8㎜以下の石英・片岩多量	外：10R6/6 内：10YR7/1 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
75	26	263	2区	J3	b20	201	溝	取上29	弥生土器	鉢？	―	(14.6)	50%	密　1～3㎜の石英多量	外：10YR7/4 内：5YR6/6 他	外面剥離、磨滅著しい。Ⅰ様式
76	26	240	2区	J3	a19	201	溝		弥生土器	壺	―	(12.0)	50%	密　2㎜のチャート多量　1㎜の石英少量	外：N4/0 他 内：2.5Y4/1	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ様式
77	27	234	2区	J3	a19	201	溝	取上26	弥生土器／土師器	壺	―	(10.8)	70%	密　1㎜に赤色酸化粒少量　5㎜以下の石英・片岩・石英多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	全体に剥離、磨滅著しい。角礫少量。庄内式併行期古段階か。
78	27	239	2区	J3	a19	201	溝	取上19	弥生土器	小型直口壺	(6.3)	16.3	88%	やや粗　1.5㎜以下の石英・片岩多量　2㎜以下の赤色酸化粒・石英微量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/3	全体に磨滅著しい。庄内式併行期古段階
79	27	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	ミニチュア土器（壺）	(6.1)	7.6	75%	密　4㎜以下の石英微量　1㎜の赤色酸化粒微量　銀色の微粒	外：10YR7/3 内：10YR7/3	全体にやや歪つ。庄内式併行期古段階
80	27	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	ミニチュア土器（甕）	(5.2)	6.6	85%	密　2㎜以下の石英少量　1㎜の片岩・赤色酸化粒微量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	全体に磨滅ぎみ。庄内式併行期古段階
81	27	233	2区	J3	b21	201	溝	取上7	弥生土器／土師器	広口壺	13.0	21.3	95%	密　3㎜以下の赤色酸化粒・石英・長石少量	外：7.5YR7/4 内：2.5Y4/1	広口壺。全体に剥離、磨滅著しい。全体にやや歪つ。庄内式併行期古段階
82	27	257	2区	J3	b21	201	溝	取上8	弥生土器	甕	14.8	21.4	100%	密　12㎜以下の石英少量　3㎜以下の長石微量	外：7.5YR7/6 他 内：7.5YR6/6 他	全体に磨滅ぎみ。Ⅴ-6様式
83	27	253	2区	J3	a19	201	溝	取上22	弥生土器	甕	16.6	19.6	60%	密　14㎜以下の石英・長石多量	外：2.5Y4/1 他 内：5Y6/1 他	全体にやや歪つ。内面全体に磨滅著しい。庄内式併行期古段階
84	27	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器	甕	16.2	20.5	70%	やや粗　5㎜以下の赤色酸化粒・石英・片岩多量	外：7.5YR6/3 内：7.5YR6/4	全体にやや歪つ。全体にやや磨滅ぎみ。Ⅴ-6様式
85	27	245	2区	J3	b21	201	溝	取上3	弥生土器	甕	(17.2)	(6.8)	25%	密　2㎜以下の片岩少量　3㎜の石英微量　1㎜の赤色酸化粒微量	外：2.5YR6/6 他 内：2.5YR5/6 他	庄内式併行期古段階
86	27	250	2区	J3	b21	201	溝	取上12	弥生土器	甕	17.0	(10.3)	60%	密　23㎜の石英１個　10㎜の石英・長石・片岩中量　1㎜以下の赤色酸化粒と白色砂粒多量	外：5YR6/6 内：7.5YR6/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。庄内式併行期古段階
87	27	267	2区	J3	b21	201	溝		弥生土器	甕	(16.7)	(12.5)	25%	密　5㎜の片岩・赤色酸化粒微量　1㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/4	全体にやや磨滅著しい。庄内式併行期古段階
88	27	254	2区	J3	b21	201	溝	取上6	弥生土器	甕	(16.4)	(13.4)	33%	密　2㎜以下の石英。赤色酸化粒微量	外：10YR7/3 内：2.5Y7/3	全体にやや磨滅ぎみ。庄内式併行期古段階
89	27	236	2区	J3	a19	201	溝	取上27	弥生土器	甕	―	(12.8)	75%	密　1㎜以下の長石・赤色酸化粒微量　5㎜以下の石英・長石微量	外：2.5YR6/3 内：10YR7/2	内面磨滅ぎみ。Ⅴ-6様式
90	27	149	2区	J3	c23	201	溝		弥生土器／土師器	小型甕	7.7	7.9	75%	密　2.5㎜以下の石英・長石・片岩・赤色酸化粒少量	外：10YR7/3 内：10YR6/4	全体に磨滅著しい。庄内式併行期古段階
91	27	239	2区	J3	a19	201	溝	取上19	弥生土器／土師器	小型甕	(10.6)	11.2	85%	密　4㎜以下の長石・チャート少量　3㎜以下の石英多量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	全体に歪つ。全体に磨滅著しい。亜角礫多量。庄内式併行期古段階
92	27	247	2区	J3	b23	201	溝	取上1	弥生土器	甕	11.6	(12.3)	75%	密　2.5㎜以下の赤色酸化粒・片岩少量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	全体に磨滅ぎみ。外面全体に礫薄く付着、庄内式併行期古段階
93	27	235	2区	J3	a19	201	溝	取上25	弥生土器	甕	(13.6)	(10.5)	50%	密　3㎜の石英・長石微量　1㎜以下の白色微粒多量	外：7.5YR5/4 内：5YR6/1 他	内面剥離、磨滅著しい。庄内式併行期古段階
94	28	262	2区	J3	b20	201	溝	取上18	弥生土器	甕	18.2	24.1	80%	密　1.5㎜以下の石英微量	外：7.5YR6/3 他 内：10YR7/4 他	外面の磨滅著しい。全体に歪み著しい。Ⅴ-6様式
95	28	162	2区	J3	b21	201	溝		弥生土器	甕	(15.3)	(23.7)	33%	密　8㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：5YR6/6 他 内：10YR7/3 他	内面剥離、磨滅著しい。Ⅴ-6様式
96	28	264	2区	J3	a20	201	溝	取上13	弥生土器	甕	―	(16.2)	75%	密　3㎜以下の石英多量	外：2.5Y7/3 他 内：10YR6/3 他	全体にやや磨滅ぎみ。Ⅴ-6様式
97	28	255	2区	J3	a19	201	溝	図23	弥生土器／土師器	甕	16.8	23.2	85%	密　5㎜以下の石英中量　2㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 他 内：5YR6/6 他	全体に磨滅、剥離著しい。Ⅴ-6様式
98	28	149	2区	J3	c23	201	溝	上～下層	土師器	甕	(12.8)	(8.2)	25%	密　1㎜以下の石英少量	外：10YR8/4 内：2.5YR7/2	全体に磨滅著しい。布留式併行期中段階
99	28	265	2区	J3	b22	201	溝	取上2	土師器	甕	14.0	20.9	90%	密　3㎜以下の赤色酸化粒少量　1㎜以下の白色微粒多量	外：2.5YR4/2 内：5YR5/2 他	古墳時代前期。布留式併行期。
100	28	266	2区	J3	b22	201	溝	取上2	土師器	甕	―	(25.5)	65%	粗　4㎜以下のチャート・赤色酸化粒・片岩多量	外：5YR6/3 内：10YR6/3	丸底の体部～底部。外面ハケ目調整。
101	28	236	2区	J3	a19	201	溝	取上27	弥生土器	鉢	12.3	6.3	95%	やや粗　3㎜以下の長石少量　3㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR6/1 内：10YR6/2	全体に歪つ。全体に磨滅する。角礫多量。Ⅴ-6様式
102	28	242	2区	J3	a19	201	溝	取上20	弥生土器	鉢	12.2	7.6	70%	密　3㎜以下の石英。片岩・赤色酸化粒微量	外：5Y5/1 他 内：5Y5/1	口縁部やや歪つ。Ⅴ-6様式
103	28	260	2区	J3	b20	201	溝	取上17・18	弥生土器	鉢	(15.0)	7.6	40%	密　8㎜以下の石英多量　5㎜以下の片岩中量	外：10YR7/5 他 内：10YR7/5 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅴ-6様式。
104	28	244	2区	J3	b20	201	溝	取上15	弥生土器	鉢	18.8	9.7	75%	密　0.3㎜以下の石英・赤色酸化粒・片岩少量	外：7.5YR7/4 内：2.5YR7/3	全体にやや歪つぎみ。全体に磨滅ぎみ。Ⅴ-5様式
105	28	138	2区	J3	a19,a20	201	溝	下層	弥生土器	甕	―	(3.6)	100%	密　5㎜以下の石英少量　2㎜の片岩・赤色酸化粒微量	外：2.5YR6/8 他 内：2.5YR6/8 他	全体に磨滅著しい。Ⅴ-6様式
106	28	149	2区	J3	c23	201	溝	上～下層	弥生土器	甑	―	(3.6)	100%	密　4㎜以下の片岩・石英微量	外：10YR5/1 内：10YR5/2	全体に磨滅著しい。庄内式併行期古段階
107	29	251	2区	J3	b21	201	溝	取上4	弥生土器	鉢	(37.4)	(14.7)	17%	密　5㎜以下の石英・長石中量　1㎜以下の赤色酸化粒・白色微粒多量	外：7.5YR7/6 他 内：7.5YR7/6 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅴ-6様式
108	29	265	2区	J3	b22	201	溝	取上2	弥生土器	高坏	―	(8.9)	60%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・長石少量	外：5YR6/6 内：5YR7/6	Ⅴ-5様式
109	29	238	2区	J3	a19	201	溝	取上24	弥生土器	高坏	―	(9.0)	60%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・長石少量　2.5㎜以下の石英微量	外：5YR5/6 内：5YR5/6	全体に磨滅著しい。庄内式併行期古段階
110	29	136	2区	J3	a20,b21	201	溝	下層	弥生土器／土師器	高坏	―	(12.4)	90%	密　1㎜以下の石英微量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR6/4	庄内式期。高坏脚部。外面ヘラミガキ。
111	30	224	2区	J3	c23	201-202	溝　合流部		弥生土器	広口壺	(21.2)	(8.5)	20%	粗　2.5㎜以下のチャート・長石・赤色酸化粒多量	外：5YR6/4 内：10YR7/3	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
112	30	132	2区	J3	a18	201-202	溝 合流部		弥生土器/土師器	広口壺	—	(8.3)	55%	密 3㎜以下の石英・チャート・少量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	庄内式期。広口壺の頸部。外面ハケ。磨耗により粘土紐積み上げ痕がみえる。
113	30	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	直口壺	(15.9)	(4.9)	16%	やや粗 6㎜の石英1個 2㎜の片岩・石英多量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/4	全体に磨滅著しい。Ⅱ-1様式
114	30	116	2区	J3	a20	201-202	溝 合流部	北側上層	弥生土器	鉢	(40.9)	(8.1)	10%	やや密 1.5㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：5YR6/6 内：5YR7/6	全体に磨滅著しい。Ⅲ-3様式
115	30	223	2区	J3	c23	201-202	溝 合流部	201境界アゼ	弥生土器	鉢	(11.1)	10.9	25%	密 6㎜以下の石英・チャート多量 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：10YR8/3 内：2.5Y7/1	全体に剥離、磨滅著しい。円礫多量。Ⅰ-3様式
116	30	161	2区	J3	b21	201-202	溝 合流部		弥生土器	甕	—	(5.7)	50%	粗 4㎜以下の片岩・長石・石英多量	外：10YR5/2 内：7.5YR5/3	紀伊型甕。遺存良好。Ⅰ-3様式
117	30	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	甕	—	(6.7)	25%	粗 1.5㎜長石・片岩・赤色酸化粒多量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y4/1	全体に磨滅ぎみ。紀伊型甕。Ⅰ様式
118	30	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	壺類	—	(5.0)	95%	密 5㎜以下の石英・チャート多量 2㎜以下の片岩少量	外：2.5YR6/6 他 内：7.5YR7/4	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
119	30	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	甕	—	(5.4)	95%	密 2㎜以下の片岩多量 3㎜以下の石英中量	外：10YR7/2 他 内：2.5Y8/2 他	全体にやや磨滅ぎみ。角礫多量。Ⅰ様式か。
120	30	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	甕	—	(3.9)	100%	粗 3㎜以下の長石・片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR5/2 他 内：N3/ 他	全体に磨滅ぎみ。角礫多量。紀伊形甕。Ⅰ様式
121	31	130	2区	J3	b22	201-202	溝 合流部	上層	土師器	小形丸底壺	9.0	8.6	90%	密 3㎜以下の赤色酸化粒中量 細かい片岩多量	外：10YR6/4 他 内：10YR	全体にやや磨滅ぎみ。古墳時代前期
122	31	161	2区	J3	b21	201-202	溝 合流部		土師器	小型丸底壺	(8.2)	9.2	63%	密 5㎜以下の石英微量 1㎜以下の石英・長石多量 5㎜の赤色酸化粒1個 1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：5YR5/4 内：7.5YR6/6	全体に磨滅ぎみ。
123	31	161	2区	J3	b21	201-202	溝 合流部		土師器	壺	(15.3)	(7.8)	30%	やや粗 2㎜以下のチャート・片岩・長石多量 4㎜のチャート・片岩微量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR5/2	全体に磨滅著しい。布留式併行期中段階
124	31	115	2区	J3	a19	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器/土師器	壺	—	4.3	25%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/2	庄内式期。二重口縁壺の口頸部。2個一対の円形浮紋で飾る。
125	31	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器/土師器	甕	(16.5)	(8.4)	23%	密 1㎜以下の長石・赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/3 内：7.5YR7/3	全体にやや磨滅ぎみ。庄内式併行期古段階
126	31	224	2区	J3	c23	201-202	溝 合流部	アゼ	弥生土器/土師器	甕	(15.6)	9.7	40%	密 2㎜以下の石英・長石少量	外：10YR7/2 内：10YR7/3	内面の剥離、磨滅著しい。庄内式併行期古段階
127	31	117	2区	J3	a21	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	甕	(11.1)	(9.4)	25%	密 0.5㎜以下のチャート・赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/2	全体に磨滅著しい。Ⅴ-5様式？
128	31	130	2区	J3	b22	201-202	溝 合流部	上層	土師器	壺	(10.0)	(7.0)	68%	密 2㎜以下の赤色酸化粒・長石少量	外：5YR6/6 他 内：7.5YR7/4	外面剥離、磨滅著しい。布留式併行期新段階
129	31	130	2区	J3	b22	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器/土師器	甕	(13.0)	(8.5)	10%	密 1㎜の片岩微量 細かい雲母少量	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/2	形態的特徴と丁寧な調整から搬入品か？庄内式併行期古段階
130	31	130	2区	J3	b22	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	甕	—	(15.5)	70%	密 3㎜以下の石英・片岩・長石・赤色酸化粒少量	外：10YR7/3 他 内：5YR6/4	内面下半剥離、磨滅著しい。Ⅴ-6様式
131	31	223	2区	J3	c23	201-202	溝 合流部	210アゼ境界	弥生土器	甕	—	(2.3)	95%	密 1㎜以下の石英中量	外：2.5Y7/2 他 内：5Y4/1	全体にやや磨滅ぎみ。Ⅴ-6様式
132	31	116	2区	J3	a20	201-202	溝 合流部	北側上層	弥生土器	鉢	—	(6.5)	63%	密 3㎜以下の石英微量 2㎜以下の赤色酸化粒少量	外：5YR5/6 他 内：5YR7/6 他	全体に磨滅ぎみ。Ⅴ-6様式
133	31	224	2区	J3	c23	201-202	溝 合流部	アゼ	弥生土器	壺	—	(3.9)	30%	密 3㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR7/1 内：:2.5Y6/1	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅴ-6様式
134	31	118	2区	J3	a20, b20	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	鉢	(12.5)	6.8	65%	密 3㎜以下の片岩多量 10㎜以下の石英多量	外：:10YR8/4 他 内：:2.5Y6/1	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅴ-6様式
135	31	116	2区	J3	a20	201-202	溝 合流部	北側上層	弥生土器	鉢	(12.3)	(7.8)	63%	密 7㎜以下の赤色酸化粒少量 10㎜の片岩1個 1㎜以下の赤色酸化粒・白色微粒多量	外：5YR6/6 内：5YR7/6 他	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅴ-6様式
136	31	130	2区	J3	b22	201-202	溝 合流部	上層	弥生土器	高坏	—	(4.6)	90%	密 4㎜以下の石英・チャート・片岩微量	外：10YR6/4 内：10YR7/4	全体にやや歪つ。Ⅴ-6様式か。
137	31	143	2区	J3	a19	201-202	溝 合流部	上層	土師器	高坏	—	(9.8)	55%	密 3㎜以下の片岩・石英微量	外：7.5YR7/4 内：5YR6/6	庄内式期(庄内4か)。脚部は中実で長く、裾が屈折してひらく。
138	32	121	2区	J3	b20	202	溝	上層	弥生土器	甕	—	(4.6)	100%	密 3㎜以下の石英中量 3㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：2.5Y8/1 他 内：2.5Y6/1	全体に磨滅著しい。紀伊型甕か。Ⅱ様式か。
139	32	147	2区	J3	b21	202	溝	下層	弥生土器	壺	—	(6.0)	50%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：2.5Y7/3 内：2.5Y5/1	内面剥離、磨滅極めて著しい。外面磨滅ぎみ。Ⅰ様式
140	32	146	2区	J3	b20	202	溝	下層	弥生土器/土師器	甕類	—	(6.9)	100%	密 1㎜以下の赤色酸化粒・石英微量	外：10YR6/2 他 内：2.5Y8/3	全体に磨滅著しい。庄内式併行期古段階
141	33	176	2区	I4	y1	203	溝		弥生土器	広口壺	(23.0)	2.0	10%	密 1㎜以下の片岩・長石・チャート少量	外：10YR6/2 内：10YR7/3	弥生土器壺口縁部
142	33	176	2区	I4	y1	203	溝		弥生土器	広口壺	(23.8)	(4.3)	20%	密 4㎜以下の片岩多量	外：N7/0 他 内：5Y3/1 他	外面剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ-1様式
143	33	176	2区	I4	y1	203	溝		弥生土器	壺	—	(10.2)	10%	密 3㎜以下の石英中量 3㎜以下の片岩少量 細かい雲母少量	外：10YR6/3 他 内：5YR5/3	全体にやや磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式
144	33	226	2区	J3	a19	203	溝	図27	弥生土器	広口壺	—	(12.6)	20%	粗 8㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：5YR7/6 他 内：10YR7/6	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺体部。頸部と肩にヘラ描沈線を飾る。外面赤変する。二次焼成か。
145	33	183	2区	I3	y23	203	溝		弥生土器	蓋	(3.4)	(3.5)	75%	やや粗 6㎜以下の片岩・石英多量	外：5YR6/6 内：5YR5/6	弥生土器蓋。つまみ部分で手づくねで成形する。
146	33	186	2区	I3	y25	203	溝	210と混在	弥生土器	無頸壺	(9.9)	(6.5)	15%	粗 3㎜以下のチャート・石英・長石多量 赤色酸化粒微量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	無頸壺 全体に磨滅ぎみ。Ⅰ-2様式
147	33	124	2区	I3	y22	205	溝	上層(東壁)	弥生土器	広口壺	(17.6)	(7.1)	50%	密 3㎜以下の石英中量 2㎜以下の赤色酸化粒少量 5㎜以下の片岩少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR8/4	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅴ-6様式
148	33	139	2区	I3	y22	205	溝		弥生土器	壺	—	(8.2)	30%	粗 2㎜以下の赤色酸化粒・石英多量	外：10YR6/2 内：2.5Y8/2	外面平滑な大型壺の底部。平底
149	33	139	2区	I3	y22	205	溝		弥生土器	甕	—	3.1	100%	粗 2.5㎜以下の片岩多量	外：N4/ 他 内：N4/	平底。片岩を含む細粒多量に入る。
150	33	127	2区	I3	y23	206	溝	下層	弥生土器	壺類	—	(3.4)	100%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量 7㎜の石英含む	外：5YR5/6 内：2.5GY4/1	平底。砂粒多く含む。
151	33	144	2区	I3	y20, 21	207	溝		弥生土器	直口壺	(8.4)	(4.7)	20%	密 1㎜以下の石英・チャート微量	外：10YR8/2 内：10YR8/2	紀伊Ⅱ様式。櫛描紋で飾る直口壺
152	33	144	2区	I3	y20, 21	207	溝		弥生土器	甕	(22.5)	(7.9)	12%	粗 1.5㎜以下の石英・片岩・チャート・雲母多量	外：10YR3/1 内：N2/	紀伊Ⅱ様式。紀伊型甕。肩部ヘラ削りの稜線低い。
153	34	172	2区	J3	e21	237	土坑		弥生土器	鉢	(36.4)	(5.6)	8%	やや粗 3㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：5YR7/6 他 内：7.5YR7/6 他	全体に磨滅著しい。地元産胎土。Ⅰ-3様式
154	34	98	2区	J3	d21	253	土坑		弥生土器	小形壺	—	(11.2)	85%	粗 4㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：7.5YR6/4 他 内：10YR7/4	外面やや磨滅ぎみ。内面剥離、磨滅著しい。亜円礫多量。Ⅰ-3様式
155	34	131	2区	I3	y20	260	土坑	北半	弥生土器	壺	—	7.8	5%	密 2㎜以下の石英中量 3㎜以下の片岩・赤色酸化粒少量	外：5Y6/1 他 内：10YR4/2	Ⅱ-1様式 櫛描直線紋の間に竹管紋と山形紋を施す。片岩入り表面は煤けた色を呈す。
156	34	131	2区	I3	y20	260	土坑	北半	弥生土器	広口壺	(15.5)	(4.9)	16%	粗 2㎜以下のチャート・石英・片岩多量	外：10YR7/3 内：7.5YR6/4	長頸広口壺。Ⅰ-3様式
157	34	131	2区	I3	y20	260	土坑	北半	弥生土器	甕	(25.2)	(7.0)	10%	密 1㎜以下の石英・赤色酸化粒・片岩少量	外：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3	全体に剥離、磨滅ぎみ。Ⅰ-1様式
158	34	131	2区	I3	y20	260	土坑	北半	弥生土器	鉢	(27.5)	7.5	10%	密 2㎜以下の石英多量 1㎜のチャート少量 2㎜の片岩微量	外：10YR7/3 内：10YR7/2	全体にやや磨滅ぎみ、Ⅰ-3様式
159	34	178	2区	I3	y20	261	土坑		弥生土器	壺	—	(29.2)	75%	やや粗 10㎜以下の石英・長石多量	外：5YR7/6 他 内：5YR7/6 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。円礫多量。Ⅱ様式か。
160	34	91	2区	I3	y20	側溝			弥生土器	広口壺	(23.9)	(12.5)	10%	粗 8㎜のチャート1個 5㎜の赤チャート1個 3㎜以下の黒チャート・長石多量	外：5YR6/6 内：7.5YR6/4	全体に剥離、磨滅ぎみ。Ⅱ-1様式
161	34	91	2区	I3	y20	側溝			弥生土器	甕	—	(4.8)	25%	粗 4㎜の石英1個 1㎜以下の石英・長石多量	外：7.5YR6/4 内：5YR6/4 他	全体にやや磨滅ぎみ。角礫多量。Ⅰ～Ⅱ様式。紀伊形甕
162	34	91	2区	I3	y20	側溝			弥生土器	壺類	—	(9.2)	45%	粗 3㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：7.5R6/4 内：10YR6/3 他	外面やや磨滅ぎみ、内面剥離、磨滅ぎみ。亜円礫中量。Ⅰ様式
163	34	88	2区	J3	b21	包含層			弥生土器	鉢	(18.1)	(7.1)	10%	やや粗 1.5㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR5/2 他 内：7.5YR6/4	全体にやや磨滅ぎみ。角礫多量。Ⅱ-1様式
164	37	225	2区	I3	y23	203-206	溝	東西アゼ	土師器	高坏	(20.0)	(7.1)	16%	密 1㎜以下の白色微粒多量	外：5YR5/6 内：5YR5/6	外面に有機質の付着物多量。古墳時代中期

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
165	37	225	2区	I3	y23	203-206	溝	東西アゼ	弥生土器	甕	—	(3.9)	100%	密　1㎜以下の石英・長石・チャート多量　微粒の金雲母極微量	外：5YR6/0 内：2.5Y4/1	内面の磨滅著しい。庄内式併行期古段階
166	37	185	2区	I3	y25	221	井戸状遺構		弥生土器/土師器	広口壺	(14.4)	(3.3)	30%	密　2㎜以下の赤色酸化粒多量　2.5㎜の石英・長石微量	外：7.5YR7/4 内：5YR7/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。V-6様式か。
167	37	142	2区	I3	y21	227	井戸状遺構		土師器	小型丸底土器	(6.8)	7.1	88%	密　1㎜以下の長石の微粒中量	外：5YR5/6 他 内：5YR5/6 他	全体に剥離、磨滅著しい。古墳時代前期
168	37	142	2区	I3	y21	227	井戸状遺構		土師器	壺	(11.5)	(4.4)	95%	やや粗　1㎜以下の石英・チャート多量　8㎜の片岩1個	外：7.5YR6/6 内：7.5YR6/4	布留式。やや小型の直口壺口頸部
169	37	142	2区	I3	y21	227	井戸状遺構		土師器	甑	—	3.6	95%	粗　2.5㎜の片岩・石英・チャート多量	外：10YR6/2 内：10YR4/1	全体に剥離、磨滅著しい。器形は紀伊形甕に似る。
170	37	156	2区	J3	a23	234	土坑		土師器	高坏	—	5.5	73%	密　1㎜以下の石英微量	外：5YR7/4 内：5YR7/4	土師器高坏。坏部の稜は曖昧。接合部は中実気味。
171	37	156	2区	J3	a23	234	土坑		須恵器	煙突状土器	—	(10.6)	5%	密　5㎜の石英少量	外：N7/0 他 内：N6/0	須恵質で胎土粗い。煙突状土器の可能性あり。
172	37	169	2区	J3	d21	235	土坑		土師器	甕	(16.5)	(4.5)	23%	粗　1.5㎜以下の赤色酸化粒・石英・チャート多量	外：7.5YR4/3 内：2.5Y8/4	庄内式期か。弥生V様式系の甕か。
173	40	123	2区	J3	c24	210	区画溝		瓦器	椀	(14.0)	4.6	65%	密　1㎜の灰色粒微量	外：N6/1 内：2.5Y6/1	燻し不足で、炭表の吸着殆どなし。
174	40	122	2区	J3	b24	210	区画溝		瓦器	椀	(14.0)	3.5	50%	密　1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5Y5/1 内：7.5Y5/1	全体に磨滅著しい。
175	40	103	2区	J3	a20	223	井戸		瓦	鬼瓦	—	(15.7)	50%	やや密　2㎜以下のチャート微量	N3/	鬼瓦の鬼面部分。近世か。立体的なつくり。表面キラコ。線刻はヘラ状工具での押し引き。
176	40	159	2区	J3	a22	265	土坑		無釉陶器(備前)	擂鉢	(29.0)	(5.2)	8%	密　13㎜の石英1個　8㎜のチャート1個　1㎜以下の白色微粒微量	外：2.5Y4/3 他 内：2.5Y5/4 他	乗岡編年の近世2期a（間壁Ⅵ期）17世紀前半
177	40	159	2区	J3	a22	265	土坑		施釉陶器(肥前系)	皿	—	(2.3)	100%	密	釉：2.5Y6/3 露胎：2.5Y6/2	砂目　1620年前後の製品
178	41	258	2区	J3	a19	222	瓦組井戸	井戸側瓦1段目のみ	瓦	平瓦	—	25.1×24.0	100%	密　1㎜以下の白色微粒多量	N4/0 他	正方形に近い規格
179	41	258	2区	J3	a19	222	瓦組井戸	井戸側瓦1段目のみ	瓦	平瓦	—	25.1×24.2	100%	密	N3/	正方形に近い規格
180	41	165	2区	J3	c20	236	土坑		土師器	小皿	(7.4)	1.6	85%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量　細かい雲母微量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	全体にやや磨滅ぎみ。
181	41	165	2区	J3	c20	236	土坑		土師質土器	焙烙	(26.4)	(4.5)	5%	密　2㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR3/1 内：5YR5/6	口縁部から底部に折れ曲がる。
182	41	173	2区	J3	e20	238	土坑		土師質土器	焙烙	(29.3)	(4.5)	5%	密	外：7.5YR5/3 内：5YR4/3	口縁部から底部に緩やかに曲る。
183	41	145	2区	J3	a20	257	土坑		瓦	軒丸瓦	14.4	—	90%	密	N3/0	巴紋軒丸瓦。丸瓦の接合部は格子状にカキメを入れて接合する。珠紋大きく、周縁が広い。
184	41	170	2区	J3	d23	269	土坑		土師質土器	火鉢か	(20.4)	10.4	25%	密　13㎜の石英1個　7㎜以下の赤色酸化粒中量	外：5YR7/6 他 内：2.5YR6/6 他	口縁部内側に煤付着。
185	44	3017	3区南			Ⅳ層			弥生土器	太頸広口壺	(27.7)	(4.9)	5%	粗　3㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：10YR6/3 内：5YR6/6 他	太頸広口壺。全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ-3様式
186	44	3015	3区北			Ⅳ層			弥生土器	甕	(21.3)	(10.3)	16%	粗　3㎜以下の長石・石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/3 内：5YR6/4 他	紀伊型甕。遺存良好。Ⅰ-3様式
187	44	3022	3区西			Ⅴ層上			弥生土器	甕	(13.9)	(11.6)	30%	密　3㎜以下の赤色酸化粒・石英少量	外：10YR6/2 内：5YR7/6	全体に剥離、磨滅著しい。庄内式併行期古段階
188	44	3107	3区	J3	d9	Ⅴ層上			土師質土器	小皿	7.3	1.7	100%	密　2㎜以下の片岩・石英微量	外：2.5Y7/2 他 内：5YR6/4	遺存良好。全体に歪み著しい。
189	44	3477	3区	J2	h20	Ⅴ層上他			無釉陶器(備前)	大甕	59.5	(85.8)	56%	やや粗　2㎜以下の石英多量　5㎜以下の褐色粒微量	外：10YR3/2 他 内：10R4/3	包含層と3095土坑・3101溝等の埋土から出土。乗岡編年の中世6b期（間壁Ⅴ期）
190	44	3018	3区南			Ⅱ層			土師器	小皿	9.9	2.6	67%	密　1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/3 他 内：7.5YR7/3 他	全体に剥離、磨滅著しい。やや歪つ。
191	44	3020	3区南			Ⅱ層			土師器	皿	(13.8)	2.7	20%	密　2㎜以下のチャート微量　2㎜以下の赤色酸化粒多量	外：5YR6/8 内：5YR7/8	全体に磨滅著しい。
192	44	3011	3区北			Ⅱ層			瓦器	埦	(12.5)	3.1	25%	密　1㎜以下のチャート微量	外：2.5YR6/6 内：2.5YR6/4	全体に磨滅著しい。燻し無し。二次焼成。
193	44	3011	3区北			Ⅱ層			瓦器	埦	—	(2.5)	25%	密　1㎜の赤色酸化粒少量	外：2.5Y6/2 内：2.5Y6/1	全体に磨滅ぎみ。全体にやや歪つ。燻し無し。
194	44	3039	3区	J3	f12	Ⅱ層			無釉陶器	皿	10.1	2.3	98%	密　1㎜以下の黒色粒微量	外：7.5Y7/1 他 内：7.5Y7/1 他	唐津の小皿。見込み砂目3ヵ所あり。17世紀前半
195	44	3049	3区	J3	b12	Ⅰ～Ⅱ層			染付(肥前系)	碗	(9.4)	5.4	60%	密	釉：10GY8/1 露胎：N8/0	
196	44	3012	3区北(兵陵ソ)			Ⅰ～Ⅱ層		近世表土	染付(肥前系)	仏飯器	5.8	5.6	75%	密	釉：7.5GY8/1 露胎：N8/0	18c末-19c初
197	44	3035	3区	J3	a11	Ⅰ～Ⅱ層			陶器	油徳利	2.1	7.3	60%	密	外：2.5YR3/4 内：2.5YR5/4	近世末。油徳利。火襷あり、備前焼か。
198	44	3012	3区北(丘陵ソ)			Ⅰ～Ⅱ層		近世表土	瓦質土器	瓦猿	4.6	(5.0)	50%	密	外：N4/ 内：N5/	瓦猿の体部。型作り成形。江戸時代末期
199	46	3153	3区	J3	c5	3033	溝		弥生土器	甕	(27.3)	2.0	5%	やや密　1㎜以下の石英微量	外：5YR6/4 内：7.5GY4/1	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式。タタキ甕口縁部片。口縁端部が上下に肥厚する。3020井戸内に混入
200	46	3213	3区	J3	d3	3033	溝		弥生土器	甕	(28.5)	(5.6)	5%	密　4㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR5/1 内：7.5YR6/4 他	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式
201	46	3215	3区	J3	d2	3033	溝		弥生土器	甕	(21.4)	(8.9)	10%	粗　1.5㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：10YR6/2 内：10YR6/2	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。紀伊型甕。肩の稜は曖昧で、横方向に削る。
202	46	3213	3区	J3	d3	3033	溝		弥生土器	甕	(22.3)	(5.6)	5%	密　2㎜以下のチャート多量　1㎜の石英少量	外：10YR6/2 内：10YR7/3	i遺存良好。紀伊型甕。Ⅰ-3様式
203	46	3240	3区	J3	d2	3033	溝		弥生土器	甕	—	4.5	63%	粗　8㎜以下のチャート多量	外：10YR6/4 内：10YR7/2	平底の底部
204	46	3159	3区	J3	c3	3033	溝		弥生土器	甕	—	2.2	100%	粗　1㎜以下の片岩・長石多量	外：2.5Y7/2 他 内：2.5Y4/1	やや凹みのある平底部。胎土粗く被熱する。甕底部
205	46	3224	3区	J3	c2	3034	溝		弥生土器	広口壺	(22.9)	(5.9)	25%	粗　2.5㎜以下の石英・チャート多量　4㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式か。付加条をもつ広口壺
206	46	3241	3区	J3	c4	3034	溝		弥生土器	壺	—	(6.1)	100%	粗　4㎜以下のチャート・赤色酸化粒・石英多量	外：2.5Y8/3 内：7.5YR6/6	やや凹む平底の底部
207	46	3184	3区	J3	f3	3052	ピット		弥生土器	広口壺	(19.9)	(5.8)	19%	粗　4㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/4 内：5YR5/6	紀伊Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。目の粗いヘラ描沈線をもつ広口壺。口縁端部に刻み目のある部分あり。
208	46	3184	3区	J3	f3	3052	ピット		弥生土器	広口壺	(10.7)	(2.5)	10%	粗　3㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR8/3 内：10YR8/3	紀伊Ⅰ-2様式。小型の広口壺。頸部の削り出した段上に沈線を施す。
209	46	3277	3区	J3	f2	3072	土坑	1層	弥生土器	広口壺	(18.9)	(8.7)	13%	やや粗　1～2㎜のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：5YR5/4	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式
210	46	3513	3区	J3	e5	3073	溝	検出面	弥生土器	広口壺	(33.9)	(8.4)	13%	粗　2㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外：5YR6/6 内：5YR7/2 他	広口長頸壺。全体に磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式
211	46	3472	3区	J3	f5	3073	溝		弥生土器	甕	—	3.0	25%	粗　2.5㎜の石英・チャート多量	外：7.5YR7/3 内：5YR6/6	平底の底部
212	46	3389	3区	J2	h24	3081	溝		弥生土器	壺	—	(12.7)	67%	粗　4㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR7/4 内：5YR7/6	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式
213	49	3075	3区	I3	y12	3002	溝		土製品	土錘	2.5	8.8	95%	密　3㎜以下の石英多量　1㎜以下の赤色酸化粒少量	7.5YR7/4	全体に磨滅極めて著しい。時期不明。有孔土錘
214	49	3548	3区	J3	f4,5,e4	3073	溝	検出面	土師器	甕	(11.0)	(14.0)	19%	密　1㎜以下の白色・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/3 内：2.5Y7/3	全体に剥離、磨滅著しい。古墳時代後期。鳴神地区遺跡、音浦遺跡　M地区SD117併行
215	49	3458	3区	J3	f3	3063	ピット		土師器	鉢	(24.7)	(11.3)	20%	粗　3㎜以下の赤色酸化粒多量　3㎜以下の石英微量	外：5YR5/6 内：2.5Y7/3	土師器鉢。外面は不定方向のタタキとナデ。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
216	49	3365	3区	J2	i19,20	3099	溝状遺構		土師器	高坏	—	(4.3)	50%	密 1㎜以下の長石・赤色酸化粒微量	外：7.5YR4/3 内：7.5YR4/3	土師器高坏脚部。手づくねに近い形状を呈す。
217	51	3138	3区	J3	f7	3009	土坑		土師器	皿	(12.8)	(2.2)	50%	密 0.5㎜以下の黒色粒微量	外：10YR7/2 他 内：10YR5/1	全体に磨滅著しい。
218	51	3183	3区	J3	f6	3020	井戸	井戸枠内	土師器	坏	(12.8)	3.2	20%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 内：5YR7/6	全体に磨滅著しい。平安時代９～10世紀
219	51	3421	3区	J3	f6	3020	井戸	井戸内埋土上層	土師器	埦	(12.7)	(2.6)	25%	密 0.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/4 内：7.5YR7/4	平安時代後期
220	51	3267	3区	J3	f6	3020	井戸	井戸枠内	土師器	埦	—	(1.2)	20%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/3 内：2.5YR6/2	平安時代後期。10～11世紀。高台をもつ土師器埦。器壁薄い。
221	51	3267	3区	J3	f6	3020	井戸	井戸枠内	黒色土器	埦	—	(1.5)	14%	密 1㎜の石英・赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 内：N2/	平安時代後期。10～11世紀。内黒の黒色土器埦高台部
222	51	3264	3区	J2	h24,25	3081	溝	検出面	土師器	小埦	(9.7)	2.9	25%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR6/3 内：10YR6/3	全体に磨滅著しい。平安時代後期　10c末～11c初
223	51	3264	3区	J2	h24,25	3081	溝	検出面	土師器	小埦	(10.6)	2.9	30%	密 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：5YR6/4 内：7.5YR6/4	全体に磨滅著しい。平安時代後期　10c末～11c初
224	51	3397	3区	J2	g22	3081	溝		土師器	小埦	10.5	3.3	65%	密 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：5YR7/6 内：10YR8/4	全体に磨滅著しい。平安時代後期　10c末～11c初
225	51	3397	3区	J2	g22	3081	溝		土師器	小埦	10.4	3.4	63%	密 1㎜以下の赤色酸化粒少量 7㎜のチャート含む	外：5YR7/6 内：5YR7/6	全体に磨滅著しい。平安時代後期　10c末～11c初
226	51	3412	3区	J2	i21	3081	溝		土師器	埦	(16.1)	(4.2)	20%	密 2㎜以下の石英・片岩微量 1㎜以下の赤色酸化粒中量	外：2.5YR5/6 他 内：5YR5/6	
227	51	3342	3区	J2	h24	3081	溝		土師器	埦	(17.6)	4.3	25%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 内：2.5YR5/6	
228	51	3310	3区	J2	h24	3081	溝	1層	土師器	埦	—	(2.6)	30%	やや粗 1.5㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/1 内：5YR7/4	
229	51	3419	3区	J2	h,g23	3081	溝		土師器	小皿	(7.6)	1.7	25%	密 1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：5YR7/6 内：5YR7/6	
230	51	3310	3区	J2	h24	3081	溝	1層	黒色土器A類	埦	(14.5)	(4.2)	10%	密 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：N3/	全体に磨滅著しい。平安時代
231	51	3310	3区	J2	h24	3081	溝	1層	黒色土器A類	埦	(14.7)	(3.0)	17%	密 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：5YR7/6 内：N2/	全体に磨滅著しい。平安時代
232	51	3386	3区	J2	h24	3081	溝		黒色土器A類	埦	—	(2.8)	100%	密 1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR8/6 内：N3/	全体に磨滅著しい。平安時代
233	51	3386	3区	J2	h24	3081	溝		黒色土器A類	埦	—	(3.6)	33%	密 1㎜以下のチャート・片岩微量	外：10YR7/3 内：N2/	全体に磨滅著しい。平安時代
234	51	3397	3区	J2	g22	3081	溝		黒色土器A類	埦	—	2.3	23%	密 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：5YR7/4 内：N2/	全体に磨滅ぎみ。平安時代
235	51	3397	3区	J2	g22	3081	溝		黒色土器A類	埦	—	(2.0)	25%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/4 内：N2/	全体に磨滅著しい。平安時代
236	51	3386	3区	J2	h24	3081	溝		土師器	甕	(14.3)	(11.4)	20%	密 1㎜以下の赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/4 内：10YR8/3	
237	51	3386	3区	J2	h24	3081	溝		土師器	甕	(17.8)	(5.3)	5%	密 2㎜以下のチャート中量 2㎜以下の石英・金雲母微粒少量	外：5YR5/6 内：5YR4/6	
238	51	3342	3区	J2	h24	3081	溝		須恵器	甕	(21.9)	(5.2)	12%	やや密 2㎜以下の石英・チャート微量	外：10BG4/1 内：7.5YR4/2	古代末か。平行タタキをもつ須恵器甕
239	51	3342	3区	J2	h24	3081	溝		須恵器	鉢	(27.5)	4.1	10%	密 0.5㎜以下の白色粒微量	外：N4/ 内：N4/	古代末か。須恵器こね鉢
240	51	3310	3区	J2	h24	3081	溝	1層	土師器	竈	—	(15.9)	5%	やや粗 2.5㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：5YR5/3 他 内：5YR5/4	全体に磨滅ぎみ。平安時代。他の黒色土器A類椀、高台付皿を共伴する段階
241	54	3448	3区	J3	f9	3012	溝	取上7	土師器	小皿	7.8	1.9	90%	やや粗 1㎜以下の石英・片岩・雲母少量	外：7.5YR6/4 内：5YR7/4	全体に磨滅著しい。全体に歪み著しい。鎌倉時代
242	54	3085	3区	J3	e10	3012	溝		施釉陶器（肥前系）	皿	11.3	3.1	60%	密	釉：2.5Y8/1 他 素地：2.5YR4/2	1600年前後。施釉陶器小皿。見込みに胎土目。
243	54	3449	3区	J3	f9	3012	溝	取上8	瓦質土器	香炉	(9.9)	4.5	25%	密 2.5㎜以下の石英微量	外：7.5YR4/1 内：7.5YR2/1	内面磨滅ぎみ。外面は部分的に剥離、磨滅著しい。室町時代
244	54	3443	3区	J3	f10	3012	溝	取上2	瓦質土器	小型羽釜	7.7	8.6	65%	密 5㎜以下の石英・長石少量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	全体に磨滅著しい。全体に燻しむら有り。室町時代
245	54	3144	3区	J3	e10	3012	溝		無釉陶器（備前）	擂鉢	(28.9)	(6.1)	10%	やや密 3㎜以下のチャート・石英少量	外：7.5R4/2 内：7.5R4/2	中世末か。すり鉢。クシ目少ない。
246	54	3445	3区	J3	f9	3012	溝	取上4	瓦	軒丸瓦	(12.6)	—	40%	密 1㎜以下のチャート少量 5㎜の赤色酸化粒少量	N4/ 他	巴紋軒丸瓦。離れ砂使用。丸瓦接合部に粗いカキ目あり。
247	54	3447	3区	J3	f9	3012	溝	取上6	瓦	軒丸瓦	(13.8)	—	50%	密 0.5㎜の砂粒微量	N3/ 他	巴紋軒丸瓦。離れ砂あり。周縁広く、連珠紋小さい。
248	54	3471	3区	J3	g5	3043	ピット		瓦質土器	鉢	—	(7.7)	35%	粗 2㎜以下の赤色酸化粒・石英・雲母・片岩多量	外：N5/ 内：2.5Y7/2	瓦質土器の鉢。古墳時代の溝上の別遺構の遺物とみられる。
249	54	3404	3区	J3	e9	3064	溝		無釉陶器（備前）	甕	(22.0)	(4.6)	20%	密 1㎜の石英少量	外：2.5YR4/1 内：2.5YR4/1 他	乗岡編年の中世6a期（間壁Ⅴ期）17世紀初頭
250	54	3358	3区	J2	h22	3079	土坑		土師器	皿	(13.7)	2.1	10%	やや粗 1.5㎜の赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/6 内：10YR7/4	全体に剥離、磨滅極めて著しい。鎌倉時代　13世紀？
251	54	3382	3区	J2	h22	3087	溝		土師器	小皿	8.6	2.0	95%	密 1㎜以下の赤色酸化粒・片岩・石英少量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	全体に磨滅著しい。室町時代
252	54	3382	3区	J2	h22	3087	溝		山茶碗	山茶碗	(17.2)	5.7	58%	密	外：N7/ 内：N7/	13c 中。全体に磨滅ぎみ。渥美型か
253	54	3362	3区	J2	i22,23	3087	溝		瓦質土器	擂鉢	(22.8)	(4.8)	5%	密 0.5㎜の片岩微量	外：N4/ 内：N4/	全体に磨滅極めて著しい。室町時代？
254	54	3398	3区	J2	i22	3087	溝		瓦質	羽釜	(21.0)	(3.7)	5%	密 3㎜以下の石英中量	外：N3/ 内：N3/	全体に磨滅極めて著しい。
255	54	3382	3区	J2	h22	3087	溝		瓦質土器	火舎	(32.6)	(9.1)	10%	密 1.5㎜以下の石英・片岩少量	外：N5/ 内：10YR4/	全体に磨滅極めて著しい。室町時代。248と同一個体の可能性もある。
256	54	3393	3区	J2	i,h21	3087	溝		瓦	軒平瓦	—	(5.5)	5%	密 1～2㎜の石英少量　細かい石英多量	N3/0	全体に磨滅著しい。
257	54	3407	3区	J2	j21	3101	溝		土師器	小皿	8.6	1.7	60%	密 細かい赤色酸化粒多量 1～2㎜の片岩微量	外：5YR6/6 内：5YR6/6 他	全体に磨滅著しい。全体に歪み著しい。根来寺遺跡「通有の皿」
258	54	3406	3区	J2	j19	3101	溝		青磁	碗	—	1.6	75%	密	釉：10GY5/1 素地：5R4/1	中世。青磁碗高台部か。
259	54	3406	3区	J2	j19	3101	溝		瓦	軒平瓦	—	4.3	15%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	7.5YR6/4 他	中世。連珠紋軒平瓦。瓦当面、凹面に離れ砂。貼り付け段顎は高く、接合部は横方向、ナデ。
260	54	3426	3区	J3	e6	3106	井戸		施釉陶器	皿	(11.3)	2.8	35%	密	釉：10YR6/3 素地 7.5YR6/6	陶器皿。削り出し高台。褐色の粘土に透明釉を施す。
261	54	3565	3区	J3	e6	3106	井戸		無釉陶器（備前焼）	擂鉢	(37.0)	(5.8)	5%	密 1㎜の白色粒微量	外：2.5YR3/2 内：2.5YR3/2	16世紀後半。すり鉢。片口部あり。
262	54	3131	3区	J3	c9	3506	土坑		施釉陶器（瀬戸）	皿	(11.6)	2.7	50%	密	外：2.5Y7/1 内：2.5Y8/1	灰色釉の陶器皿。粉引。胎土目。胎土粗く。木節粘土のウニあり。志野焼。1610年代
263	54	3131	3区	J3	c9	3506	土坑		施釉陶器（肥前系）	皿	(13.0)	3.7	25%	密	外：7.5Y6/1 内：7.5Y6/1	灰色釉の陶器。唐津。三日月高台、竹櫛高台、兜巾。1620年代
264	54	3131	3区	J3	c9	3506	土坑		無釉陶器（備前焼）	擂鉢	(30.5)	(3.4)	5%	やや密 1㎜以下の石英微量	外：7.5YR3/2 内：2.5YR3/2	口縁端部は二等辺三角形。すり目の密度は低い、内外面に鉄泥を塗布し、断面は灰色。
265	54	3131	3区	J3	c9	3506	土坑		瓦	軒丸瓦	12.9	—	75%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	N3/ 他	三巴紋軒丸瓦。巴の頭は離れるが、尾が長い。珠点数16
266	59	3026	3区	J3	d12	側溝			瓦	軒丸瓦	13.0	—	60%	密 細かい長石？微量	10Y7/1	全体に剥離、磨滅極めて著しい。
267	59	3441	3区	J3	b12	3010	埋桶		青磁染付（肥前系）	碗	(11.3)	5.3	50%	密	釉：10GY7/1 他 露胎：N8/0	18世紀
268	59	3536	3区	J3	a12	3010	埋桶		土製品	十能	—	3.2	30%	密 1㎜以下の赤色酸化粒・雲母・長石少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	江戸時代。十能。柄は中実。使用痕は確認できない。
269	59	3536	3区	J3	a12	3010	埋桶		瓦	軒平瓦	—	9.1	30%	密	N4/ 他	近世後半。いわゆる江戸式の瓦当紋様をもつ軒平瓦
270	59	3539	3区	J3	d7	3029	土坑		瓦	軒平瓦（掛瓦）	—	4.4	50%	密	N4/ 他	掛軒平瓦。瓦当紋様は大阪式。凹面に離れ砂。瓦当面中央に笵を押し当て、瓦当上面をナデる。
271	59	3486	3区	J3	f5	3056	暗渠	取上3	土師器	小皿	7.9	2.0	60%	密 1㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	橙色の土師器小皿。底部に平行線状の圧痕残る。
272	59	3548	3区	J3	f4,5,e4	3056	暗渠		土師器	小皿	8.8	1.8	90%	密 3㎜以下の赤色酸化粒微量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	全体に磨滅ぎみ。近世

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
273	59	3483	3区	J3	g5	3056	暗渠	取上1	瓦	軒丸瓦	―	―	80%	密	N4/	軒丸瓦。瓦当面欠失。長さ24.4cm。丸瓦部最大径12.5cm。
274	59	3549	3区	J3	e4, e5	3056	暗渠		瓦	軒平瓦	―	5.1	20%	やや密　1㎜以下の赤色酸化粒多量	N2/ 他	近世。唐草紋軒平瓦片
275	59	3544	3区			3056	暗渠		瓦	軒平瓦	―	3.6	20%	密	N4/	中世～近世前半。軒平瓦片
276	59	3543	3区			3056	暗渠		瓦	軒平瓦	―	3.7	40%	やや粗	N3/	近世後半。大阪式の軒平瓦
277	59	3466	3区	J2	f24	3071	溝上遺構	取上6	染付（肥前系）	蓋	10.2	3.0	60%	密	釉：10GY8/1 露胎：N8/0	草花文と四方襷文
278	59	3466	3区	J2	f24	3071	溝上遺構	取上6	染付（肥前系）	盃	6.8	3.4	60%	密	釉：7.5GY8/1 露胎：N8/0	草花文
279	59	3466	3区	J2	f24	3071	溝上遺構	取上6	染付（肥前系）	筒茶碗	8.0	6.1	60%	密	釉：2.5GY8/1 露胎：N8/0	見込みに五弁花文、外面菊ちらし文
280	59	3463	3区	J2	f24	3071	溝上遺構	取上3	土師器	塩釜	4.8	8.2	95%	粗　1.5㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：10YR7/3 内：5YR6/4	全体に磨滅著しい。17世紀前半
281	59	3555	3区	J2	g23	石垣1	石垣	取上3	瓦	軒平瓦（掛瓦）	(24.6)	3.8	75%	密	N3/	掛軒平瓦。瓦当紋様は中凹みの大阪式
282	59	3106	3区	J3	d11	3505	土坑		瓦	軒平瓦	20.6	3.1	80%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・石英少量　7㎜のチャート1個	N7/ ～ N4/	全体に剥離、磨滅極めて著しい。瓦当文様：均整唐草文。中心飾り：楠紋が崩れたものか。
283	59	3091	3区	J3	d10	3506	土坑		青磁染付	碗	10.9	6.1	50%	密	釉：7.5GY7/1 露胎：N8/0	18c 中頃～末。折枝梅（梅花文）
284	59	3091	3区	J3	d10	3506	土坑		瓦	軒平瓦	―	3.8	45%	やや粗　1.5㎜以下の赤色酸化粒少量	N7/ 他	近世。大阪式軒平瓦。上半ヘラケズリ。磨耗著しい。貼付段顎
285	60	3074	3区	J3	b11	3506	土坑		土師質土器	皿	9.8	1.7	50%	密　0.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 他 内：10YR8/2	口縁部に煤付着。
286	60	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		土師質土器	皿	10.0	2.0	55%	密	外：10YR2/1 内：10YR2/1	全面黒色化。
287	60	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		染付（肥前系）	碗（湯飲み）	8.8	5.0	50%	密	外：5B7/1 他 内：N8/1	肥前系染付碗（湯飲み）18c
288	60	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		施釉陶器（肥前系）	碗	12.2	5.4	65%	密	外：7.5Y6/2 内：7.5Y6/2	18c？　灰釉。内外面細かい貫入あり。見込みに胎土目
289	60	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		染付（肥前系）	碗	10.2	5.7	50%	密	外：10BG7/1 他　内：10BG7/1 他	18 世紀後半
290	60	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		染付（肥前系）	そば猪口	―	(3.8)	40%	密	外：N8/ 他 内：N8/	18c 前半。非常に薄手
291	60	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		土師器	焼塩壺	5.0	7.7	98%	粗　2㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/4 内：5YR5/4	17 世紀前半
292	60	3167	3区	J3	c, d8	3511	土坑		瓦器	小皿	(8.2)	1.2	45%	密　0.5㎜以下の黒色粒微量	外：N4/ 内：N6/	全体に磨滅著しい。全体に歪み著しい。鎌倉時代
293	60	3112	3区	J3	d7	3511	土坑		染付（肥前系）	碗	(9.8)	5.1	25%	密	外：10GY8/1 他 内：10GY8/1 他	18c 前半の中頃。初期の厚手のくらわんか茶碗
294	60	3167	3区	J3	c8, d8	3511	土坑		施釉陶器	碗	(11.8)	(7.4)	37%	密	釉：10YR1.7/1	軟質の黒色釉陶器。側面に８ヵ所窪みがある。
295	60	3112	3区	J3	d7	3511	土坑		土師質土器	焙烙	(30.5)	(5.4)	45%	密　1㎜以下の雲母・石英少量	外：5YR6/4 内：7.5YR6/4	底部煤多い。耳あり。
296	60	3151	3区	J3	g7	3512	土坑		磁器	杯	5.2	3.0	98%	密	外：N8/ 内：N8/	近代。「白鶴」銘のプリントされた磁器の猪口
297	60	3141	3区	J3	g9, 10	3512	土坑		ガラス製品	目薬瓶	1.6	5.7	98%		外：N8/ 内：N8/	近代。目薬。ガラス容器。「参天堂薬房」「大学目薬」
298	60	3345	3区	J3	e7	3525	土坑		施釉陶器瀬戸美濃系	菊皿	10.4	3.0	75%	密	外：2.5GY7/1 内：2.5GY7/1	瀬戸・美濃大窯４期末　１６世紀末
299	60	3498	3区			3528	土坑	取上10	青磁染付	蓋	(9.6)	2.9	70%	密	外：5G7/1 他 内：N8/ 他	18 世紀後半。「大明年製」
300	60	3497	3区	J3	e2	3528	土坑	取上11	染付（肥前系）	碗	(9.7)	5.3	75%	密	外：5B7/1 他 内：N8/	18 世紀前半。「大明年製」らしき文字あり
301	60	3496	3区	J3	e2	3528	土坑	取上10	染付（肥前系）	碗	(10.0)	(4.7)	40%	密	外：5B7/1 他 内：N8/	図柄を入れた丸文。
302	60	3400	3区	J3	d1, e1	3528	土坑		染付（肥前系）	碗	11.0	6.1	90%	密	釉：10GY8/1 露胎：N8/0	網目文
303	60	3349	3区	J3	d1, e1	3528	土坑		染付（肥前系）	鉢	(20.4)	9.2	60%	密	釉：10GY7/1 露胎：5Y7/1	ハケメ釉
304	60	3492	3区	J3	e1	3528	土坑	取上6	施釉陶器	碗	9.4	6.5	95%	密	外：2.5Y6/3 他 内：2.5Y6/3 他	近世末～近代。施湯陶器の刷毛目碗
305	60	3499	3区			3528	土坑		瓦	軒平瓦	―	3.5	40%	密	N4/	近世。軒平瓦。唐草の一部のみ残存。
306	60	3230	3区	J2	f25	3536	土坑		磁器	人形（たぬき）	―	5.5	100%	密	外：N8/ 他	江戸時代末期か。磁器人形。薄墨状のもので塗装する。
307	60	3361	3区	J3	h1	3547	土坑		瓦	軒桟瓦	―	7.1	50%	密	N4/	近世末か。東海式の瓦当紋様をもつ軒桟瓦
308	60	3338	3区	J2	g22	3548	土坑		染付（肥前系）	碗	(10.4)	(4.4)	14%	密	外：10BG7/1 5B3/1 内：10BG7/1 5B3/1	内面四方襷文。外面に唐人を描く。
309	60	3024	3区	J3	b11	側溝			瓦	軒平瓦	22.5	3.7	50%	密　細かい石英中量　1～2㎜の赤色酸化粒少量	N3/0 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。
310	60	3024	3区	J3	b11	側溝			瓦	軒平瓦	―	3.8	50%	密	N2/ 他	均整唐草紋軒平瓦。中心飾りは半截花紋。唐草が２回反転する。貼付段顎
311	60	3041	3区	J3	a12	Ⅴ層上			瓦	軒平瓦	―	3.3	20%	密　1㎜以下のチャート・石英微量	N5/	均整唐草紋軒平瓦。中心飾りは半截花紋で唐草４回以上反転する。貼付段顎
312	60	3060	3区	J3	g8	Ⅴ層上			瓦	軒平瓦	―	3.7	13%	密	N4/	近世。大阪式軒平瓦。貼り付け段顎。離型材はキラコ
313	67	4183	4区	J3	a18	4007	溝	下層	弥生土器	甕	(22.1)	7.0	10%	粗　4㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR7/3 内：7.5YR7/4	紀伊型甕。紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式
314	67	4190	4区	J3	d18	4012	土坑	取上1	弥生土器	広口壺	(19.7)	(9.8)	75%	粗　7㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR8/3 内：2.5Y7/2	Ⅰ-3様式。磨耗している。
315	67	4192	4区	J3	d18	4012	土坑	取上3	弥生土器	蓋	24.4	10.5	75%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y6/2 内：10YR7/3	弥生前期後半～中期前葉に相当
316	67	4191	4区	J3	d18	4012	土坑	取上2	弥生土器	甕	(14.2)	(8.0)	16%	やや粗　3㎜以下の石英・雲母多量	外：7.5YR5/3 内：10YR7/4	紀伊型甕。Ⅰ様式
317	67	4139	4区	J3	d17	4021	竪穴状遺構	上層	弥生土器	広口壺	(17.4)	(8.2)	12%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/4 内：2.5Y7/3	広口壺の口頸部か。厚手で胎土中に石粒多数含む。
318	67	4186	4区	J3	c17	4021	竪穴状遺構		弥生土器	壺	―	(5.1)	5%	やや粗　2㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/3 内：2.5Y4/1	木の葉紋のある破片。弥生前期Ⅰ様式
319	67	4139	4区	J3	d17	4021	竪穴状遺構	上層	弥生土器	広口壺	(19.0)	2.5	8%	粗　2.5㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3	口縁端部丸める。胎土粗い。Ⅰ様式か。
320	67	4139	4区	J3	d17	4021	竪穴状遺構	上層	弥生土器	穿孔土器	―	(2.6)	100%	粗　1.5㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外：10YR7/2 他 内：N3/	弥生土器平底底部。やや磨耗する。
321	67	4195	4区	J3	e15	4036	土坑	取上3	弥生土器	広口壺	(15.9)	(9.3)	45%	粗　4㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR7/3 内：10YR8/3	Ⅰ-3様式。磨耗している。
322	67	4196	4区	J3	e15	4036	土坑	取上4	弥生土器	甕	(18.0)	(12.5)	14%	粗　7㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：7.5YR4/1 内：10YR7/3	Ⅰ-3様式
323	68	4177	4区	J3	a16	4005	溝		土師器	小型丸底土器	(9.0)	(3.6)	13%	やや粗　1.5㎜の赤色酸化粒少量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	小型丸底土器かやや小型直口壺か不明。磨耗著しい。前期～中期の直口壺か。
324	68	4178	4区	J3	a16	4005	溝		土師器	埦	(9.5)	(4.2)	30%	やや粗　1.5㎜の石英・片岩少量	外：5YR7/4 内：5YR5/2	前期～中期の土師器埦片か。
325	68	4183	4区	J3	a18	4007	溝	下層	弥生土器	甕	15.4	3.3	20%	密　1.5㎜以下の石英・長石微量	外：2.5Y8/2 内：2.5Y7/3	弥生Ⅴ様式系タタキ甕。頸部内面尖る。肩部薄手に作られる。
326	68	4182	4区	J3	a18	4007	溝	下層	弥生土器／土師器	甕	(17.6)	(4.2)	16%	やや粗　1㎜以下の石英・赤色酸化粒多量　8㎜の片岩1個	外：7.5YR7/3 内：7.5YR7/3	弥生Ⅴ様式系甕。磨耗著しい。
327	68	4183	4区	J3	a18	4007	溝	下層	弥生土器／土師器	甕	―	5.9	20%	密　10㎜の石英1個　2㎜以下の石英・長石微量	外：10YR7/3 内：5YR6/6	弥生Ⅴ様式系のタタキ甕
328	68	4180	4区	J3	a18	4007	溝	上・中層	土師器	高坏	17.5	15.7	78%	密　2.5㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 内：2.5Y7/2	布留式の有稜高坏。口縁部がやや長く稜はあまい。柱状部は中空で、裾に透し穴をもつ。
329	68	4181	4区	I3、J3	y17, a18	4007	溝	上・下層	土師器	高坏	(2.7)	(5.4)	55%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	布留式　ミガキあり、古段階か。磨耗著しい。
330	68	4080	4区	J3	f14, 15	4053	溝		土師器	高坏	―	4.0	35%	やや密　1㎜以下の赤色酸化粒・石英少量	外：5YR6/6 内：2.5Y7/3	布留式有稜高坏。やや小型で坏部が深い。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
331	68	4142	4区	J3	b14	4059	ピット	半裁	土師器	直口壺	(9.3)	(6.0)	19%	密 2㎜以下の赤色酸化粒・長石微量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR6/6	古墳時代中期。直口壺。磨耗著しい。
332	72	4107	4区	J3	a17	4008	土坑	中層	弥生土器	穿孔土器	—	(2.5)	25%	粗 1.5㎜以下の石英・片岩・雲母多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR8/3	弥生時代前期～中期か。遺構4008は下層に近世、上・中層に弥生～平安の遺物が多量に混じる。
333	72	4081	4区	J3	a18	4010	土坑		弥生土器／土師器	高坏	(17.1)	(4.2)	50%	密 5㎜の片岩1個 1.5㎜の石英微量	外：7.5YR5/2 内：10YR4/1	おそらく下層の4007溝の遺物と考えられる。庄内期
334	72	4107	4区	J3	a17	4008	土坑	中層	弥生土器／土師器	器台？	(12.6)	4.3	13%	密 2㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：10YR7/3 内：7.5YR8/4	甕の口縁部に似た器台と推定される破片
335	72	4135	4区	J3	a17	4008南	土坑	下層	黒色土器	埦	(15.2)	6.0	40%	やや粗 5㎜以下の長石・片岩・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR7/3 他 内：N2/	内面黒色土器。平安時代後期
336	72	4107	4区	J3	a17	4008	土坑	中層	黒色土器	埦	(15.6)	(3.6)	8%	密 2㎜の褐色粒微量	外：5YR7/6 内：N3/	内面黒色土器。No337と接合する可能性あり。平安後期
337	72	4107	4区	J3	a17	4008	土坑	中層	黒色土器	埦	—	(1.1)	15%	密 0.5㎜以下の赤色酸化粒・雲母微量	外：5YR6/6 内：10YR4/1	No336と接合する可能性あり。平安後期
338	72	4135	4区	J3	a17	4008南	土坑	下層	磁器	碗	(7.6)	4.8	26%	密	外：5B7/1 内：5B7/1	江戸時代後期
339	72	4134	4区	J3	a16	4008	土坑	中・下層	施釉陶器	鉢	23.7	5.8	70%	密 2.5㎜以下の石英微量	釉：7.5Y7/3 素地：2.5Y8/2	瀬戸か。六花形の浅鉢。胎土中に陶土含む。江戸時代後期
340	73	4207	4区	J3	a15	4003	井戸	井戸掘形	瓦	丸瓦	—	—	20%	密	外：N4/ 他 内：N3/	
341	73	4206	4区	J3	a15	4003	井戸	井戸内	瓦	平瓦	—	—	25%	密 0.5㎜以下の石英微量	N5/	両面に離れ砂付着
342	73	4207	4区	J3	a15	4003	井戸	井戸掘形	瓦	平瓦	—	—	30%	密 1㎜以下のチャート・石英微量	N3/ ～ N6/1	
343	73	4185	4区	I3	y14	4019	溝		施釉陶器	碗	—	(3.5)	50%	密	釉：7.5Y8/1 素地：5YR6/4	近世
344	73	4072	4区	J3	d18	4046	土坑		施釉陶器	京信楽系水注蓋	4.1	2.8	93%	密	釉：10Y6/2 素地：5Y8/1	江戸時代後期。水注蓋か
345	73	4072	4区	J3	d18	4046	土坑		染付（肥前系）	広東碗	(10.2)	6.1	25%	密	外：5B7/1 他 内：5B7/1 他	江戸時代後期。19世紀前半頃
346	73	4120	4区	J3	d18	4047	埋桶		瓦	軒平瓦	25.5	4.5	40%	密 10㎜の橙色の小石1個	N4/	橘紋を中心飾とする唐草紋軒平瓦。瓦当面両端の無紋部分が広い。江戸時代
347	73	4073	4区	J3	e18	4048	土坑		施釉陶器	面子	3.4	—	100%	密	外：10YR4/2 内：5YR4/3	丹波焼？江戸時代後期
348	73	4198	4区	I3	y18	4089	埋桶	桶内	施釉陶器	筒形香炉	(13.5)	(6.5)	12%	密	釉：5Y8/2 素地：2.5Y8/1	瀬戸の鉢か。江戸時代
349	73	4198	4区	I3	y18	4089	埋桶	桶内	施釉陶器	大皿	(32.5)	(4.7)	8%	密	外：2.5Y4/2 他 内：10YR8/1	
350	73	4040	4区	J3	a17	4504	土坑		堺焼か	擂鉢	(31.7)	(11.9)	17%	密 2.5㎜以下の長石・チャート微量	外：2.5YR4/4 内：2.5YR4/4	江戸時代後期。スリ目が全体に入る。赤味が強い。
351	73	4041	4区	J3	a17,18	4505	土坑		土師質土器	灯明皿	(7.1)	1.2	22%	密 1.5㎜以下の長石微量	外：5YR6/6 内：5YR5/6	江戸時代。灯明受皿、口縁部の欠けた部分にタール状付着物あり。
352	73	4041	4区	J3	a17,18	4505	土坑		土師質土器	灯明皿	(5.0)	1.6	48%	密	外：10YR7/4 内：7.5YR5/6	江戸時代。口縁端部の欠けた部分にタール状付着物あり。
353	73	4044	4区	J3	e17	4510	土坑		瓦	軒平瓦	—	3.9	50%	密	N7/ 他	唐草紋軒平瓦。離れ砂とキラコを併用。
354	73	4044	4区	J3	e17	4510	土坑		瓦	軒丸瓦	13.2	—	80%	密	N3/ N6/	左巻き三巴紋の軒丸瓦。離れ砂とキラコを併用。江戸時代
355	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		陶器	擂鉢	(22.5)	(6.1)	30%	やや粗 4㎜以下の石英・長石少量	外：10R4/4 内：10R4/4	小型擂鉢。江戸時代末
356	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		土師質土器	焙烙	(30.9)	(4.3)	10%	密 1㎜以下のチャート・長石・雲母少量	外：7.5YR6/4 内：5YR6/6	江戸時代。やや深さあり。
357	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		陶器（唐津？）	土瓶	3.4	2.8	93%	密	釉：5YR4/2 素地：10YR7/2	上面天目茶碗風の小型蓋。江戸時代
358	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		陶器（唐津？）	小碗	6.7	4.0	53%	密	釉：10YR5/3 他 素地：10YR8/1	鉄釉か（草木灰か）。江戸時代後期
359	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		染付（肥前系）	小碗	7.4	4.5	85%	密	外：5GY8/1 他 内：5GY8/1	江戸時代後期
360	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		染付（肥前系）	碗	9.4	5.2	65%	密	外：7.5GY7/1 他 内：7.5GY7/1	江戸時代後期
361	73	4053	4区	J3	f16	4520	土坑		染付（肥前系）	碗	10.7	5.3	63%	密	外：7.5GY8/1 他 内：7.5GY8/1	江戸時代後期
362	73	4061	4区	J3	d14	4528	土坑		染付（肥前系）	紅皿	(4.6)	1.4	48%	密	釉：N8/ 素地：10YR8/1	江戸時代
363	73	4173	4区	J3	c17	4533	土坑		土師器	小皿	9.3	1.3	80%	密 0.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	中世。土師器小皿。底部は板オサエ
364	73	4099	4区	J3	b14	4534	土坑		土師質土器	焙烙	(21.0)	(6.5)	10%	密 3㎜以下の赤色酸化粒・長石微量 0.5㎜以下の雲母微量	外：10YR5/2 内：7.5YR4/2	江戸時代
365	79	5279	5-1区北	J4	c3	Ⅴ層上			弥生土器	広口壺	(16.3)	(7.5)	20%	やや粗 3㎜以下の長石・片岩・チャート多量	外：5YR6/6 内：5YR6/3	全体に磨滅著しい。Ⅰ-2様式
366	79	5638	5-4南中央北			Ⅴ層上			弥生土器	広口壺	—	(14.0)	50%	粗 4㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/2	
367	79	5641	5-4区北南東			Ⅳ層か			土師器	把手（甑？）	—	—	100%	密 6㎜以下の石英・片岩多量	外：2.5YR6/6 他 内：5YR6/6	表面磨滅ぎみ。牛角状把手
368	79	5184	5-1区	J3	a25	Ⅱ層か			施釉陶器肥前系？	円盤状土製品	2.1	0.4	100%	密	釉：7.5Y7/2 露胎 7.5Y8/1 他	
369	79	5137	5-2区北	J4	d14	Ⅲ層上			弥生土器	広口壺	—	(4.1)	5%	密 3㎜以下の片岩少量 2㎜以下の石英・チャート中量	外：10YR6/4 内：10YR6/4	地元産胎土。全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ-3様式？
370	79	5138	5-2区北	J4	d14	Ⅲ層上			弥生土器／土師器	甕	(21.7)	8.6	20%	粗 3㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：10YR3/2 内：10YR3/1	全体に磨滅ぎみ。円礫多量含む。
371	79	5137	5-2区北	J4	d14	Ⅲ層上			染付（肥前系）	仏飯器	—	(4.3)	50%	密	釉：10GY8/1 露胎：N8/0	
372	79	5175	5-2区北	I4	w14	Ⅱ層			弥生土器	広口壺	(25.3)	(12.5)	20%	密 1.5㎜以下の赤色酸化粒・石英・チャート少量	外：10YR8/2 内：10YR8/3	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅲ-1様式。
373	79	5043	5-2区中			側溝			弥生土器	広口壺	(27.0)	(1.9)	13%	粗 2.5㎜のチャート・石英多量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR8/3	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ-3様式
374	81	15107	5-4区南	J4	b12	5040		下層	突帯文系土器	深鉢か	(12.5)	(3.8)	14%	密 1.5㎜以下の片岩少量	外：N2/ 他 内：N2/ 他	突帯紋系土器。弥生前期併行。深鉢か壺
375	88	15215	5-4区南	J4	d13	5040		取上5	突帯文系土器	深鉢	(16.0)	(4.5)	10%	粗 2.5㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR6/2 内：10YR6/3	Ⅰ-2様式。縄文の突帯紋系の影響の残存する。突帯紋系深鉢。5066の下で出土
376	81	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(19.0)	(2.8)	13%	やや密 6㎜以下の石英・片岩少量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR5/2	紀伊Ⅰ様式。広口壺
377	81	15288	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	広口壺	(21.4)	(4.7)	25%	粗 2.5㎜以下の石英・チャート・片岩多量 2.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR7/6	紀伊Ⅰ様式の広口壺口縁部。口縁端部は無紋の平坦面となる。
378	81	15293	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(16.7)	(5.7)	30%	やや粗 2.5㎜以下の石英・チャート・雲母多量	外：10YR6/4 内：10YR7/3	Ⅰ様式。広口壺
379	81	15293	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(5.0)	45%	密 1㎜以下の長石・チャート・赤色酸化粒少量	外：7.5YR5/3 内：10YR5/2	Ⅰ-2様式。遠賀川式の小型壺。肩部に削出突帯をもち、頸部と胴部に段差をもつ。一部朱が残存。
380	81	15294	5-4区南	J4	a12	5040		下層東側	弥生土器	壺	—	(6.5)	12%	密 2㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：2.5Y7/1	Ⅰ-2様式。他地域ではⅠ-1様式とするものが多い。頸・肩部に削り出し突帯。外面丁寧にミガキ。
381	81	15297	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	広口壺	10.6	19.0	80%	粗 3㎜以下の長石・チャート・石英多量	外：10YR4/1 内：10YR5/1	Ⅰ様式。ハケ調整。広口壺。肩部が尖る。
382	81	15256	5-4区南	J4	a17	5040		下層	弥生土器	広口壺	12.6	22.2	98%	粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR8/4 内：7.5YR8/4	Ⅰ-2様式。壺 完形品。内外面磨耗著しい。
383	81	15301	5-4区南	J4	a12	5040		下層	弥生土器	広口壺	16.4	30.4	70%	密 1.5㎜以下の片岩・長石少量	外：10YR7/2 内：2.5Y8/3	Ⅰ-3様式。頸部より上の磨耗が著しい。
384	81	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(14.3)	30%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・赤色酸化粒・長石多量 8㎜以下の石英・片岩微量	外：5YR6/6 内：7.5YR7/4	Ⅰ-3様式。体部下半に煤付着。
385	81	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	広口壺	19.4	(14.8)	60%	密 1.5㎜以下の長石・石英・チャート少量	外：7.5YR6/6 他 内：7.5YR6/6 他	Ⅰ-3様式。薄肌色で砂粒が少ない。
386	81	15291	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	広口壺	—	(9.1)	15%	やや密 2㎜以下のチャート・石英少量	外：10YR4/1 内：7.5YR5/3	紀伊Ⅰ-3様式。貼り付け突帯上に刻み目を施す。広口壺

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
387	81	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(18.1)	(10.0)	20%	やや粗　4㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外：5YR6/6 内：5YR6/8	Ⅰ-2様式。頸部に貼付突帯一条を施す。口縁端部は丸くおさめる。
388	81	15292	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(4.5)	25%	やや密　1㎜のチャート・石英少量	外：7.5YR5/2 内：10YR7/3	Ⅰ-2様式の末期相当か。頸部と肩部に貼付突帯をもち、細かい刻み目を施す。外面は密にミガキ。
389	81	15282	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	手捏ね土器（壺）	—	11.6	83%	粗　4㎜以下のチャート・石英多量　赤色酸化粒少量	外：10YR6/4 内：5YR5/4	Ⅰ様式。手づくね小型壺。口縁部欠失、ドーナツ底を呈す。
390	81	15264	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	壺	8.2	13.1	83%	やや粗　2.5㎜以下のチャート。石英・長石・片岩多量	外：5YR6/6 他 内：10YR6/3	Ⅰ様式か。小型壺
391	81	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(9.5)	25%	やや密　1.5㎜以下のチャート・石英多量　赤色酸化粒微量	外：10YR5/3 内：10YR7/2	Ⅰ-3様式か。頸部に刻目突帯、円形浮紋で飾る。胎土中に片岩なく、にぶい黄褐色を呈する。
392	82	15149	5-4区南	J4	a12	5040		下層	弥生土器	蓋	—	(3.2)	50%	粗　4㎜以下の石英・片岩多量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR7/3	形状は底部と変わらないが、2対2方向の孔とヘラ描き沈線の施紋から蓋と判断した。Ⅰ様式
393	82	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(10.7)	(14.3)	82%	やや粗　3㎜以下のチャート・長石・石英多量	外：7.5YR6/3 内：N3/	Ⅰ-3様式。小型壺。作りは粗い。
394	82	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(19.8)	(6.8)	10%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：10YR7/3 内：2.5Y8/3	Ⅰ-3様式。広口壺
395	82	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(15.8)	(5.9)	12%	密　2㎜以下の石英・片岩少量	外：7.5YR6/4 内：5YR5/4	Ⅰ-3様式様式。頸部にヘラ描沈線紋。口縁端部の縦方向の列点状刻み目は途中で途切れる。
396	82	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(19.5)	(8.0)	68%	粗　4㎜以下の石英・片岩多量	外：2.5Y4/1 内：2.5Y7/3	Ⅰ-3様式。頸部に多条沈線(13本)を施す。表面大部分が磨耗。
397	82	15295	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(24.9)	75%	粗　3㎜以下の長石・石英・チャート・金雲母多量	外：2.5Y8/3 内：10YR7/3	Ⅰ-3様式。広口長頸壺の口縁が欠けたもの。表面磨耗著しい。金雲母入る。
398	82	15288	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	壺	—	(25.0)	70%	やや密　1.5㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：10YR6/3 内：2.5Y7/2	Ⅰ-3様式？広口壺。ヘラ描き沈線の多条化が極限に達する。
399	82	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	太頸壺	(36.1)	(13.7)	12%	粗　5㎜以下の石英・チャート多量　12㎜の片岩1個	外：5YR6/6 内：7.5YR7/6	Ⅰ-3様式。太頸広口壺か。
400	82	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	無頸壺	(7.4)	(5.5)	19%	やや密　1.5㎜以下のチャート。石英少量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。口縁部は短く外反するが、ヘラ描き沈線は7条施されている。
401	82	15260	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	広口壺	(12.0)	5.9	16%	粗　1.5㎜以下の石英･チャート。赤色酸化粒多量	外：10YR7/2 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。付加条をもち、櫛描と思われる紋様を施す。
402	82	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(15.5)	25%	やや粗　3㎜以下のチャート･石英多量	外：2.5Y7/2 他 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅰ-3様式。頸部に6条のヘラ描沈線をもつ。
403	82	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(12.4)	20%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英・片岩多量	外：10YR5/2 内：2.5Y8/3	紀伊Ⅰ-2様式。壺。肩部にヘラ描き沈線を4条施す。
404	82	15282	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(22.2)	25%	やや密　2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y6/1 内：2.5Y7/2	Ⅰ-3様式。体部ミガキののち、ハケメ。体部の張りは大きい。
405	82	15288	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	広口壺	—	(15.0)	45%	やや粗　3㎜以下の長石・チャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式。ヘラ描沈線紋をもつ広口壺。沈線は13条。
406	83	15293	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(25.6)	(3.4)	8%	密　2㎜以下のチャート・長石少量	外：5YR6/4 内：5YR6/4	Ⅰ～Ⅱ様式。広口壺口縁部
407	83	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(28.9)	(7.6)	12%	やや粗　3㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外：10YR7/2 内：7.5YR7/4	Ⅰ～Ⅱ様式。広口壺。口縁端部を若干肥厚させ、ヘラ描沈線で飾る。
408	83	15257	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	広口壺	23.7	(24.0)	86%	やや粗　3㎜以下の石英。片岩・長石多量　3㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/3 内：10YR7/3	弥生前期
409	83	15260	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	広口壺	—	(18.3)	60%	やや密　2㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR5/2 内：10YR6/2	紀伊Ⅰ-3様式。多条のヘラ描き沈線に刻目を加飾する広口壺。
410	83	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(21.8)	(12.0)	70%	粗　3㎜以下のチャート・長石・石英多量	外：10YR5/1 内：2.5Y7/2	Ⅰ-3様式。多条沈線と列点紋を頸部に施す。口縁端部を丸くおさめる。
411	83	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(12.4)	25%	密　4㎜以下の石英・チャート少量　10㎜の片岩1個	外：5YR5/3 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅰ-3様式。貼付突帯及びヘラ描き沈線紋で飾る広口壺
412	83	15294	5-4区南	J4	a12	5040		下層東側	弥生土器	壺	—	(8.2)	30%	密　2㎜以下の石英・赤色酸化粒少量	外：10YR7/4 内：7.5YR7/6	Ⅰ-3様式。ヘラ描沈線と列点紋を組み合わせ、頸部を飾る。広口壺
413	83	15284	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	広口長頸壺	(14.9)	39.6	67%	粗　3㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：5YR6/4 内：10YR7/4	Ⅱ-1様式。広口長頸壺。付加状の沈線の間を櫛描波状紋で埋める。
414	83	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	壺	—	(15.0)	30%	粗　4㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：10YR5/2 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅰ-3様式。付加条をもつ沈線紋。広口長頸壺
415	83	15284	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	直口壺	(15.3)	(4.1)	12%	粗　2㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅱ様式。太頸直口壺。櫛描紋をもち、口縁端部外側に刻目を施す。
416	83	15283	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	無頸壺	(16.1)	(6.1)	12%	密　1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/6 内：2.5YR5/6	紀伊Ⅱ様式。無頸壺。櫛描紋で飾り、口縁近くに孔が2ヵ所確認できる。
417	84	15263	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	蓋	—	(9.7)	63%	粗　2.5㎜のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y6/2	蓋。黒色粒多く。磨耗著しい。
418	84	15263	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	蓋	—	(9.3)	50%	粗　2㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR9/3 内：10YR9/3	弥生土器。甕に蓋。頂部は平坦。
419	84	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	蓋	—	(8.1)	75%	粗　4㎜以下の片岩・石英多量	外：2.5Y8/2 内：10YR7/2	弥生土器。甕に蓋。頂部は平坦。
420	84	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	突帯文系土器	深鉢	—	(2.6)	5%	やや密　3㎜以下の片岩・石英少量	外：10YR3/1 内：10YR7/2	波状口縁の可能性若干あり。口縁部突帯は低く、細い刻み目を施す。Ⅰ-2様式併行か。胎土粗い。
421	84	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺	(13.2)	(4.0)	20%	やや密　1.5㎜以下のチャート・石英少量	外：7.5YR7/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ様式。壺、甕類の口縁部
422	84	15283	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	甕	(20.0)	(6.0)	11%	密　2.5㎜以下のチャート・長石多量	外：10YR5/2 内：10YR5/2	紀伊Ⅰ-3様式。口縁部屈曲なく、端部を刻む。沈線多条化。鉢の可能性あり。外面には煤付着
423	84	15292	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	甕	(25.9)	(4.0)	5%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/3 内：2.5Y7/2	Ⅰ-3様式．。ハケ後、3本以上のヘラ描沈線を施す。煤が口縁端部に付着。如意形口縁をもつ甕
424	84	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	甕	(23.5)	(9.4)	12%	粗　2.5㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外：7.5YR7/6 内：10YR7/3	逆Ｌ字状の口縁をもつ甕。外面には煤付着。
425	84	15107	5-4区南	J4	b12	5040		下層	突帯文系土器	深鉢	(22.4)	(8.5)	10%	粗　3㎜以下の長石・チャート・片岩多量	外：10YR6/3 内：2.5Y7/2	突帯紋系土器（長原式）細かい刻目紋を持って条突帯。弥生前期併行
426	84	15257	5-4区南	J4	c12	5040		下層西側	突帯文系／弥生土器	甕	(23.3)	(5.1)	7%	粗　6㎜以下の石英・片岩少量　6㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 他 内：2.5YR6/6	Ⅰ-2様式。口縁端部は丸く、肩に突帯を有する。突帯より下位はヘラケズリ。
427	84	15283	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	突帯文系土器	甕	(20.5)	(4.4)	7%	粗　2.5㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外：10YR5/2 内：10YR7/3	Ⅰ-2様式か。口縁部突帯の端部に刻みを施す。胎土粗い。
428	84	15293	5-4区南	J4	a13	5040		下層	突帯文系／弥生土器	甕	(25.1)	(7.7)	6%	やや粗　2.5㎜以下の片岩・長石少量　雲母微粒含む	外：10YR2/1 内：10YR6/2	Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。突帯紋系から紀伊型甕への移行期の甕
429	84	15282	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	甕	23.2	(7.8)	6%	粗　2㎜以下の片岩・雲母多量	外：2.5Y5/1 内：10YR6/2	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。紀伊型甕。体部が横位ケズリ。
430	84	15283	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	甕	(24.3)	(5.6)	65%	粗　2㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：10YR6/2 内：10YR7/3	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。紀伊型甕。体部のケズリは横位。
431	84	15291	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	甕	(24.1)	(6.1)	8%	粗　2.5㎜のチャート・石英・片岩多量	外：10YR6/2 内：7.5YR4/1	紀伊Ⅰ-3様式。紀伊型甕。口縁部の反りが大きく、肩部は横位ケズリ。口縁端部に刻み目あり。
432	84	15284	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	甕	(29.8)	(12.8)	20%	粗　2.5㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：5YR5/6 内：10YR6/2	紀伊Ⅱ様式。肩の稜が曖昧な紀伊型甕
433	84	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	甕	(29.4)	(10.9)	17%	粗　5㎜以下の石英・チャート多量	外：2.5Y7/2 内：10YR8/2	紀伊Ⅰ－Ⅱ様式。甕あるいは鍋。黒斑あり。
434	85	15257	5-4区南	J4	c12	5040		下層西側	突帯文系土器	深鉢	(21.6)	(7.4)	5%	密　1.5㎜以下の雲母・白色粒多量	外：N2/ 内：2.5Y5/3	Ⅰ-2様式相当。口縁端部直下に刻目突帯を有する。外面及び内面の大半に煤が付着。
435	85	15285	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	鉢	(15.2)	(10.4)	12%	やや粗　2㎜以下のチャート多量　2㎜以下の石英・赤色酸化粒少量	外：2.5Y7/1 内：2.5Y7/2	瀬戸内系の鉢。Ⅰ-3～Ⅱ-1様式相当。口縁部逆Ｌ字形。胎土中に片岩なく、色調は乳白色。搬入品
436	85	15286	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	鉢	(25.1)	10.3	16%	粗　4㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/2 内：2.5YR6/4	直口鉢
437	85	15288	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	鉢	(19.2)	(6.7)	17%	やや粗　4㎜以下の片岩・石英少量	外：10YR5/2 内：10YR5/1	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式の鉢。外面ハケ、内面ナデ。如意形口縁をもつ。
438	85	15282	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	鉢	(28.7)	(10.7)	6%	やや粗　2.5㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR5/2 内：2.5Y7/2	Ⅰ様式か。外面全体に煤が付着するので、用途は鍋にあたる。内外面やや磨耗する。
439	85	15288	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	鉢	(30.5)	(4.6)	8%	やや密　3.5㎜以下のチャート・長石・石英少量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	Ⅰ～Ⅱ様式。外反口縁の大型ハケメ鉢

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
440	85	15291	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	鉢	(41.6)	(9.4)	6%	粗 3㎜以下のチャート・長石・石英多量	外：2.5Y7/3 内：2.5Y7/2	Ⅰ～Ⅱ様式。外反口縁をもつ大型ハケメ鉢
441	85	15293	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	鉢	(31.2)	(9.8)	12%	やや密 5㎜以下の片岩・石英少量	外：5YR5/4 内：5YR6/4	紀伊Ⅰ-2様式。鉢。口縁部の下に2条の沈線を施す。
442	85	15292	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	鉢	(36.4)	(5.7)	5%	粗 2㎜以下の石英・赤色酸化粒。片岩多量	外：7.5YR7/6 内：7.5YR7/6	紀伊Ⅰ-2様式。鉢。口縁部下に2条の沈線を施す。
443	85	15288	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	鉢	(15.3)	12.0	48%	密 3㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/3 内：2.5Y7/2	直口鉢。前期か。外面は短いハケ調整。胎土がやや緑色がかる。外面に煤付着。
444	85	15292	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	高坏	—	(6.9)	60%	密 2㎜以下の石英・片岩少量	外：2.5Y7/2 内：5Y6/2	Ⅰ～Ⅱ様式。高坏と推定される破片。口縁・底の端部を欠失。
445	85	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	円盤（土器転用）	5.0	—	100%	密 2㎜以下の石英・チャート少量 8㎜の石英・片岩微量	外：5YR5/4 内：10YR7/2	
446	85	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	円盤（土器転用）	7.9	—	100%	密 2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y7/2	
447	86	15283	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺類	—	(9.5)	50%	やや粗 2.5㎜のチャート・長石・石英多量	外：10YR6/2 内：2.5Y4/1	
448	86	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	壺類	—	7.1	60%	やや密 2.5㎜以下のチャート・石英少量	外：7.5YR6/2 内：2.5Y5/1	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。底部は非常に厚い。
449	86	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	壺類	—	(4.0)	40%	密 2㎜以下のチャート・石英少量	外：10YR6/2 内：2.5Y3/1	
450	86	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	壺類	—	(9.0)	100%	密 1.5㎜以下の石英・長石少量	外：2.5Y7/4 他 内：2.5Y7/2	壺底部、ミガキ残る。胎土中の砂粒が細かい。
451	86	15290	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	壺	—	10.6	65%	粗 4㎜以下の長石・チャート・片岩多量	外：2.5Y8/1 内：2.5Y4/1	甕底部。胎土中の砂粒粗い。
452	86	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	壺類	—	(6.5)	75%	やや粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y7/2 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式
453	86	15298	5-4区南	J4	a13	5040		下層	弥生土器	壺類	—	5.2	100%	やや粗 3㎜以下のチャート・石英・長石・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/2	並行するヘラ描き沈線紋を底部脇半面に3ヵ所施す。
454	86	15263	5-4区南	J4	b12,13	5040		下層	弥生土器	壺類	—	(7.8)	100%	やや粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR5/4	
455	86	15282	5-4区南	J4	c12	5040		下層	弥生土器	甕	—	4.3	80%	粗 2㎜以下の石英・チャート・長石多量 6㎜の石英・片岩微量	外：2.5Y6/2 内：7.5YR5/3	弥生土器。甕の底部。径2.8cm、深さ1.3cmの円錘形に穿孔途中痕とみられる跡が残る。
456	86	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	甕	—	8.9	25%	粗 3㎜以下の片岩・雲母・石英多量	外：2.5Y7/3 内：10YR6/3	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。紀伊型甕の底部
457	86	15294	5-4区南	J4	a12	5040		下層東側	弥生土器	壺か	—	(5.9)	65%	やや密 1.5㎜以下のチャート・片岩多量	外：7.5YR6/6 内：2.5Y6/2	突出した平底の底部をもつ壺
458	87	15151	5-4区南	J4	d13	5040		中層	弥生土器	甕か鉢	(39.5)	(5.4)	6%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒少量	外：10YR6/3 内：10YR3/1	Ⅰ-3様式。ヘラ描沈線が多条化を始めている。内外面磨耗する。
459	87	15287	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層	弥生土器	広口壺	(20.3)	(2.8)	30%	粗 7㎜の片岩・石英多量	外：5YR6/6 内：7.5YR6/3	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。広口壺
460	87	15258	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	壺	(16.7)	(10.6)	30%	やや密 3㎜以下のチャート・石英少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式。ヘラ描き沈線紋の広口壺。
461	87	15300	5-4区南	J4	a12	5040		上・中層	弥生土器	直口壺	(11.9)	7.3	15%	粗 2㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：5YR5/4 内：10YR7/2	Ⅱ様式。直口壺（長頸）。口縁端部の面がやや広い。
462	87	15300	5-4区南	J4	a12	5040		上・中層	弥生土器	鉢か	(15.5)	(3.8)	17%	粗 3㎜以下の石英・片岩多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。口縁部中央に沈線、上下を刻む。肩付近は細いヘラ描沈線紋を8条施す。
463	87	15287	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層	弥生土器	壺	—	9.0	15%	粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR6/6 内：5Y7/2	肩部に逆U字形に櫛描きがある。年代不詳
464	87	15287	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層	弥生土器	長頸壺	—	(12.0)	25%	やや粗 5㎜以下の片岩少量 3㎜以下のチャート・石英少量	外：2.5Y7/2 内：5YR5/4	紀伊Ⅱ-1様式の始め。付加状沈線をもつ櫛描紋で飾る、長頸広口壺。櫛描きは粗雑。
465	87	15258	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	甕	(20.5)	(7.9)	45%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・石英少量	外：5YR5/4 内：2.5Y7/1	Ⅰ-2様式。遠賀川系の甕。肩部の沈線は4条で、口縁端部に刻み目を施す。外面全面に煤が付着
466	87	15299	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層	弥生土器	甕	(19.8)	(6.4)	15%	粗 3㎜以下のチャート多量 3㎜以下の石英少量	外：7.5YR5/2 内：10YR8/2	紀伊型甕。ケズリの上端が分かりづらい。外面に煤付着。
467	87	15259	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	甕	(30.0)	(13.5)	40%	粗 3㎜以下の片岩・赤色酸化粒・石英多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	Ⅰ～Ⅱ様式。紀伊型甕大型品。肩部のヘラ削りは横方向。
468	87	15258	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	鉢か甕	(35.0)	(4.7)	7%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/3 内：10YR8/2	Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。口縁端部に刻み目をもつ。内外面磨耗する。
469	87	15258	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	鉢	(43.1)	(9.3)	8%	密 3㎜以下のチャート・石英・片岩少量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	Ⅰ～Ⅱ様式。把手付の大型鉢
470	87	15259	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	鉢	(28.2)	(11.3)	13%	やや粗 4㎜以下のチャート・長石・石英多量	外：7.5YR6/4 他 内：2.5Y7/2	
471	87	15259	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	壺	—	(7.6)	65%	やや粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y7/2 内：5YR6/4	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。壺・甕類の底部か。底が非常に厚い。
472	87	15299	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層	弥生土器	甕	—	4.6	100%	密 2㎜以下の片岩・長石少量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	
473	87	15287	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層	弥生土器	壺類	—	8.6	65%	粗 5㎜以下のチャート・長石・石英多量 11㎜の片岩1個	外：7.5YR7/3 内：2.5Y7/2	平底の底部。大粒の砂粒多量に入る。
474	87	15258	5-4区南	J4	b12	5040		上・中層中央	弥生土器	甕	—	(8.3)	56%	密 2.5㎜以下の石英・片岩少量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/3	平底の壺底部
475	88	15213	5-4区南	J4	d13	5040		取上3	弥生土器	壺	—	(9.8)	30%	粗 4㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：10YR7/3 他 内：7.5YR5/6	弥生土器底部。5066の下で出土
476	88	15214	5-4区南	J4	d13	5040		取上4	弥生土器	広口壺	(25.2)	(12.9)	50%	密 3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR5/3 内：7.5YR5/3	Ⅰ-3様式。広口壺口頸部、頸部に6条のヘラ描き沈線を施す。5066の下で出土
477	81	15303	5-4区南	J4	b13	5040		下層	弥生土器	広口壺	(15.5)	(4.2)	20%	粗 2㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR7/6 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。広口壺
478	88	15267	5-4区南	J4	b12	5040		取上13	弥生土器	広口壺	—	(11.7)	20%	粗 2㎜以下のチャート・長石・赤色酸化粒多量	外：2.5Y7/2 内：10YR5/2	紀伊Ⅰ-3様式。頸部に貼付突帯をもつ広口壺
479	88	15276	5-4区南	J4	b12	5040		取上22	弥生土器	広口壺	(17.0)	(5.7)	14%	粗 3㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：5YR6/6 内：5YR6/4	Ⅰ-3様式。へら描沈線が櫛描紋に移行する段階
480	88	15206	5-4区南	J4	c12	5040		取上9	弥生土器	蓋	—	(6.9)	65%	粗 3㎜以下のチャート・石英・長石・赤色酸化粒多量	外：10YR7/3 内：7.5YR6/4	上面平坦面広い。外面縦位ハケ、内面ナデと横位ハケ。弥生前～中期
481	88	15289	5-4区南	J4	b12	5040		下層	弥生土器	壺	9.5	(6.5)	70%	やや粗 3㎜以下のチャート。石英多量	外：2.5Y7/2 他 内：10YR4/1	小型壺。作りは粗い。割れ面が新しいが、接合する破片がみあたらない。Ⅰ様式か。
482	88	15205	5-4区南	J4	c12	5040		取上8	弥生土器	広口壺	(21.8)	(8.4)	25%	粗 3㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：N4/ 内：5YR5/6	Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。磨耗著しい。
483	88	15261	5-4区南	J4	b12	5040		上・下層	弥生土器	広口壺	18.2	29.9	70%	やや粗 2.5㎜以下のチャート多量 2.5㎜以下の石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/3 内：2.5Y7/2	Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。付加状沈線あり。ヘラ状工具を3～4本束ね、櫛描紋的に施文する。
484	88	15213	5-4区南	J4	d13	5040		取上3	弥生土器	広口壺	(21.7)	(13.8)	50%	やや粗 2㎜以下の片岩・長石・赤色酸化粒多量	外：2.5Y8/2 内：2.5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式。ヘラ描沈線紋が多条となる広口壺。5066の下で出土
485	88	5639	5-4区南南西			5040			弥生土器	広口壺	(33.4)	(4.0)	10%	粗 1.5㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：10YR6/3 内：2.5Y7/2	5040付近での出土
486	88	5612	5-2区			5040			弥生土器	壺	—	(11.6)	95%	粗 1.5㎜以下の石英・長石・チャート・雲母多量	外：10YR8/2 内：2.5Y8/2	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式。5010の下で出土
487	88	5413	5-2区北	J4	b15	5040			弥生土器	壺	—	(8.4)	100%	密 1㎜のチャート・石英少量	外：10YR4/1 内：2.5Y7/2	部分的に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ様式？
488	89	15215	5-4区南	J4	d13	5040		取上5	突帯文系／弥生土器	甕	(22.5)	(15.5)	40%	粗 3㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外：10YR5/2 内：10YR6/3	紀伊Ⅰ-2様式。低い突帯をもつ紀伊型甕。口縁部突帯は形骸化している。5066の下で出土
489	89	5377	5-2区北	J4	d13,14	5040			弥生土器	甕	(22.2)	(7.1)	13%	粗 2.5㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR6/2 内：10YR3/1	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式。残存する細片で口径を復元。
490	89	15208	5-4区南	J4	c12	5040			弥生土器	甕	(23.4)	(15.7)	25%	密 3㎜以下の片岩・石英少量	外：2.5Y6/1 内：2.5Y7/2	Ⅰ様式か。
491	89	15208	5-4区南	J4	c12	5040			弥生土器	甕	—	11.1	20%	粗 7㎜以下の片岩・チャート・石英多量	外：2.5Y5/4 内：5YR6/6	平底の甕底部。磨耗著しい。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
492	89	15278	5-4区南	J4	b12	5040		取上24	弥生土器	鉢	(43.5)	(13.8)	8%	やや密　2㎜以下のチャート・石英少量	外：10YR6/3 内：2.5Y6/3	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。大型鉢。外面及び内面口縁部をハケ。
493	91	5576	5-1区	J4	d2	5081	（溝6）		弥生土器	広口壺	20.8	5.2	7%	粗　3㎜以下のチャート・長石多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	弥生土器広口壺。口縁部内面を突帯で飾る。阿方式土器か。中期前葉か。
494	91	5619	5-1区北	J4	d2	5081	（溝6）		弥生土器	壺	—	5.6	100%	粗　10㎜以下の石英・片岩・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/6 内：10YR7/3	弥生土器壺底部。胎土粗く、大きな平底であり、前～中期と考えられる。
495	91	5327	5-1区北	J4	d1	5081	（溝6）		弥生土器	壺	—	5.5	75%	粗　4㎜以下の石英・赤色酸化粒・片岩多量	外：10YR7/3 他 内：2.5Y4/1	弥生土器壺底部。大型の平底で胎土粗く、前～中期の土器と見られる。
496	91	5327	5-1区北	J4	d1	5081	（溝6）		弥生土器／土師器	甕か鉢	—	6.5	30%	密　2㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：2.5YR6/3 内：10YR8/3	小型の甕か鉢。タタキ痕をナデ消してある。
497	91	5327	5-1区北	J4	d1	5081	（溝6）		弥生土器	壺類	—	(5.1)	100%	密　3㎜以下の石英多量　3㎜以下の片岩少量	外：7.5YR7/4 他 内：2.5Y6/1	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
498	91	5327	5-1区北	J4	d1	5081	（溝6）		弥生土器	甕	—	(7.2)	100%	粗　5㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外：10YR8/3 内：10YR8/3	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
499	91	5344	5-1区	J4	d2	5081 a	（溝6）	1層	弥生土器	鉢か	(15.3)	(4.3)	10%	やや粗　3.5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅰ-3様式。小型鉢。ヘラ描沈線紋を口縁部の下に3条施す。
500	91	5554	5-1区北	J4	d1	5081 b	（溝6）	1層	土師器	甕	(15.1)	(3.1)	10%	やや粗　1㎜以下の赤色酸化粒・石英多量	外：7.5YR6/2 内：5YR6/4	土師器ハケメ甕。頸部内面尖り、肩部薄手に仕上げる。口縁端部上に肥厚する。
501	91	5554	5-1区北	J4	d1	5081 b	（溝6）	1層	弥生土器	壺類	—	(2.9)	90%	粗　5㎜以下のチャート・片岩多量	外：5YR7/6 内：5YR7/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
502	91	5554	5-1区北	J4	d1	5081 b	（溝6）	1層	弥生土器	壺類	—	(5.6)	30%	粗　8㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR7/4 内：5YR6/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
503	92	5504	5-1区南	J4	a6	5080	（溝7）	上・下層	弥生土器か土師器	甕	(21.1)	2.2	8%	密　1.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/6 内：7.5YR7/6	弥生Ⅴ様式の甕の口縁部片
504	92	5573	5-1区北	J4	d1	5080	（溝7）	上層	弥生土器	鉢	(30.1)	(8.3)	8%	やや粗　2.5㎜以下のチャート・長石多量	外：5Y7/2 内：10YR6/3	弥生土器鉢。口縁端部に刻み目を施す。
505	92	5501	5-1区南	J4	a5	5080	（溝7）	上層	弥生土器	甕	—	3.4	30%	粗　3㎜以下の長石・片岩・チャート多量	外：7.5YR6/4 内：10YR8/3	弥生土器甕底部。平底。弥生時代後期か。
506	92	5499	5-1区南	J4	a5	5080	（溝7）	上・下層	弥生土器か土師器	高坏か	—	(1.5)	45%	密　1㎜以下の石英微量	外：7.5YR7/4 内：10YR8/2	高坏の杯から脚部にかけての破片。
507	92	5342	5-1区北	I4	y3	5080	（溝7）		弥生土器	小型壺	(6.8)	6.4	40%	密　2㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒少量	外7.5YR7/4 内：5YR5/6	全体に剥離、磨滅著しい。庄内式併行期古段階
508	92	5895	5-4区北	J4	c9	5227	（溝7）		弥生土器	広口壺	(18.1)	(4.6)	10%	密　1㎜以下の石英微量	外：7.5YR6/2 内：5YR6/3	紀伊Ⅱ様式。広口壺。口縁端部に櫛描紋を施す。
509	92	5896	5-4区北	J4	c10	5227	（溝7）		弥生土器	短頸壺	(12.8)	(6.7)	30%	密　1.5㎜以下の石英・長石少量	外：5YR6/6 内：5YR6/4	口縁部があまり開かない壺。Ⅰ-3様式
510	92	5895	5-4区北	J4	c9	5227	（溝7）		弥生土器	広口壺	(25.7)	(1.1)	8%	やや粗　2㎜以下のチャート・片岩・長石少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅱ様式。広口壺。口縁内面に山形紋をスタンプする。
511	92	15192	5-4区北	J4	b9	5227	（溝7）		弥生土器	壺類	—	(6.8)	100%	粗　3.5㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：10YR8/3 内：7.5YR6/6	
512	92	15042	5-4区南	J4	c12	5227	（溝7）		弥生土器	壺類	—	(4.0)	70%	粗　2.5㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR6/3 内：7.5YR6/3	平底の底部
513	92	5893	5-4区北	J4	c10	5227	（溝7）	上層	弥生土器	甕	(22.8)	(9.7)	10%	やや粗　1.5㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR5/2 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅱ様式。紀伊型甕。肩部の稜線が曖昧。
514	92	5891	5-4区北	J4	b8	5227	（溝7）	上層	弥生土器	甕	(21.6)	(15.5)	30%	粗　4㎜以下の片岩・石英多量	外：5YR6/6 内：7.5YR7/4	紀伊型甕。Ⅰ～Ⅱ様式
515	92	5894	5-4区北	J4	c11	5227	（溝7）	上・下層	弥生土器	甕	—	(3.8)	50%	粗　3㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR7/4 内：10YR7/2	甕（甑として使用か）
516	92	15145	5-4区南	J4	d11	5279	（溝7）		弥生土器	甕	(17.8)	(6.5)	14%	粗　2.5㎜のチャート多量	外：10YR6/1　内：10YR5/2	Ⅱ様式か。紀伊型ではない甕、搬入品？
517	92	15145	5-4区南	J4	d11	5279	（溝7）		弥生土器	穿孔甕	—	(7.4)	50%	粗　5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/6 内：5YR6/6	
518	93	5446	5-1区	I4	x5	5096	（溝8）	上・下層	弥生土器	広口壺	(21.6)	(7.3)	17%	密　1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/3 内：5YR5/4	全体に磨滅ぎみ。Ⅱ-1様式
519	93	5489	5-1区南	I4	x5	5096	（溝8）		弥生土器	甕	(18.9)	(4.0)	14%	やや粗　3㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR4/1　内：7.5YR4/1	内面磨滅著しい。外面磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式
520	93	5525	5-1区	I4	x4	5096	（溝8）	上層	弥生土器	甕	(23.0)	(19.7)	18%	粗　5㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR5/2　内：10YR6/1	内面の剥離、磨滅極めて著しい。外面磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式
521	93	5840	5-4区北	J4	a8	5206	（溝8）	最下層	弥生土器	円盤状土製品	6.7	—	100%	密　3㎜以下の石英多量　3㎜以下の赤色酸化粒中量	外：10YR7/3　内：7.5YR7/4	弥生土器転用円盤。径6.3～6.7cm
522	93	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	壺	—	(2.1)	5%	密　3㎜以下の石英・チャート少量	外：10YR7/3　内：5YR5/6	紀伊Ⅱ様式。広口壺。口縁端部上面に竹管紋あり。
523	93	5834	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(16.8)	(4.2)	20%	密　1～3㎜のチャート多量	外：10YR7/3　内：10YR7/3	紀伊Ⅰ－Ⅱ様式。広口壺口縁部
524	93	5841	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(14.6)	(1.4)	10%	密　1㎜以下の石英・チャート微量	外：5YR4/1 内：5YR4/1	紀伊Ⅱ-2様式。Ⅲ-1様式へ移行する直前段階か。口縁端部が垂下しつつある。
525	93	15141	5-4区南	J4	c12	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(19.3)	(7.0)	5%	密　4㎜以下の石英中量　3㎜以下の片岩微量	外：5YR5/6 内：10YR7/4	紀伊Ⅰ-3様式。頸部ヘラ描き沈線多量化。口縁端部に刻み目を施す。内外面ミガキ。
526	93	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(17.9)	(1.7)	5%	密　2㎜以下の石英・片岩・チャート少量	外：10YR7/3　内：10YR6/4	紀伊Ⅱ様式。広口壺。口縁端部にヘラ描き沈線の後に、上下に列点紋の刻目を施す。
527	93	5834	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(22.2)	(2.7)	17%	粗　3㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：10YR5/2　内：10YR6/3	Ⅱ様式。磨耗著しい。
528	93	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(23.6)	(6.7)	17%	粗　3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：2.5YR7/4 内：7.5YR5/4	Ⅱ様式。表面磨耗著しい。厚手
529	93	5836	5-4区北	J4	b10	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(17.0)	(5.6)	5%	密　2㎜以下の石英・チャート少量	外：10YR6/4　内：7.5YR6/4	紀伊Ⅱ様式。広口長頸壺か。口縁端部が外へ屈曲する。
530	93	5834	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	広口壺	(25.4)	(9.1)	20%	粗　3㎜以下のチャート・長石・石英多量　8㎜の片岩1個	外：10YR7/3　内：10YR6/4	Ⅰ様式。やや磨耗。石粒表面に析出。
531	93	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	壺	—	(15.3)	15%	やや粗　3㎜以下の石英・長石・チャート多量	外：7.5YR5/2 内：2.5Y6/1	Ⅰ-3様式
532	93	5843	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	鉢	(17.8)	(5.5)	6%	やや粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR4/2 内：10YR6/2	紀伊Ⅰ-3様式。小型鉢。付加条を持つヘラ描沈線紋を体部に施す。
533	93	5843	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	下層	突帯文系／弥生土器	甕か	(24.1)	(11.3)	12%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量　3㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/3 内：7.5YR6/1	突帯紋系の甕
534	93	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	鉢	(28.4)	(13.4)	13%	粗　2㎜以下のチャート・石英・雲母多量	外：5YR5/4 内：7.5YR6/4	甕か鉢の口縁部。指でつまんで口縁部の角度を調整したものと思われる。
535	93	15141	5-4区南	J4	c12	5206	（溝8）	下層	弥生土器	鉢	(27.0)	(10.0)	5%	密　4ミリ以下の石英・チャート多量	外：7.5YR7/4 内：10YR7/4	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。鉢。体部が大きく張る。
536	93	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	甕	(21.2)	(8.5)	20%	粗　1.5㎜以下の片岩・長石・チャート多量	外：10YR7/2　内：7.5YR8/2	Ⅰ～Ⅱ様式。紀伊型甕。体部外面ケズリ横方向。やや磨耗する。
537	93	5836	5-4区北	J4	b10	5206	（溝8）	下層	弥生土器	甕	(20.1)	(8.9)	20%	粗　2.5㎜以下の石英・赤色酸化粒・片岩多量	外：7.5YR7/4 内：10YR6/3	紀伊型甕。Ⅱ-1様式か。表面磨耗著しい。
538	94	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	壺	—	(8.5)	45%	粗　4㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR5/4 内：10YR7/3	平底の底部。内面磨耗著しい。
539	94	5836	5-4区北	J4	b10	5206	（溝8）	下層	弥生土器	壺類	—	(3.7)	100%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR6/6 内：7.5YR5/1	平底の底部
540	94	5833	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	下層	弥生土器	壺類	—	(6.8)	50%	密　3㎜以下の石英多量	外：10YR7/3　内：10YR7/3	弥生土器壺底部。平底。内外面ハケメ。
541	94	5836	5-4区北	J4	b10	5206	（溝8）	下層	弥生土器	壺類	—	(6.1)	95%	粗　1.5㎜以下の金雲母・石英・チャート多量	外：10YR6/3　内：10YR6/3	平底の底部。内面ミガキ、外面ナデ。鉢の可能性あり。胎土に金雲母多数入る。
542	94	15142	5-4区南	J4	c12	5206	（溝8）	下層	弥生土器	甕類	—	(5.6)	100%	密　8㎜以下の石英・片岩多量	外：2.5YR6/6 内：5YR6/4	突出する平底の底部
543	94	5839	5-4区北	J4	b11	5206	（溝8）	中・下層	弥生土器	広口壺	(10.8)	(2.8)	17%	密　2.5㎜以下のチャート・長石少量	外：7.5YR5/3 内：10YR7/2	紀伊Ⅰ-3様式か。
544	94	5839	5-4区北	J4	b11	5206	（溝8）	中・下層	弥生土器	甕	(18.9)	(5.0)	7%	粗　3㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：10YR3/1　内：10YR6/3	紀伊Ⅰ-3様式。口縁端部に刻み目を施す。
545	94	5839	5-4区北	J4	b11	5206	（溝8）	中・下層	弥生土器	鉢	(30.3)	(3.9)	8%	密　2.5㎜以下の石英・チャート・長石少量	外：5YR6/4 内：5YR6/4	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。鉢。大型品
546	94	5837	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	上層	弥生土器	広口壺	(17.0)	(0.9)	8%	やや粗　4㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/3　内：10YR7/3	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ様式。広口壺口縁部
547	94	5837	5-4区北	J4	a9	5206	（溝8）	上層	弥生土器	広口壺	(21.2)	(1.9)	5%	粗　2㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR5/2　内：7.5YR5/4	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ様式。広口壺口縁部

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
548	94	15038	5-4区南	J4	c12	5206	(溝8)	上層	弥生土器	広口壺	(24.7)	(7.1)	16%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR7/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。やや厚手。ヘラ描沈線紋あり。
549	94	5785	5-4区北	J4	b10	5206	(溝8)	上層	弥生土器	広口壺	―	(6.3)	13%	やや粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：10YR6/3	紀伊Ⅰ-3様式。頸部外面のほか、口縁部内面に貼り付け突帯をもつ。
550	94	5842	5-4区北	J4	a8	5206	(溝8)	上層	弥生土器	鉢類	(14.6)	(5.1)	7%	密 1.5㎜以下のチャート・片岩少量	外:2.5Y7/2 内:2.5Y8/2	紀伊Ⅱ様式。小型鉢。櫛描紋を施す。
551	94	5784	5-4区北	J4	b9	5206	(溝8)	上層	弥生土器	壺	―	(4.8)	5%	粗 3㎜以下の石英・片岩・赤色酸化粒多量	外:10YR7/2 内:7.5YR5/3	ヘラ描き沈線と竹管文のある土器片
552	94	5842	5-4区北	J4	a8	5206	(溝8)	上層	弥生土器	鉢か	(35.2)	(3.2)	5%	粗 2㎜以下の長石・石英多量	外：7.5YR7/6 他 内：5YR6/6	把手付鉢か広口壺の口縁
553	94	15038	5-4区南	J4	c12	5206	(溝8)	上層	弥生土器	鉢	(33.7)	(5.4)	7%	やや粗 5㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR6/4 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅱ様式か。弥生土器鉢。口縁端部が平坦面をもつ。
554	94	5837	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	上層	弥生土器	甕	(15.8)	(7.5)	20%	粗 2㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外:10YR 8/3 内:10YR7/3	紀伊Ⅱ様式。紀伊型甕。小型品。肩のナデとヘラケズリの境が分かりづらい。
555	94	5783	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	上層	弥生土器	甕	(20.7)	(6.9)	18%	粗 1㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外:10YR8/3 内:10YR6/3	口縁端部がわずかに肥厚する。Ⅰ-2様式。甕。内外面磨耗著しい。
556	94	5785	5-4区北	J4	b10	5206	(溝8)	上層	弥生土器	甕	(20.8)	(8.4)	10%	粗 2㎜以下の石英・片岩多量	外：7.5YR6/2 内：10YR7/2	紀伊型甕
557	94	5783	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	上層	弥生土器	甕	(33.0)	(10.0)	10%	粗 3㎜以下の片岩・長石・石英・赤色酸化粒多量	外:2.5Y8/3 内:7.5YR8/2	Ⅰ-3様式。紀伊型甕。横方向のケズリにより肩に稜がみられる。
558	95	15038	5-4区南	J4	c12	5206	(溝8)	上層	弥生土器	甕	―	5.8	65%	粗 5㎜以下の石英・片岩多量	外:10YR8/3 内:10YR3/1	弥生土器甕底部。ややドーナツ底
559	95	15129	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)	土器1	弥生土器	壺	―	(5.6)	100%	粗 4㎜以下の石英・片岩多量	外:2.5Y8/2 内:7.5YR3/2	弥生土器壺底部。外面磨耗著しい。
560	95	15130	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)	土器2	弥生土器	広口壺	―	(26.1)	60%	やや粗 2.5㎜以下の石英・長石・チャート多量	外:10YR7/2 内:10YR5/1	広口長頸壺。口縁部欠ける。外面磨滅著しい。内面剥離、磨滅著しい。
561	95	15130	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)	土器2	弥生土器	壺	―	(15.8)	63%	粗 6㎜以下の石英・片岩・長石多量	外:10YR5/1 内:10YR6/4	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式
562	95	15137	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)	土器2の下	弥生土器	広口壺	―	(15.3)	40%	粗 3㎜の片岩・石英・チャート多量	外：5YR7/4 内：10YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。頸部に7条の貼り付け突帯を付し、刻目を施す。
563	95	15131	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)	土器3	弥生土器	甕類	―	(8.2)	63%	やや粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外:10YR5/2 内:10YR6/3	弥生土器甕底部。ややドーナツ底。内外面ハケメ。
564	95	15131	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)	土器3	弥生土器	壺類	―	(6.9)	75%	粗 4㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：5YR6/6 内：7.5YR6/6	弥生土器壺底部。内外面ハケメ。平底
565	95	15132	5-4区南	J4	c12	5206	(溝8)	土器4	弥生土器	広口壺	14.0	22.3	100%	やや粗 2㎜のチャート多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	広口壺。全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ-3様式
566	95	15133	5-4区南	J4	c12	5206	(溝8)	土器5	弥生土器	壺	―	(11.3)	100%	粗 4㎜以下のチャート・石英多量	外:10YR6/3 内:10YR6/1	弥生土器壺底部。平底。外面ミガキ。
567	95	15134	5-4区南	J4	d12	5206	(溝8)	土器6	弥生土器	壺類	―	(4.6)	55%	粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外:2.5Y6/2 内:2.5Y7/2	弥生土器壺底部。平底。外面ハケメ。
568	95	15, 139	5-4区南	J4	d12	5206	(溝8)	土器6の下	弥生土器	甕	(22.5)	(15.3)	25%	粗 5㎜以下の片岩・石英多量	外：2.5Y7/2 他 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式。口縁部の屈曲が小さい。肩に5条。ヘラ描沈線を施す。内外面磨耗著しい。
569	95	15135	5-4区南	J4	d12	5206	(溝8)	土器7	弥生土器	壺	―	(6.2)	80%	粗 2.5㎜のチャート・石英多量	外:10YR7/2 内:5YR6/3	弥生土器壺底部。平底。前～中期。内外面磨耗著しい。
570	95	15136	5-4区南	J4	d12	5206	(溝8)	土器8	弥生土器	壺類	―	(4.4)	95%	粗 3㎜以下のチャート・石英・片岩多量	外：5YR6/4 内：2.5Y6/2	弥生土器壺底部。大型の平底
571	96	15185	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	土器3	弥生土器	壺	―	22.3	25%	粗 5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR5/3	付加状沈線をもつ、櫛描紋を施す。頸部に列点紋と流水紋を配する。磨耗がすすんでいる。
572	96	15184	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	土器2	弥生土器	壺	―	(5.9)	45%	粗 5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR4/2 内：5YR5/4	弥生土器壺甕類の底部。外面板状工具によるナデ。
573	96	15183	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	土器3の下	弥生土器	鉢	(28.4)	(5.1)	13%	やや粗 3㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR5/3 内：7.5YR6/4	弥生土器鉢。頸部にヘラ描沈線を1条のみ施す。
574	96	15186	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	土器4	弥生土器	甕	(35.0)	(15.3)	20%	粗 3.5㎜以下の赤色酸化粒・石英・片岩多量	外:10YR5/3 内:10YR8/1	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。紀伊型甕。大型品。外面ヘラケズリ横方向。
575	96	15187	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	土器5	弥生土器	壺	―	(4.7)	60%	やや粗 4㎜以下のチャート・石英・多量	外：7.5YR5/3 内：2.5Y5/1	弥生土器壺底部。平底
576	96	15188	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)	土器6	弥生土器	壺	―	(5.6)	70%	粗 3㎜以下のチャート・石英多量 3㎜以下の長石微量	外：7.5YR8/3 内：7.5YR7/4	弥生土器壺底部。平底。内面底部付近にらせん状の工具痕残る。
577	96	5832	5-4区北	J4	a8	5206	(溝8)	上・下層	弥生土器	広口壺	(22.4)	(2.0)	8%	やや粗 2㎜の石英・チャート少量	外:10YR7/4 内:10YR8/3	Ⅰ－Ⅱ様式。口縁内側に装飾を施す。
578	96	5873	5-4区北	J4	b10	5206	(溝8)		弥生土器	広口壺	(13.6)	(1.8)	5%	密 3㎜以下のチャート多量	外:5Y8/1 内:5Y8/1	広口壺口縁部。端部・沈線曖昧。片岩含まず、灰白色の土器片
579	96	5832	5-4区北	J4	a8	5206	(溝8)	上・下層	弥生土器	広口壺	(24.1)	(2.4)	7%	やや密 2㎜以下のチャート・石英少量	外:2.5Y6/2 内:10YR5/3	紀伊Ⅱ様式。広口壺。口縁端部にヘラ描き沈線とX字形の刻み目を施す。
580	96	15143	5-4区南	J4	d13	5206	(溝8)		弥生土器	壺	―	(3.2)	5%	密 3㎜以下の石英中量	外：10YR6/3 他 内：2.5Y8/2	紀伊Ⅰ-2様式。遠賀川系の壺。頸部に3条のヘラ描沈線が残る。
581	96	5872	5-4区北	J4	a8	5206	(溝8)		弥生土器	壺	―	(4.4)	8%	やや粗 3㎜以下のチャート・石英少量	外:5Y7/1 内:7.5YR4/2	遠賀川系の壺か。肩部に木の葉紋を施す。Ⅰ様式
582	96	15143	5-4区南	J4	d13	5206	(溝8)		弥生土器	壺	―	(6.2)	5%	密 3㎜以下のチャート多量 3㎜以下の石英少量	外：7.5YR5/2 他 内：N3/0	紀伊Ⅰ-3様式。肩と胴に2条以上の貼り付け突帯をもち、刻目を施す。
583	96	5974	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)		弥生土器	広口壺	(17.3)	(21.1)	23%	粗 3㎜以下の石英・チャート多量	外:10YR5/3 内:10YR8/3 他	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。外面ミガキ。内外面磨耗著しい。
584	96	5873	5-4区北	J4	b10	5206	(溝8)		弥生土器	壺	―	(6.8)	12%	やや密 1.5㎜以下の長石・石英・雲母多量	外:10YR7/4 内:2.5Y7/1	紀伊Ⅰ-3様式。多条のヘラ描沈線紋と肩部に貼り付け突帯をめぐらす。片岩を含まず、暗茶褐色
585	97	5974	5-4区北	J4	a9	5206	(溝8)		弥生土器	甕	(23.8)	(3.7)	20%	密 4㎜以下のチャート中量 5㎜以下の石英少量	外:10YR6/4 内:10YR7/4	紀伊Ⅰ-3様式。遠賀川系の甕。肩に4条以上のヘラ描沈線。口縁端部に刻目。薄手。
586	97	15035	5-4区南	J4	c12	5206	(溝8)		弥生土器	甕か	(24.0)	(6.5)	5%	密：3㎜以下のチャート多量 3㎜以下の石英中量	外：5YR5/3 内：5YR6/6 他	紀伊Ⅰ-2～Ⅰ-3様式．．口縁端部が水平になっている。肩に多条のヘラ描沈線。口縁端部に刻目
587	97	15057	5-4区南	J4	c11	5206	(溝8)		弥生土器	鉢	(52.9)	(8.5)	5%	密 3㎜以下の石英・チャート中量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6 他	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。把手付大型鉢。外面に粗いハケを施す。
588	97	15089	5-4区北	J4	b10	5206	(溝8)	土器1	弥生土器	壺	―	(14.3)	70%	粗 3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外:10YR7/3 内:10YR6/3	弥生土器壺底部。ドーナツ底。磨耗するが、内外面にミガキ痕残る。
589	97	5213	5-1区南	I4	x5,6	5096	(溝8)	検出面	弥生土器	壺	(14.2)	(5.7)	20%	やや粗 2.5㎜以下の石英・チャート多量	外:2.5Y7/2 内:10YR7/3	広口壺。遺存良好。Ⅰ-3様式
590	97	5225	5-1区	I4	w6	5096	(溝8)	検出面	弥生土器	広口壺	(18.0)	(7.1)	20%	粗 3㎜以下の石英・長石・チャート・片岩多量	外：5YR6/6 内：2.5YR5/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式
591	97	5205	5-1区	I4	x5	5096	(溝8)	検出面	弥生土器	甕	(21.8)	(7.5)	14%	やや粗 2㎜以下の石英・片岩少量	外：7.5YR3/1 内：7.5YR6/4	全体に磨滅極めて著しい。紀伊型甕。Ⅱ-1様式
592	98	5460	5-2区	I4	y6	5093	(溝8 分流)	1層	弥生土器	広口壺	(19.2)	(4.9)	25%	粗 1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/4 内：10YR7/4	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺口縁部。端部をX字形に刻み、頸部にヘラ描沈線紋を施す。
593	98	5460	5-2南	I4	y6	5093	(溝8 分流)	1層	弥生土器	広口壺	(22.0)	(1.6)	5%	密 3㎜以下の石英・チャート少量	外：5YR6/6 内：10YR5/1	口縁端部に刻みを施す。
594	98	5460	5-2区南	I4	y6	5093	(溝8 分流)	1層	弥生土器	広口壺	(28.0)	(1.9)	12%	密 3㎜以下の片岩・石英・チャート少量	外:10YR4/1 内:10YR5/2	広口長頸壺。全体にやや磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式
595	98	5505	5-1南	I4	x6	5093	(溝8 分流)	1層	突帯文系土器	深鉢	(26.0)	(3.0)	5%	密 4㎜以下の石英・片岩中量	外:10YR7/3 内:5YR6/4	紀伊Ⅰ-2様式。突帯紋系の特徴を持つ深鉢の口縁部
596	98	5458	5-1区南	I4	y5	5093	(溝8 分流)	1層	弥生土器	甕	―	(4.2)	100%	粗 1.5㎜以下の長石・チャート・赤色酸化粒多量	外:10YR7/2 内:10YR7/1	紀伊型甕の底部。内面が黒く、底はやや薄い。
597	100	5462	5-1区南	I4	x4	5095	(溝9)	1層	弥生土器	広口壺	(18.2)	(11.3)	20%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量 2.5㎜以下の片岩微量	外:10YR6/3 内:2.5Y6/1	広口長頸壺。全体に磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式
598	100	5448	5-1区南	I4	u6	5095	(溝9)	上・下層	突帯文系土器	深鉢	(21.2)	(6.0)	16%	やや粗 2㎜以下の石英・チャート・長石多量	外:10YR5/3 内:10YR7/2	全体に磨滅著しい。縄文晩期 水走式
599	100	5627	5-1区南	I4	x6	5095	(溝9)		弥生土器	甕	(27.4)	(18.4)	5%	粗 1.5㎜の石英・片岩多量	外：5YR6/4 内：10YR5/4	口縁部 内外面剥離、磨滅著しい。Ⅱ-1様式
600	100	5462	5-1区南	I4	x4	5095	(溝9)	1層	弥生土器	鉢	(47.3)	(9.5)	5%	やや粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外:10YR7/3 内:10YR5/2	全体に磨滅ぎみ。外反する口縁を刻む。Ⅰ-3様式
601	100	5488	5-1区南	I4	w6	5095	(溝9)		弥生土器	壺	―	(11.0)	33%	粗 3㎜以下の片岩・チャート・石英多量	外:10YR6/4 内:7.5YR8/1	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式
602	100	5483	5-1区南	I4	w6	5095	(溝9)		弥生土器	壺類	―	(8.8)	100%	粗 2.5㎜以下の石英・チャート多量	外:10YR8/2 内:5YR6/4	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ様式
603	100	5488	5-1区南	I4	w6	5095	(溝9)		弥生土器	甕	―	(5.7)	90%	密 2.5㎜以下の石英・長石・片岩少量	外:10YR7/3 内:10YR5/1	全体に剥離、磨滅極めて著しい。紀伊型甕。Ⅱ様式

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
604	101	5780	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	下層	弥生土器	広口壺	(18.4)	(3.5)	20%	粗 1㎜以下の石英少量	外:5YR6/6 内:5YR6/4	Ⅱ-2様式。内外面磨耗著しい。
605	101	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	広口壺	―	(8.6)	23%	粗 2.5㎜以下の片岩・石英多量	外:7.5YR7/6 内:7.5YR7/6	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。ヘラ描き沈線紋。磨耗著しい。
606	101	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	太頸広口壺	(16.3)	(10.4)	55%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・長石・石英・片岩多量	外:5YR6/6 内:10YR7/3	Ⅱ様式。櫛描流水紋
607	101	5780	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	下層	弥生土器	直口壺	(11.1)	(8.8)	20%	やや粗 2.5㎜以下の石英・チャート多量 赤色酸化粒微量	外:5YR6/6 内:7.5YR6/6	Ⅱ-2様式
608	101	15170	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	壺	―	(17.5)	33%	粗 5㎜以下のチャート・石英多量	外:7.5YR6/4 内:2.5Y6/1	紀伊Ⅱ様式。長胴の壺。櫛描流水紋で飾る。内面磨耗。
609	101	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	壺	―	(9.6)	12%	密 2㎜以下の石英・チャート少量	外:10YR6/3 内:10YR6/1	紀伊Ⅱ様式。壺体部上半に流水紋を施す。
610	101	15170	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	甕	(27.6)	(10.0)	8%	粗 2.5㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外:10YR4/1 内:10YR7/3	紀伊Ⅱ様式。紀伊型甕。肩の稜線あまい。胴が張る。大型品
611	101	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	甕	(18.9)	(7.3)	8%	粗 1.5㎜以下のチャート・石英多量	外:10YR7/4 内:10YR7/4	Ⅱ様式。紀伊型甕と考えられる。
612	101	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	甕	(22.8)	(6.2)	9%	粗 2㎜以下のチャート・石英・長石多量	外:2.5Y7/2 内:5YR6/4	Ⅱ様式。紀伊型甕と考えられる。
613	101	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	壺	―	(5.6)	25%	密 1.5㎜以下の石英微量 8㎜の石英1個	外:7.5YR4/2 内:5YR4/3	外面ヘラミガキ
614	101	5776	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	上層	弥生土器	広口壺	(19.0)	(6.4)	13%	粗 3㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外:10YR6/4 内:10YR7/4	Ⅱ-2様式。口縁部やや折れ曲がって開く。
615	101	5779	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	上層	弥生土器	広口壺	(20.0)	(4.1)	12%	やや粗 5㎜以下の片岩・石英少量	外:7.5YR6/4 内:5YR6/6	紀伊Ⅱ様式。口縁端部上下に拡張し、斜格子状に沈線を入れる。
616	101	5776	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	上層	弥生土器	壺	―	(6.8)	23%	粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外:5YR6/6 内:10YR6/1	紀伊Ⅱ様式。壺。櫛描直線紋と曲線紋で流水紋を表現する。
617	101	5778	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	上層	弥生土器	甕	(18.8)	(7.1)	8%	やや粗 3.5㎜以下の石英・チャート多量	外:2.5Y6/2 内:2.5Y7/2	口縁部に突帯を残す甕。 Ⅰ-2様式
618	101	5781	5-4区北	J4	a11	5205	(溝9)	上層	弥生土器	甕	(18.9)	(7.0)	40%	粗 1.5㎜以下の片岩・チャート多量	外:10YR6/6 内:10YR6/2	紀伊Ⅱ様式。紀伊型甕。小型品
619	101	5781	5-4区北	J4	a11	5205	(溝9)	上層	弥生土器	甕	(31.4)	(10.8)	12%	やや粗 3㎜以下の石英・片岩・赤色酸化粒多量	外:2.5Y8/3 内:2.5Y7/6	Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。紀伊型甕大型品
620	101	5779	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	上層	弥生土器	甕	(28.8)	(3.7)	5%	粗 2.5㎜以下のチャート・長石多量	外:10YR7/2 内:10YR7/2	口縁部下に2条のヘラ描き沈線紋を施す。
621	101	5776	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	上層	弥生土器	壺類	―	(4.9)	30%	粗 2㎜以下の片岩・石英多量	外:7.5YR7/3 内:10YR6/3	弥生土器壺甕類底部。平底。磨耗著しい。
622	101	5778	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	上層	弥生土器	壺類	―	(6.6)	40%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量	外:7.5YR6/3 内:7.5YR6/3	弥生土器壺底部。平底。外面ハケメ。
623	102	15082	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	土器2	弥生土器	鉢	(22.1)	15.8	63%	粗 5㎜以下の石英・片岩・チャート多量 5㎜以下の赤色酸化粒少量	外:7.5YR6/3 内:10YR8/3	磨耗著しい。無紋の直口鉢
624	102	15082	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	土器2	弥生土器	甕	(21.9)	(10.1)	25%	粗 1.5㎜以下の長石・石英・チャート多量	外:10YR7/4 内:7.5YR8/3	紀伊型甕。紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。ケズリ横方向。口縁部外反大きい。
625	102	15083	5-4区北	J4	a10	5205	(溝9)	土器3	弥生土器	壺	―	(9.0)	50%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量	外:10YR6/3 内:N3/	弥生土器壺底部。大型品。平底
626	102	15084	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	土器4	弥生土器	壺	(11.9)	(9.1)	100%	粗 4㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外:2.5Y7/6 内:5YR4/6	弥生土器壺底部。平底。大型品
627	102	15085	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	土器5	弥生土器	壺類	―	(6.6)	66%	粗 4㎜以下の石英・片岩・赤色酸化粒・チャート多量	外:10YR7/3 内:7.5YR5/4	弥生土器壺底部。平底
628	102	15086	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	土器6	弥生土器	甕	(24.5)	(9.8)	25%	粗 3㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外:5YR6/6 内:10YR6/4	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。紀伊型甕。肩の稜が明瞭。ヘラケズリ横方向。
629	102	15087	5-4区北	J4	b10	5205	(溝9)	土器7	弥生土器	甕	(42.6)	(7.6)	12%	粗 3㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外:5YR6/6 内:5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式か。大型の甕
630	102	5870	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	広口壺	(18.9)	(1.9)	7%	やや密 2㎜以下のチャート・石英少量	外:5YR6/6 内:7.5YR7/4	紀伊Ⅱ-1様式。広口壺。口縁端部に沈線を一本施す。
631	102	5870	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	広口壺	(18.8)	(2.4)	5%	やや密 2.5㎜以下の石英・片岩・長石少量	外:7.5YR4/2 内:7.5YR4/2	紀伊Ⅱ-1様式。広口壺
632	102	5828	5-4区北	I4	y8	5205	(溝9)	上層・下層	弥生土器	広口壺	(27.5)	(1.8)	5%	やや粗 1.5㎜のチャート・長石・赤色酸化粒多量	外:10YR6/4 内:7.5YR6/4	紀伊Ⅱ-2～Ⅲ-1様式。広口壺。口縁端部下方へ若干垂下する。
633	102	5777	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	下層	弥生土器	広口壺	(28.2)	(2.8)	12%	やや粗 1.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外:7.5YR6/6 内:7.5YR6/6	紀伊Ⅱ-2～Ⅲ-1様式。広口壺。口縁端部が斜め下方へ伸びる。磨耗著しい。
634	102	5869	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	直口壺	(11.2)	(12.9)	20%	粗 3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量 雲母微粒微量	外:10YR6/3 内:10YR6/3	櫛描紋連続的に施される。Ⅱ-2様式。磨耗著しい。
635	102	5870	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	甕	(24.9)	(8.8)	12%	粗 1.5㎜以下の片岩・チャート・赤色酸化粒・長石多量	外:10YR5/2 内:10YR7/4	紀伊型甕。肩に稜あり。紀伊Ⅰ-3様式
636	102	15169	5-4区北	J4	a,b10	5205	(溝9)		弥生土器	甕	(27.3)	(23.9)	15%	粗 6㎜以下の片岩・チャート・長石多量	外:10YR6/2 他 内:2.5Y5/1	Ⅰ-3様式～Ⅱ-1様式。紀伊型甕。口縁端部残存部少ない。
637	103	5870	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	甕	(22.0)	(10.4)	17%	粗 3㎜以下の片岩・石英多量 3㎜以下の赤色酸化粒少量	外:7.5YR7/4 内:7.5YR7/4	紀伊型甕。Ⅰ～Ⅱ様式
638	103	5829	5-4区北	I4	y9	5205	(溝9)	上・下層	弥生土器	甕	(22.5)	(5.9)	10%	粗 2.5㎜以下の片岩・長石・石英・チャート多量	外:10YR6/2 内:7.5YR7/2	紀伊型甕。肩のケズリ開始ラインが、曖昧になってきた段階。Ⅱ様式か。
639	103	5870	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	甕	(18.8)	(9.3)	17%	粗 5㎜以下のチャート多量 5㎜以下の石英微量	外:10YR4/1 内:10YR6/2	甕。外面ハケ調整。外面炭付着。
640	103	15084	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)	土器4	弥生土器	壺類	―	(4.9)	100%	粗 5㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外:2.5Y8/2 内:7.5YR7/3	弥生土器壺底部。厚い平底
641	103	5829	5-4区北	I4	y9	5205	(溝9)	上・下層	弥生土器	壺類	―	(4.7)	30%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量	外:2.5Y6/1 内:2.5Y6/1	平底底部。底の中央部凹む。
642	103	5828	5-4区北	I4	y8	5205	(溝9)	上・下層	弥生土器	甕	―	(4.4)	100%	粗 2㎜以下の片岩・石英多量	外:7.5YR6/4 内:7.5YR4/1	平底底部
643	103	5870	5-4区北	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	甕	―	(3.7)	90%	粗 3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外:7.5YR3/1 内:10YR3/1	弥生土器甕底部。平底。磨耗著しい。
644	103	15170	5-4区	J4	a9	5205	(溝9)		弥生土器	甕	―	(3.8)	100%	粗 2.5㎜以下の石英・チャート・片岩・長石多量	外:10YR3/2 内:10YR6/2	底部突出し、薄い。
645	103	5829	5-4区北	I4	y9	5205	(溝9)	上・下層	弥生土器	ミニチュア土器	―	(2.1)	100%	粗 2.5㎜以下の石英・長石・チャート多量	外:10YR7/3 内:10YR7/3	ミニチュア土器とみられるが胎土粗い。
646	104	15234	5-4区南	J4	b11	5205 a	(溝9)	取上3	弥生土器	広口壺	―	(29.5)	90%	粗 5.5㎜以下の石英・片岩多量	外:10YR8/2 内:10YR7/3	Ⅰ-3様式。広口壺。ヘラ描沈線多条化極度に進む。表面磨耗著しい、口縁端部全体が欠ける。
647	104	15236	5-4区南	J4	b11	5205 a	(溝9)	取上2	弥生土器	広口壺	(29.0)	(9.3)	33%	やや粗 3㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外:5YR6/6 内:5YR5/3	紀伊Ⅰ様式か。広口壺
648	104	15032	5-4区南	J4	b11	5205 a	(溝9)		弥生土器	壺	―	(11.6)	15%	粗 3㎜以下の石英・チャート多量	外:10YR7/4 内:5YR5/4	紀伊Ⅱ-1様式。長胴の壺体部。付加条沈線をもつ。3条1対の櫛描直線紋と櫛描波状紋を施す。
649	104	15032	5-4区南	J4	b11	5205 a	(溝9)		弥生土器	壺	―	(7.9)	70%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英・片岩・赤色酸化粒多量	外:10YR7/3 内:10YR6/3	弥生土器壺底部。平底。磨耗著しい。
650	104	15240	5-4区南	J4	c11	5205 b	(溝9)	土器3	弥生土器	甕	(21.8)	(10.1)	18%	粗 1.5㎜以下の長石・片岩多量	外:5YR5/4 内:5YR6/6	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。紀伊型甕。肩の稜線曖昧。磨耗著しい。
651	104	15033	5-4区南	J4	c12	5205 b	(溝9)		弥生土器	鉢か	(30.8)	(5.9)	12%	粗 2.5㎜以下のチャート多量 2.5㎜以下の石英少量	外:5YR6/6 内:5YR6/6	紀伊Ⅱ様式か。鉢か甕。口縁部いびつに曲がる。外面ハケメ。
652	104	15034	5-4区南	J4	b11	5205 b	(溝9)		弥生土器	鉢	(12.9)	(7.0)	16%	やや粗 2.5㎜以下の片岩・石英多量	外:7.5YR5/4 内:10YR6/2	紀伊Ⅱ-1様式。小型の直口鉢。2本一対の櫛描紋を施す。
653	104	15033	5-4区南	J4	c12	5205 b	(溝9)		弥生土器	壺	―	(3.1)	95%	やや密 2.5㎜以下のチャート・石英少量	外:2.5Y8/3 内:5YR5/4	弥生土器壺底部。平底。磨耗著しい。
654	105	5594	5-1区南	I4	w7	5118	(溝10)	取上2	弥生土器	広口壺	(31.2)	(6.6)	25%	粗 2.5㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外:5YR7/4 内:5YR6/6	広口太頸壺。全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ-1様式
655	105	5589	5-1区南	I4	w7	5118	(溝10)	取上7	弥生土器	広口壺	(31.3)	(6.9)	20%	粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外:5YR7/6 内:7.5YR5/1	広口太頸壺。全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式～Ⅱ-1様式。
656	105	5500	5-1区南	I4	w6	5118	(溝10)	1層	弥生土器	広口壺	(12.8)	(2.2)	10%	密 2㎜以下の石英・チャート中量	外:2.5Y8/2 内:2.5Y8/1	紀伊Ⅰ様式か。広口壺。外面ハケ調整
657	105	5500	5-1区南	I4	w6	5118	(溝10)	1層	弥生土器	広口壺	(18.5)	(4.0)	10%	密 3㎜以下の石英少量 3㎜以下のチャート多量	外:10YR6/3 内:2.5Y7/1	広口壺の口縁部か。内外面磨耗するが、ハケメ残存。
658	105	5500	5-1区南	I4	w6	5118	(溝10)	1層	弥生土器	直口壺	(17.8)	(10.1)	10%	密 3㎜以下の石英多量 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外:2.5Y6/2 内:2.5Y6/2	直口壺。太頸か。無紋。紀伊Ⅱ様式
659	106	15162	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	最下層(溝底～下)	弥生土器	広口壺	(10.9)	(10.2)	25%	やや粗 2㎜以下の長石・石英・雲母多量	外:10YR6/3 内:10YR7/3	紀伊Ⅱ-1様式。口縁端部に沈線とX字形の刻みを施す。頸部櫛描直線紋を施す。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
660	106	15162	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	最下層(溝底～下)	弥生土器	広口壺	―	(13.5)	40%	密　2㎜以下のチャート・石英微量	外：7.5YR4/1 内：7.5YR5/3 他	紀伊Ⅱ-1様式。付加状沈線をもつ櫛描紋を頸部に施す。広口壺。櫛描はやや深い。
661	106	15162	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	最下層(溝底～下)	弥生土器	直口壺	(12.1)	(6.2)	30%	やや粗　2㎜以下のチャート・石英少量	外：7.5YR7/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅱ-1様式。付加条沈線が斜めになっている。口縁部厚く、短く外反する。
662	106	15162	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	最下層(溝底～下)	弥生土器	甕	(21.0)	(10.1)	20%	粗　2㎜以下のチャート・長石多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	肩部より下をヘラズリする。厚手の甕
663	106	15162	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	最下層(溝底～下)	弥生土器	壺	―	(6.5)	100%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5YR5/6 内：7.5YR7/4	弥生土器壺底部。大型品。平底
664	106	5815	5-4区北			5187	(溝10)	下層	弥生土器	蓋	―	(3.8)	5%	粗　2㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR4/2 内：10YR5/2	壺の蓋。
665	106	5751	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	広口壺	(18.3)	(5.8)	20%	やや粗　2.5㎜以下の片岩・チャート多量	外：N3/ 内：10YR5/1	ⅠかⅡ様式
666	106	5751	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	広口壺	(19.3)	(6.5)	20%	粗　3㎜以下の片岩・チャート・長石・石英多量	外：10YR8/3 内：2.5Y8/2	口縁部上下に肥厚する。
667	106	15002	5-4区南	J4	a11	5187	(溝10)	下層	弥生土器	広口壺	(18.6)	(4.0)	20%	粗　2.5㎜以下のチャート・片岩多量	外：10YR6/4 内：10YR5/1	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。広口壺。口縁端部を上下に刻みを入れ、沈線をひく。
668	106	15031	5-4区南	J4	c13	5187	(溝10)	下層	弥生土器	広口壺	(14.7)	(2.4)	12%	やや粗　2㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR6/4 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。広口壺。口縁端部を下に肥厚させ、刻目を施す。
669	106	5708	5-4区	I4	x9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	直口壺	(18.0)	(5.7)	15%	粗　3.5㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR6/4	Ⅱ様式。太頸広口壺か。
670	106	5708	5-4区北	I4	x9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	直口壺	(14.7)	(5.9)	20%	密　1.5㎜以下の片岩・長石・石英多量	外：2.5YR4/6 内：2.5Y7/2	Ⅱ-2様式頃か。口縁部の開きが不自然なほど大きい。口縁部1/4遺存残存。磨耗著しい。
671	106	15164	5-4区北	I4	x10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	直口壺	(16.4)	(16.3)	16%	粗　2㎜以下の石英・チャート・長石多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅱ-1様式。頸部に櫛描直線紋、波状紋を施し、口縁端部は面をもつ。
672	106	5757	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	下層	弥生土器	鉢	(26.4)	(5.5)	12%	粗　1.5㎜以下の長石・片岩・チャート多量	外：10YR5/2 内：10YR5/2	Ⅰ～Ⅱ様式
673	106	5753	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	鉢	(26.5)	(4.4)	17%	粗　2.5㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：N4/ 内：7.5YR6/3	Ⅱ様式
674	106	5708	5-4区北	I4	x9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	鉢	(38.0)	(9.2)	8%	粗　4㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：10YR5/2 内：2.5Y7/2	外反口縁の鉢
675	106	5754	5-4区北	I4	y11	5187	(溝10)	下層	弥生土器	鉢	(20.2)	(4.1)	8%	やや密　0.5㎜以下のチャート・赤色酸化粒少量	外：10YR8/3 内：10YR8/2	鉢あるいは高坏の口縁部片。口縁端部は水平に面をなす。色調乳白色で片岩含まない。
676	106	5758	5-4区北	I4	w9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	鉢か	―	(6.2)	70%	粗　1.5㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：10YR7/4 内：2.5Y6/1 他	鉢あるいは高坏の杯～脚部
677	106	5752	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	鉢か	―	(3.2)	30%	やや粗　4㎜以下の石英・チャート・長石・赤色酸化粒多量	外：10YR7/3 内：2.5Y8/2	鉢か高坏脚部。色調は乳白色で、片岩含まない。
678	107	5715	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	下層	突帯文系／弥生土器	甕	(19.9)	(9.3)	13%	粗　4㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR5/1 内：10YR5/1	突帯紋系の系譜を引く甕。紀伊型甕への移行段階か。
679	107	15002	5-4区南	J4	a11	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕	(21.8)	(7.8)	11%	粗　2㎜以下の片岩・チャート多量	外：10YR3/1 内：2.5Y5/2	紀伊Ⅰ-3様式。紀伊型甕。肩の稜は明瞭。口縁端部は屈曲ぎみ。
680	107	5752	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕	(18.8)	(4.8)	7%	やや粗　1.5㎜以下のチャート・長石・雲母多量	外：10YR6/3 他 内：7.5YR7/2 他	口縁部下に孔をあける。
681	107	5752	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕	(11.8)	(7.2)	16%	密　1㎜以下の片岩・チャート少量	外：7.5YR4/1 内：10YR5/1	紀伊型甕小型品。Ⅱ様式
682	107	5701	5-4区北	I4	w9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕	(33.4)	(10.7)	8%	粗　2㎜以下の石英・チャート・片岩・赤色酸化粒多量	外：2.5Y7/2 内：10YR7/3	Ⅱ様式か。紀伊型甕
683	107	5715	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕	(25.4)	(4.7)	5%	粗：2㎜以下の石英・チャート多量　3㎜の赤色酸化粒1個	外：5YR4/4 内：5YR5/3	Ⅰ様式
684	107	5708	5-4区北	I4	x9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕類	―	(3.7)	100%	粗　2㎜以下の片岩・長石・石英多量	外：10R6/6 内：10YR3/1	磨耗著しい。
685	107	5708	5-4区北	I4	x9	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕類	―	(3.5)	30%	粗　6㎜以下の石英・赤色酸化粒・雲母・片岩多量	外：7.5YR7/3 内：N7/	磨耗著しい。
686	107	5757	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	下層	弥生土器	甕類	―	(3.2)	100%	粗　1.5㎜以下チャート・石英・長石多量	外：10YR6/1 内：7.5YR7/4	底部ドーナツ底。
687	107	15003	5-4区	J4	b11	5187	(溝10)	下層	弥生土器	壺類	―	(2.1)	50%	粗　2.5㎜以下の石英・チャート・金雲母多量	外：10YR7/3 内：10YR5/2	弥生土器。壺。底部に種子圧痕あり。胎土に金雲母含む。
688	107	5715	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	下層	弥生土器	壺類	―	(3.8)	20%	粗　6㎜以下の長石・片岩・チャート多量　1.2㎜の片岩1個	外：5YR6/6 内：5YR6/6	磨耗著しい。砂粒表面に浮かぶ。
689	107	15280	5-4区南	J4	a11	5187	(溝10)	下層	弥生土器	壺類	―	(5.0)	100%	粗　3㎜以下のチャート・石英・片岩多量	外：10YR6/3 内：2.5Y8/2	平底底部。砂粒多量
690	107	5700	5-4区北	I4	x10	5187	(溝10)	中層	弥生土器	広口壺	(19.2)	(1.5)	10%	やや粗　1㎜以下の片岩・石英中量	外：5YR6/6 内：5YR8/4	Ⅱ様式。口縁部端面が肥厚し、下端に刻目を施す。
691	107	5700	5-4区北	I4	x10	5187	(溝10)	中層	弥生土器	甕	(25.7)	(6.1)	20%	やや粗　1㎜以下の石英・雲母・片岩・赤色酸化粒多量	外：10YR6/1 内：7.5YR6/3	Ⅱ様式
692	107	5750	5-4区北	I4	y10	5187	(溝10)	中層	弥生土器	甕	(14.2)	(8.3)	18%	やや粗　2.5㎜以下の長石・片岩多量	外：7.5YR4/2 内：2.5Y7/1	紀伊型甕。ケズリ単位やや不明確、胴部がはる。Ⅱ様式
693	107	5700	5-4区北	I4	x10	5187	(溝10)	中層	弥生土器	壺類	―	(5.0)	55%	粗　3.5㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR6/4	
694	107	15029	5-4区南	J4	c13	5187	(溝10)	上層	弥生土器	広口壺	(18.8)	(3.8)	10%	密　3㎜以下の石英多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅱ-2～Ⅲ-1様式。広口壺。口縁端部が斜め下方へ肥厚する。
695	107	5735	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	上層	弥生土器	広口壺	(22.0)	(4.5)	13%	粗　2.5㎜以下チャート・石英・片岩多量	外：5YR6/6 内：10YR7/4	口縁部内側に刻みを入れた突帯をめぐらす。
696	107	5749	5-4区北	I4	x10	5187	(溝10)	上層	弥生土器	直口壺	(14.8)	(3.5)	15%	密　2㎜以下の赤色酸化粒・石英少量	外：10YR6/3 内：5YR5/4	紀伊Ⅲ-1様式。直口壺。口縁端部を肥厚させ、斜格子紋で加飾する。
697	107	5735	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	上層	弥生土器	甕	(19.5)	(3.0)	8%	粗　3㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR8/3 内：7.5YR8/3	Ⅰ-3様式
698	107	5755	5-4区北	I4	y11	5187	(溝10)	上層	弥生土器	甕	(18.0)	7.5	9%	密　1㎜以下の石英・赤色酸化粒・チャート少量	外：7.5YT7/4 内：10YR7/3	紀伊型甕のⅡ様式に多い胎土。赤色酸化粒と雲母微粒を含み薄い褐色系。胎土分析対象資料。
699	107	5735	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	上層	弥生土器	壺類	―	(4.8)	100%	粗　3㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：10YR7/2 内：10YR5/1	外面ハケ調整。
700	107	5971	5-4区南	I4	y11	5187	(溝10)	上層	弥生土器	高坏か	―	(7.9)	20%	密　4㎜以下の石英微量　2㎜以下のチャート中量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	紀伊Ⅱ－Ⅲ様式。高坏脚部。胎土は乳白色系で、片岩を含まない。実測No768と同一個体か。
701	107	5735	5-4区北	I4	w8	5187	(溝10)	上層	弥生土器	土製円盤	5.7	―	100%	やや粗　2㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR7/4	土器片を転用する。
702	107	15231	5-4区南	J4	b13	5187	(溝10)		弥生土器	広口壺	(15.7)	(5.0)	20%	密　5㎜以下の片岩・石英中量	外：10YR4/1 内：10YR6/1 他	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。頸部にヘラ描沈線紋を施す。口縁部近くに孔をあける。
703	107	15025	5-4区南	J4	a12	5187	(溝10)		弥生土器	広口壺	(20.5)	(2.1)	10%	密　2㎜以下の石英・チャート中量	外：2.5Y8/2 内：5YR6/6	紀伊Ⅲ-1様式か。広口壺。口縁端部を斜め下方に肥厚させる。磨耗著しい。
704	107	15231	5-4区南	J4	b13	5187	(溝10)		弥生土器	鉢	(23.7)	(4.0)	5%	密　2㎜以下の石英・チャート少量	外：10YR7/2 内：10YR7/3	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。胎土は乳白色系で、表面一部に赤褐色付着、片岩を含まない。
705	107	15231	5-4区南	J4	b13	5187	(溝10)		弥生土器	甕	(18.0)	(8.8)	15%	密　3㎜以下の石英少量　3㎜以下のチャート多量	外：10YR6/4 他 内：10YR6/3	小型の甕。内外面磨耗。口縁部短く外反させる。
706	107	15006	5-4区南	J4	a11	5187	(溝10)		弥生土器	甕	―	(4.0)	5%	やや粗　1.5㎜以下の石英・赤色酸化粒多量	外：5YR7/6 内：5YR7/4	表面磨耗する。タタキ甕。口縁端部、やや上方に肥厚する。
707	107	15231	5-4区南	J4	b13	5187	(溝10)		弥生土器	甕	(27.3)	(4.1)	10%	密　4㎜以下の石英少量　3㎜以下のチャート多量	外：10YR6/2 他 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ-2様式。如意形口縁をもつ甕。頸部のヘラ描沈線は3条。口縁端部下方に刻み目を施す。
708	107	15233	5-4区南	J4	b12	5187	(溝10)		弥生土器か	小型壺	―	(3.6)	100%	密　2㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒少量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR6/4	やや高台状になったドーナツ底を呈する。
709	107	15232	5-4区南	J4	a11	5187	(溝10)	土器1	弥生土器	甕	―	(5.3)	100%	やや粗　2㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR5/4	底に蛇の目状の凹みが生じている。
710	108	5322	5-2区中	J4	c15	5012	(溝10)		弥生土器	広口壺	―	(3.8)	5%	密　3㎜以下の石英・長石・チャート少量　砂粒多量	外：10YR5/3 内：2.5YR5/6	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式
711	108	5414	5-2区北	J4	c15	5012	(溝10)		弥生土器	直口壺	(12.9)	(9.2)	20%	密　3㎜以下の石英中量　3㎜以下の片岩少量	外：7.5YR4/1 内：５YR5/6	部分的に剥離、磨滅著しい。Ⅱ-1様式
712	108	5353	5-2区北	J4	c13,14	5012	(溝10)		弥生土器	壺	―	(9.3)	5%	粗　2.5㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR5/3 内：7.5YR6/4	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ-3様式
713	108	5404	5-2区北	J4	c14	5012	(溝10)		弥生土器	壺	―	(10.0)	40%	密　1.5㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒少量	外：10YR6/4 内：10YR7/3	内面剥離、磨滅著しい。Ⅰ様式

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
714	108	5353	5-2区北	J4	c13,14	5012	（溝10）		弥生土器	鉢	(43.9)	(10.3)	5%	やや粗　3㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR5/4 内：10YR7/3	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式
715	109	5797	5-4区北	I4	w8	5215	（溝10分流）	1層	弥生土器	広口壺	(19.7)	(3.4)	25%	密　1.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/2	口縁端部に櫛描き波状紋と縦方向の櫛描き直線紋を施す。
716	109	15190	5-4区北	I4	w8	5215	（溝10分流）		弥生土器	甕	(19.2)	(9.3)	20%	粗　4㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR7/4 内：10YR8/3	紀伊Ⅱ様式。紀伊型甕。肩部の稜がなく、口縁部は布皮類を用いた強いヨコナデを施す。
717	109	15191	5-4区北	I4	x9	5215	（溝10分流）		弥生土器	甕	(22.5)	(10.7)	14%	粗　2㎜以下の石英・長石・チャート多量　赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/2 内：10YR7/2	Ⅰ～Ⅱ様式。口縁部屈曲大きい。
718	109	15190	5-4区北	I4	w8	5215	（溝10分流）		弥生土器	甕	—	(19.3)	63%	粗　3㎜以下の片岩多量	外：2.5Y6/1 内：2.5Y6/1	紀伊型甕　胴部～底部。ケズリ調整により薄手に仕上がる。
719	111	15227	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	最下層	弥生土器	壺類	—	4.4	20%	やや密　2㎜以下の石英・片岩少量	外：10YR6/3 内：N4/	弥生土器壺甕類の底部。平底。底部から体部が直線的に立ち上がる。
720	111	5970	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(17.0)	(5.5)	15%	密　4㎜以下のチャート多量　3㎜以下の片岩・石英少量	外：5YR5/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。口縁端部に面をもつ。
721	111	5970	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(23.5)	2.4	10%	やや粗　2㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	広口壺。紀伊Ⅰ-3様式。神前遺跡では、標準的な胎土。胎土分析対象資料。
722	111	5996	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(24.0)	(2.2)	5%	密　4㎜以下の石英中量　2㎜以下のチャート少量	外：5YR4/6 内：5YR4/1 他	広口の壺の口縁部内側に三条の貼付突帯をもつ。
723	111	5996	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(26.0)	(2.9)	5%	密　3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR5/4	広口の口縁端部下側に刻目を施す。磨耗著しい。
724	111	5710	5-4区北	I4	x11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(24.8)	(3.4)	15%	密　6㎜以下の片岩・石英多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	Ⅱ様式
725	111	5968	5-4区南	J4	a11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(24.6)	(2.1)	7%	密　3㎜以下の片岩・長石微量	外：7.5YR6/4	広口壺。口縁端部を斜め下方に肥厚させ、斜め格子紋を施す。
726	111	5996	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(17.2)	(3.7)	15%	密　1㎜の石英中量	外：7.5YR7/4 内：10R5/6 他	紀伊Ⅲ-1様式か。広口の壺。口縁端部が下方に肥厚する。表面は磨耗が著しい。
727	111	5968	5-4区南	J4	a11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	直口壺	(14.3)	(4.1)	8%	密　4㎜以下の片岩少量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅱ様式。直口壺。口縁部やや外反する。櫛描紋を施す。
728	111	5996	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	下層	弥生土器	直口壺	(9.0)	(5.3)	20%	密　2㎜以下の石英・チャート多量　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：10YR8/2 内：10YR8/1 他	紀伊Ⅲ様式。直口壺。口縁部近くに凹線をもち、櫛描直線紋を波状紋で飾る。
729	111	5996	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	下層	弥生土器	甕	(18.5)	(5.5)	5%	密　5㎜以下の片岩多量　2㎜以下の長石少量	外：10YR8/1 他 内：2.5Y8/1	弥生時代中期前～中葉。四分型甕か。口縁部厚く、体部をケズリ薄くする。口縁より体部がはる。
730	111	5996	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）	下層	弥生土器	甕	(21.1)	(4.4)	10%	密　3㎜以下の片岩・石英中量	外：7.5YR7/3 内：10YR8/2 他	弥生中期中葉。畿内通有の甕(瀬戸内系)。口縁部の屈曲はあまい。
731	111	5688	5-4区北			5182	（溝11）	下層	弥生土器	鉢	(20.0)	(6.9)	10%	密　3㎜以下の石英多量　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：2.5Y8/1 内：2.5Y8/1	弥生時代中期。直口鉢。表面磨耗著しい。胎土は乳白色。
732	111	5968	5-4区南	J4	a11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	鉢	(53.4)	(4.8)	6%	密　2㎜以下の石英・片岩少量	外：2.5Y7/2 内：10YR7/2	紀伊Ⅱ様式か。大型鉢。口縁端部は途中から刻み目を施す。
733	111	5997	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(5.4)	30%	密　2㎜以下の石英少量　3㎜以下のチャート多量	外：5YR6/4 他 内：5YR6/6 他	弥生土器。壺底部。平底。外面ハケ。底に種子圧痕あり。
734	111	5999	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	下層	弥生土器	壺類	—	(5.7)	30%	密　3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/3 内：2.5Y7/1	弥生土器。平底の底部
735	111	5999	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	下層	弥生土器	壺類	—	(5.4)	100%	密　4㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR8/2 内：7.5YR8/3	弥生土器。壺の底部。平底。磨耗著しい。
736	111	5968	5-4区南	J4	a11	5182	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(12.2)	20%	粗　3㎜以下のチャート・石英少量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	弥生土器壺底部。平底とみられる。粗いハケ調整。
737	111	5999	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	下層	弥生土器	壺類	—	(3.4)	100%	密　3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：5YR6/4	弥生土器。底部。平底の中央を指頭圧で凹ませる。
738	111	5733	5-4区北	I4	x10	5182	（溝11）	下層	弥生土器	甕類	—	(1.5)	100%	粗　2㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：5YR5/4 内：2.5Y7/1	外面ヘラケズリ
739	111	5685	5-4区北			5182	（溝11）	下層	弥生土器	甕類	—	(3.7)	95%	密　2㎜以下の赤色酸化粒中量　7㎜の片岩微量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6	磨耗著しい。弥生後期か。
740	112	5998	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	上層	弥生土器	広口壺	(17.0)	(6.0)	10%	粗　2㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR8/3 内：7.5YR8/4	紀伊Ⅱ-1様式。長頸の広口壺の口頸部
741	112	5680	5-4区北			5182	（溝11）	上層	弥生土器	広口壺	(18.2)	(9.8)	13%	粗　3㎜以下の石英・雲母多量	外：10YR5/2 内：10YR6/2	口縁端部の面を縦横に刻む。
742	112	5998	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	上層	弥生土器	直口壺	(17.0)	(4.1)	10%	粗　1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y4/1 内：10YR7/2	紀伊Ⅱ様式。直口壺の口縁部
743	112	5699	5-4区北			5182	（溝11）	1層	弥生土器	直口壺	(13.6)	(8.0)	18%	やや密　2㎜以下の石英・チャート少量	外：10YR4/1 内：10YR4/1	紀伊Ⅱ-1様式。広口傾向の直口壺。櫛描が上下に曲がる。
744	112	5969	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	上層	弥生土器	直口壺	(18.2)	(6.4)	10%	密　2.5㎜以下の長石・片岩・赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/3	紀伊Ⅱ様式。広口傾向の直口壺か。櫛描7本一単位で上下に曲がる。
745	112	5998	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	上層	弥生土器	直口壺	(14.4)	(6.1)	16%	粗　1.5㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR6/3 内：10YR6/1	弥生土器。直口壺。紀伊Ⅱ～Ⅲ様式
746	112	5998	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	上層	弥生土器	直口壺	(11.6)	(6.3)	16%	粗　1㎜以下のチャート多量	外：7.5YR5/2 内：10YR7/3	弥生土器。直口壺。紀伊Ⅱ～Ⅲ様式
747	112	5969	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	上層	弥生土器	壺	—	(15.6)	16%	やや密　2.5㎜以下の石英・チャート・片岩少量	外：10YR5/1 内：5Y5/1	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。長頸の壺。頸部が太い。櫛描紋は多条の直線紋で、最下段は波状紋を施す。
748	112	5969	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	上層	弥生土器	甕	(18.1)	(8.0)	12%	やや密　1.5㎜以下の石英・チャート少量	外：10YR8/2 内：10YR7/3	口縁端部が外側へ短く屈曲する。表面磨耗する。
749	112	5998	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	上層	弥生土器	甕	(18.2)	7.4	25%	粗　1.5㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR7/3 他 内：N3/	口縁部が大きく屈曲し、端部に面をもつ。紀伊型より四分形甕に近い形態。胎土中に片岩入る。
750	112	5680	5-4区北			5182	（溝11）	上層	弥生土器	甕	—	(3.6)	45%	やや密　4㎜以下の石英微量　2㎜以下の片岩・石英微量	外：10YR6/3 内：N4/	タタキ甕の平底底部
751	112	5711	5-4区北			5182北	（溝11）	上層	弥生土器	壺甕類	—	(4.6)	100%	密　3㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR7/3 内：5Y7/1	磨耗著しい。
752	112	5998	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	上層	弥生土器	ミニチュア土器	5.7	4.7	80%	粗　1㎜以下の石英・チャート・片岩多量　5㎜以下の石英1個	外：10YR4/1 内：10YR4/1	厚底の鉢形
753	112	15154	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	土器2	弥生土器	壺類	—	(5.2)	100%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR8/2 内：10YR3/1	弥生土器壺底部。内外面磨耗著しい。平底
754	112	15155	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	土器3	弥生土器	甕	—	(3.2)	100%	粗　4㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR7/3 内：2.5Y7/2	弥生土器甕底部。平底
755	112	15159	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	土器3の下から出土	弥生土器	広口壺	(18.5)	(1.7)	13%	やや粗　2.5㎜以下のチャート・赤色酸化粒多量	外：2.5Y7/2 他 内：7.5YR7/3	弥生中期前葉。口縁内側に刻みを入れた突帯を貼り付ける。伊予東部Ⅱ-1様式の阿方式土器に相当
756	112	15159	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）	土器3の下から出土	弥生土器	広口壺	(29.3)	(2.1)	15%	やや粗　2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	弥生中期前葉。阿方式土器に相当。口縁内側を刻目を入れた貼付突帯で飾る。胎土に片岩なし。
757	112	15156	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	土器4	弥生土器	壺類	—	(6.3)	100%	粗　4㎜以下の石英・チャート多量　2.5㎜以下の赤色酸化粒・片岩少量	外：10YR7/3 内：10YR4/1	弥生土器壺底部。平底。底に種子圧痕あり。
758	112	15157	5-4区南	I4	y11	5182	（溝11）	土器5	弥生土器	広口壺	—	(11.2)	67%	粗　3㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：5YR6/6 内：5YR7/6	遠賀川系壺の形をした小壺。ヘラ描き沈線が細く多条化。Ⅰ-3様式か。内外面磨耗する。
759	112	15230	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）		弥生土器	壺	—	(4.2)	25%	やや粗　1㎜以下の赤色酸化粒・石英少量	外：10YR8/3 内：2.5Y7/1	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式。壺の頸部を凹線紋を櫛描き紋で飾る。
760	112	15230	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）		弥生土器	甕	(17.9)	(3.3)	25%	やや粗　2㎜以下の片岩多量	外：10YR5/1 内：10YR7/2	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式。甕。口縁部屈曲し、端部は上方へ被厚する。外面ナデ調整。
761	112	5808	5-4区北	I4	x10	5182セクション③	（溝11）	上・下層	弥生土器	甕	(16.3)	(6.4)	8%	やや粗　1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/4 内：2.5Y7/2	紀伊型甕。Ⅰ-3様式。頸部下のヘラ描沈線の多条化進む。口縁端部刻目多い。体部の張り少しあり。
762	112	15228	5-4区南	I4	y12	5182	（溝11）		弥生土器	甕	(34.7)	(14.8)	8%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y7/2 内：5YR6/4	Ⅰ-3様式。大型の甕。ハケメ明確に残る。口縁部歪みあり。
763	113	15230	5-4区南	J4	a13	5182	（溝11）		弥生土器	高坏か	—	(5.7)	20%	やや密　1.5㎜以下の石英少量	外：10YR6/4 内：2.5YR6/4	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式相当。弥生土器脚台部
764	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(18.8)	(3.1)	10%	密　1㎜以下の石英多量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR6/6	紀伊Ⅲ-1様式。広口長頸壺か。口縁端部は下方に肥厚する。
765	113	5291	5-2区中	J4	c15	5014	（溝11）	下層	弥生土器	広口壺	(25.4)	(1.4)	5%	密　2㎜以下の石英・片岩・チャート・赤色酸化粒少量	外：5YR5/4 内：10YR6/1	全体に磨滅著しい。Ⅲ様式
766	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(6.5)	5%	密　1㎜以下の石英少量	外：5YR5/6 内：10YR6/3	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。櫛描直線紋を扇形紋を施す。胎土に片岩入らない。
767	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(10.4)	40%	密　3㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR8/4 内：7.5YR6/6 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅲ-1様式

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
768	113	5291	5-2区中	J4	c15	5014	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(10.8)	50%	密　1.5㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR8/2	内面の剥離、磨滅著しい。外面の磨滅著しい。Ⅲ-2様式
769	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(7.7)	20%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・チャート微量	外：10YR7/3 内：2.5Y6/1	全体に磨滅著しい。Ⅲ-1様式
770	113	15306	5区	J4	c17	5014	（溝11）	下層砂層	弥生土器	壺	—	(4.6)	5%	密　0.5㎜以下の赤色酸化粒・石英少量	外：7.5YR8/1 内：N3/	全体に磨滅著しい。Ⅲ-1様式？
771	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	壺	—	(4.6)	5%	やや粗　1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y7/3 内：2.5Y7/3	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式。貼り付け突帯上に布巻棒圧痕を施す。
772	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	甕	(21.4)	(6.4)	10%	密　4㎜以下の石英多量　3㎜以下の片岩少量	外：2.5Y5/2 内：2.5Y6/2	遺存良好。Ⅰ-3様式
773	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	甕	(20.3)	(6.8)	20%	粗　2㎜以下の石英・片岩多量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR7/2	全体に磨滅著しい。Ⅲ-1様式
774	113	5283	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	下層	弥生土器	甕	(37.3)	(8.5)	5%	密　2㎜以下の石英・片岩・赤色酸化粒中量	外：5Y6/1 他 内：2.5Y8/1	全体に磨滅著しい。Ⅲ-1様式
775	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	広口壺	(21.7)	(2.7)	10%	粗　3㎜以下のチャート・長石・石英多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式
776	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	直口壺	(24.0)	(3.2)	5%	やや粗　1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/2 内：10YR8/1	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式
777	113	5287	5-2区中	J4	c15	5014	（溝11）	上層	弥生土器	広口壺	(22.9)	(8.3)	20%	やや粗　3㎜以下の石英・長石多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅲ-1様式
778	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	甕	(28.2)	(5.2)	8%	粗　1.5㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y4/1	大型の甕。口縁端部上方に突出する。外面に板状工具の当たり痕あり。磨耗著しい。
779	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	甕	(20.0)	(7.0)	10%	密　2㎜以下の石英多量　2㎜以下の片岩少量	外：7.5YR6/6 他 内：5YR6/6 他	全体に磨滅著しい。Ⅱ様式
780	113	5287	5-2区中	J4	c15	5014	（溝11）	上層	弥生土器	甕	(21.8)	(6.5)	14%	粗　1.5㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒・雲母多量	外：5YR7/3 内：5YR7/3	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ-3～Ⅱ-1様式
781	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	甕	(20.0)	(5.0)	10%	密　3㎜以下の石英多量　3㎜以下の片岩少量　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/2 内：10YR6/4	全体に磨滅著しい。Ⅱ-1様式
782	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	甕	—	(4.9)	100%	粗　1.5㎜以下の石英・赤色酸化粒・片岩多量	外：10YR7/2 内：10YR8/3	全体に磨滅著しい。Ⅱ～Ⅲ-1様式
783	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	壺類	—	(6.2)	100%	密：1.5㎜以下の片岩多量　石英微量	外：10YR7/2 内：2.5Y7/2	全体に磨滅著しい。Ⅰ様式
784	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	壺	—	(2.3)	90%	粗　4㎜以下の石英多量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/2	壺の底部か。平底。外面ミガキ。内面に板状工具痕あり。
785	113	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	弥生土器	壺	—	(2.7)	100%	やや粗　1㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/1 内：7.5YR3/2	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ～Ⅲ-1様式
786	114	5381	5-2区北	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	広口壺	(22.0)	(6.0)	20%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：2.5Y7/3 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。広口壺。頸部に浅い櫛描きを施す。
787	114	5422	5-2区北	J4	b15	5014	（溝11）		弥生土器	広口壺	(16.0)	(4.4)	20%	密　1.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒少量	外：5YR7/6 内：10YR4/1	広口長頸壺。全体に磨滅著しい。Ⅱ-2様式
788	114	5381	5-2区北	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	広口壺	(13.4)	(4.1)	25%	やや密　1.5㎜以下の赤色酸化粒・チャート少量	外：2.5Y7/3 内：2.5Y8/2	弥生土器。壺か。端部を強いヨコナデで成形し、外面は縦位ミガキ。
789	114	5422	5-2区北	J4	b15	5014	（溝11）		弥生土器	広口壺	(12.0)	(6.7)	80%	やや粗　2㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外：7.5YR8/2 内：2.5Y6/1	全体に磨滅著しい。Ⅲ-1様式
790	114	5421	5-2区北	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	壺	(8.0)	(15.2)	37%	やや粗　1.5㎜以下の石英・片岩多量	外：10YR7/4 内：2.5Y3/1	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。直口壺。内外面磨耗著しい。
791	114	5424	5-2区	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	壺	—	(22.4)	100%	密　3㎜以下の石英・赤色酸化粒少量	外：10YR8/2 内：10YR8/2	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅲ-1様式？
792	114	5381	5-2区北	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	甕	(23.3)	(6.7)	6%	粗　1.5㎜以下のチャート・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式。甕。口縁部屈曲し、端部は上方へ肥厚する。内外面ハケ調整。
793	114	5318	5-2区	J4	c15	5014	（溝11）		弥生土器	甕	(17.2)	(7.0)	20%	粗　1.5㎜以下の片岩多量	外：10YR5/2 内：10YR7/2	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。紀伊型甕。ケズリによる肩部稜線は不明瞭。端部に面をもつ。
794	114	5381	5-2区北	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	甕	(13.5)	(3.0)	6%	密　1㎜以下のチャート・長石微量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式。小型甕。頸部屈曲し、外面ハケメ調整。口縁端部はヘラ描沈線を施す。
795	114	5422	5-2区北	J4	b15	5014	（溝11）		弥生土器	高坏	—	(10.0)	13%	粗　2㎜以下の石英・チャート多量	外：N3/ 内：N3/	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式相当。高坏脚部。胎土粗く。磨耗著しい。
796	114	5422	5-2区北	J4	b15	5014	（溝11）		弥生土器	脚台部	—	(6.7)	67%	やや粗　1.5㎜以下の石英・赤色酸化粒多量	外：10YR8/4 内：5YR7/4	弥生土器の脚台部か。全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ～Ⅲ-1様式
797	114	5318	5-2区	J4	c15	5014	（溝11）		弥生土器	脚台部	—	(4.8)	17%	やや粗　2.5㎜以下の片岩・石英多量	外：2.5Y5/1 内：2.5Y7/2	弥生土器の脚台部か。厚手で端面に黒斑あり。
798	114	5422	5-2区北	J4	b15	5014	（溝11）		弥生土器	甕	—	(5.0)	100%	やや粗　1.5㎜以下の長石多量	外：2.5Y6/1 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅲ～Ⅳ様式。甕底部。平底
799	114	5420	5-2区	J4	b15	5014セクション	（溝11）		弥生土器	甕	—	(4.9)	100%	粗　4㎜以下の片岩・石英多量	外：2.5YR6/6 内：10YR6/1	全体に磨滅著しい。紀伊型甕？Ⅱ様式？
800	114	5381	5-2区北	J4	b14	5014	（溝11）		弥生土器	甕	—	(4.9)	100%	粗　2㎜以下の片岩多量	外：5YR7/3 内：5YR7/4	紀伊Ⅲ様式。甕底部。平底。体部外面をヘラケズリする。
801	114	5466	5-2区中	J4	c15	5014	（溝11）		弥生土器	壺	—	(5.8)	47%	やや密　1㎜以下の長石・チャート・赤色酸化粒少量	外：2.5Y5/1 内：2.5Y8/2	八字形に開く壺の底部。平底。外面に粗いミガキ。
802	114	5318	5-2区	J4	c15	5014	（溝11）		弥生土器	土製円盤	6.8	—	100%	やや粗　2.5㎜以下の片岩・長石多量	外：7.5YR5/4 内：7.5YR4/2	土器の体部を打ち欠いて、円盤状に作る。
803	116	5967	5-4区南	I4	x13,y19	5180	（溝12）	上層	弥生土器／土師器	鉢	(14.8)	(7.3)	54%	密　1㎜以下の石英・長石微量	外：5YR6/6 内：10YR7/2	庄内式期頃と推定される。平底だが、やや丸みを帯びる。
804	116	5967	5-4区南	I4	x13,y19	5180	（溝12）	上層	弥生土器／土師器	壺甕類	—	(1.4)	100%	密　2㎜以下の石英少量	外：2.5Y7/2 内：10YR8/2	やや尖り気味のドーナツ底。庄内式期
805	116	5967	5-4区南	I4	x13,y19	5180	（溝12）	下層	弥生土器／土師器	壺甕類	—	(2.0)	100%	密　7㎜以下の石英少量	外：7.5YR7/4 内：2.5Y7/1	壺甕類。尖り底。庄内式期か。
806	116	5697	5-4区北			5180	（溝12）	1層	土師器	壺	(10.0)	(4.6)	10%	密	外：2.5YR5/8 内：2.5YR5/8	古墳時代中期。屈曲の小さい二重口縁壺
807	116	5963	5-4区南	I4	y18	5180	（溝12）	下層	土師器	甕	(11.5)	(10.1)	20%	やや粗　2㎜以下の石英・長石・チャート少量	外：5YR7/6 内：10YR7/2	布留式。薄手で、表面磨耗著しい。
808	116	5938	5-4区南	I4	x13	5180	（溝12）	下層	土師器	甕	(14.2)	(5.3)	13%	密	外：5YR6/6 内：5YR6/6	古墳時代中期か。
809	116	5938	5-4区南	I4	x13	5180	（溝12）	下層	土師器	甕	(15.4)	(5.8)	13%	密	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	古墳時代中期か。
810	116	5967	5-4区南	I4	x13,y19	5180	（溝12）	上層	土師器	高坏	—	(7.9)	87%	密　1㎜以下の長石多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	内面ケズリ調整
811	116	5937	5-4区南	I4	w11,12	5180	（溝12）	上層	土師器	高坏	—	(7.5)	60%	密　1㎜以下の長石微量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	土師器高坏脚部（2点の破片）
812	116	5937	5-4区南	I4	w11,12	5180	（溝12）	上層	土師器	甑か	—	—	5%	密　0.5㎜の長石・赤色酸化粒中量	5YR5/6 他	把手
813	116	5938	5-4区南	I4	x13	5180	（溝12）	下層	土師器	ミニチュア土器　碗	3.6	1.7	50%	密　微砂粒含む	外：2.5YR5/8 内：2.5YR5/8	ミニチュアの製塩土器の可能性あり。
814	116	5992	5-4区南	I4	w12	5180	（溝12）	下層	須恵器	坏か埦	—	4.0	5%	密　1㎜の石英微量	外：N5/ 内：N5/	古墳時代中期。須恵器片。櫛描波状紋で飾る。
815	116	5721	5-4区北	I4	v11	5180	（溝12）	上・下層	須恵器	甕	(24.8)	(5.5)	8%	やや粗　1.5㎜以下の長石少量	外：N6/ 内：N6/	古墳時代中期。須恵器壺甕類の口縁部。端部は下方に肥厚し、口縁部の下方に波状紋を施す。
816	116	5967	5-4区南	I4	x13,y19	5180	（溝12）	上層	須恵器	甕	(39.1)	(7.0)	13%	やや粗　1.5㎜以下の石英少量	外：N5/ 内：N6/	古墳時代中期。口縁部下に突帯をもつ。焼成堅徹だが、表面やや白みを帯びる。
817	116	5721	5-4区北	I4	v11	5180	（溝12）	上・下層	須恵器	甕	—	(11.1)	95%	密　1㎜以下の石英少量	外：N4/ 内：2.5YR5/3	初期須恵器の大甕。底部が尖り、内側に絞り痕をもつ。胎土に片岩を含まず、色調は紫を帯びる。
818	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	（溝12）		土師器	小型丸底土器	(8.3)	(6.2)	12%	密　0.5㎜以下の長石微粒	外：5YR5/6 内：7.5YR6/6	古墳時代前～中期。表面磨耗著しい。
819	116	5289	5-2区中	J4	a15	5016	（溝12）		土師器	小型丸底土器	(10.4)	(4.4)	25%	密　0.5㎜以下の赤色酸化粒少量	外：10YR7/3 内：7.5YR7/3	古墳時代前～中期。
820	116	5284	5-2区中	J4	a16	5016	（溝12）		土師器	二重口縁壺	—	4.3	20%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y7/3	布留式の二重口縁壺。二次口縁部が突帯状を呈す。
821	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	（溝12）		土師器	甕	(13.6)	(4.2)	25%	密　2㎜以下の石英少量　金雲母微粒少量	外：10YR6/4 内：10YR6/4	土師器壺甕類の口縁部。端部はやや平坦になる。胎土に金雲母を含む。
822	116	5248	5-2区南	J4	b17	5016	（溝12）		土師器	甕	(13.1)	(5.2)	13%	密　0.5㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR6/4	全体に磨滅極めて著しい。
823	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	（溝12）		土師器	甕	(13.2)	(7.7)	25%	密　1㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：10YR7/3	全体に磨滅極めて著しい。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
824	116	5284	5-2区中	J4	a16	5016	(溝12)		土師器	甕	(17.7)	(10.8)	15%	密 4㎜以下の石英中量 3㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR6/2	布留式の甕。口縁端部内側の肥厚部は幅広い。
825	116	5289	5-2区中	J4	a15	5016	(溝12)		土師器	高坏	(16.2)	(5.0)	25%	粗 3㎜以下の片岩。石英多量	外：7.5YR7/4 内：10YR4/1	土師器。高坏の杯部。肩部は稜線がない。内側にヘラミガキ。
826	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	(溝12)		土師器	高坏	(21.5)	(3.0)	9%	密 0.5㎜以下の赤色酸化粒・長石少量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	土師器高坏
827	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	(溝12)		土師器	高坏	—	(2.7)	63%	粗 3㎜以下の長石・先色酸化粒多量	外：5YR6/8 内：5YR6/6	土師器高坏。杯部に稜があり、接合部に円盤充填技法がみられる。
828	116	5275	5-2区南	J4	b17	5016	(溝12)	土器1	土師器	高坏	—	(7.9)	65%	粗 3㎜以下の片岩多量 石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/6 内：10YR4/1	土師器高坏。肩部の稜はあまく、杯部に脚部を差し込む。
829	116	5469	5-2区中	J4	a16	5016	(溝12)		土師器	高坏	—	(7.4)	100%	密 0.5㎜以下の砂粒微量	外：5YR6/6 内：10YR7/4	土師器高坏。差し込み式の脚部。外面に細かいヘラミガキを施す。
830	116	5289	5-2区中	J4	a15	5016	(溝12)		土師器	高坏	—	(6.3)	60%	密 1㎜以下の雲母・赤色酸化粒少量	外：10YR7/3 内：7.5YR7/3	全体に磨滅著しい。布留式併行期古段階。胎土の砂粒から考えて、搬入品か？
831	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	(溝12)		土師器	高坏	—	(4.1)	20%	密 3㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/6	土師器高坏の脚部。外面ハケメ。
832	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	(溝12)		土師器	鉢か甑	(16.0)	(4.8)	5%	密 1㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：5YR5/6 他 内：5YR5/6 他	土師器甑の口縁部か。やや小型で、外面ハケ調整。
833	116	5263	5-2区	J4	b17	5016	(溝12)		土師器	鉢か甑	(18.4)	(8.3)	20%	密 1.5㎜以下の赤色酸化粒・長石多量	外：5YR5/6 内：5YR5/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。
834	116	5243	5-2区北	J4	b17 I6セクションより南	5016	(溝12)		土師器	甑か	—	—	100%	密 3㎜以下の金雲母・石英中量	2.5Y8/2 他	土師器の把手。上面に凹みが残る。
835	116	5263	5-2区北	J4	b17	5016	(溝12)		須恵器	杯蓋	(11.6)	(4.3)	20%	密 1㎜以下の石英・黒色粒少量	外：N4/ 他 内：N7/	全体に磨滅著しい。田辺辺縁 TK23 ～ 47 型式か
836	116	5849	5-5区北	J4	b19	5169	(溝12)	土器1	土師器	小型丸底土器	—	(3.0)	40%	密 0.5㎜以下の石英・長石少量	外：5YR7/6 内：2.5Y4/1	古墳時代前～中期。小型丸底土器の底部
837	117	5264	5-2区南	J4	b17	5035	不整形土坑		土師器	小型丸底土器	(12.2)	6.4	40%	密 細かい赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/6 内：5YR6/8	古墳時代前期。体部は扁平で、口縁部は大きく開く。口縁端部は残存するが曖昧である。
838	117	5264	5-2区南	J4	b17	5035	不整形土坑		土師器	高坏	—	(4.6)	10%	密 2㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR5/6 内：5YR4/6	高坏接合部。円盤充填技法がみられる。
839	117	5256	5-2区南	J4	b17	5035	不整形土坑		須恵器	杯身	(10.9)	(3.7)	20%	密 1.5㎜以下の灰色・、白色粒微量	外：5PB4/1 内：5PB4/1	口縁端部丸める。田辺編年 TK10 型式か
840	117	5966	5-4区北	I14	w11	5180東	不整形土坑		土師器	有段口縁鉢	(18.0)	(3.7)	5%	密 1㎜以下の石英中量 1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR7/3	土師器。有段口縁鉢。胎土中に片岩は確認できない。
841	117	5854	5-4区南	I4	w12	5180東	不整形土坑	1層	土師器	高坏	(14.0)	(5.0)	25%	密 3㎜以下の石英・長石少量	外：5YR6/6 内：10YR7/3	古墳中期
842	117	5720	5-4区北	I4	w10	5180東	不整形土坑	1層	土師器	高坏	—	(7.6)	75%	密 1.5㎜以下の片岩・長石・石英少量	外：10YR6/2 内：7.5YR6/3	表面の磨耗著しい。布留式
843	117	5853	5-4区北	I4	w11	5180東セクション	不整形土坑	1,2層	土師器	高坏	—	(7.8)	63%	密 1㎜以下のチャート・石英多量 2.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 内：7.5YR6/4	古墳中期
844	117	5854	5-4区南	I4	w12	5180東	不整形土坑	1層	土師器	高坏	—	(2.4)	20%	密 1ミリ以下の石英・銀雲母微粒少量	外：2.5YR6/6 他 内：10YR5/2	有稜高坏の坏部
845	117	5720	5-4区北	I4	w10	5180東	不整形土坑	1層	須恵器	蓋	—	(2.0)	5%	密 1㎜のチャート微量	外：N5/ 内：5Y8/	年代不詳。瓦質焼成
846	117	5854	5-4区南	I4	w12	5180東	不整形土坑	1層	須恵器	杯身	(11.0)	(2.1)	5%	密 1㎜以下の石英微量	外：N6/0 内：N6/0	口縁部は上方へ立ち上がり、端部は丸める。古墳時代後期
847	117	5964	5-4区南	I4	w11	5180東b	不整形土坑	上層	土師器	ミニチュア土器	3.8	4.0	50%	やや粗 3㎜の石英微量	外：7.5YR6/3 内：7.5YR7/3	小型の埦形
848	117	5964	5-4区南	I4	w11	5180東b	不整形土坑	上層	土師器	土錘	1.5	7.6	100%	密 1㎜以下の石英・チャート少量	5YR6/6	棒状土錘。古墳時代中期か、
849	117	15091	5-4区北	I4	v10	5180東B	不整形土坑		土師器	小型丸底土器	(7.5)	(5.4)	63%	密 1㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：5YR7/6 内：5YR6/6	口縁部内湾する。
850	117	15091	5-4区北	I14	v10	5180東B	不整形土坑		土師器	甕	(16.0)	(4.2)	15%	密 2㎜以下の石英多量	外：5YR5/6 他 内：5YR5/6 他	布留式甕。口縁端部は平坦で内側に少し肥厚する。頸部内側の屈曲がシャープである。
851	117	15225	5-4区南	I4	w12	5180東C	不整形土坑	取上5	布留	直口壺	(13.7)	(4.2)	10%	密 1㎜以下の石英微量	外：7.5YR7/3 他 内：10YR7/3	古墳時代中期。屈曲の小さい二重口縁壺
852	117	15224	5-4区南	I4	w12	5180東c	不整形土坑	取上4	土師器	広口壺	(15.0)	(6.6)	20%	密 1㎜の片岩・石英微量	外：7.5YR7/4 内：10YR8/3	土師器広口壺。磨耗著しい。
853	117	15225	5-4区南	I4	w12	5180東c	不整形土坑	取上5	土師器	甕	(16.4)	(4.9)	15%	密 1㎜以下の石英・チャート微量	外：5YR6/8 内：5YR6/8	土師器 壺甕類
854	117	15221	5-4区南	I4	w12	5180東c	不整形土坑	取上1	土師器	高坏	—	(7.3)	50%	密 0.5㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒微量	外：10YR7/3 内：2.5Y7/3	古墳時代中期。タタキ後ナデを施しており、TK23 ～ 47 型式併行か。
855	117	5400	5-2区北	J4	c14	5013	(溝12分流)		土師器	高坏	—	(6.4)	90%	粗 2㎜以下の石英・片岩多量	外：5YR6/6 内：5GY4/1	土師器高坏。差し込み式の脚部。内外面磨耗著しい。5013 溝出土。溝 12 分流か。
856	117	5366	5-2区北	I4	w14	5019	(溝13)		弥生土器	広口壺か	(14.4)	(2.4)	8%	粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR8/3 内：10YR8/3	弥生土器の壺口縁部か高坏等の脚部。端部の突出は不安定。
857	118	5366	5-2区北	I4	w14	5019	(溝13)		弥生土器	甕	—	(4.1)	100%	粗 2㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR7/3 内：10YR4/1	紀伊型甕底部。底の最も薄い部分は厚さ 2㎜ である。
858	118	5677	5-5区中	I4	y22	5142	(溝14)	上層	弥生土器	蓋	—	4.3	19%	やや粗 1㎜以下のチャート・石英少量	外：7.5YR7/3 内：7.5YR8/2	弥生土器。蓋の頂部
859	120	5082	5-3区南	J5	c1	5001	(溝14)		弥生土器	直口壺	(20.0)	(4.2)	5%	やや粗 1㎜以下のチャート・石英少量	外：5Y7/1 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅱ～Ⅲ様式。直口壺口縁部。櫛描き直線紋を施す。
860	120	5079	5-3区北	J4	b24	5001	(溝14)	下層	弥生土器	甕類	—	(2.5)	25%	粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR5/6 内：10YR5/3	弥生土器。平底の底部。砂粒多く含む。
861	120	5075	5-3区北	J4	b24	5001	(溝14)	上層	弥生土器	壺	(12.0)	(2.6)	11%	やや密 2㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/4 内：10YR8/3	弥生土器壺。口縁部
862	120	5075	5-3区北	J4	b24	5001	(溝14)	上層	土師器	甕	(17.5)	(2.8)	8%	やや密 1㎜以下の石英・長石少量	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	布留式甕の口縁部か。口縁端部が内側に肥厚する。
863	120	5075	5-3区北	J4	b24	5001	(溝14)	上層	土師器	高坏	—	(1.8)	60%	密 1㎜以下の白色粒・赤色酸化粒微量	外：5YR7/6 内：7.5YR7/4	土師器高坏坏部
864	120	5075	5-3区北	J4	b24	5001	(溝14)	上層	土師器	高坏	—	(5.7)	73%	やや粗 2㎜以下の石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/3 内：7.5YR7/6	土師器高坏接合部。脚部に縦位ミガキ痕残る。内外
865	120	5115	5-3区南	J5	c1	5001	(溝14)	1層	弥生土器	広口長頸壺	20.9	33.5	80%	粗 1.5㎜以下の長石・石英・チャート多量	外：7.5YR6/6 他 内：10YR6/3	全体に細かい部分部分の剥離、磨滅著しい。広口長頸壺。Ⅱ -1 様式
866	121	5662	5-5区南	—	—	5140	(溝15)	下層	土師器	高坏	—	(2.8)	80%	密 3㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒微量	外：5YR5/6 内：5YR6/6	接合部。円盤充填技法みられる。磨滅著しい。
867	121	5663	5-5区南	I4	w21	5140	(溝15)	上層	土師器	甑か	—	—	5%	密 3㎜以下のチャート・赤色酸化粒中量	10YR8/3	甑の把手か。磨滅著しい。
868	121	5662	5-5区南	—	—	5140	(溝15)	下層	須恵器	無蓋高坏	(14.4)	(2.6)	10%	密 3㎜以下の長石少量	外：N2/ 内：N2/	自然釉かかる。口縁部外側へ折れ曲がる。
869	121	5669	5-5区	—	—	5140	(溝15)	上層	須恵器	杯蓋	—	(3.7)	17%	密 3㎜以下の黒色粒少量	外：N7/ 内：N7/	屑の稜の下が沈線状を呈する。TK23 ～ 47 型式
870	121	5663	5-5区南	I4	w21	5140	(溝15)	上層	須恵器	杯蓋	(10.8)	(2.8)	13%	密 1㎜以下の石英微量	外：10Y2/ 内：N5/	屑の稜が明瞭。自然釉かかる。口縁端部窪む。TK23 ～ 47 型式
871	121	5672	5-5区中	I4	x22	5140	(溝15)	上層	須恵器	杯身	(10.8)	(3.7)	10%	密 3㎜以下の長石微量	外：N5/ 内：N5/	口縁端部平坦。TK23 ～ 47 型式
872	121	5078	5-3区北	J4	c24	5002	(溝15)		土師器	高坏	—	8.6	82%	密 0.5㎜以下のチャート・白色粒微量	外：2.5YR5/6 内：7.5YR7/4	土師器脚部。透し穴なし。
873	125	5378	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	広口壺	(22.9)	(8.7)	20%	粗 3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：5YR5/3 内：7.5YR7/4	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ -3 様式
874	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	甕	(26.8)	(6.9)	10%	やや粗 1.5㎜以下のチャート・石英多量 0.5㎜以下の角閃石微量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y6/3	全体に磨滅著しい。Ⅰ -3 様式
875	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	甕	(23.4)	(7.3)	10%	粗 3㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR5/3	外面体部下半の剥離著しい。Ⅰ -3 様式
876	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	壺類	—	(6.6)	30%	粗 3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/1 内：10YR6/2	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式
877	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	壺類	—	(6.0)	50%	密 3㎜以下の石英多量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ～Ⅱ様式
878	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	壺類	—	(5.2)	25%	やや粗 2㎜以下の石英・長石多量	外：2.5Y7/2 内：10YR5/2	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式
879	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	甕類	—	(7.3)	40%	粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/4 内：5Y7/2	遺存良好。Ⅰ様式
880	125	5378	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	壺類	—	(3.9)	100%	密 3㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR5/6 内：10YR6/6	全体に磨滅極めて著しい。Ⅰ様式

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
881	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	壺類	—	(4.1)	50%	やや粗 2.5㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR7/4 内：5YR6/4	内面一部剥離著しい。全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式
882	125	5406	5-2区北	J4	d14	5010	溝状遺構		弥生土器	壺類	—	(6.7)	100%	やや粗 2㎜以下のチャート・石英多量 2㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5YR6/6 内：2.5Y6/2	内面の剥離、磨滅極めて著しい。外面の磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
883	125	5379	5-2区北	J4	d13,14	5010	溝状遺構	上層	弥生土器	壺類	—	(4.0)	75%	密 4㎜以下の石英・チャート多量 2㎜以下の片岩少量	外：5YR7/4 内：10YR7/2	全体に磨滅極めて著しい。Ⅰ様式。壺の底部。片岩以外の砂粒多く入る。底にわらと籾圧痕あり。
884	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	50,105,040	溝状遺構		弥生土器	広口壺	(19.5)	3.1	8%	粗 1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	弥生時代中期前葉。広口壺。阿方式土器。口縁端部を刻み、内面に2条の突帯を飾る。
885	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	5010,5040	溝状遺構		弥生土器	鉢	(29.6)	(8.9)	10%	密 2.5㎜以下のチャート・石英少量	外：2.5Y7/2 他 内：2.5Y8/2	全体にやや磨滅ぎみ。Ⅰ-3様式。煤は外面全体に薄く付着.
886	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	5010,5040	溝状遺構		弥生土器	鉢	(21.2)	(7.5)	17%	やや粗 3㎜以下の片岩・チャート・石英多量	外：2.5Y8/3 内：10YR7/3	全体にやや磨滅ぎみ。Ⅰ-2様式？
887	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	5010,5040	溝状遺構		弥生土器	壺類	—	(7.1)	40%	密 3㎜以下の石英・チャート多量 3㎜以下の片岩少量	外：2.5Y7/1 内：2.5Y7/2	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式
888	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	5010,5040	溝状遺構		弥生土器	壺類	—	(5.4)	100%	密 3㎜以下の石英・チャート多量 3㎜以下の片岩少量	外：2.5Y8/1 内：10YR7/3	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ様式
889	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	5010,5040	溝状遺構		弥生土器	壺類	—	(5.1)	100%	密 5㎜以下の石英多量 3㎜以下の片岩中量	外：2.5Y8/3 内：N4/0	内面の剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
890	125	5380	5-2区北	J4	d13,14	5010,5040	溝状遺構		弥生土器	甕類	—	(4.0)	95%	粗 1㎜以下の石英・片岩多量 雲母微量	外：2.5YR6/6 内：5YR5/1	全体に磨滅著しい。Ⅰ～Ⅱ様式。紀伊型甕
891	126	5277	5-2区中	I4	v16,17,u16,17	5020	(溝14分流か)		弥生土器	甕類	—	(1.7)	25%	粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR5/4 内：2.5Y5/2	弥生土器底部。平底
892	126	5249	5-2区南	J4	a17	5037	不整土坑		弥生土器	壺類	—	(6.7)	40%	やや粗 1㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR8/2 内：7.5YR7/3	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式？
893	126	5471	5-2区中	J4	c15	5048	不整土坑		弥生土器	甑	—	3.9	60%	密 1㎜のチャート微量	外：10YR8/3 内：10YR8/3	全体に磨滅著しい。弥生中期？
894	126	5146	5-2区北	J4	d14	5066	溝状遺構	土器1取上3	弥生土器	鉢	20.2	18.5	98%	やや粗 2㎜以下のチャート・長石・石英多量	外：5YR7/4 内：7.5YR7/6	部分的に剥離、磨滅著しい。Ⅱ-1様式
895	126	5444	5-2区北	J4	d14	5066	溝状遺構		弥生土器	甕	(20.2)	(6.7)	10%	密 3㎜以下の石英・片岩多量 3㎜以下の赤色酸化粒少量	外：10YR7/4 内：2.5Y7/1 他	全体に剥離、磨滅著しい。Ⅰ-3様式
896	126	15119	5-4区南	J4	d12	5066	溝状遺構	土器1	弥生土器	壺類	—	(5.2)	100%	粗 4㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/2 内：10YR8/2	平底底部。砂粒多く、磨耗著しい。
897	126	5480	5-2区北	J4	d13	5066	溝状遺構	土器2	弥生土器	甕類	—	(7.4)	100%	粗 3㎜以下の赤色酸化粒・片岩・石英多量	外：7.5YR7/6 内：10YR7/2	全体に磨滅極めて著しい。紀伊型甕。Ⅱ様式？
898	126	15218	5-4区南	J4	d13	5066	溝状遺構	土器3	弥生土器	甕類	—	(4.3)	25%	粗 7㎜以下のチャート多量 2.5㎜以下の石英・雲母・赤色酸化粒多量	外：2.5Y6/1 内：10YR7/2	表面一部赤変して荒れている。底部薄い。
899	126	5623	5-1区北	J4	d1	5076	土坑		弥生土器	甕類	(28.2)	(6.6)	20%	粗 1.5㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR6/1 内：7.5YR7/3	紀伊型甕。全体に磨滅著しい。Ⅲ-2様式
900	126	5456	5-1区南	I4	x6	5092	土坑	1層	弥生土器	直口壺	(8.2)	(3.2)	14%	やや密 1.5㎜以下のチャート・石英微量	外：10YR5/3 内：10YR5/3	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。付加条沈線をもつ、櫛描紋で飾る。櫛描はヘラ描き同様に深い線となる。
901	126	5434	5-1区南	I4	y5	5092	土坑	1層	弥生土器	甕	(24.0)	(5.3)	10%	密 1㎜以下の石英多量 2㎜以下のチャート・赤色酸化粒少量	外：10YR8/3 内：10YR8/3	全体に磨滅ぎみ。Ⅰ～Ⅱ-1様式。
902	126	5535	5-1区南	J4	a6	5109	建物の柱穴		突帯文系土器	深鉢	—	(3.1)	5%	密 2㎜以下の石英多量 3㎜以下の片岩中量	外：5YR7/6 内：7.5YR5/2	全体に磨滅著しい。縄文晩期長原式
903	126	5618	5-1区南	J4	b6	5110	建物の柱穴		弥生土器	甕	(20.2)	(7.3)	20%	粗 2.5㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外：7.5YR6/6 内：5YR7/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ様式
904	126	5518	5-1区南	J4	a5	5136	建物の柱穴		弥生土器	甕	(28.6)	(6.5)	5%	密 2㎜以下の石英中量 2㎜以下の赤色酸化粒・片岩少量	外：2.5Y7/2 内：7.5YR7/4	全体に磨滅著しい。Ⅰ-3様式
905	126	5851	5-5区北	J4	c18	5175	ピット		弥生土器	壺類	—	(4.6)	100%	密 1.5㎜以下の長石・石英少量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	平底の底部
906	126	5811	5-4区北	I4	x8,9	5185	土坑	1層	弥生土器	甕	(19.2)	(7.9)	10%	粗 1㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒多量	外：5YR5/8 内：5YR6/6	紀伊型甕。Ⅱ-1様式か。ケズリの面がせまく、おそらく縦方向になる。
907	126	5818	5-4区北	I4	x9	5188	土坑	1層	弥生土器	壺	(16.8)	(4.5)	10%	やや粗 1.5㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR7/3 内：10YR2/1	Ⅱ様式。破片になった後に表面黒色化進む。厚手
908	126	5724	5-4区北	I4	x9	5188	不整形土坑	1層	弥生土器	広口壺	(13.0)	(3.0)	16%	やや粗 2㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外・10YR7/1 内：10YR8/3	口縁端部に櫛描波状紋
909	126	5821	5-4区北	I4	x9	5189	不整形土坑	下層	弥生土器	甕	(20.0)	(3.4)	5%	密 2㎜以下のチャート多量 3㎜以下の石英少量	外：5YR5/8 内：7.5YR6/6	紀伊Ⅰ-3様式。甕。如意形の口縁の端部に刻み目、肩にヘラ描き沈線を三条施す。
910	126	5821	5-4区北	I4	x9	5189	不整形土坑	下層	弥生土器	甕	(26.3)	(5.0)	10%	粗 1.5㎜以下のチャート・石英・片岩多量	外：10YR8/2 内：2.5Y6/1	内外面磨耗。
911	126	15093	5-4区北	I4	y8	5190	不整形土坑	土器1	弥生土器	広口長頸壺	(20.5)	(16.5)	83%	粗 3㎜以下の石英・チャート・片岩・長石多量	外：5YR7/4 内：2.5YR6/6	紀伊Ⅱ-2様式。内外面磨耗著しい。
912	126	5702	5-4区北	J4	a10	5191	ピットか	1層	弥生土器	壺甕類	—	(4.9)	100%	密 3㎜以下の石英・チャート多量 2㎜以下の片岩微量	外：5YR5/4 内：2.5Y6/2	
913	127	5716	5-4区北	J4	a10	5196	土坑か	1層	弥生土器	広口壺	(26.4)	(5.7)	20%	密 4㎜以下の石英・チャート多量 4㎜以下の片岩少量	外：5YR5/6 内：10YR6/2	紀伊Ⅱ様式
914	127	5716	5-4区北	J4	a10	5196	土坑か	1層	弥生土器	広口壺	(29.9)	(2.3)	10%	やや粗 3㎜以下の石英・片岩・チャート多量	外：7.5YR7/6 他 内：5YR7/6	紀伊Ⅱ-1様式。口縁端部が肥厚し、下端に浅い刻目を施す。
915	127	5858	5-4区北	J4	a10	5196	土坑か	取上2	弥生土器	広口壺	(25.9)	(4.4)	10%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英・片岩中量	外：5YR6/6 内：5YR4/3	紀伊Ⅱ様式
916	127	5858	5-4区北	J4	a10	5196	土坑か	取上2	弥生土器	広口長頸壺	(15.9)	(7.9)	25%	やや粗 3㎜以下の片岩・チャート・石英多量 赤色酸化粒微量	外：5YR6/4 内：2.5Y7/1	紀伊Ⅱ様式
917	127	5859	5-4区北	J4	a10	5196	土坑か	取上3	弥生土器	壺類	—	(6.8)	100%	やや粗 2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/3 内：7.5YR7/6	
918	127	5861	5-4区北	J4	a10	5197	ピットか	取上1	弥生土器	甕	(28.5)	(10.8)	13%	粗 2.5㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	紀伊型甕。紀伊Ⅱ様式か。表面磨耗著しい。肩部の調整変化点分かりづらい。
919	127	15167	5-4区北	I4	y9	5198	不整形土坑		弥生土器	甕	(23.1)	(9.3)	20%	粗 2㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR7/1 内：7.5YR7/4	紀伊型甕。口縁部横ナデの範囲が広い。肩に稜をもつ。
920	127	5767	5-4区北	I4	y9	5198 d	不整形土坑	1層	弥生土器	甕類	—	(4.7)	30%	粗 3㎜以下のチャート・石英・長石多量	外：7.5YR6/3 内：10YR6/3	全体的に磨耗するが、若干ミガキが確認できる。体部が、立ち上がる。
921	127	5770	5-4区北	I4	y9	5198 c	不整形土坑		弥生土器	甕類	—	(4.4)	95%	粗 2㎜以下の片岩・石英多量	外：10YR7/3 内：10YR2/1	紀伊型甕の底部
922	127	5863	5-4区北	I4	y10	5199	土坑か	取上1	弥生土器	広口長頸壺	(22.0)	(16.2)	73%	粗 3㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR7/6 内：5YR7/6	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。ヘラ描沈線を施し、口縁端部に面が形成されている。磨耗著しい。
923	127	5771	5-4区北	I4	y10	5199	土坑か	1層	弥生土器	甕	(25.7)	(10.1)	13%	粗 2.5㎜以下の片岩・・石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/6 内：10YR7/3	紀伊型甕。紀伊Ⅱ－Ⅰ様式。肩部ケズリ横方向。内面の磨耗が著しい。
924	127	5865	5-4区北	I4	y10	5199	土坑か	取上3	弥生土器	ミニチュア土器 鉢	6.3	4.4	99%	粗 2.5㎜以下のチャート・長石多量	外：7.5YR4/2 内：10YR5/1	ドーナツ底。タタキあり。庄内期か。
925	127	5774	5-4区北	J4	a10	5203	ピットか	1層	弥生土器	直口壺	—	(9.0)	30%	粗 2.5㎜以下のチャート・片岩多量	外：7.5YR5/3 内：7.5YR7/2	紀伊Ⅱ様式。櫛描紋7単位以上
926	127	15080	5-4区北	J4	a10	5203	ピットか		弥生土器	壺類	—	(5.4)	90%	粗 9㎜以下の石英・片岩・長石多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	砂粒多く、磨耗著しい。
927	127	5774	5-4区北	J4	a10	5203	ピットか	1層	弥生土器	甕類	—	(4.9)	100%	やや粗 1.5㎜以下の赤色酸化粒・長石・片岩少量	外：10YR8/2 内：10YR5/1	内外面磨耗する。
928	127	5868	5-4区北	J4	b10	5204	ピットか		弥生土器	甕	(24.4)	(14.3)	23%	粗 2㎜以下の長石・石英・片岩粒・雲母粒・赤色粒多量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR6/6	紀伊型甕。Ⅱ様式
929	128	15098	5-4区北	I4	y9	5208 a	土坑か		弥生土器	甕	(21.4)	(11.0)	30%	粗 2㎜以下の長石・チャート・石英多量	外：10YR5/2 内：2.5Y7/3 他	紀伊型甕。Ⅰ-3～Ⅱ-1様式
930	128	15099	5-4区北	I4	y9	5208 b	土坑か		弥生土器	甕	(26.4)	(8.3)	16%	粗 2㎜以下の長石・石英・チャート多量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y5/2	紀伊型甕。Ⅰ-3～Ⅱ-1様式
931	128	15098	5-4区北	I4	y9	5208 a	土坑か		弥生土器	甕類	—	(5.6)	100%	粗 2㎜以下の石英・チャート多量 赤色酸化粒微量	外：5YR6/6 内：5YR8/1	
932	128	15103	5-4区北	I4	y9	5211	土坑か		弥生土器	広口壺	(19.2)	32.1	80%	やや粗 4㎜以下の石英・長石多量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ-3様式。頸部と肩部にヘラ描沈線紋を施す。
933	128	15171	5-4区南	I4	y12	5267	不整形土坑	取上1	弥生土器	広口壺	(18.1)	(14.0)	52%	粗 1.5㎜以下のチャート・石英・片岩多量 1.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR8/4 他 内：10YR8/3	紀伊Ⅰ-3様式。ヘラ描沈線と竹管紋を組み合わせて施紋する。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
934	128	15010	5-4区南	I4	y12	5267	不整形土坑		弥生土器	広口壺	(21.0)	(3.9)	12%	粗　2.5㎜以下のチャート多量	外：2.5Y5/1 内：10YR8/2	紀伊Ⅰ-3様式。広口壺。口縁端部を刻む。
935	128	15178	5-4区南	I4	y11	5267	不整形土坑	取上8	弥生土器	広口壺	(23.0)	(14.4)	20%	粗　3.5㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：7.5YR6/6 内：2.5YR5/6	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。内外面磨耗著しい。
936	128	15181	5-4区南	I4	y11	5267	不整形土坑	取上11	弥生土器	壺	—	(14.2)	18%	粗　2.5㎜以下の片岩・チャート・長石多量	外：7.5YR4/4 内：7.5YR6/6	紀伊Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。貼付突帯とヘラ描沈線で飾る。
937	128	15177	5-4区南	I4	y11	5267	不整形土坑	取上7	弥生土器	壺	—	(18.8)	73%	粗　8㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外：5YR5/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅰ-3様式。頸部と肩部の貼り付け突帯の上に刺突する。
938	128	15174	5-4区南	I4	y12	5267	不整形土坑	取上4	弥生土器	壺	—	16.8	75%	粗　2.5㎜以下の石英・チャート・片岩・赤色酸化粒多量 3㎜の石英微量	外：10YR8/3 内：N4/	平底の底部。色調は乳白色系で、内面は黒色化する。
939	129	15048	5-4区南	I4	y12	5267	不整形土坑	下層	弥生土器	甕	(31.8)	11.5	8%	粗　2.5㎜以下のチャート・片岩多量　7㎜以下の石英多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅰ-3様式。肩部に3条のヘラ描沈線を施す。
940	129	15180	5-4区南	I4	y11	5267	不整形土坑	取上10	突帯文系／弥生土器	穿孔甕	23.5	23.0	90%	粗　6㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR4/1 内：10YR7/2	突帯文土器の影響を残した紀伊型甕を底部穿孔した甑。紀伊Ⅰ-2様式。突帯上に細かい刻みを施す。底部穿孔はやや幾昧。
941	129	15281	5-4区南	I4	y11	5267	不整形土坑	下層5182混じる	弥生土器	手捏ね土器（鉢）	(7.9)	(6.9)	77%	やや粗　2.5㎜以下のチャート・石英・片岩多量	外：10YR8/2 内：2.5Y7/2	手づくねの鉢。口縁部歪つ。
942	129	15250	5-4区南	J4	c13	5275	溝状遺構	土器3	弥生土器	広口壺	11.4	(8.7)	90%	粗　2㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/4 内：7.5YR6/4	紀伊Ⅱ－Ⅰ様式。付加状沈線をもつ壺。頸部短い。
943	129	15249	5-4区南	J4	c13	5275	溝状遺構	土器2	弥生土器	壺類	—	(4.5)	100%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR5/6 内：10YR6/2	底部に稲穂の圧痕あり。
944	129	15146	5-4区南	J4	c13	5275	溝状遺構	下層	弥生土器	穿孔甕	—	(5.1)	100%	粗　3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/6 他 内：10YR8/4	底部中央を穿孔した甕。甑として使用か。底部は大きな平底
945	129	15252	5-4区南	J4	a12	5277	土坑か	土器1	弥生土器	直口壺	(18.0)	(12.8)	9%	粗　4㎜以下の片岩・長石多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/3	紀伊Ⅱ-2様式。
946	129	15254	5-4区南	J4	b11	5284	ピットか	取上1	弥生土器	壺	—	(19.5)	80%	粗　3㎜以下の石英多量	外：10YR8/2 内：7.5YR7/3	紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。壺体部。内外面磨耗著しい。
947	132	5332	5-2区南	J4	b17	5047	ピット	土器3	土師器	小型器台	9.0	8.5	95%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・チャート微量	外：5YR6/6 内：5YR7/6	磨滅極めて著しい。布留式併行期古段階。
948	132	5331	5-2区南	J4	b17	5047	ピット	土器2	土師器	小型器台	13.6	10.1	95%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/6 内：7.5YR7/6	磨滅極めて著しい。布留式併行期古段階。
949	132	5574	5-1区北	J4	d1	5079	土坑か	取上3	土師器	高坏	18.2	(5.5)	73%	密　3.5㎜以下の片岩・石英少量	外：5YR6/6 内：5YR6/6	坏部の稜はやや曖昧である。
950	132	5556	5-1区北	J4	d1	5079	土坑か	1層	土師器	甕	(13.1)	(5.5)	12%	やや密　1.5㎜以下の赤色酸化粒・片岩微量	外：7.5YR7/6 内：10YR7/4	外面ナデ調整、古墳時代前期か。
951	132	5571	5-1区北	J4	d1	5079	土坑か	取上1	土師器	甕	22.1	(10.4)	63%	やや密　1㎜以下の赤色酸化粒・長石少量	外：7.5YR6/3 内：N4/	庄内式期か。弥生Ⅴ様式系甕。口縁端部に刻みを入れる。頸部シャープに曲がる。
952	132	5352	5-1区北	J4	b4	5088	土坑	1層	土師器	直口壺	(14.6)	(7.0)	53%	密　1㎜以下の石英・赤色酸化粒少量	外：7.5YR6/6 内：10YR5/3	土師器の直口壺。古墳時代前～中期。内外面磨耗著しい。
953	132	5801	5-5区北	I4	x19	5157	井戸		土師器	小型丸底土器	7.3	8.5	95%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・石英微量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	布留式。表面磨耗進む。外面ハケ調整。口縁部下方で若干屈曲する。
954	132	5846	5-5区北	I4	x19	5157	井戸	土器3	土師器	小型丸底土器	10.5	6.3	87%	やや粗　6㎜以下の石英・片岩少量	外：10YR7/3 内：10YR7/3	布留式古段階か。ミガキは密に施すが、表面磨耗する。厚手
955	132	5847	5-5区北	I4	x19	5157	井戸		土師器	小型丸底土器	—	(4.3)	60%	やや粗　1㎜以下の赤色酸化粒・長石・雲母多量	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	布留式古段階か。口頸部欠失。表面の磨耗著しい。薄手
956	132	5847	5-5区北	I4	x19	5157	井戸		土師器	高坏	—	(8.3)	99%	粗　2.5㎜以下の赤色酸化粒・チャート・石英多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	古墳前期～中期。表面磨耗著しく調整痕不明。
957	132	5801	5-5区北	I4	x19	5157	井戸	土器1，2	土師器	甕	(14.4)	(4.4)	5%	密　1㎜の石英・赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	布留式甕。内外面とも磨耗著しく調整不明。口縁端部内側に肥厚する。
958	132	5852	5-5区北	J4	c18	5179	ピット	下層	土師器	甕	(13.3)	(4.0)	16%	密　1㎜以下のチャート微量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y7/2	弥生時代Ⅴ様式甕
959	132	5731	5-4区北	I4	w10	5186	不整形土坑	1層	土師器	甕	(15.2)	(5.5)	16%	密　0.5㎜以下の長石少量	外：7.5YR6/6 内：2.5Y6/2	古墳時代前～中期。口縁部は開き、端部を上方につまみあげる。外面ハケ長胴化開始期か。
960	132	5731	5-4区北	I4	w10	5186	不整形土坑	1層	土師器	土錘	1.6	2.9	50%	密　2㎜以下の片岩・赤色酸化粒・長石少量	7.5YR6/6	棒状土錘。古墳時代前～中期
961	132	5976	5-4区南	I4	w12	5255	不整形土坑	上層	土師器	小型丸底土器	(10.0)	(6.1)	25%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：7.5YR6/4 内：5YR6/6	庄内か布留古段階か。タタキ調整残る。
962	132	15005	5-4区南	I4	w12	5255	不整形土坑	下層	土師器	高坏	(15.6)	(5.3)	8%	密　1㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：10YR6/4 内：5YR5/6	有稜高坏の杯部。
963	132	15005	5-4区南	I4	w12	5255	不整形土坑	下層	土師器	高坏	—	(3.6)	100%	密　0.5㎜以下の長石微量	外：7.5YR6/6 内：7.5YR5/4	表面磨耗著しい。
964	132	5954	5-4区南	I4	y12	5255	不整形土坑	上層	土師器	高坏	—	(3.0)	80%	密　1㎜以下の石英粒・雲母少量	外：5YR4/4 内：5YR4/4	高坏杯部片。布留式期か。
965	132	5954	5-4区南	I4	y12	5255	不整形土坑	上層	土師器	高坏	—	(6.8)	63%	密	外：2.5YR4/6 内：7.5YR8/1	古墳時代前期か。脚部の面取りはミガキ調整に近い。
966	132	5954	5-4区南	I4	y12	5255	不整形土坑	上層	土師器	高坏	—	(7.2)	80%	密	外：5YR6/6 内：5YR6/6	土師器高坏脚部、薄手で丁寧なつくり、表面磨滅。布留式
967	132	5976	5-4区南	I4	w12	5255	不整形土坑	上層	土師器	小型鉢	(13.4)	5.2	20%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/2 内：5YR6/2 他	小形鉢あるいは埦形高坏の杯部。庄内～布留式
968	132	15193	5-4区南	I4	w12	5225	不整形土坑		土師器	甕	(18.2)	(8.8)	10%	密　0.5㎜以下の石英多量	外：7.5YR6/6 内：5YR5/4	布留式甕。口縁部磨耗。
969	132	5955	5-4区南	I4	x13,14	5256	不整形土坑	上層	土師器	高坏	—	(4.8)	78%	密　微砂粒・赤色酸化粒少量	外：5YR5/6 内：5YR5/6	高坏杯部。杯の稜の内外面をハケ目で消している。布留式期
970	132	5955	5-4区南	I4	x13,14	5256	不整形土坑	上層	土師器	高坏	—	(7.0)	63%	密　微砂粒中量	外：2.5Y4/1 内：5YR6/6 他	布留式。表面磨耗激しい。
971	132	5955	5-4区南	I4	x13,14	5256	不整形土坑	上層	土師器	高坏	—	(5.8)	50%	密　1㎜以下の長石粒少量	外：2.5YR5/8 内：2.5YR5/8	古墳時代前期。表面磨耗著しい。
972	132	15045	5-4区南	I4	x14	5256	不整形土坑		土師器	甕	(15.7)	(4.4)	16%	密　1㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/6 内：5YR6/4	頸部がくの字に曲がる。
973	132	5955	5-4区南	I4	x13,14	5256	不整形土坑	上層	須恵器	把手付埦	(9.8)	(4.4)	17%	密　1㎜の石英粒少量	外：N7/0 内：N5/0	初期須恵器か。古墳中期
974	132	5956	5-4区南	I4	x13,14	5257	（溝12分流）	上層	土師器	高坏	(17.8)	(3.1)	17%	密　微砂粒・赤色酸化粒多量	外：7.5YR5/6 内：7.5YR5/6	古墳前期。有稜高坏坏部
975	133	15008	5-4区南	I4	x13	5259	ピット		土師器	高坏	—	(7.2)	25%	密　1㎜以下の赤色酸化粒・長石少量	外：5YR6/6 内：N2/	布留式。古墳時代前か中期。表面磨耗著しい。
976	133	5988	5-4区南	I4	x13	5264	不整形土坑		土師器	甕	(15.6)	(5.4)	16%	密　1.5㎜以下の石英・赤色酸化粒微量	外：10YR7/3 他 内：10YR7/3 他	古墳時代中期か。表面磨耗著しい。
977	133	15046	5-4区南	I4	x12	5265	不整形土坑		土師器	甑か	—	—	100%	粗　2.5㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外：7.5YR7/2 内：5YR6/4	胎土粗く、表面磨耗著しい。古墳中期か。
978	133	15047	5-4区南	I4	y14	5266	不整形土坑		須恵器	把手付埦	(6.1)	(5.5)	20%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：N4/ 内：N4/	把手付埦の破片。初期須恵器
979	133	15047	5-4区南	I4	y14	5266	不整形土坑		須恵器	壺か	—	(4.4)	5%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：N4/ 内：N7/	はそうか小型壺の体部片か。古墳時代中期
980	133	15195	5-4区南	I4	x14	5281	ピット	土器2	土師器	甕	14.4	26.1	95%	密　8㎜以下の石英少量	外：10YR7/4 他 内：5YR7/6	外面やや磨滅ぎみ。古墳時代前～中期
981	133	15195	5-4区南	I4	x14	5281	ピット	土器2	土師器	甕	—	(10.6)	80%	密　4㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：7.5YR4/1 内：2.5Y7/3	布留式甕。薄手
982	133	5911	5-4区南	I4	w13	5282	ピット	1層	弥生土器／土師器	甕	(12.0)	(6.6)	23%	密　1㎜以下の石英・チャート少量	外：10YR8/1 内：10YR8/1	弥生Ⅴ様式系の粗い作りの小型甕、表面磨耗著しい。古墳前期。庄内～布留式期
983	141	5898	5-4区北	I4	x8	5250	不整形土坑	1層	土師器	土釜	—	(3.8)	8%	やや粗　1㎜以下の石英・長石・チャート・赤色酸化粒多量	外：5YR7/4 内：5YR4/4	厚手
984	141	5951	5-4区南	I4	y12	5253	溝		黒色土器	埦	—	(1.4)	27%	密　微砂粒微量	外：7.5YR8/4 内：N2/0	平安時代後期。11世紀。高台しっかりしている。径やや大きい。内面黒色
985	141	15040	5-4区南	I4	w12	5253	溝		黒色土器	埦	—	(1.9)	50%	密　2.5㎜の石英微量　1㎜以下の片岩・チャート微量	外：7.5YR7/4 内：N3/	平安時代後期。内面黒色
986	141	5936	5-4区南	I4	w12,13	5253	溝	上層	黒色土器	埦	—	(1.1)	33%	密	外：10YR6/2 内：N1.5/0	内面黒色。11世紀
987	141	5955	5-4区南	I4	x13,14	5256	不整形土坑	上層	黒色土器	埦	—	(3.3)	20%	密　2㎜の砂粒少量	外：7.5YR7/2 内：7.5YR2/1	高台に歪みあり。磨耗少ない。平安後期。内面黒色
988	141	5955	5-4区南	I4	x13,14	5256	不整形土坑	上層	黒色土器	埦	—	(3.0)	16%	密　微砂粒・雲母粒微量	外：2.5Y5/2 内：2.5Y3/1	内面黒色。平安時代後期
989	141	15045	5-4区南	I4	x14	5256	不整形土坑		土師器	埦	—	(1.3)	30%	密　1.5㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	平安時代後期。高台の一部が押圧によりつぶれる。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
990	141	15045	5-4区南	I4	x14	5256	不整形土坑		土師器	小皿	9.7	1.6	25%	密：1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：7.5YR7/3 内：10YR7/3	器形の歪みの大きい土師皿。ヨコナデが強くて段になっており、平安時代後期
991	141	5984	5-4区南	I4	x13	5260	ピット		黒色土器	埦	―	(1.5)	20%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：10YR8/3 内：N2/	内面黒色。平安時代後期
992	141	5339	5-1区北	J3	c24	5082	区画溝		土師質土器	小皿	(7.7)	1.4	40%	密　2㎜以下の石英・片岩微量	外：5YR6/4 内：5YR6/6	やや歪つ。若干砂粒含む。
993	141	5339	5-1区北	J3	c24	5082	区画溝		施釉陶器	碗	―	(3.0)	40%	密	釉：10Y5/2 露胎：5Y7/1 他	緑色の釉薬をかける。底部は露胎
994	141	5558	5-1区北	J4	d24	5082	区画溝	下層	無釉陶器（備前）	摺鉢	―	(4.9)	5%	密	外：2.5YR4/1 他 内：5YR4/2	すり目は粗く，4本一刻。片口付近の破片。重ね焼き痕付着。中世末
995	141	5339	5-1区北	J3	c24	5082	区画溝		施釉陶器	鍋	(17.1)	(6.7)	10%	密	釉：：5Y7/1 他 露胎：2.5Y7/1	乳白色の釉をかける。行平鍋か。近世末
996	141	5959	5-4区北	I4	x7,8	5083	区画溝	1,2層	土師質土器	小皿	(7.6)	1.5	25%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5YR7/4 内：7.5YR7/4	中世後半か。形状やや歪つになる。二次焼成受ける。
997	141	5959	5-4区北	I4	x7,8	5083	区画溝	1,2層	土師質土器	脚付皿	―	(1.7)	20%	粗　2㎜以下のチャート・石英多量	外：5YR6/8 内：5YR6/8	三脚の土師皿として復原した。胎土は粗い。中世
998	141	5961	5-4区北	I4	w7,8	5083	区画溝	1,2層	土師質土器	土釜	(22.0)	(6.5)	12%	密　1.5㎜以下の石英・赤色酸化粒少量　5㎜の石英微量	外：10YR8/2 内：2.5Y7/1	
999	141	5961	5-4区北	I4	w7,8	5083	区画溝	1,2層	瓦質土器	火鉢	(30.1)	(4.5)	8%	密　1㎜以下の赤色酸化粒多量　1㎜以下の白色粒・雲母微量	外：N3/ 内：N3/	室町か。瓦質の火鉢
1000	141	5881	5-4区北	J4	b8	5218	区画溝	1層	陶磁器	戸車	(6.4)	―	25%	密	外：2.5Y8/1 内：2.5Y8/1	左右の面は離れ砂、車の内外面は平滑。
1001	141	15007	5-4区南	I4	y13	5258	土坑		染付（肥前系）	碗	(8.9)	(5.4)	52%	密	外：10BG7/1 他 内：10BG7/1 他	コンニャク印判の形が崩れる。19 世紀前半か。
1002	145	6052	6区	I4	r20	6007	土坑	取上1	弥生土器	広口壺	―	(7.8)	63%	粗　3㎜以下の片岩。石英。赤色酸化粒多量	外：5YR4/6 内：5YR6/6 他	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式
1003	145	6058	6-1区	I4	r21	6009	土坑	取上1	弥生土器	壺	―	(9.9)	80%	やや粗　2㎜以下の石英・長石・雲母多量	外：10YR8/3 内：7.5YR6/4	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅱ-1様式か？
1004	145	6013	6区	I4	r21	6011	（溝16）		弥生土器	広口壺	(18.4)	(9.1)	25%	粗　3㎜以下の石英・長石・片岩多量　3㎜以下のチャート少量	外：2.5YR5/6 内：5YR6/6	全体に剥離、磨滅極めて著しい。Ⅰ-3様式
1005	145	6123	6-2区	I4	t24	6011	（溝16）		弥生土器	広口壺	(18.4)	(3.3)	10%	密　3㎜以下の石英・長石多量	外：10YR7/3 他 内：10YR7/3	前期。広口壺口縁部。外面ハケメ、端部は丸める。
1006	145	6126	6-2区	I5	u1	6011	（溝16）	上層	弥生土器	壺	―	(4.7)	5%	密　3㎜以下の石英・長石多量	外：10YR6/2 内：10YR6/3 他	前期中段階の広口壺。頸部の削り出し突帯とみられる部分の破片。
1007	145	6055	6-1区	I4	r21	6011	（溝16）		弥生土器	甕	(15.8)	(3.5)	5%	密　5㎜以下の石英多量	外：10YR7/3 他 内：10YR7/3 他	紀伊Ⅰ-3様式。小型の甕。口縁部は外反し、肩に6条以上のヘラ描沈線を施す。
1008	145	6123	6-2区	I4	t24	6011	（溝16）		弥生土器	甕	(17.4)	(4.5)	8%	やや粗　2㎜以下の石英・長石多量　雲母微量	外：5YR6/4 内：7.5YR6/4	弥生前期。Ⅰ-3様式
1009	145	6139	6-2区	I4	t23	6011	（溝16）		弥生土器	甕	(26.4)	(4.5)	5%	密　3㎜以下の石英・長石多量	外：10YR7/3 他 内：5YR6/6 他	紀伊Ⅰ-3様式。口縁部は外反し、端部に刻み目、肩部にヘラ描沈線で飾る。
1010	145	6055	6-1区	I4	r21	6011	（溝16）		突帯文系／弥生土器	甕	(32.2)	(6.6)	5%	密　5㎜以下の石英・片岩多量	外：2.5Y7/1 他 内：5Y7/1 他	紀伊Ⅰ-2様式。突帯紋系の甕。口縁端部のやや下に突帯を貼り付ける。外面ナデ調整。
1011	145	6123	6-2区	I4	t24	6011	（溝16）		弥生土器	鉢	(25.4)	(4.9)	7%	密　6㎜以下の石英少量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6	紀伊Ⅲ様式。台付鉢か高坏の口縁部か。端部は外側に肥厚し、肩部は張る。内外面磨耗著しい。
1012	145	6124	6-2区	I4	t24	6011	（溝16）		弥生土器	鉢	(44.4)	(6.8)	5%	やや粗　4㎜以下の片岩・石英・チャート少量	外：7.5YR7/6 内：N5/	前期Ⅰ様式。逆Ｌ字状口縁。
1013	145	6150	6-2区	I4	t24	6011	（溝16）	取上3	弥生土器	甕類	―	(4.0)	100%	密　3㎜以下の石英・チャート多量　3㎜以下の片岩微量	外：5YR7/4 他 内：10YR7/4	
1014	145	6153	6-2区	I4	t25	6011	（溝16）	下層	弥生土器	壺類	―	(3.9)	100%	粗　2.5㎜以下の石英・チャート・片岩多量	外：2.5Y8/2 内：7.5YR6/6	
1015	145	6149	6-2区	I4	t24	6011	（溝16）	取上2	弥生土器	壺類	―	(4.3)	60%	密　4㎜以下の石英多量　3㎜以下のチャート・赤色酸化粒少量	外：2.5YR6/8 他 内：2.5YR6/6	
1016	145	6138	6-2区	I4	u25	6011	（溝16）	下層	弥生土器	高坏か	―	(3.1)	10%	密　1㎜以下の石英・黒色粒多量	外：2.5Y7/1 他 内：10YR8/3 他	弥生土器。高坏の脚部か壺の口縁部。
1017	145	6122	6-2区	I4	v25	6035	溝覆土		弥生土器	広口壺	(15.6)	(5.4)	14%	粗　3㎜以下のチャート。石英多量	外：10YR7/2 内：10YR7/3	6032 溝の遺物か。
1018	145	6084	6-2区	I4	u24	6035	溝覆土		弥生土器	広口壺	―	(8.3)	20%	密　1.5㎜のチャート・長石少量	外：10YR7/4 内：N4/	6032 溝の遺物か。前期Ⅰ-2様式
1019	145	6122	6-2区	I4	v25	6035	溝覆土		弥生土器	壺	―	(8.4)	45%	粗　2.5㎜以下のチャート・長石多量	外：2.5Y8/1 内：2.5Y8/1	6032 溝の遺物か。弥生前期。Ⅰ-2～Ⅰ-3様式
1020	145	6147	6-2区	I4	t24	6035	溝覆土		突帯文系土器	深鉢	(18.7)	(2.3)	5%	やや粗　5㎜の長石1個　1㎜以下のチャート・片岩少量	外：7.5YR5/2 内：10YR8/2	6032 溝の遺物か。弥生前期中段階併行と推測される。突帯紋土器の影響残る。
1021	145	6157	6-2区	I5	u1	6039	（溝17）	中・下層	弥生土器	壺	―	(4.1)	20%	密　2㎜以下の石英・長石多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	前期中段階の遠賀川系の壺。肩の二条の沈線をはさんで、若干の段差がある。
1022	145	6157	6-2区	I5	u1	6039	（溝17）	中、下層	弥生土器	壺	―	(17.6)	60%	やや粗　2.5㎜以下の長石・石英・片岩・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/4 他 内：2.5Y8/3	Ⅰ-3～Ⅱ-1様式
1023	145	6156	6-2区	I5	u1	6039	（溝17）	下層（6011の切り合い部）	弥生土器	鉢	(14.0)	(7.5)	12%	密　5㎜以下の石英・長石多量	外：7.5YR7/4 内：10YR8/2	紀伊Ⅰ-3様式。直口鉢。口縁部はやや内湾し、端部に刻み目、口縁部下に4条のヘラ描沈線を施す。
1024	145	6120	6-2区	I5	v2	6039	（溝17）		弥生土器	高坏か	―	(2.8)	10%	密　2㎜以下の石英微量	外：7.5YR7/3 他 内：10YR7/2 他	弥生土器。高坏脚部か。
1025	145	6158	6-2区	I5	u1	6050	井戸化流路	6039最下層～遺物含む1層	弥生土器	甕	(16.0)	(3.0)	13%	密　3㎜以下の石英多量	外：10YR7/2 内：10YR7/3	小型の甕の口縁部か。やや厚手で外反する。7166 井戸の北半部か下層流路の遺物
1026	145	6158	6-2区	I5	u1	6050	井戸化流路	6039最下層～遺物含む1層	弥生土器	広口壺	(22.0)	(5.2)	6%	密　3㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/4 他 内：10YR7/4 他	紀伊Ⅰ-3様式。口縁端部に刻み目、頸部にヘラ描沈線。7166 井戸の北半部か下層流路の遺物
1027	145	6158	6-2区	I5	u1	6050	井戸化流路	6039最下層～遺物含む1層	弥生土器	広口壺	(34.8)	(2.9)	8%	密　3㎜以下の石英・長石多量	外：2.5Y6/1 他 内：7.5Y3/1 他	口縁端部に平坦面をもつ。内面はミガキ調整。7166 井戸の北半部か下層流路の遺物
1028	150	6140	6-2区	I4	u25	6023	建物柱穴	取上1	瓦器	埦	(14.9)	(3.5)	18%	密　1㎜以下の赤色酸化粒少量	外：10YR5/4 内：2.5Y4/1	器形は浅い。焼成不良で褐色味を帯びる。
1029	150	6104	6-2区	I5	u1	6024	建物柱穴		瓦器	埦	(13.9)	(2.5)	8%	密	外：N4/ 内：N4/	13～14世紀
1030	150	6113	6-2区	I4	u25	6027	建物柱穴		瓦器	小皿	(8.3)	1.3	20%	密	外：N3/ 内：N3/	やや歪つ。13～14世紀か。
1031	150	6119	6-2区	I4	t24	6037	区画溝		瓦器	埦	(14.0)	4.0	10%	密	外：N3/0 他 内：N3/0 他	
1032	150	6114	6-2区	I4	t23	6037	区画溝		瓦器	埦	(13.9)	3.6	20%	密　2㎜以下の石英微量	外：N3/0 他 内：N3/0 他	13世紀
1033	150	6114	6-2区	I4	t23	6037	区画溝		瓦器	埦	(14.0)	2.5	15%	密　0.5㎜以下の白色粒微量	外：N4/ 内：2.5GY4/1	紀伊型瓦器埦。浅く、高台は低い。内面の連結輪状の暗紋を施す。
1034	150	6114	6-2区	I4	t23	6037	区画溝		青磁	碗	(15.8)	(6.0)	25%	密	釉：5Y5/2 露胎：5Y6/1	
1035	150	6114	6-2区	I4	t23	6037	区画溝		土師器	土釜	(25.9)	(4.6)	5%	粗　2㎜以下のチャート・石英多量	外：N2/ 内：7.5YR6/2	鍋の口縁部。外面黒色。端部は内側に肥厚する。
1036	150	6114	6-2区	I4	t23	6037	区画溝		須恵器	捏鉢	(28.1)	(3.7)	8%	密　0.5㎜以下の長石・黒色粒微量	外：N8/ 他 内：N4/ 他	東播系捏鉢。口縁端部は単体に三角形に仕上げる。
1037	150	6105	6-2区	I4	u23	6035	溝覆土		黒色土器	埦	―	(1.4)	13%	やや密　1.5㎜以下の石英・雲母微量	外：7.5YR6/4 他 内：2.5Y2/	6037 区画溝の遺物か。黒色土器埦。内黒
1038	150	6107	6-2区	I4	v24	6035	溝覆土		土師器	焙烙	(23.6)	(5.4)	8%	やや粗　1㎜以下の長石・赤色酸化粒少量	外：5YR5/4 内：5YR5/3	6037 区画溝の遺物か。焙烙。口縁部やや長く引き出す。近世初頭
1039	150	6049	6-1区	I4	v22	6010	円形土坑		染付（肥前系）	碗	―	(4.1)	10%	密	釉：7.5GY8/1 露胎：N8/0	宮井用水「中溝水路」脇の水溜内の遺物か。
1040	159	7441	7区	I5	v2	7000	落ち込み	下層	弥生土器	蓋	10.0	3.2	95%	密　2㎜以下の石英・黒色粒多量	外：7.5YR7/4 他 内：7.5YR6/6	壺の蓋。小型で笠形。頂部は凹む。
1041	159	7150	7区	I5	u4,v4	7000	落ち込み	上層取上16	弥生土器	蓋	―	(3.6)	90%	密　3㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR6/4 内：5YR5/4	壺の蓋。小型で摘みの頂点が凹む。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
1042	159	7459	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層 取上6	弥生土器	広口壺	(12.8)	(11.4)	40%	やや粗　2.5㎜以下の石英・チャート多量　2.5㎜以下の角閃石微量	外：10YR6/3 内：2.5Y8/3	紀伊Ⅰ-3～Ⅱ-1様式。ヘラを6本重ねて櫛描紋とし、4分の1週ずつ施紋する。
1043	159	7504	7区	I5	w5	7000	落ち込み	下層 東肩	弥生土器	広口壺	(27.8)	(4.3)	10%	密　3㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR6/6 内：10YR7/4	紀伊Ⅰ-3様式か。口縁端部と内面にヘラ描沈線をまわす。内外面磨耗著しい。
1044	159	7423	7区	I5	w5,6	7000	落ち込み	上層	弥生土器	広口壺	(29.6)	(11.4)	50%	粗　3㎜以下の長石・石英多量	外：10YR8/3 他 内：10YR7/4 他	阿方式土器。口縁部内面に貼り付け突帯を2条飾る。表面褐色系だが、灰色を呈する部分が多い。
1045	159	7494	7区	I5	v3	7000	落ち込み	上層 取上38	弥生土器	直口壺	(14.6)	(3.5)	16%	密　2㎜以下の石英・長石中量	外：10YR4/6 内：10YR6/3	弥生時代中期中葉の直口壺。口縁部の下に貼付突帯を一条付ける。内外面磨耗。
1046	159	7461	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層 取上8	弥生土器	壺	—	(11.5)	10%	密　10㎜以下の石英多量	外：5YR6/6 内：5YR7/6 他	紀伊Ⅰ-3様式。肩部に6条のヘラ描沈線を施す。内外面磨耗著しい。
1047	159	7497	7区	I5	u3,v3	7000	落ち込み	上層 取上41	突帯文系／弥生土器	甕	(22.8)	(19.5)	70%	粗　6㎜以下の片岩・石英・赤色酸化粒多量	外：10YR7/3 内：2.5Y7/2 他	紀伊Ⅰ-2様式。突帯紋系の影響残る紀伊型甕
1048	159	7486	7区	I5	v4	7000	落ち込み	上層 取上30	突帯文系／弥生土器	甕	25.6	(10.0)	50%	密　5㎜の石英多量	外：10YR7/2 他 内：2.5Y6/1 他	紀伊Ⅰ-2様式。紀伊型甕。口縁部と肩部が突帯紋土器の影響を残す。
1049	159	7486	7区	I5	v4	7000	落ち込み	上層 取上30	突帯文系／弥生土器	甕	(21.4)	(11.4)	20%	密量　8㎜以下の石英・片岩多量	外：7.5YR7/4 他 内：2.5Y8/1 他	紀伊Ⅰ-2様式。紀伊型甕。口縁部と肩部が突帯紋土器の影響を残す。
1050	159	7479	7区	I5	v4	7000	落ち込み	上層 取上23	弥生土器	甕	(32.0)	(15.8)	20%	密量　7㎜以下の石英・片岩多量　3㎜以下のチャート少量	外：2.5Y7/4 他 内：2.5Y7/3 他	大型で口縁は外反する。内外面磨耗著しい。
1051	159	7090	7区	I5	v2	7000	落ち込み	上層1層	弥生土器	甕	(15.4)	(2.4)	8%	密　1㎜以下の石英中量	外：10YR7/3 他 内：2.5Y8/3 他	弥生時代中期。口縁は斜め上方へ短く屈曲する。内外面磨耗著しい。
1052	159	7435	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層	弥生土器	甕	(23.6)	(6.8)	25%	密量　8㎜の石英1個　3㎜以下の石英・長石中量　1㎜以下の石英多量	外：10YR6/4 内：10YR7/3 他	弥生時代中期。口縁部は明確に屈曲し、端部を上下に肥厚させる。
1053	160	7077	7区	I5	v3	7000	落ち込み	上層1層	弥生土器	高坏	(25.0)	(5.4)	17%	密量　6㎜以下の石英・片岩・長石微量	外：7.5YR6/6 他 内：7.5YR6/6 他	弥生時代中期。高坏坏部。口縁部は平坦で、内側に肥厚する。
1054	160	7447	7区	I5	w3	7000	落ち込み	上層	弥生土器	鉢	—	(8.1)	10%	密量　6㎜以下の長石・片岩多量	外：10YR8/4 他 内：10YR8/4 他	紀伊Ⅳ様式。凹線紋を施す鉢。口縁端部及び下半を欠失。
1055	160	7457	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層 取上4	弥生土器	鉢	(38.2)	(6.1)	5%	密　2㎜以下の石英・赤色酸化粒多量	外：10YR7/2 他 内：7.5Y3/1	粘土帯を貼り付け逆L字形の口縁にする。外面ハケメ調整。内面と外面の一部が黒色化する。
1056	160	7463	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層 取上10	弥生土器	壺類	—	(5.0)	60%	密量　5㎜以下の石英・片岩微量　2㎜以下の赤色酸化粒多量	外：10YR7/3 他 内：5Y4/2 他	弥生土器。壺か。平底
1057	160	7457	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層 取上4	弥生土器	壺類	—	3.4	45%	粗量　3㎜以下の石英・片岩多量　3㎜以下の赤色酸化粒微量	外：N3/ 内：N3/	
1058	160	7456	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層 取上3	弥生土器	壺類	—	(5.5)	50%	密量　2㎜以下の石英・長石多量　金雲母微量	外：2.5Y7/3 内：2.5Y7/2	弥生土器壺底部。平底。胎土に金雲母含む。底部に種子圧痕あり。
1059	160	7481	7区	I5	v4	7000	落ち込み	上層 取上25	弥生土器	壺類	—	(7.9)	100%	密　3㎜以下の石英・長石・黒色粒多量	外：2.5Y7/4 内：2.5Y7/3 他	平底
1060	160	7536	7区	I5	w6	7000	落ち込み	下層 取上46	弥生土器	壺類	—	(5.9)	95%	密量　5㎜以下の片岩・石英多量	外：2.5Y8/3 他 内：2.5Y6/1 他	平底。底部に種子圧痕あり。
1061	160	7487	7区	I5	v4	7000	落ち込み	上層 取上31	弥生土器	甕類	—	(5.0)	100%	密　5㎜以下の石英多量	外：10YR7/3 他 内：2.5Y7/2	紀伊型甕の底部
1062	160	7081	7区	I5	w5	7000	落ち込み	上層1層	弥生土器	甕類	—	(2.5)	70%	密　1㎜以下の白色微粒少量	外：5YR5/8 他 内：5YR6/6	畿内Ⅴ様式甕。平底。外面調整不明。
1063	160	7078	7区	I5	v4	7000	落ち込み	上層 1層	弥生土器	甕類	—	(1.8)	50%	密　1㎜以下の石英・赤色酸化粒中量	外：7.5YR6/4 他 内：7.5YR6/6	畿内Ⅴ様式甕の底部。内外面磨耗。
1064	160	7536	7区	I5	w6	7000	落ち込み	下層 取上46	弥生土器	甕類	—	(3.3)	60%	密　8㎜以下の石英多量	外：2.5Y6/1 他 内：2.5Y7/1	底部穿孔途中品。
1065	161	7102	7区	I5	v2	7001	溝	上層	弥生土器／土師器	広口壺	(11.7)	(1.5)	5%	密量　3㎜以下の片岩・石英少量	外：7.5YR7/6 内：10YR8/2	広口壺。口縁端部が垂下する。
1066	161	7102	7区	I5	v2	7001	溝	上層	弥生土器／土師器	甕	(27.0)	(3.9)	5%	密　5㎜以下の石英少量	外：2.5YR5/6 内：7.5YR7/4	弥生Ⅴ様式系甕。口縁端部を丸める。
1067	161	7106	7区	I5	w3	7001	溝	中・下層	弥生土器／土師器	高坏	—	(4.9)	40%	密量　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：5YR7/4 内：2.5Y8/2	庄内期。短脚の高坏。透し穴を2×4方向にあける。外面ミガキ調整。
1068	161	7110	7区	I5	w4,5	7001	溝	上層	弥生土器／土師器	甕	—	(3.6)	100%	密量　2㎜以下の片岩・石英少量	外：10YR5/1 内：10YR6/1	弥生Ⅴ様式甕の底部、平底。タタキの有無は不明。
1069	162	7403	7区	I5	w8	7002	溝	最下層 取上46	弥生土器	広口壺	(18.4)	(3.1)	11%	粗　2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：2.5Y8/3 他 内：7.5YR5/4	広口壺。おそらく前期新段階。色調の異なる二種類の粘土を使用。混和する砂粒は同傾向。
1070	162	7381	7区	I5	v9	7002	溝	最下層	弥生土器	広口壺	(26.4)	(3.1)	12%	粗　0.8㎜の片岩1個　3㎜以下のチャート・石英多量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y8/3	直線的な口縁部片。
1071	162	7233	7区	I5	u9	7002	溝	下層	弥生土器	広口壺	(23.0)	6.9	14%	粗　2.5㎜以下の石英多量	外：5YR6/6 内：5YR5/4	頸部に4条のヘラ描き沈線を施す。
1072	162	7235	7区	I5	v9	7002	溝	上層	弥生土器	広口壺	(19.6)	(8.3)	20%	密　3㎜以下の砂岩多量	外：10YR6/4 他 内：7.5YR6/6 他	紀伊Ⅰ様式。頸部にヘラ描沈線を施す。
1073	162	7359	7区	I5	v9	7002	溝	下層 取上21	弥生土器	広口壺	(29.6)	(14.6)	25%	密量　20㎜以下の片岩・石英多量	外：5Y5/1 他 内：5Y7/2 他	紀伊Ⅰ様式。口縁部に対して頸部がしまる。内外面磨耗著しい。胎土中の片岩が大粒である。
1074	162	7400	7区	I5	w8	7002	溝	最下層 取上43	弥生土器	広口壺	(24.0)	(9.8)	65%	密　2㎜以下の石英・チャート多量　2㎜以下の赤色酸化粒少量	外：10YR5/4 内：7.5YR6/6 他	胎土分析№20
1075	162	7361	7区	I5	v8	7002	溝	下層 取上23	弥生土器	広口壺	(28.4)	(15.4)	25%	粗　5㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外：5YR6/6 内：5YR5/6	紀伊Ⅰ-3様式。頸部に5条の貼付突帯を施す。
1076	162	7361	7区	I5	v8	7002	溝	下層 取上23	弥生土器	壺	—	(5.8)	5%	密　3㎜以下の石英・長石・黒褐色粒多量	外：5YR6/6 他 内：2.5Y8/2	紀伊Ⅰ-3様式。壺の肩部。1075と同一個体の可能性あり。突帯上面の刻み目の存在が不明瞭。
1077	162	7232	7区	I5	u9	7002	溝	上層	弥生土器	壺	—	(5.8)	5%	粗　3㎜以下の石英・チャート多量	外：10YR7/3 内：10YR8/2	木の葉文を施す壺片。
1078	162	7376	7区	I5	w8	7002	溝	下層 取上38	弥生土器	壺	—	15.1	15%	粗　5㎜以下の石英・赤色酸化粒・チャート多量	外：10YR7/4 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅰ-3様式。肩部に16本以上のヘラ描沈線紋を施す。内外面磨耗著しい。
1079	162	7363	7区	I5	v8	7002	溝	下層 取上25	弥生土器	直口鉢	(21.4)	16.7	50%	密　9㎜の石英少量　3㎜以下の石英・長石多量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6 他	紀伊Ⅰ-3様式。直口鉢。口縁部近くに5条のヘラ描沈線を施す。
1080	162	7235	7区	I5	v9	7002	溝	上層 7080	弥生土器	鉢	(31.6)	(9.1)	13%	粗　3㎜の石英・チャート多量	外：5Y6/1 内：5Y7/1	把手付鉢。口縁部外反する。把手は小型。内外面磨耗著しい。胎土分析№27
1081	162	7343	7区	I5	u9	7002	溝	下層 取上5	弥生土器	穿孔壺	—	(5.7)	100%	粗　5㎜以下の片岩・石英・チャート多量	外：7.5YR7/4 内：N3/	底部穿孔あり。
1082	162	7378	7区	I5	u9	7002	溝	最下層 取上40	弥生土器	壺	—	(11.4)	75%	粗　3㎜以下の石英・チャート多量	外：2.5Y7/2 内：10YR7/3	底部。大型品で平底。外面ミガキ調整。
1083	163	7347	7区	I5	u9	7002	溝	下層 取上9	弥生土器	蓋	(5.4)	11.4	80%	密　5㎜の石英微量　3㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/4 他 内：2.5Y3/1 他	甕の蓋。紀伊Ⅰ～Ⅱ様式。載頭四錘形で頂部は凹む。外面ハケ調整。
1084	163	7349	7区	I5	u9	7002	溝	下層 取上11	突帯文系／弥生土器	甕	(23.0)	(8.6)	35%	密　5㎜以下の石英・長石・片岩・赤色酸化粒多量	外：10YR6/3 他 内：10YR7/2 他	紀伊Ⅰ-2様式。肩部に突帯を貼り付ける。紀伊型甕。突帯より下に煤付着。
1085	163	7381	7区	I5	v9	7002	溝	最下層	突帯文系／弥生土器	甕	(24.6)	(9.4)	20%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR5/2 内：10YR7/2	紀伊Ⅰ-2様式。紀伊型甕。口縁端部と肩部が突帯状になっている。
1086	163	7347	7区	I5	u9	7002	溝	下層 取上9	突帯文系／弥生土器	甕	(23.2)	(12.3)	10%	密量　5㎜以下の石英・長石多量	外：10YR7/3 他 内：2.5Y7/3 他	紀伊Ⅰ-2様式。紀伊型甕。口縁端部外側と肩部に、突帯を貼り付けている。外反に煤付着。
1087	163	7399	7区	I5	v8	7002	溝	最下層 取上42	弥生土器	甕	22.4	(8.2)	75%	粗　5㎜以下の石英・チャート・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/4 内：10YR6/3	紀伊Ⅰ-3様式。口縁部外反し、端部を刻む。肩に4条のヘラ描沈線を施す。内外面磨耗著しい。
1088	163	7367	7区	I5	v8	7002	溝	下層 取上29	弥生土器	甕	(21.4)	(13.1)	45%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR6/3 内：10YR7/2	紀伊Ⅰ-3様式。口縁部は緩く外反し、端部を刻む。外面ハケメのち、5条のヘラ描沈線を施す。

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高(cm)	残存率	胎土	色調	特徴・備考
1089	163	7351	7区	I5	u9	7002	溝	下層取上13	弥生土器	甕	(22.2)	(12.1)	15%	密 3㎜以下の石英・チャート多量	外：5YR6/6 他 内：10YR6/1 他	口縁部短く外反する。外面ハケ調整で、煤が付着する。
1090	163	7221	7区	I5	w9	7002	溝	下層	土製円盤	土製円盤	4.7	一	100%	密 5㎜以下の石英・赤色酸化粒中量	外：10YR7/4 他 内：10YR7/3	やや小型の土製円盤。径 4.4 ～ 4.7cm。厚さ 0.6 ～ 0.7mm
1091	164	7158	7区	I5	v4	7004	溝	下層取上3	弥生土器	広口壺	(12.7)	(6.3)	15%	粗 1㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR7/2 内：10YR7/3	紀伊Ⅲ様式。口縁端部は上下に肥厚する。無紋。内外面磨耗著しい。
1092	164	7438	7区	I5	w5	7004	溝	下層	弥生土器	広口壺	(16.4)	(6.2)	7%	密 4㎜以下の石英・片岩微量 1㎜以下の石英・長石多量	外：10YR7/2 他 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅲ様式。口縁端部は下方へ垂下する。内外面磨耗著しい。
1093	164	7136	7区	I5	u2	7004	溝	下層	弥生土器	直口壺	(15.0)	(4.5)	7%	密 5㎜以下の石英・片岩中量 1㎜以下の石英・赤色酸化粒多量	外：5YR6/6 内：7.5YR7/4 他	紀伊Ⅲ -2 ～ 3 様式。口縁部直下に貼付突帯と櫛描波状紋を施す。
1094	164	7138	7区	I5	v3	7004	溝	中層	弥生土器	直口壺	(15.4)	(6.0)	23%	粗 2㎜以下の片岩・石英多量	外：2.5Y7/4 内：2.5Y7/4	紀伊Ⅲ -2 ～ 3 様式。2 条の貼付突帯の上下を櫛描波状紋で飾る。
1095	164	7134	7区	I5	u2	7004	溝	中層	弥生土器	細頸壺	(12.4)	5.8	12%	粗 2.5㎜以下の片岩多量	外：N3/ 他 内：N3/	紀伊Ⅲ様式。凹線紋と円形浮紋で飾る。
1096	164	7116	7区	I5	w5	7004	溝	中層	弥生土器	無頸壺	(14.0)	(6.9)	16%	密 6㎜の石英多量	外：5YR7/6 他 内：2.5Y7/2 他	弥生時代中期。口縁端部は外側へ肥厚する。内外面磨耗著しい。
1097	164	7140	7区	I5	v4	7004	溝	下層	弥生土器	甕	(11.0)	(5.0)	20%	密 3㎜の石英微量 1㎜以下の石英多量	外：10YR6/3 内：7.5YR6/3 他	弥生時代中期。小型で薄手。口縁部はくの字形に屈曲し、外面ハケメ調整。
1098	164	7325	7区	I5	w4	7004	溝	下層取上19	弥生土器	甕	(23.7)	(4.7)	9%	粗 2㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR8/3 内：10YR8/2	弥生時代中期。口縁部はくの字形に屈曲し、端部に沈線をもつ。外面ハケ調整。
1099	164	7319	7区	I5	v4	7004	溝	下層取上13	弥生土器	甕	(25.6)	(6.0)	10%	密 4㎜以下の石英・片岩微量 3㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：5YR6/3 内：7.5YR7/4 他	口縁端部を上方へ引きあける。
1100	164	7325	7区	I5	w4	7004	溝	下層取上19	弥生土器	鉢	(27.6)	(6.0)	10%	粗 5㎜以下の石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅲ -3 ～Ⅳ -1 様式。凹線紋をもつ。内外面磨耗著しい。
1101	164	7163	7区	I5	u2	7004	溝	下層取上1	弥生土器	鉢	(30.0)	(8.8)	50%	粗 3㎜以下の片岩・石英多量	外：7.5YR6/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅲ -3 ～Ⅳ -1 様式。口縁部外側に粘土帯を貼り付け肥厚させる。櫛描波状紋を施す。
1102	164	7310	7区	I5	v3	7004	溝	下層取上2	弥生土器	高坏	一	(8.2)	80%	粗 1.5㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：2.5Y8/2 内：2.5Y8/2	弥生時代中期。高坏の柱状部。内外面磨耗著しい。
1103	164	7319	7区	I5	v4	7004	溝	下層取上13	弥生土器	小型台付鉢	(13.0)	16.8	67%	粗 15㎜以下のチャート・石英多量	外：2.5Y8/2 他 内：2.5Y8/2	凹線とハケメが残存。白・黒・褐色の砂粒を含み、色調は乳白色。西部瀬戸内からの搬入品か。
1104	164	7324	7区	I5	w4	7004	溝	下層取上18	弥生土器	甕類	一	(5.7)	65%	粗 2.5㎜以下の片岩・チャート・石英多量	外：7.5YR6/4 他 内：5YR6/4	底部。安定した平底。薄手
1105	164	7326	7区	I5	w4	7004	溝	下層取上20	弥生土器	壺類	一	(5.7)	45%	粗 3㎜以下の片岩・石英多量	外：5YR7/4 内：7.5Y6/1	底部。内外面磨耗著しい。
1106	164	7114	7区	I5	w4	7004	溝	中・下層	弥生土器	壺類	一	(7.1)	63%	粗 3㎜以下の片岩・チャート・石英多量	外：2.5Y7/3 内：10YR8/2	平底。外面粗いヘラミガキ調整。
1107	164	7116	7区	I5	w5	7004	溝	下層	弥生土器	甕類	一	(3.4)	100%	密	外：2.5Y7/3 内：5Y6/1 他	底部。非常に薄手。搬入品
1108	164	7321	7区	I5	v4	7004	溝	下層取上15	弥生土器	甕類	一	5.9	65%	粗 2.5㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量 2.5㎜以下の石英微量 細かい雲母多量	外：10YR8/2 他 内：10YR7/2	弥生時代中期。底部。薄手。内外面磨耗著しい。胎土に雲母微粒と赤褐色土粒を多く含む。
1109	164	7311	7区	I5	v3	7004	溝	下層取上3	弥生土器	甕類	一	(5.9)	20%	粗 2.5㎜以下の片岩・長石・赤色酸化粒多量	外：7.5YR6/6 他 内：N6/1	底部。内外面磨耗著しい。安定した平底。
1110	164	7118	7区	I5	w5,6	7004	溝	上層	弥生土器	甕	一	(2.3)	60%	やや密 3㎜の石英1個 0.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5Y7/2 内：2.5Y8/3	タタキ甕。平底
1111	164	7111	7区	I5	v3	7004	溝	上層	弥生土器	甕	一	(3.7)	28%	やや粗 1.5㎜以下の片岩・赤色酸化粒少量	外：2.5YR5/4 内：10YR8/3	タタキ甕。平底
1112	165	7187	7区	I5	w7	7061	井戸	下層	弥生土器	無頸壺	(12.8)	(6.2)	10%	密 2㎜以下の石英・チャート多量	外：5Y7/1 内：2.5Y7/3 他	無頸壺。口縁部ほぼ肥厚しない。5 条の突帯上に細かい刻みを施す。表面に若干、朱が残る。
1113	165	7170	7区	I5	s7	7068	土坑	一括	弥生土器	甕か	一	(3.7)	25%	やや粗 9㎜の石英1個 3㎜以下の石英・片岩多量	外：2.5YR5/3 内：10R5/4	タタキ甕。底部平底で比較的大きい。蓋の可能性あり。
1114	165	7475	7区	I5	w3	7165	井戸	上層	弥生土器	広口壺	(16.2)	(4.5)	25%	密 3㎜の石英多量	外：5YR5/8 内：5YR5/6 他	口縁付近に穿孔あり。内外面磨耗著しい。
1115	165	7545	7区	I5	w4	7165	井戸	下層	弥生土器	広口壺	(18.9)	(7.0)	25%	粗 6㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：5YR6/6 内：5YR5/6	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。頸部にヘラ描沈線を施す。内外面、ハケメが顕著。
1116	165	7476	7区	I5	w4	7165	井戸	上層	弥生土器	甕	(19.2)	(5.8)	8%	密 4㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：5YR6/6 他 内：7.5YR6/6 他	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。口縁部屈曲し、頸から肩部に 3 条のヘラ描沈線を施す。胴部がはる。
1117	165	7476	7区	I5	w4	7165	井戸	上層	弥生土器	甕か	(22.0)	(6.1)	8%	密 2㎜以下の石英・長石多量	外：5YR5/6 他 内：5YR6/6	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。如意形口縁をもつ。口縁端部を刻み、肩部にヘラ描沈線 3 条施す。
1118	165	7543	7区	I5	w4	7165	井戸	中層	弥生土器	壺	一	(6.7)	100%	粗 2.5㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：7.5YR5/4 内：5Y7/2	平底。外面ハケ調整。
1119	165	7511	7区	I5	w4	7165	井戸	上層取上6	弥生土器	穿孔壺	一	(11.7)	60%	密 2㎜以下の石英多量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6 他	平底。中央に穿孔あり。
1120	165	7477	7区	I5	u2	7166	井戸		弥生土器	広口壺	(16.0)	(4.5)	20%	密 3㎜以下の砂岩中量 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：10YR6/4 内：2.5Y7/2	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。口縁端部の面にヘラ描き沈線と刻みを施す。内外面磨耗著しい。
1121	165	7526	7区	I5	v2	7166	井戸	上層取上1	弥生土器	広口壺	(13.3)	(9.1)	18%	粗 3㎜以下の赤色酸化粒・チャート・石英多量	外：10YR7/3 内：2.5Y7/3	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。やや頸部の長い広口壺。頸部に 5 条のヘラ描沈線を施す。
1122	165	7526	7区	I5	v2	7166	井戸	上層取上1	弥生土器	広口壺	(19.7)	(6.5)	10%	密 8㎜以下の石英多量 3㎜以下のチャート中量	外：5YR6/8 内：5YR6/6 他	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。薄手で口縁大きく開く。頸部に貼り付け突帯。内外面磨耗著しい。
1123	165	7528	7区	I5	v2	7166	井戸	上層取上3	弥生土器	広口壺	(22.0)	(4.9)	25%	粗 6㎜以下の片岩・チャート・石英多量	外:10YR7/3 内:2.5Y8/3	紀伊Ⅰ様式。やや厚手。内外面磨耗著しい。
1124	165	7477	7区	I5	u2	7166	井戸		弥生土器	直口壺	(20.0)	(6.4)	6%	密 3㎜以下の石英・長石多量	外：7.5YR5/6 他 内：10YR5/3 他	突帯を貼り付けた直口壺
1125	165	7528	7区	I5	v2	7166	井戸	上層取上3	弥生土器	壺	一	(9.9)	25%	粗 3㎜以下の石英・片岩・チャート・赤色酸化粒多量	外：10YR8/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。頸部に 6 条以上の突帯を貼り付ける。内外面磨耗著しい。
1126	165	7529	7区	I5	v2	7166	井戸	上層取上4	弥生土器	壺	一	(22.6)	60%	密 3㎜の石英・長石多量	外：2.5Y7/3 他 内：2.5Y7/3 他	紀伊Ⅰ -2 ～Ⅰ -3 様式。頸部と肩部に間隙の広いヘラ描き沈線を施す。頸部と胴部の間に段差がある。
1127	165	7527	7区	I5	v2	7166	井戸	上層取上2	弥生土器	蓋	一	(10.1)	60%	密 2㎜以下の石英・長石多量	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/6 他	甕の蓋
1128	168	7305	7区	I5	s16	7157	土坑	取上5	弥生土器	広口壺	(13.8)	20.7	60%	密 8㎜以下の石英・片岩中量 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：2.5Y8/1 他 内：2.5Y8/1 他	表面磨耗するが、無紋の広口壺と考えられる。底部小さい平底。
1129	168	7301	7区	I5	s16,17	7157	土坑	取上1	弥生土器	甕	(19.4)	(7.1)	20%	粗 4㎜以下の片岩・赤色酸化粒多量	外：2.5Y6/2 内：2.5Y7/3	畿内Ⅴ様式甕。やや厚手。外面に煤付着。内外面磨耗著しい。
1130	168	7309	7区	I5	s17	7157	土坑	下層取上8	弥生土器	高坏	(13.0)	(7.5)	75%	密 1.5㎜以下の石英微量	外：7.5YR7/4 内：10YR8/2	紀伊Ⅴ様式。塊形高坏。内外面磨耗著しい。
1131	168	7303	7区	I5	s16,17	7157	土坑	取上3	弥生土器	高坏	一	(5.0)	75%	密 0.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/4 内：7.5YR7/4	紀伊Ⅴ様式。低脚の高坏。透し穴は5ヵ所。
1132	172	7406	7区	I5	v18	7013	溝	下層	瓦器	埦	一	(0.7)	20%	密	外：N7/0 内：N7/0	13 世紀後半～ 14 世紀前半頃。瓦器埦。高台著しく退化する。
1133	172	7254	7区	I5	w13	7013	溝	下層	施釉陶器	碗	一	(1.9)	15%	密	外：2.5Y8/1 内：5Y8/2	施釉陶器碗。胎土は乳白色。見込みに胎土目あり。削り出し高台。
1134	172	7254	7区	I5	w13	7013	溝	下層	染付	皿	一	(1.1)	5%	密	外：N8/ 内：N8/	江戸時代後期。染付。高台付きの皿
1135	172	7394	7区	I5	v16,17	7013	溝	上層	染付	碗	一	(4.2)	30%	密	釉：2.5GY7/1 露胎：N8/0	江戸時代。18c 後半。染付碗
1136	173	7286	7区	I5	r18	7154	土坑	下層	土師器	埦	一	(1.1)	100%	密 1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：10YR7/4 内：10YR8/3	11 ～ 12c。土師器埦の高台部分。
1137	173	7064	7区	I5	s13	7093	土坑	一括	土師器	埦	一	(2.3)	25%	密 0.5㎜以下の白色微粒多量	外：10YR7/4 内：10YR7/3 他	土師器埦。高台削れている。断面が黒い。
1138	173	7297	7区	I5	r13	7134	土坑	下層	瓦器	埦	(14.7)	5.5	60%	密	外：N4/0 内：N4/0	瓦器埦。12c。高台がしっかりし、ミガキは密。内面に炭化物付着。
1139	173	7296	7区	I5	v15	7100	井戸	完堀	青磁染付	碗	(12.0)	(4.7)	5%	密	釉：10GY8/1 露胎：N8/0	近世。青磁染付

遺物番号	挿図番号	登録No.	地区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器種	口径	器高（cm）	残存率	胎土	色調	特徴・備考
1140	173	7261	7区	I5	v11	7095	埋桶	中層	施釉陶器	碗	(6.5)	4.0	20%	密	釉：5Y8/2 露胎：5Y8/1	近世末。施釉陶器小碗
1141	173	7386	7区	I5	v15	中溝水路	掘形	1～3層水路ウラゴメ含む	施釉陶器	徳利	—	(9.8)	5%	密	釉：5YR2/1 露胎：2.5YR4/4	宮井用水「中溝水路」の掘形から出土。
1142	178	8155	8区	J5	a6,7	8002	溝	最下層	弥生土器	蓋	—	5.0	30%	粗　3㎜以下のチャート・石英多量	外：10YR4/2 内：5Y7/2	壺の蓋。頂部が凹み、4方向に焼成前に孔をあける。外面ミガキ調整。
1143	178	8153	8区	I5	y8,9	8002	溝	下層	弥生土器	広口壺	(13.0)		15%	密　2㎜以下の長石・石英・赤色酸化粒多量	外：10YR6/4 内：10YR7/3	紀伊Ⅰ様式。口縁端部は無紋で、やや平坦。
1144	178	8131	8区	J5	a8	8002	溝	下層	弥生土器	広口壺	(14.4)	(6.0)	20%	密　3㎜以下の石英・長石・片岩多量	外：10YR7/3 他 内：5Y5/1 他	紀伊Ⅰ-2様式か。口縁部内側に刻みを入れた突帯を貼りつける。
1145	178	8169	8区	I5	y7	8002	溝	最下層取上17	弥生土器	広口壺	(16.6)	(8.2)	20%	密　5㎜以下の石英・長石・片岩・チャート多量	外：2.5YR4/1 内：5YR5/6	紀伊Ⅰ様式。口縁端部に縄を転がしたような刻み、頸部に低い貼付突帯をもつ。
1146	178	8154	8区	I5	y8,9	8002	溝	最下層	弥生土器	広口壺	(28.0)	(1.8)	10%	密　5㎜以下の石英・片岩・チャート中量	外：7.5YR6/4 内：2.5Y8/2	紀伊Ⅰ様式。口縁上面に2条の隆線と2点以上の突起を付ける。口縁端部はヘラ描沈線と刻み。
1147	178	8159	8区	J5	a7	8002	溝	下層取上6	弥生土器	鉢か	(34.0)	(6.5)	6%	密　7㎜以下の石英・長石・赤色酸化粒・片岩多量	外：10YR7/2 内：10YR8/3	外反する口縁をもつ鉢か。厚手。径は残存する破片での復元。
1148	178	8163	8区	I5	y7	8002	溝	最下層取上10	弥生土器	壺	—	(18.0)	100%	密　3㎜以下の長石・石英・黒色粒中量	外：2.5Y6/2 他 内：2.5Y6/2 他	弥生時代前期新段階。頸部やや長い。外面ハケ調整。口縁部水平に欠ける。
1149	178	8147	8区	J5	a6	8002	溝	下層取上1	弥生土器	壺	—	(18.0)	75%	粗　3㎜以下のチャート・石英・赤色酸化粒多量	外：2.5Y8/2 他 内：2.5Y7/3	弥生時代中期。やや長胴の壺。縦横に棒状浮紋を飾る。片岩以外の砂粒を多く含む。
1150	178	8168	8区	I5	y7	8002	溝	最下層取上16	弥生土器	壺	—	(8.4)	20%	粗　5㎜以下の石英・チャート多量	外：7.5YR5/6 他 内：2.5Y5/2	紀伊Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。体部に多条のヘラ描沈線をめぐらす。
1151	178	8150	8区	J5	a7	8002	溝	下層取上3	弥生土器	壺	—	(11.0)	5%	密　1.5㎜の雲母1個　5㎜以下の石英・赤色酸化粒・砂粒中量	外：2.5Y8/2 他 内：2.5Y8/1 他	紀伊Ⅰ-2～Ⅰ-3様式。頸部と胴部にヘラ描沈線を施す。
1152	178	8158	8区	J5	a6	8002	溝	最下層取上5	弥生土器	壺	—	(14.9)	20%	密　3㎜以下の石英・長石多量	外：10YR7/2 他 内：5Y6/1	紀伊Ⅰ様式。体部沈線一条施す。外面ミガキ調整。
1153	178	8160	8区	J5	a7	8002	溝	最下層取上7	弥生土器	壺	—	(4.2)	100%	粗　2.5㎜以下のチャート・片岩・石英多量	外：10YR6/1 内：2.5Y7/2	平底の底部。
1154	178	8167	8区	I5	y7	8002	溝	下層取上15	弥生土器	壺か甕	—	(8.4)	30%	密　10㎜以下の片岩少量　5㎜以下の石英・チャート中量	外：2.5YR6/6 他 内：2.5Y7/2	平底。内外面磨耗著しい。
1155	178	8162	8区	I5	y7	8002	溝	下層取上9	弥生土器	甕	—	(7.8)	15%	密　4㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色酸化粒多量	外：10YR6/3 他 内：2.5Y7/2 他	外面ハケ調整だが、器面整う。内外面磨耗著しい。
1156	183	8084	8区	J5	a8	8001	溝	上・下層	弥生土器／土師器	壺	(16.0)	(4.2)	5%	密　5㎜以下の石英中量	外：5YR6/6 他 内：5YR6/6 他	壺の口縁か高坏の脚部。内外面磨耗著しい。
1157	183	8103	8区	J5	a2	8072	区画溝	1層	瓦器	小皿	(6.4)		16%	密	外：N4/ 内：N4/	浅い。13～14世紀
1158	183	8111	8区	I5	y3	8047	溝内	完堀上層	染付	小杯	(5.7)	2.7	50%	密	10Y8/1	船のある磯の風景を描く。
1159	178	8053	8区	I5	x13	8013	溝	一括	黒色土器	埦	—		14%	密　1㎜以下の赤色酸化粒微量	外：7.5YR7/6 他 内：7.5Y3/1	内面黒色処理。高台丸みを帯びる。摩耗した微小片。
1160	184	8110	8区	I5	x13	8013	溝	一括鉄分混じる	青磁	碗	—	(2.0)	40%	密	釉：2.5GY6/1 露胎：5Y8/1 他	厚底
1161	184	8068	8区	I5	y6	8013	溝	下層ヨウヘキ遺物含	瓦器	埦	—	(1.3)	25%	密　0.5㎜以下の白色微粒微量	外：10Y2/1 内：10Y2/1	高台低い。
1162	184	8047	8区	I5	x19	8013	溝	中層	瓦器	埦	(13.0)	(1.7)	5%	密	外：N5/0 内：N5/0	薄手。ミガキ粗い。13～14世紀
1163	184	8040	8区	I5	x16,17	8013	溝	中・下層	瓦器	埦	—	(1.5)	10%	密　0.5㎜以下の褐色微粒多量	外：N4/0 内：N4/0	見込みの暗紋あり。
1164	184	8040	8区	I5	x16,17	8013	溝	中・下層	瓦器	埦	—	(2.1)	20%	密　1㎜以下の黒色粒少量	外：N6/0 内：N6/0	高台低い。内外面磨耗著しい。13世紀
1165	184	8122	8区	I5	x17	8013	溝	下層	土師質土器	鍋	(18.3)	(3.3)	8%	密　0.5㎜以下の赤色酸化粒微量	外：N2/ 内：N3/	口縁端部やや外反する。内外面ともに表面が黒色化する。

表３　石器・石製品観察表

遺物番号	挿図番号	登録No.	地　区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　材	色　調	残存率	備　考
S1	20	4	1区	J2	g20	056	土坑		石製品	硯	12.3	6.5	2.0	(289.4)	—	N2/0	90%	長方形の硯
S2	20	82	1区	J2	j12	078	ピット		石製品	砥石	(11.2)	(6.8)	1.2	(92.1)	粘板岩	10Y6/1	不明	全体形状不明。表面平滑。
S3	35	131	2区	I3	y20	260	土坑	北半	磨製石器収穫具	石包丁	(13.8)	4.4	0.8	(89.4)	緑色片岩	10Y5/2	90%	直線刃半月形。身に敲打痕あり。
S4	35	95	2区	I3	y22	包含層			磨製石器収穫具	石包丁	(9.1)	4.3	0.7	(46.7)	緑色片岩	2.5GY5/1	60%	直線刃半月形。刃部が広い。身に敲打痕あり。孔内敲打痕あり。
S5	35	94	2区	I3	y21	包含層			打製石器	スクレイパー	4.5	5.2	1.0	23.9	サヌカイト	N4/	100%	スクレイパーか
S6	35	140	2区	J3	c23	201	溝	下層	打製石器漁撈具	石錘	(9.9)	4.9	2.3	(213.3)	結晶片岩	5GY5/1	90%	側面２ヵ所を回ませる。
S7	47	3301	3区	J3	g9	3076	埋桶		石製品	敲石（磨製石斧）	10.7	6.3	3.4	455.5	緑色凝灰岩か	7.5GY4/1	100%	石斧の破損後、叩き石として転用したものとみられる。転用時期が近世の可能性もある。
S8	47	3019	3区			Ⅴ層上面			磨製石器	石斧	(10.6)	6.4	(2.8)	(292.6)	緑色凝灰岩	5G5/1	30%	緑色凝灰岩製。磨製石斧片。出土状況、残存状況不良。
S9	61	3542	3区	J3	f4,5	3056	暗渠		石製品	碁石	2.3	—	0.5	3.7	—	N1.5/0	100%	碁の黒石
S10	61	3191	3区	J2	g24	Ⅱ層			石製品	碁石	2.0	—	0.4	2.6	—	N4/0	98%	碁の黒石
S11	61	3311	3区	J2	f24	3071	溝		石製品	碁石	2.4	—	0.9	6.1	—	N3/0	100%	碁の黒石か
S12	61	3069	3区	J3	c10	3506	土坑		打製石器近世	火打石	4.4	3.0	1.6	22.8	チャート	10BG6/1～7.5R2/1	100%	チャート製の火打ち石。近世の遺物に供伴。
S13	61	3079	3区	J3	b11	3506	土坑		棒状製品	棒状製品	7.8	—	1.3	14.6	緑色片岩	2.5GY4/1	100%	小型棒状でややいびつ。側面に二ヵ所、あたり痕をもつ。
S14	61	3060	3区	J3	g8	Ⅴ層上			石製品	石棒	(13.8)	4.0	(2.3)	(195.3)	緑色片岩（点斑片岩）	10G5/1	不明	
S15	61	3137	3区	J3	f7	3008	土坑		石製品	砥石	(5.7)	(3.0)	3.2	(66.3)	砂岩か凝灰岩か	7.5YR7/2	不明	やや小型不整形で、部分的に表面が褐変黒変する。
S16	61	3284	3区	J2	g24	3071	溝		石製品	砥石	(9.3)	6.0	2.5	(186.4)	砂岩か凝灰岩か	2.5Y8/2	不明	2面平滑で、2面粗いが平坦。石材やや粗い。
S17	61	3084	3区	J3	d10	3505	土坑		石製品	砥石	(5.6)	4.2	(3.6)	(146.9)	砂岩か泥岩か	2.5Y7/2	不明	4面平滑面、1面が古い割れ面。1面が新しい割れ面。
S18	61	3074	3区	J3	b11	3508	土坑		石製品	砥石	(6.7)	5.3	1.0	(61.7)	泥岩か	2.5Y7/4	不明	長方形板状の砥石。きめが細かい。
S19	61	3502	3区	J3	e2	3528	土坑		石製品	砥石	(8.7)	5.1	(0.8)	(48.8)	泥岩か	10YR8/3	不明	長方形板状の砥石。きめが細かい。
S20	69	4171	4区	I3	y14	4535	土坑		滑石製模造品	双孔円盤	2.9	2.9	0.6	(6.6)	滑石製	10GY4/1	70%	近世遺構から出土。古墳時代中期の遺物の混入。
S21	74	4096	4区	J3	f13	4054	土坑		石製品	硯	(3.2)	(3.1)	1.0	(13.6)	—	5YR5/4	10%	長方形の硯の破片
S22	134	15302	5-4区南	J4	a13	5040	流路	下層	打製石器	石剣	17.6	5.2	2.3	212.5	サヌカイト	N4/	100%	長さ17.6cm幅5.2cm。先端に原礫面が残り、未成品とも考えられる。
S23	134	5735	5-4区北	I4	w8	5187	（溝10）	上層	打製石器	尖頭器か	(7.3)	5.0	1.4	(46.2)	サヌカイト	N5/	60%	尖頭器の下部のような形状をするが、風化は進んでいない。
S24	134	15174	5-4区南	I4	y12	5267	土坑	取上4	石製品	石核	9.9	5.8	3.0	179.8	サヌカイト	N3/	100%	神前遺跡出土のサヌカイト剥片の中では石核に近い。
S25	134	5957	5-4区北	J4	a7	5083	溝	1,2層	打製石器	石錘	4.2	2.2	1.1	8.4	サヌカイト	N3/	100%	全面調整により刃部がなく、一端が尖る。
S26	134	15303	5-4区南	J4	b13	5040	流路	下層	打製石器	スクレイパーか	4.4	3.8	0.7	8.8	サヌカイト	N4/	100%	
S27	134	5966	5-4区南	I4	w11	5180東	溝		打製石器	石匙か	6.8	5.2	0.8	37.6	サヌカイト	10Y4/	100%	つまみ状の部分あり。
S28	134	5052	5区	I4	u16	側溝			打製石器	スクレイパーか	4.9	4.6	1.0	17.0	サヌカイト	N4/	98%	風化進んでいる。スクレイパーか剥片
S29	134	5751	5-4区北	I4	y10	5187	（溝10）	下層	打製石器	楔形石器か	4.3	3.3	0.8	14.5	サヌカイト	N4/	100%	下部にするどさがない。楔か。
S30	134	15062	5-4区南	I4	x13	5263	土坑		打製石器	スクレイパー	6.0	4.5	1.1	30.7	サヌカイト	N4/	100%	台形に加工される。楔の可能性もあり。
S31	134	15294	5-4区南	J4	a12	5040	流路	下層	磨製石器	石包丁	(7.8)	5.0	0.7	(47.0)	緑色片岩（表面変色）	7.5YR5/3	50%	外湾刃隅丸長方形を呈する。緑色片岩が褐変する。石材の盤状剥離痕が残る。
S32	134	15294	5-4区南	J4	a12	5040	流路	下層	磨製石器	石包丁	(7.7)	(5.1)	(0.8)	(35.6)	緑色片岩	2.5GY5/1	40%	外湾刃隅丸長方形。刃部と穿孔がなく、身の表面が剥離している。製作中の失敗品か。刃部はあいまい。
S33	134	15283	5-4区南	J4	b12,13	5040	流路	下層	磨製石器	石包丁	(7.8)	(4.5)	0.6	(32.7)	結晶片岩（石英析出あり）	2.5GY5/1	60%	外湾刃隅丸長方形。向き不明。孔の上下の縁に敲打痕あり。
S34	135	15300	5-4区南	J4	a12	5040	流路	上・中層	磨製石器	石包丁	(8.8)	5.0	0.7	(50.4)	緑色片岩	10GY5/1	60%	外湾刃隅丸長方形。刃部が幅広で分かりづらい。孔内敲打痕若干あり。身部敲持痕あり。石材に自然面残存。
S35	135	5784	5-4区北	J4	b9	5206	（溝8）	上層	磨製石器	石包丁	(4.5)	3.4	0.8	(19.2)	結晶片岩	10GY6/1	25%	片刃の刃部あり。
S36	135	5779	5-4区北	J4	a10	5205	（溝9）	上層	磨製石器	石包丁	(4.8)	(3.8)	0.7	(14.2)	結晶片岩	10GY4/1	25%	刃部と穿孔あり。
S37	135	15231	5-4区南	J4	b13	5187	（溝10）		磨製石器	石包丁	(10.8)	5.4	0.9	(76.2)	結晶片岩	10GY4/1	60%	外湾刃杏仁形。表面を平滑にするが、石材の盤状剥離痕残る。刃こぼれあり。
S38	135	5282	5-2区南	J4	c16	5014	（溝11）	上層	磨製石器収穫具	石包丁	(5.2)	(4.2)	0.7	(27.8)	緑色片岩	10GY5/1	20%	刃部と穿孔あり。
S39	135	5800	5-4区北	J4	b8	5227	（溝7）		磨製石器収穫具	石包丁	(8.0)	4.7	0.6	(30.0)	緑色片岩	2.5GY4/1～10YR4/1	50%	溝7検出面出土。直線刃半月形。紐すれ痕と身部の敲打痕あり。刃こぼれあり。
S40	135	5203	5-1区南	J4	b5	5036	ピット		磨製石器収穫具	石包丁	(7.0)	(4.5)	0.5	(26.5)	緑色片岩	10GY5/1	40%	直線刃半月形
S41	135	5500	5-1区南	I4	w6	5118	（溝10）	1層	磨製石器収穫具	石包丁	(9.8)	(3.7)	0.6	(41.9)	緑色片岩	10GY5/1	60%	刃部がやや外湾する。杏仁形か。
S42	135	15036	5-4区	J4	d12	5206	（溝8）	下層	磨製石器収穫具	大型石包丁未成品	12.6	7.6	1.2	129.8	緑色片岩	7.5GY5/1	100%	大型石包丁未成品。緑色片岩製。穿孔しかけた凹みある。
S43	135	15061	5-4区南	I4	x13	5257	溝		磨製石器	大型石包丁	(7.8)	9.3	1.5	(113.1)	緑色片岩	5GY6/1	50%	大型石包丁。三角形と台形を足した形状。上部に敲打による孔をもつ。片刃
S44	135	15300	5-4区南	J4	a12	5040	流路	上・中層	有孔石板	大型石包丁	(17.3)	(10.3)	3.3	(880.0)	緑色片岩	2.5GY6/1	不明	穿孔あり。外湾刃隅丸長方形を志向する。
S45	136	5535	5-1区南	J4	a6	5109	竪穴ピット		石製品	片刃石斧	(6.7)	1.4	0.9	(19.0)	頁岩？	7.5Y7/1	不明	側面・端面は割れ面を軽く摺って仕上げとしている。
S46	136	5151	5-1区	J4	c3	包含層			石製品	柱状片刃石斧	6.8	(1.3)	1.8	(31.7)	緑色片岩	10BG6/1	不明	側面・端面は割れ面を軽く摺って仕上げとしている。
S47	136	5288	5-2区中	J4	b16	包含層5層上			石製品	小型石棒	9.5	1.3	—	28.6	緑色片岩	7.5GY6/1	100%	一部に研磨痕と擦痕が認められる。
S48	136	5753	5-4区北	I4	y10	5187	（溝10）	下層	磨製石器	磨製石斧	(14.2)	7.2	4.1	(769.2)	緑色凝灰岩	7.5GY5/1	70%	ややつくりの粗い磨製石斧

遺物番号	挿図番号	登録№	地　区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　材	色　調	残存率	備　考
S49	136	5716	5-4 区北	J4	a10	5196	土坑	1 層	磨製石器	磨製石斧	(10.0)	(5.6)	4.3	(383.3)	緑色凝灰岩	7.5GY6/1	60%	刃先は残存しない。
S50	136	15281	5-4 区南	I5	y11	5267	土坑	下層	磨製石器	磨製石斧	(5.6)	(6.5)	4.1	(264.2)	緑色凝灰岩か	7.5Y6/1	不明	
S51	136	15285	5-4 区南	J4	b12,13	5040	流路	下層	礫石器	石錘	10.3	2.8	1.2	(51.4)	結晶片岩	N5/	20%	両側面にくびれをつくる。
S52	136	15162	5-4 区北	I4	y10	5187	(溝10)	最下層	礫石器	石錘	(11.1)	5.9	2.2	(185.6)	砂岩？	10GY5/1	70%	自然石を利用した石錘。中央はくびれ。端部に近い両側縁に切れ目を作り出す。
S53	136	5406	5-2 区北	J4	d14	5010	溝状遺構		石製品	磨石	13.4	3.4	2.9	224.0	緑色片岩	10GY6/1	100%	くびれ部のある自然石を利用か。
S54	136	5708	5-4 区北	I4	x9	5187	(溝10)	下層	石製品	軽石（浮子か）	(7.3)	(7.2)	(5.3)	(76.1)	軽石	5Y8/1	不明	軽石の製品片。浮子か。
S55	136	15045	5-4 区南	I4	x14	5256	土坑		礫石器	石錐か	(7.0)	5.8	3.9	(217.3)	砂岩	5Y6/1	60%	石錐か。上端及び両側縁を打ち欠く。
S56	136	5634	5-4 区南 中央南			5 層上面			礫石器	叩き石　凹み石	(8.1)	8.0	4.1	(354.0)	砂岩	5Y8/1	50%	周縁は擂石として使い、部分的に叩き石として使う。
S57	136	5007	5-2 区中			1 層			石製品	敲石	(4.5)	(8.3)	4.0	(195.7)	砂岩	N4/0	不明	敲石と考えられる石。
S58	136	5611	5-2 区			5014	(溝11)	上層	石製品	敲石（すり石）	7.3	5.7	4.7	272.0	粗粒砂岩	N6/0	100%	若干の敲打痕あり。擂った面は曖昧だが、平坦になっている。
S59	136	5295	5-2 区南	J4	b17	5047	土坑		石製品	投弾未成品？	5.7	一	4.6	(279.4)		7.5GY5/1	90%	敲打痕極めて多数。
S60	136	5667	5-5 区南			5142	(溝14)	下層	礫石器	投弾	4.0	3.5	3.0	57.4	砂岩	5Y6/1	90%	投弾と推定される丸い石。
S61	136	5263	5-2 区北	J4	b17	5016	(溝12)		石製品	石刀	(8.1)	3.6	2.4	(124.4)	紅簾片岩	10R5/1	不明	棒状製品
S62	137	5282	5-2 区南	J4	c16	5014	(溝11)	上層	石製品	台石（凹石）	(8.8)	(8.2)	4.0	(393.1)	砂岩	5Y7/1	不明	
S63	137	5263	5-2 区北	J4	b17	5016	(溝12)		石製品	石皿（砥石）	(12.5)	(7.1)	4.9	(724.0)	砂岩	7.5Y6/1	不明	
S64	137	5328	5-2 区南	J4	b17	5047	土坑		石製品	台石	25.0	11.6	4.5	2270.0	砂岩	7.5Y7/1	100%	台石。砂岩製。石英の層に沿って割れている。敲打痕多数あり。
S65	137	5629	5-1 区南	I4	y6	5103	土坑		石製品	台石（砥石）	(15.5)	13.2	7.4	(2750.0)	粗粒砂岩（礫岩）	7.5Y5/1	不明	表面平滑になる。
S66	137	5630	5-1 区南	I4	y6	5104	土坑		石製品	石皿（台石）	(23.7)	(19.1)	9.8	(6400.0)	粗粒砂岩	N6/0	不明	台石。上面に多量の敲打痕あり。
S67	141	5955	5-4 区南	I4	x13,14	5256	土坑	上層	石製品	石製紡錘車未製品	6.7	一	2.8	146.7	滑石	7.5GY4/1	95%	滑石製紡錘車未成品
S68	141	15225	5-4 区南	I4	w12	5180 東C	溝状遺構	取上 5	玉	臼玉	0.6	一	0.3	0.2	滑石製	10GY4/1	100%	
S69	141	5263	5-2 区北	J4	b17	5016	(溝12)		石製品	砥石	(8.4)	7.7	3.1	(251.7)	凝灰岩	5Y8/1	不明	
S70	141	5038	5-2 区北			側溝北1,2 層			石製品	砥石か	(10.9)	4.3	4.2	(318.7)	細粒砂岩	N6/0	不明	表面平滑。抉り状の溝あり。
S71	146	6099	6-2 区	I5	s1	6015	柱穴		打製石器	石鏃	2.2	1.3	0.4	0.8	サヌカイト	N5/0	95%	平基式の石鏃
S72	166	7419	7 区	I5	v4	7000	流路	上層	打製石器	石鏃	4.4	2.0	0.4	1.9	サヌカイト	N4/	100%	左右不対称で、片側は凹基式、もう片側は平基式のような仕上がり。
S73	166	7431	7 区	I5	v4	7000	流路	上層	打製石器	石鏃	2.8	2.1	0.4	3.3	サヌカイト	N4/	100%	凹基式の石鏃。やや五角形に近い形状。
S74	166	7429	7 区	I5	v3	7000	流路	上層	打製石器	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.9	不明	N6/1 ～ N3/0	100%	凹基式。石材不明。薄く、加工痕やや不明瞭。
S75	166	7227	7 区	I5	u9	7094	土坑		打製石器	石錐	2.0	1.5	0.3	(1.3)	サヌカイト	N6/1	50%	
S76	166	7233	7 区	I5	u9	7002	溝	下層	打製石器	スクレイパー	5.0	3.1	1.2	17.2	サヌカイト	N2/0	100%	石錐としても使用可能な形状であるが、使用痕等はない。
S77	166	7113	7 区	I5	w4	7004	溝	上層	石核	石核	2.8	2.3	1.4	12.6	サヌカイト	7.5Y7/1	100%	風化が進み灰白色を呈す。
S78	166	7432	7 区	I5	v4	7000	流路	上層	磨製石器	磨製石斧	4.0	2.8	1.0	14.7	サヌカイト	N4/	100%	打製で形状を作り出し、部分的に磨いている。未成品にも考えられる。磨いた後に刃の一部は欠損している。
S79	166	7123	7 区	I5	u2	7000	流路	上層 取上 2	磨製石器	石包丁か	(13.1)	3.7	1.2	(90.1)	緑色片岩	5GY6/1	不明	刃部あり。
S80	166	7482	7 区	I5	v4	7000	流路	上層 取上 26	磨製石器	石包丁未製品	16.2	5.9	0.9	189.2	緑色片岩	7.5GY7/1 ～ 5/1	100%	杏仁形に近い形に粗割りする。
S81	166	7469	7 区	I5	w4	7000	流路	上層 取上 16	磨製石器	石包丁	(8.0)	4.8	0.4	(32.6)	結晶片岩	2.5GY6/1	30%	隅丸長方形に近い形状。剥離により半分欠失
S82	166	7377	7 区	I5	u9	7002	溝	最下層 取上 39	磨製石器	石包丁	(8.8)	5.1	0.8	(53.9)	緑色片岩	7.5GY6/1 ～ 4/1	60%	隅丸長方形に近い形状
S83	166	7334	7 区	I5	v9	7002	溝	下層	磨製石器	石包丁未製品	(10.4)	3.8	0.8	(56.3)	結晶片岩	7.5GY7/1 ～ 5/1	80%	片方の穿孔を途中でやめている。細長い隅丸長方形
S84	166	7136	7 区	I5	u2	7004	溝	南下層	磨製石器	石包丁	(7.2)	3.7	0.6	(29.0)	緑色片岩	5GY6/1 ～ 4/1	45%	杏仁形。刃部の稜は曖昧。背面に刻むように調整する。

表４　石器石材の剥片数量

地区	サヌカイト		チャート	
	点数	総重量（g）	点数	総重量（g）
1 区	2	22		
2 区	6	52		
3 区	5	36		
4 区	1	5		
5 区	112	1,340	2	4
6 区	13	112		
7 区	92	800	3	8
8 区	2	30		

表５　金属製品観察表

遺物番号	挿図番号	登録No.	地　区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	品　名	規格（cm）	重量（g）	残存率	備　考
K1	62	3167	3区	J3	c,d8	3511	土坑		鉄釘	釘	10.1×1.1×0.55	27.7	99%	和釘
K2	62	3374	3区	J2	g25	3021	土坑		鉄釘	釘	24.8×1.1×1.1	116.4	100%	和釘。直角に曲がる大型品
K3	62	3343	3区	J3	e1	3528	土坑		銅製品	容器注口部	5.3×5.0×0.3	11.6	95%	注口のような部分あり。江戸時代か
K4	62	3168	3区	J3	c4	3521	土坑		貨幣	寛永通宝	Φ2.4	1.9	100%	文字不鮮明
K5	62	3174	3区	J3	d11	3505	土坑		貨幣	寛永通宝	Φ2.5	3.2	100%	文字不鮮明
K6	139	5668	5-5区	I4	y23	5140	（溝15）		銅製品	鈴	2.7×3.0×0.1	10.2	95%	単品の鈴。金銅製であったか不明。

表６　木製品観察表

遺物番号	挿図番号	登録No.	地　区	大区画	小区画	遺構番号	遺構種類	層位他	遺物種類	品名・部位	規格（cm）	備　考
W1	16	63	1区	J2	j11	031	井戸		容器	曲物の底板と側板	側板：Φ44.0×(9.9) 底板：Φ43.0×1.0	残存状況不良。
W2	16	63	1区	J2	j11	031	井戸		容器	曲物　底板	Φ17.6×0.5	3～4枚の板を組み合わせる。側面に孔あり。
W3	63	3564	3区	J3	e6	3106	井戸		井戸枠	井戸枠材か	(13.6)×4.2×1.5	緩やかな曲線部あり。
W4	63	3564	3区	J3	e6	3106	井戸		井戸枠	柱か	Φ8.2×(55.3)	ほぞ状加工あり。
W5	63	3563	3区	J3	f6	3020	井戸		井戸枠	板材	(73.2)×(14.9)×(4.3)	厚手で幅のある板材
W6	63	3563	3区	J3	f6	3020	井戸		井戸枠	板材	(71.7)×8.2×3.0	薄手で幅の狭い板材
W7	63	3520	3区	J3	a11	3505	土坑		容器	桶　側板	(28.8)×13.7×1.2	辺材を使用
W8	63	3414	3区	J3	f1	3527	土坑		容器	把手	24.8×3.2×1.5	把手状の製品。対象物と繋いだ釘跡あり
W9	75	4041	4区	J3	a17,18	4505	土坑		台座か	台座か	11.4×11.6×3.7	正方形の台座状製品。上面に3ヵ所の孔、裏面に溝がある。
W10	174	7453	7区	I5	v15	7100	井戸		建築部材	杭	Φ3.2×(77.7)	7013溝とどちらの遺物か不明。上層から打ち込まれたものと考えられる。
W11	174	7273	7区	I5	r11	7095	埋桶	下層	容器	結桶　枠板	14.3×7.7×18	中央に小孔あり。
W12	179	8175	8区	I5	y7	8002	流路	下層　取上12	棒状材	棒状材	(117.1)×10.0×5.7	厚みのある板状で、片面に粗く平坦面をつくる。

表７　獣骨製品観察表

遺物番号	登録番号	地　区	取上区画	遺構番号	層　位	出土遺構の内容	骨点数	大分類	小分類	部　位	部　分	左右	備　考
H1	5757	5-4区北	I4-w8	5187	下層	弥生中期の溝	4	哺乳綱	イノシシ	下顎骨	結合部＋左下顎体（M2-M3）	左	M2:L19.49B15.59咬耗f,M3:L44.65B18.15咬耗e
H2	5841	5-4区北	J4-b9	5206	下層	弥生中期の溝	1	哺乳綱	イノシシ	上腕骨	遠位	左	fused
H3	5937	5-4区南	I4-w11・12	5180	上層	庄内～古墳中期の溝	1	哺乳綱	不明	不明		-	
H4	5968	5-4区南	J4-a11	5182	下層	弥生中期の溝	1（2）	哺乳綱	イノシシ	上腕骨	遠位部	右	
H5	15163	5-4区北	I4-x9	5187	溝壁面	弥生中期の溝	3＋破片多数	哺乳綱	シカ	枝角	角幹	-	
H6	15214	5-4区南	J4-d13	5040		弥生前期の流路	1	哺乳綱	不明	不明		-	
H7	15231	5-4区南	J4-b13	5187		弥生中期の溝	1	哺乳綱	イノシシ	肩甲骨	遠位部	右	
H8	15282	5-4区南	J4－c12	5040	下層	弥生前期の流路	6	哺乳綱	不明	不明		-	イノシシ／シカ、脛骨？
H9	15283	5-4区南	J4-b12・13	5040	下層	弥生前期の流路	2	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	上顎M3	右	歯冠長32.72幅19.83第3咬頭は咬耗せず
H10	15289	5-4区南	J4-b12	5040	下層	弥生前期の流路	1	哺乳綱	不明	不明		-	
H11	15291	5-4区南	J4-b12	5040	下層	弥生前期の流路	1	哺乳綱	不明	不明		-	
H12	15292	5-4区南	J4-a13	5040	下層	弥生前期の流路	4＋破片	哺乳綱	不明	不明		-	
H13	15293	5-4区南	J4-a13	5040	下層	弥生前期の流路	5	哺乳綱	不明	不明		-	イノシシ／シカ
H14	15296	5-4区南	J4-a13	5040	下層	弥生前期の流路	1	哺乳綱	シカ	枝角	角座－第1分枝部	左	
H15	15296	5-4区南	J4-a13	5040	下層	弥生前期の流路	1	哺乳綱	イノシシ	下顎骨	下顎体M2-M3	左	M2:L20.65B15.50咬耗e-f,M3:L37.09B18.25咬耗d
H16	15298	5-4区南	J4-a13	5040	下層	弥生前期の流路	1	哺乳綱	不明	不明		-	イノシシ／シカ？
H17	15299	5-4区南	J4-b12	5040	上・中層	弥生前期の流路	2	哺乳綱	大型海生哺乳類	不明		-	クジラ類？
H18	15299	5-4区南	J4-b12	5040	上・中層	弥生前期の流路	2	哺乳綱	不明	椎骨	椎体	-	イノシシ／シカ？
H19	8024	8区	I5-w8	8013	1層	中溝水路下層溝	4	哺乳綱	不明	不明		-	
H20	8040	8区	I5-x16・17	8013	中・下層	中溝水路下層溝	8+破片	哺乳綱	不明	不明		-	
H21	8042	8区	I5-x18	8013	中・下層	中溝水路下層溝	4＋破片	哺乳綱	不明	不明		-	
H22	8047	8区	I5-x9	8013	中・下層	中溝水路下層溝	4＋破片	哺乳綱	不明	不明		-	
H23	8053	8区	I5-x13	8013	一括	中溝水路下層溝	1	哺乳綱	不明	不明		-	
H24	8056	8区	I5-x14・15X	8008	一括（8013混）	中溝水路下層溝	1	哺乳綱	不明	不明		-	
H25	8088	8区	I5-y4	8013	一括	中溝水路下層溝	4	哺乳綱	不明	不明		-	四肢骨
H26	8110	8区	I5-x13	8013	一括　鉄分混	中溝水路下層溝	5	哺乳綱	ウシ／ウマ	遊離歯	臼歯	-	破片
H27	8119	8区	I5-x13	8048	一括	柱穴（中溝水路下層溝の底で検出）	15+破片	哺乳綱	不明	不明		-	四肢骨？
H28	8126	8区	I5-x17	8013	一括	中溝水路下層溝	1（4）	哺乳綱	ウシ	遊離歯	下顎M3	左	歯冠幅12.39

写　真　図　版

写真図版１　調査地遠景



１区　西半遠景
（北・上空から）



１区・２区遠景
（南・上空から）



３～５区遠景
（北・上空から）

写真図版２　調査地遠景



３～５区遠景
（南・上空から）



７区・８区遠景
（南西・上空から）



７～８区遠景
（北・上空から）

写真図版３　１区



１区　調査区全景（北から）



１区全景（南・上空から）



１区　北端 011 東西溝調査風景（南西から）



１区西半全景（北から）

写真図版４　１区



１区西半全景（南から）



１区東半全景（北から）



１区東半全景（南から）

写真図版５　１区



１区西半　中央部 002 溝付近（南から）



077 土坑（東から）



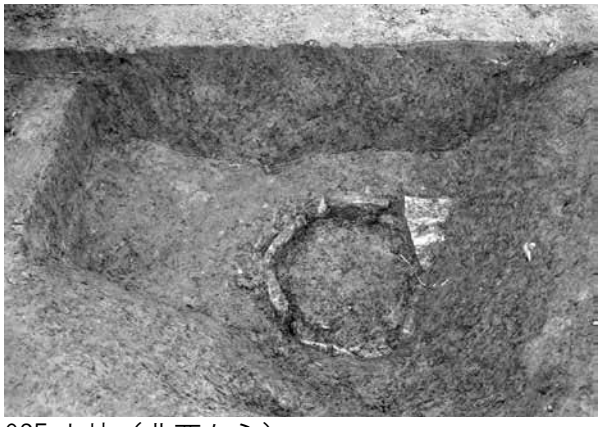
002 溝土層断面（南から）



031 井戸（南から）



003 溝（右）、010 溝（左）（北から）



035 土坑（北西から）



019 溝土層断面（南から）



051 土坑（南から）

写真図版６　２区



２区　調査前全景（北から）



２区　全景（南・上空から）



２区　210 溝付近掘前状況（東から）



２区　全景（北から）

写真図版７　２区



201 溝全景
（北から）



201 溝土器出土状況
（北から）



201 溝内の土坑
（北から）

写真図版８　２区



203・205・206 溝重複部周辺（北から）



261 土器棺（北東から）



227 井戸状遺構（西から）



221 井戸状遺構（西から）



222 瓦組井戸（西から）

写真図版９　３区

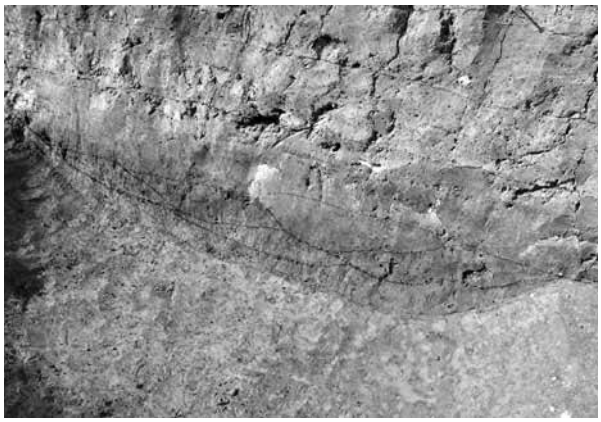


３区全景（北から）



3033・3034 溝（南西から）

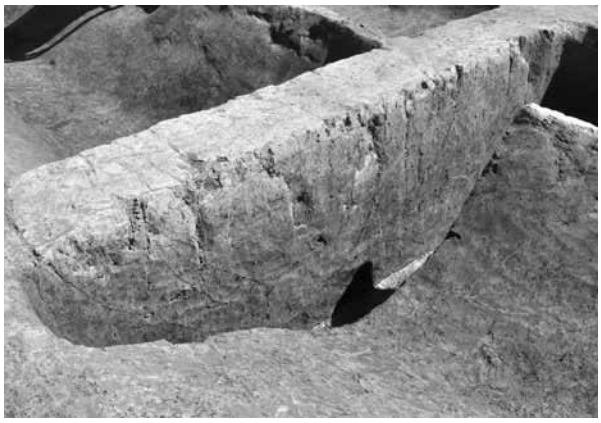
写真図版 10　３区



3032 溝土層断面（南から）



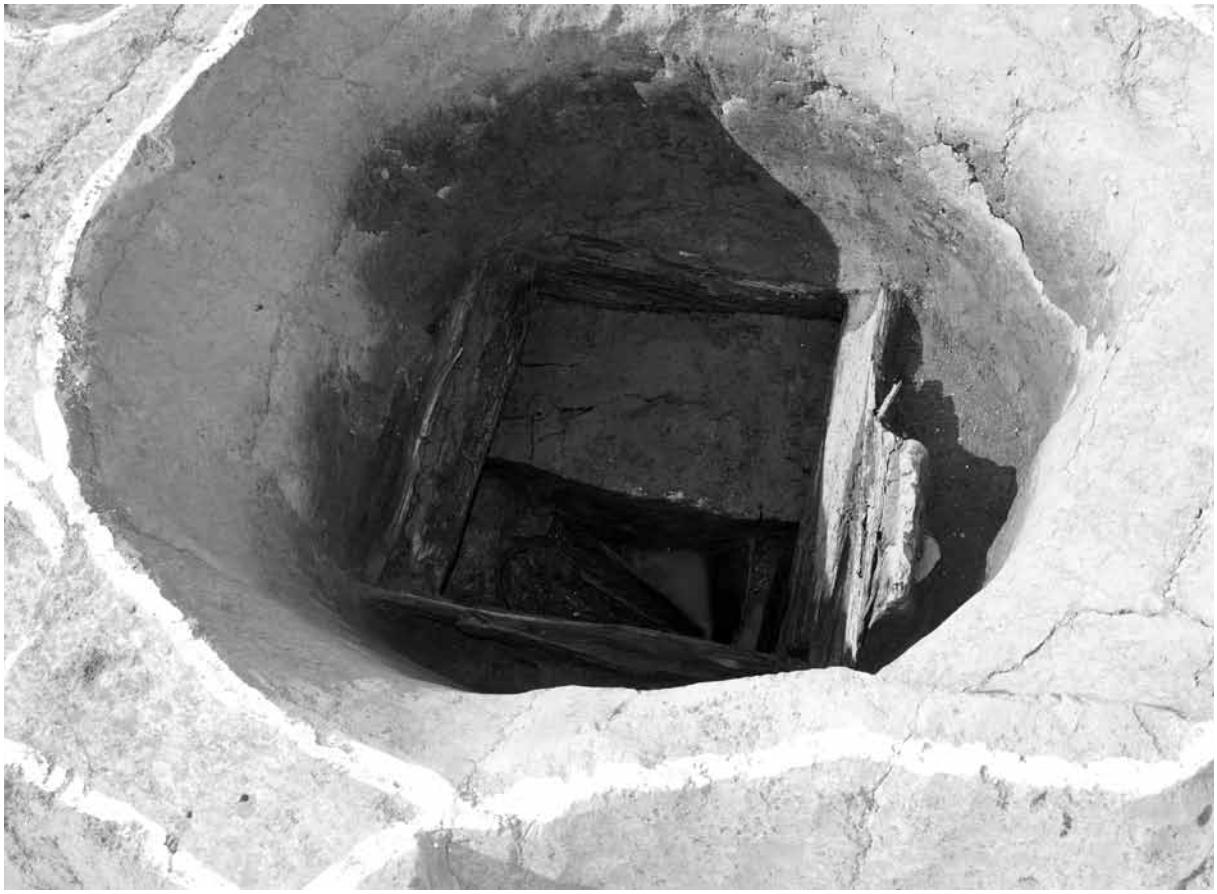
3067 ピット（南から）



3033・3034 土層断面（南東から）



3081 溝（北から）



3020 井戸（南から）

写真図版 11　３区



3106 石組井戸（南から）

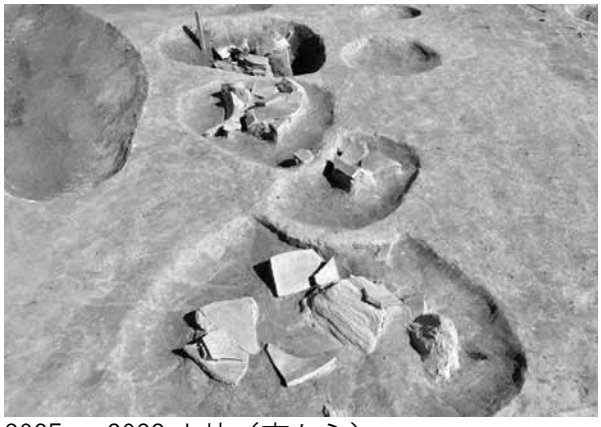


３区　近世屋敷地跡（東から）

写真図版 12　３区



３区　石垣１（南東から）



3095 ～ 3098 土坑（南から）



3043 ピット（南から）



3529 石組溝（西から）

写真図版 13　３区



3055 木桶（南から）



3056 暗渠（東から）



3012 溝（東から）



3056 暗渠と下層の埋甕状遺構（東から）



3015・3036・3037 埋桶（南から）

写真図版 14　４区



４区　全景（南から）



４区東側全景（南西から）



4012 土坑（北から）



4021 竪穴状遺構（南から）



4036 土坑（南東から）

写真図版 15　４区



4003 井戸半裁状況（西から）



4003 井戸検出状況（南東から）



4063 柱穴（東から）

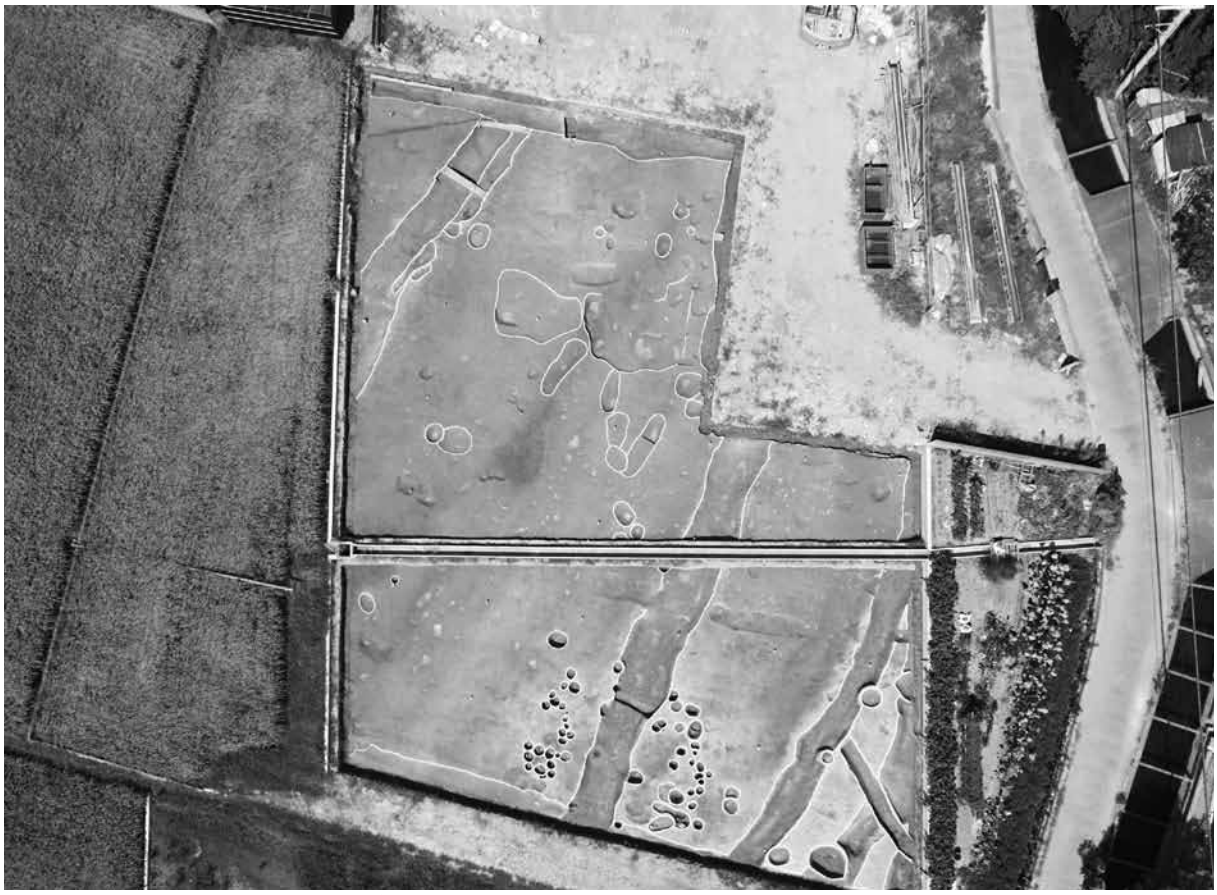


4089 埋桶（南から）



4089 埋桶（南から）

写真図版 16　5－１区



5－１区全景（南・上空から）



5－１区全景（北から）

写真図版 17　5－１区



溝７（5080 溝）とピット集中地点（南から）



溝６（5081 溝）（北東から）



溝 10（5118 溝）（西から）



溝８（5096 溝）（南から）



5078 土坑（右）、5079 土坑（左）（南から）

写真図版 18　5－２区



5－２区全景（北東から）



5－２区西半（北東から）

写真図版 19　5－２区


溝 11（5014 溝）（南から）


5010 溝状遺構周辺（南から）

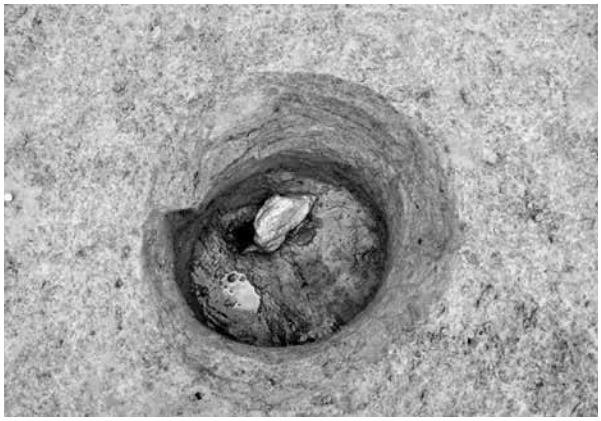

溝 11（5014 溝）土層断面（南西から）


5036 土坑（南から）


溝 12（5016 溝）（西から）


5047 土坑（南から）


5027 溝（左）・5020（右）（南から）


5059 土坑（西から）

写真図版 20　5－３区



5－３区全景（南から）



5－３区全景（東から）



溝 14（5001 溝）土器出土状況（南から）



溝 13 ～ 15（5144・5002・5001：左から順に）（南西から）



5003 土坑（北から）

写真図版 21　5－４区



5－４区全景（南西から）

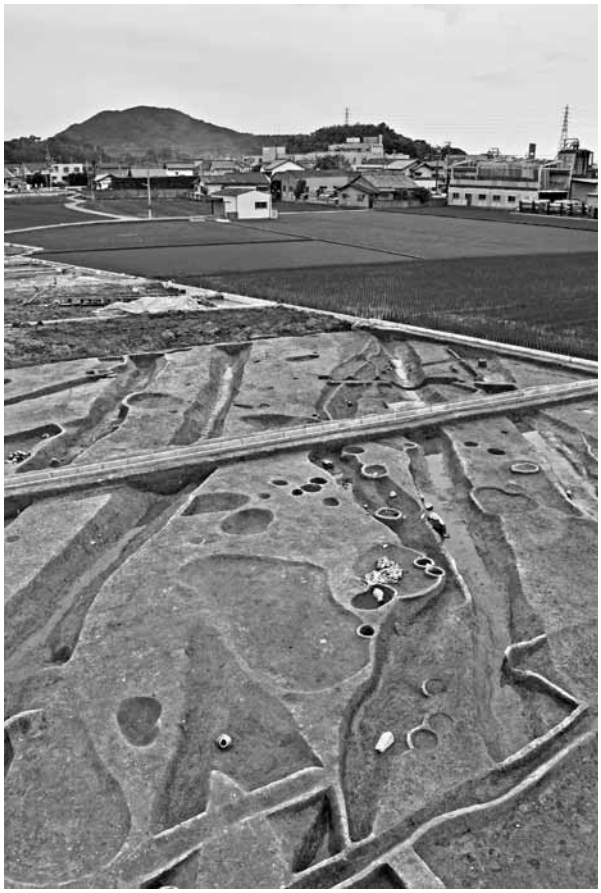


5－４区全景（北東から）

写真図版 22　５－４区



５－４区東半（北から）



弥生時代中期の溝群（北東から）



5040 流路確認トレンチ（西から）



溝７（5227 溝）（南西から）

写真図版 23　5－４区

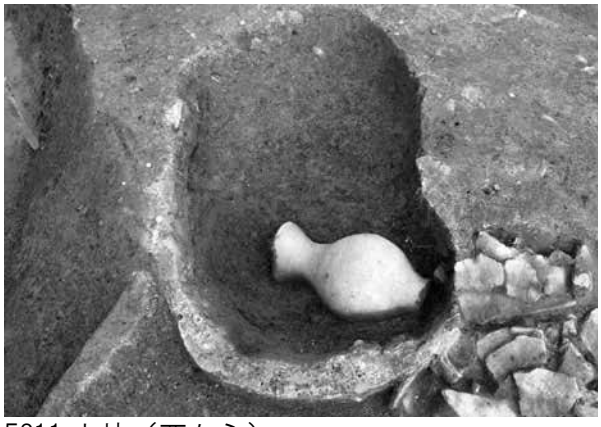

溝８（5206 溝）（南西から）


溝 12（5180 溝）（南西から）


溝９（5205 溝）（南西から）


溝 12 分流（5257 溝）（北東から）


溝 10（5187 溝）（南西から）


5211 土坑（西から）


溝 11（5182 溝）（南西から）


5281 土坑（南西から）

写真図版 24　5－5区



5－5区全景（北から）



溝 12（5169 溝）（北東から）



5157 井戸（北から）



溝 13 ～ 15（5140 ～ 5144 溝）（北東から）



5166 井戸（南西から）

写真図版 25　6－1区



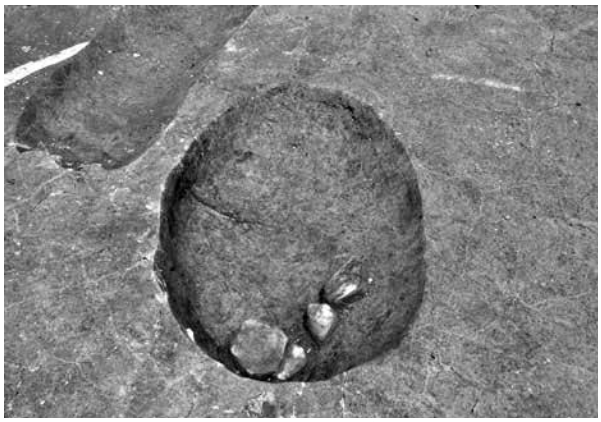
6－1区全景（南から）



溝 16（6001）（南から）



6008 右列（南から）



6005 土坑・6004 溝（南から）



6009 土坑（南から）

写真図版 26　6－２区



6－２区全景（南西から）



溝 16（6011）（南西から）

写真図版 27　6－２区



6050 流路（6039 溝下層）土層断面（北から）



6037 東西溝（西から）



6039 溝土層断面（南西から）



６区　掘立柱建物１の柱穴 6014（西から）



６区　掘立柱建物１（南から）

写真図版 28　７区



７区　調査前全景（北から）



７区　西壁（北から）



７区・８区（南・上空から）



７区　全景（南から）

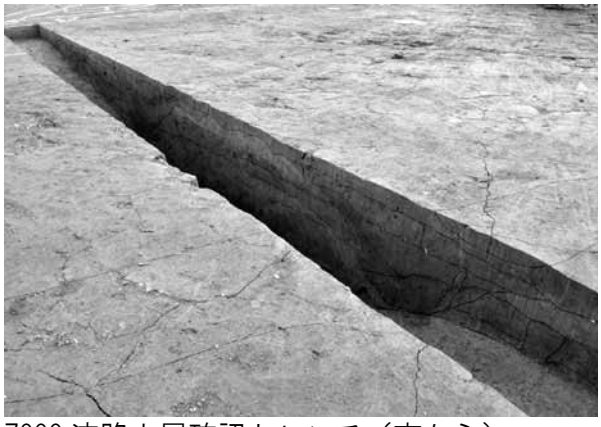
写真図版 29　７区



７区・８区全景（北東から）



7061 井戸状遺構（南東から）



7000 流路土層確認トレンチ（南から）



7165 井戸状遺構（南から）



7001・7004 溝と 7000 流路（北東から）

写真図版 30　7 区



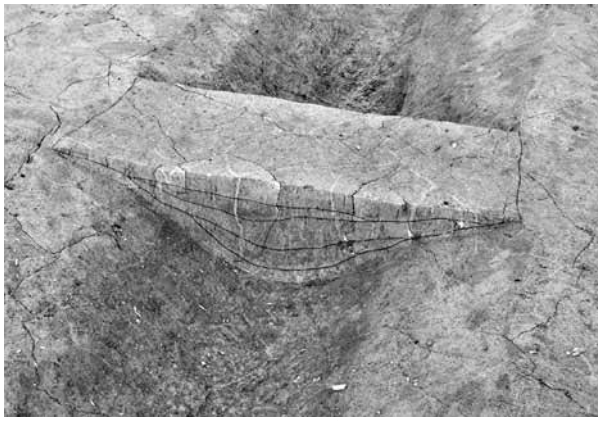
7002 溝（西から）



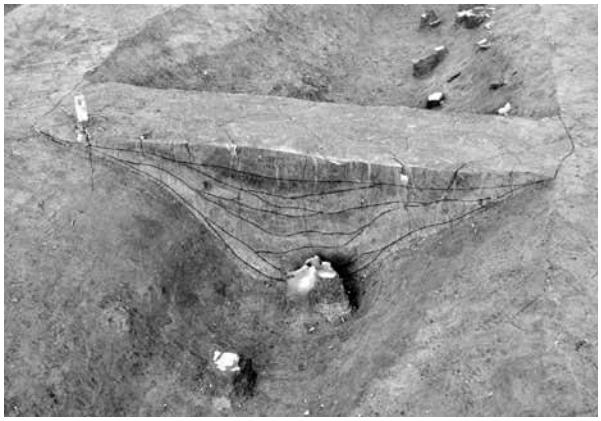
7002 溝土層断面（西から）



7004 溝（南から）



7001 溝土層断面（南から）

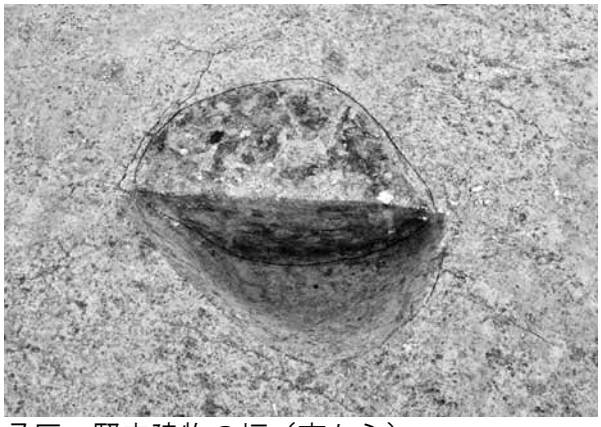


7004 溝土層断面（南から）

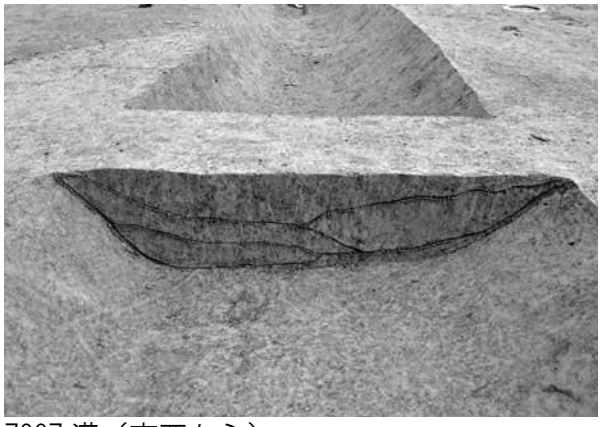
写真図版 31　７区



７区　竪穴建物１の柱穴と炉（南西から）



７区　竪穴建物の炉（南から）



7007 溝（南西から）

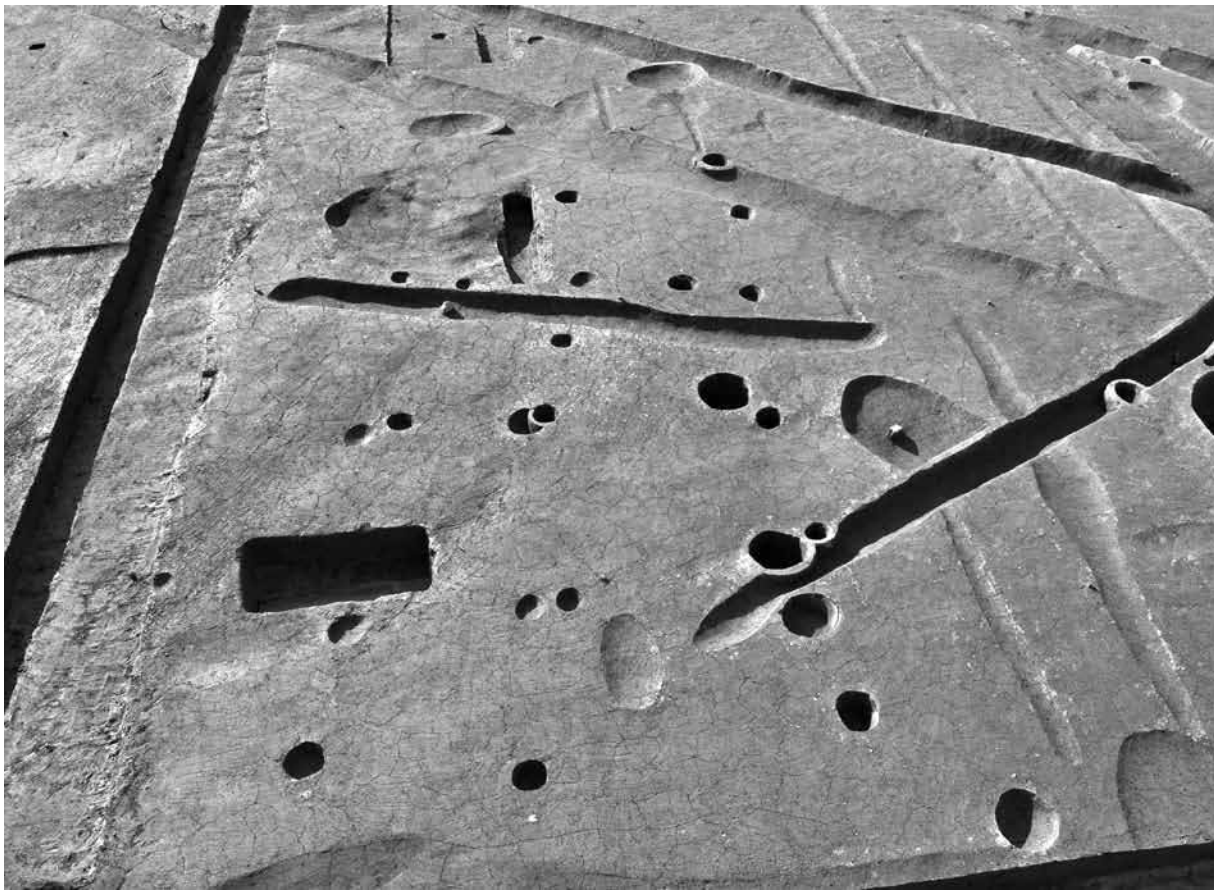


7157 土坑（西から）



7070 溝（左）と 7050 溝（右）（南から）

写真図版 32　７区



７区　掘立柱建物３（東から）



7030 土坑（西から）



7013-8013 溝（現行水路の両脇、南から）



7095 埋桶（西から）



7013 溝（南東から）

写真図版 33　８区

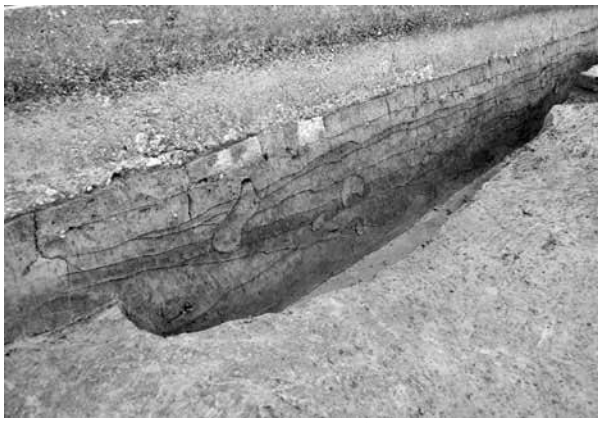


８区　全景（北から）



８区　8002 流路（上層に 8000 流路が重なる、北東から）

写真図版 34　８区



8002 溝土層断面（北西から）



８区　柵列１・２（北東から）



8001 溝（中央）（北東から）



8074 井戸（南から）



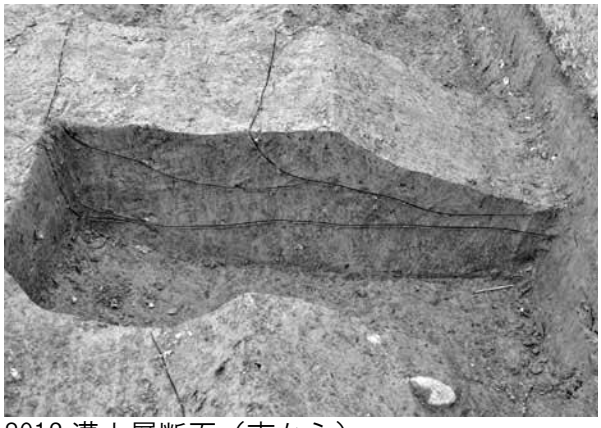
8004 溝（北東から）



8013 溝（南西から）

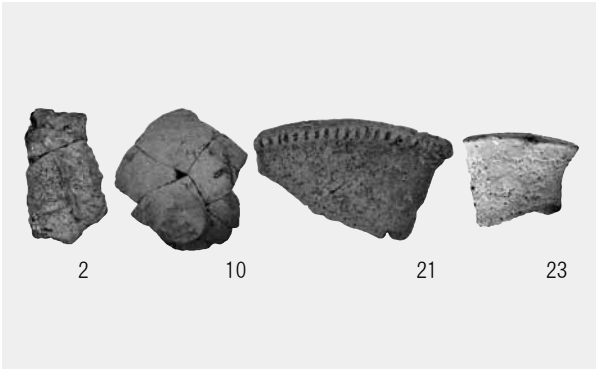


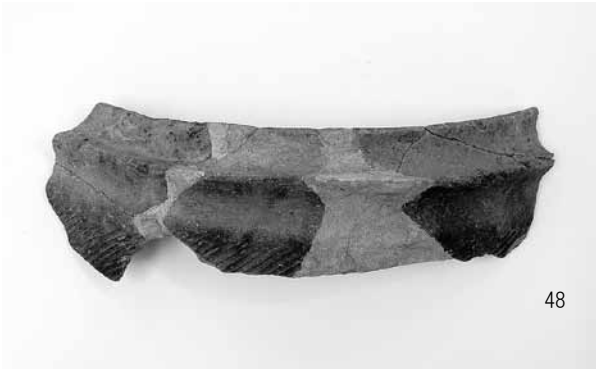
８区　掘立柱建物１（南東から）



8013 溝土層断面（南から）

写真図版 35　1 区出土土器・瓦





















写真図版 36　２区出土土器


62


79


63(1)


80


81


77


82


78


83

写真図版 37　２区出土土器


84


97


90


99


91


101


92


102


94


104

写真図版 38　２区出土土器


105


123


108


128


114


132


121


134


122


135

写真図版 39　２区出土土器


136


159


137


163


145


166


147


167


154


170

写真図版 40　２区出土土器・瓦


172


178


173


179


173（1）


180


174


183


175


184

写真図版 41　３区出土土器


189

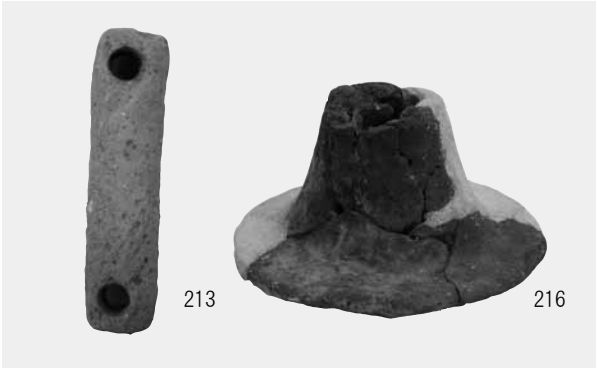

190


198


194


212


197


213　216

写真図版 42　３区出土土器・瓦


217


251


223


252


224


256


225


257


244


259

写真図版 43　３区出土土器・瓦


260


269 274 275 276


262


270


263


271


265


272


266


273

写真図版 44　３区出土土器・瓦


277


284


279


285


280


286


281


287


282


288

写真図版 45　３区出土土器・瓦


291


307


298


309


302


311　312


304


314


306


315

写真図版 46　４区出土土器・瓦


328


354


339


357


344


359


346


360


353


363

写真図版 47　5 区出土土器


367　368


385


379


389


381


390


382


391


383


392

写真図版 48　5 区出土土器

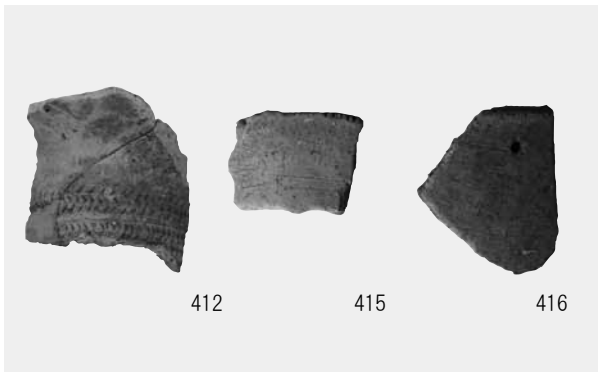

393


409


394


410

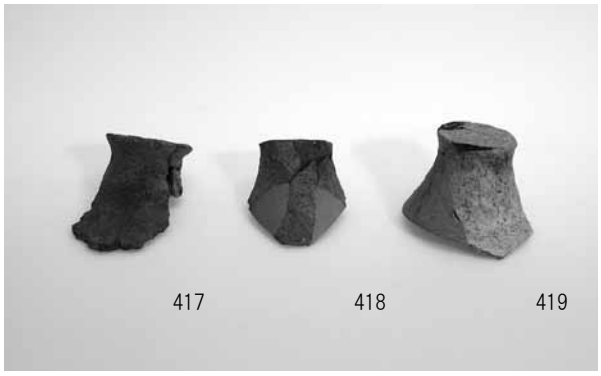

397


412　415　416

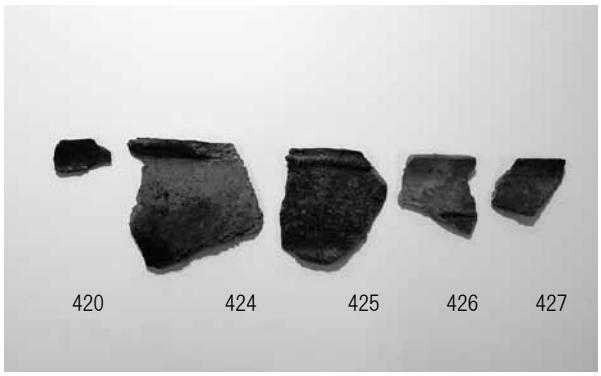

398


413

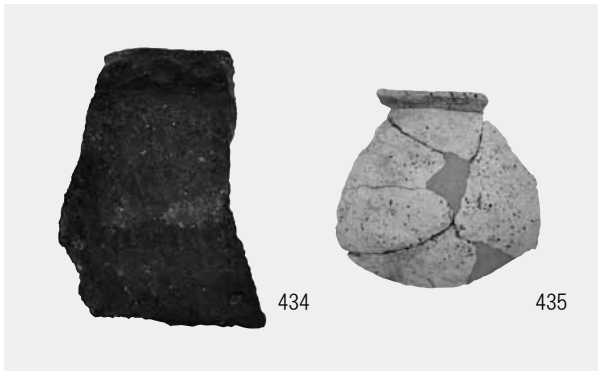

408

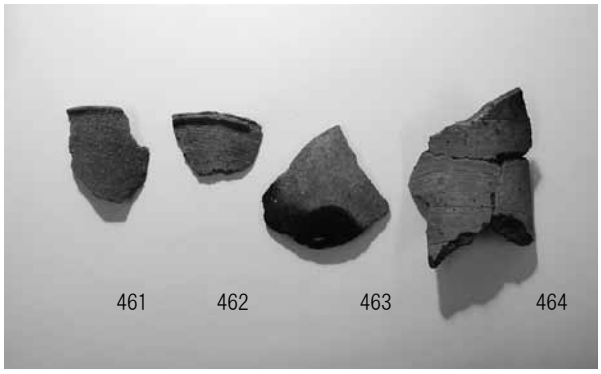

417　418　419

写真図版 49　5 区出土土器









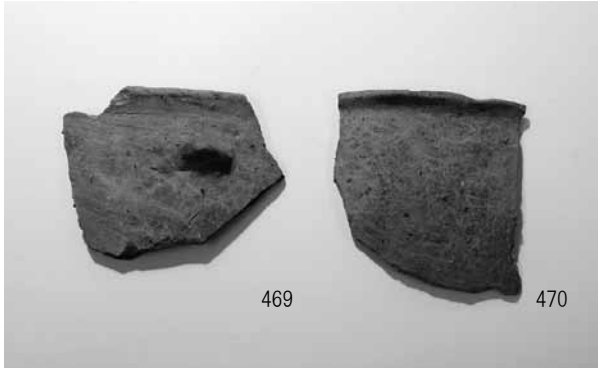












写真図版 50　5 区出土土器


476

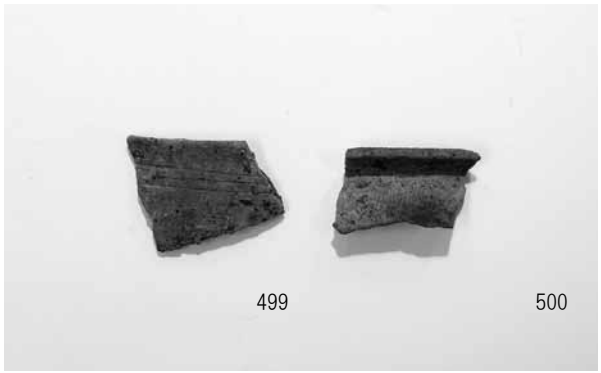

486


477 478 479

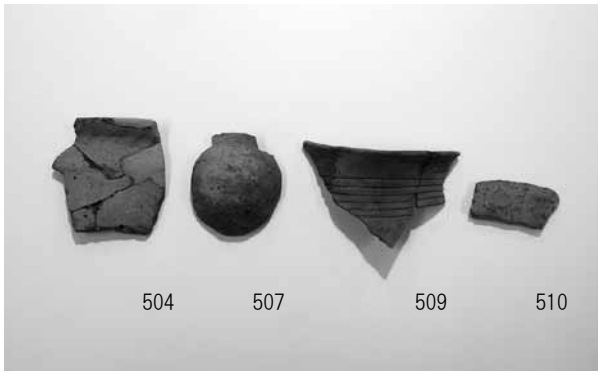

488


483


490


499 500

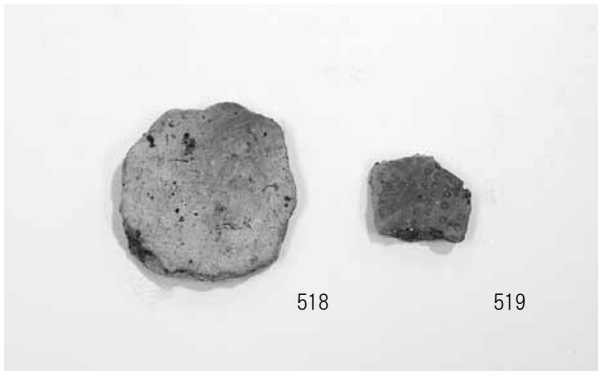

484


504 507 509 510

写真図版 51　５区出土土器

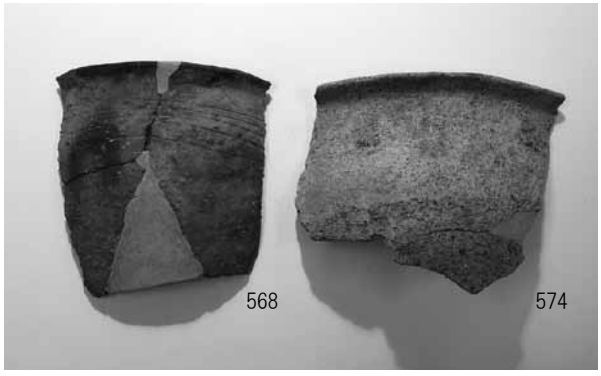

514

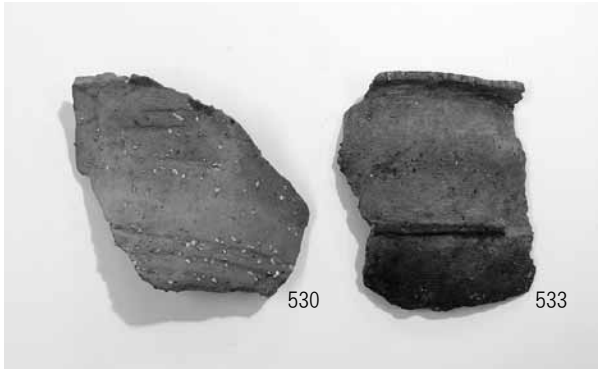

560

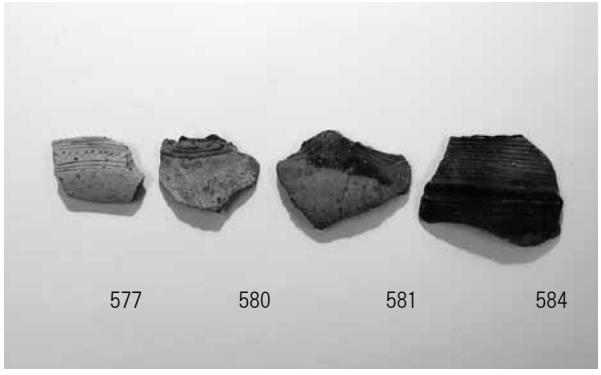

518　519

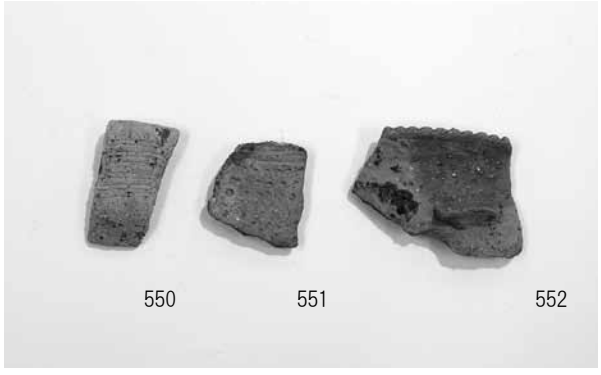

565

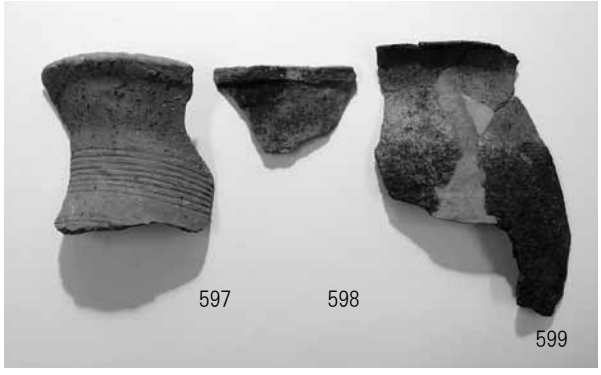

520


568　574


530　533


577　580　581　584


550　551　552


597　598　599

写真図版 52　5 区出土土器









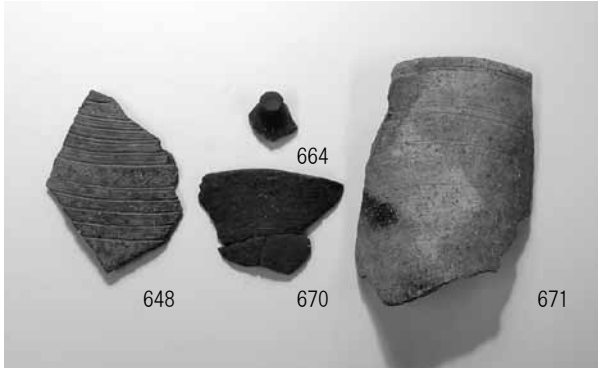




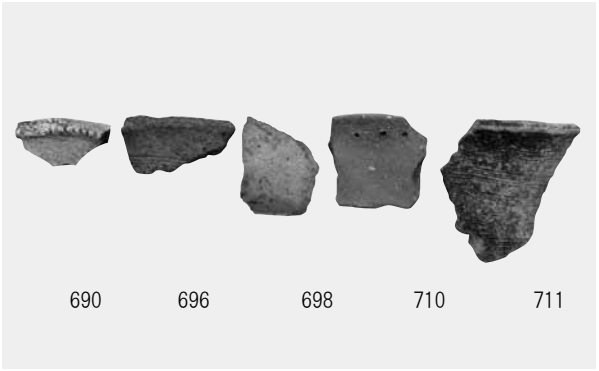




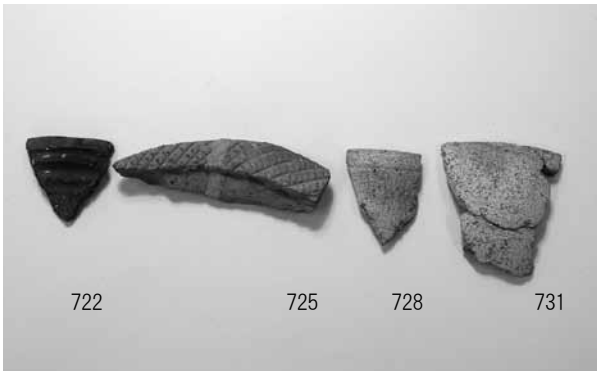




写真図版 53　5 区出土土器

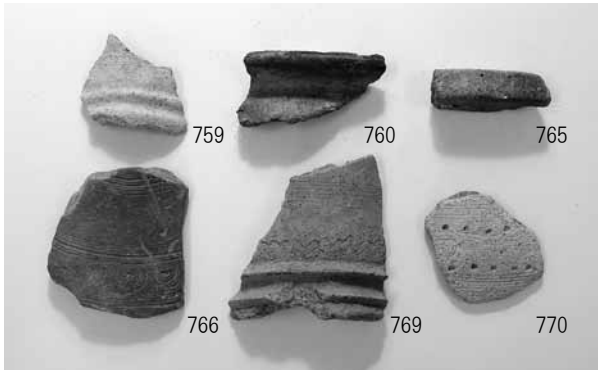

690　696　698　710　711


757（＊種子圧痕）


722　725　728　731


758


749


759　760　765　766　769　770


752


789

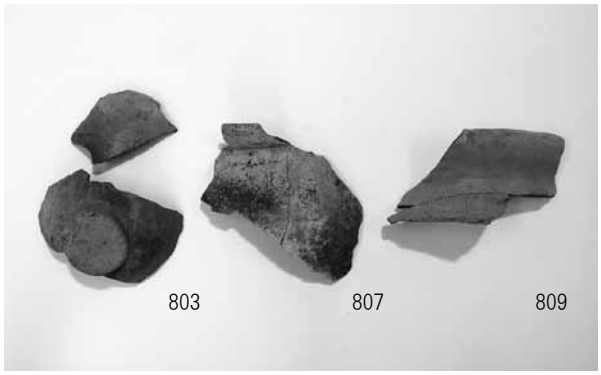

755　756


791

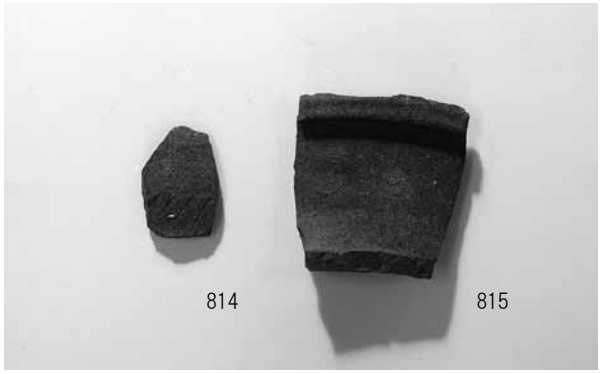
写真図版 54　5 区出土土器

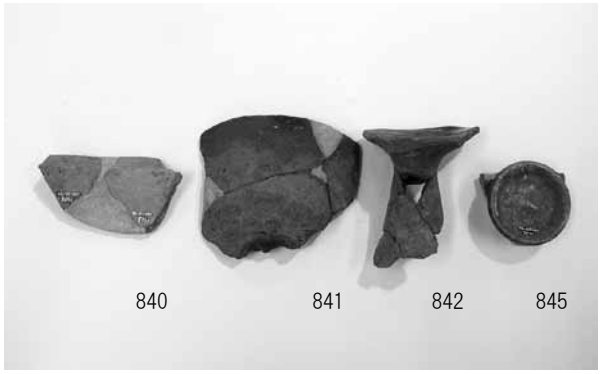

796


830

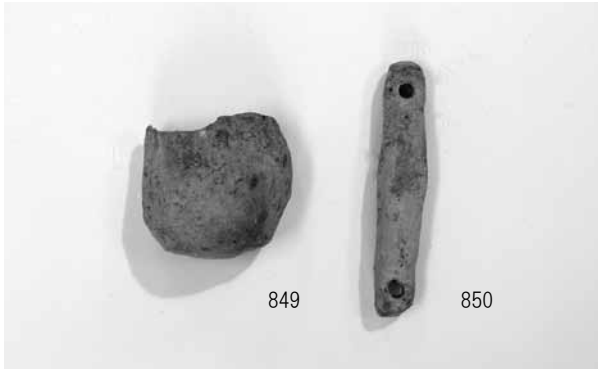

803　807　809

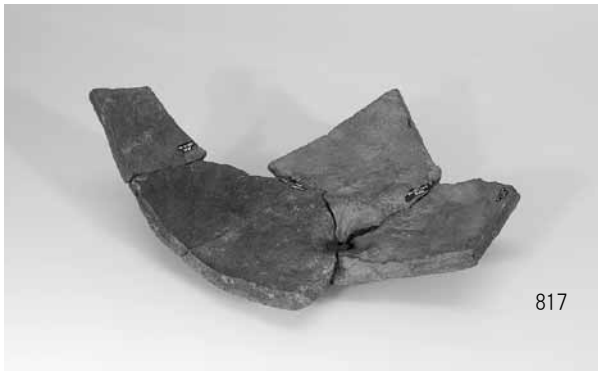

835

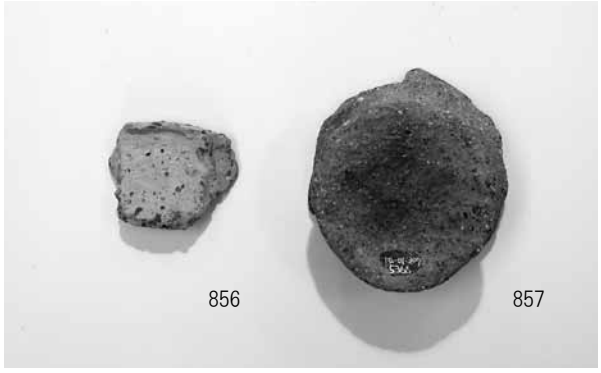

814　815


840　841　842　845

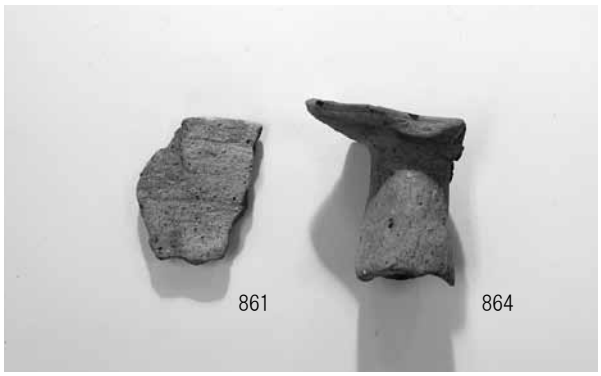

816

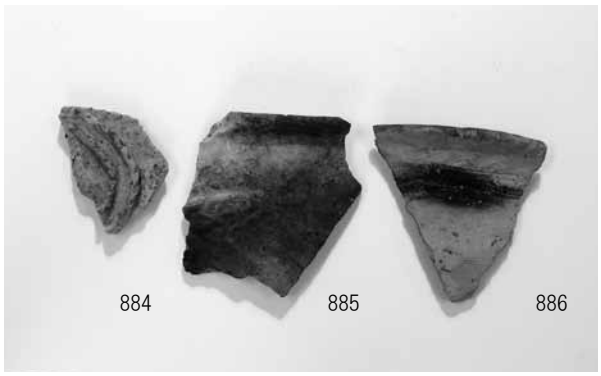

849　850


817


856　857

写真図版 55　5 区出土土器

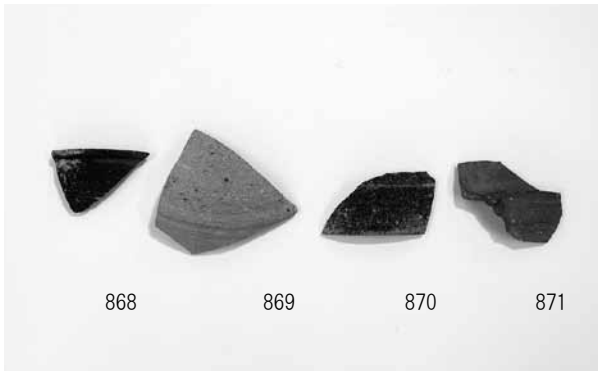


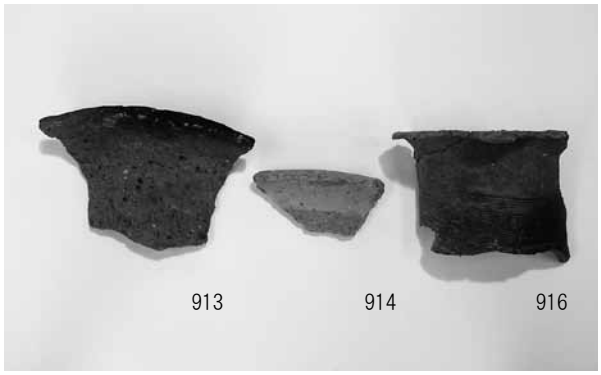
















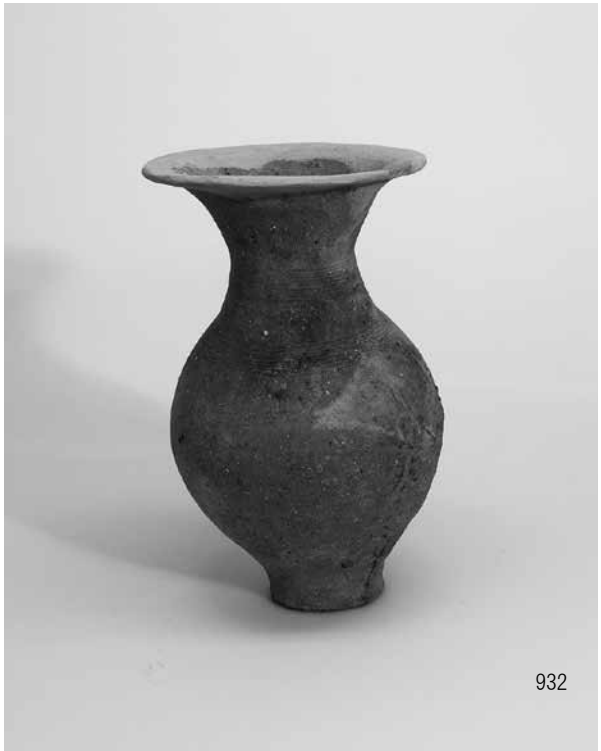
写真図版 56　5 区出土土器


924


936


928


937


932


938


940


933


941

写真図版 57　5 区出土土器


942


948


943


951


944


953　954

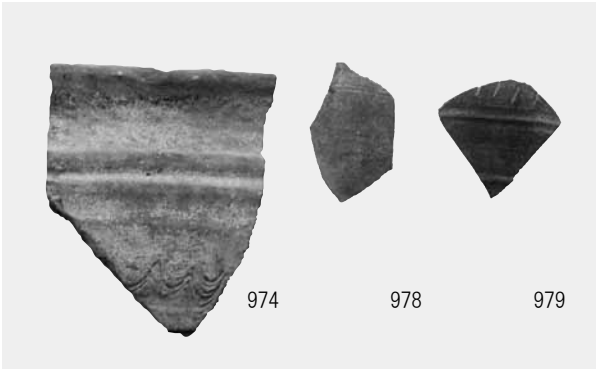

946


955　956


947

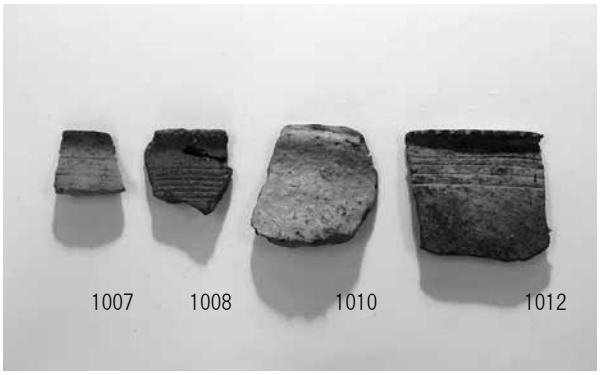

965　966

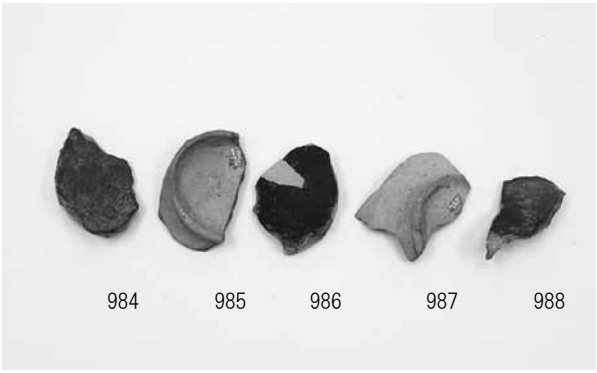
写真図版 58　５区・６区出土土器

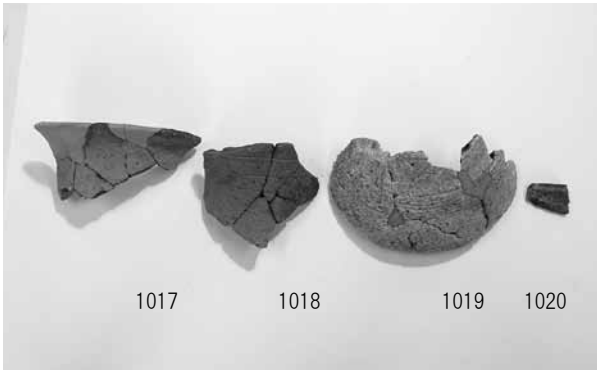








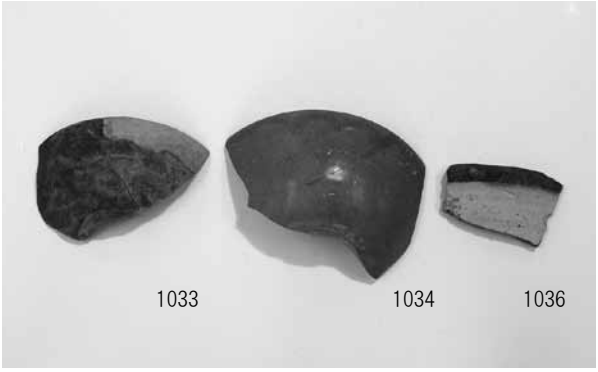




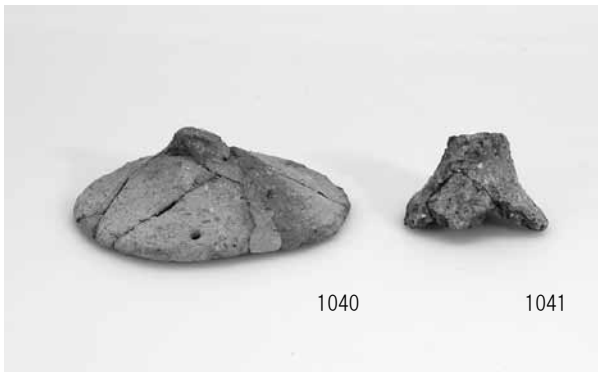








写真図版 59　7区出土土器


1040　1041


1050


1042


1052


1044


1067


1047


1074


1048

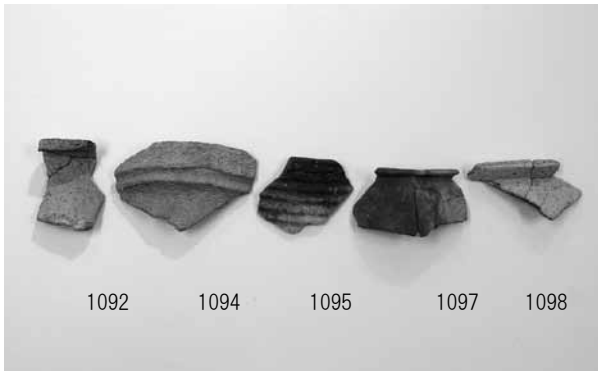

1075

写真図版 60　７区出土土器


1079


1088


1081


1092　1094　1095　1097　1098

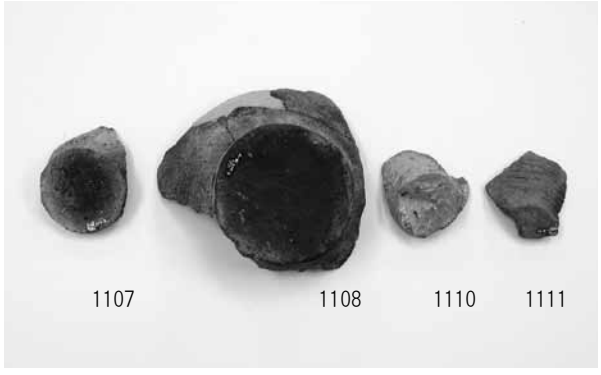

1083


1101


1086


1103


1087


1107　1108　1110　1111

写真図版 61　７区・８区出土土器


1126


1138


1127

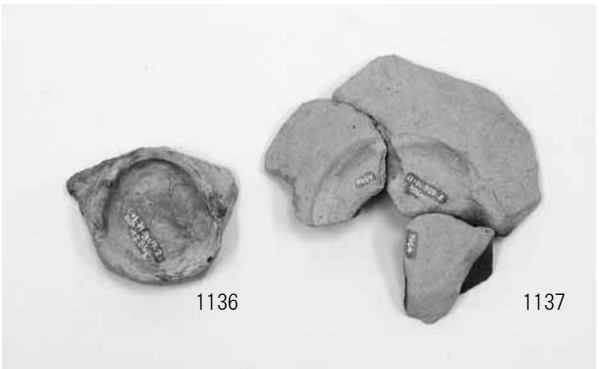

1146


1128


1148


1130　1131


1149


1136　1137

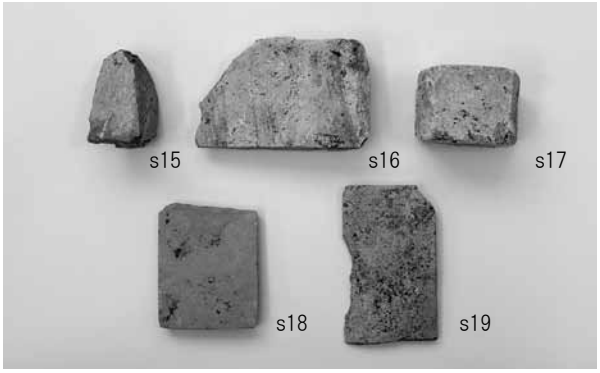

1160　1161　1163　1166

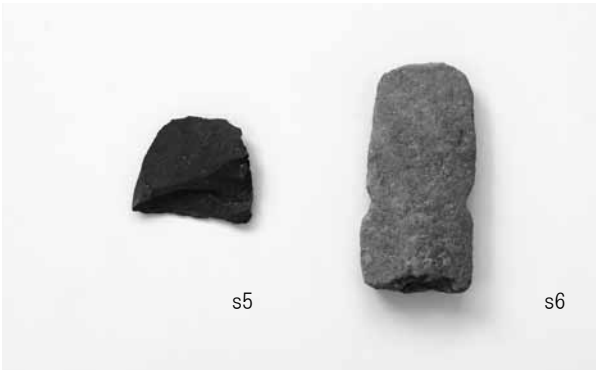
写真図版 62　１～５区出土石器・石製品







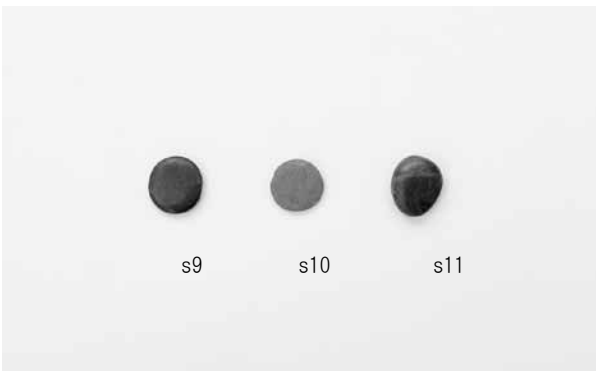






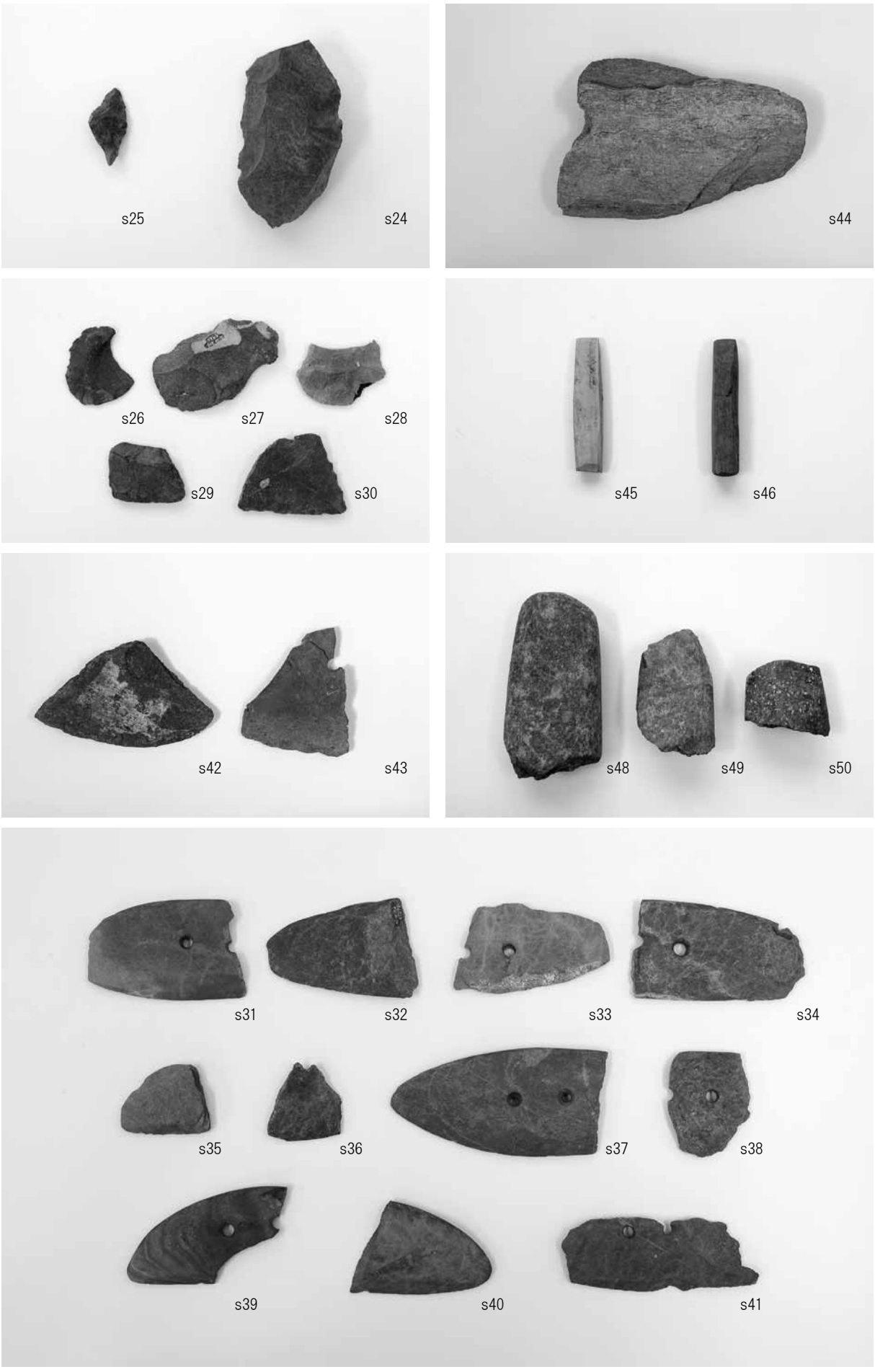








写真図版 63　５区出土石器・石製品



写真図版 64　５区出土石器・石製品



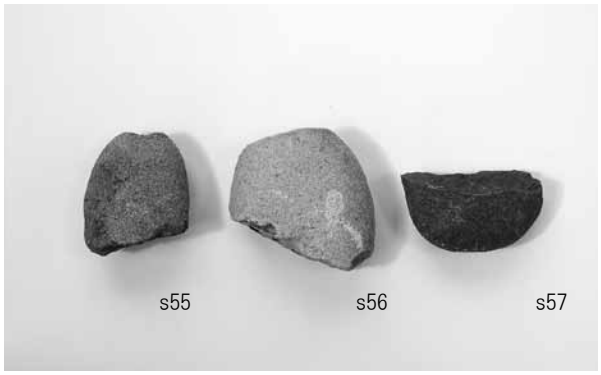




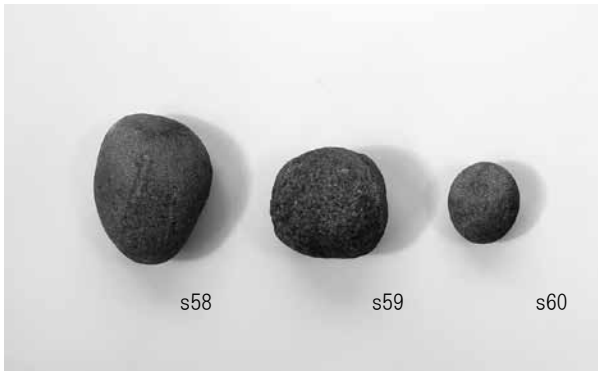






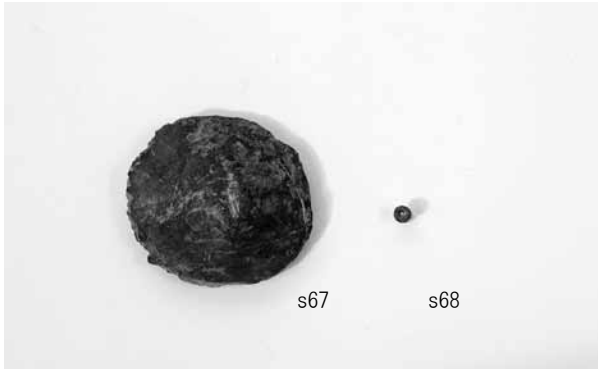


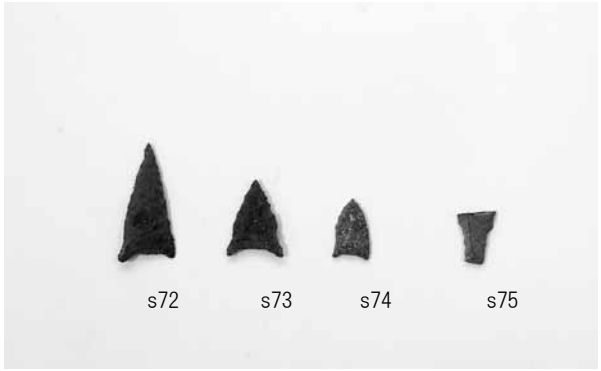


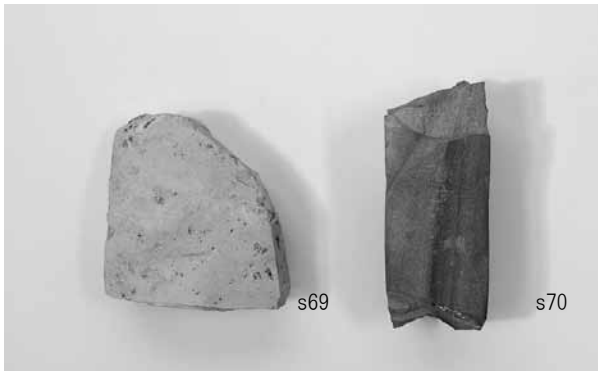


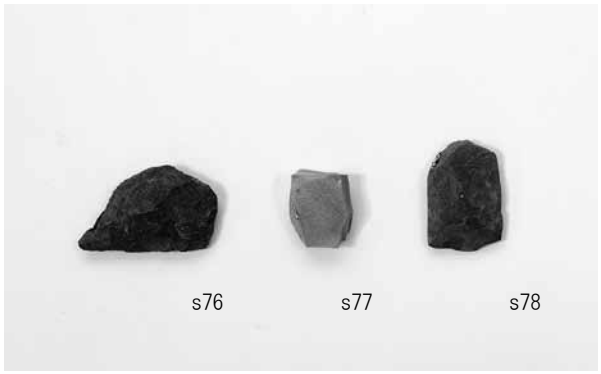


写真図版 65　６～８区出土石器・石製品



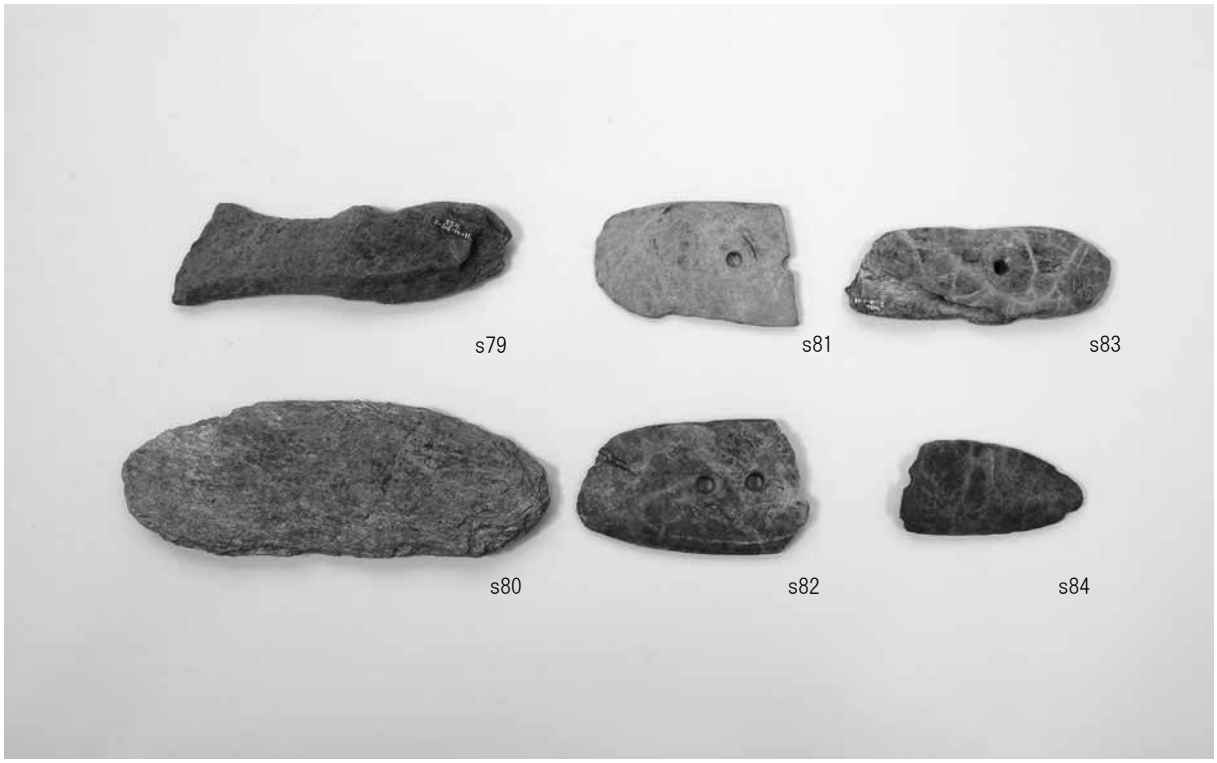








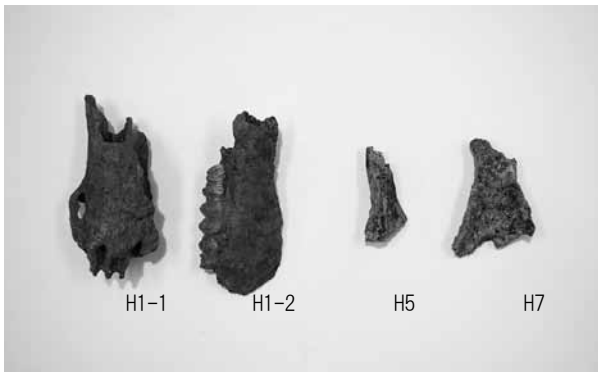




写真図版 66　金属製品・種子・獣骨

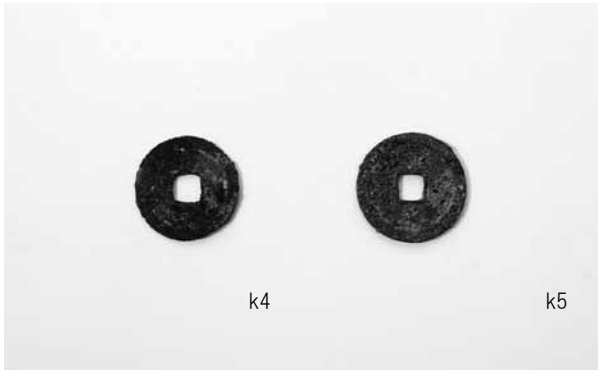

k1

k2


H1-1　H1-2　H5　H7


k3

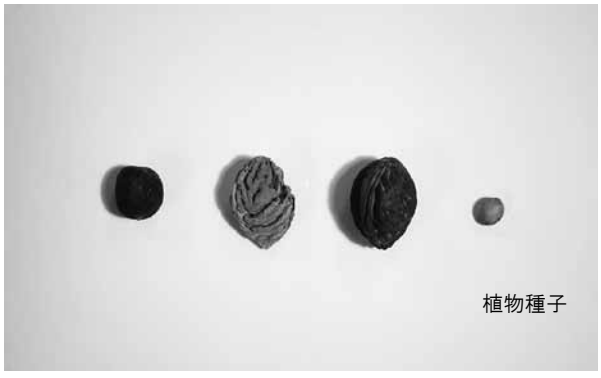

H2


k4　k5


H4


k6


H9　H14　H15　H17

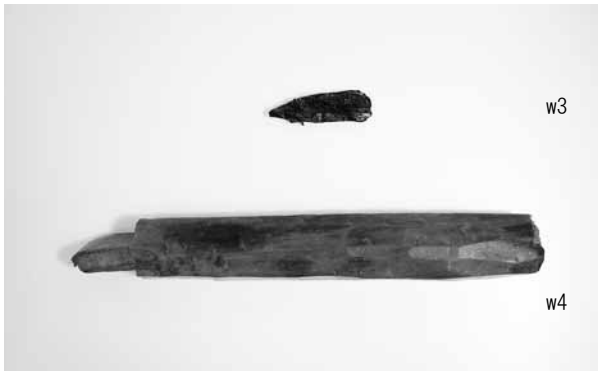

植物種子


H28

写真図版 67　木製品



















報 告 書 抄 録

ふりがな	こうざきいせき
書　　名	神　前　遺　跡
副　書　名	和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書
編著者名	丹野 拓
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター
所　在　地	〒640-8246　和歌山市湊571-1　　TEL 073-433-3843
発行年月日	2014年3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
神前遺跡	和歌山市神前	3020150	307	34° 21′ 00″	135° 20′ 52″	2009.12.08～ 2012.02.29	8,218㎡	和歌山橋本線道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神前遺跡	集落	弥生時代～古墳時代	溝・流路・落ち込み・井戸・土坑・建物柱穴	弥生土器・土師器・須恵器・石鏃・石斧・石包丁・石錘・銅鈴・獣骨	弥生時代前期から古墳時代中期までの溝を多数検出
		平安時代～鎌倉時代	掘立柱建物・井戸・溝・土坑	土師器・黒色土器・瓦器・青磁・曲物	３・６・７区に建物と井戸が分布
		室町時代～江戸時代	井戸・石垣・区画溝・暗渠・埋桶・土坑	陶磁器・瓦質土器・土師質土器・焼塩壺・瓦・砥石・碁石	３区で瓦葺の建物を中心とした屋敷地を確認

要　　約

神前遺跡は弥生時代の集落と中～近世の屋敷地として知られる複合遺跡である。

今回の調査では、調査区全域で弥生時代前期～中期と庄内式併行期～古墳時代中期の溝群を検出した。溝群からは多量の弥生土器のほか、緑色片岩製の石包丁・大型石包丁や古墳時代の銅鈴が出土した。

また、平安時代・鎌倉時代の井戸・掘立柱建物跡があり、宮井用水「中溝水路」の下層溝も鎌倉時代頃に成立している。３区では室町時代から近世にかけて屋敷地が発展している状況が確認でき、神前氏（後の中務氏）の屋敷地跡と考えられる。

神　前　遺　跡

―和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書―

2014 年 3 月 25 日

編集・発行　公益財団法人和歌山県文化財センター

印刷・製本　白光印刷株式会社